



Tokushima University

ラーニングライフ

第7回学生の学修に関する実態調査報告書



令和4年3月
徳島大学

まえがき

ラーニングライフー第7回学生の学修に関する実態調査報告書一をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。徳島大学では、これまでほぼ2年ごとに「学生生活に関する実態調査」を行い、学生の生活全般にわたる状況を調査・報告し教育や学生指導に役立ててきました。これに加え、14年前から「学生の学習に関する実態調査」（平成28年度実施分からは「学生の学修に関する実態調査」に変更）を実施し、本年度は第7回目の調査結果のご報告となります。なお、本調査は一昨年から実施形態を見直し、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同して学部1年生及び3年生を対象に毎年実施することとしております。

さて本報告書には、学生自身のこと・全般的な学修状況・英語の学修状況・大学生活に対する考えや満足度・入学前について（1年生）・将来について（3年生）等全体で143の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。続いて、それらの結果の分析から明らかになった各学部の現状と課題、さらに全学的なまとめと提言により構成されています。学部のみならず、学科やコース等のオリエンテーションの際や、日頃の教育活動・学生指導においてこれらのデータや分析結果をご活用いただければ幸いです。

新型コロナウイルス禍の第6波は、本稿執筆時点で予想を超えた広がりを示し、脅威を倍加しています。昨今は多少感染者が減少してきたようにみえますが、予断を許しません。こうした状況下、学生や教職員の皆様には非常態の大学生活や教育研究業務が強いられております。前年度と同様、今回のアンケート結果にも本感染症の影響が少なからず反映されていると感じます。またこの窮状に対して、教職員の皆様のご尽力や国と地域の皆様のご支援により、大学での学びの場に様々な形態の遠隔授業を含めた新しい教授方法が一気に加速・浸透しました。今後は、ポスト&ウィズコロナ時代の高等教育を切り拓く、人に寄り添った斬新なツールや方法論の開発、考え方について進展することを期待したいと存じます。

本調査の実施並びに報告書の作成にあたり、教育の質に関する専門委員会及び高等教育研究センター教育改革推進部門の先生方、及び学務部職員の皆様にはアンケート項目の設定にはじまり、調査の実施、集計、結果の分析まで、精力的に遂行し早期に報告書としておまとめいただきました。教育の質に関する専門委員会委員長 工藤 保誠 教授をはじめとするそれらの皆様に厚く御礼申し上げます。併せて、調査にご協力下さいました学生の皆様に感謝いたします。結びとしまして、本報告書には現在の学部学生諸君の学びの実態と、調査結果の丁寧な分析に基づいた教育の質向上の手がかり、並びにFD活動の新たな取り組み事項も提案されています。より良い徳島大学の教育実現に、本報告書を大いに活用いただきますようお願い申し上げます。

令和4年3月

徳島大学理事（教育担当）・副学長

大学教育委員会委員長

河村 保彦

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学修に関する実態調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査の組織	3
3 調査の対象及び方法	3
4 調査の時期	3
5 調査の内容	3
6 調査票の回収状況	4
7 図中の%表示	4
令和3年度 学生の学修に関する実態調査回収率	5
第1章 設問・調査結果	
1 1年生調査 設問	6
2 1年生調査 結果	19
3 3年生調査 設問	105
4 3年生調査 結果	118
第2章 学部等の現状と課題	
1 総合科学部	205
2 医学部医学科	206
3 医学部医科栄養学科	208
4 医学部保健学科	209
5 歯学部	211
6 薬学部	215
7 理工学部	217
8 生物資源産業学部	218
9 教養教育	219
10 F D (Faculty Development) の観点から	221
11 e ラーニング	222
12 附属図書館	225
第3章 まとめと提言	226

序章 学生の学修に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

教育の質に関する専門委員会委員の次の委員及び高等教育研究センター教育の質保証支援室が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	部局	職名
委員長	荒武達朗	総合科学部	教授
委員	常山幸一	医学部	教授
委員	工藤保誠	歯学部	教授
委員	石田竜弘	薬学部	教授
委員	三好徳和	理工学部・工学部	教授
委員	金丸芳	生物資源産業学部	教授
委員	渡部稔	教養教育院	教授
委員	吉田博	高等教育研究センター	准教授
委員	松浦健二	情報センター	教授
委員	竹谷豊	医学部	教授
委員	吉永哲哉	医学部	教授
	塩川奈々美	高等教育研究センター	助教

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する1年生(1,372人)及び3年生(1,368人)(令和3年10月1日に在籍するものから休学・退学者を除いたもの)を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び教育の質に関する専門委員会委員の協力を得て調査票を配布し、教務システム上(Web)で実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和3年10月1日から11月30日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学生の学修意識や学修に関する実態を把握する目的に基づき、IRコンソーシアムの学生調査項目及び「教育の質に関する専門委員会」委員・高等教育研究センター教育改革推進部門が作成した、全143項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者1年生1,372人及び3年生1,368人のうち回答数は、1年生915人及び3年生703人で、回収率は1年生66.7%及び3年生51.4%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

令和3年度 学生の学修に関する実態調査回収率

1年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	98	173	56.6%
医学部医学科	76	121	62.8%
医学部医科栄養学科	46	50	92.0%
医学部保健学科（看護）	73	73	100.0%
医学部保健学科（放射）	34	39	87.2%
医学部保健学科（検査）	17	20	85.0%
歯学部歯学科	26	38	68.4%
歯学部口腔保健学科	17	17	100.0%
薬学部薬学科	65	85	76.5%
薬学部創製薬科学科	1	2	50.0%
理工学部理工学科（社会基盤）	54	97	55.7%
理工学部理工学科（機械科学）	87	126	69.0%
理工学部理工学科（応用化学）	54	82	65.9%
理工学部理工学科（電気電子）	69	120	57.5%
理工学部理工学科（情報光）	84	152	55.3%
理工学部理工学科（応用理数）	46	73	63.0%
生物資源産業学部	68	104	65.4%
合計	915	1372	66.7%

3年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	104	183	56.8%
医学部医学科	42	112	37.5%
医学部医科栄養学科	41	52	78.8%
医学部保健学科（看護）	55	72	76.4%
医学部保健学科（放射）	29	32	90.6%
医学部保健学科（検査）	8	16	50.0%
歯学部歯学科	39	42	92.9%
歯学部口腔保健学科	15	15	100.0%
薬学部共通学科	2	2	100.0%
薬学部薬学科	40	45	88.9%
薬学部創製薬科学科	31	41	75.6%
理工学部理工学科（社会基盤）	21	97	21.6%
理工学部理工学科（機械科学）	66	129	51.2%
理工学部理工学科（応用化学）	45	87	51.7%
理工学部理工学科（電気電子）	45	127	35.4%
理工学部理工学科（情報光）	58	150	38.7%
理工学部理工学科（応用理数）	31	53	58.5%
生物資源産業学部	31	113	27.4%
合計	703	1368	51.4%

※理工学部の学生数には、夜間主及び工学部の学生数も含まれています。

1年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1
[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1

[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全 然 な い	1 時 間 未 満	1 2 時 間	3 5 時 間	6 10 時 間	11 15 時 間	16 20 時 間	20 時 間 以 上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 増えた	増えた	変化 なし	減った	大きく 減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成するマネジメント能力 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | |

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|---------------------|----------|
| 1. 教科書・参考書・授業での配付資料 | 2. インターネット | 3. 教員 |
| 4. 友人・先輩 | 5. 図書館の書籍・文献（電子版含む） | 6. 講義ノート |

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

レベル 低 ↑ 高		①入学時		②現在	
		↓	↓	↓	↓
A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1		1	
A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2		2	
B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3		3	
B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4		4	
C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5		5	
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6		6	

レベル 低 ↑ 高		①入学時		②現在	
		↓	↓	↓	↓
A1	掲示やポスター、カタログなどの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1		1	
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	2		2	
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	3		3	
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4		4	
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。	5		5	

C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6	6
----	--	---	---

〔71〕 会話力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
A2.1	短い社会的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8

〔72〕 表現力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2	論理的な会話で聞き手が重要点を把握させ、記憶にとめさせることができる。	6	6

〔73〕 書く力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	6

〔74〕 どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC, TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。（複数回答可）

1. 教養教育，専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング，会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらほどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	い くら か う ま く い っ た	あ ま り う ま く い か な か っ た	ま っ た く う ま く い か な か っ た
[77] 大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[78] 大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[79] 効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[80] 大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[81] 時間を効果的に使う	4	3	2	1
[82] 大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[83] 他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常に そう思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[84] 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[85] 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[86] 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[87] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても 満足	満足	どちら でも ない	不満	とても 不満
[88] 共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[89] SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業	5	4	3	2	1
[90] 初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[91] 授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[92] 日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[93] 将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[94] 教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[95] 学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[96] 他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[97] 大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[98] 多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[99] 大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[100] 1つの授業を履修する学生数					

[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。（複数回答可）

1. 広い教養を身に付けるため 2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した 4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった 6. 特に基準はない

〔102〕 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

〔103〕 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章(レポート)の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

〔104〕 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

〔105〕 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
〔106〕 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)	5	4	3	2	1
〔107〕 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
〔108〕 コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
〔109〕 コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
〔110〕 インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
〔111〕 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
〔112〕 健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)	5	4	3	2	1
〔113〕 レクリエーション施設(ジムの設備など)	5	4	3	2	1
〔114〕 キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)	5	4	3	2	1
〔115〕 クラス担任制度	5	4	3	2	1

[116] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談 (SSS)
2. 授業サポートナビ (各講義の参考図書, 関連情報提供サービス)
3. 学修に関するイベント (講習会等)
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[117] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[118] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[119] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[121] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[122] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. Mahara（全学）
4. スーパー英語（全学）
5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
6. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[123] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[124] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良く思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[125] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[126] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91
2. 90-81
3. 80-71
4. 70-61
5. 60-51
6. 50-0

[127] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

1. 就職する
2. 大学院に進学する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他

〔128〕 将来の見通しに関する以下の 2 つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを 1 つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている＋何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている＋何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている＋何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

〔129〕 あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

1. 現役
2. 浪人
3. その他（留学生、社会人など）

〔130〕 あなたの志望大学の中で、本学は第 1 志望でしたか。

1. 第 1 志望だった
2. 第 1 志望ではなかった

〔131〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方
2. 中の上くらい
3. 中くらい
4. 中の下くらい
5. 下位の方
6. その他（わからない、覚えていない、など）

あなたが高校 3 年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

	ひんばん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
〔132〕 授業中に質問した	4	3	2	1
〔133〕 自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
〔134〕 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した	4	3	2	1
〔135〕 科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
〔136〕 自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
〔137〕 インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
〔138〕 授業の予習や復習、宿題をし	4	3	2	1

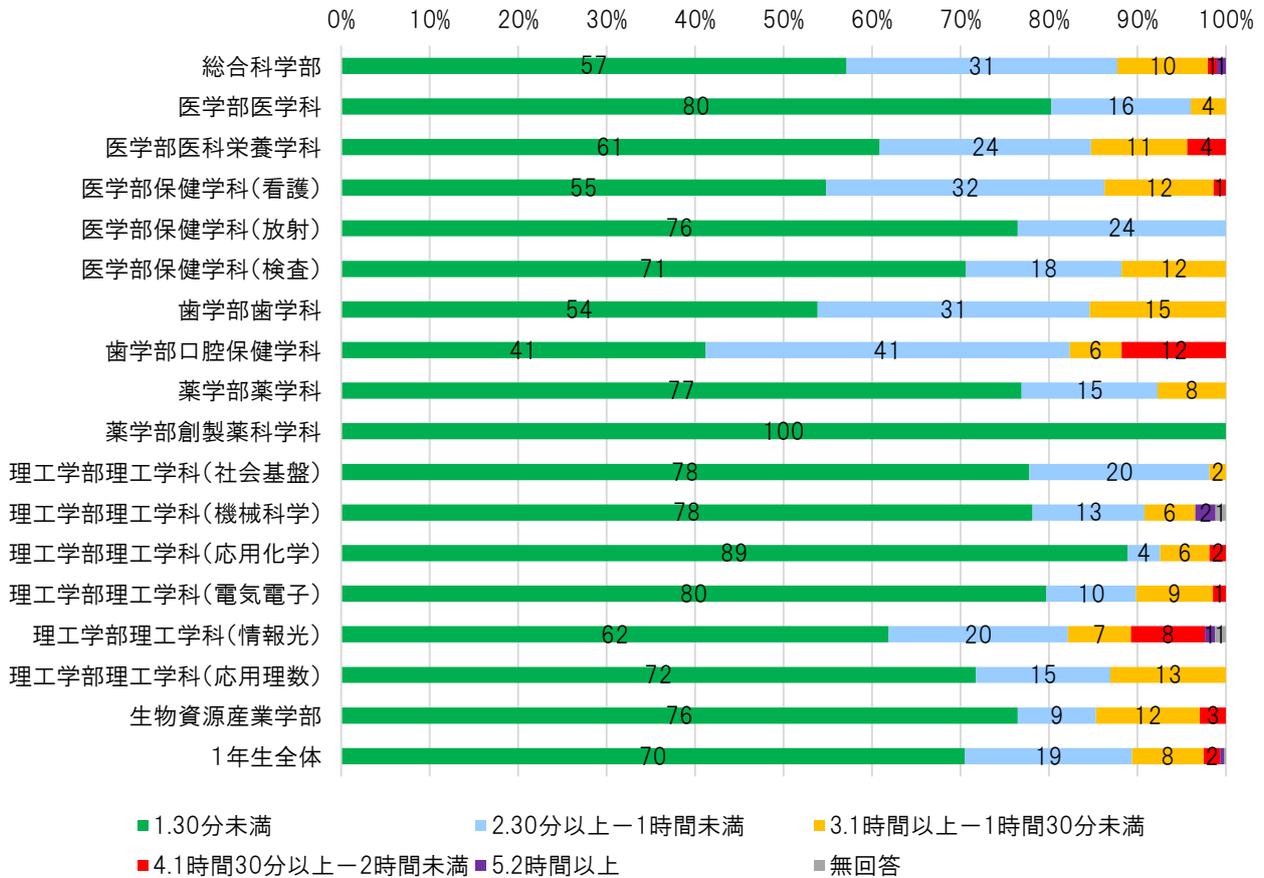
	た				
[139]	授業以外に興味のあることを自分で勉強した	4	3	2	1
[140]	自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
[141]	困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
[142]	自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1
[143]	読書をした（マンガ・雑誌を除く）	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

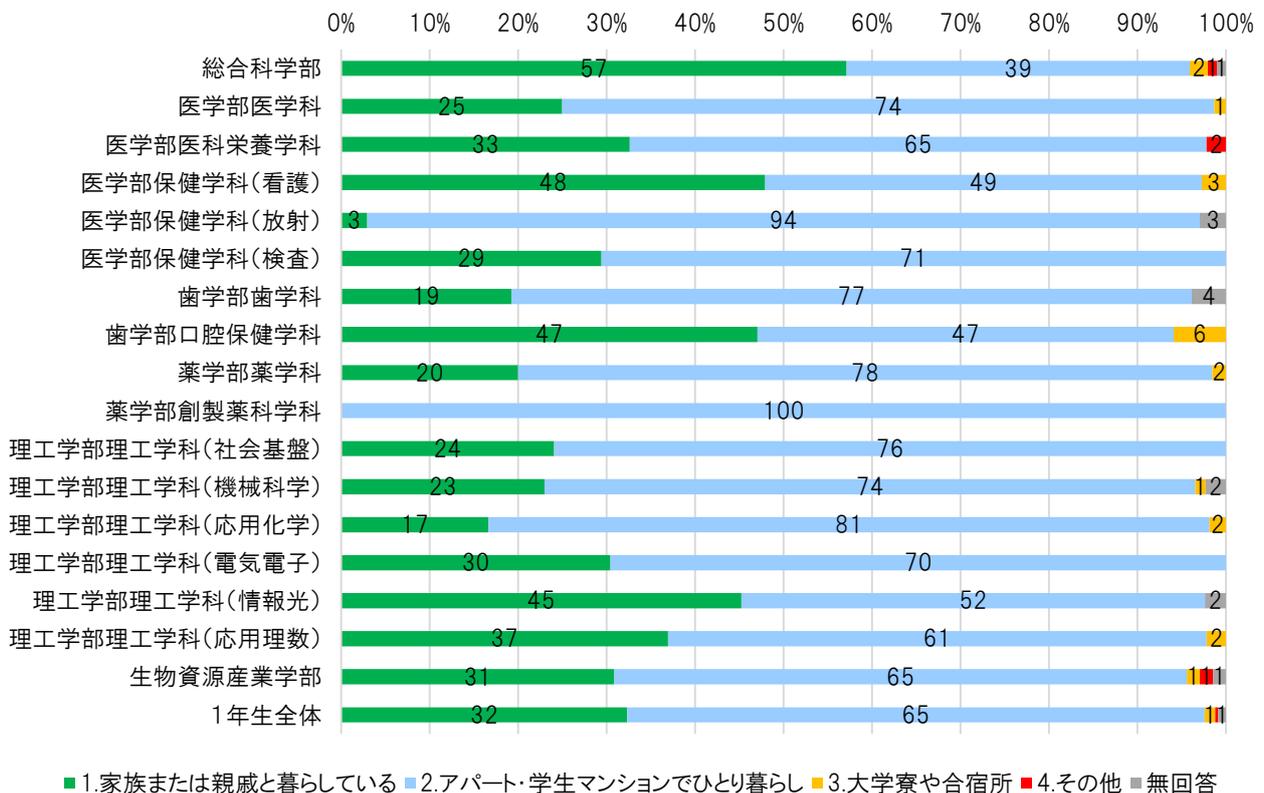
1年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



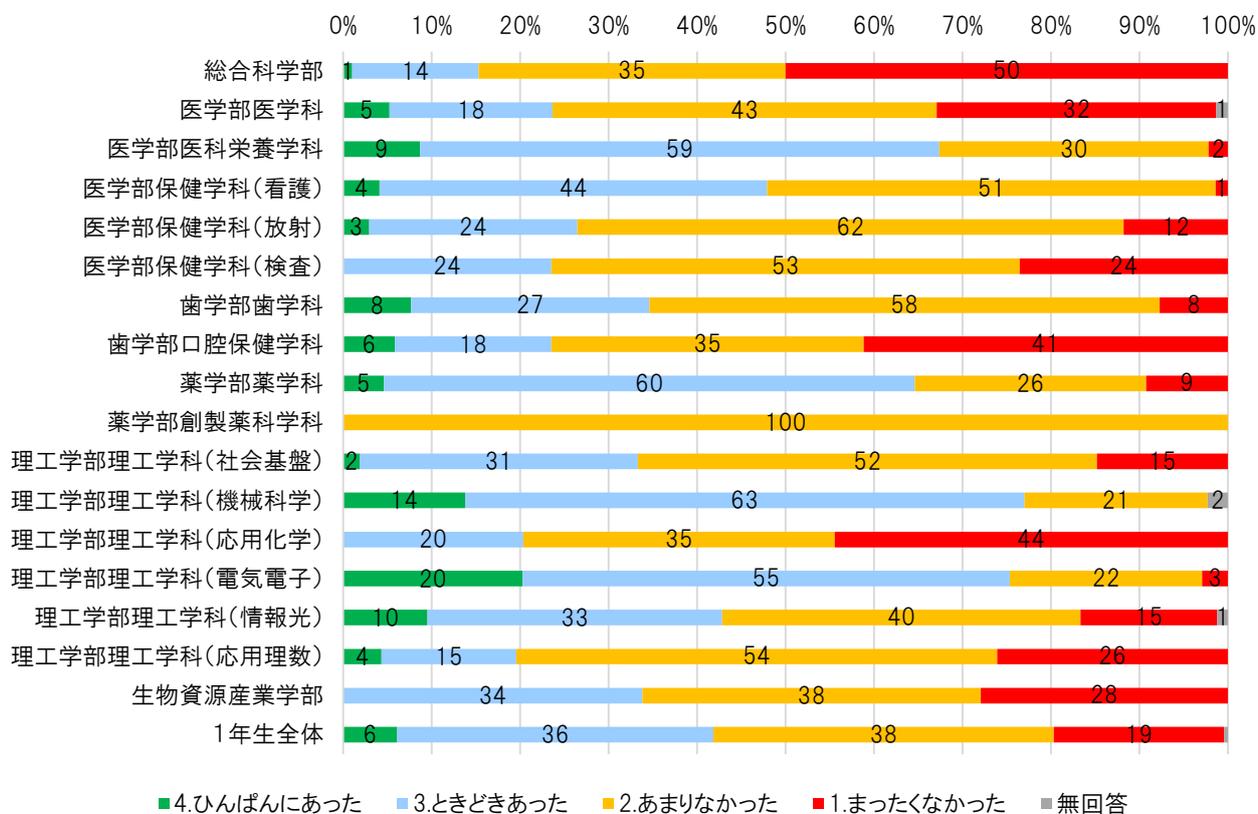
[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



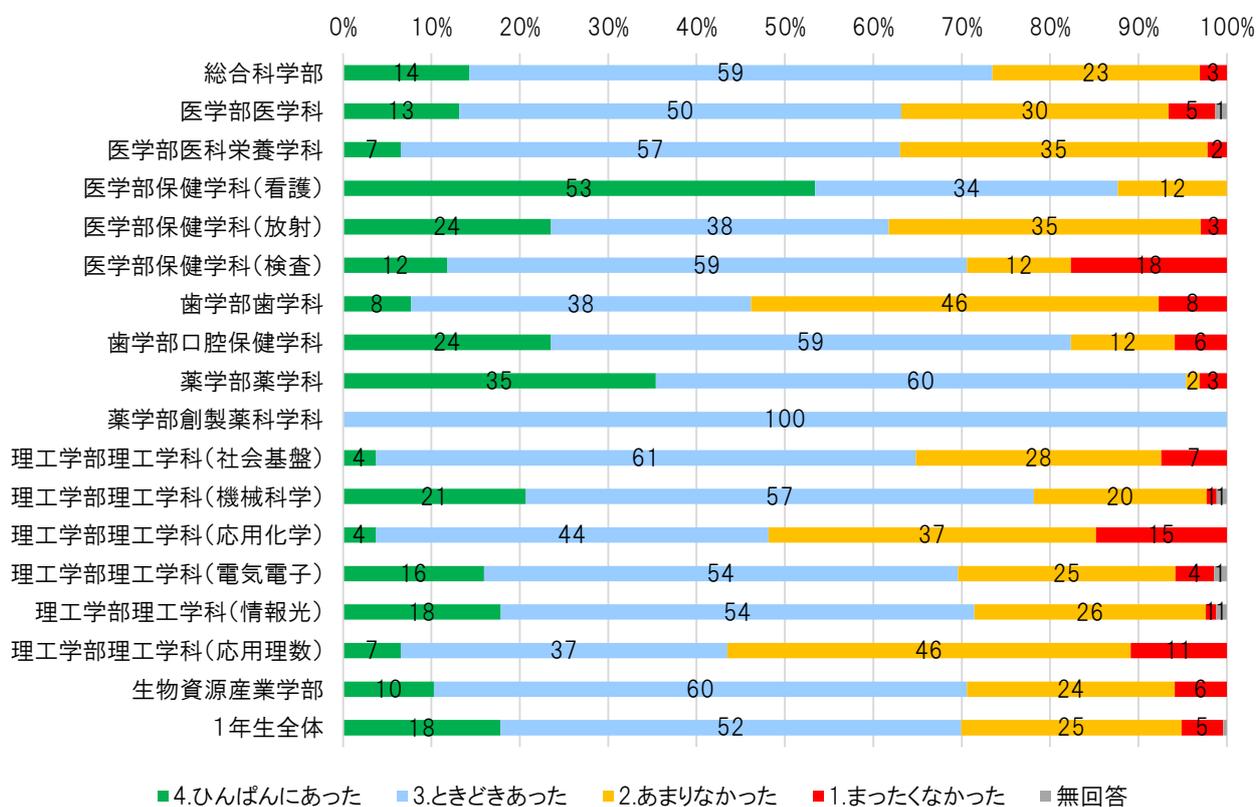
II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

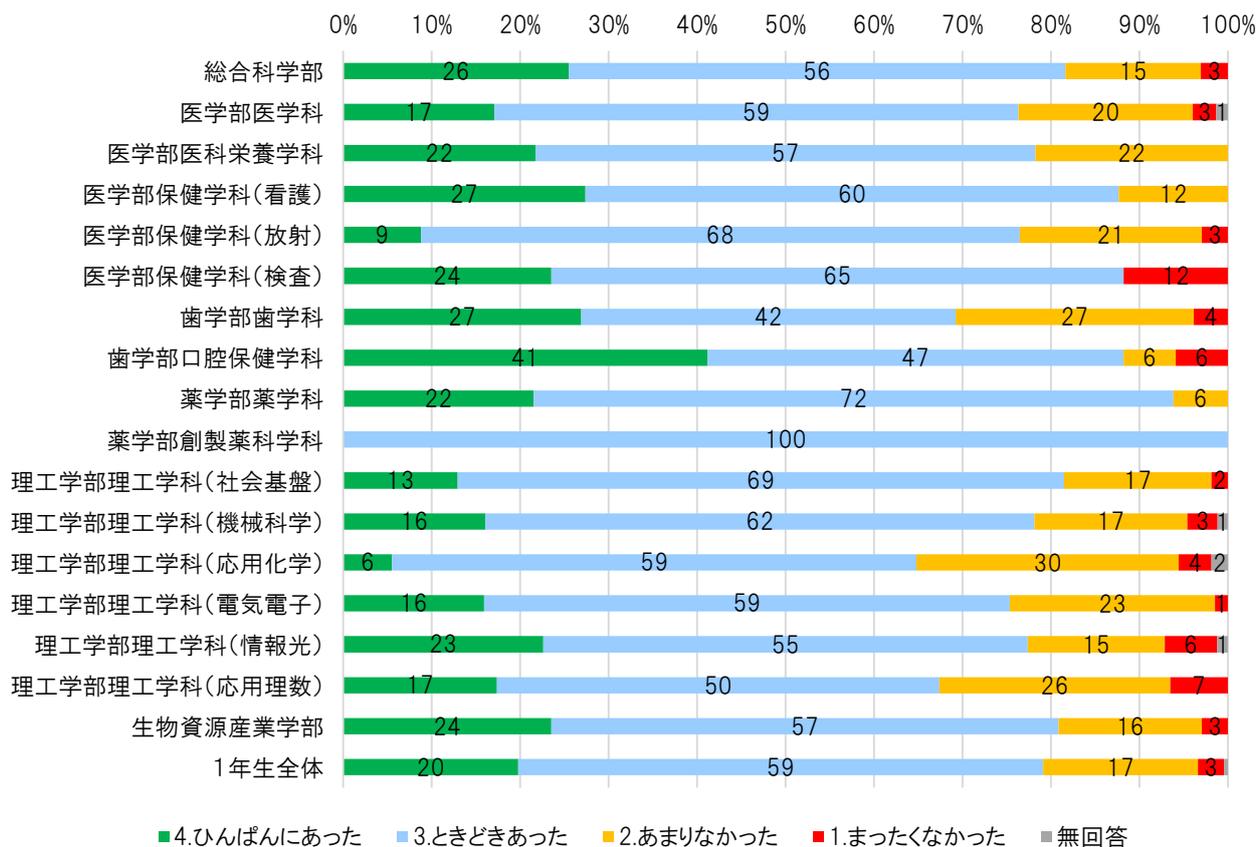
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



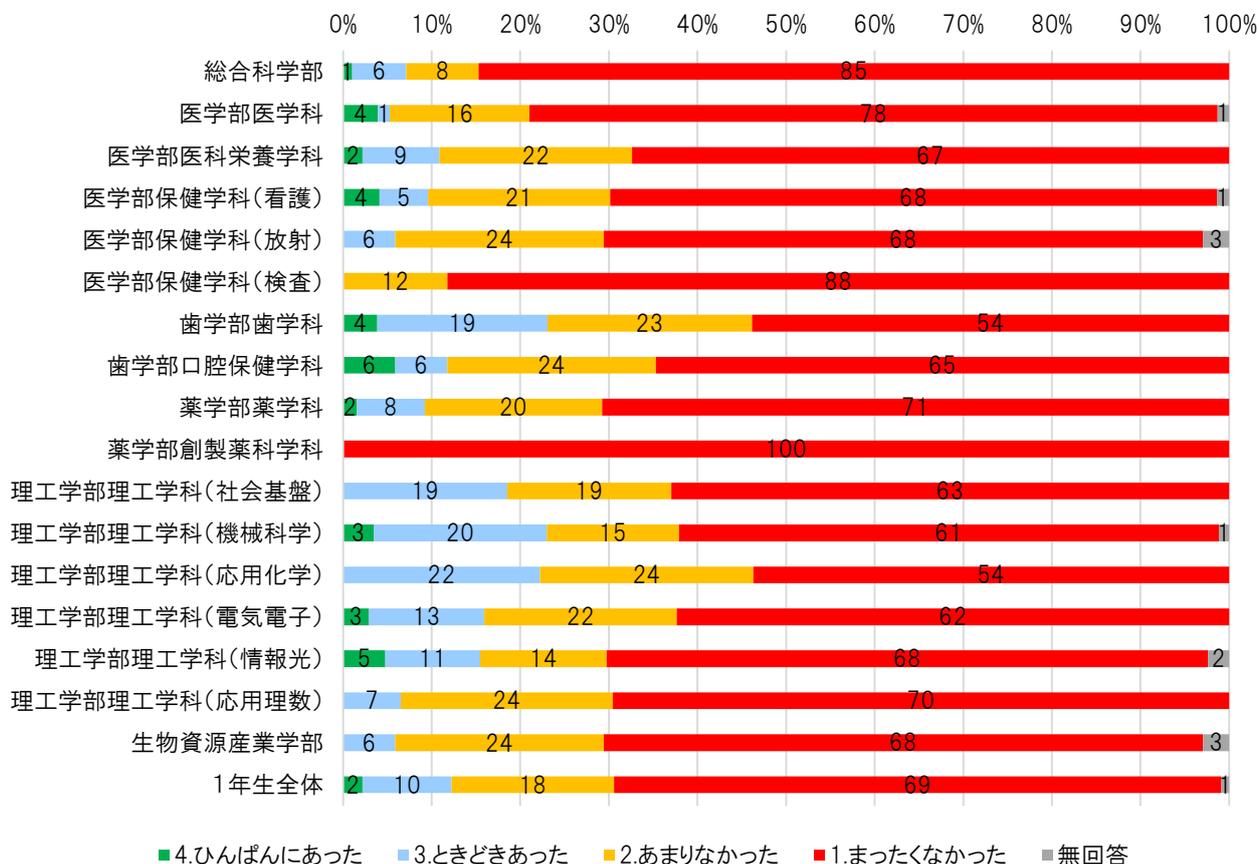
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



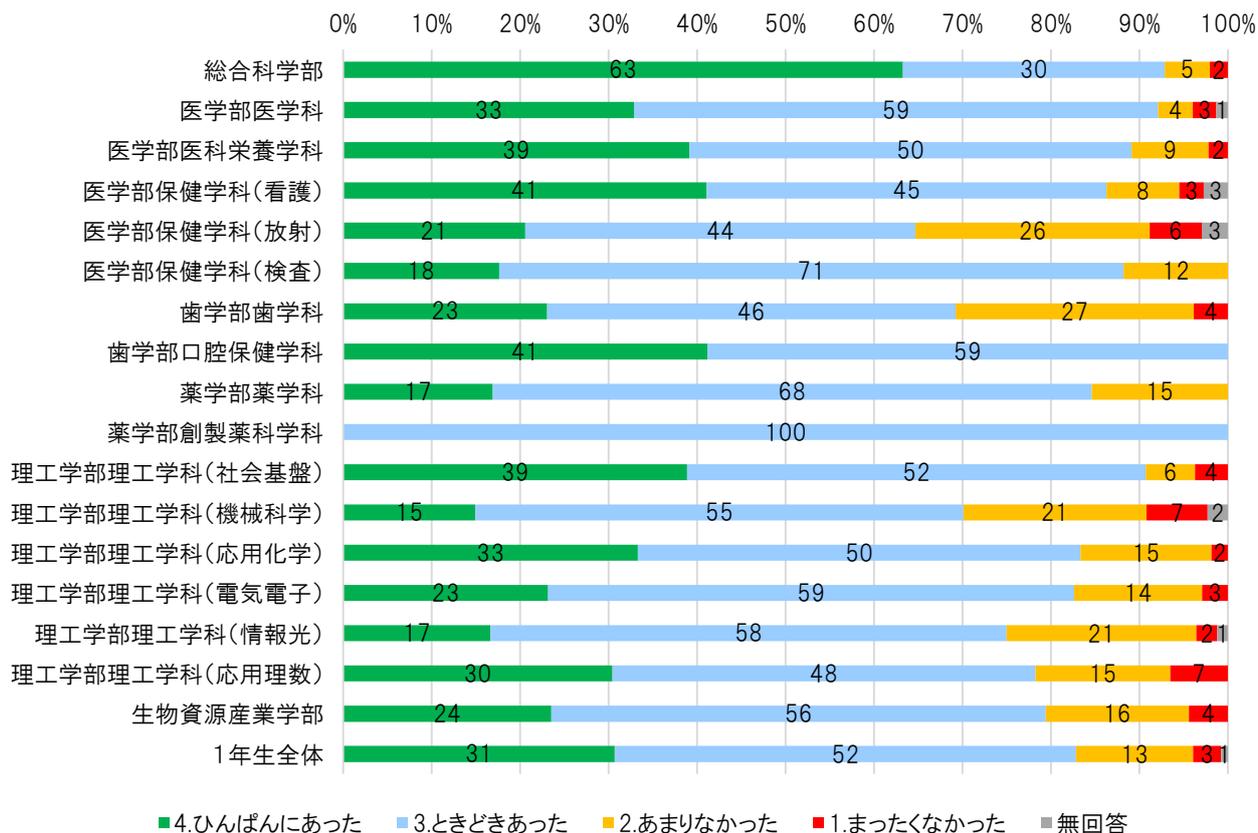
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



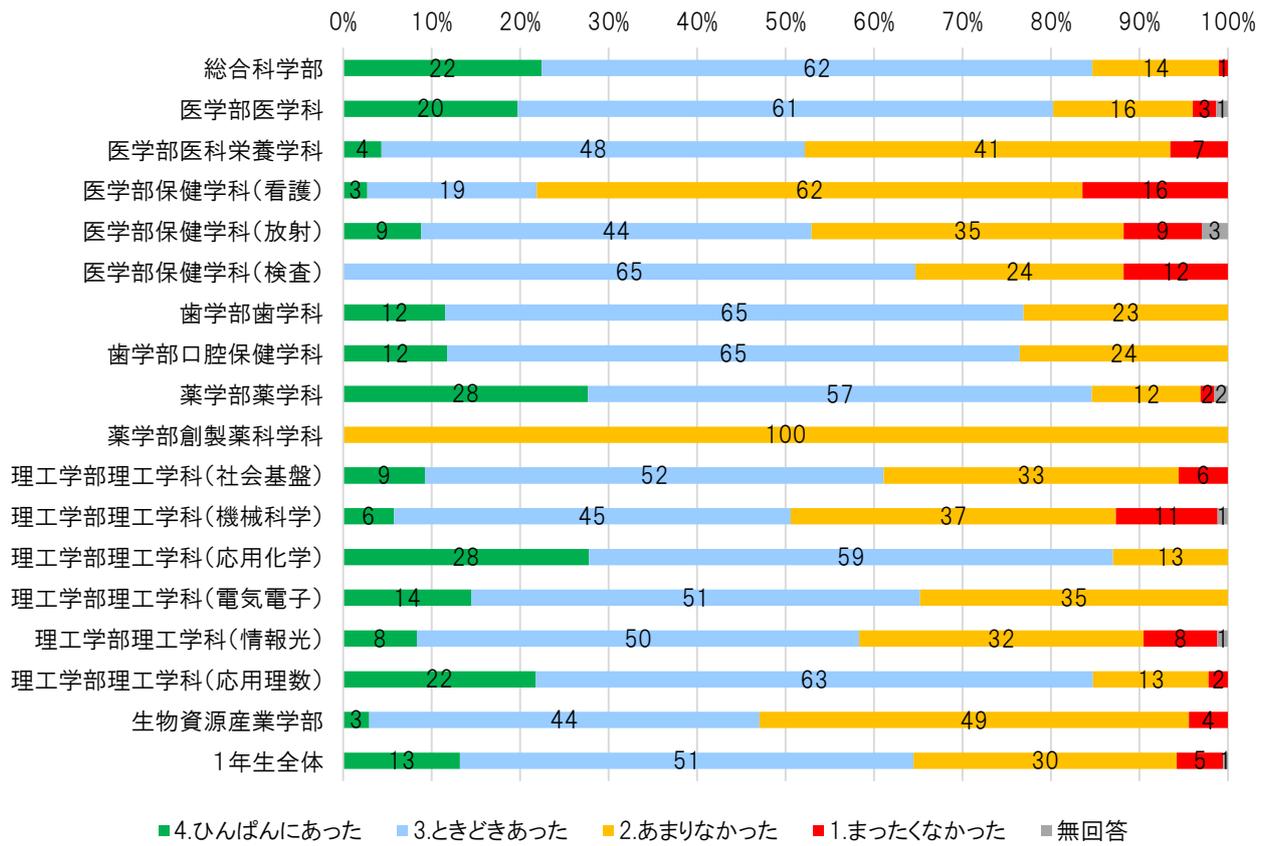
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



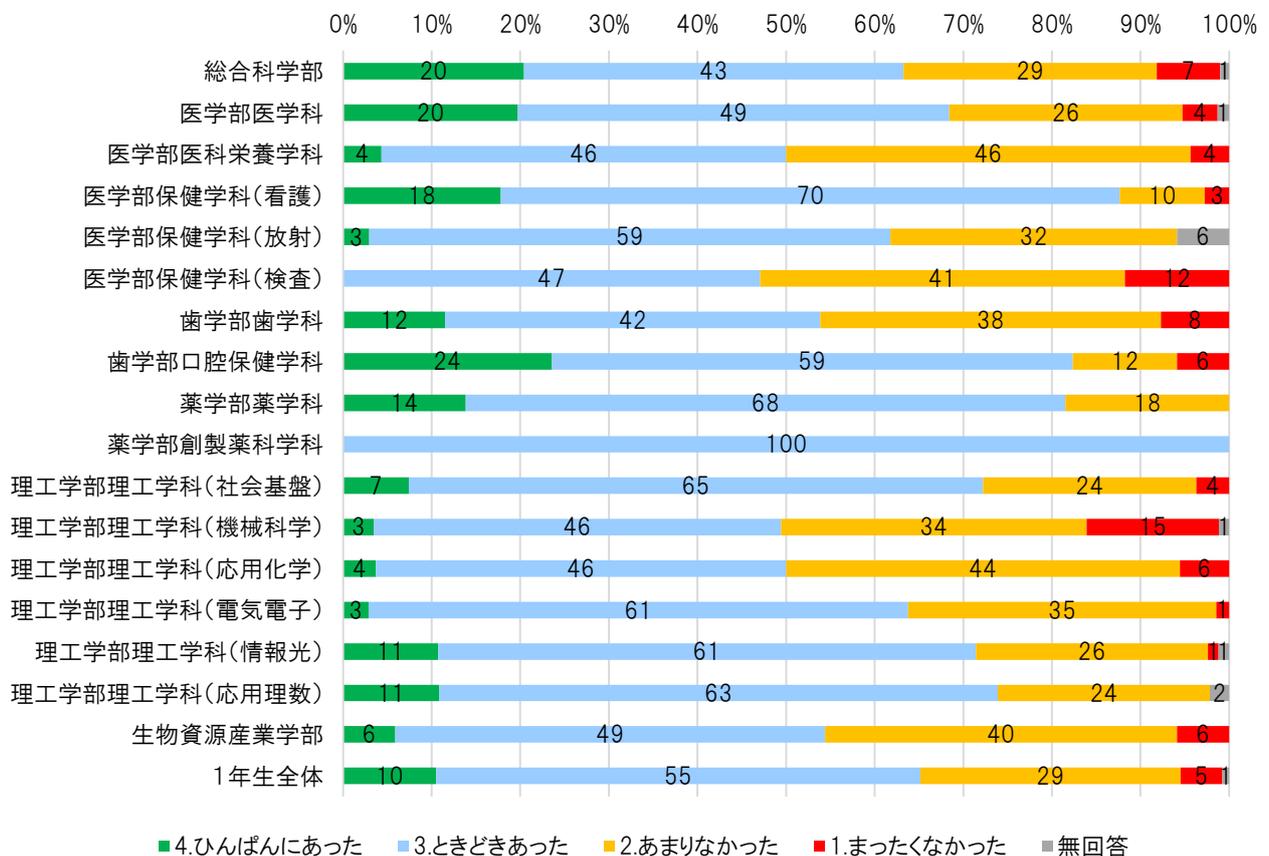
[9] 定期的の小テストやレポートが課される



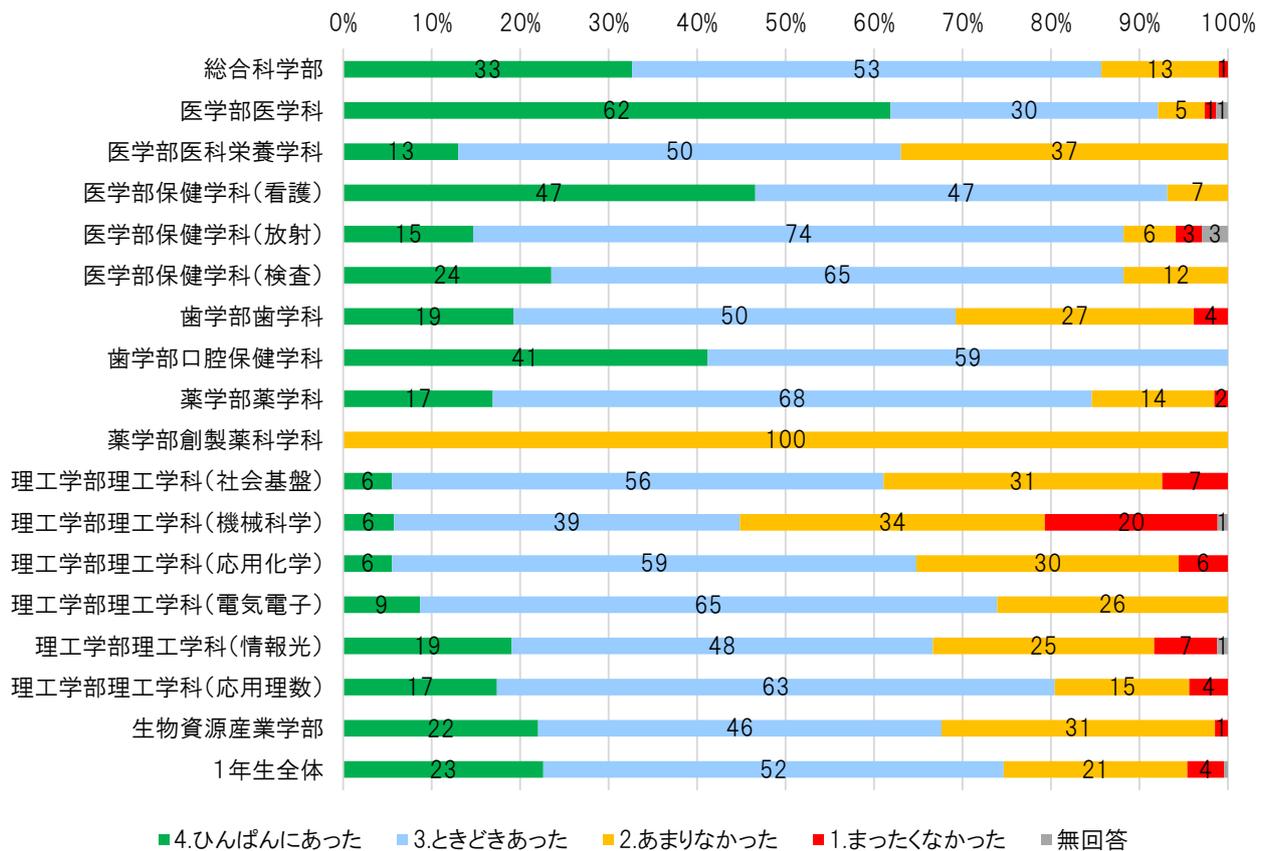
〔10〕教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



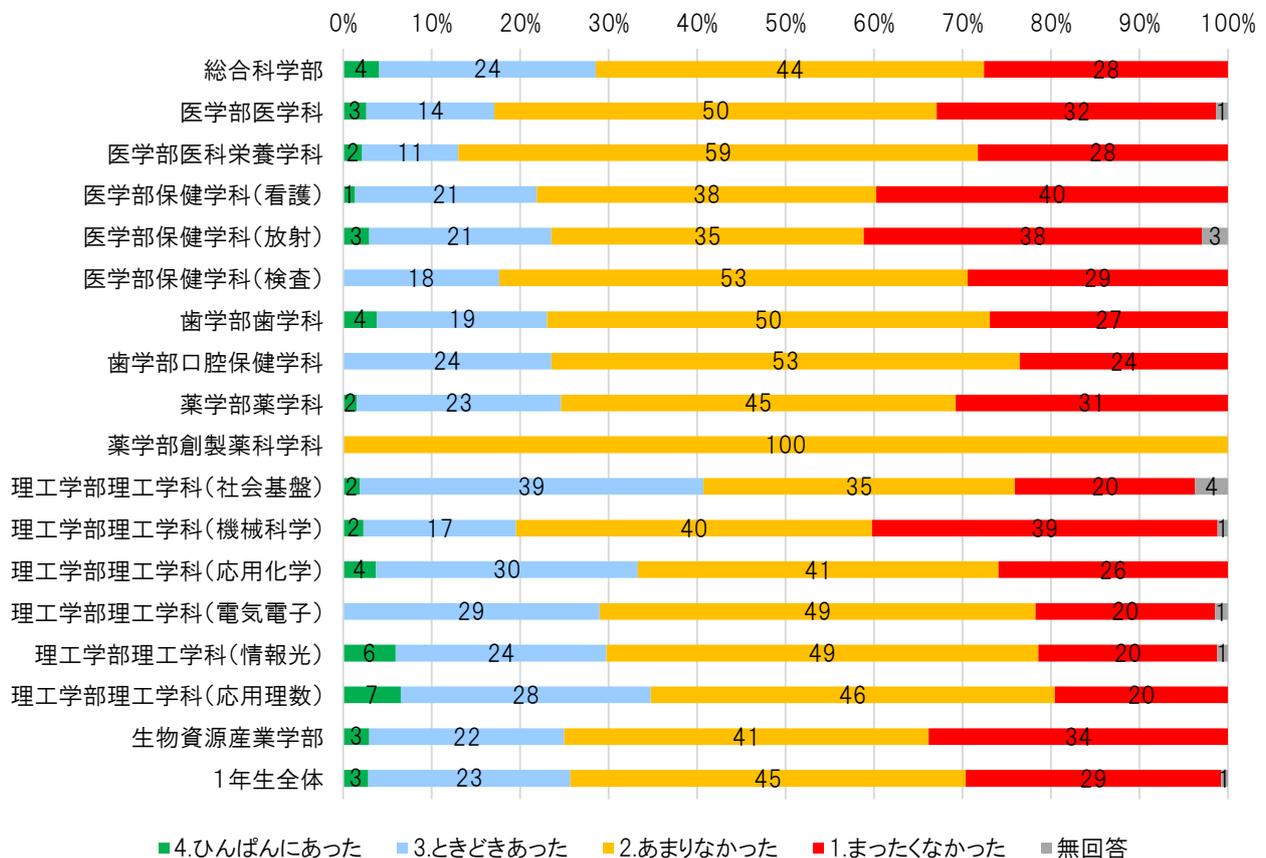
〔11〕学生が自分の考えや研究を発表する



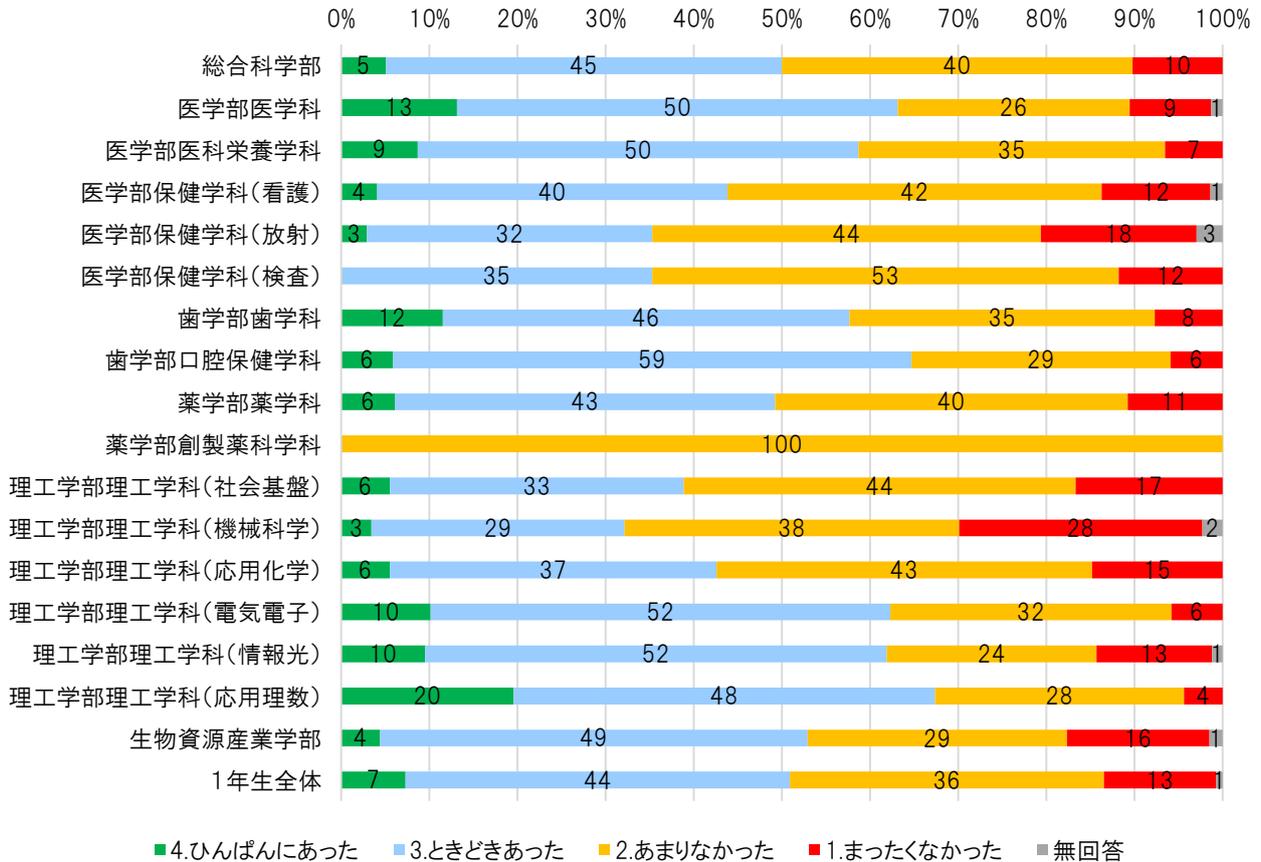
[12]授業中に学生同士が議論をする



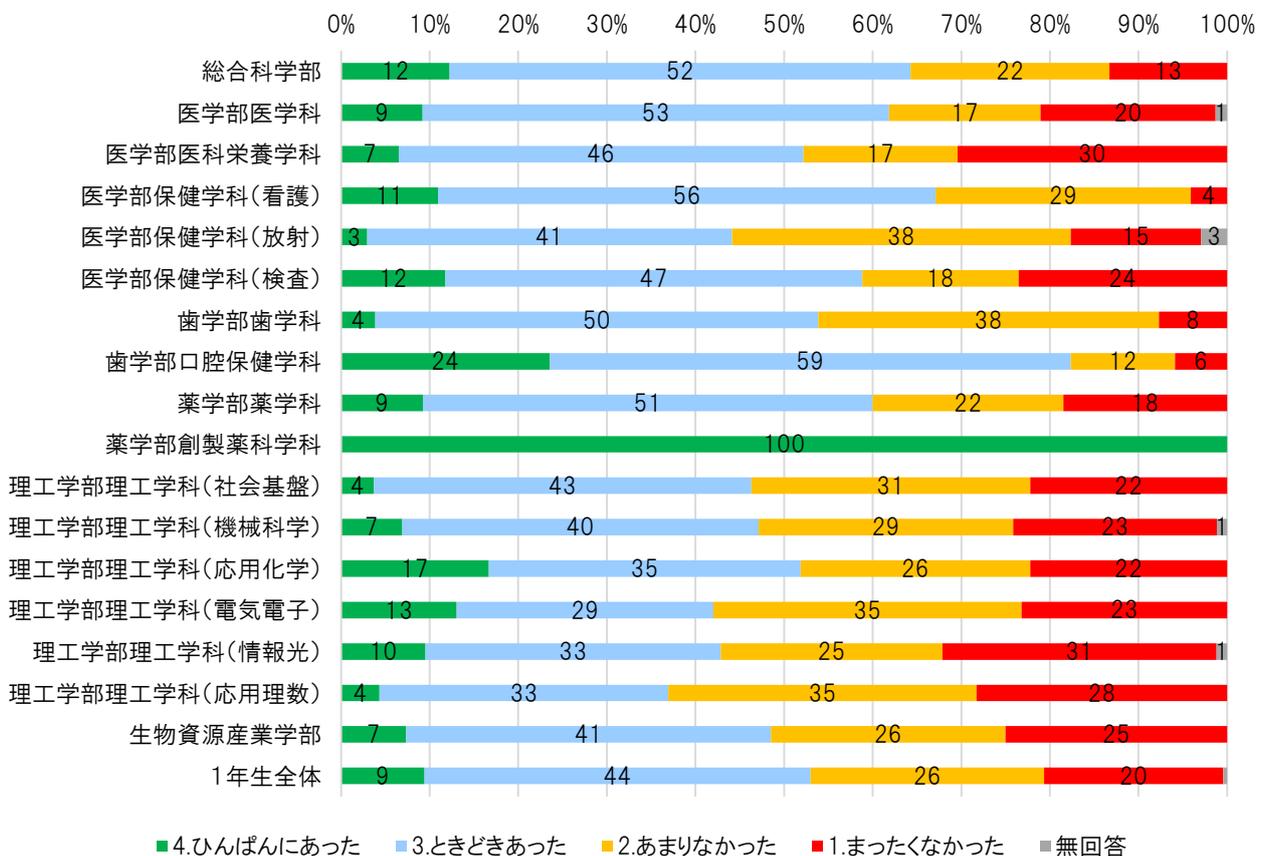
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



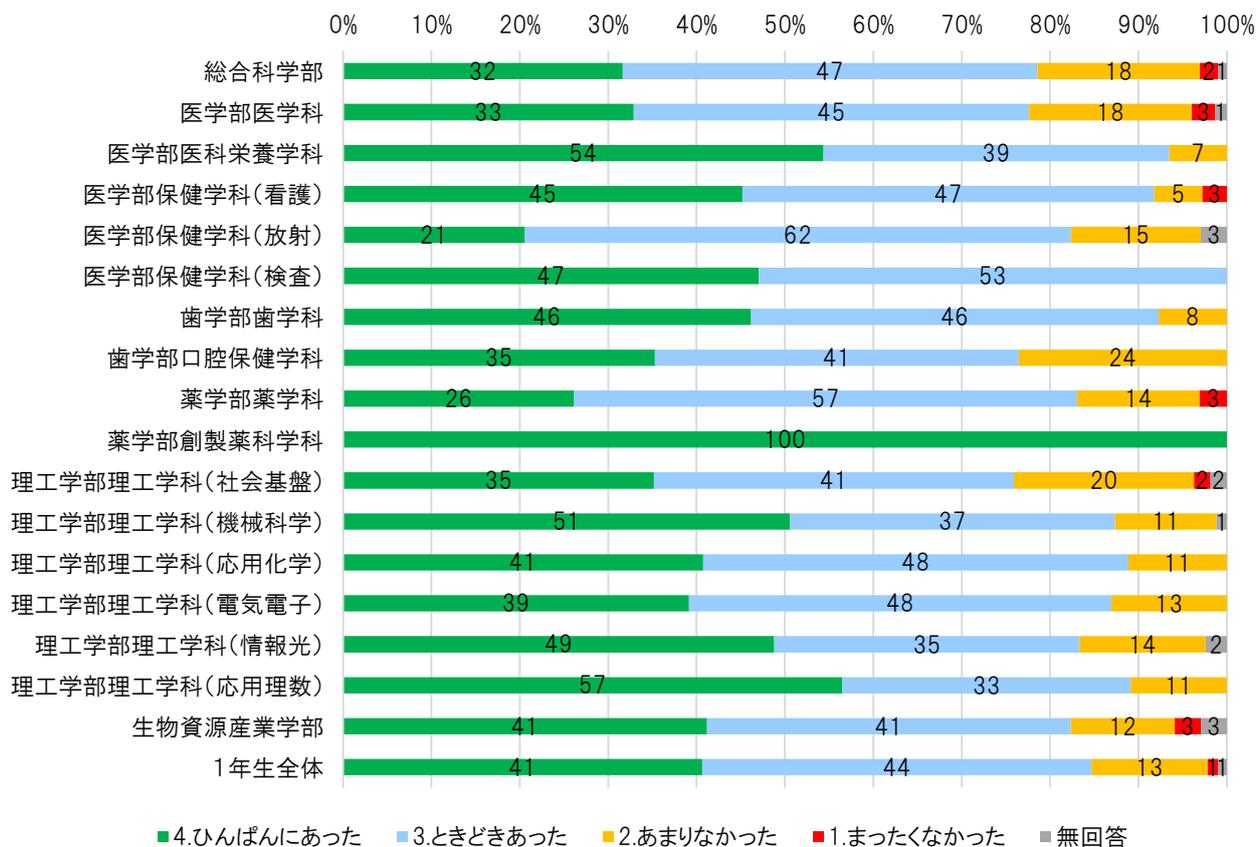
〔14〕授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



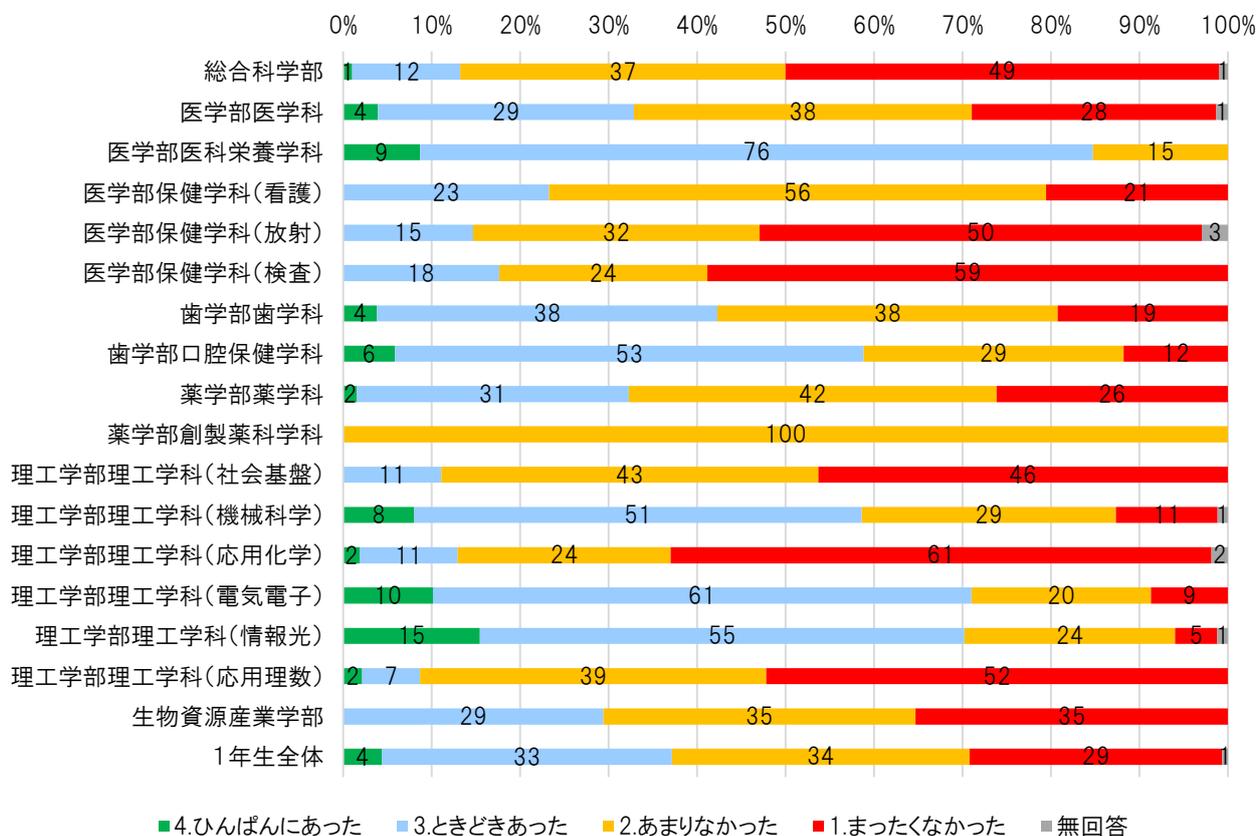
〔15〕取りたい授業を履修登録できなかった



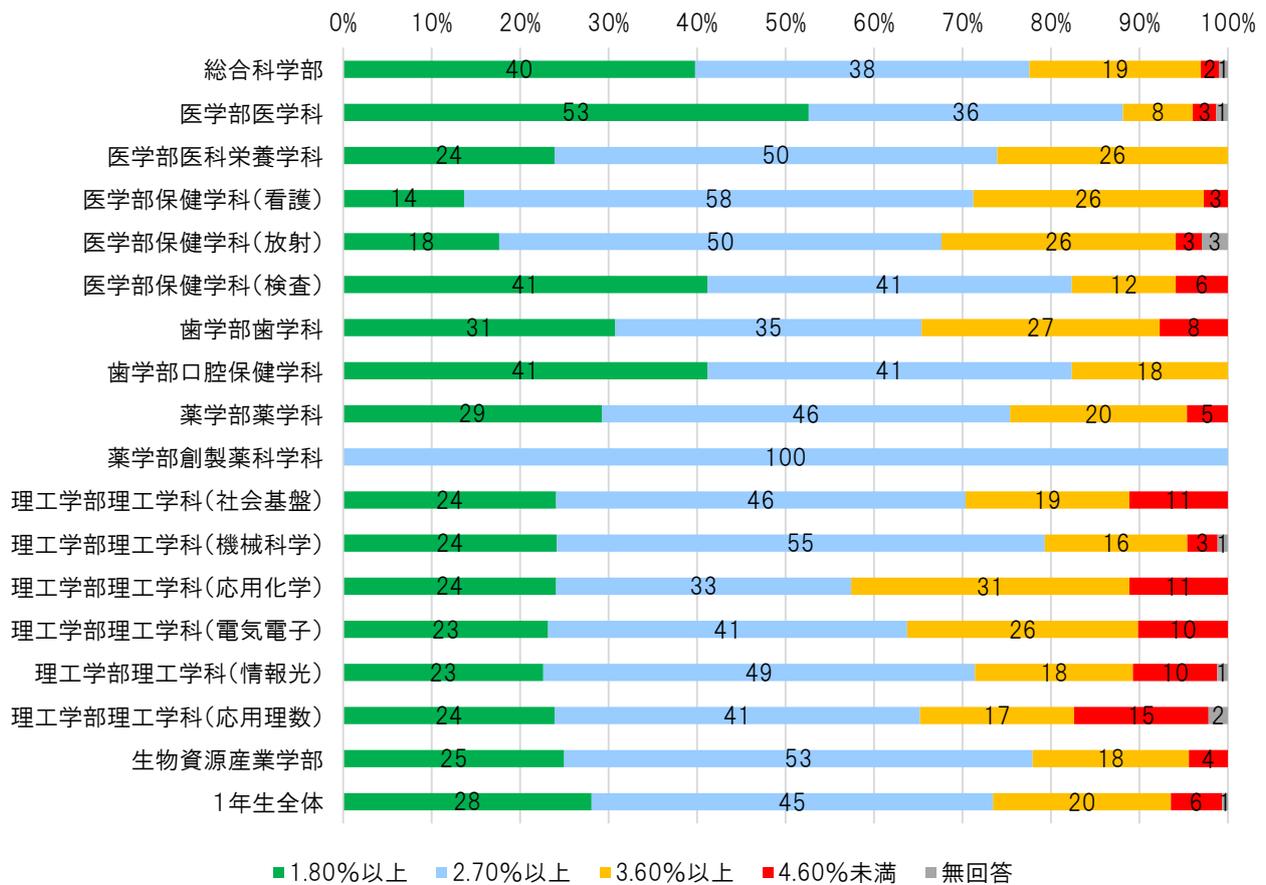
[16]出席することが重視される



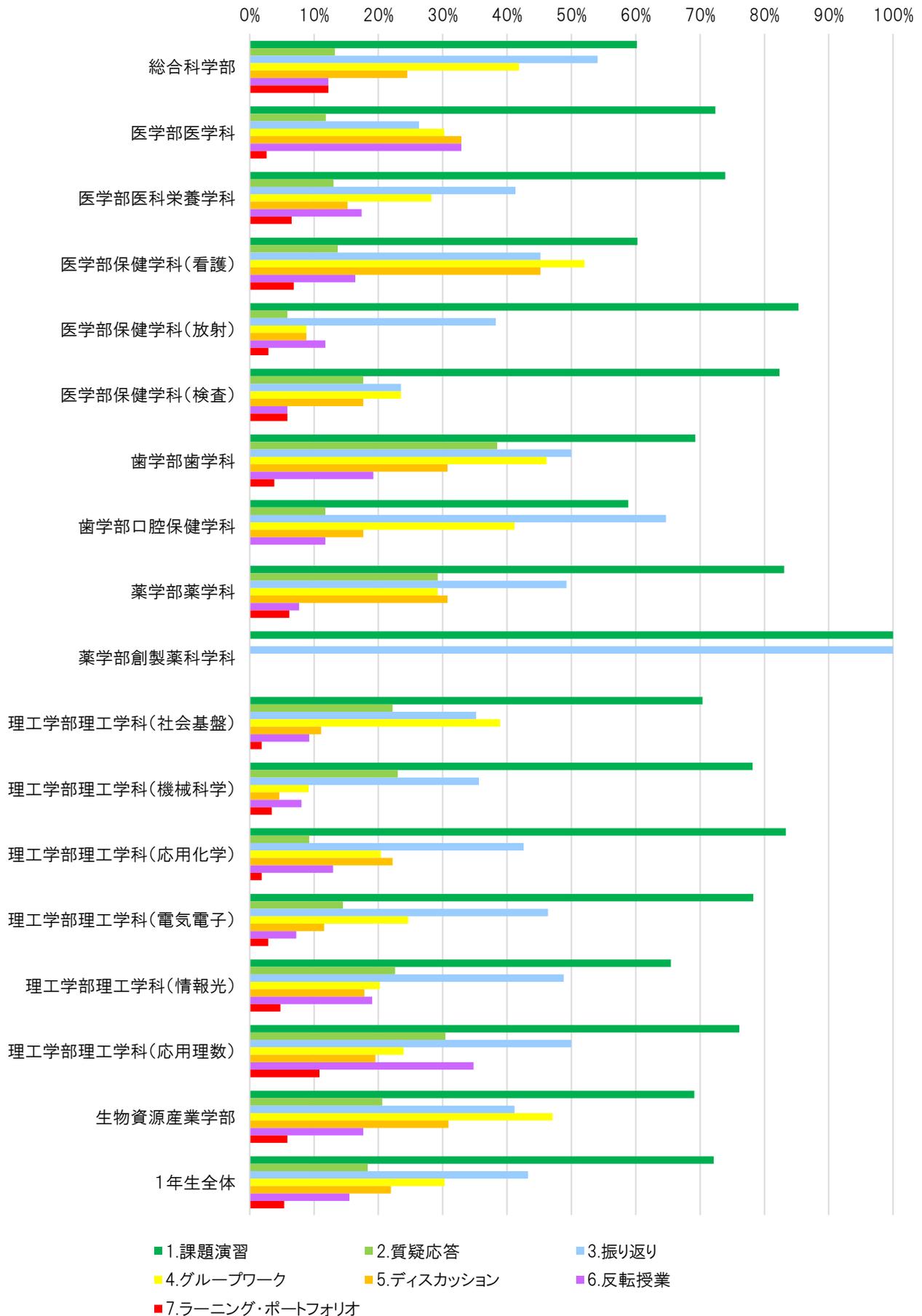
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

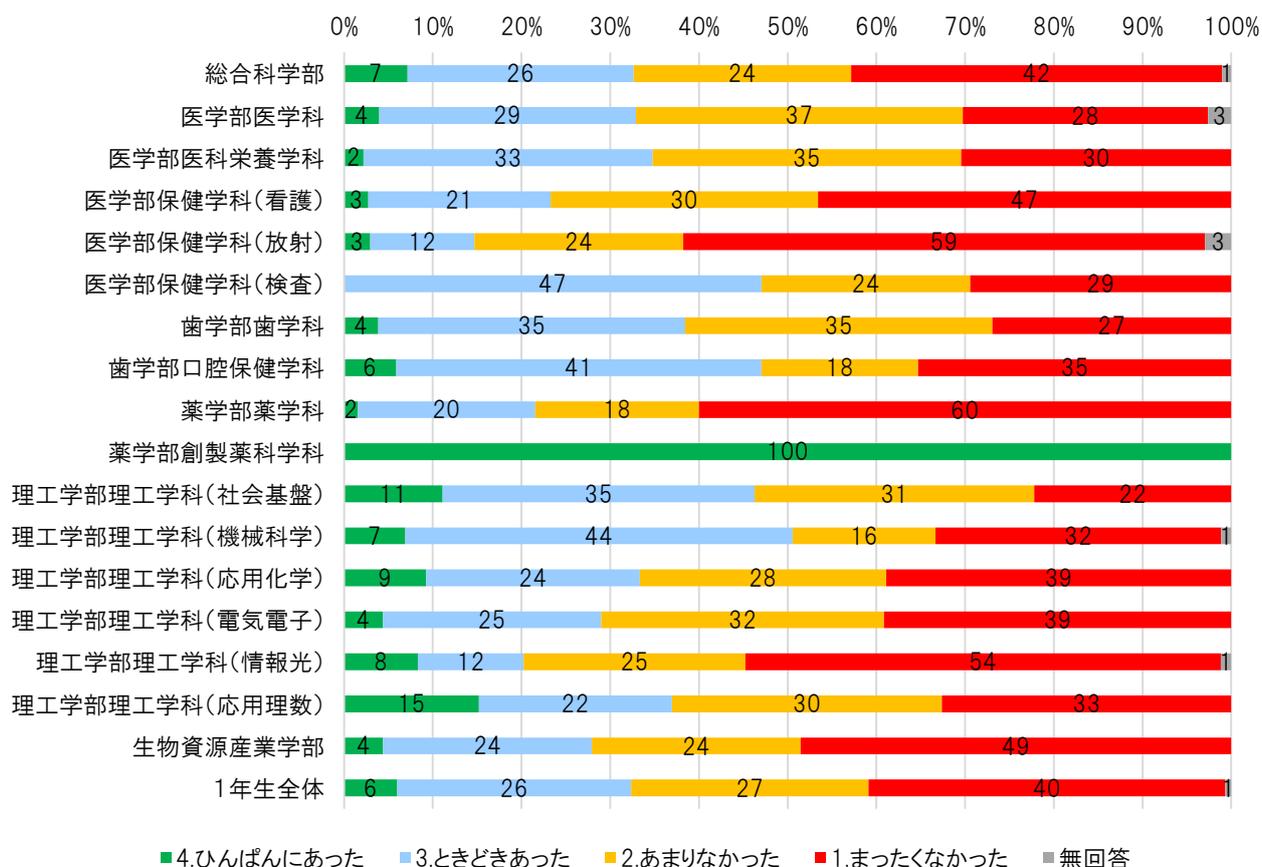


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

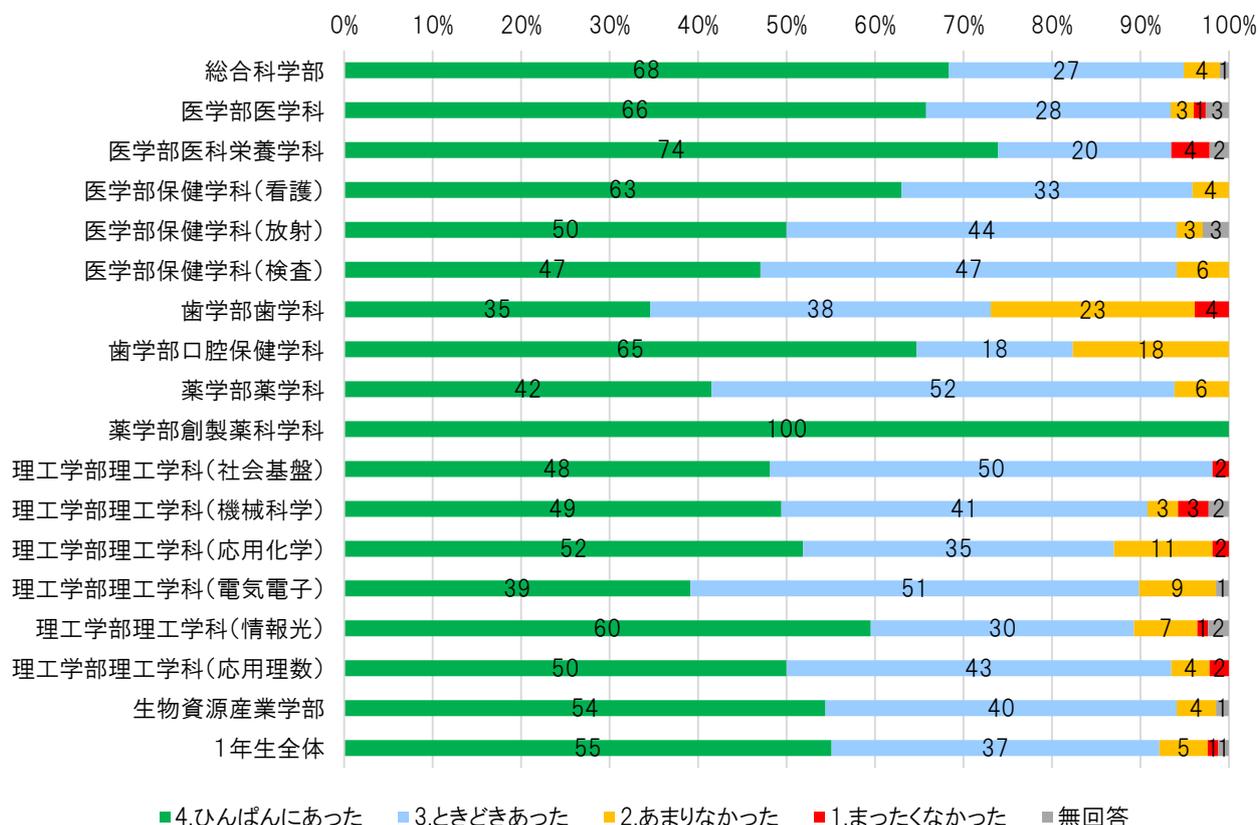


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

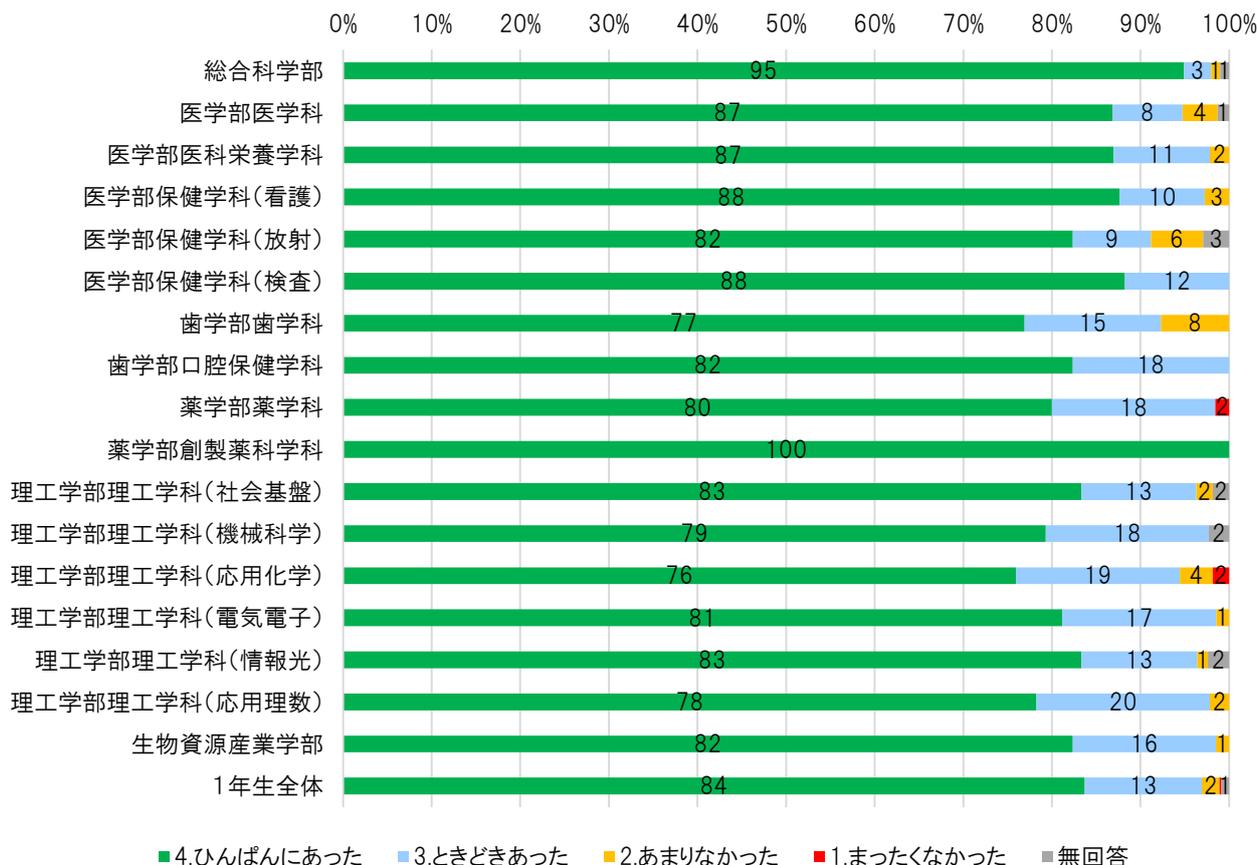
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



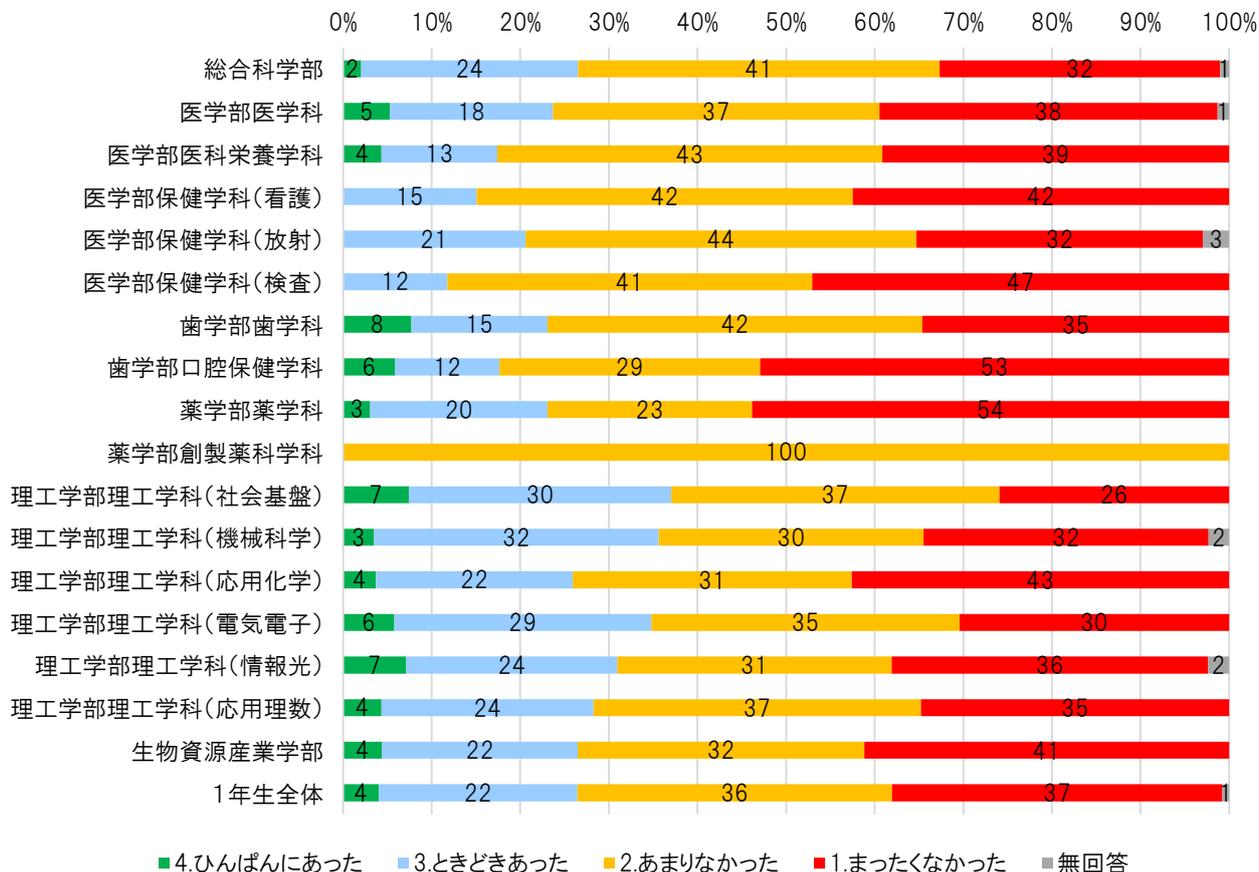
〔21〕授業課題のためにWeb上の情報を利用した



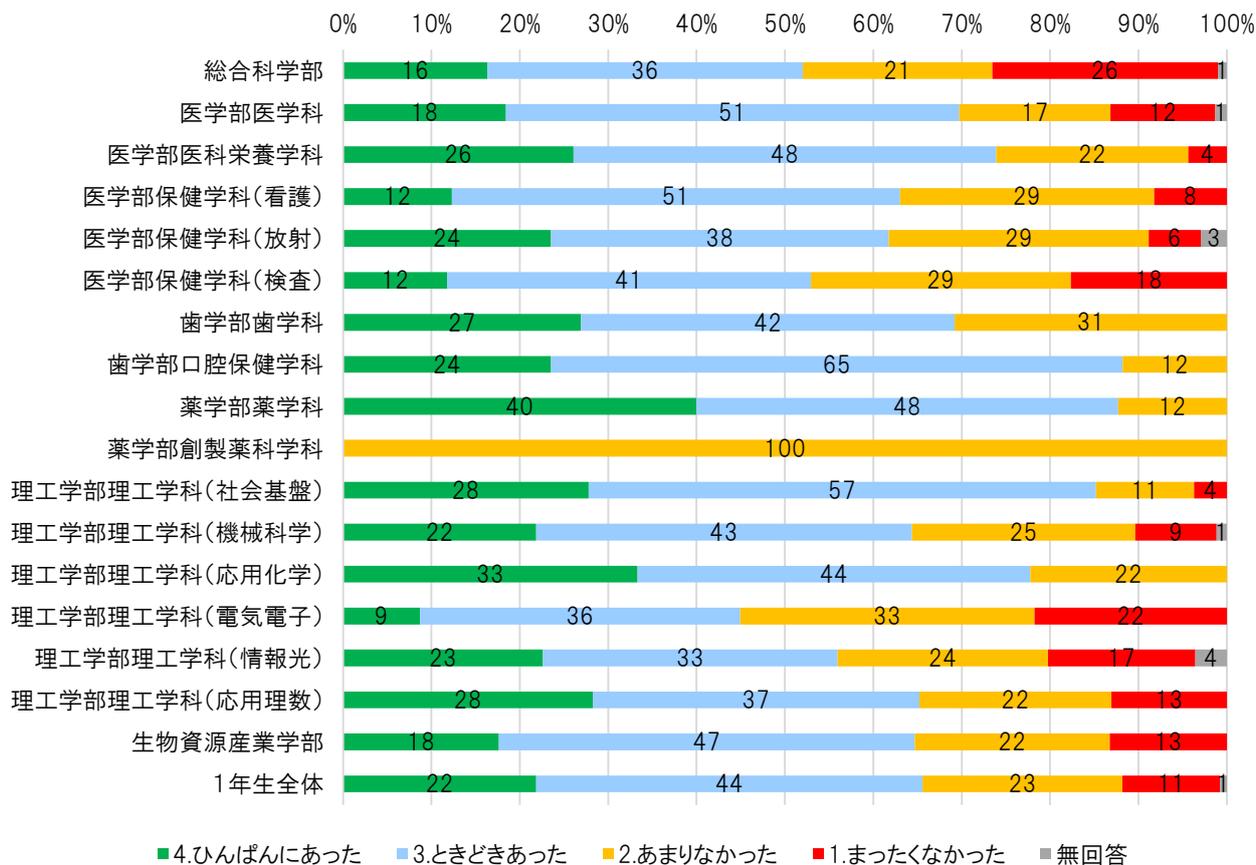
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



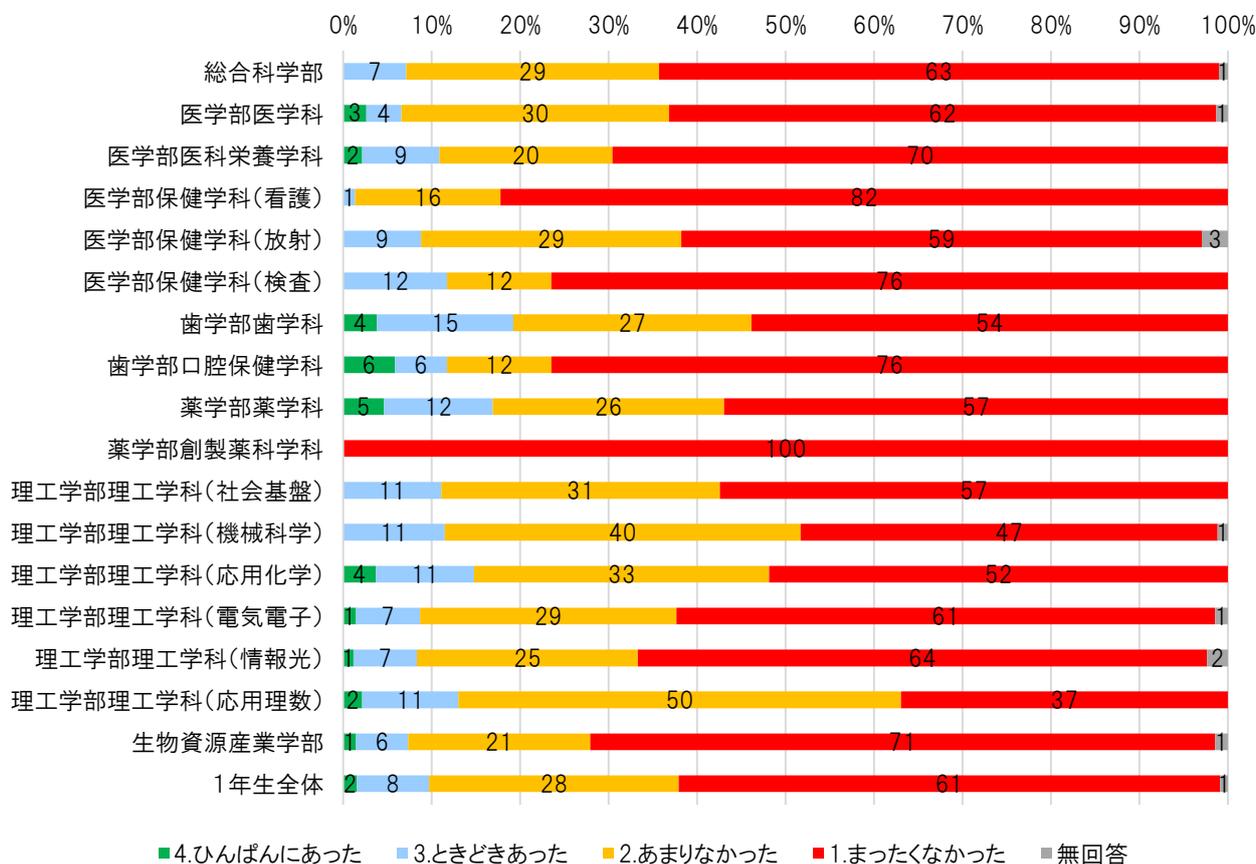
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



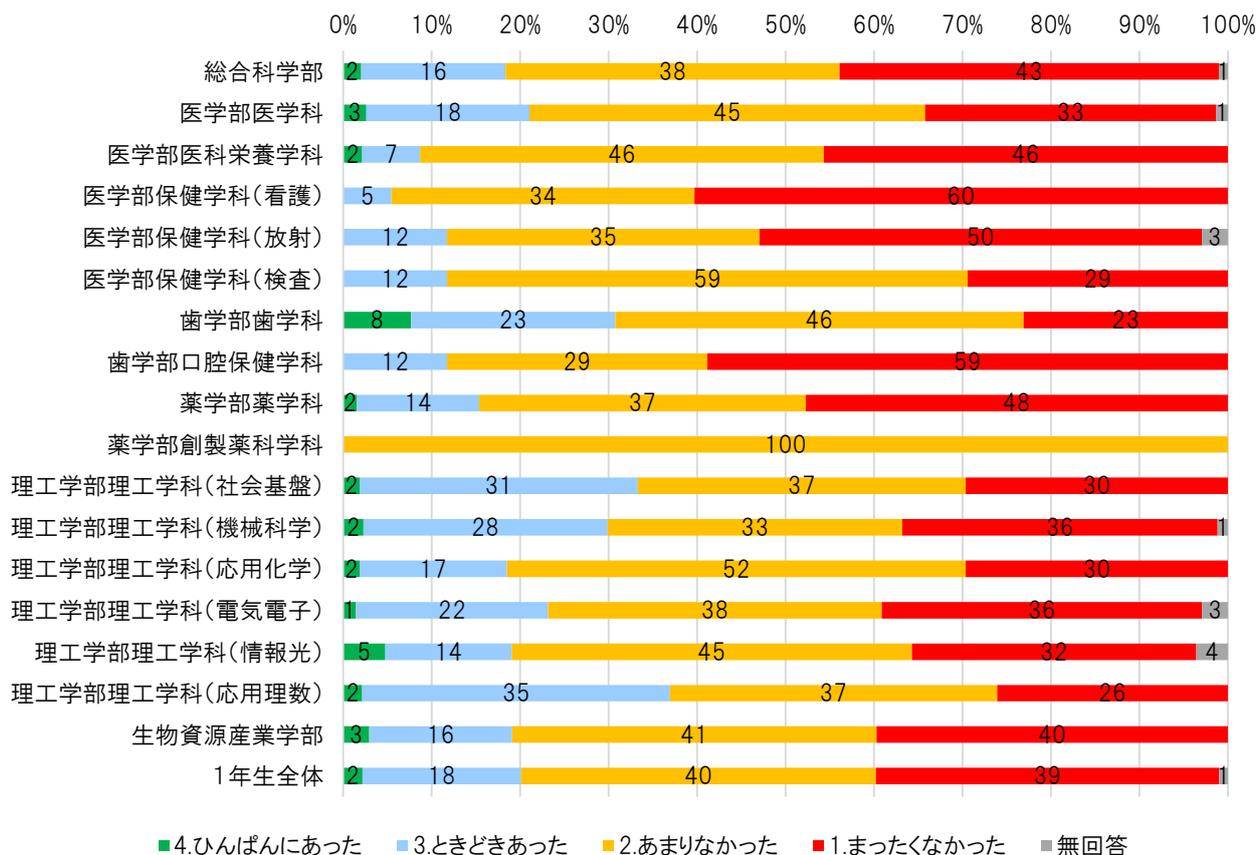
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



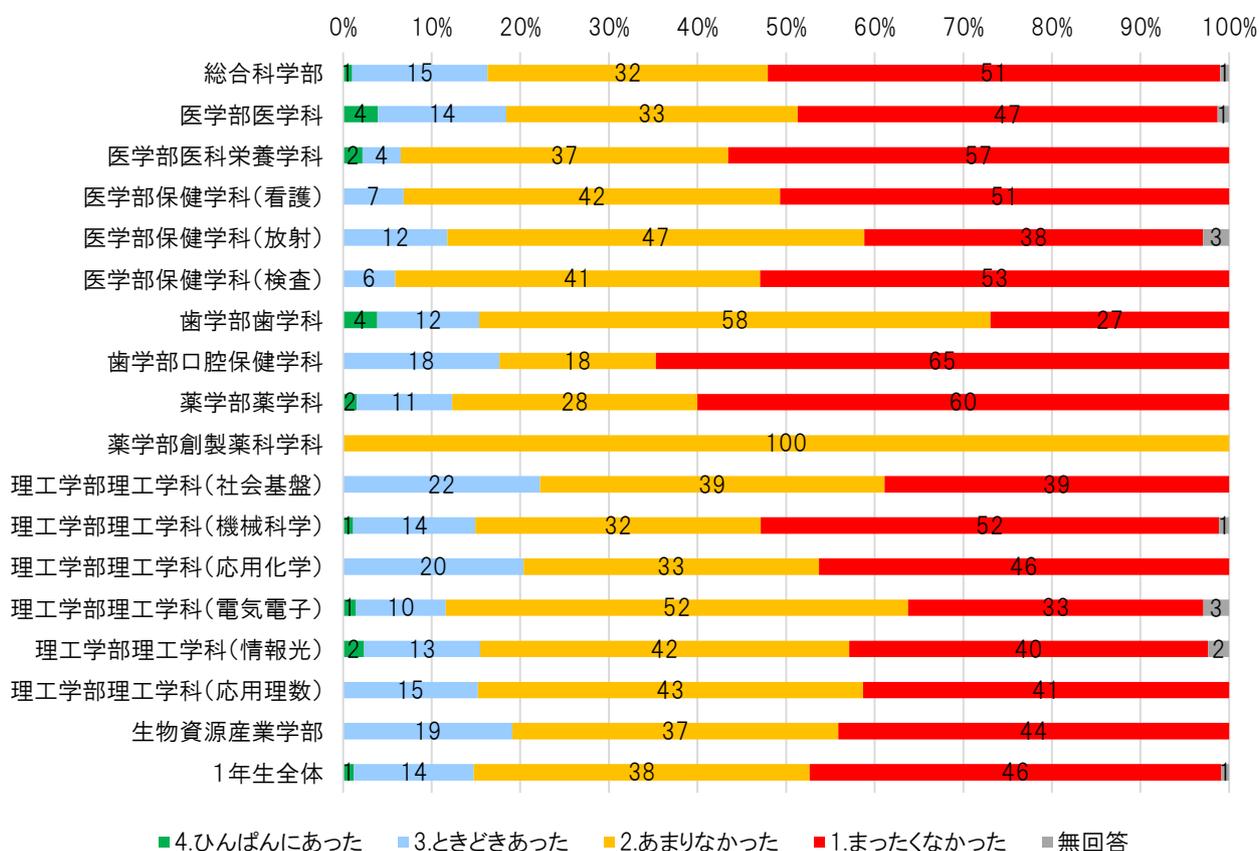
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



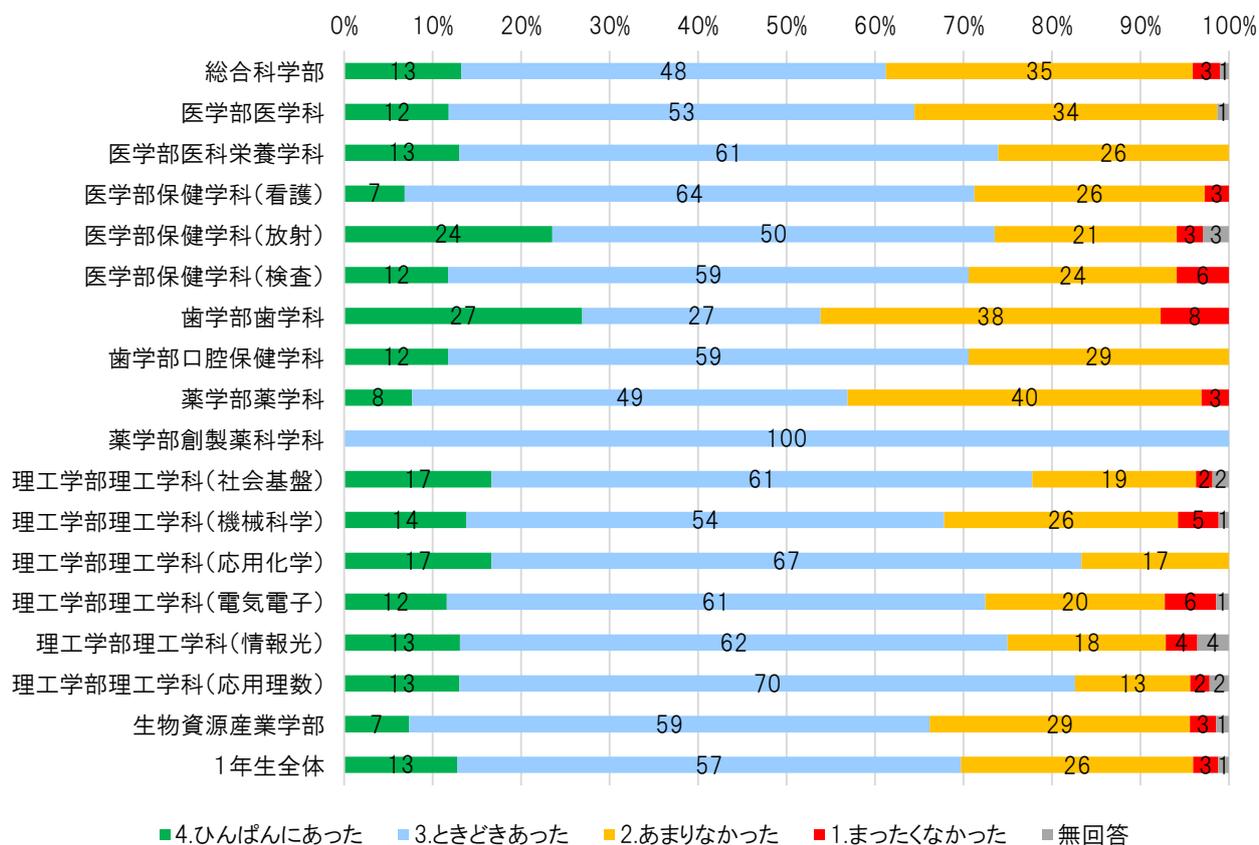
[26]授業を欠席した



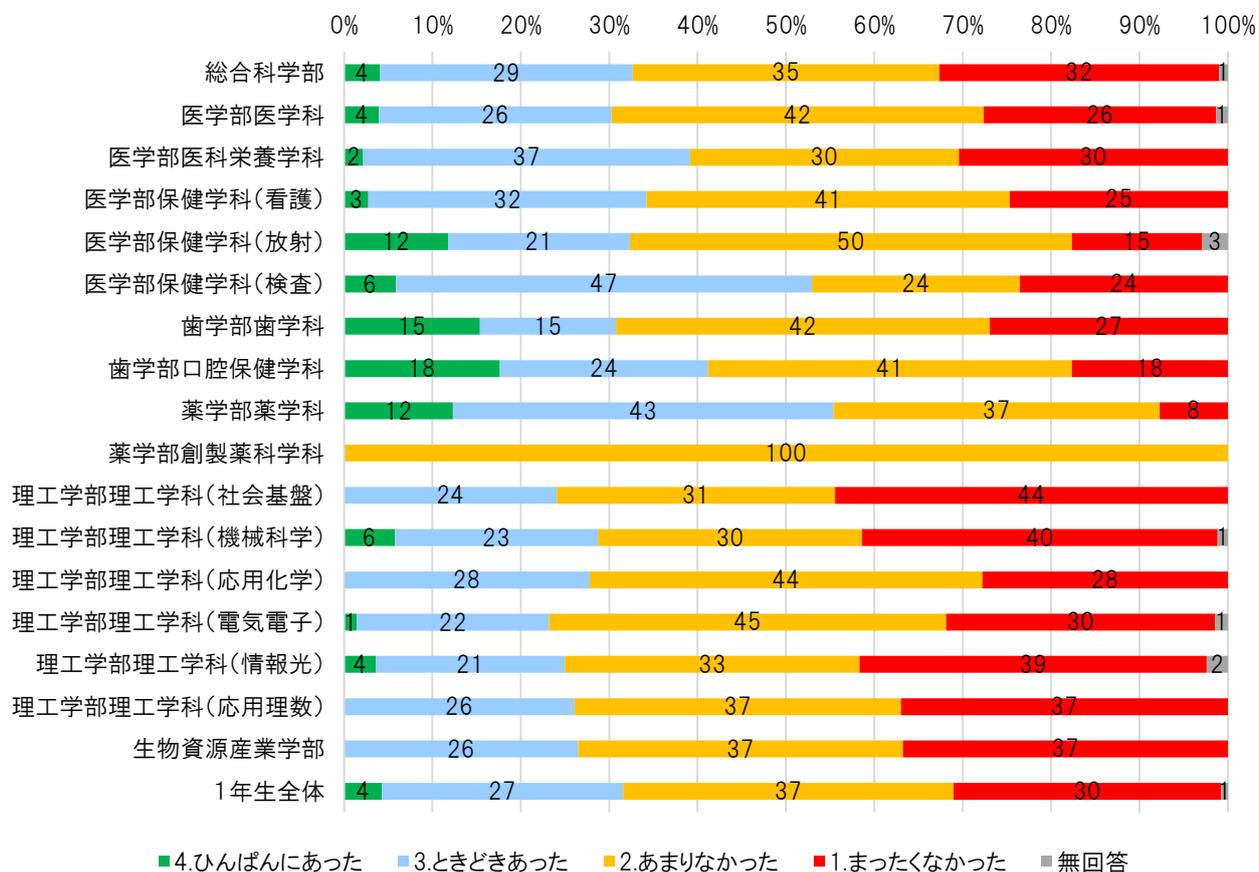
[27]授業に遅刻した



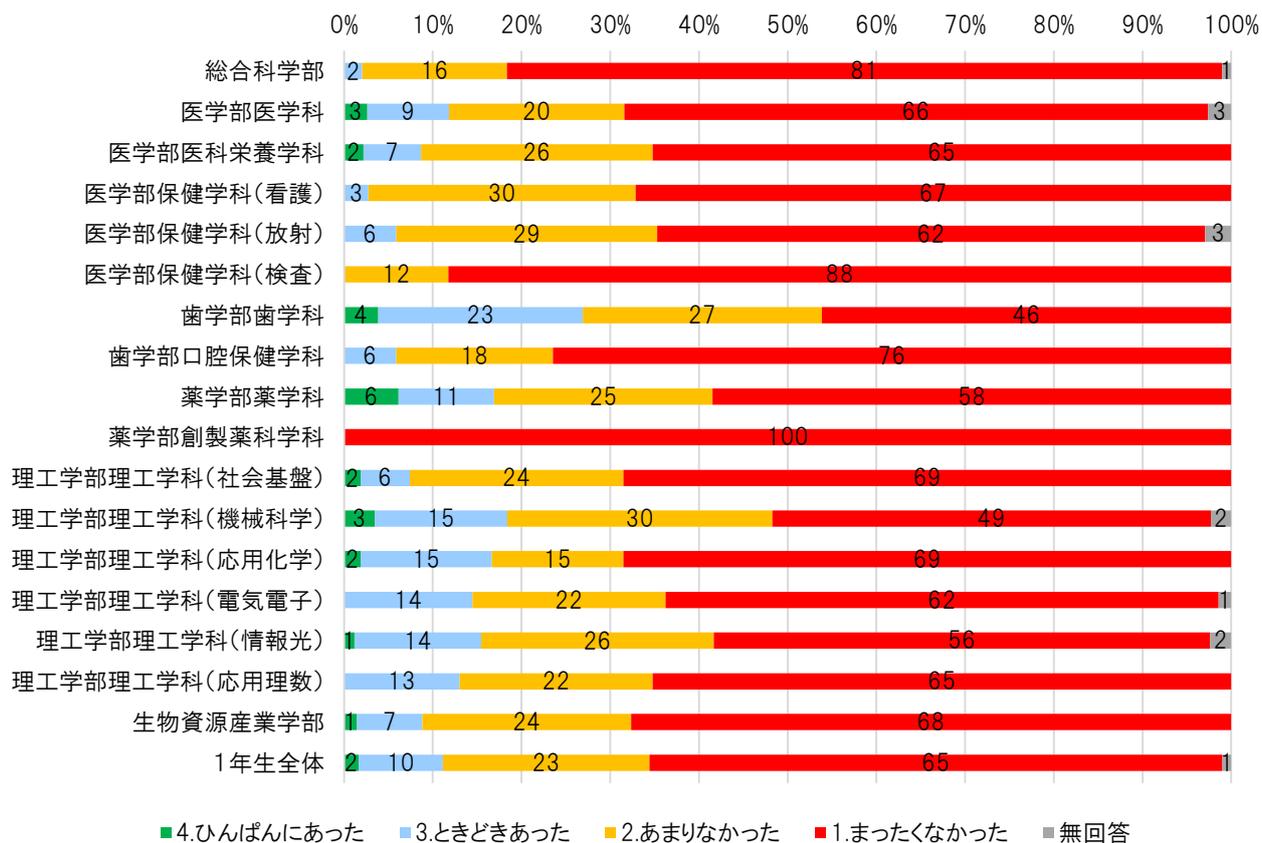
[28]授業をつまらなく感じた



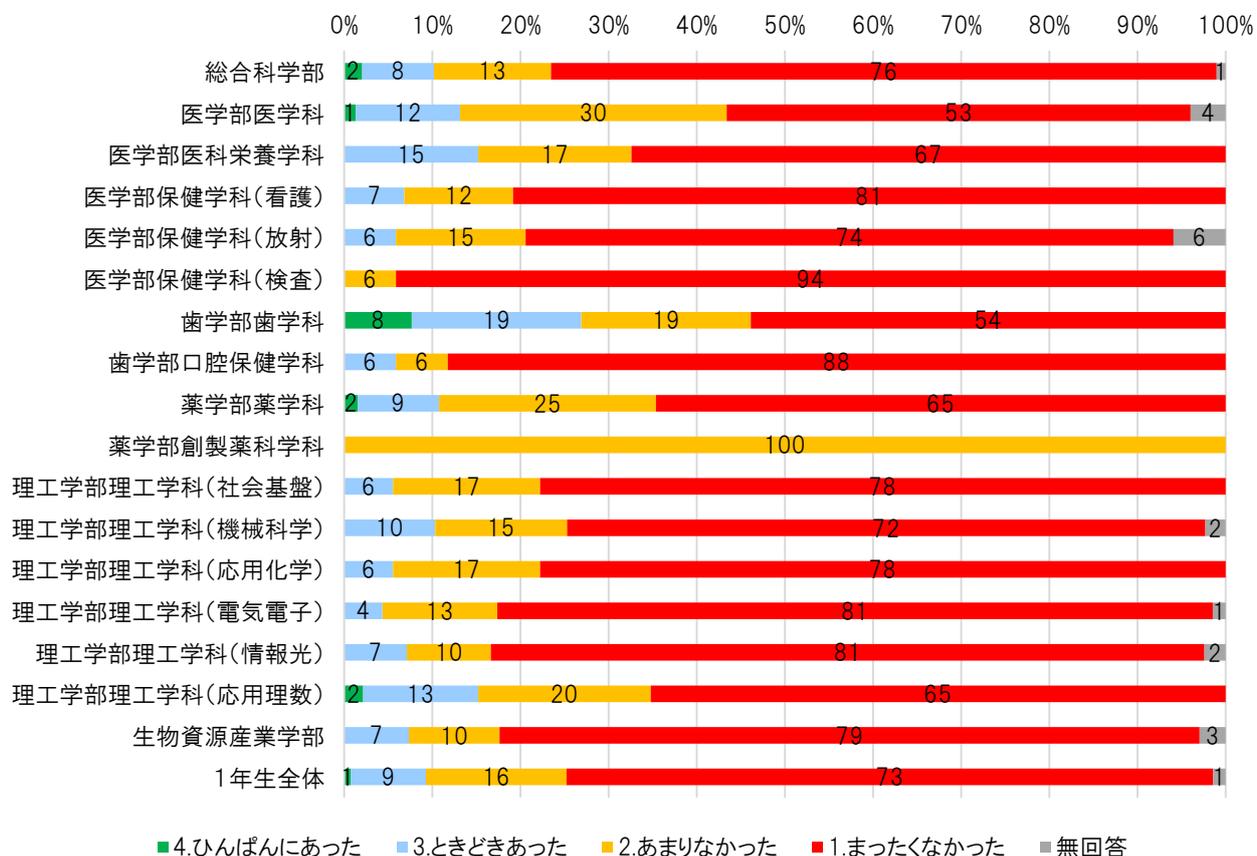
[29]授業中に居眠りをした



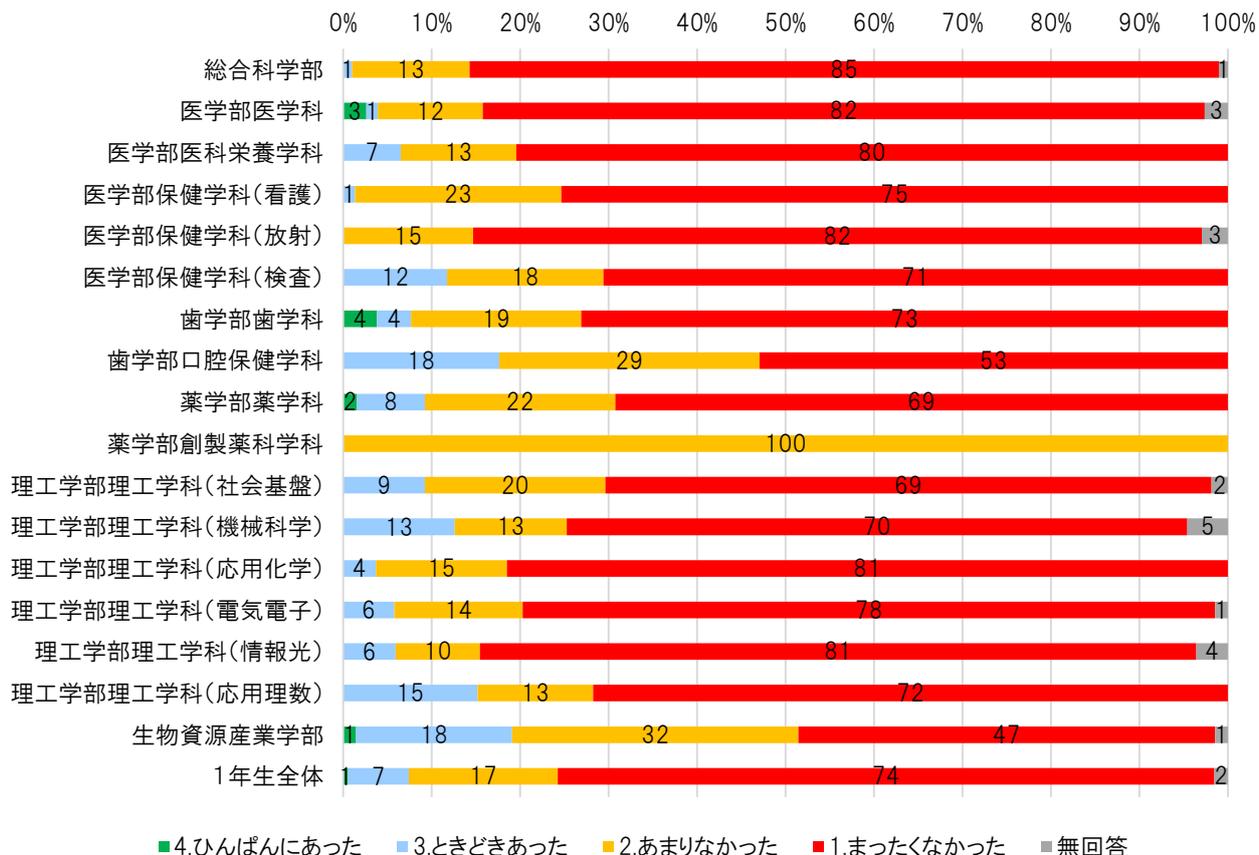
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



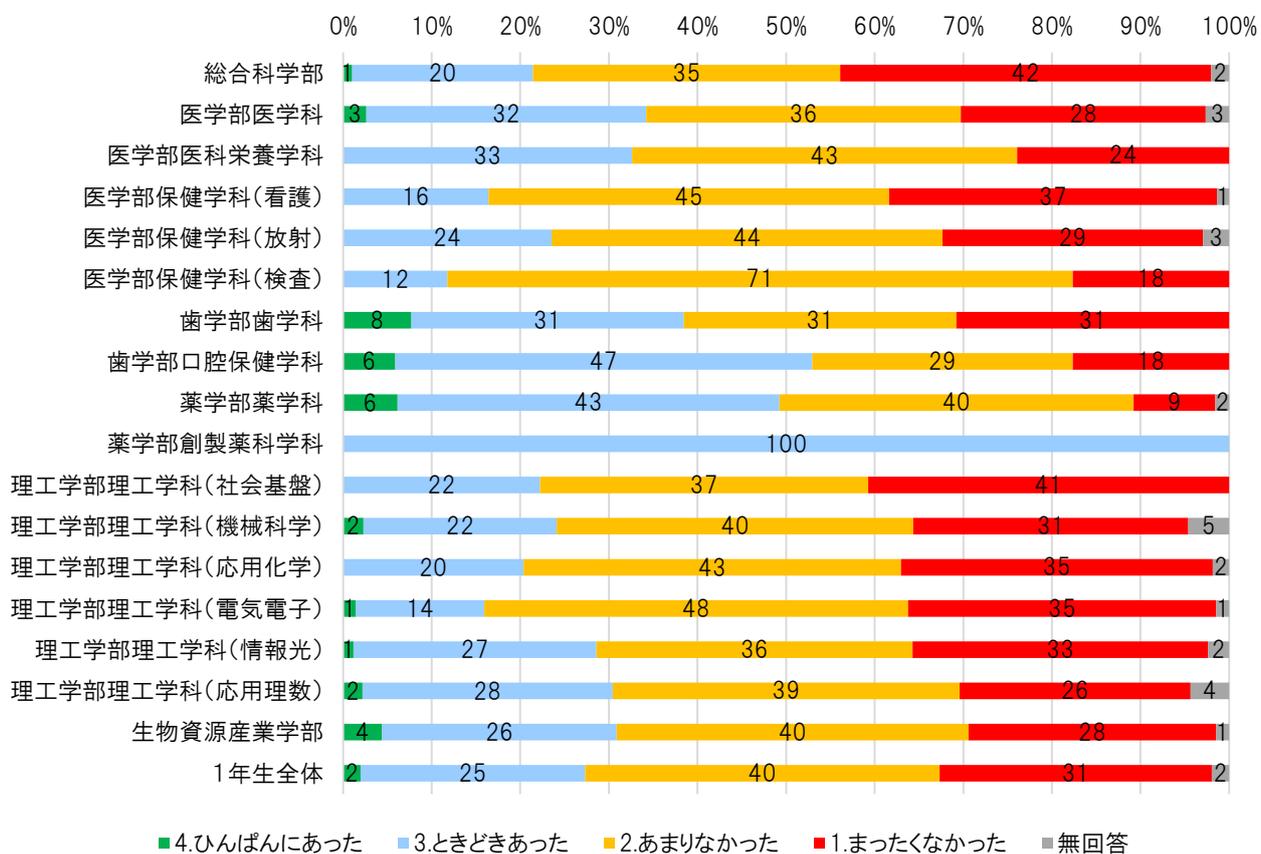
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

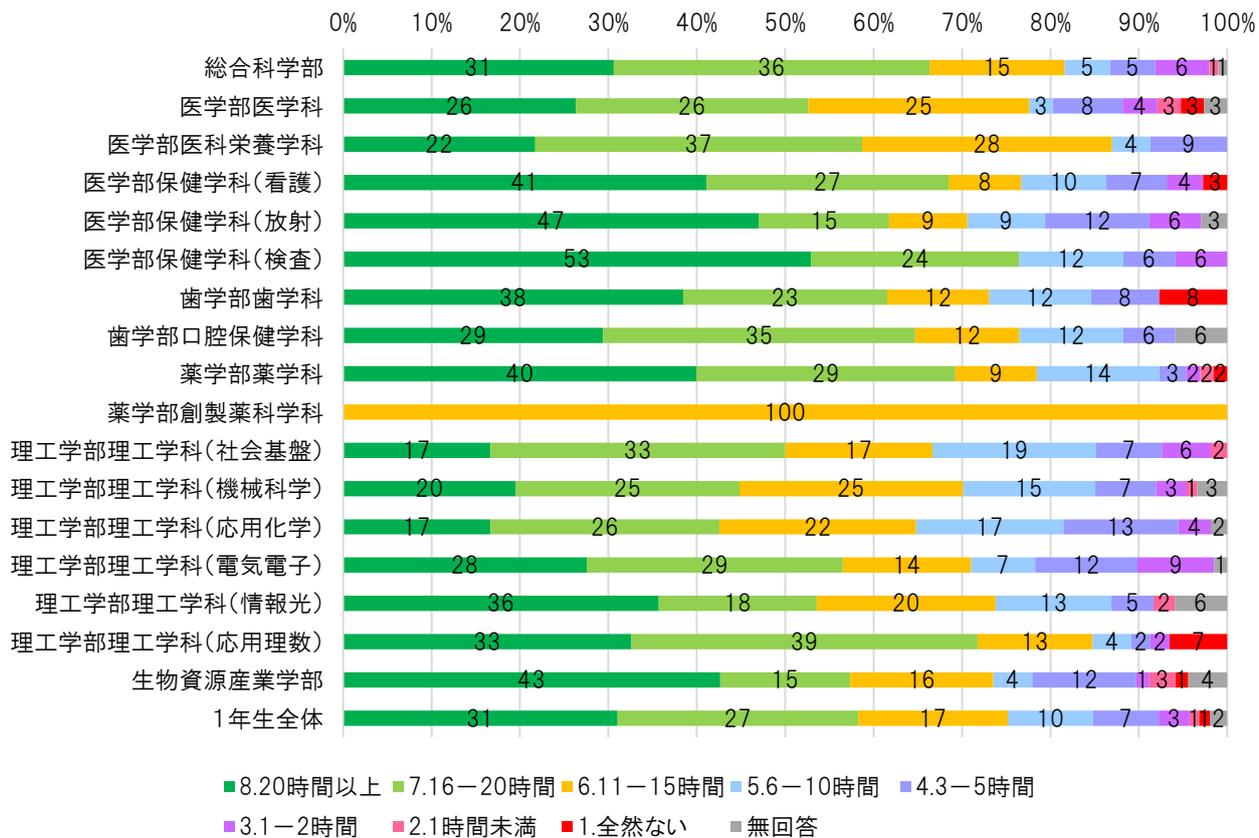


[33]教員に親近感を感じた

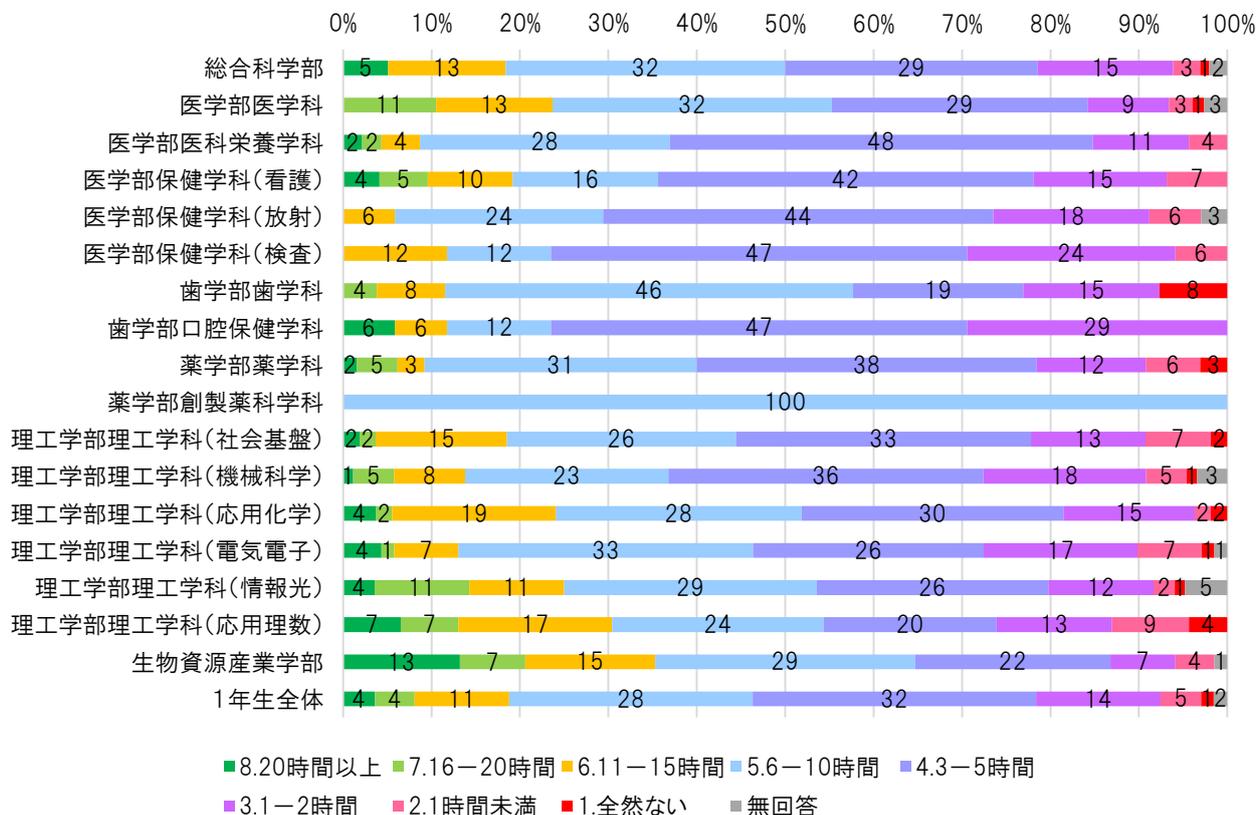


入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

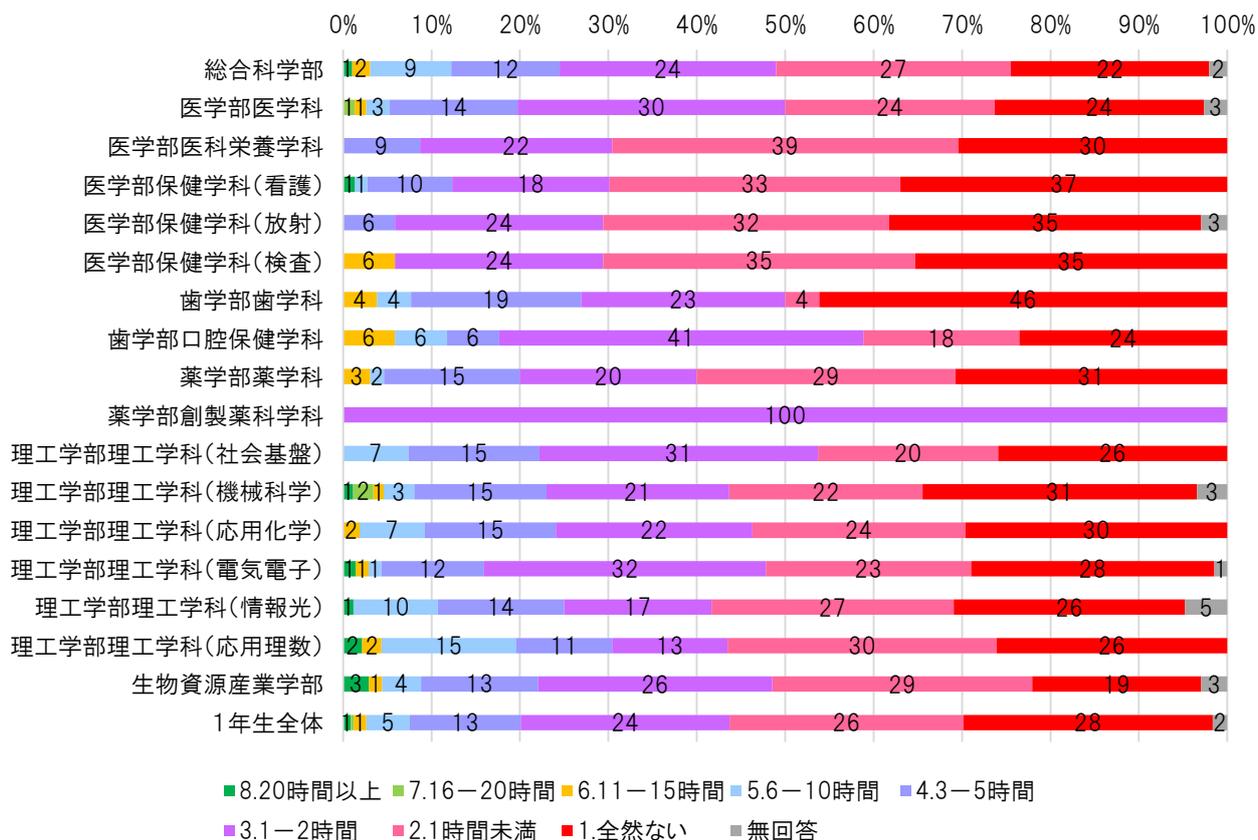
[34] 授業や実験に出る



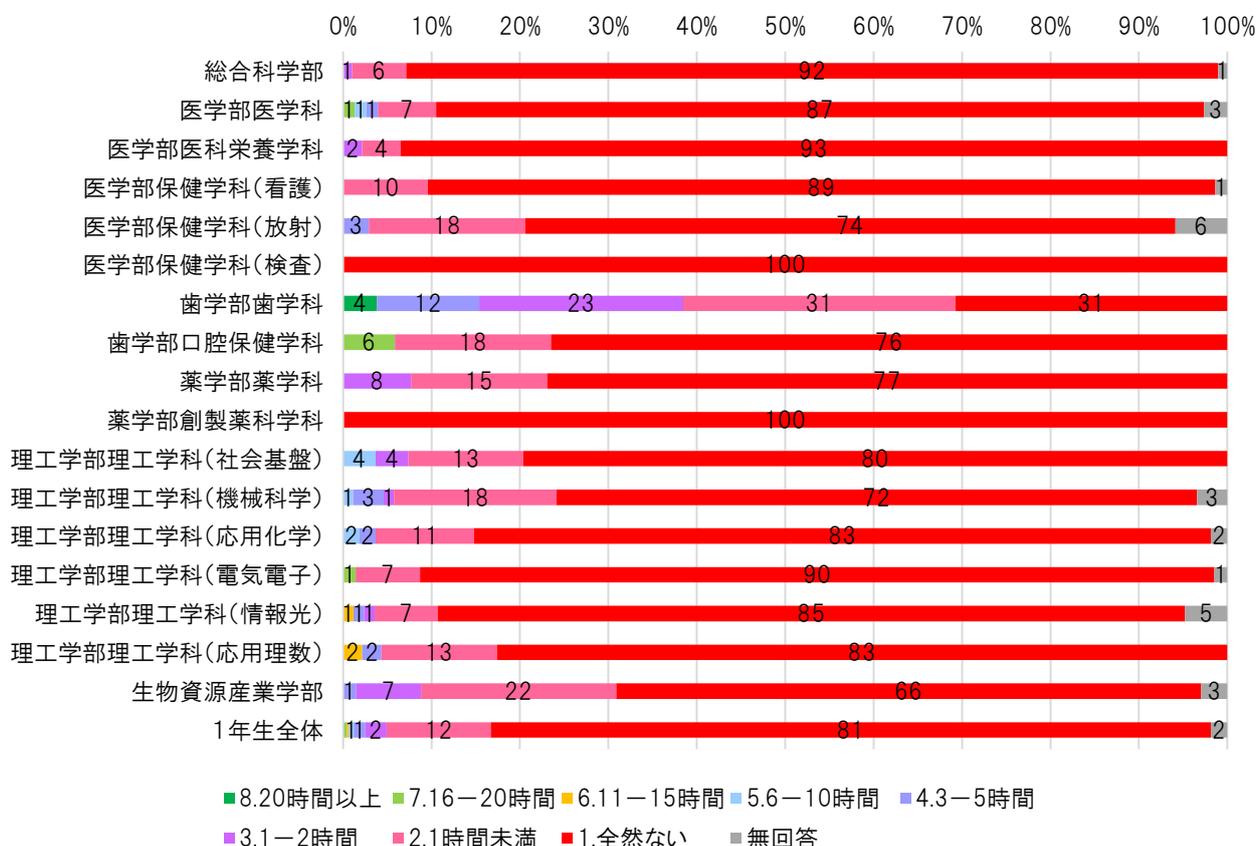
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



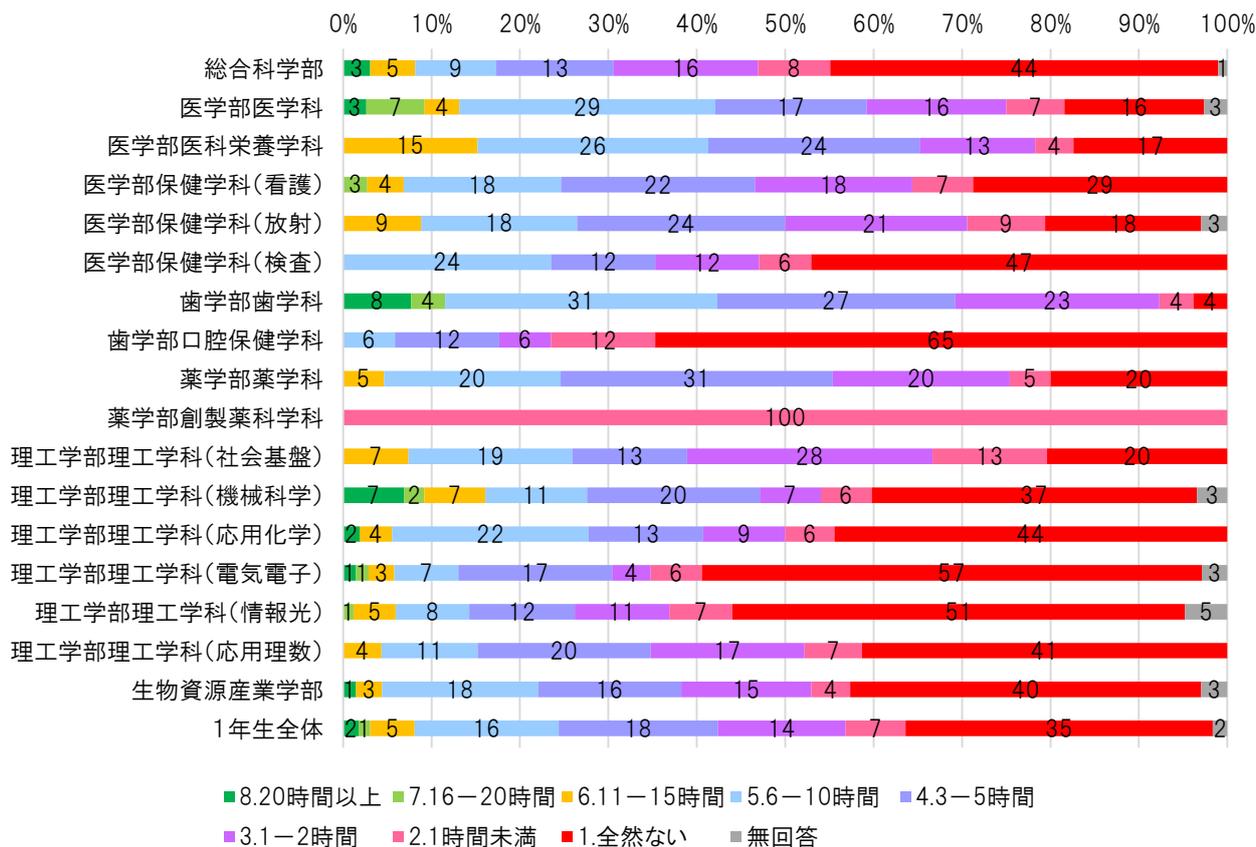
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



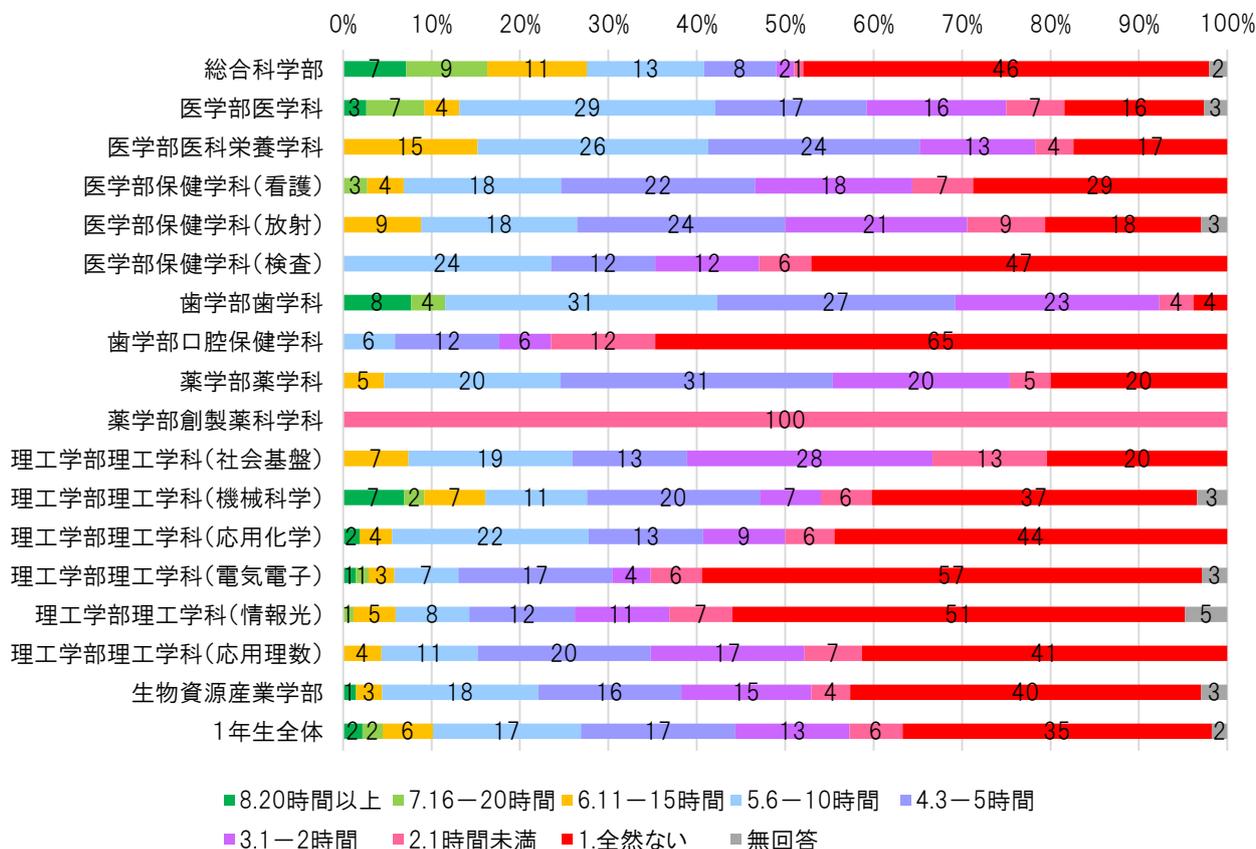
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



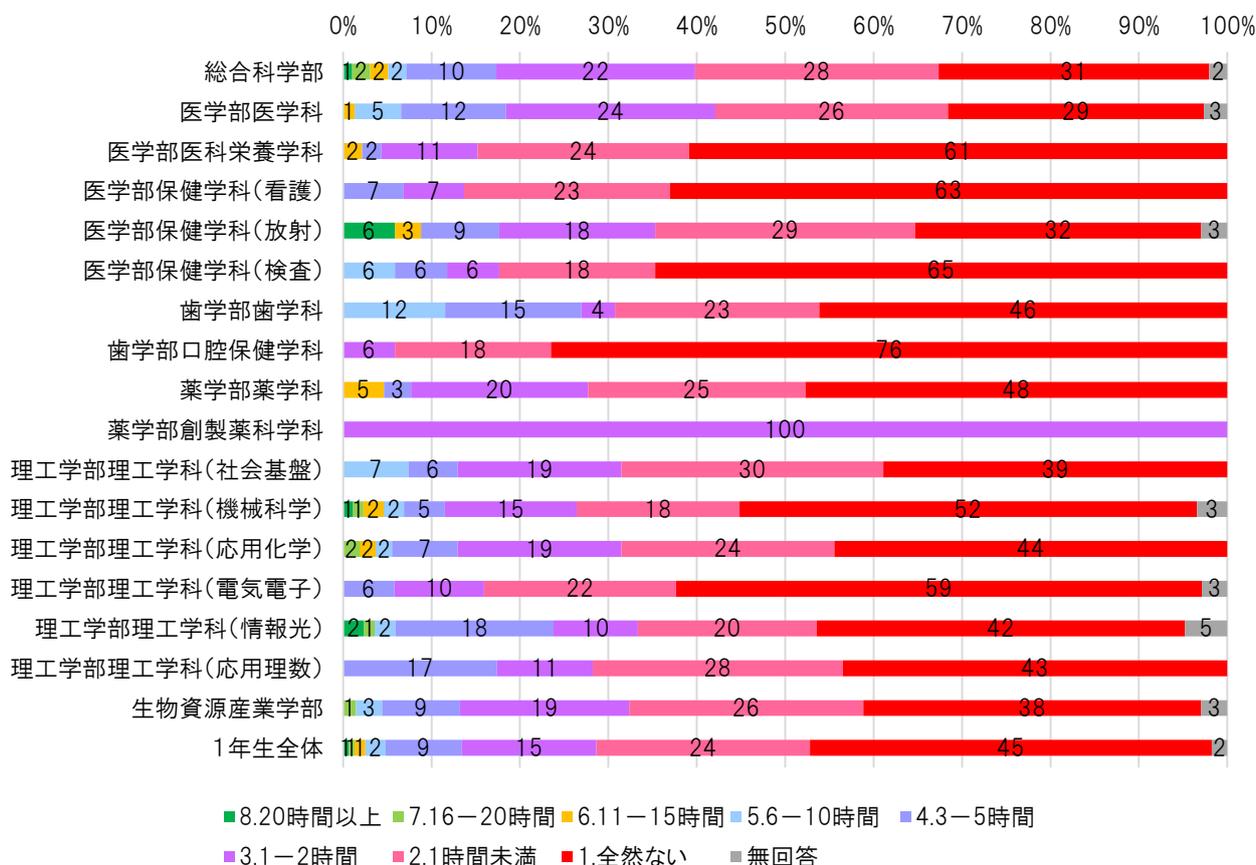
[38]部活動や同好会に参加する



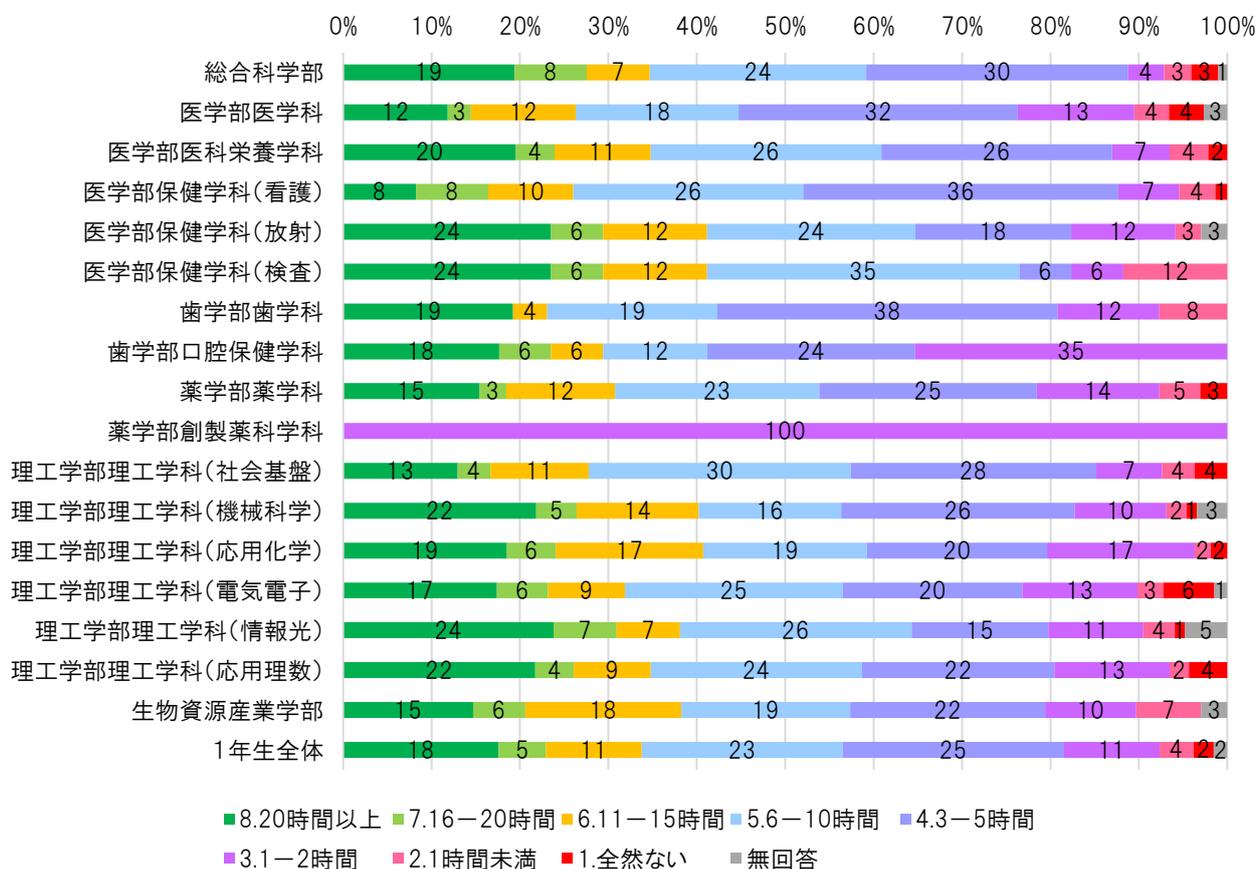
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

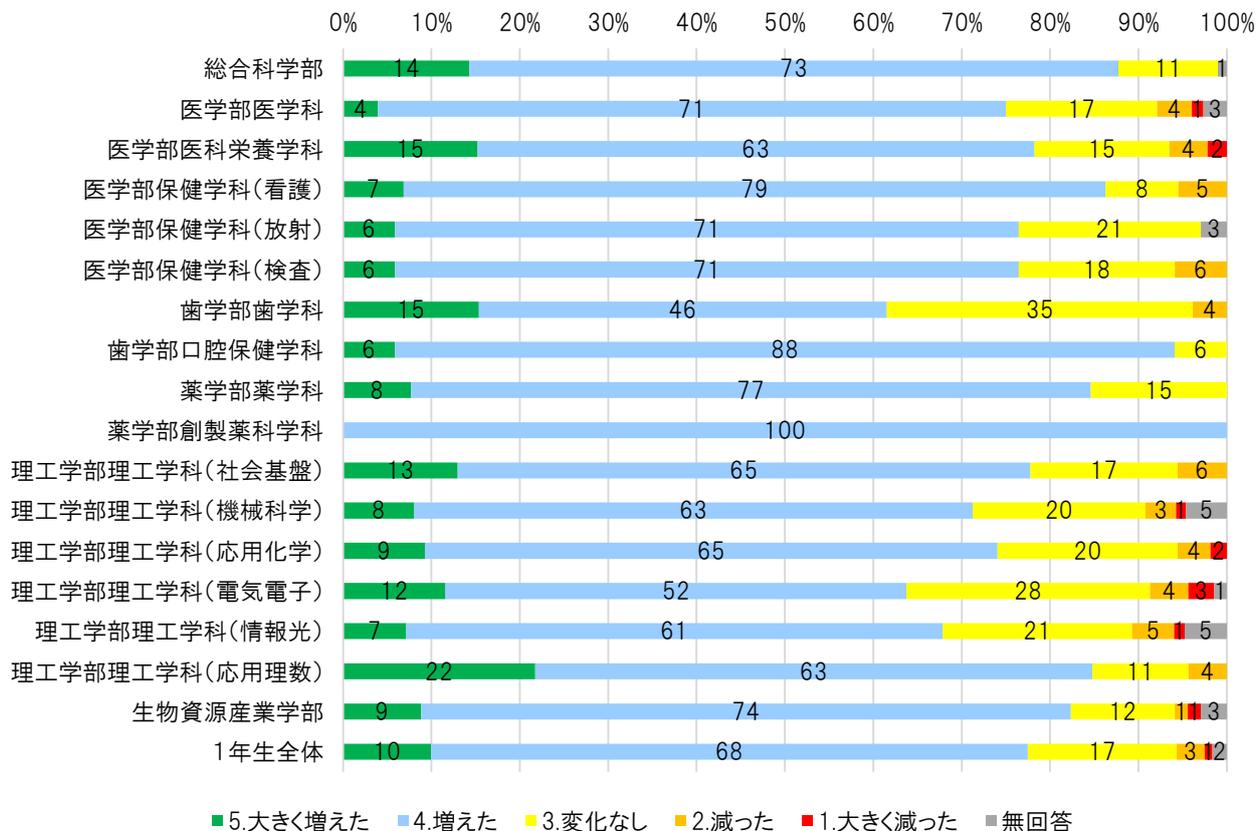


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

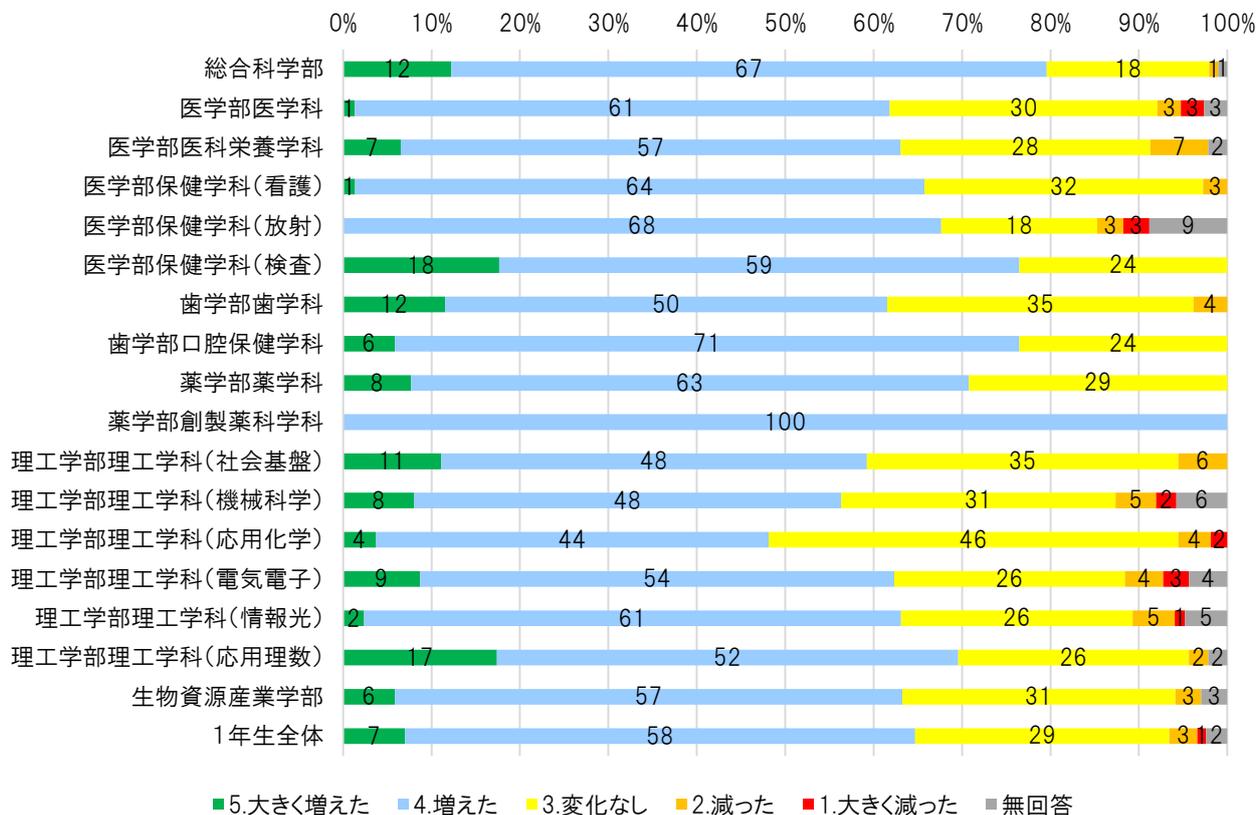


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

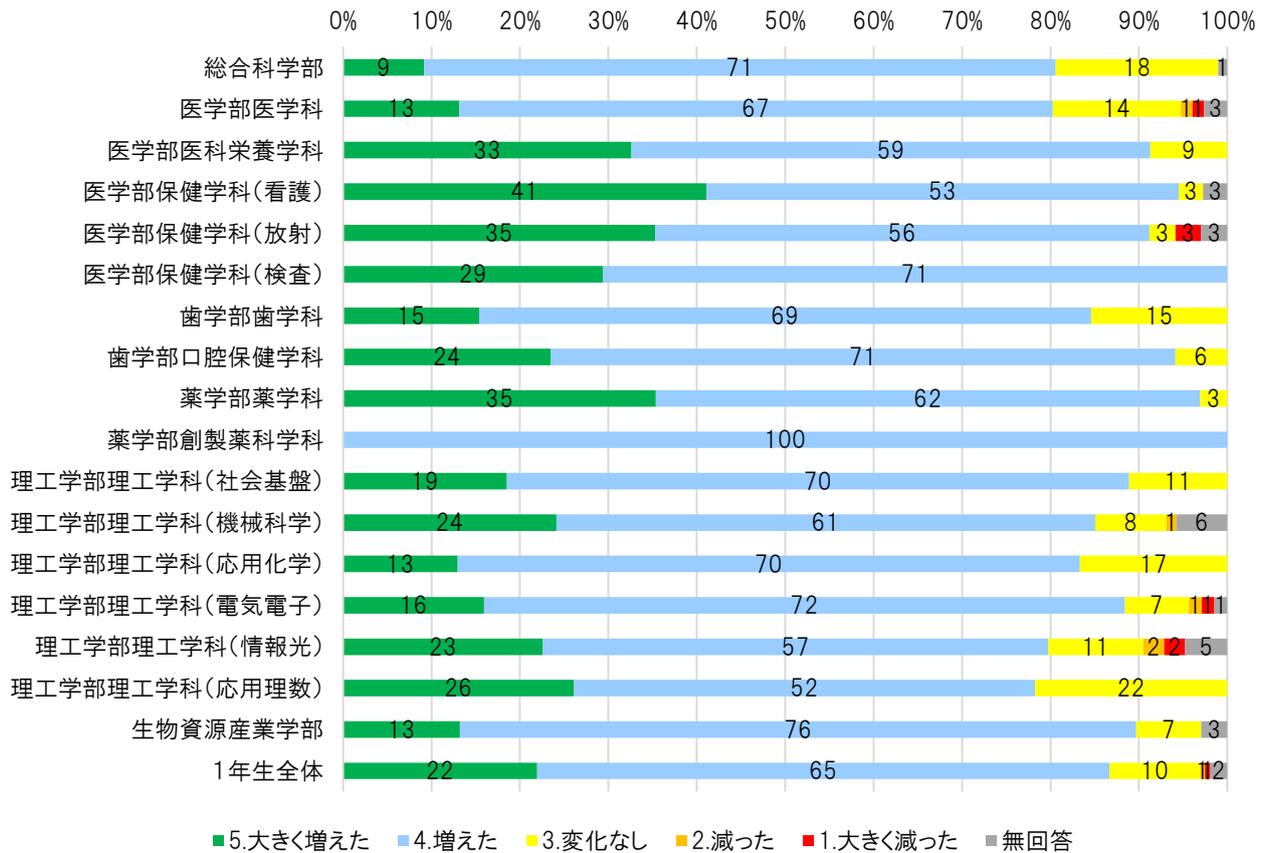
[42]一般的な教養



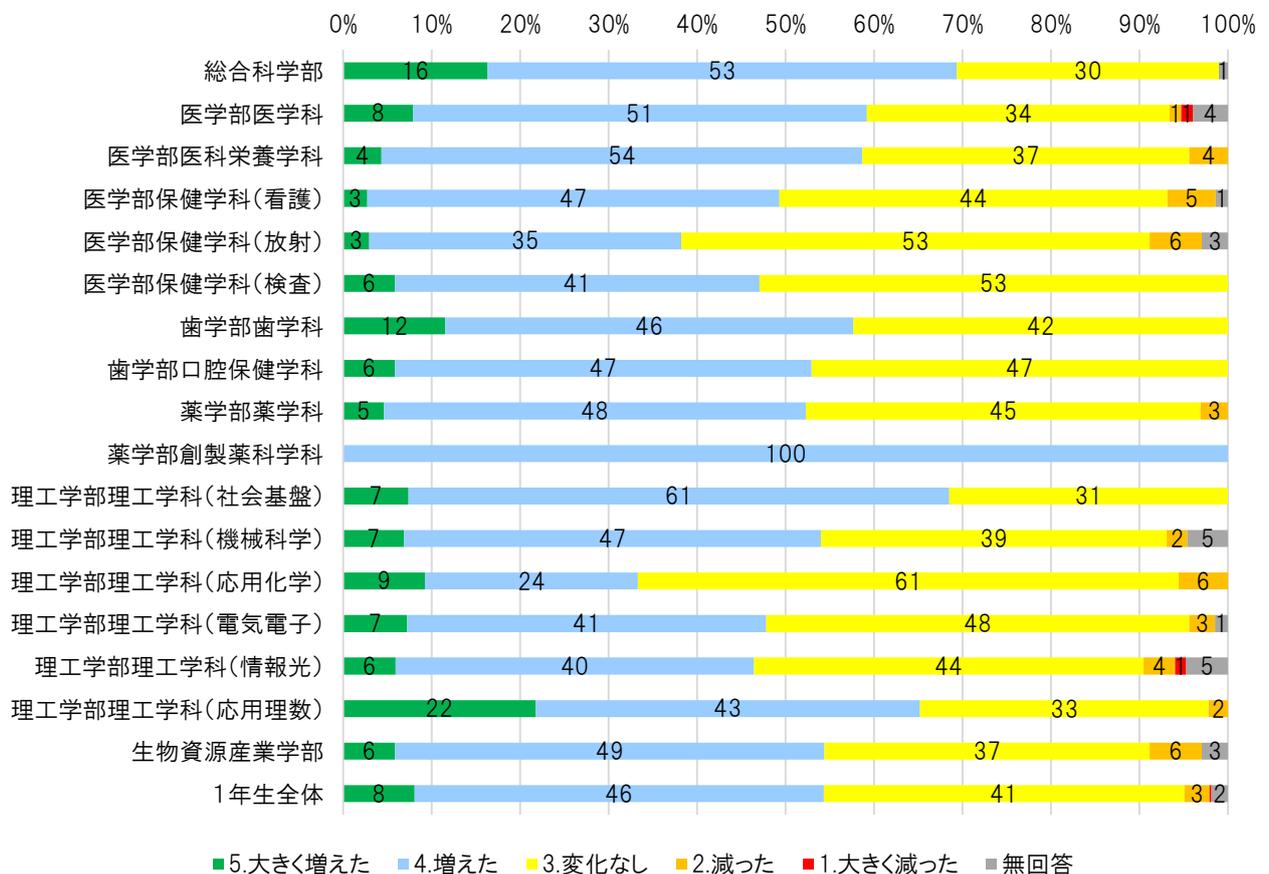
[43]分析力や問題解決能力



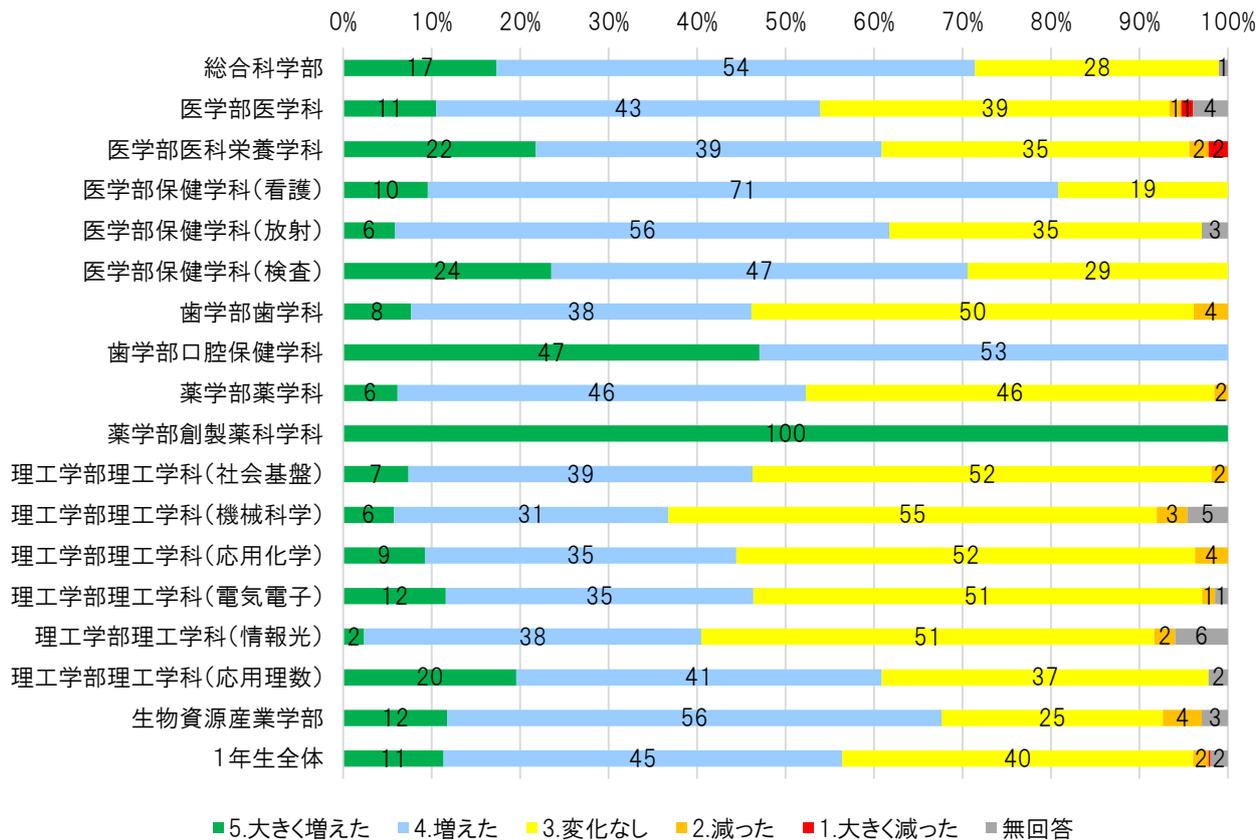
[44] 専門分野や学科の知識



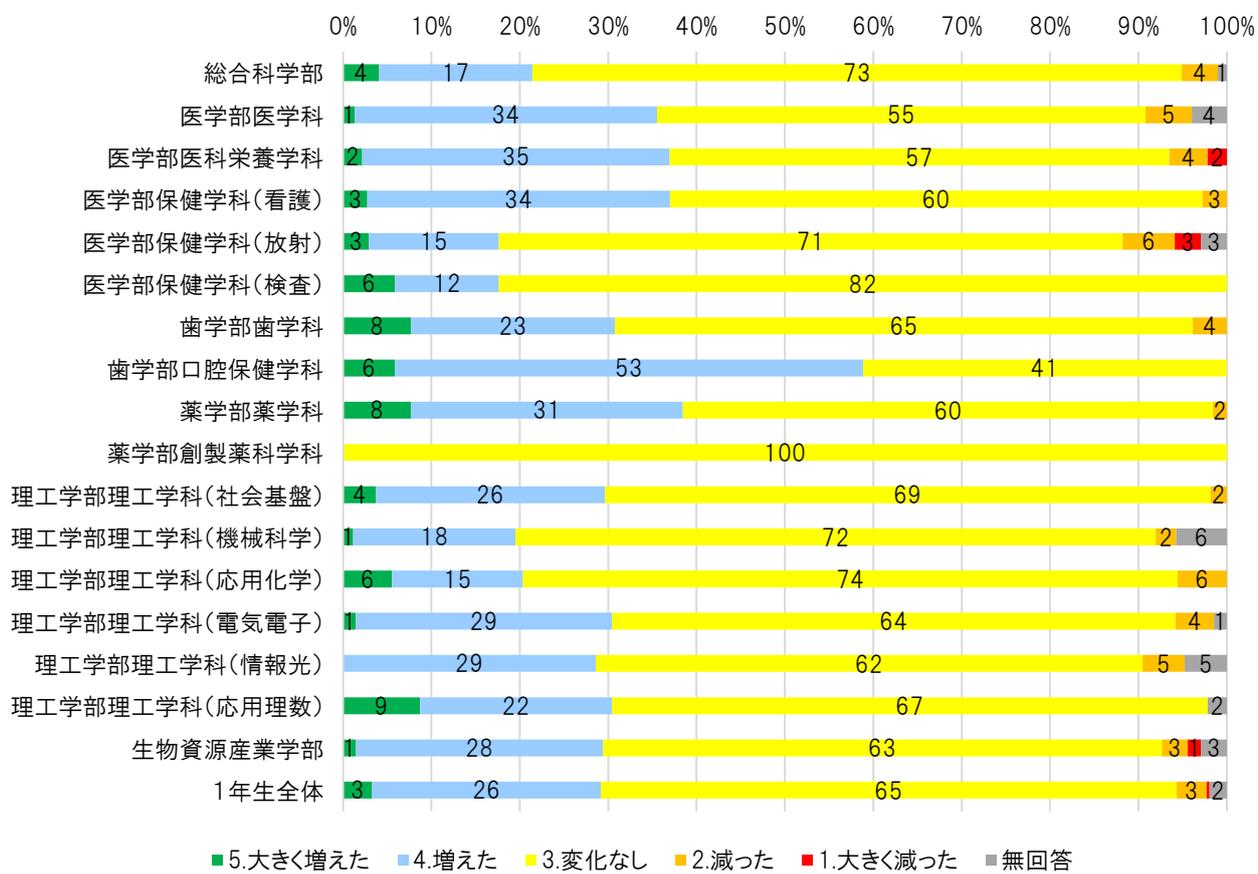
[45] 批判的に考える能力



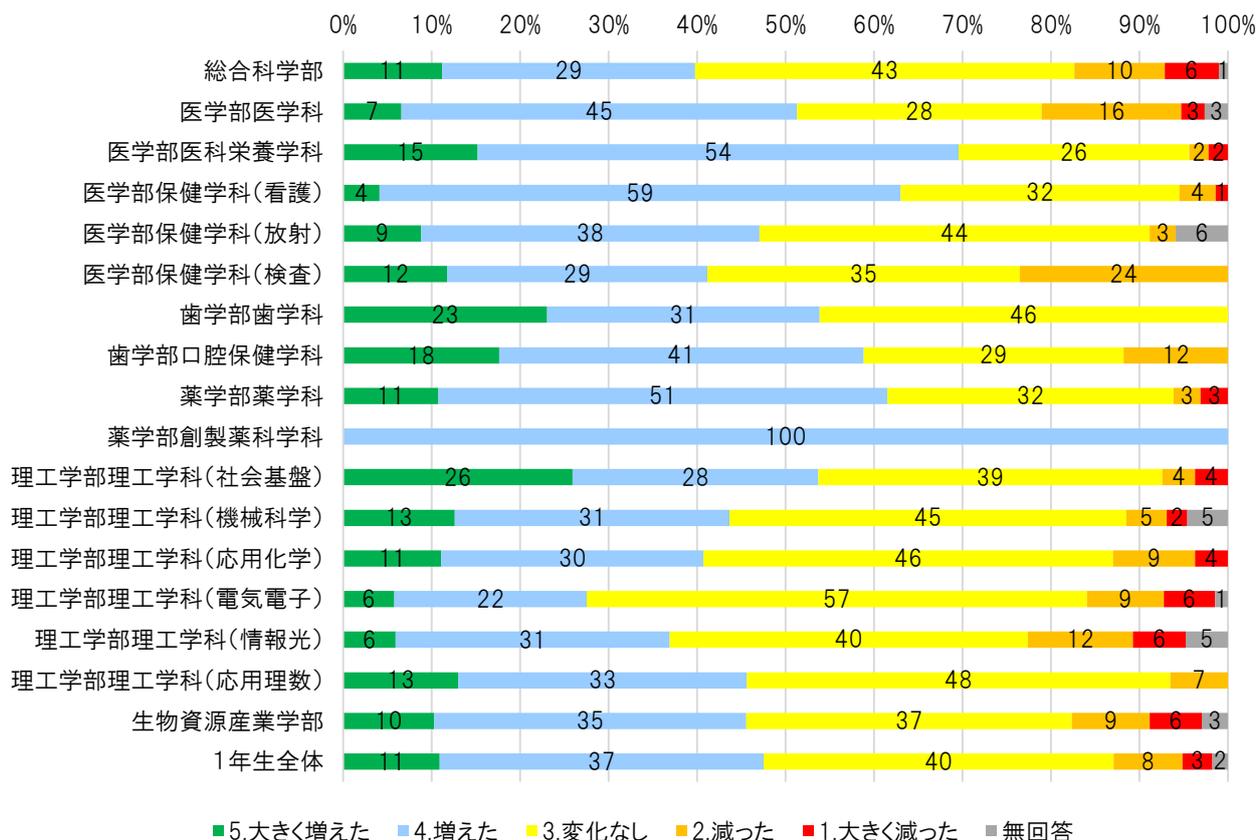
[46]異文化の人々に関する知識



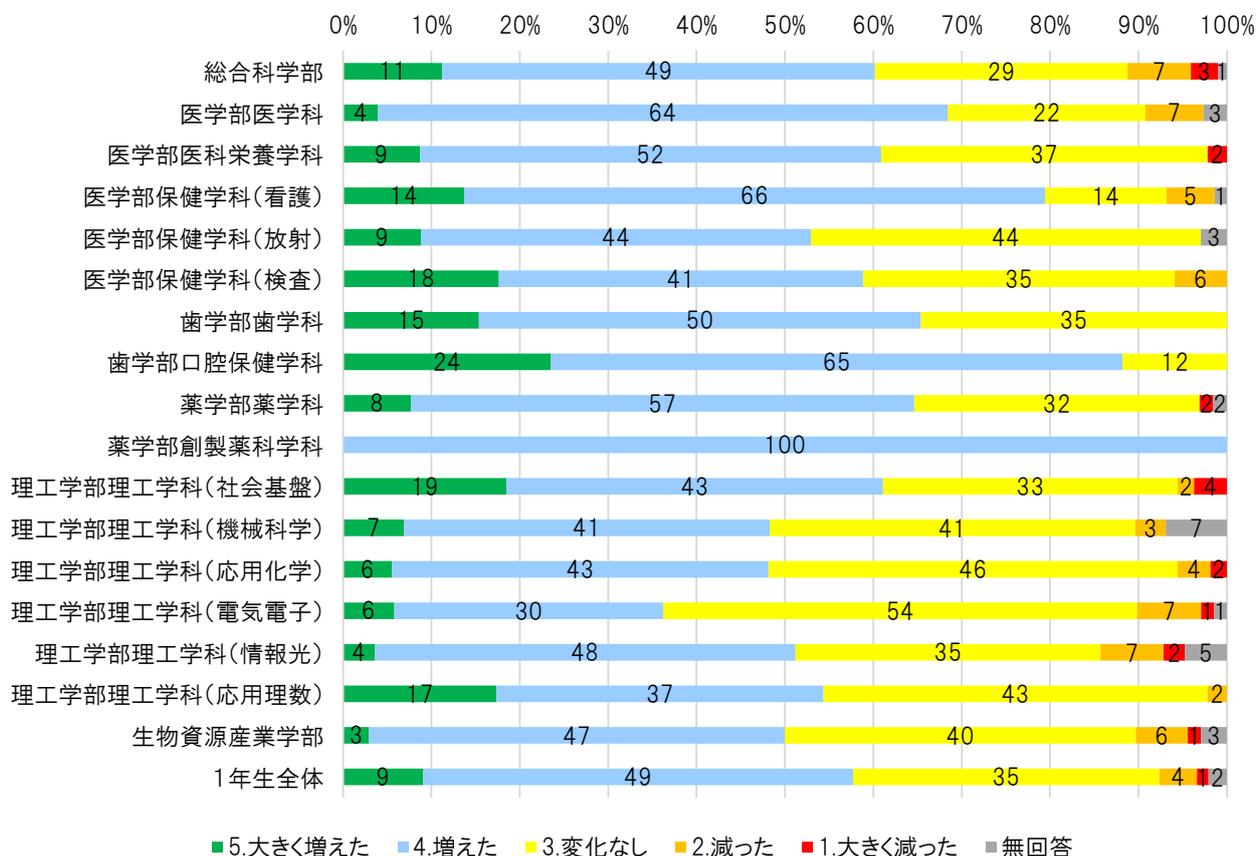
[47]リーダーシップの能力



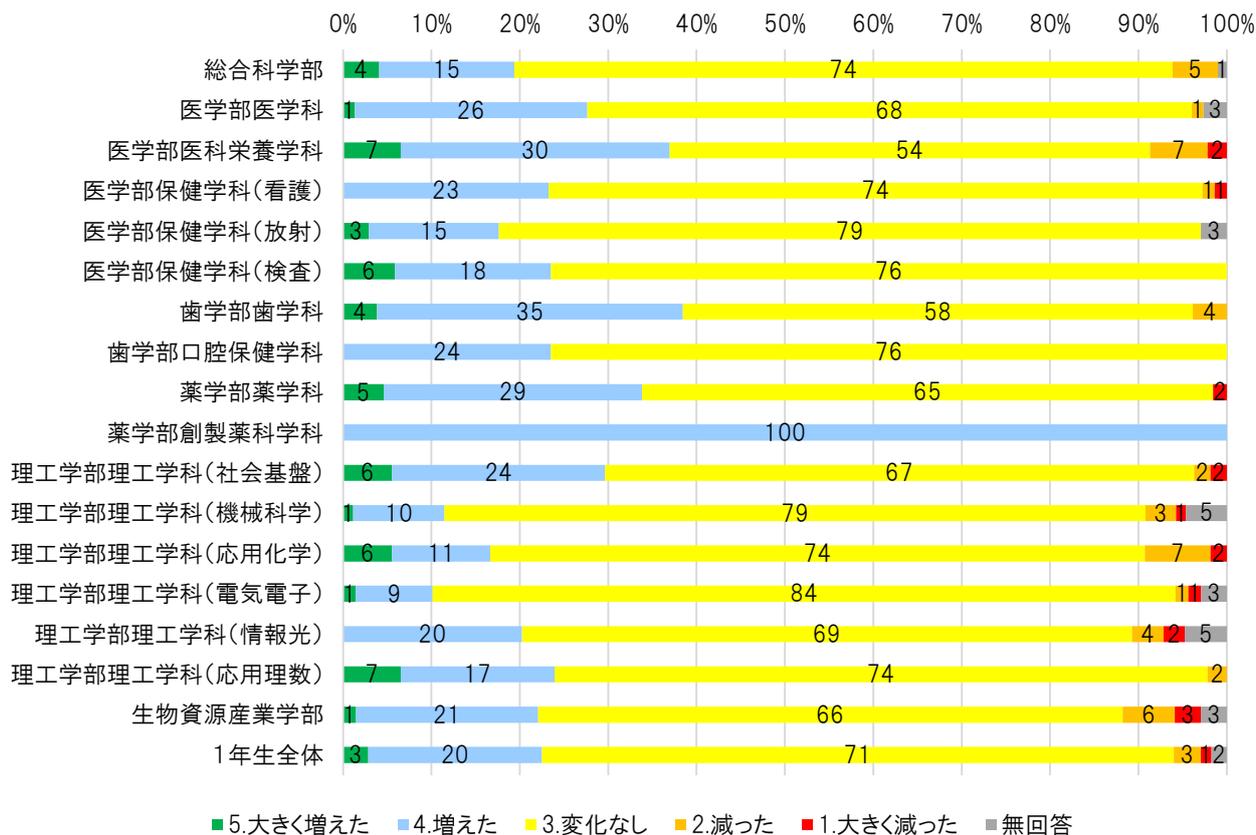
[48]人間関係を構築する能力



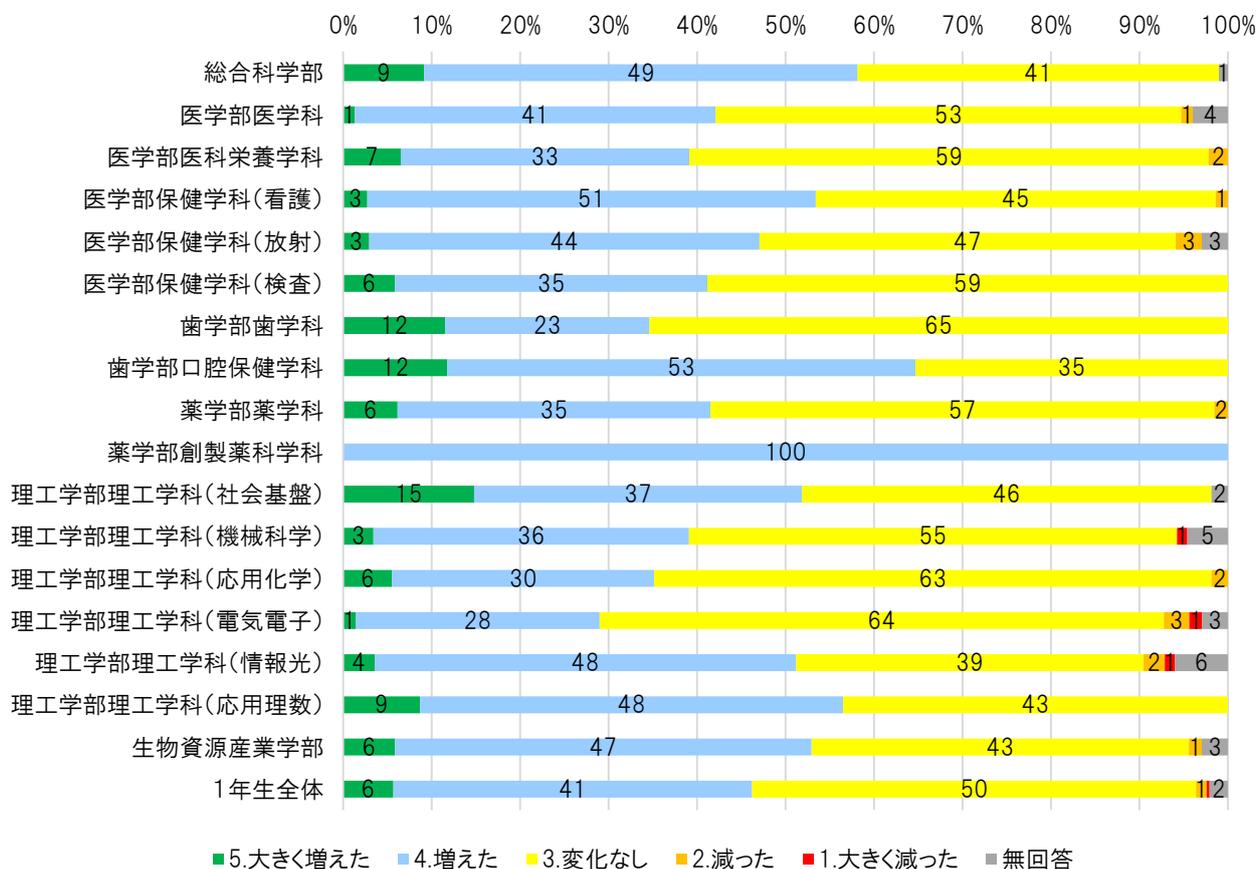
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



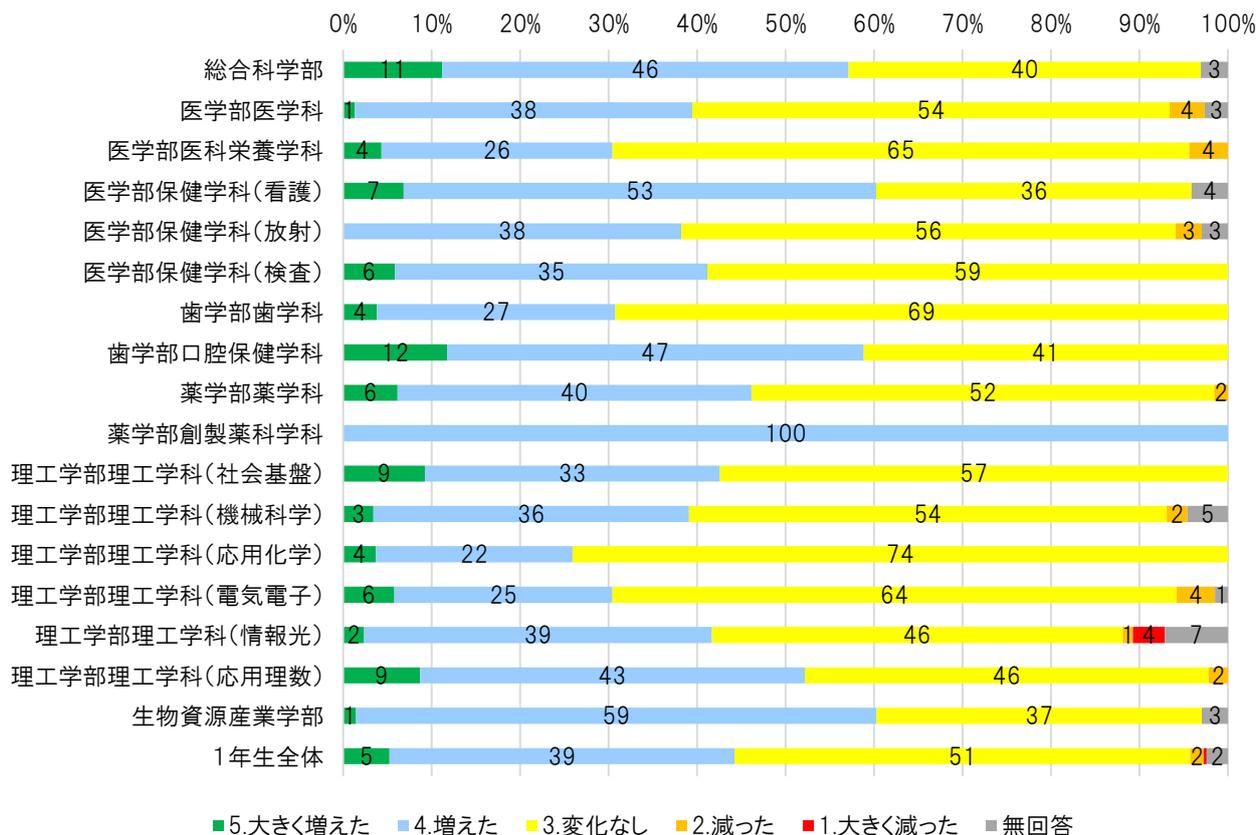
[50]異文化の人々と協力する能力



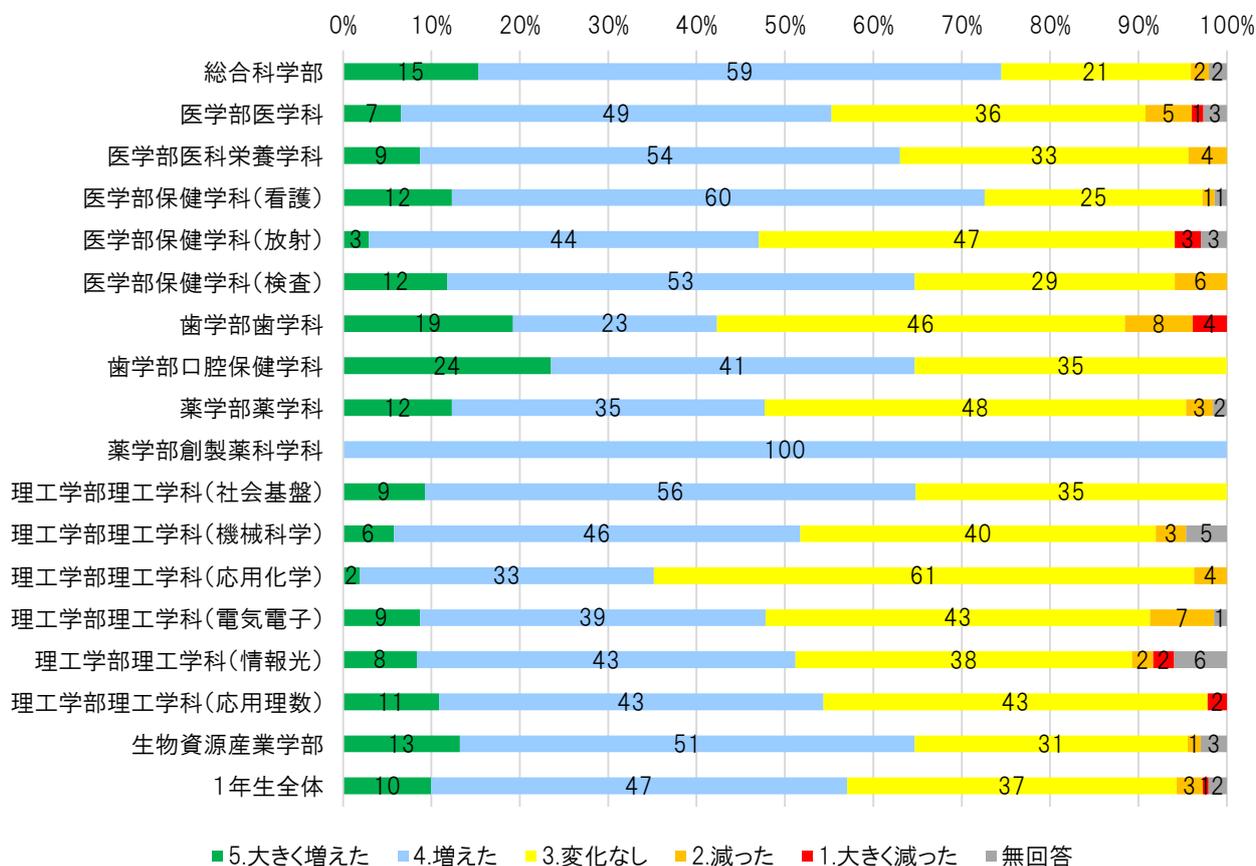
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



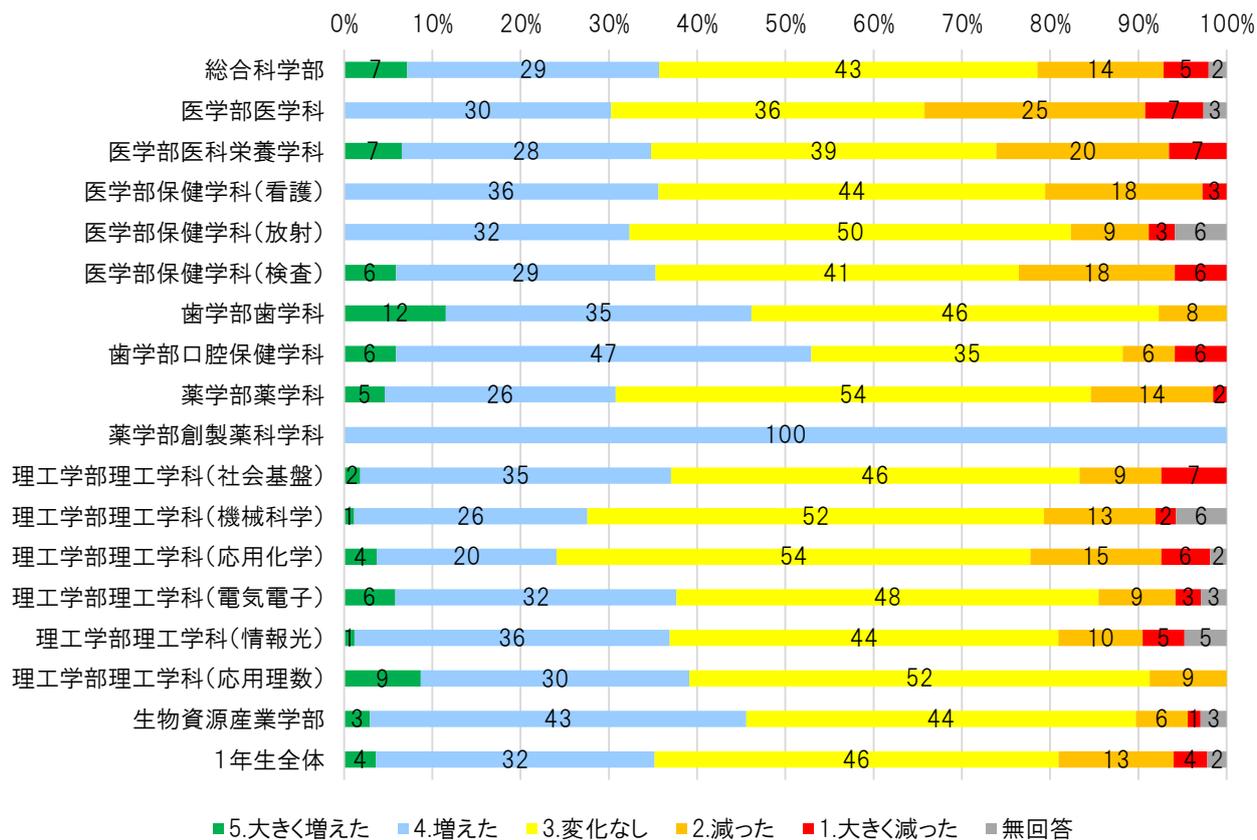
[52] 国民が直面する問題を理解する能力



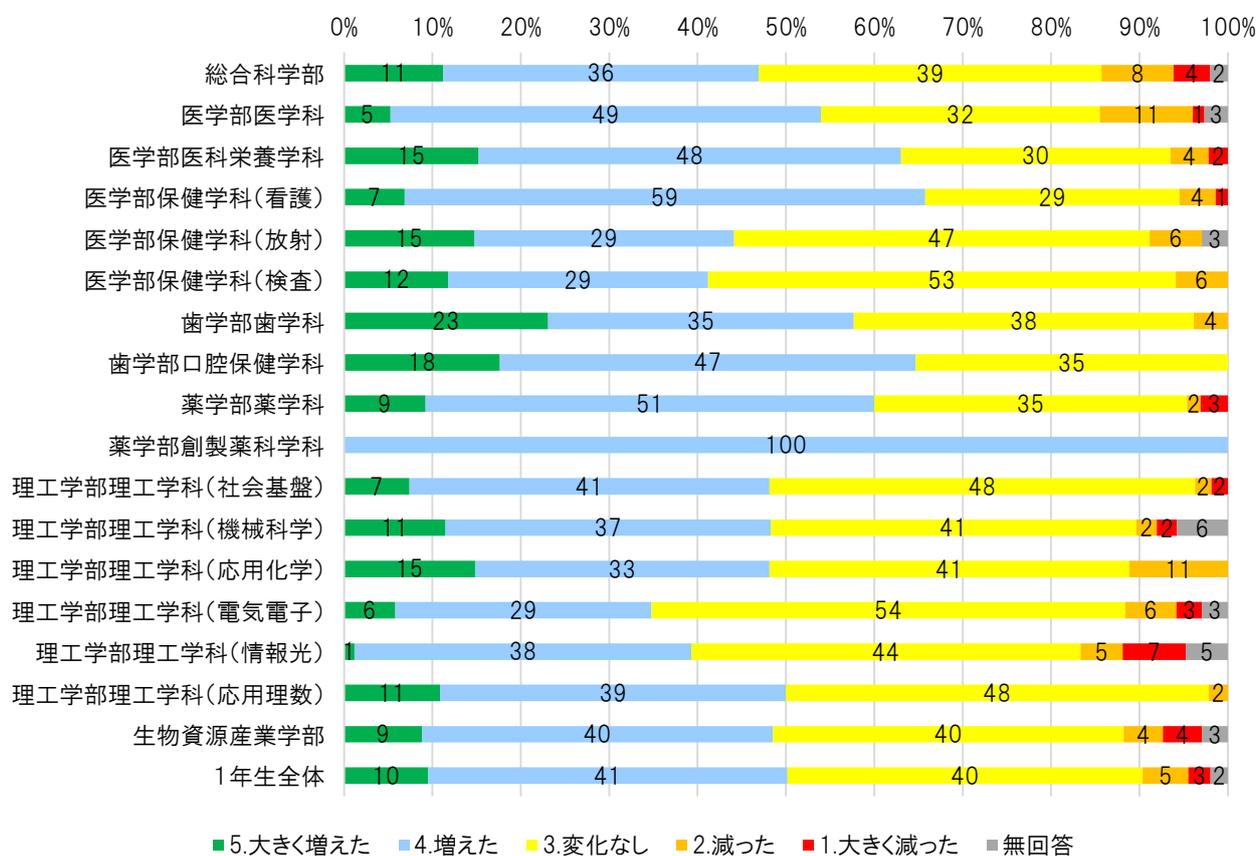
[53] 文章表現の能力



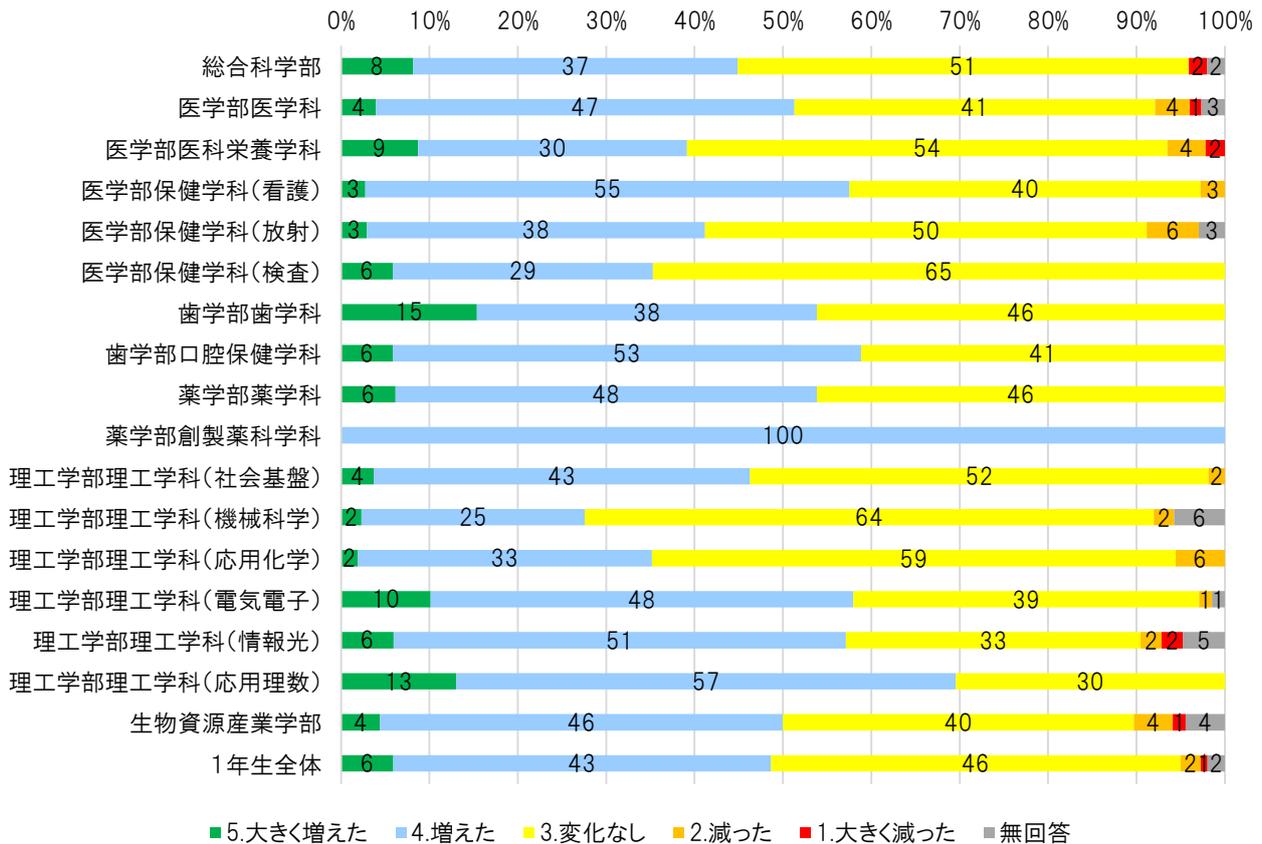
[54]外国語の運用能力



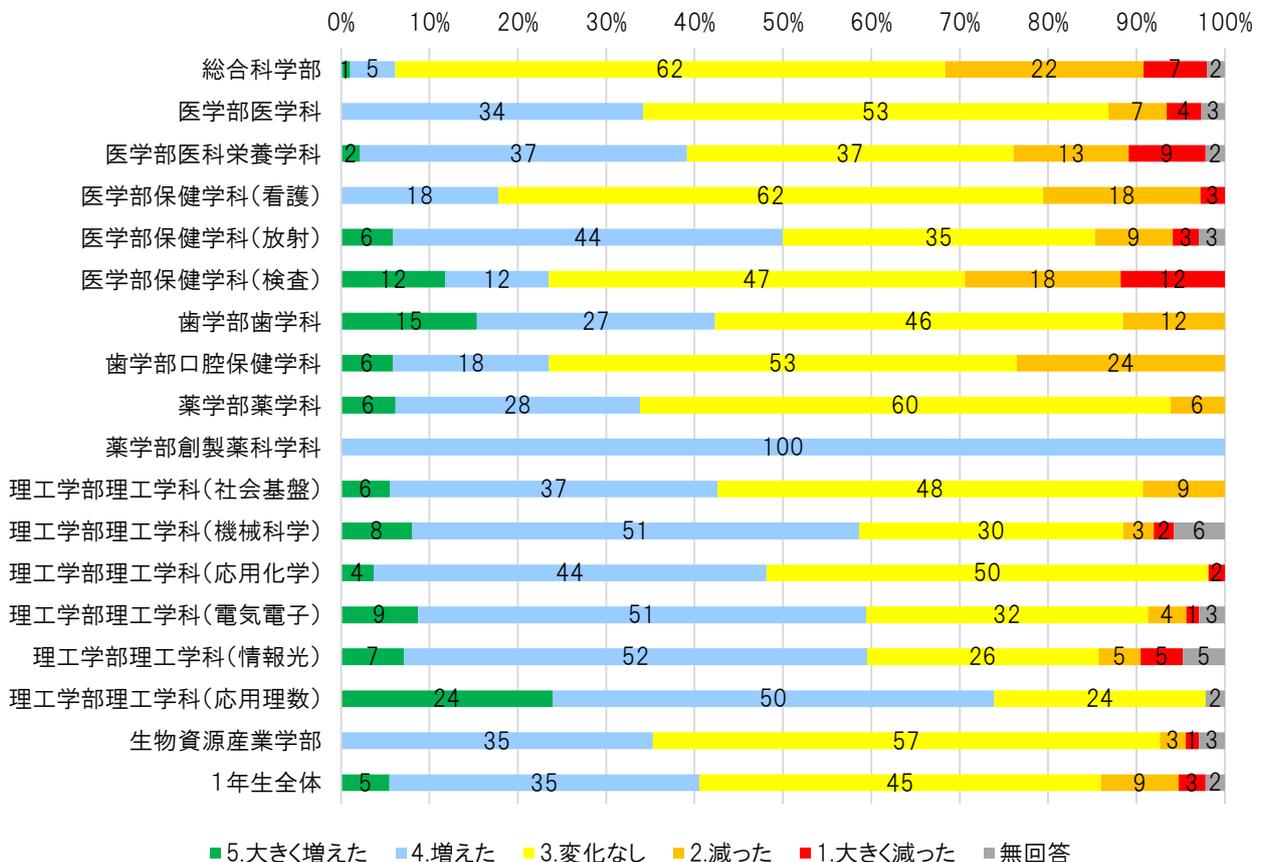
[55]コミュニケーションの能力



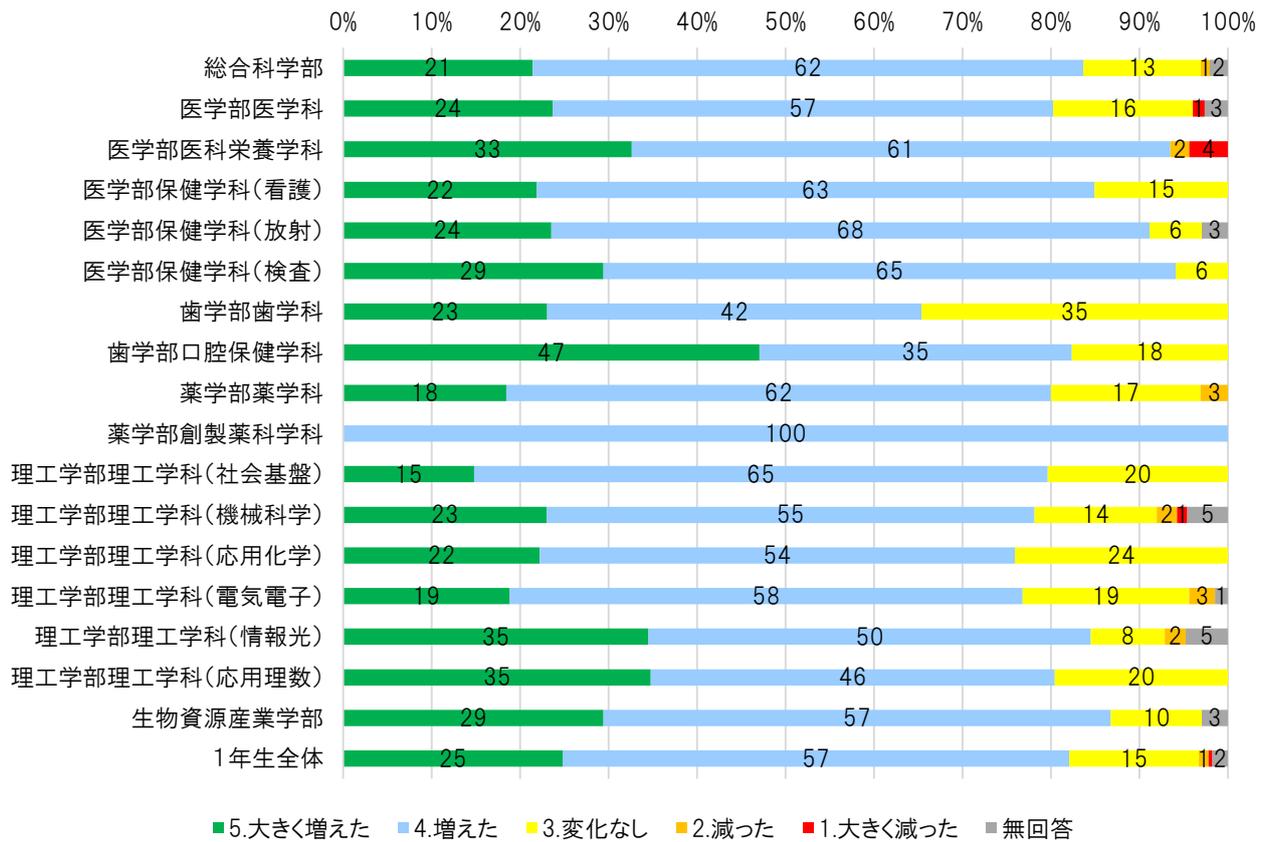
[56]プレゼンテーションの能力



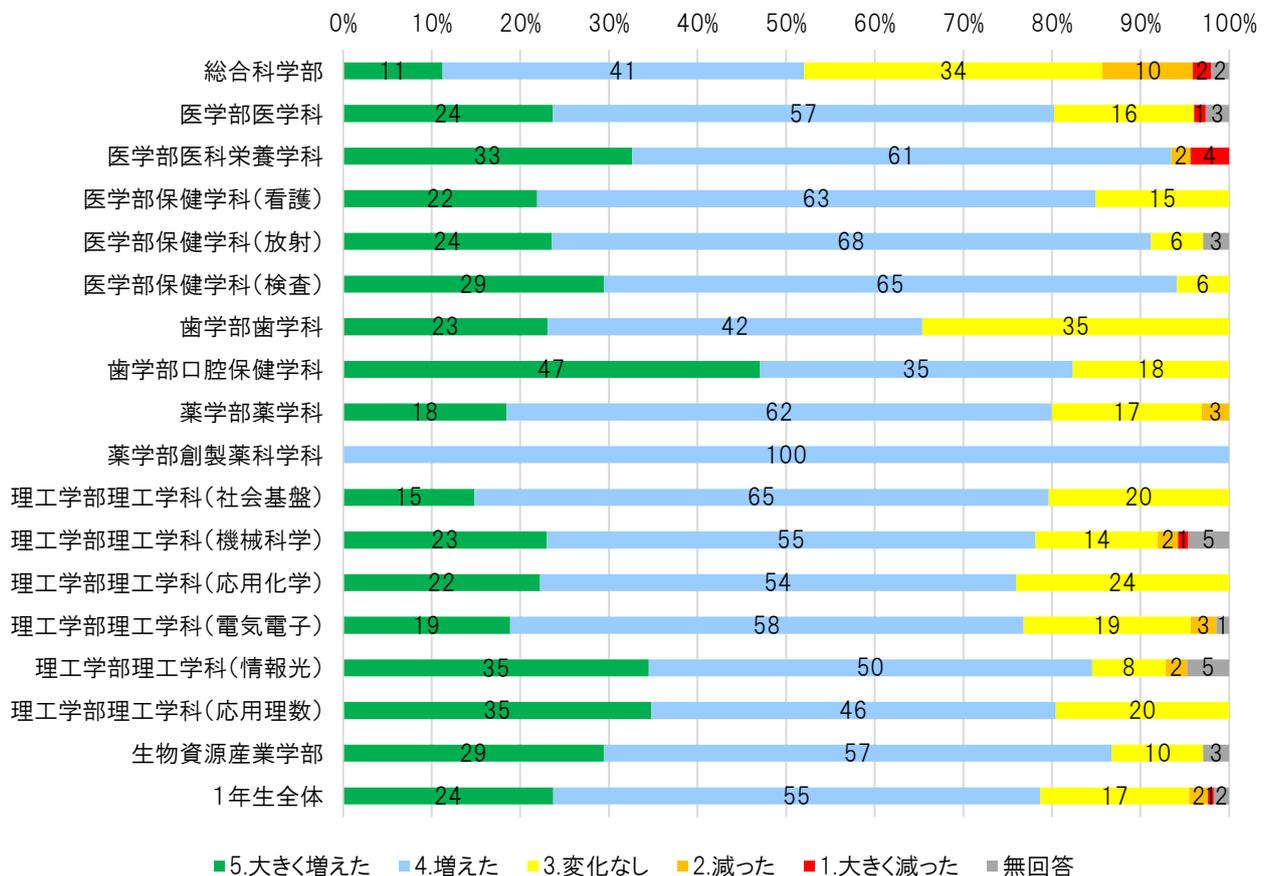
[57]数理的な能力



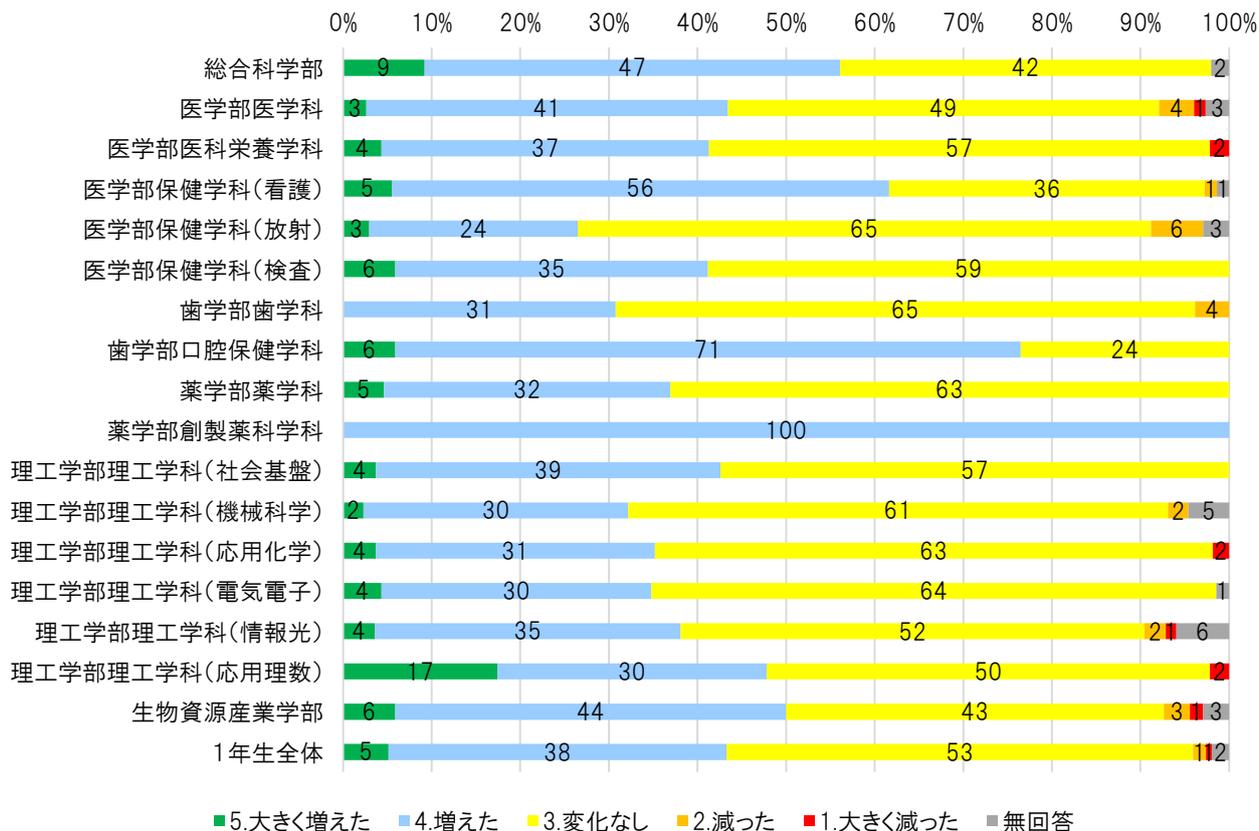
[58] コンピュータの操作能力



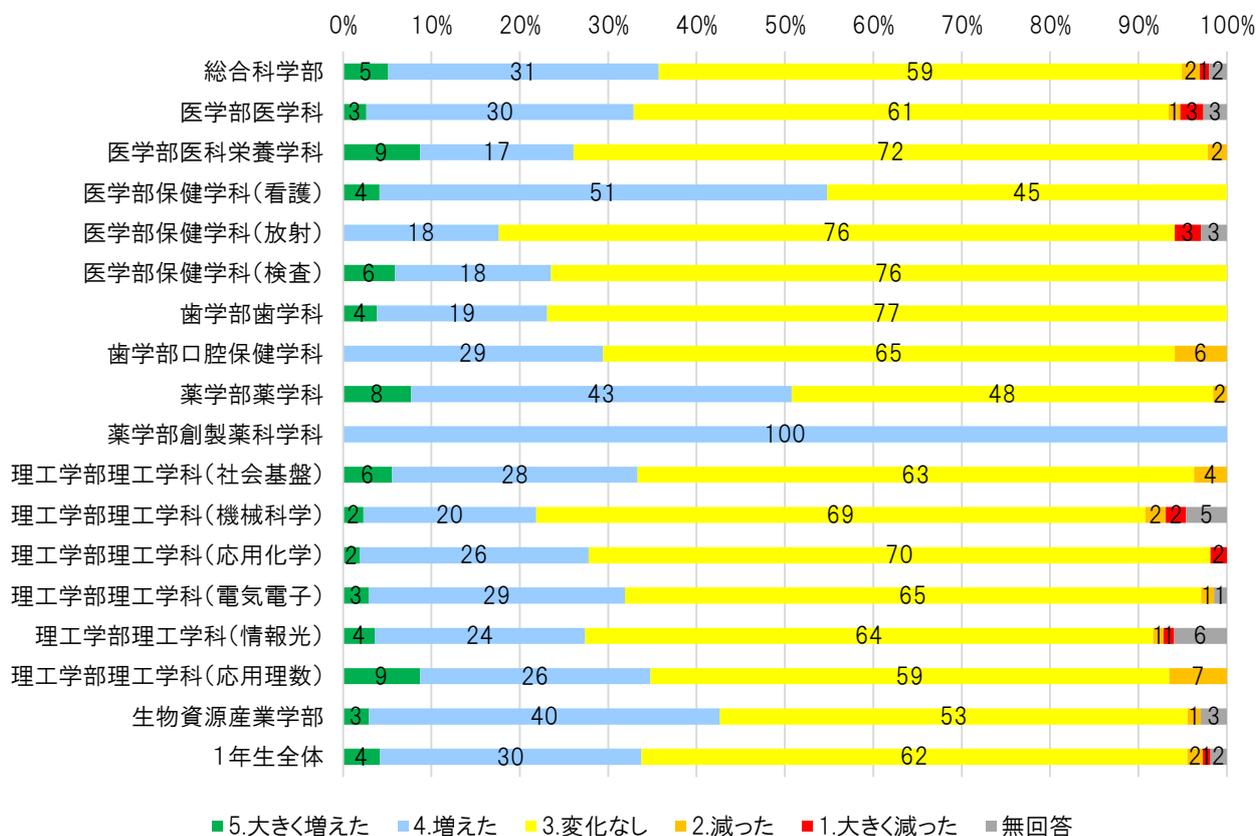
[59] 時間を効果的に利用する能力



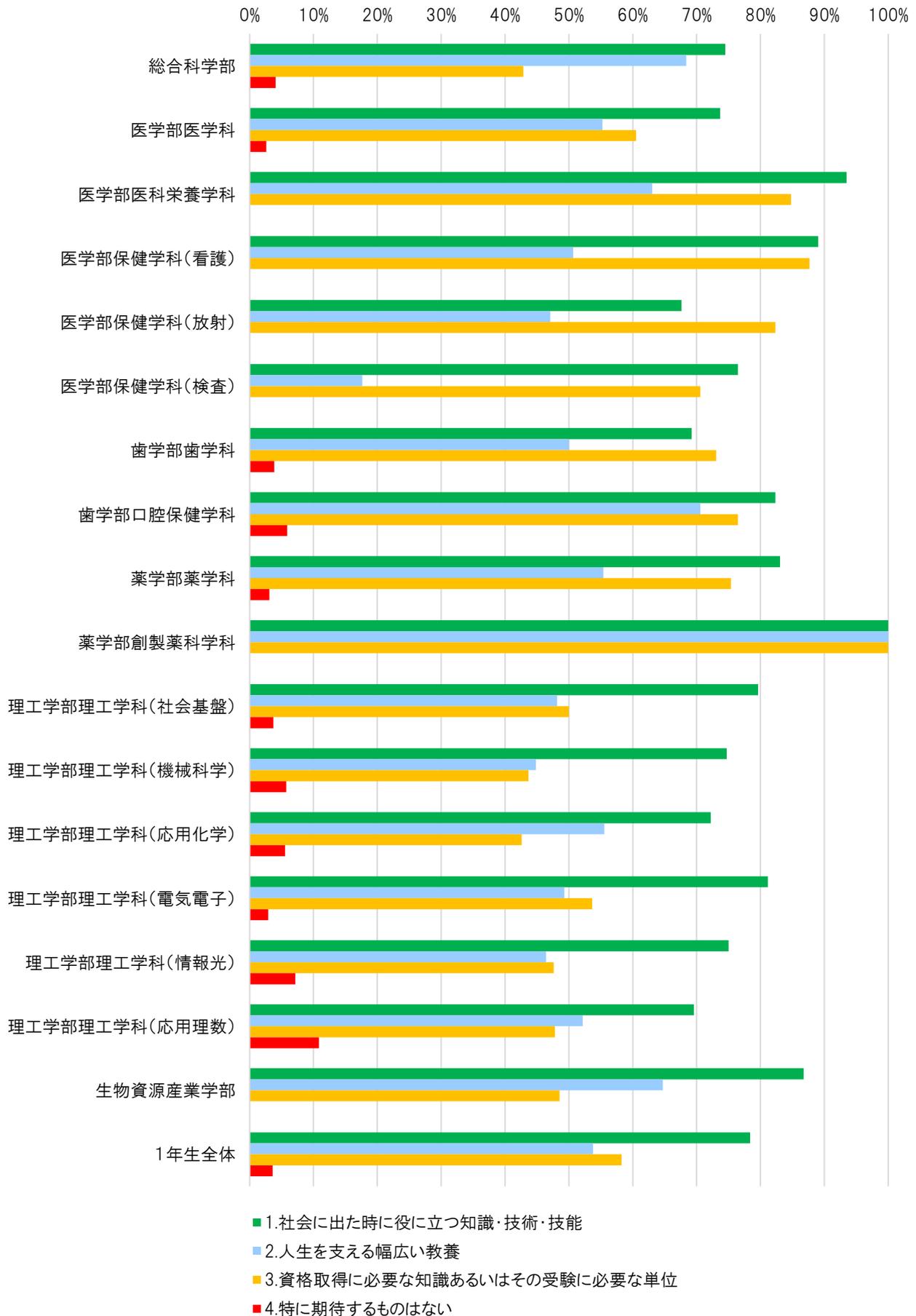
[60] グローバルな問題の理解



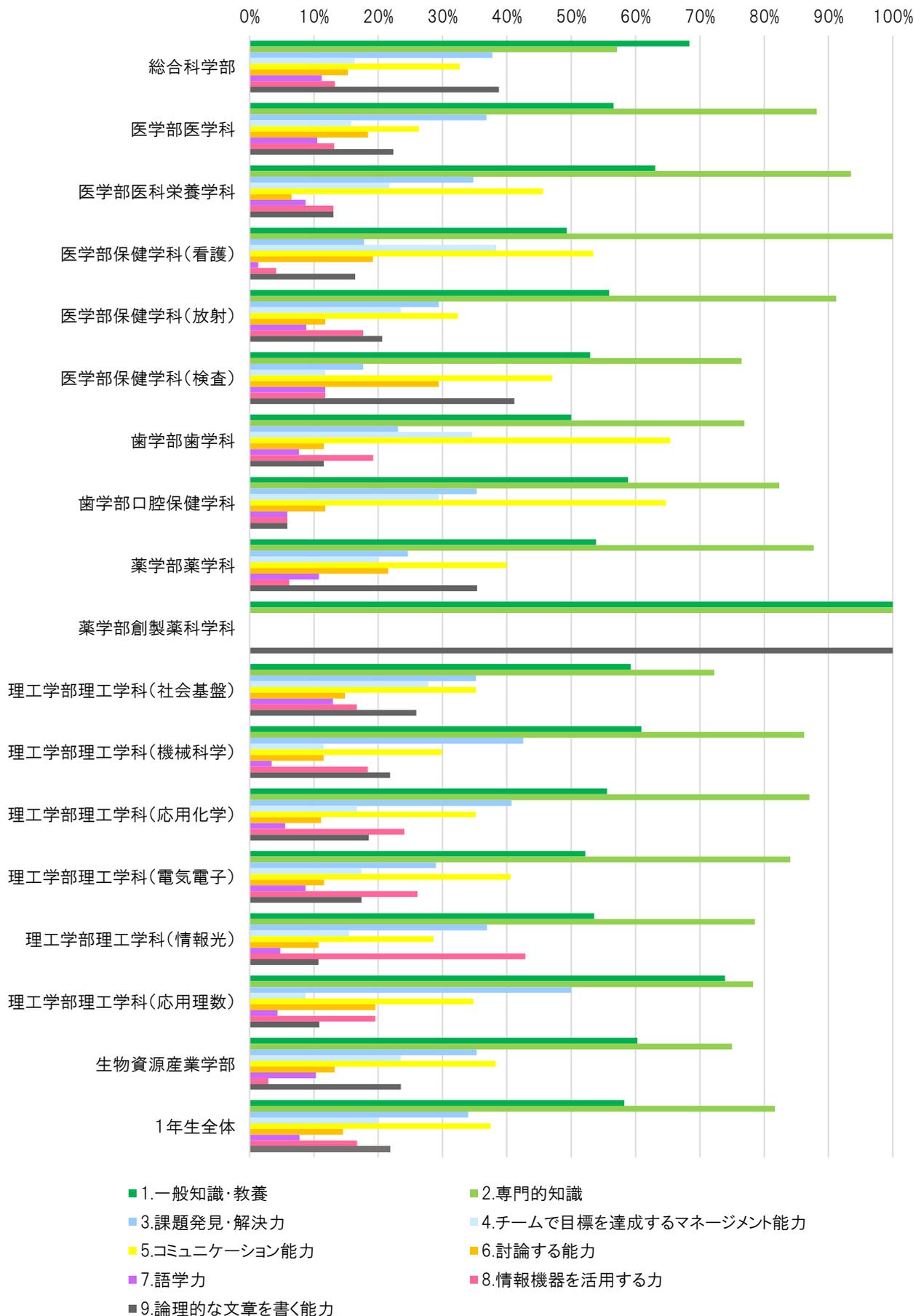
[61] 卒業後に就職するための準備の度合い



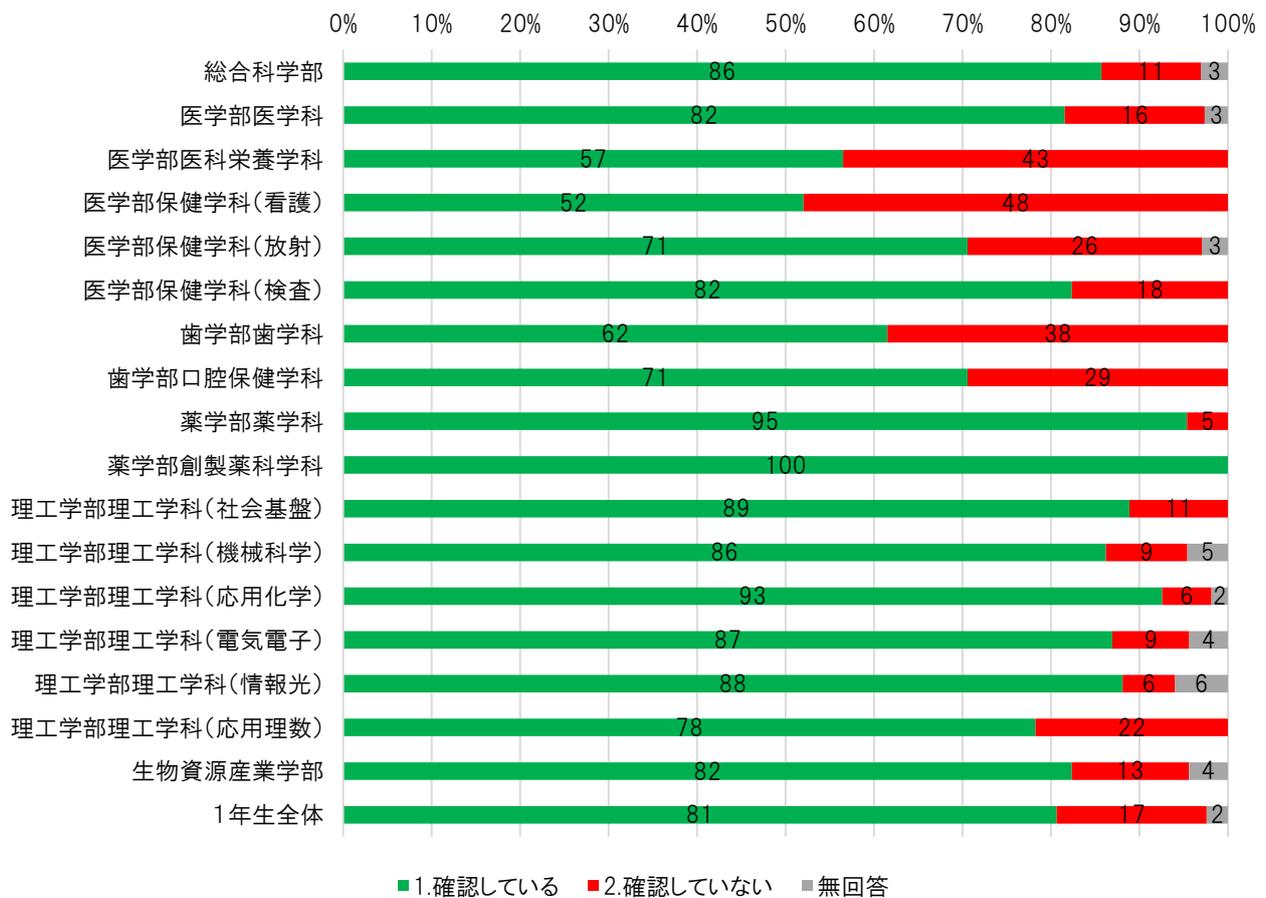
[62]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答)



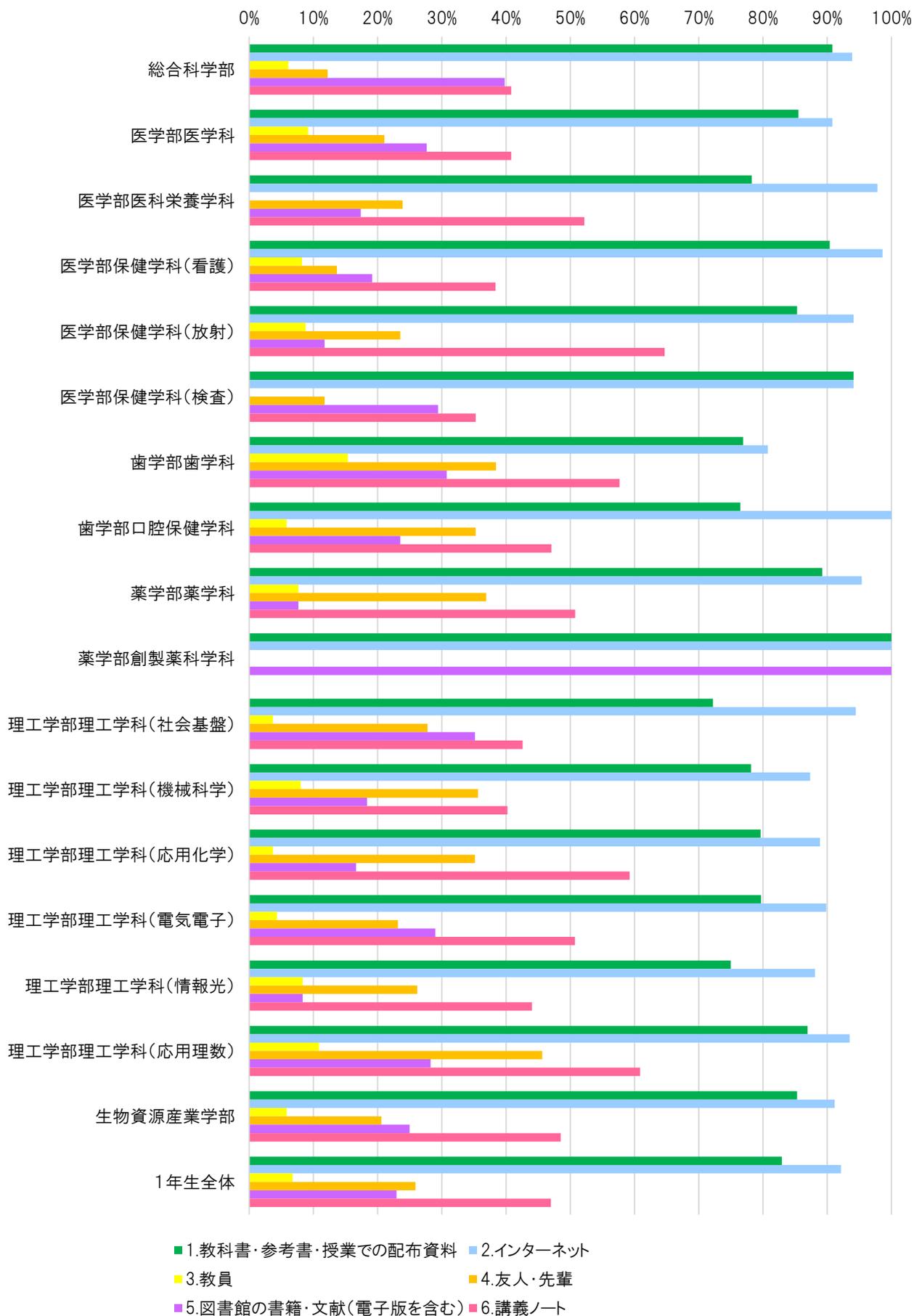
[63]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。(複数回答)



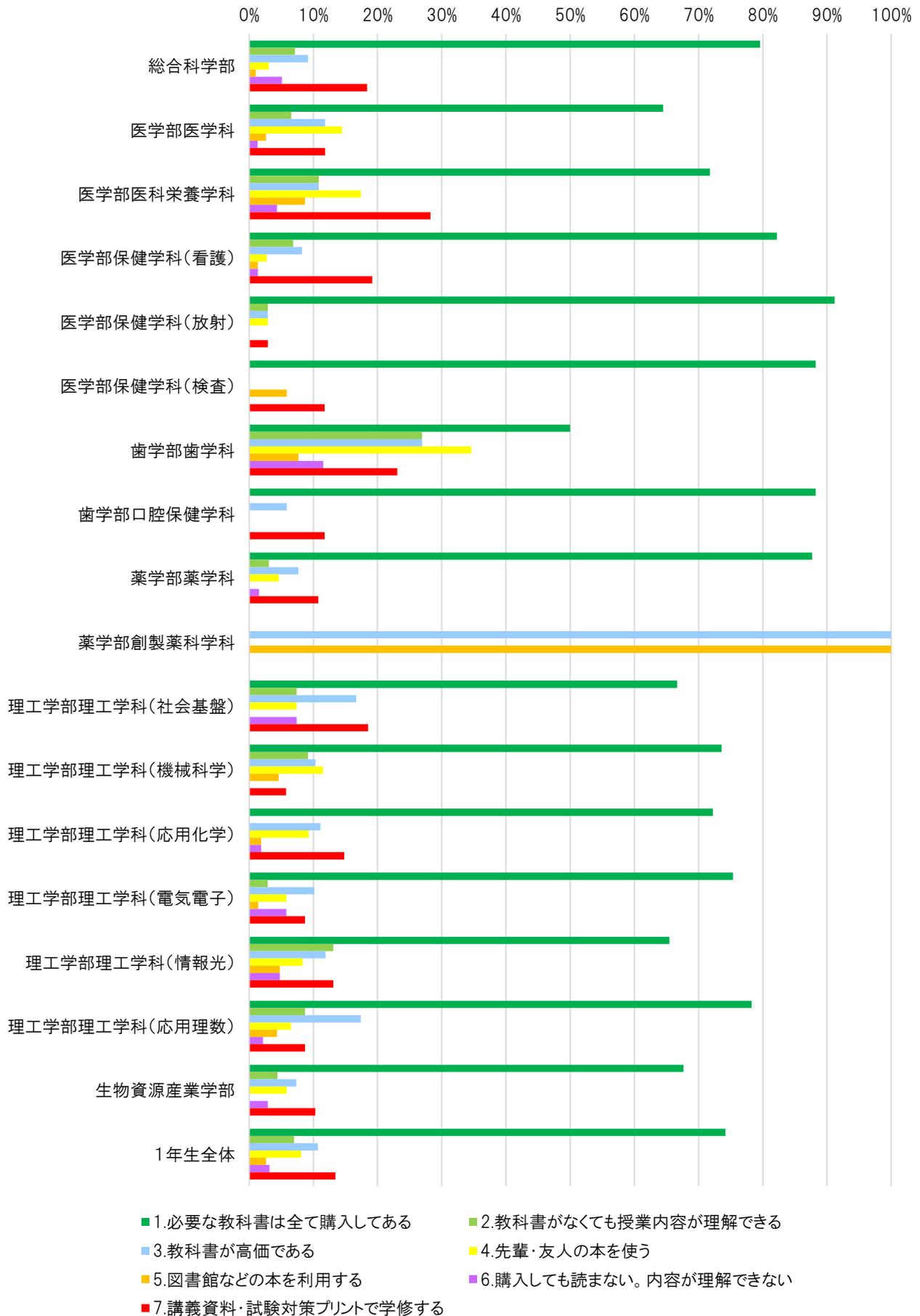
[64]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。



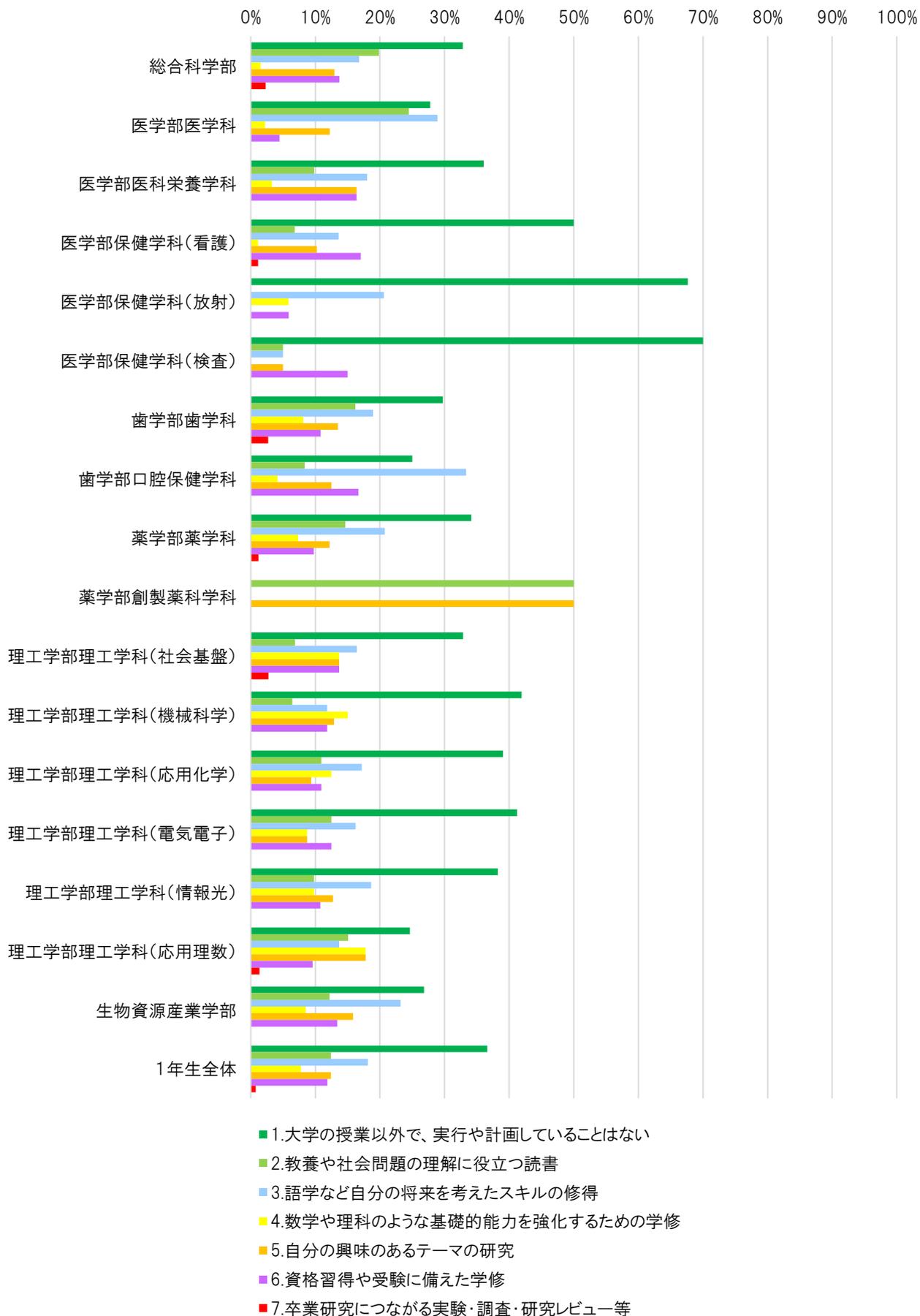
[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



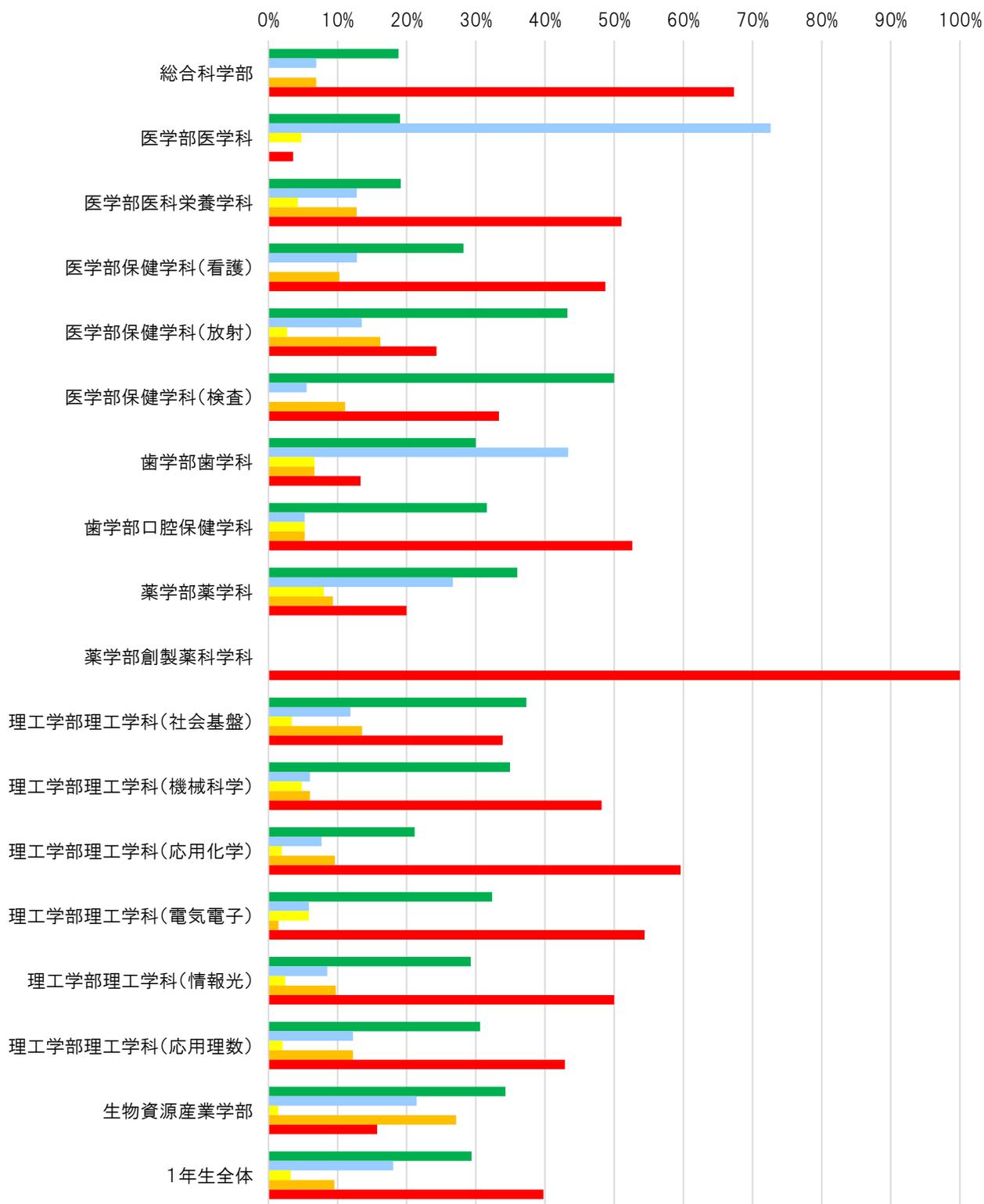
[66]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)



[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[68]高校で履修していない数学, 物理, 化学, 生物について, 大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない

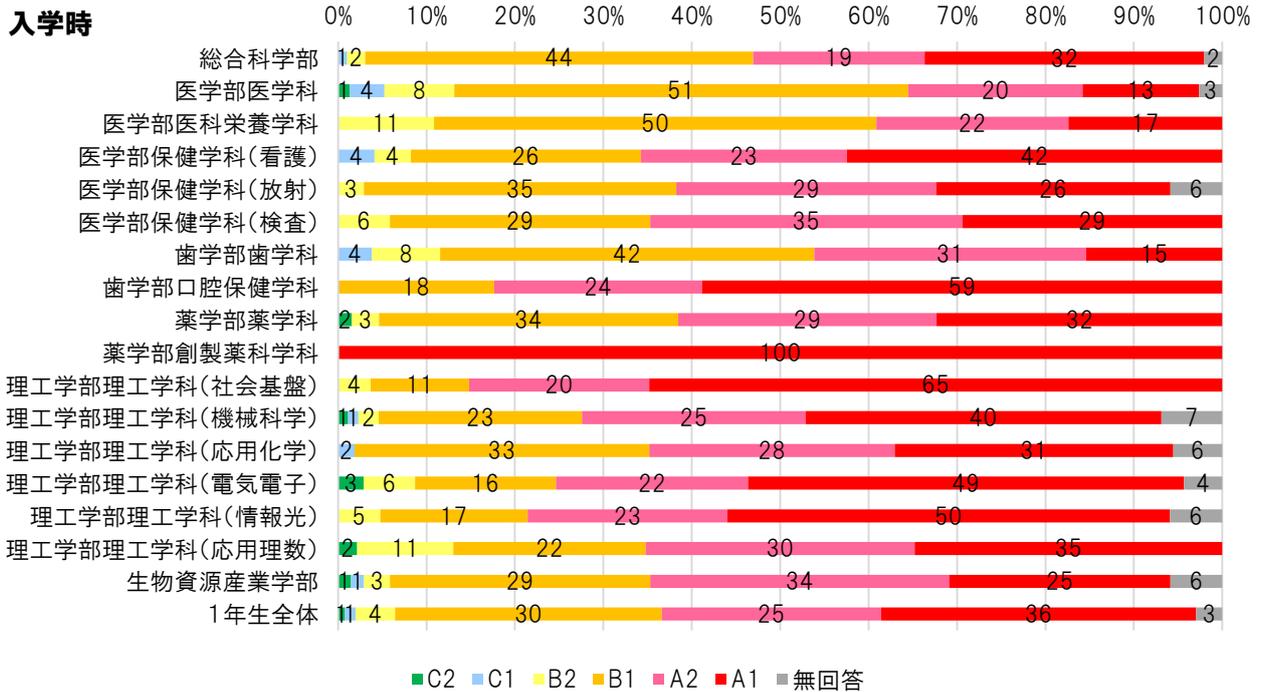
Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

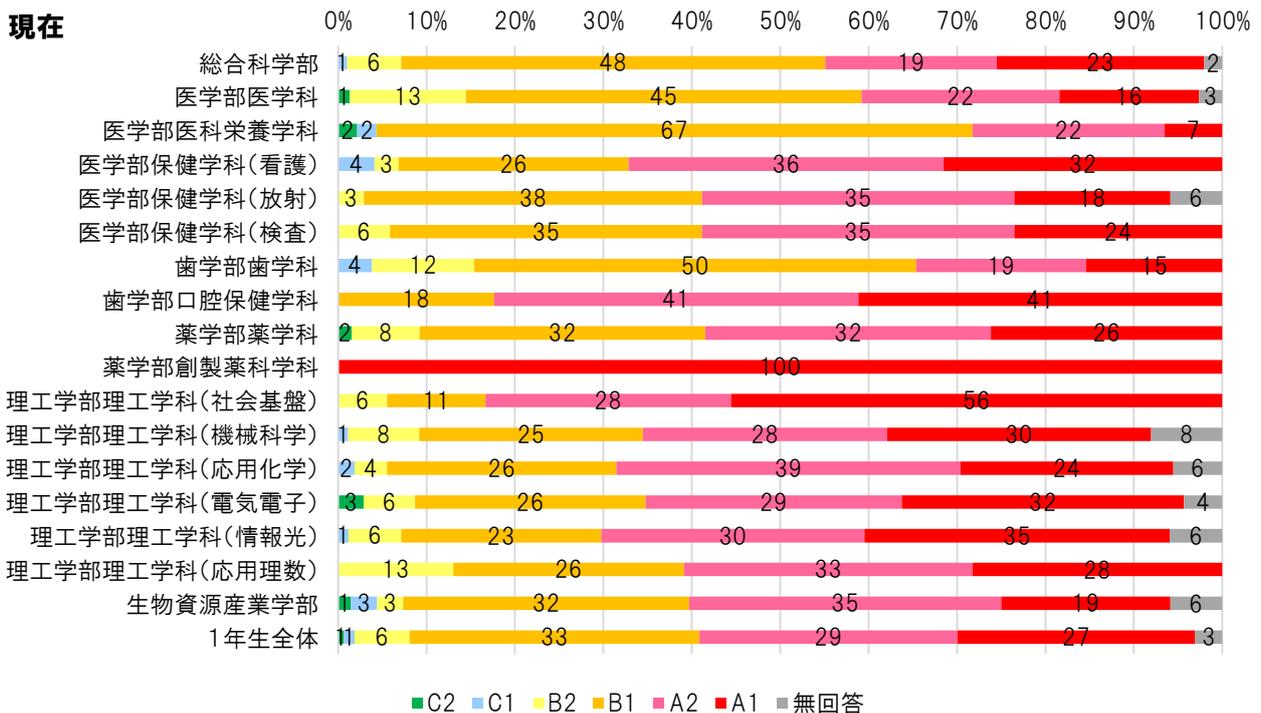
〔69〕聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。

入学時



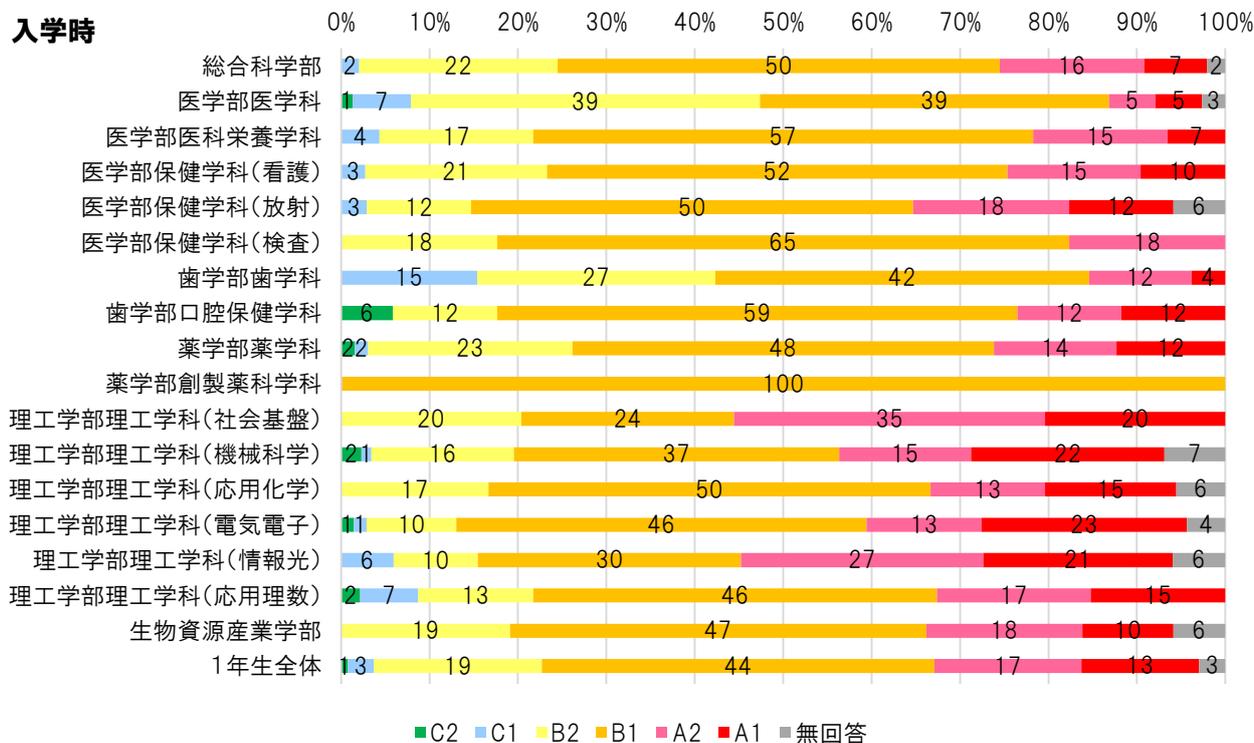
現在



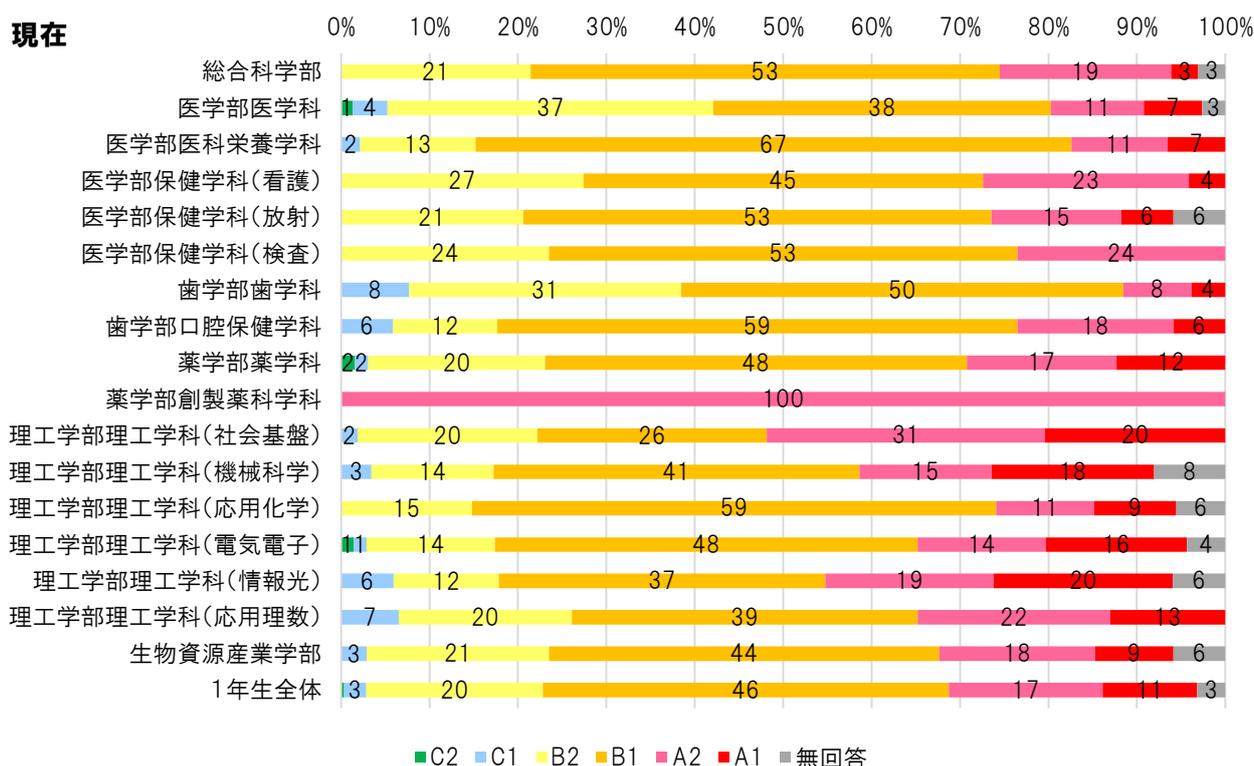
〔70〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。

入学時



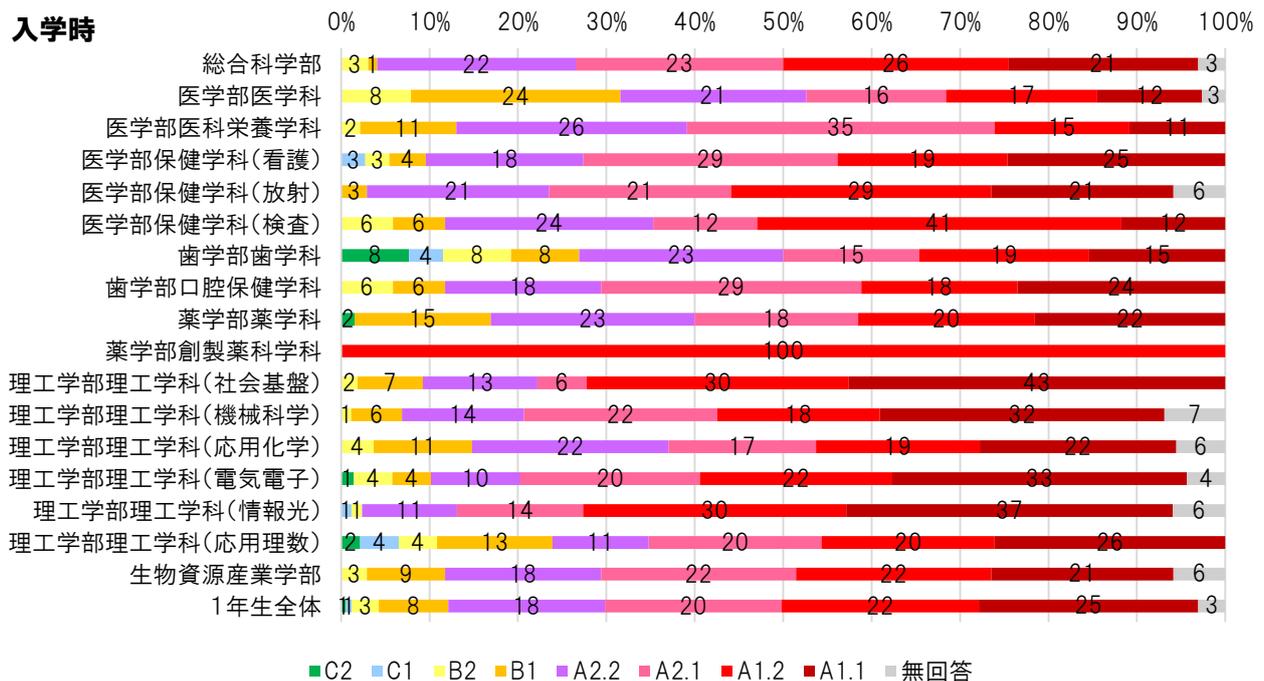
現在



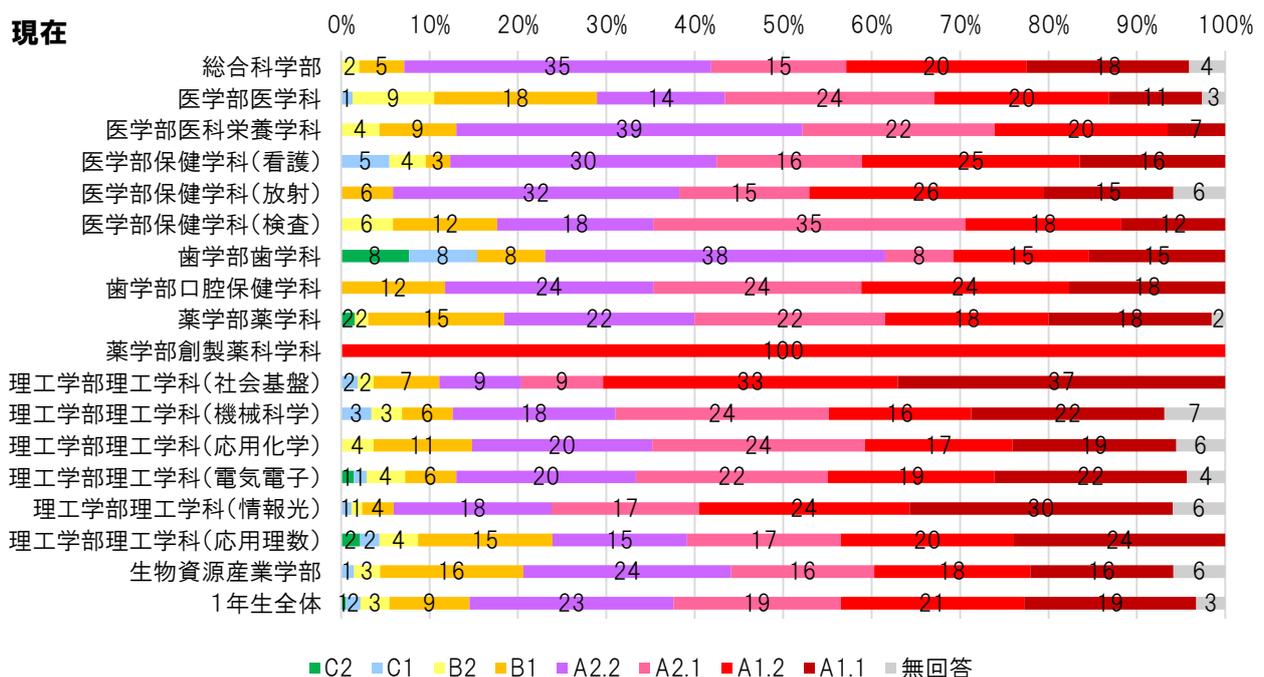
[71]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

入学時



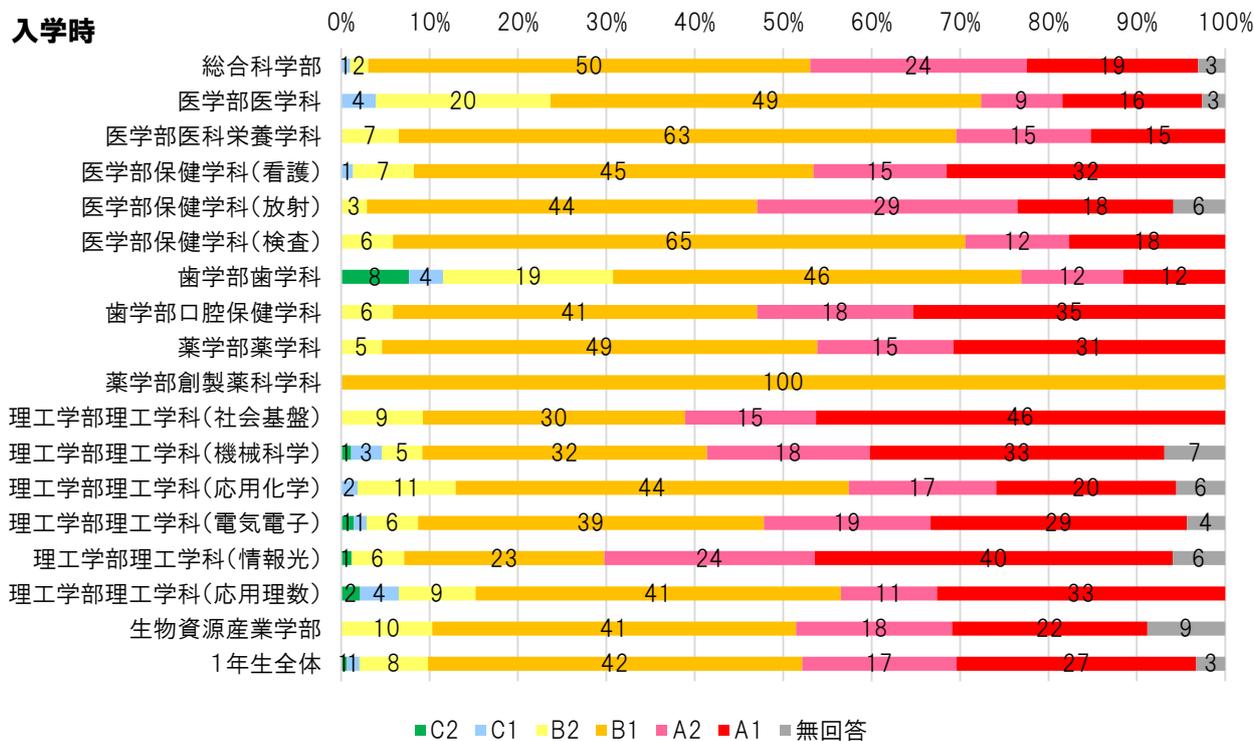
現在



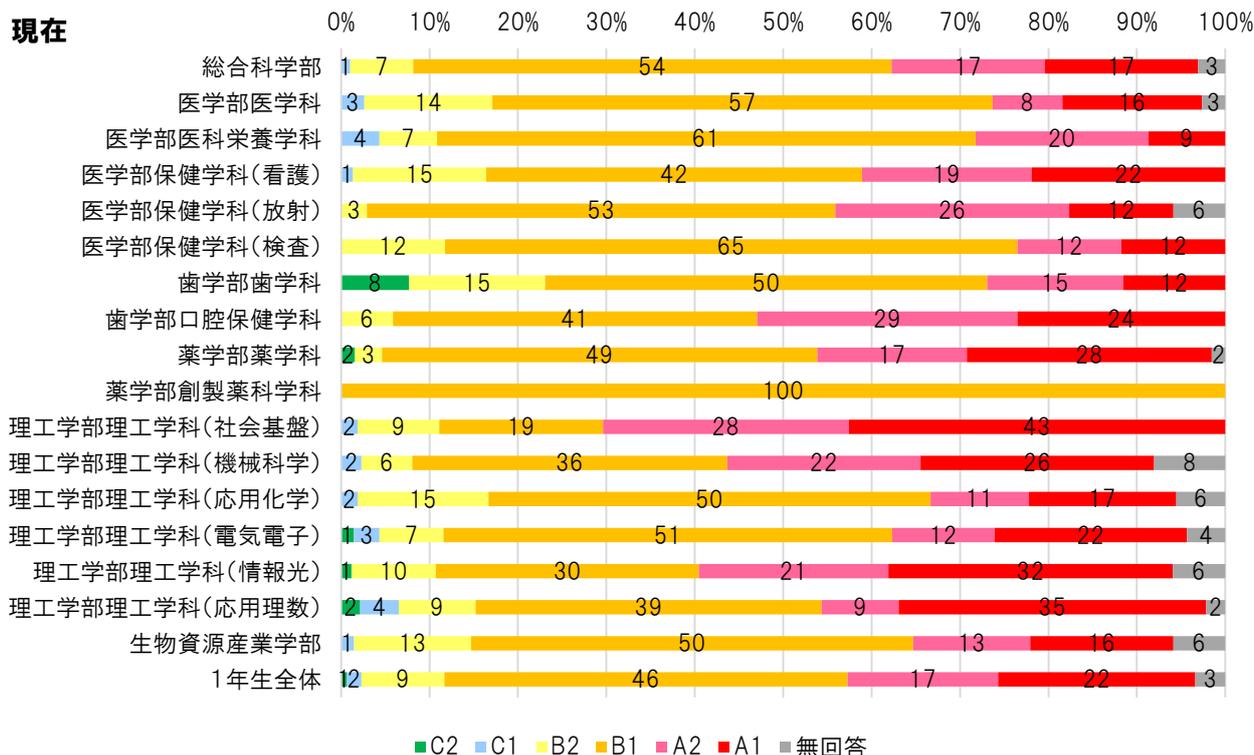
〔72〕表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
 A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
 B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
 B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
 C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
 C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

入学時



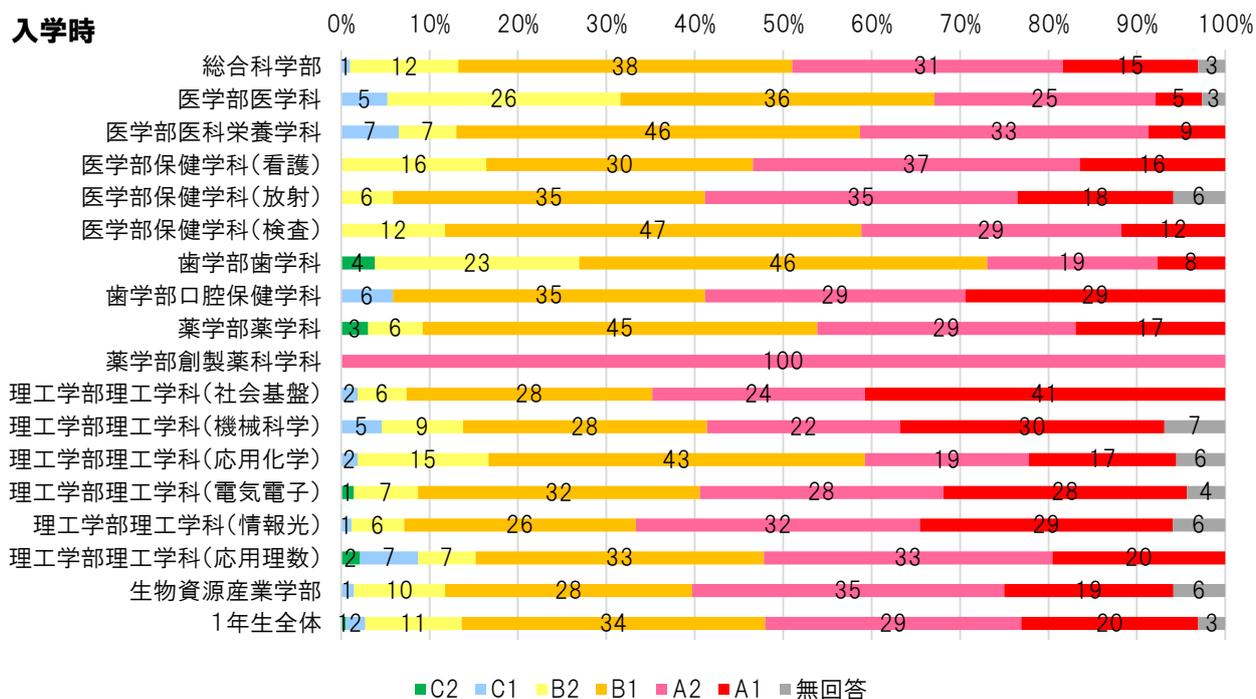
現在



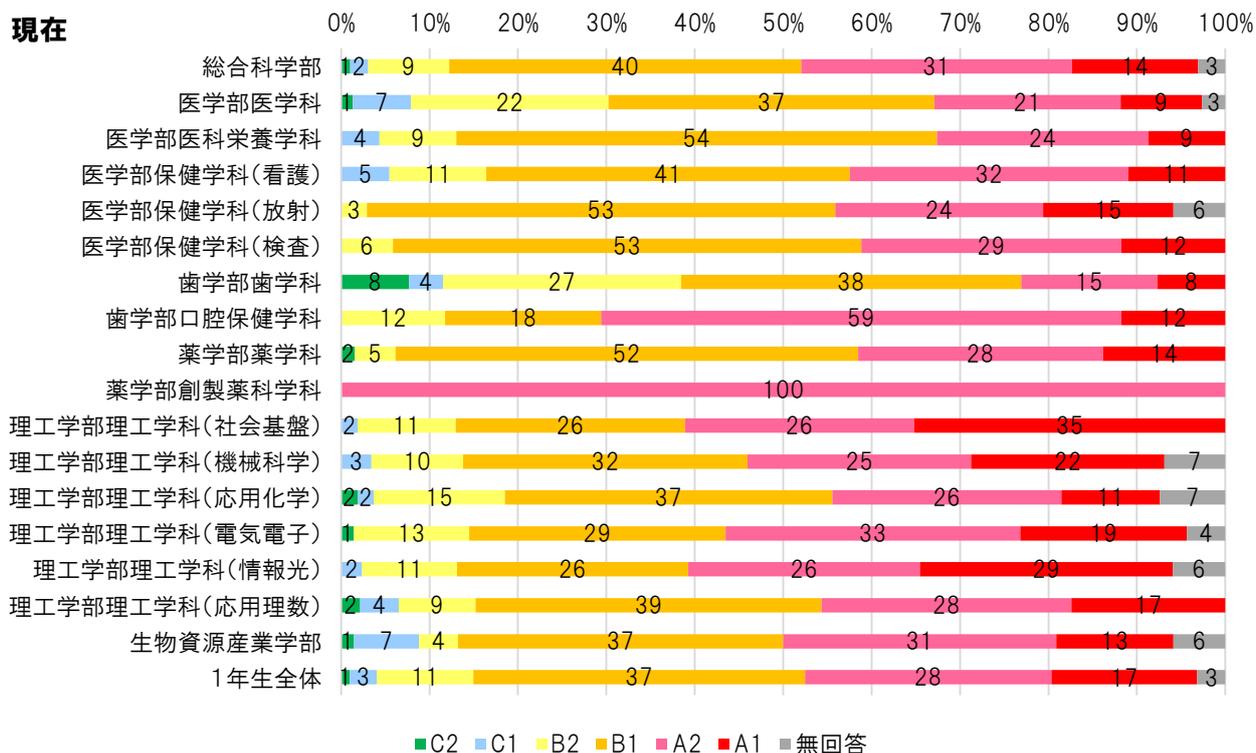
[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

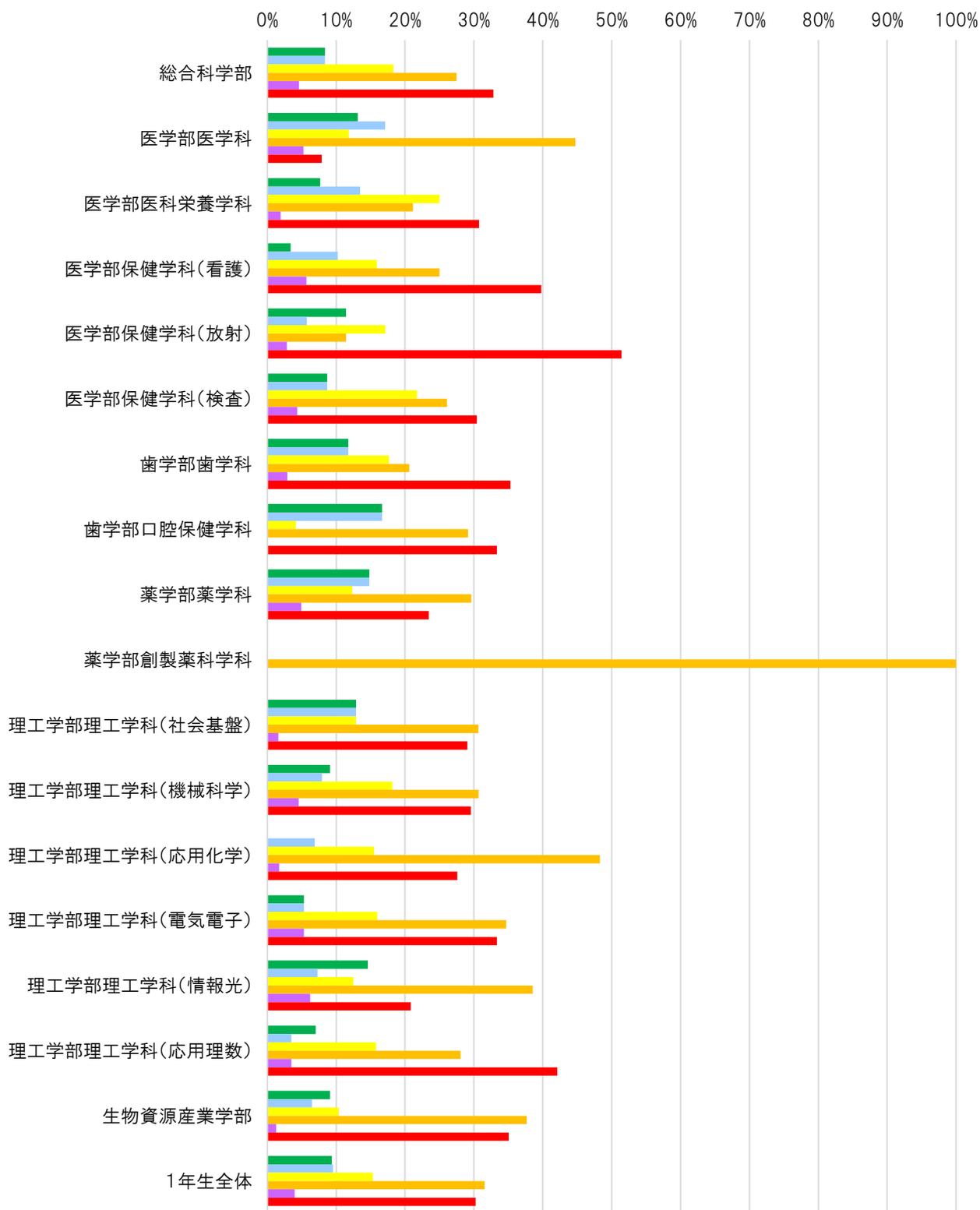
入学時



現在



[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



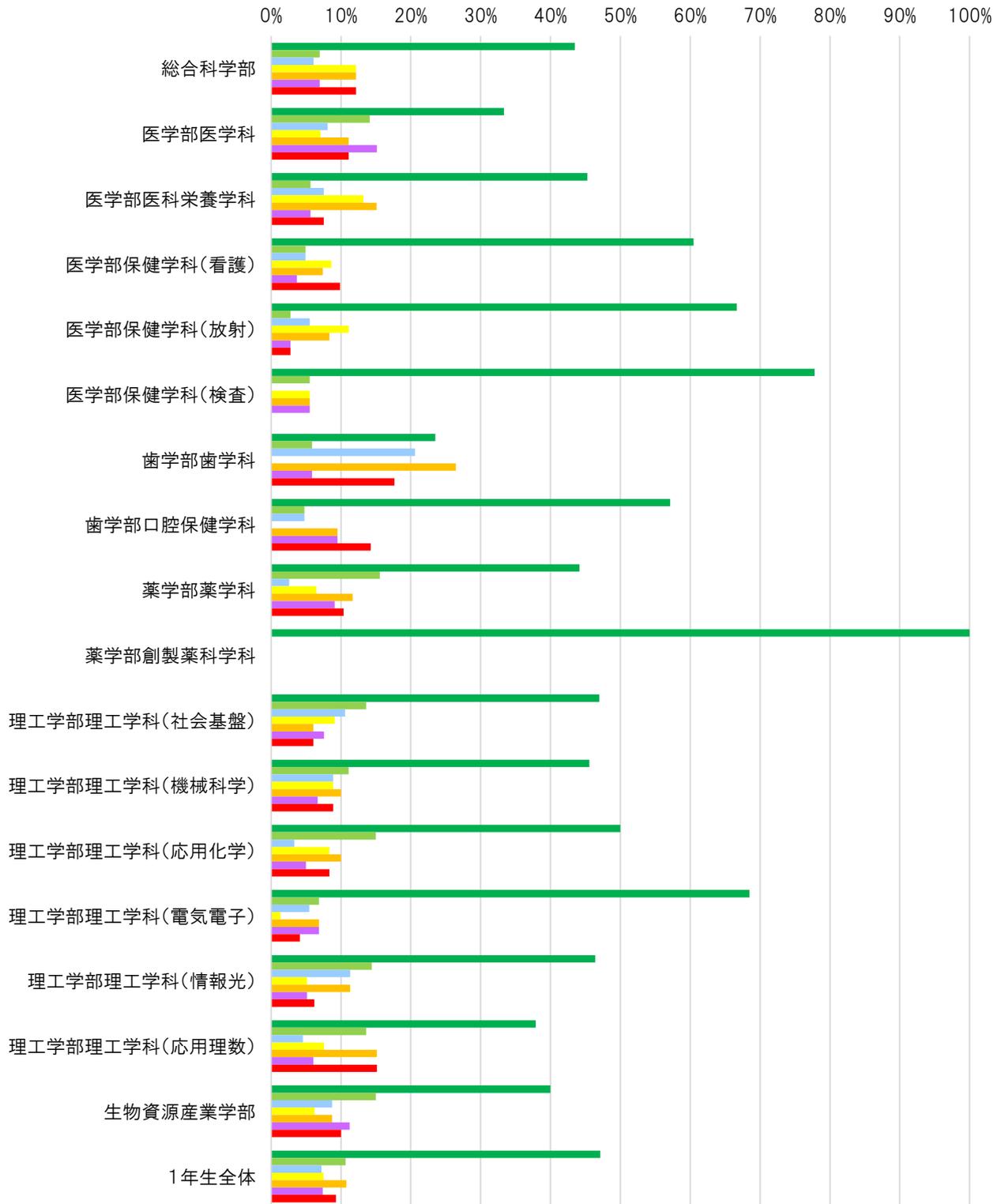
- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC,TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



■ 1. 渡航したことはない ■ 2. 10 日未満 ■ 3. 10 日以上1 ヶ月未満 ■ 4. 1 ヶ月以上6 ヶ月未満 ■ 5. 6 ヶ月以上 ■ 無回答

[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

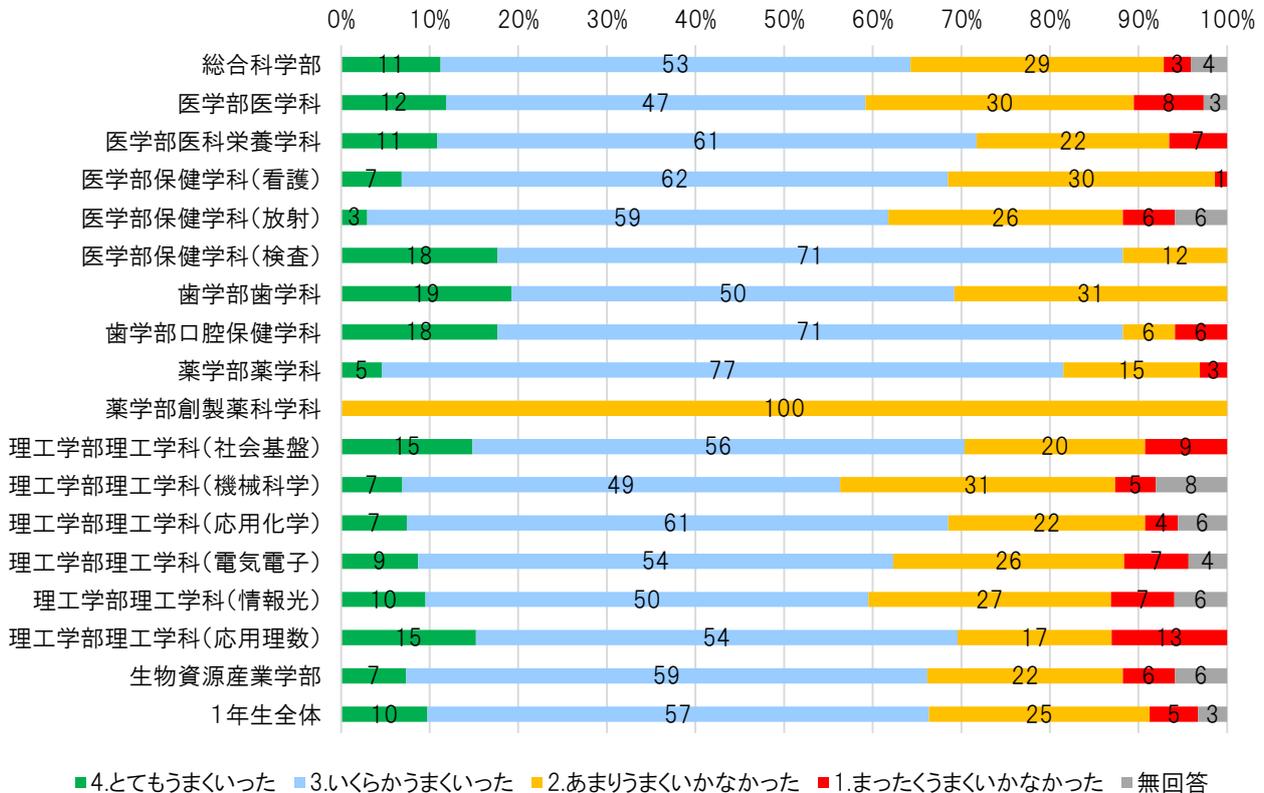


- 1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

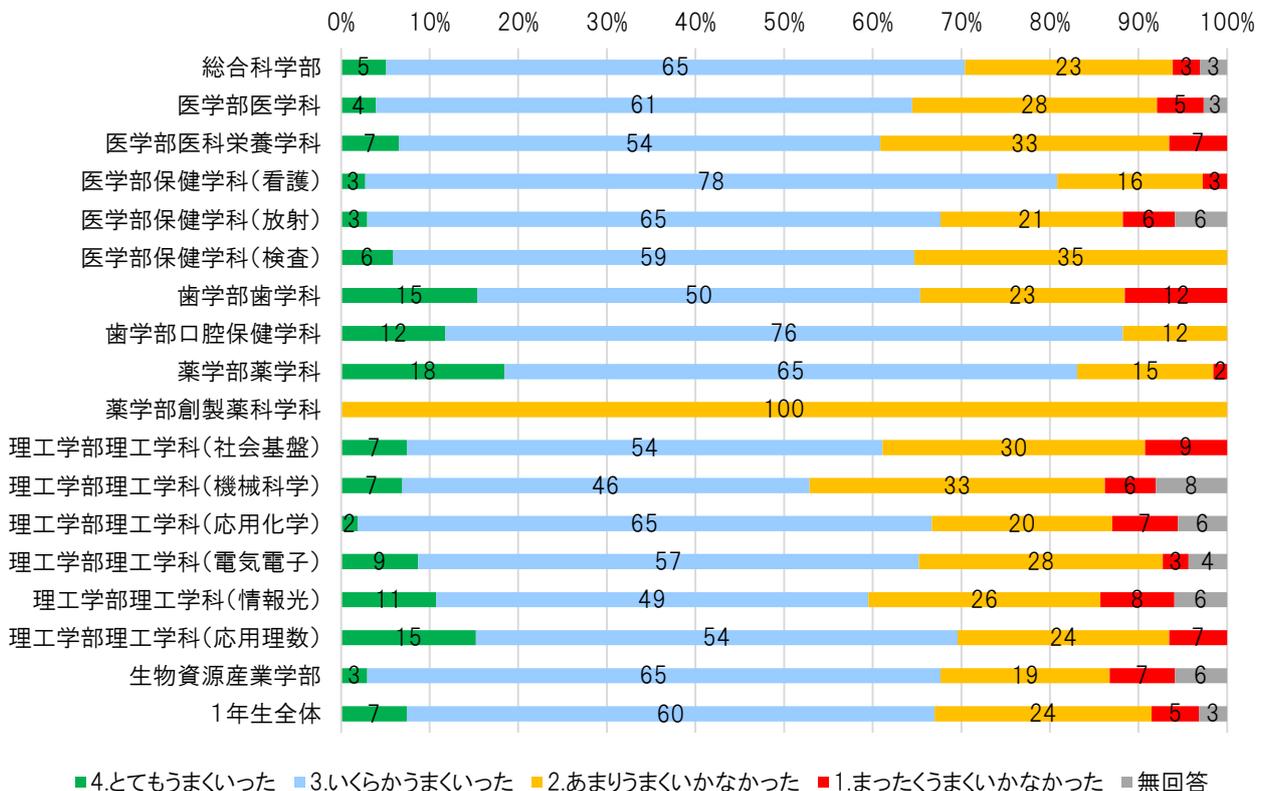
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことからはどれくらいまよくなりましたか。

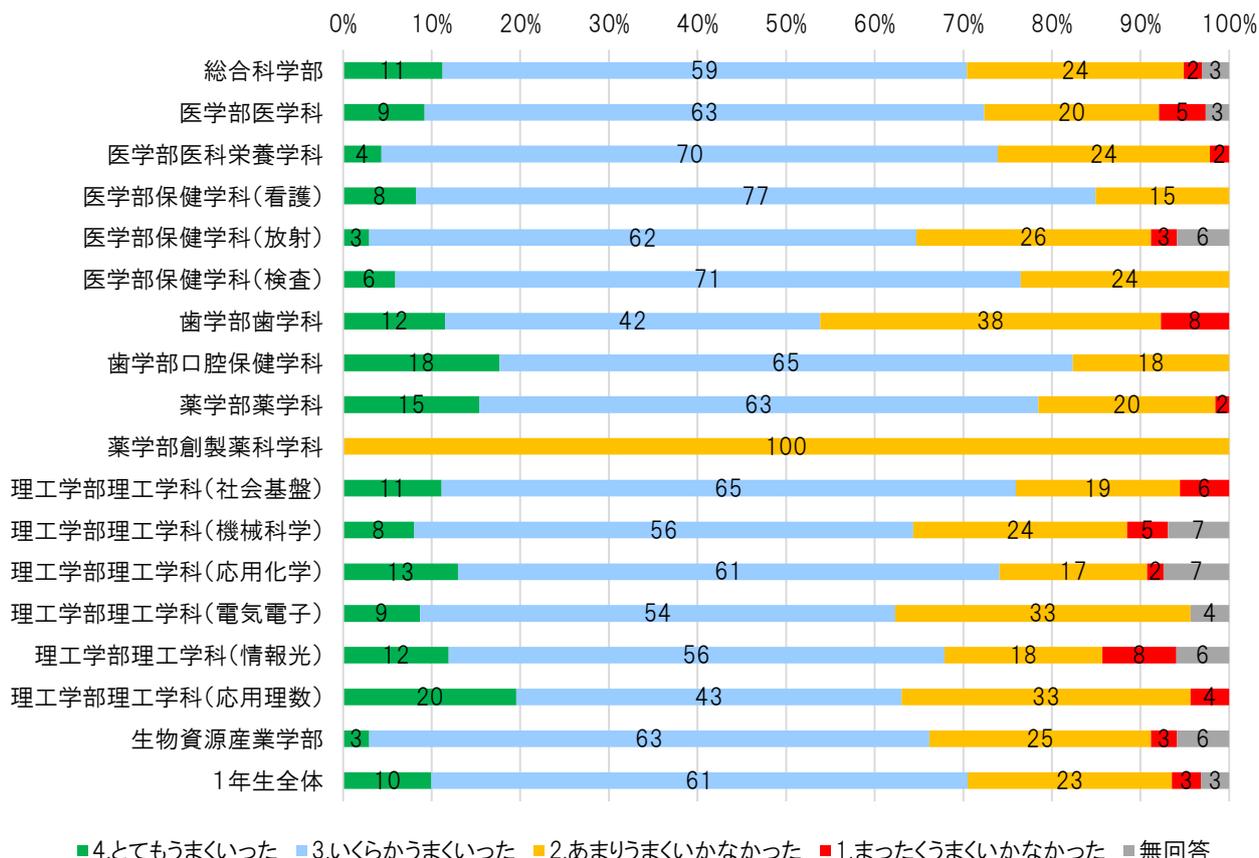
[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



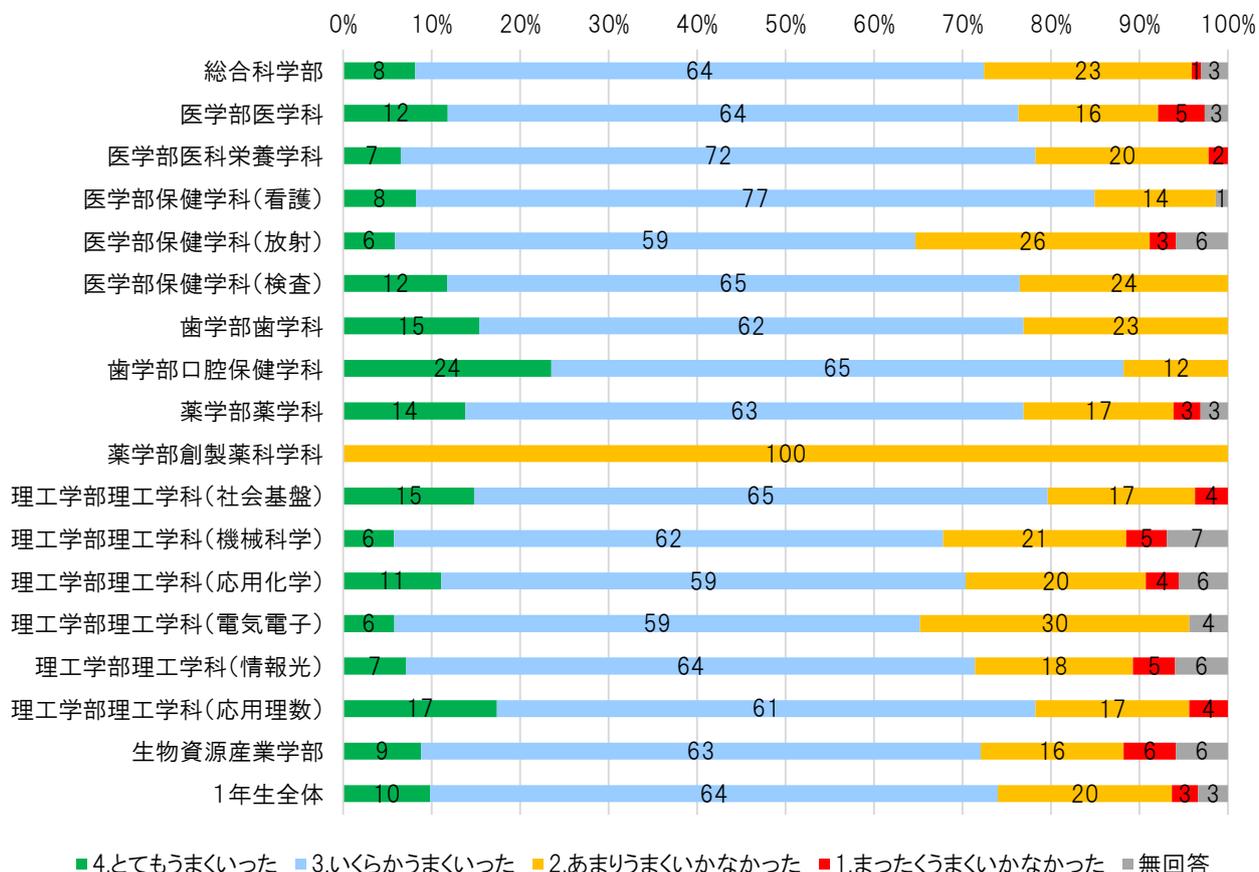
[78]大学教員の学問的な期待を理解する



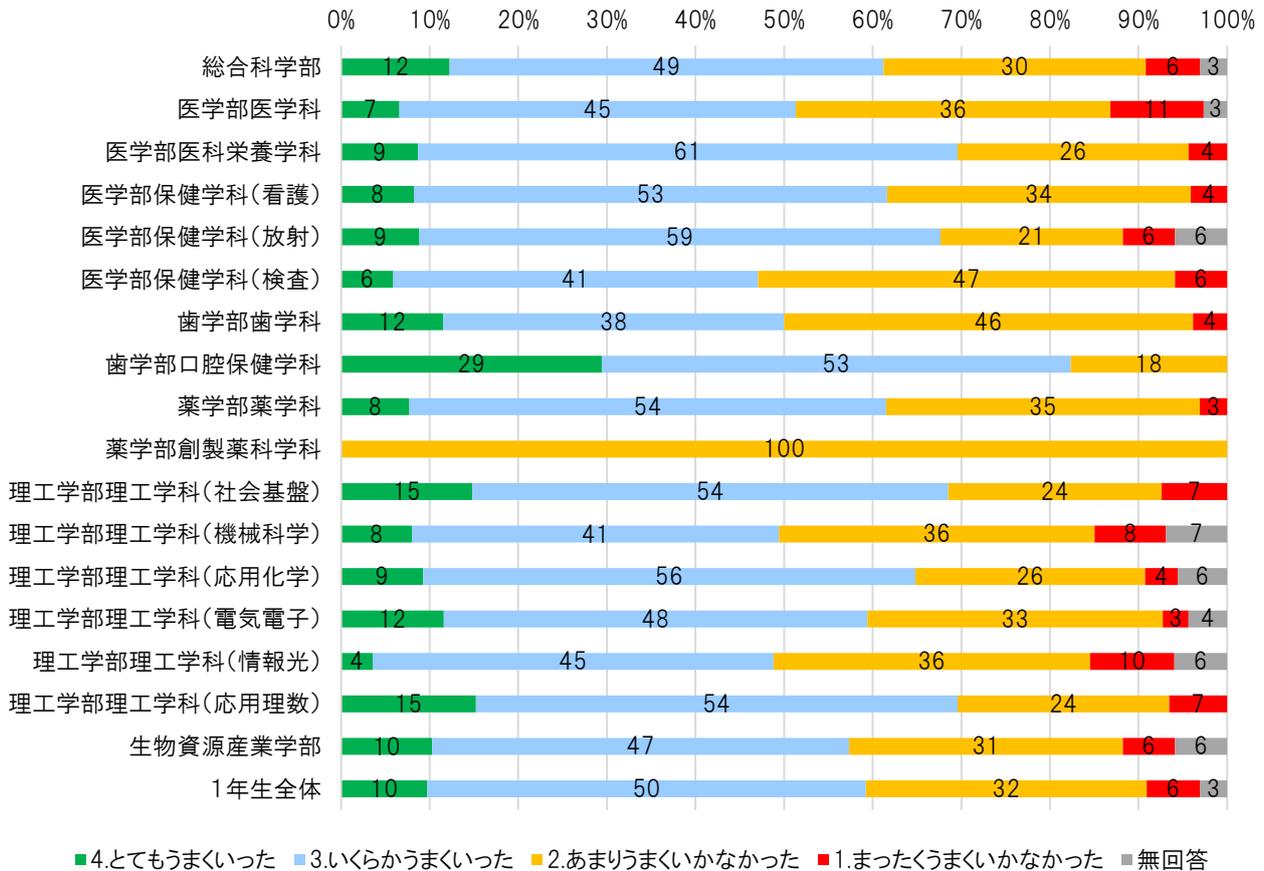
[79]効果的に学習する技能を修得する



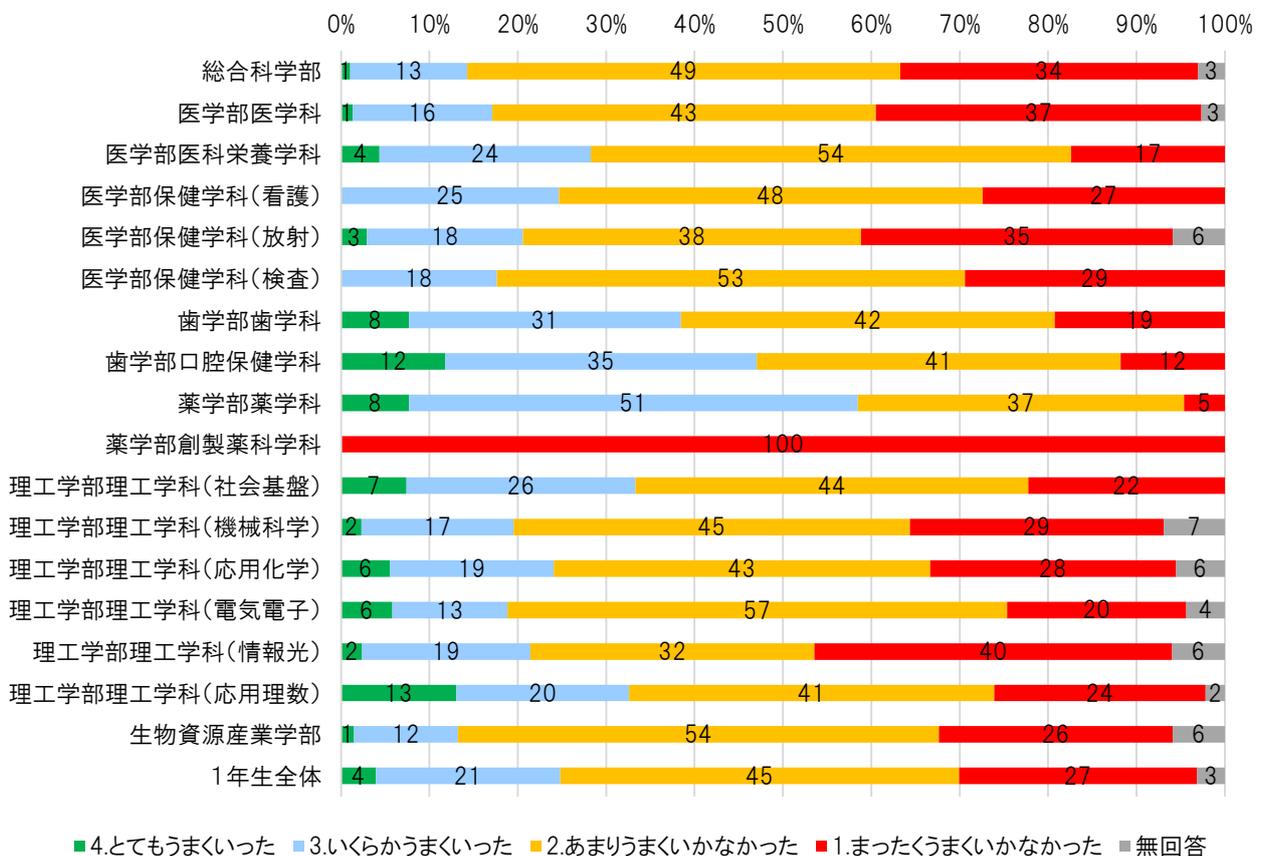
[80]大学が求める水準に応じて学習する



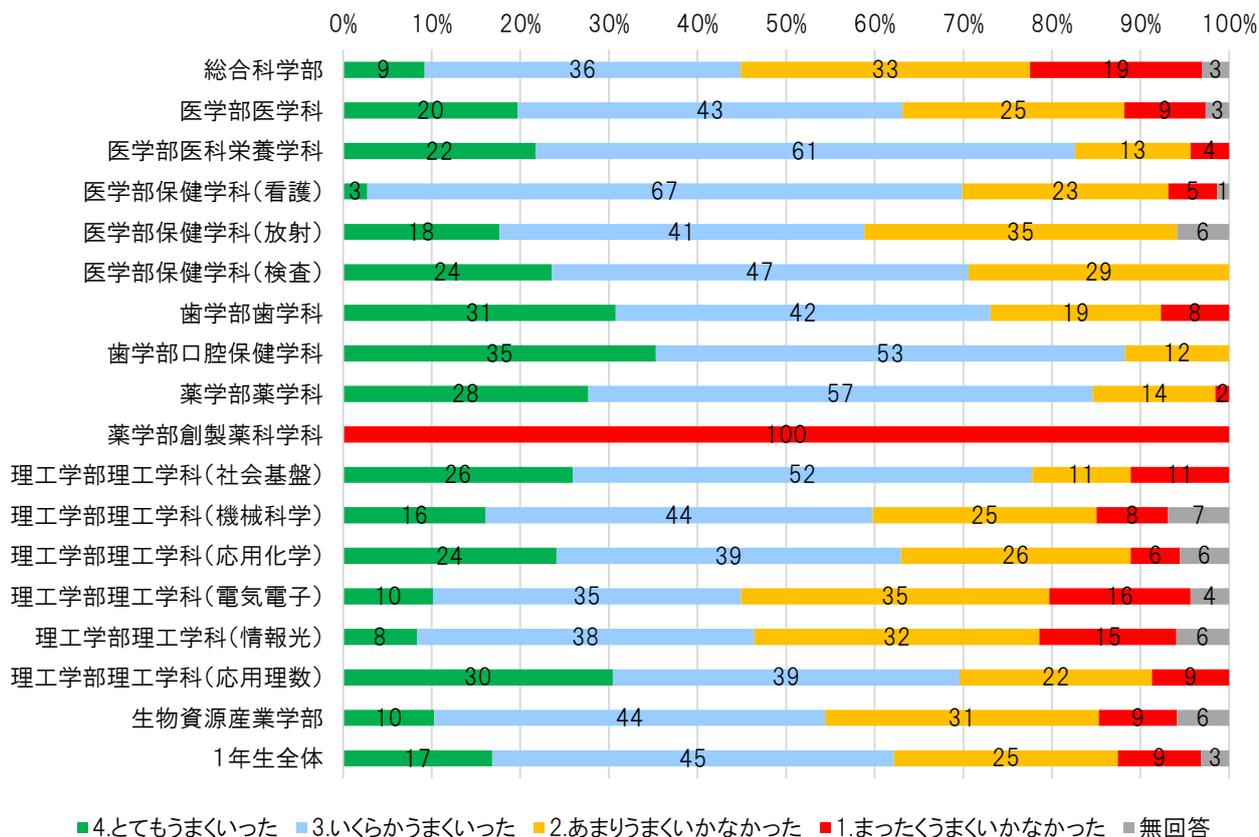
[81]時間を効果的に使う



[82]大学教員と顔見知りになる

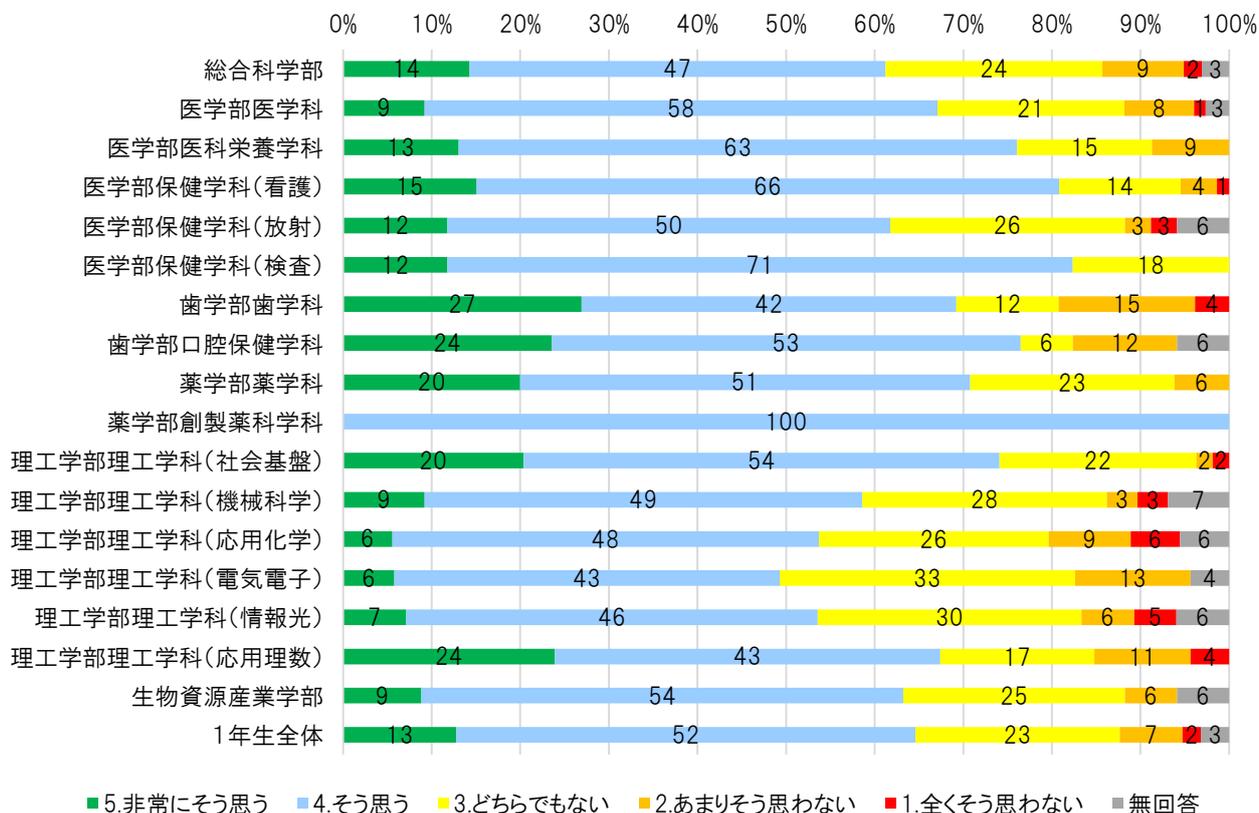


[83]他の学生との友情を深める

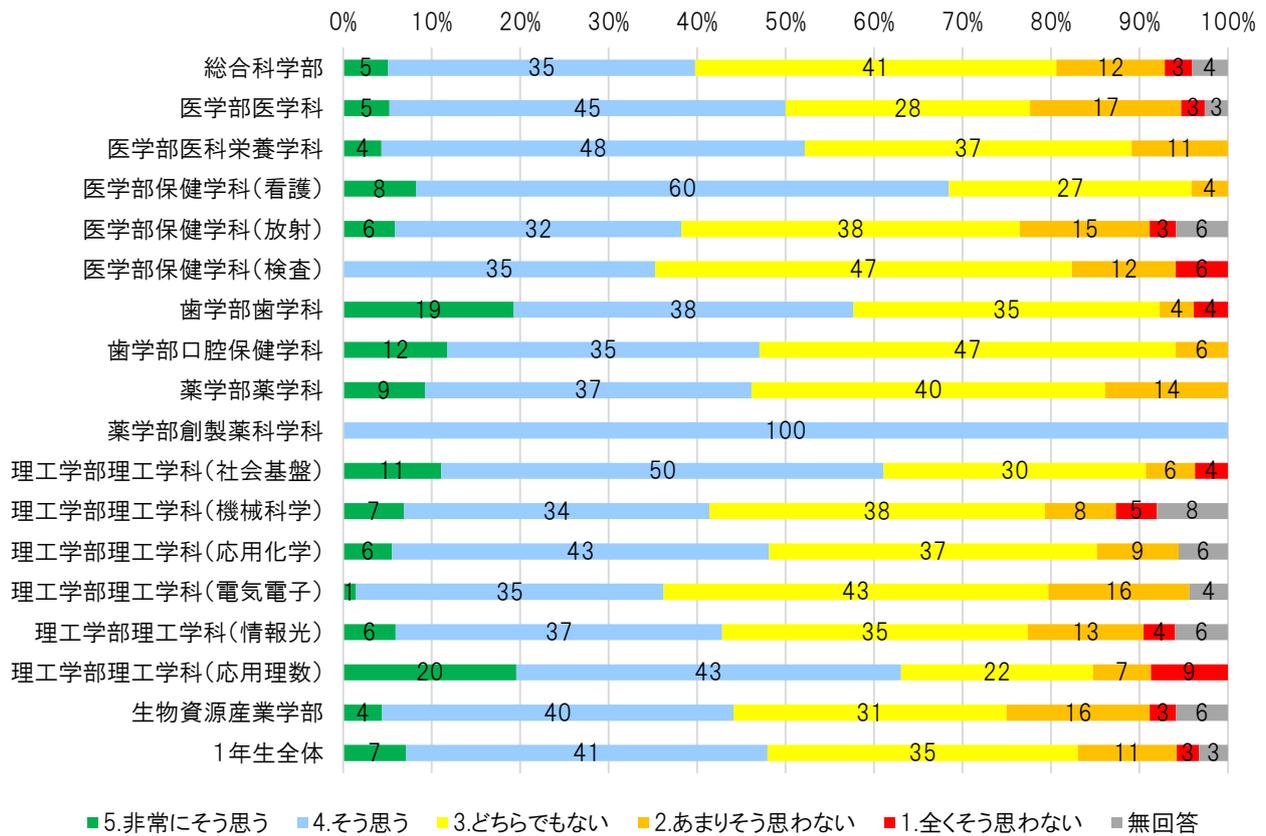


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

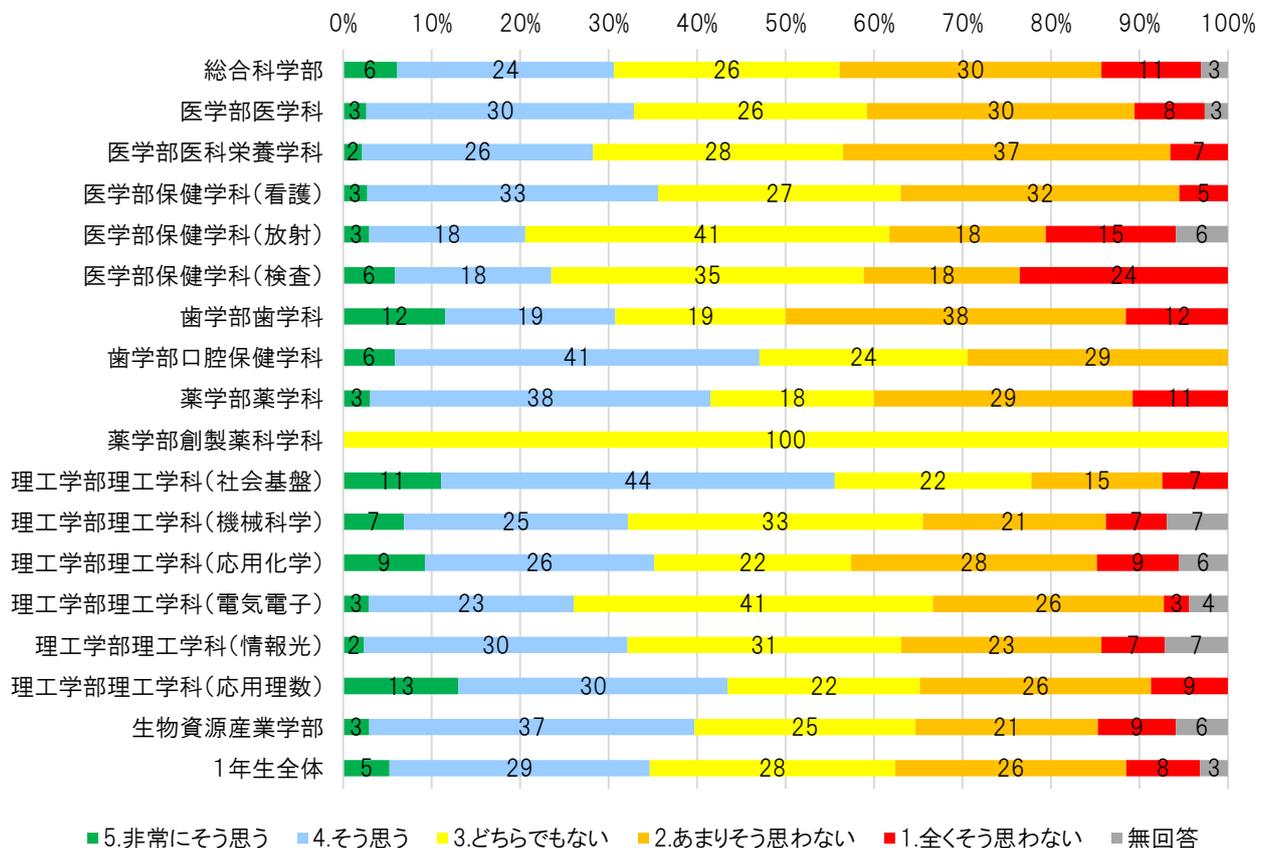
[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



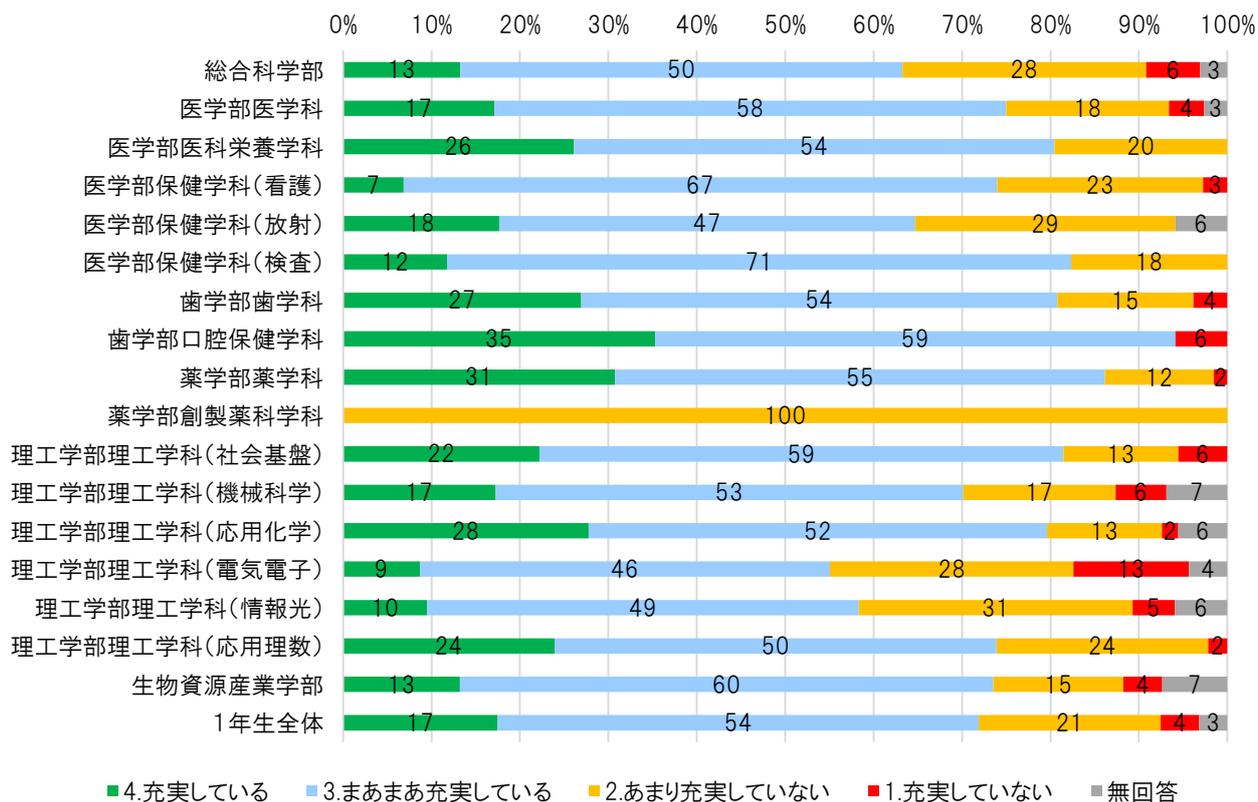
[85]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[86]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

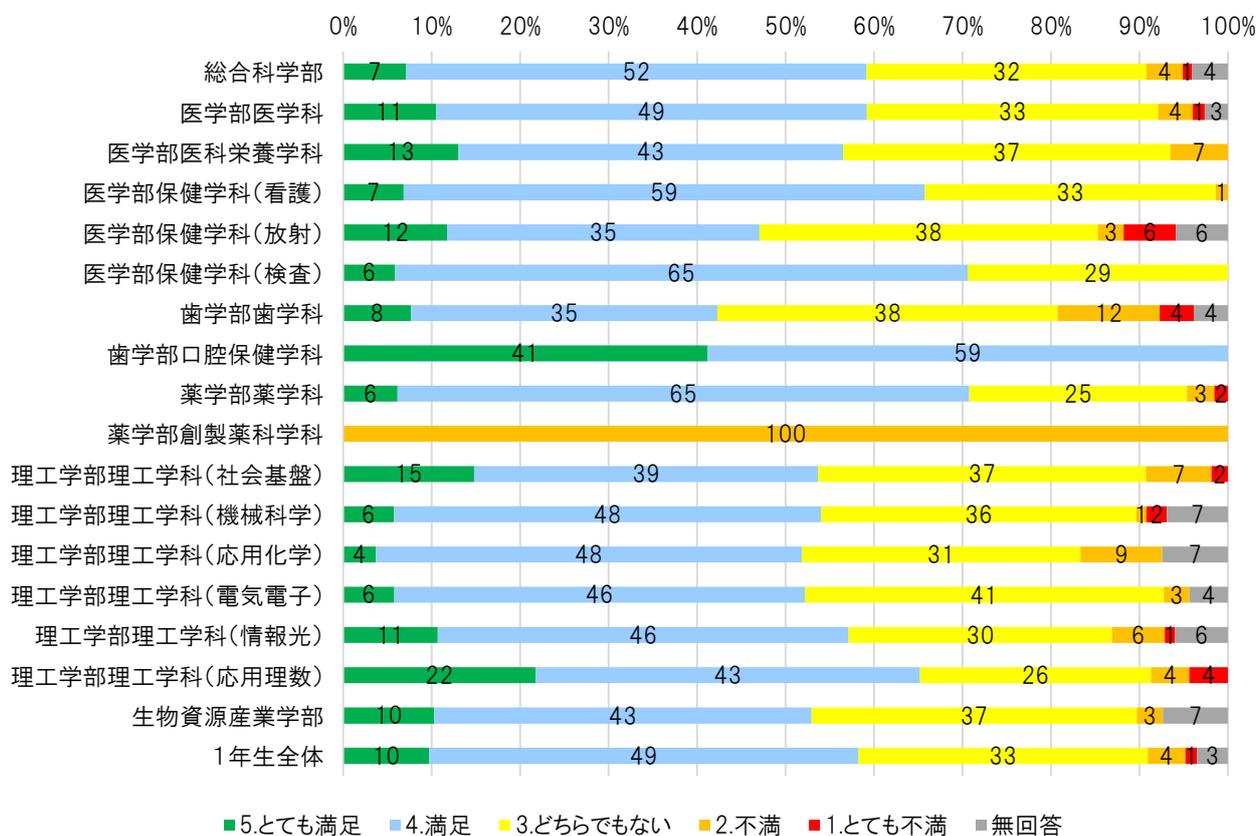


[87]あなたの学生生活は充実していますか。

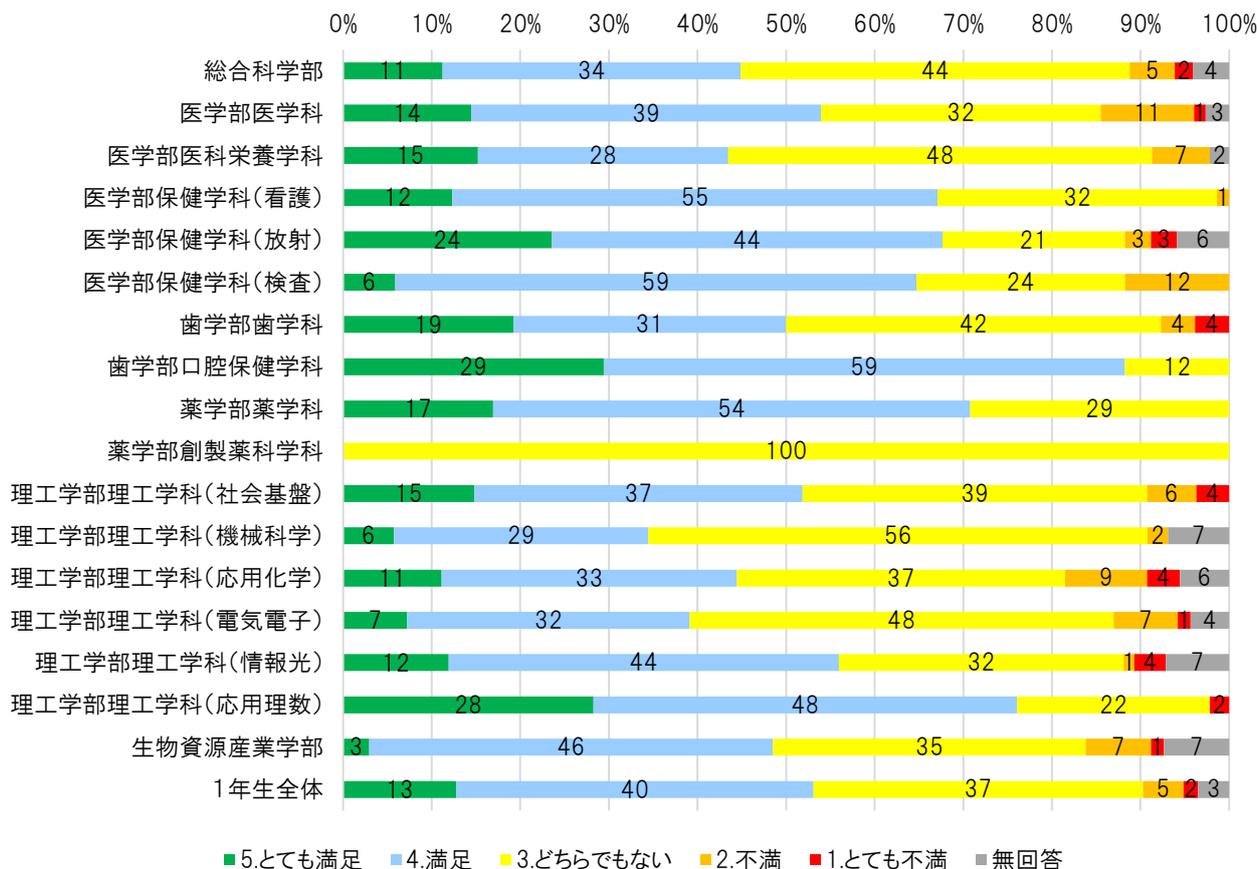


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

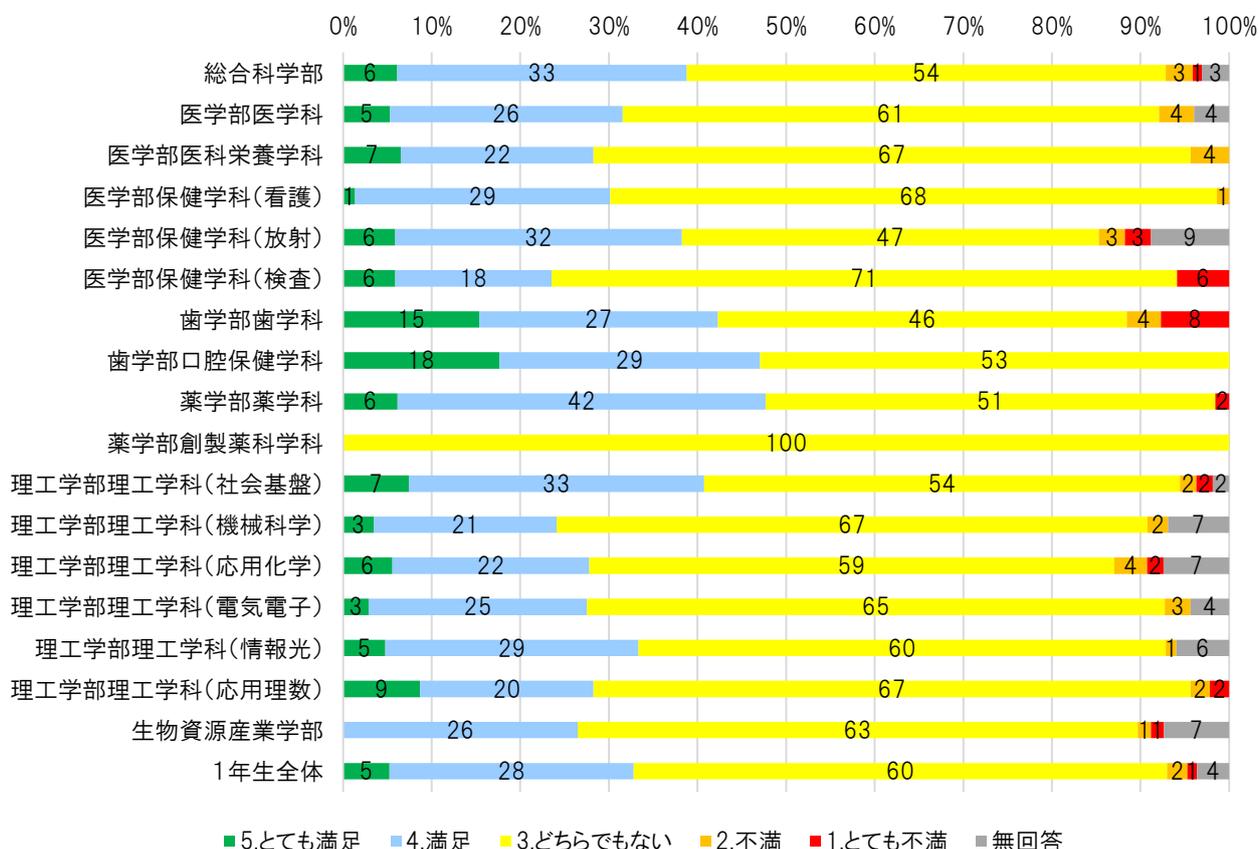
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



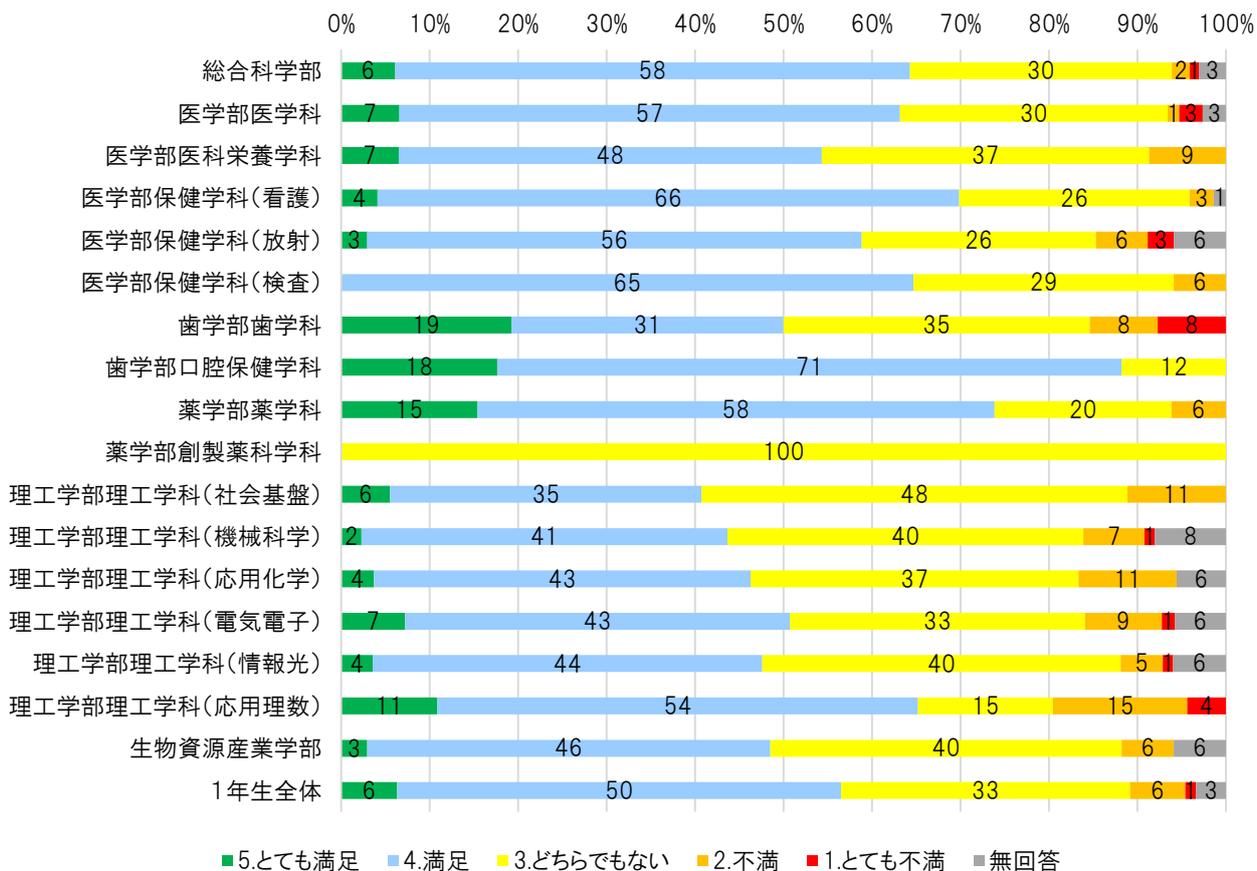
[89]SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業



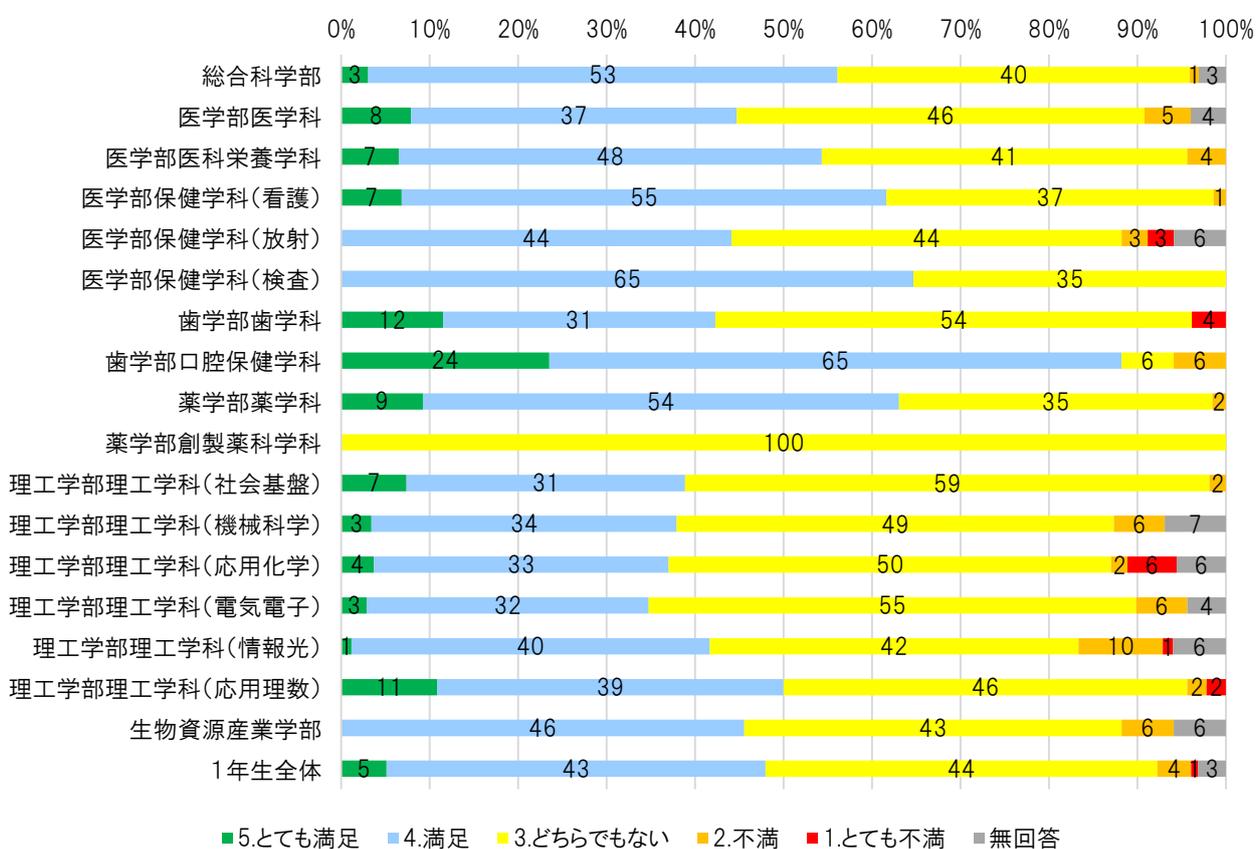
[90]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



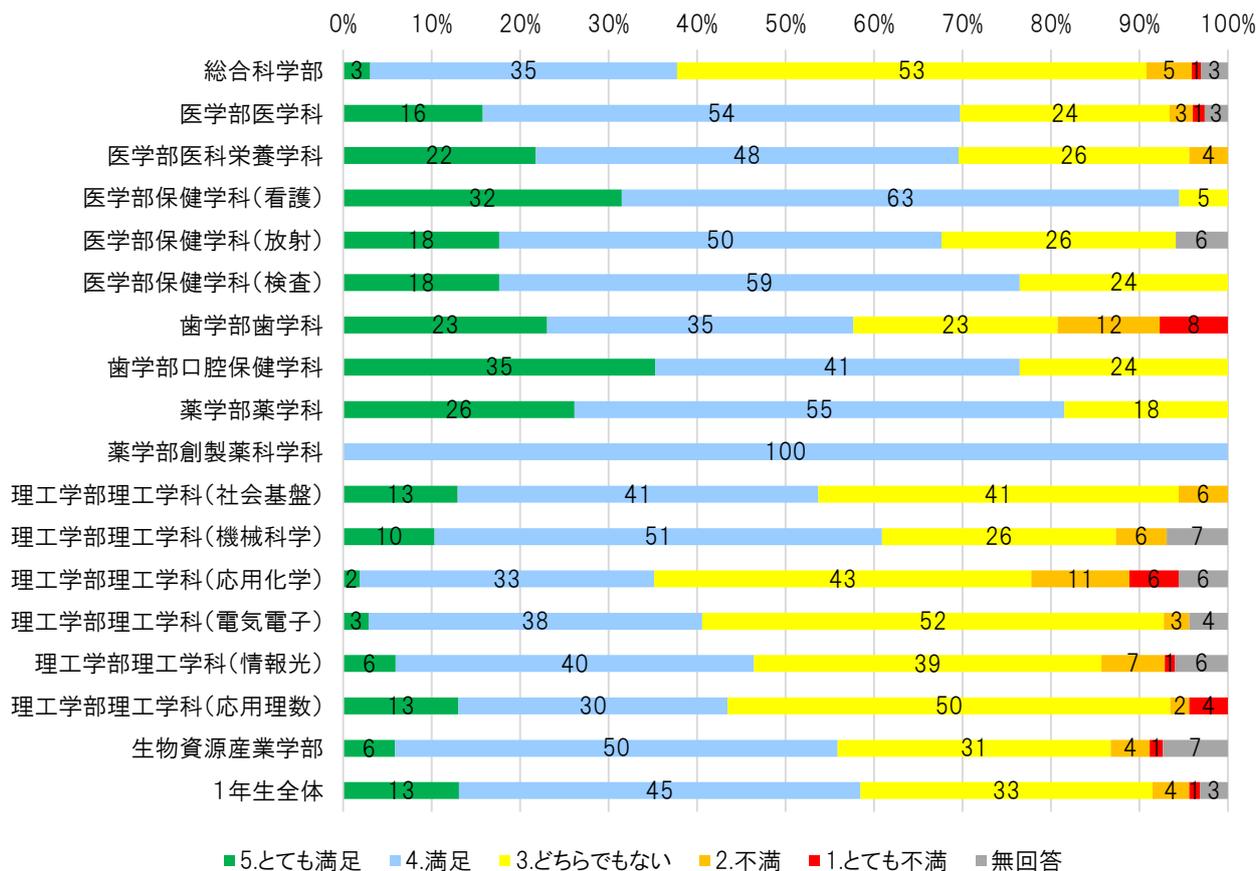
[91]授業の全体的な質



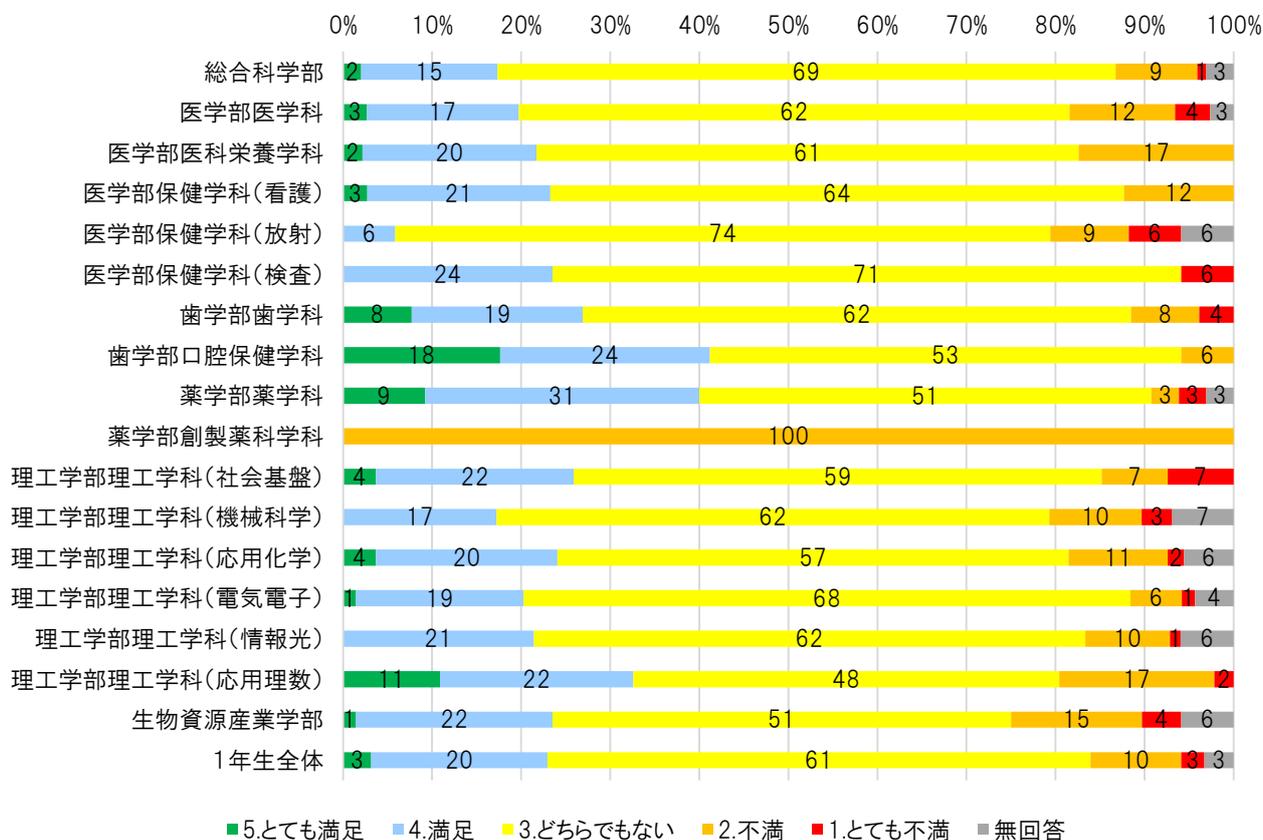
[92]日常生活と授業内容との関連



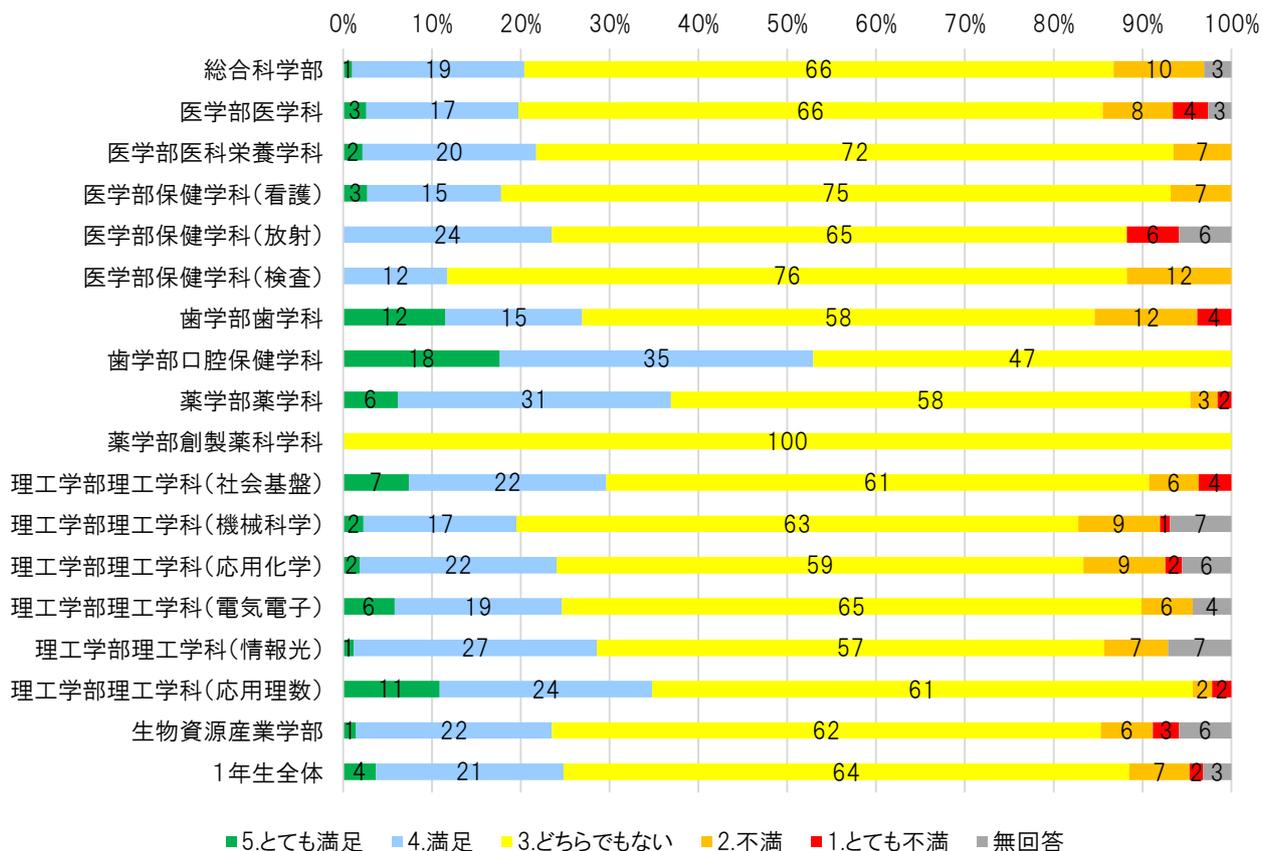
[93] 将来の仕事と授業内容の結びつき



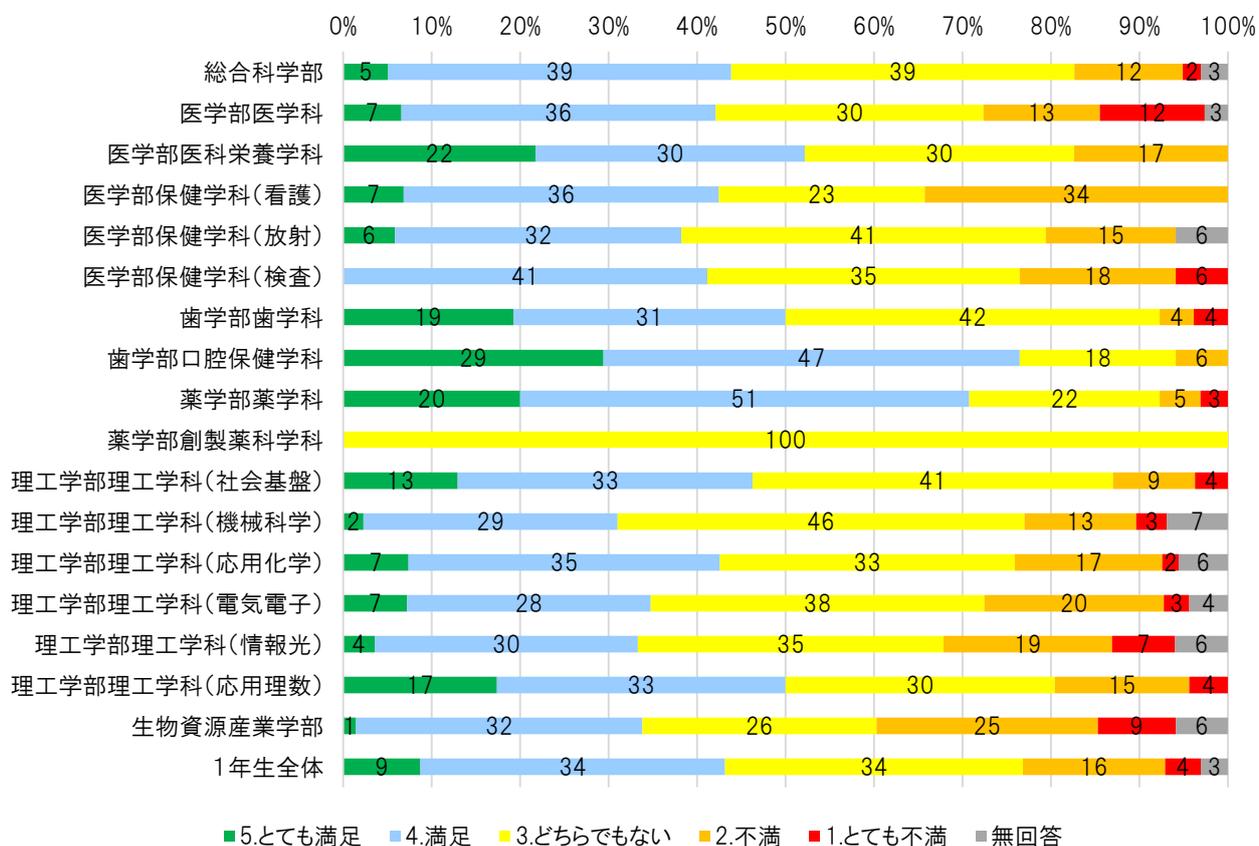
[94] 教員と話をする機会



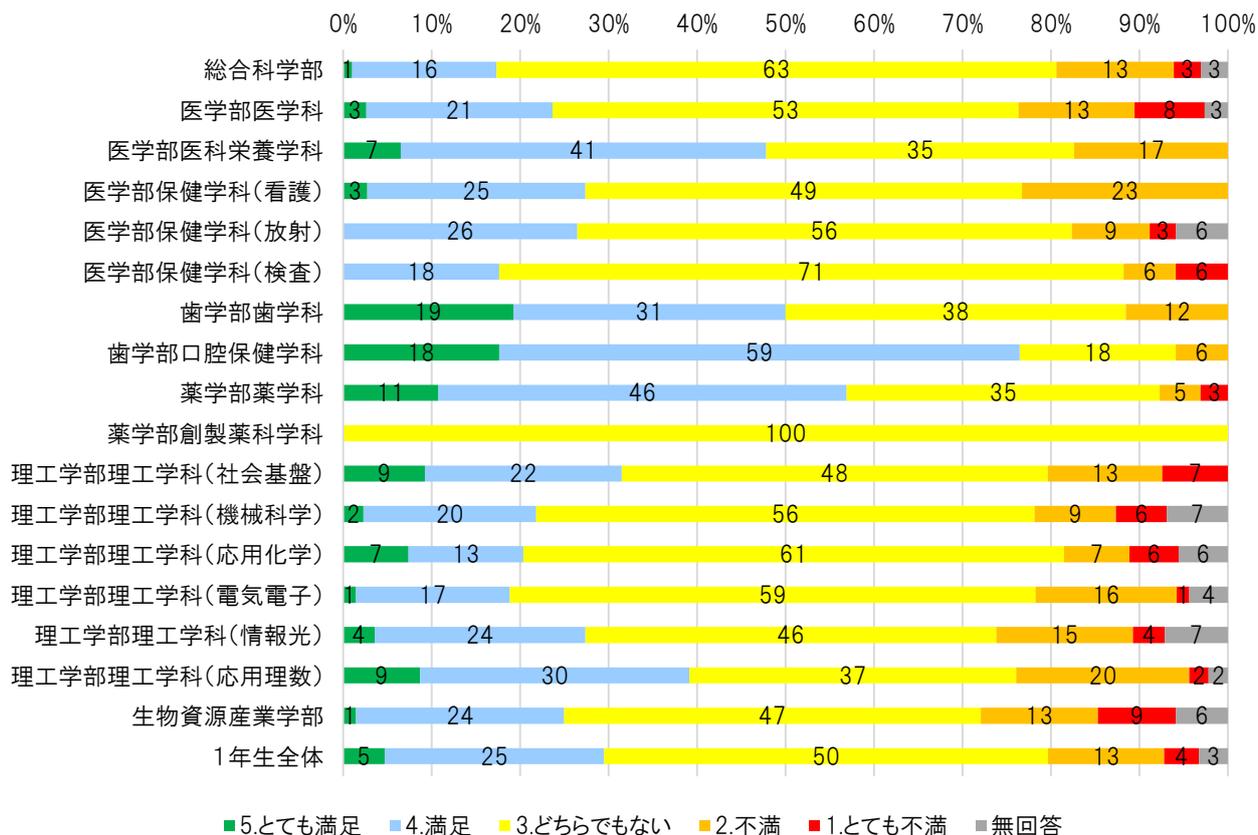
[95]学習支援や個別の学習指導



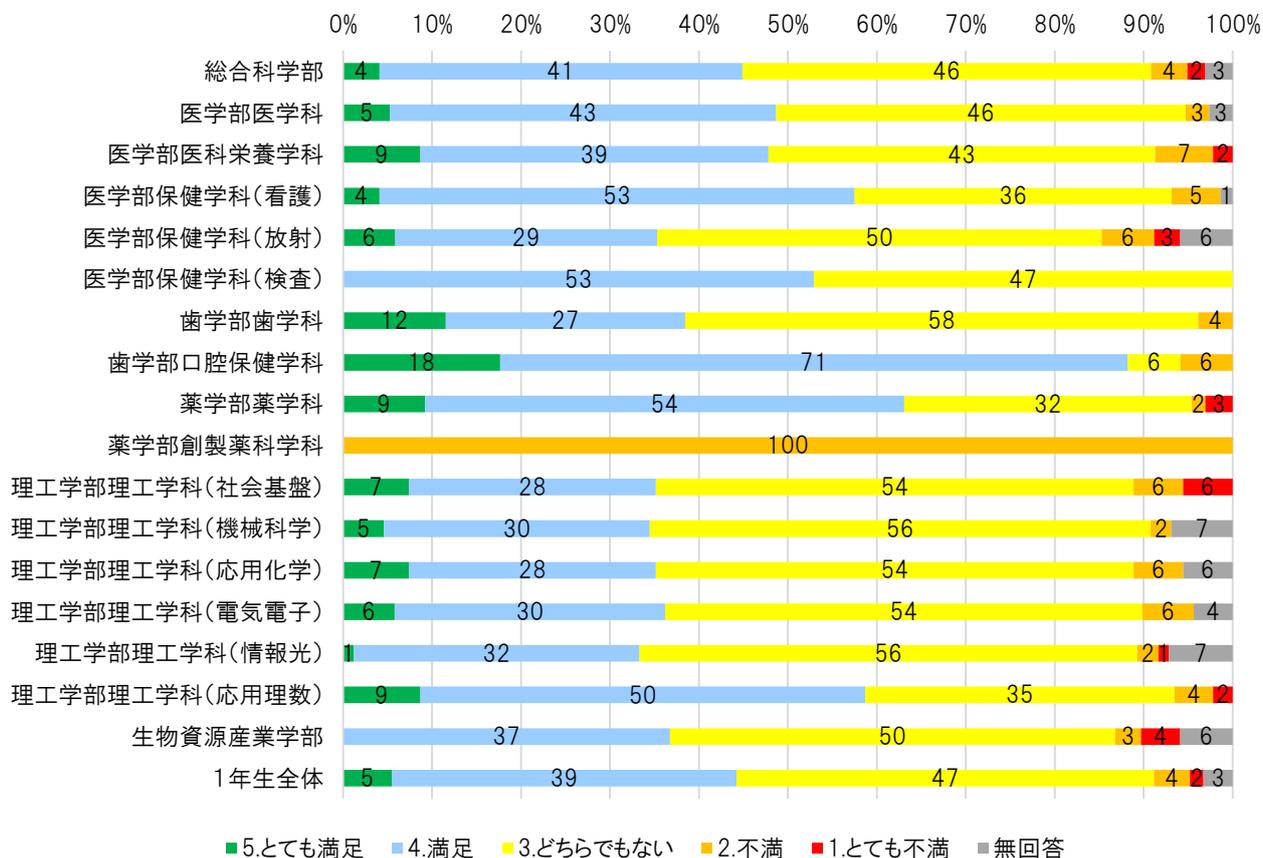
[96]他の学生と話す機会



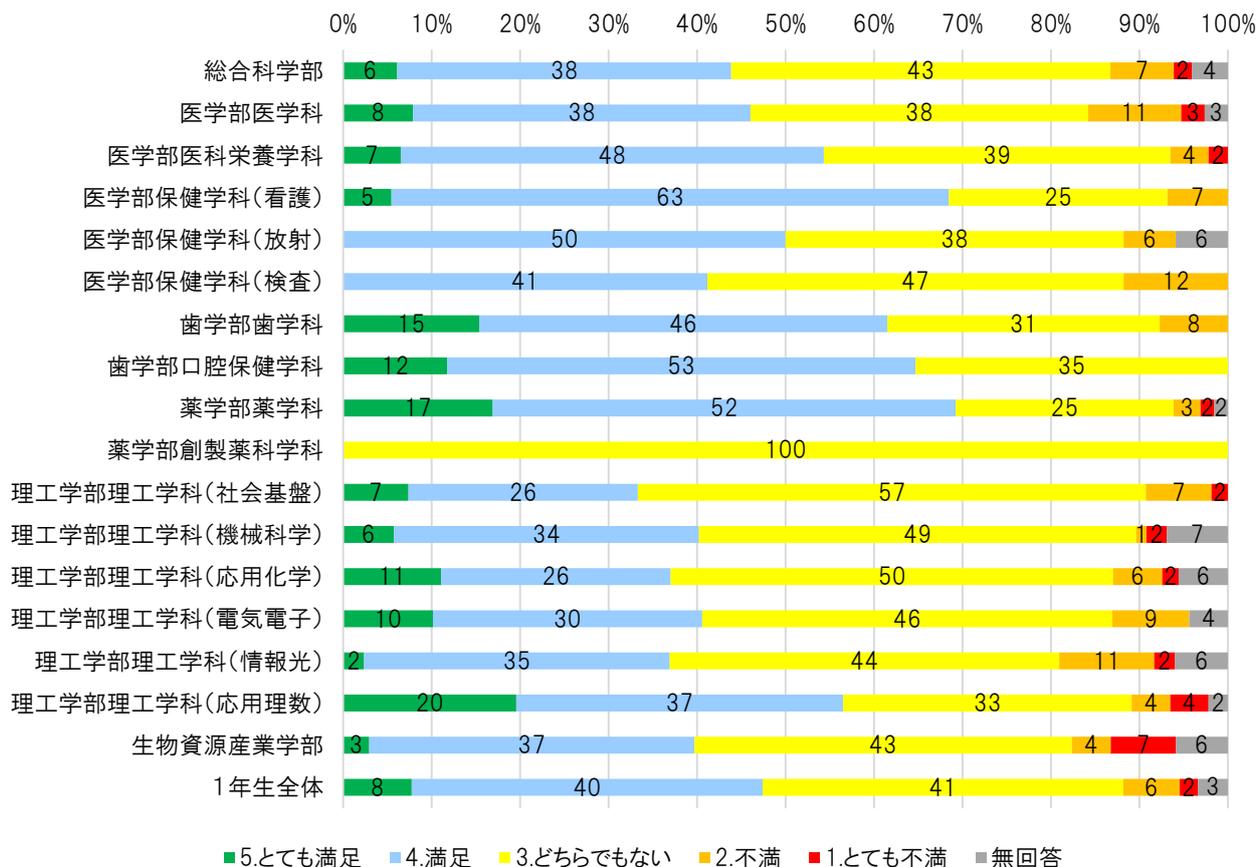
[97]大学のなかでの学生同士の一体感



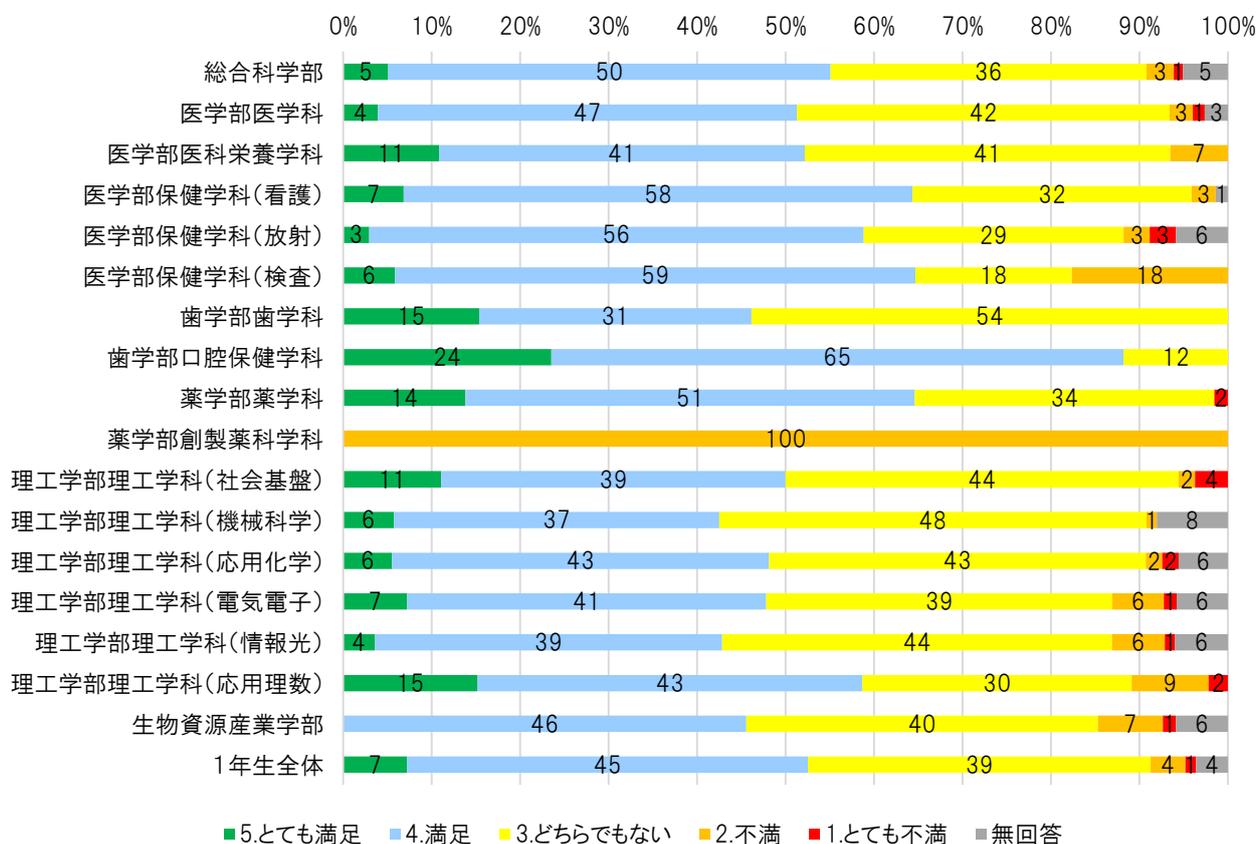
[98]多様な考え方を認め合う雰囲気



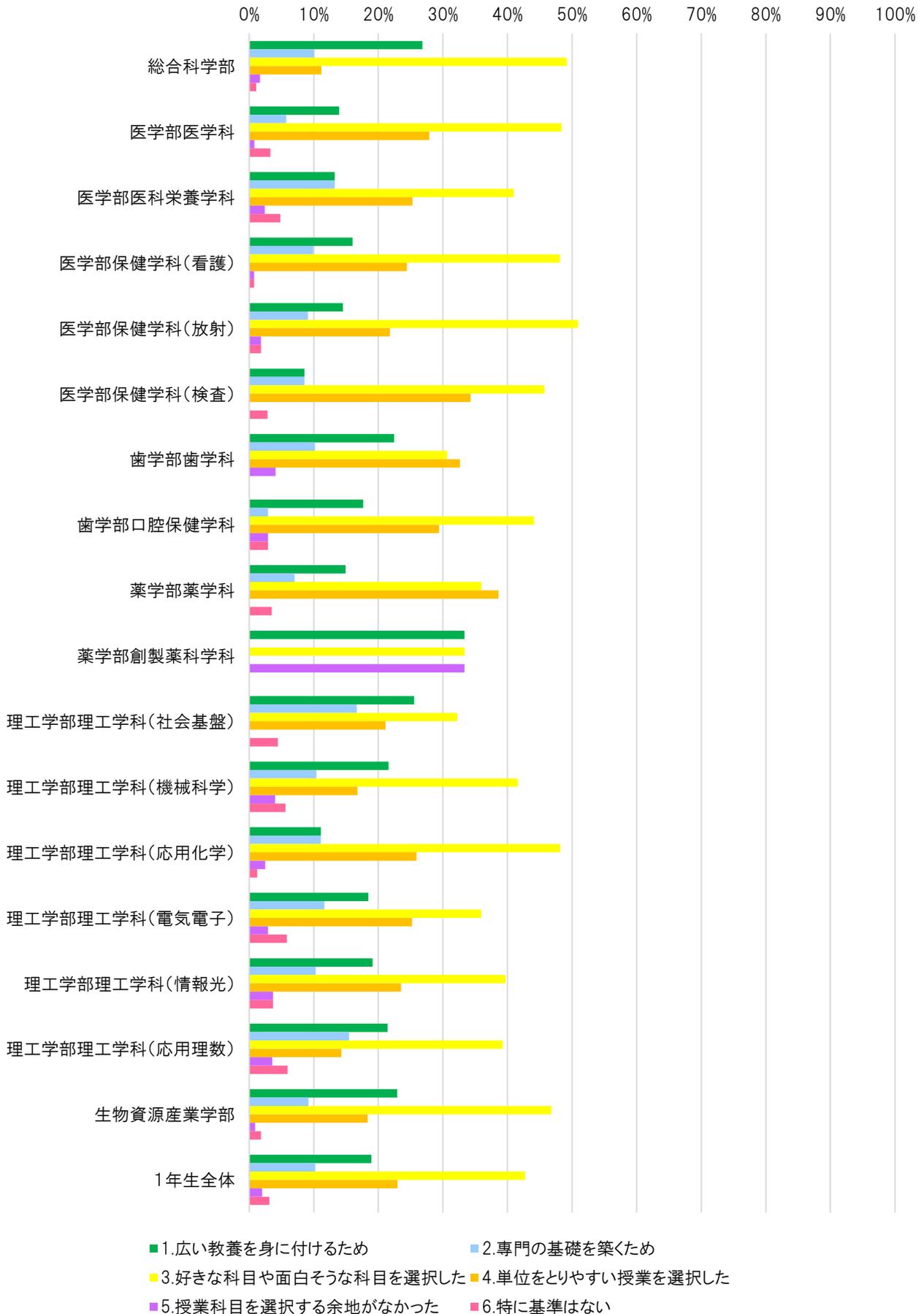
[99]大学での経験全般について



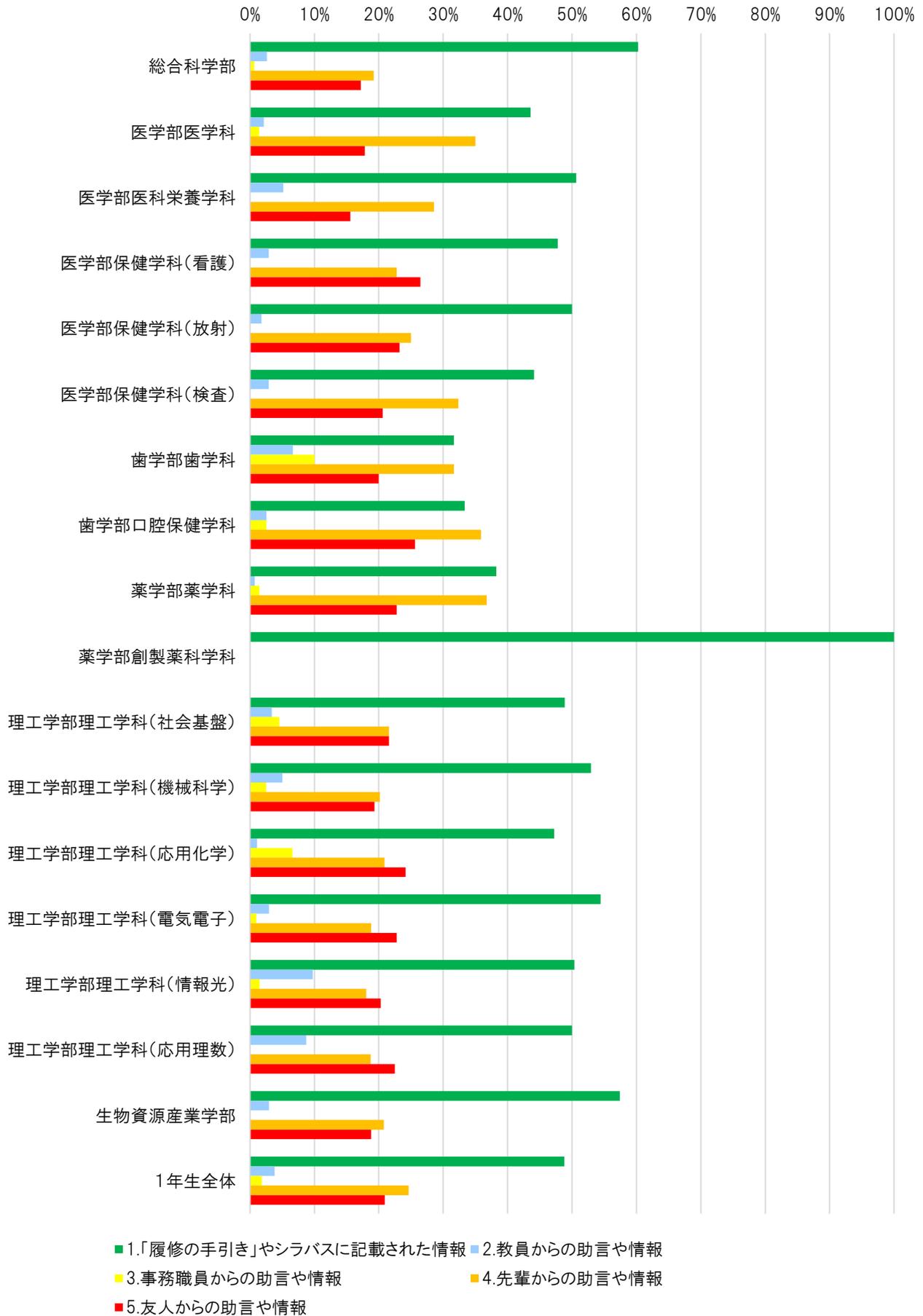
[100]1つの授業を履修する学生数



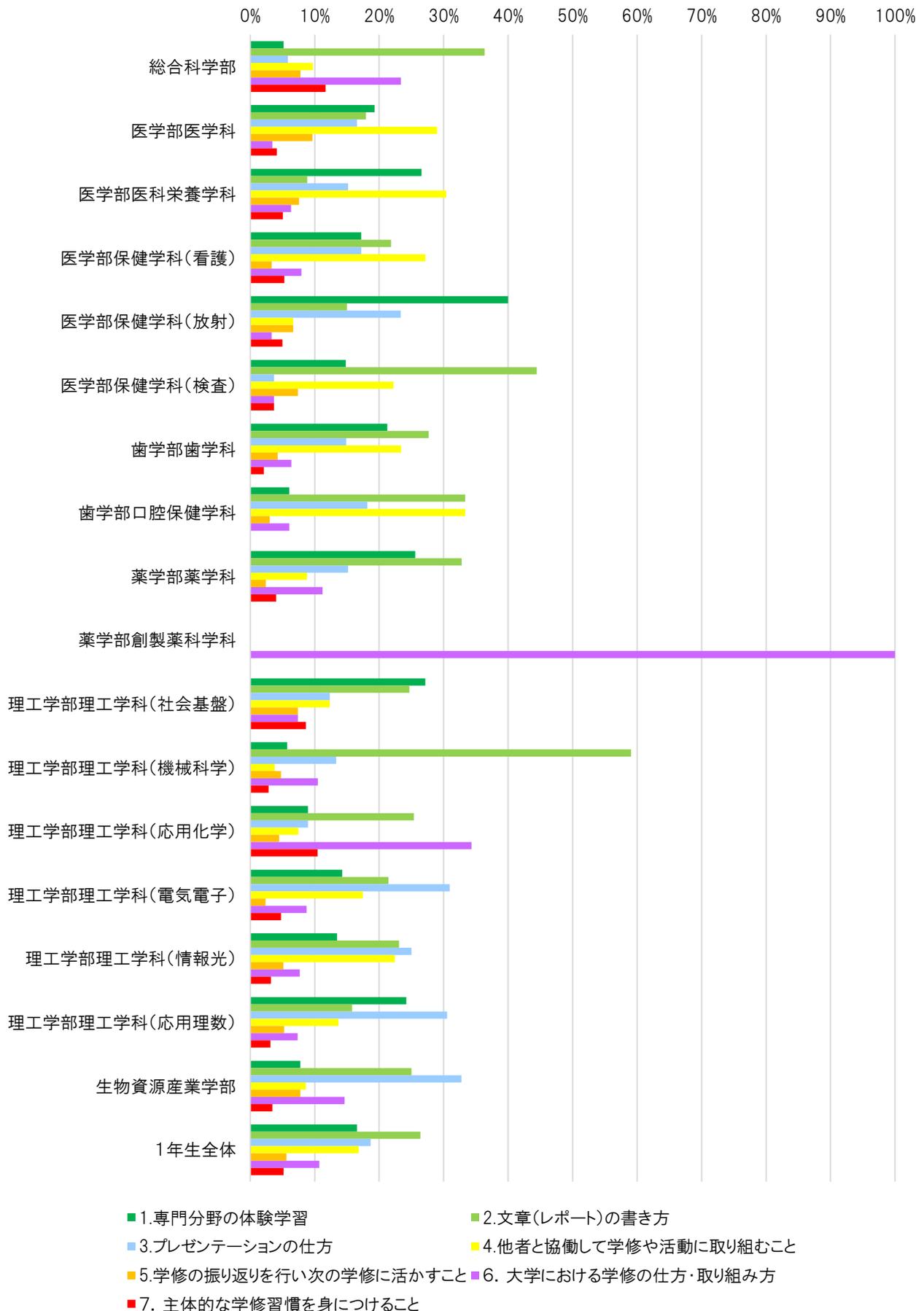
〔101〕 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



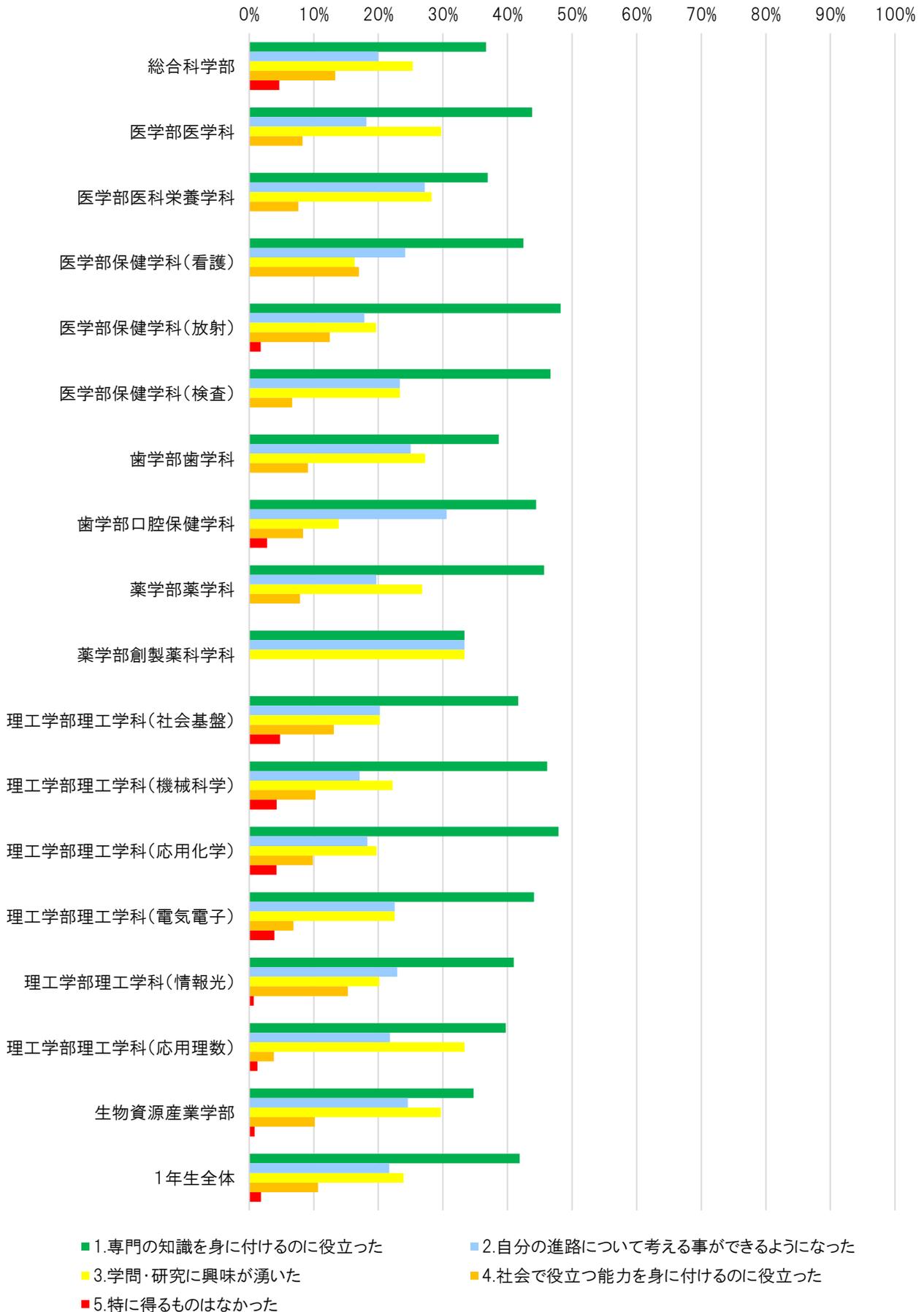
〔102〕 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



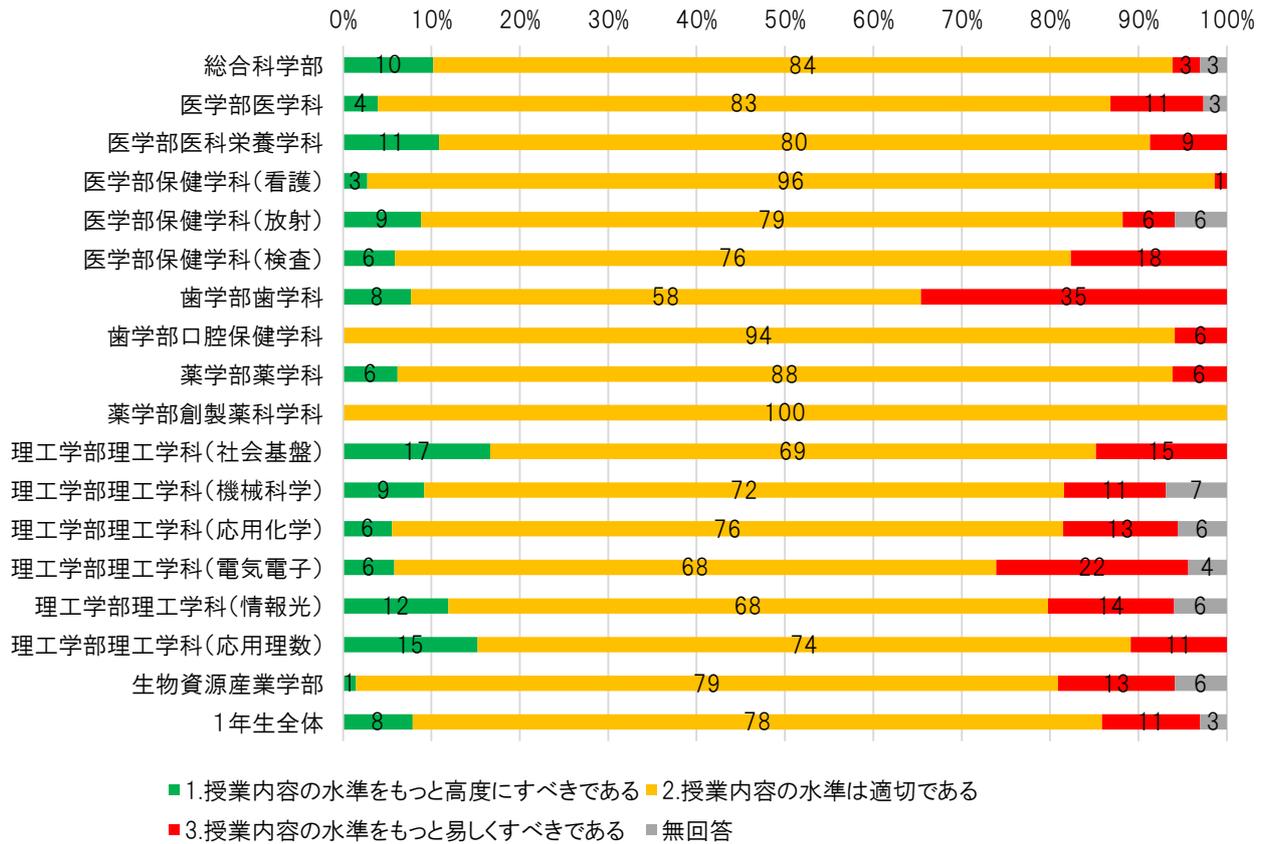
〔103〕 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



〔104〕 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか。(複数回答可)

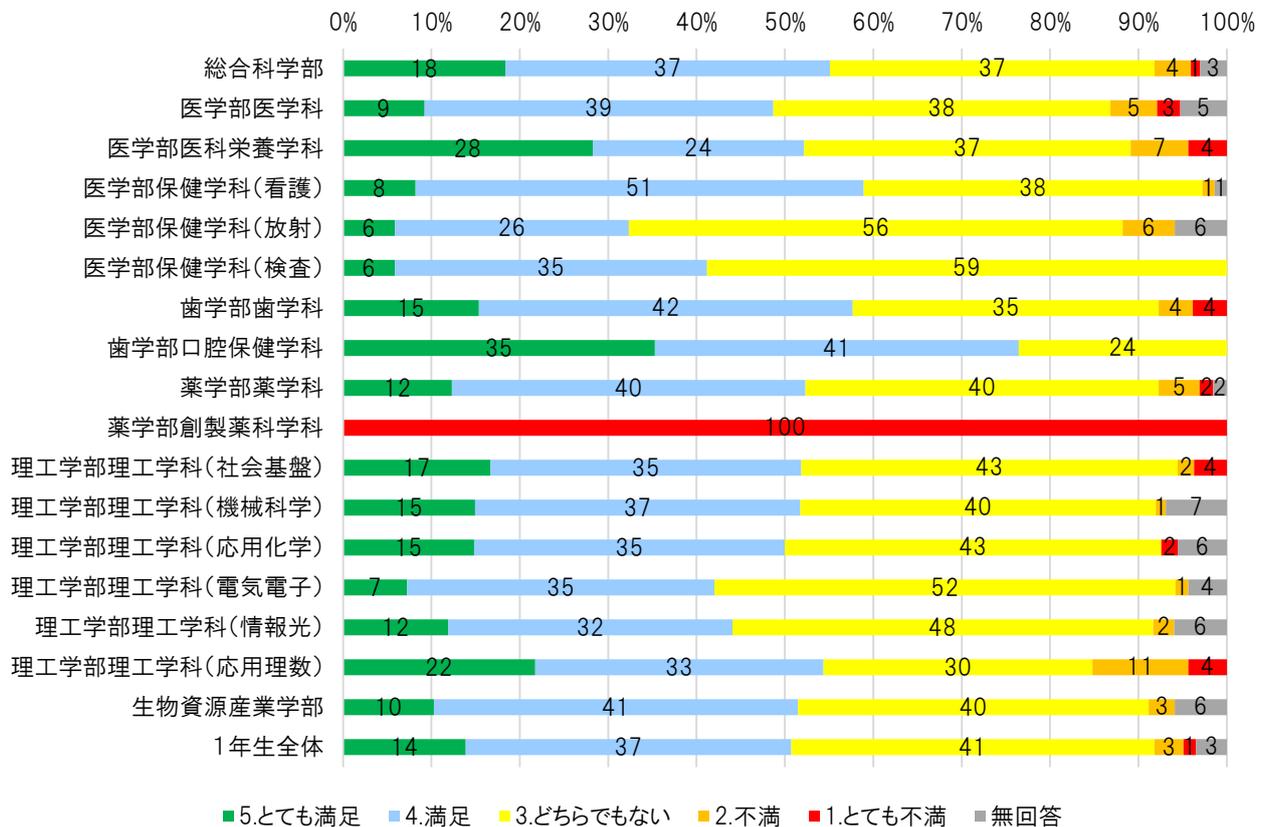


〔105〕 授業内容の難易度についてどう思いますか。

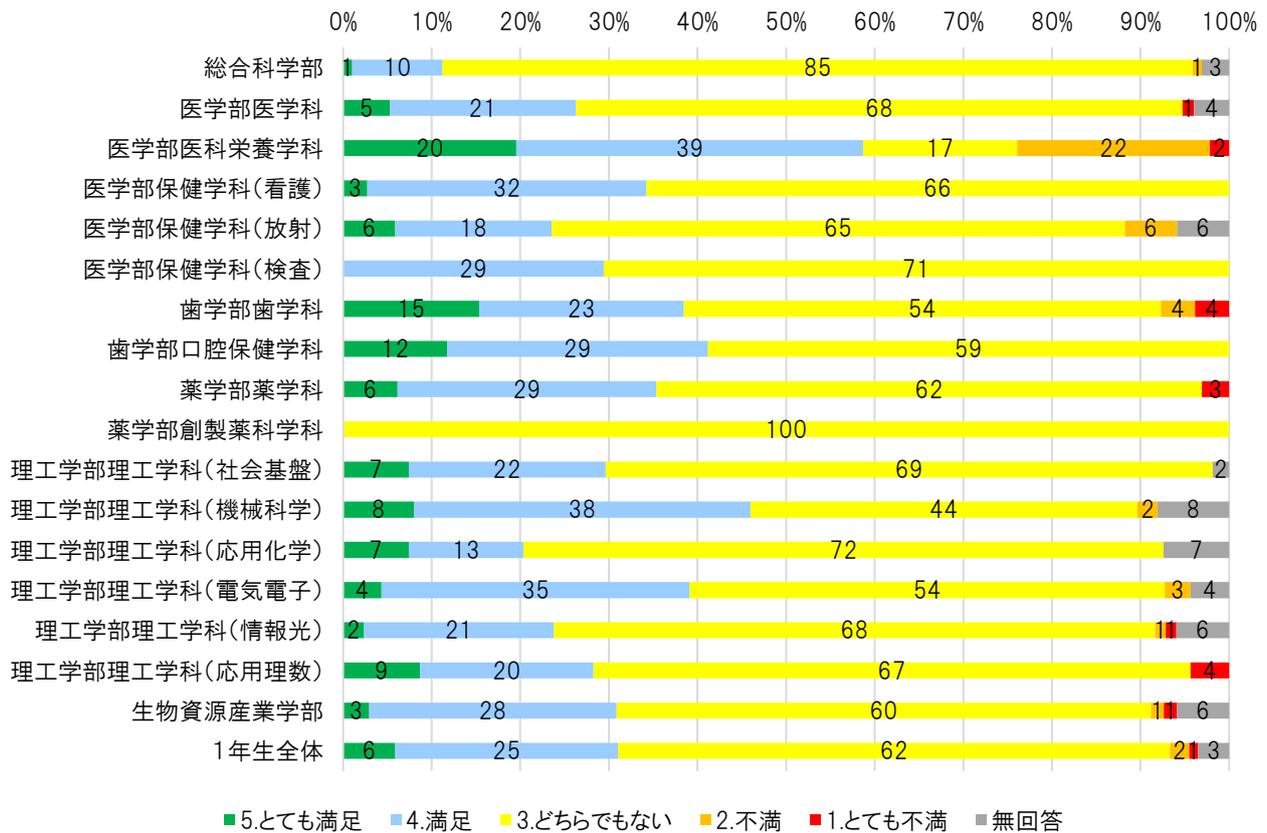


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

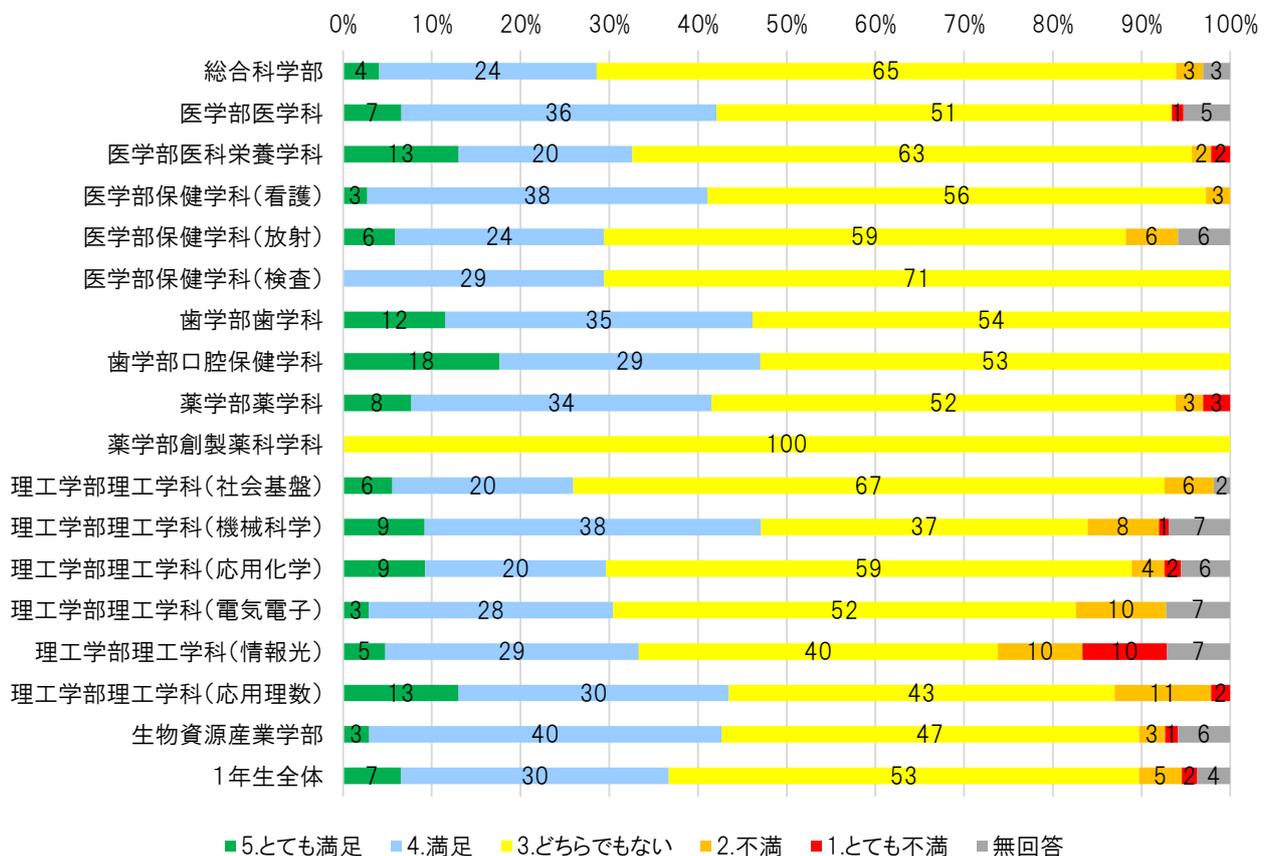
〔106〕 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



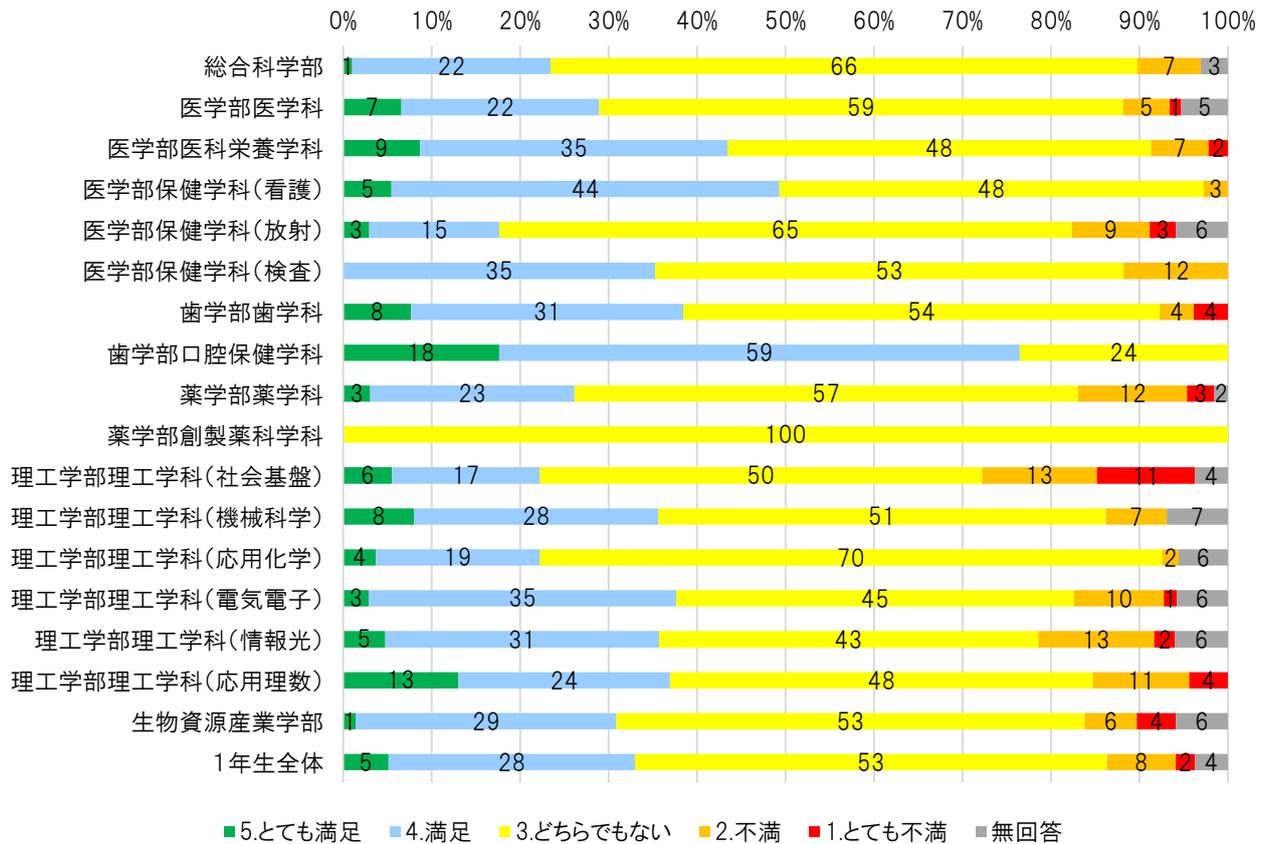
〔107〕 実験室の設備や器具



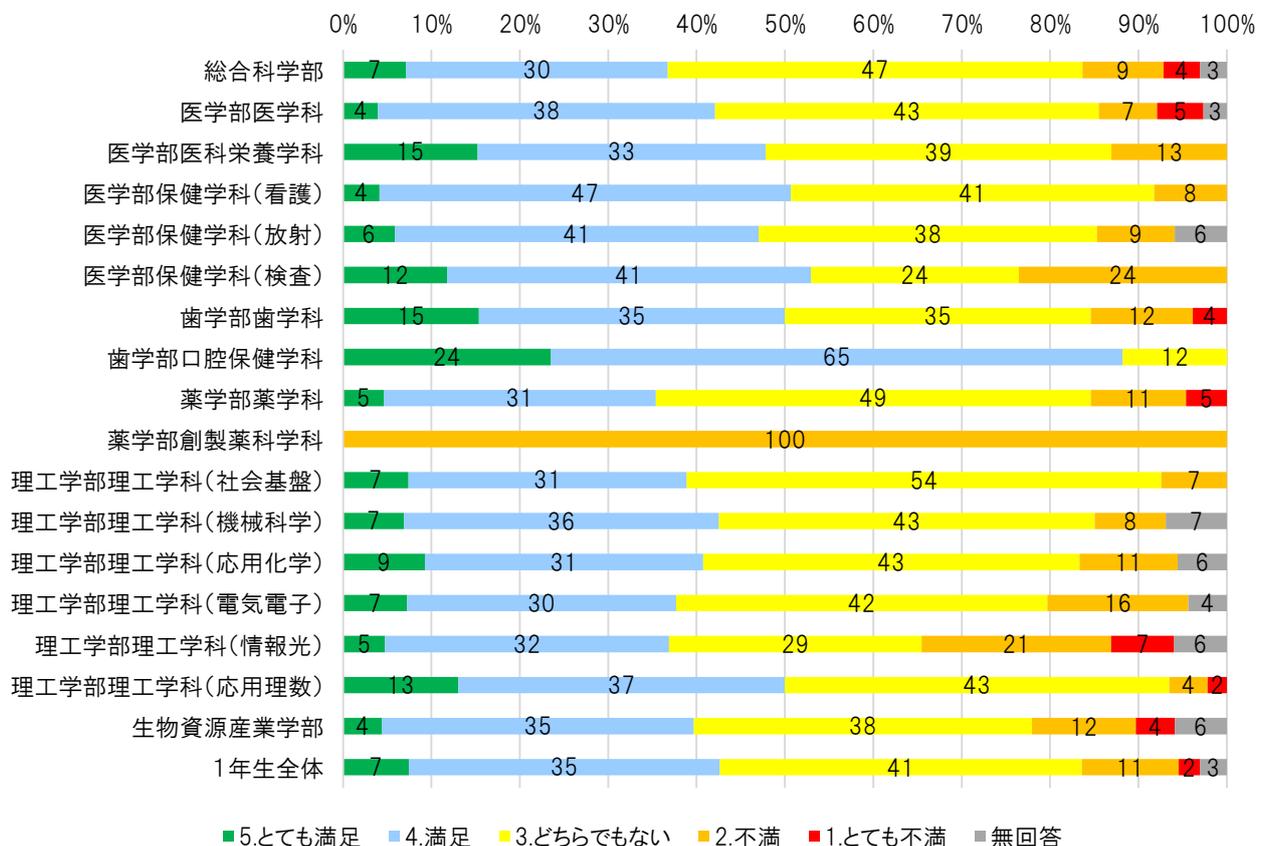
〔108〕 コンピュータの施設や設備



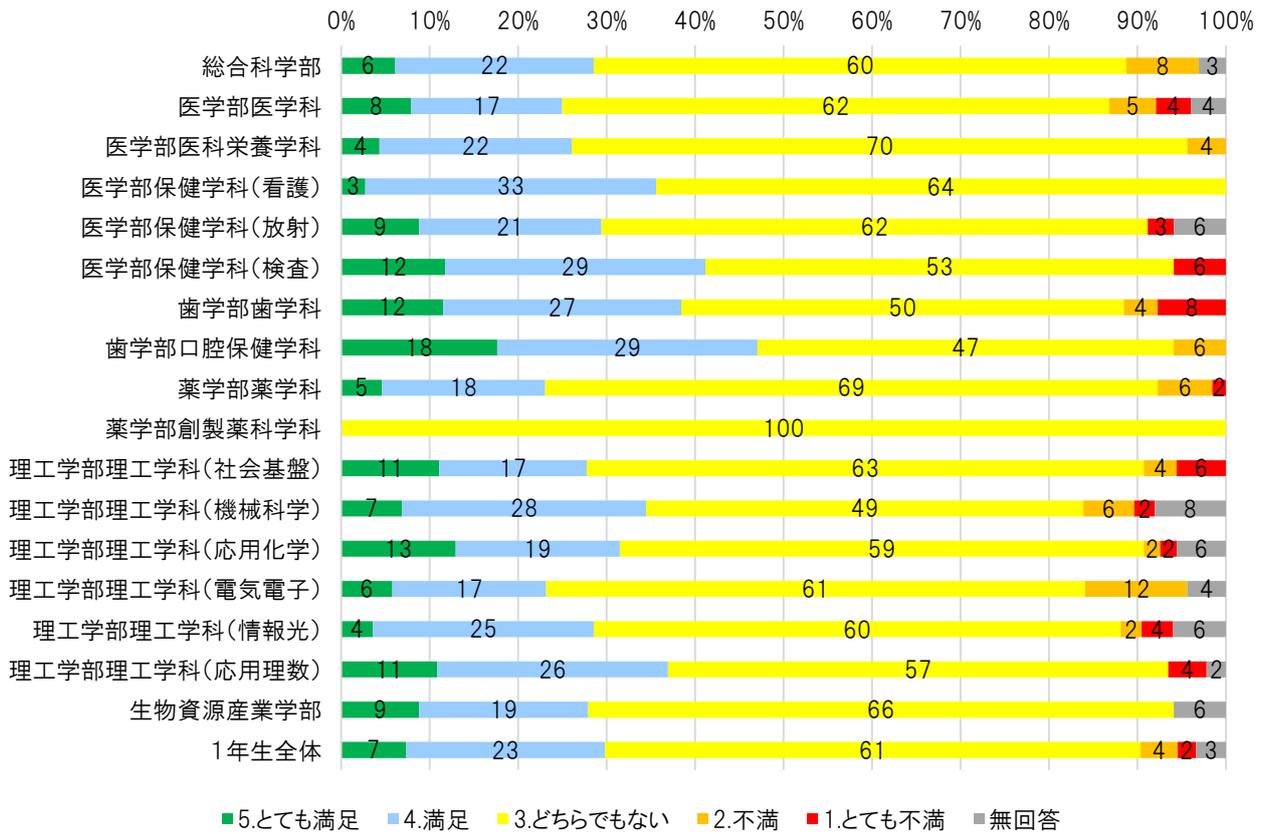
〔109〕 コンピュータの訓練や援助



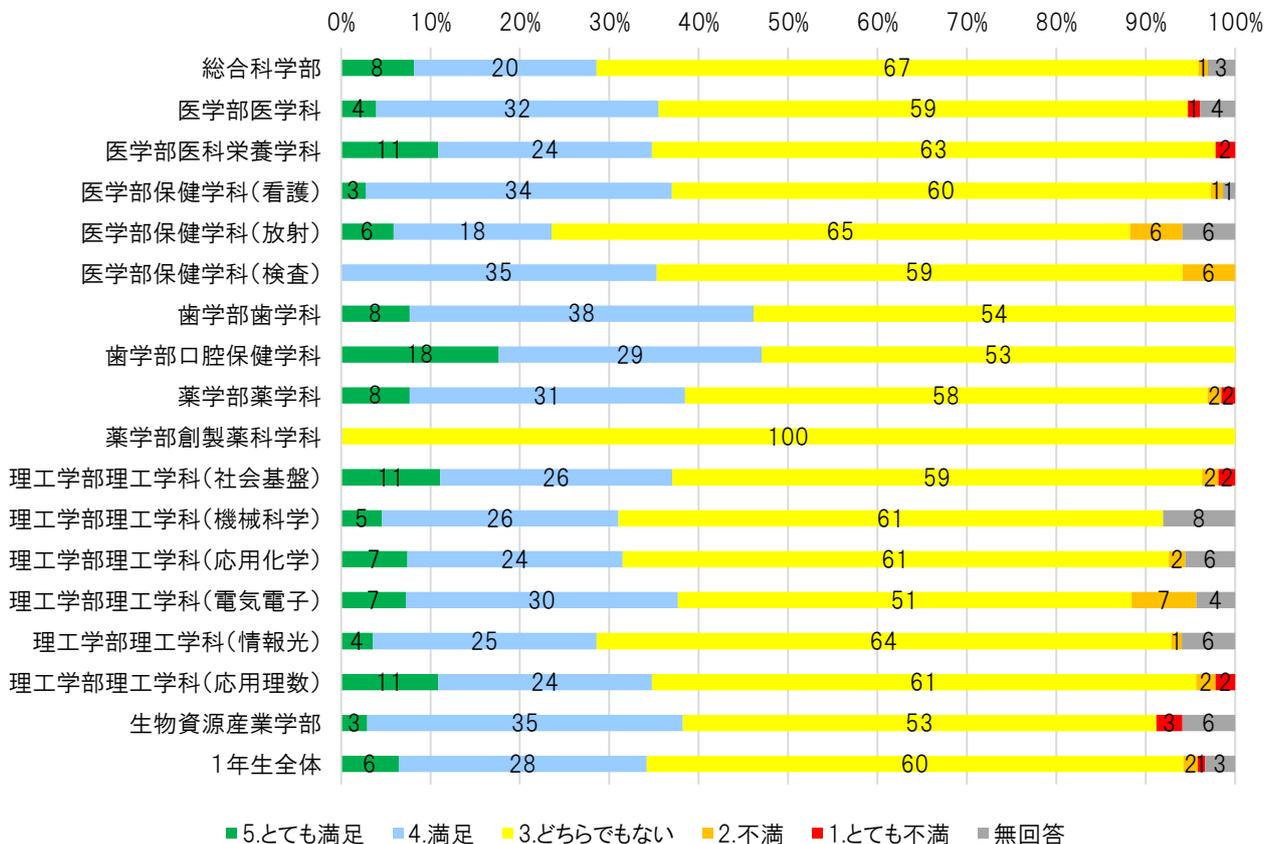
〔110〕 インターネットの使いやすさ



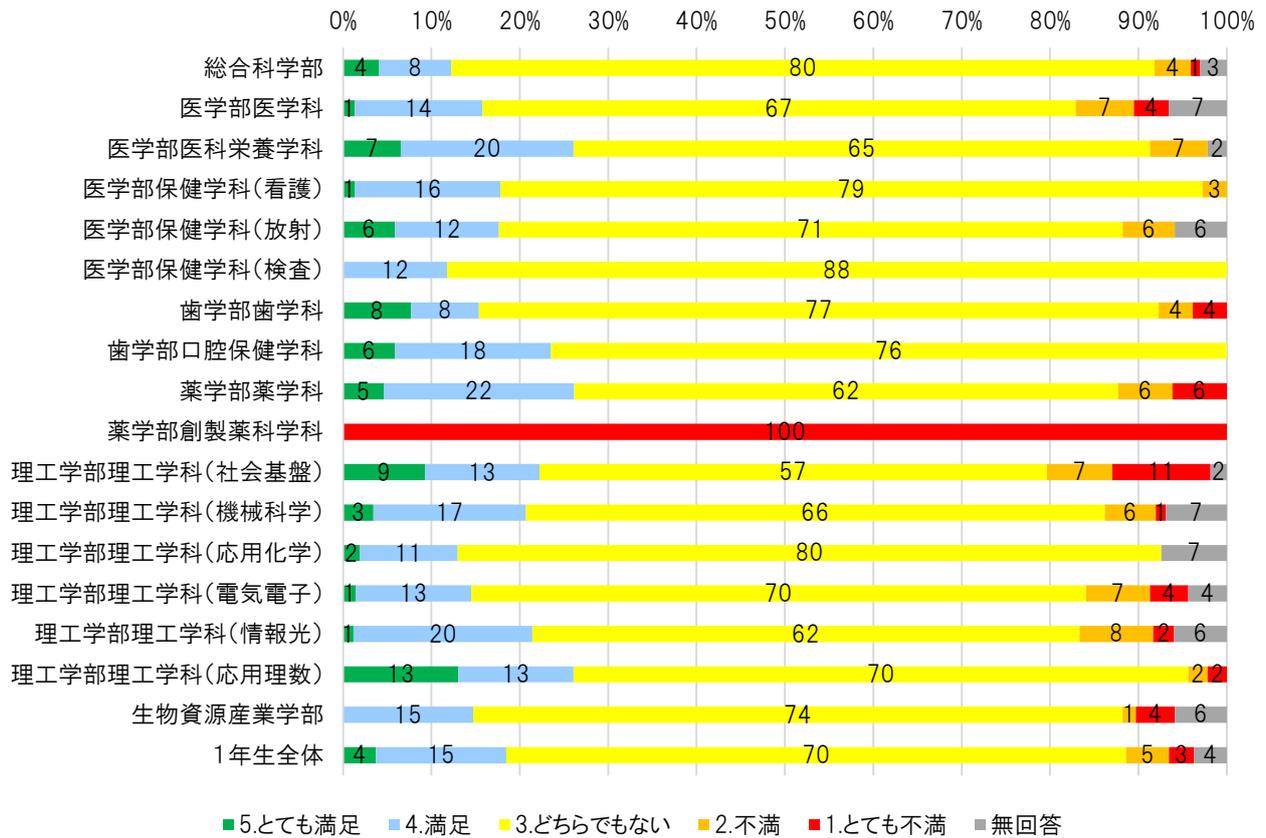
〔111〕 奨学金など学費援助の制度



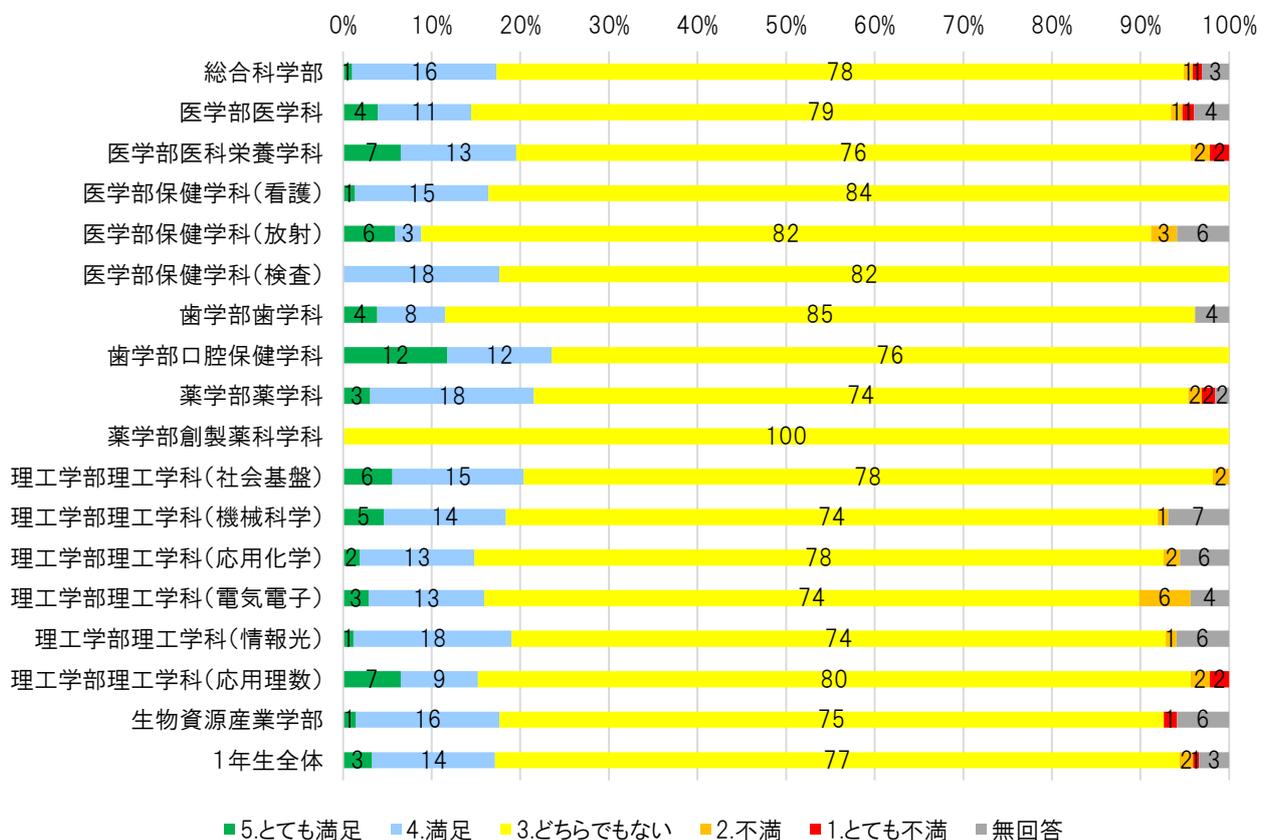
〔112〕 健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



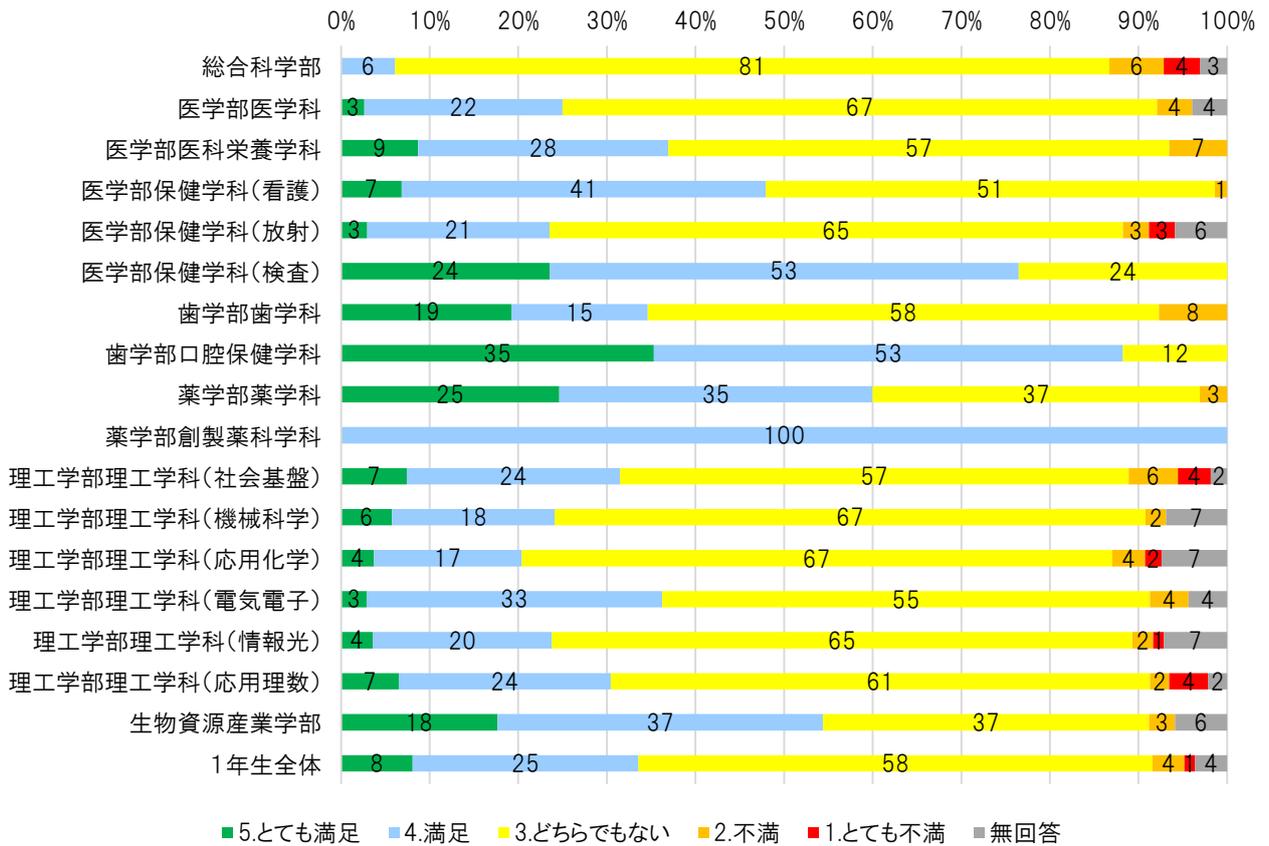
〔113〕 レクリエーション施設(ジムの設備など)



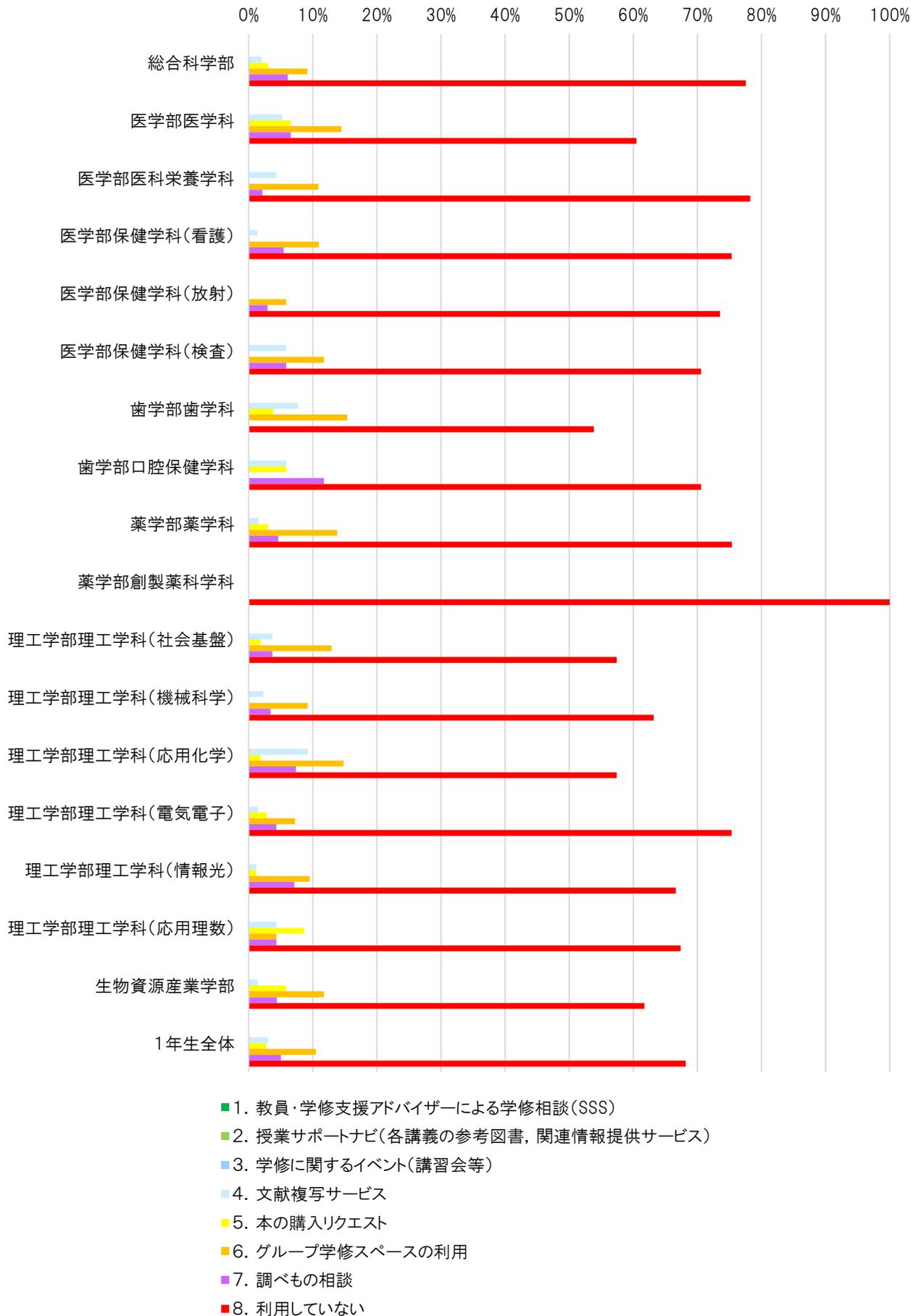
〔114〕 キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



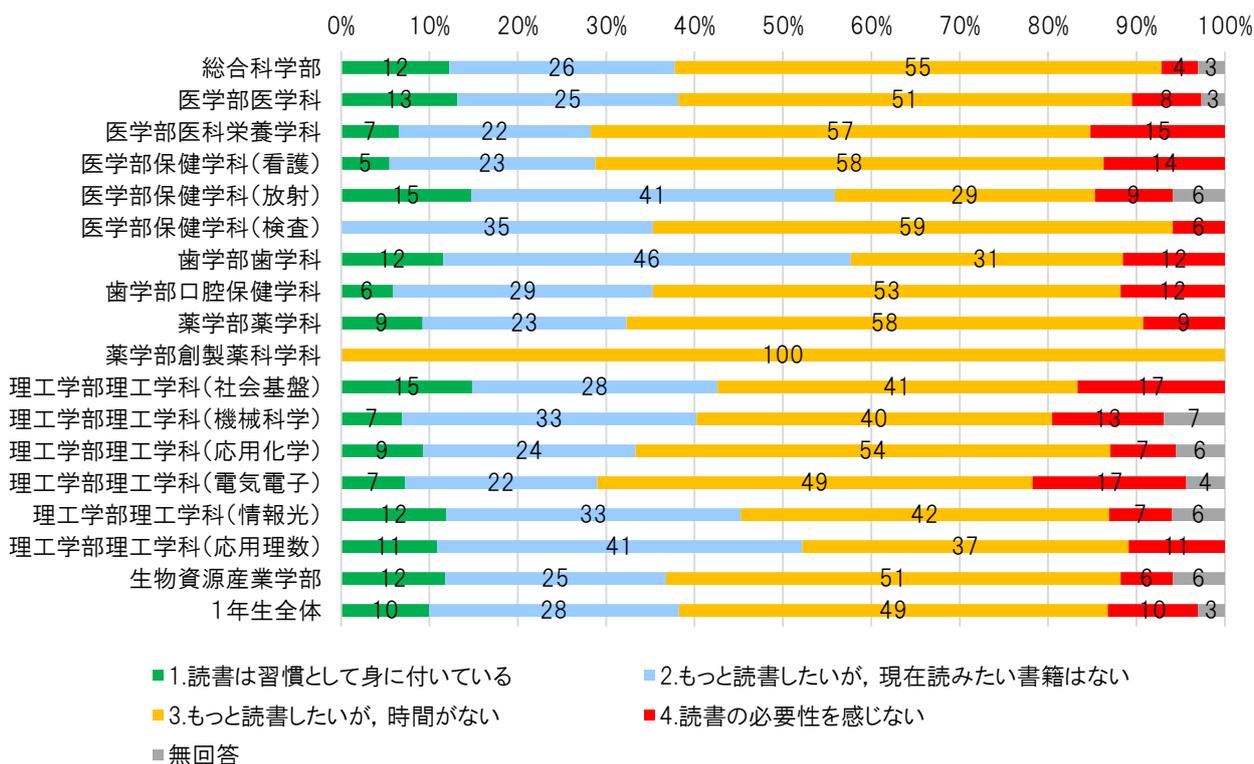
〔115〕 クラス担任制度



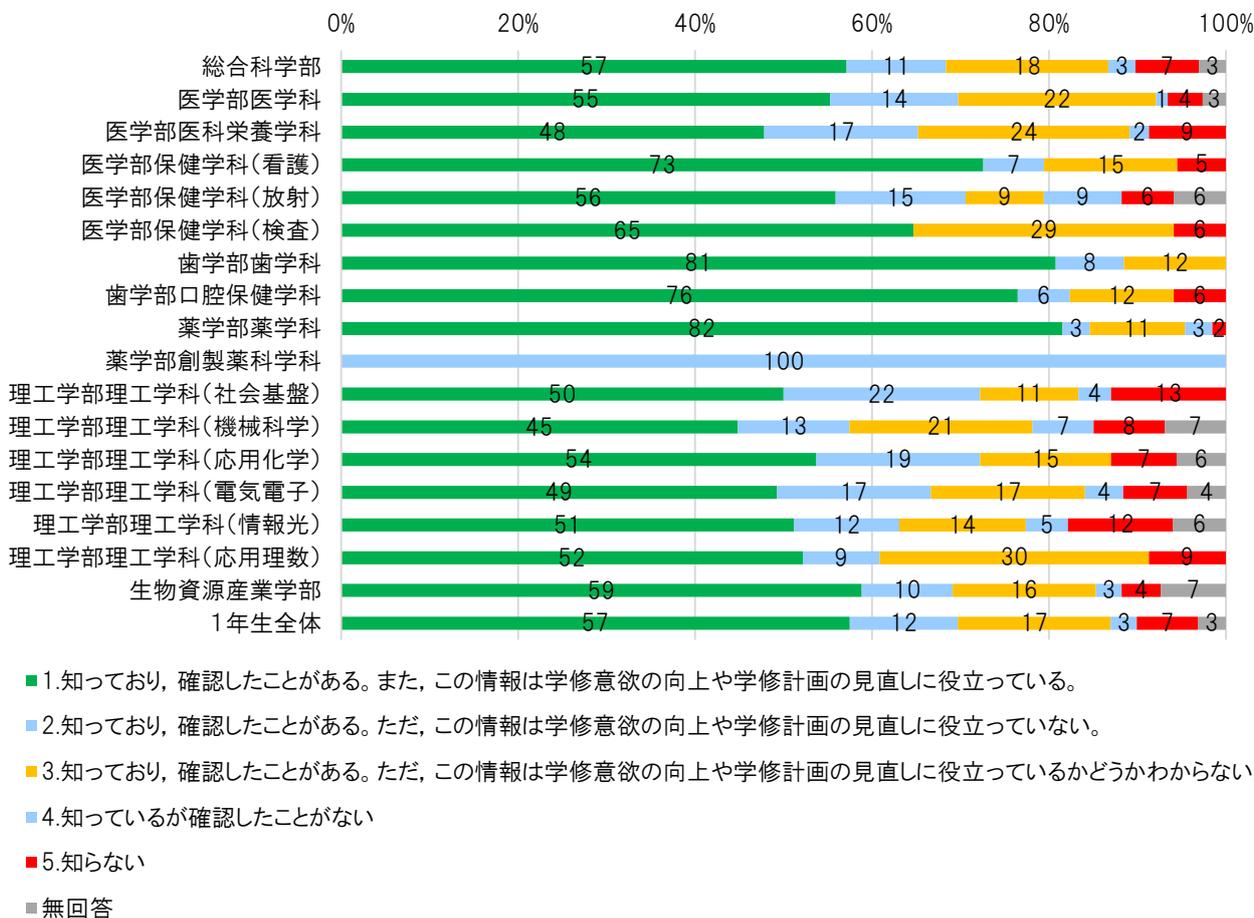
〔116〕 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



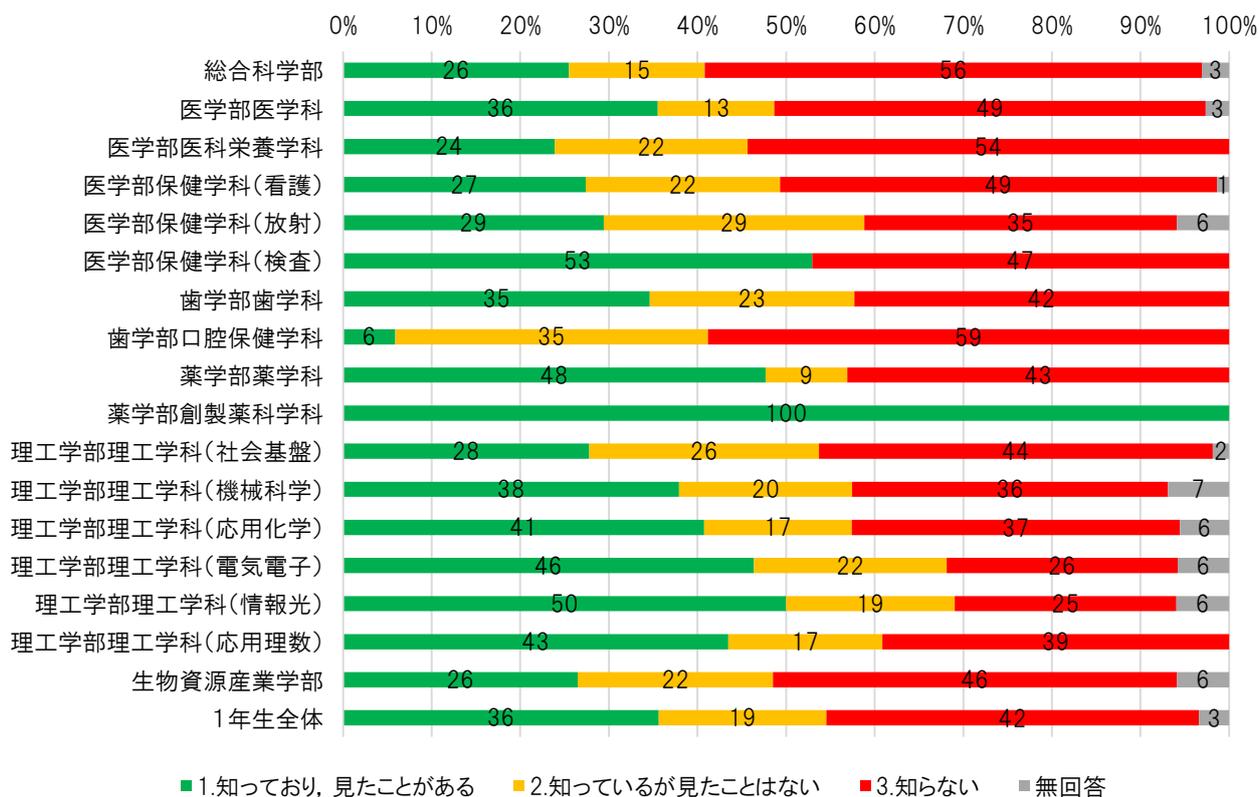
〔117〕 あなたは、読書についてどのように考えていますか。



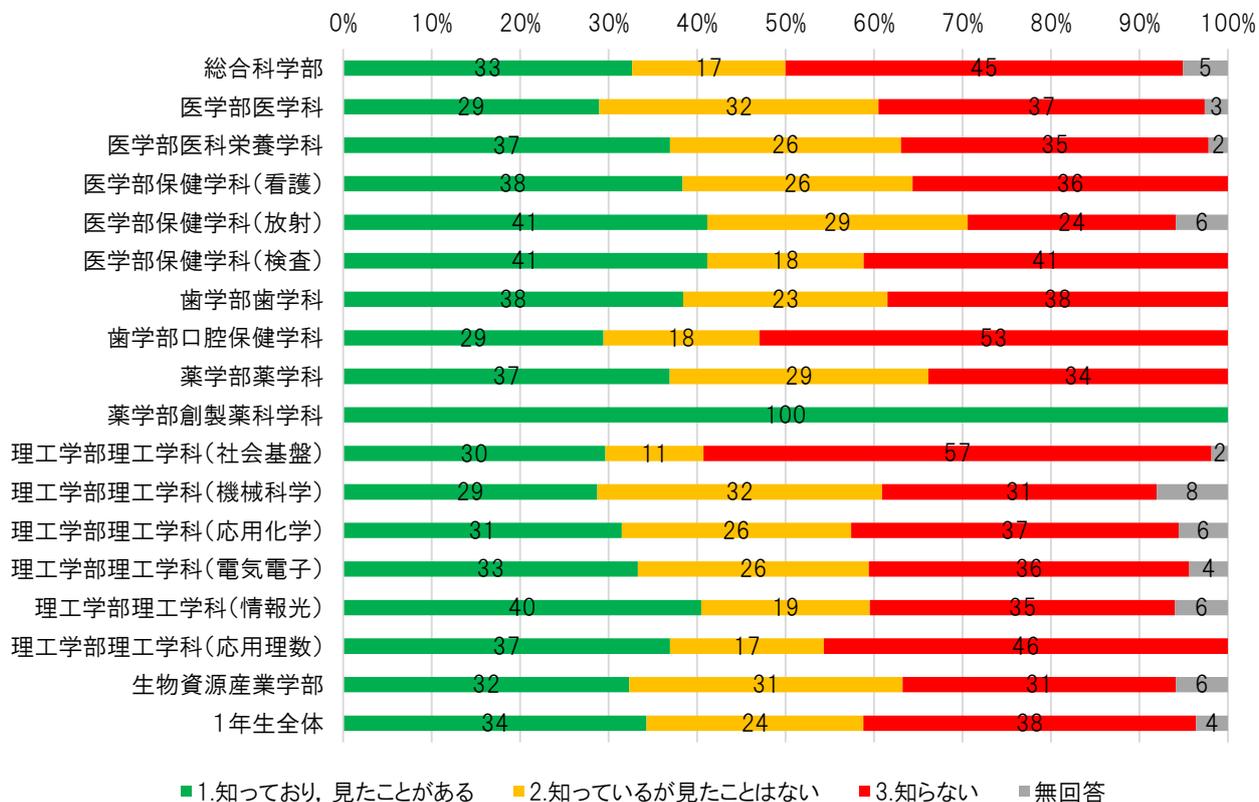
〔118〕 徳島大学では、履修者が 11 名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか



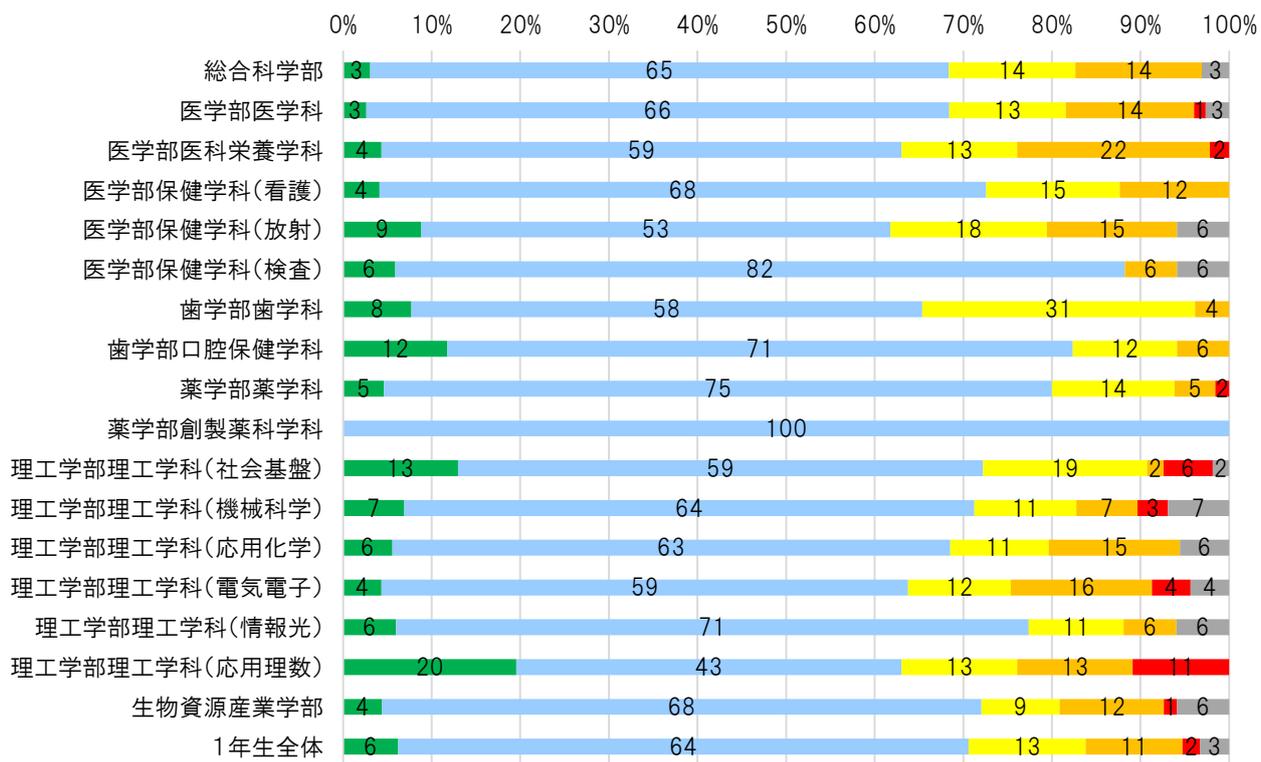
〔119〕 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



〔120〕 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

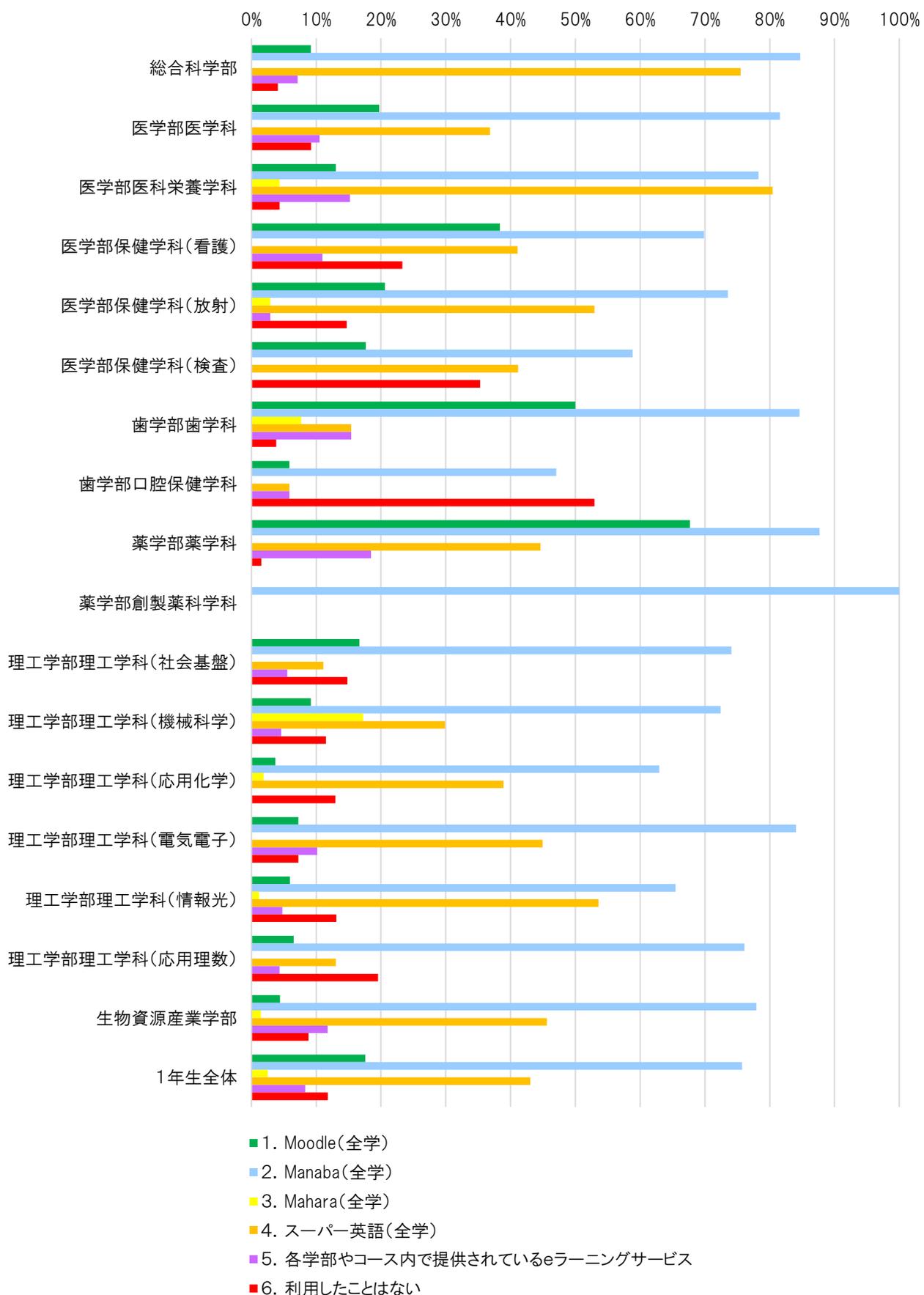


〔121〕 シラバスはどのように利用していますか。



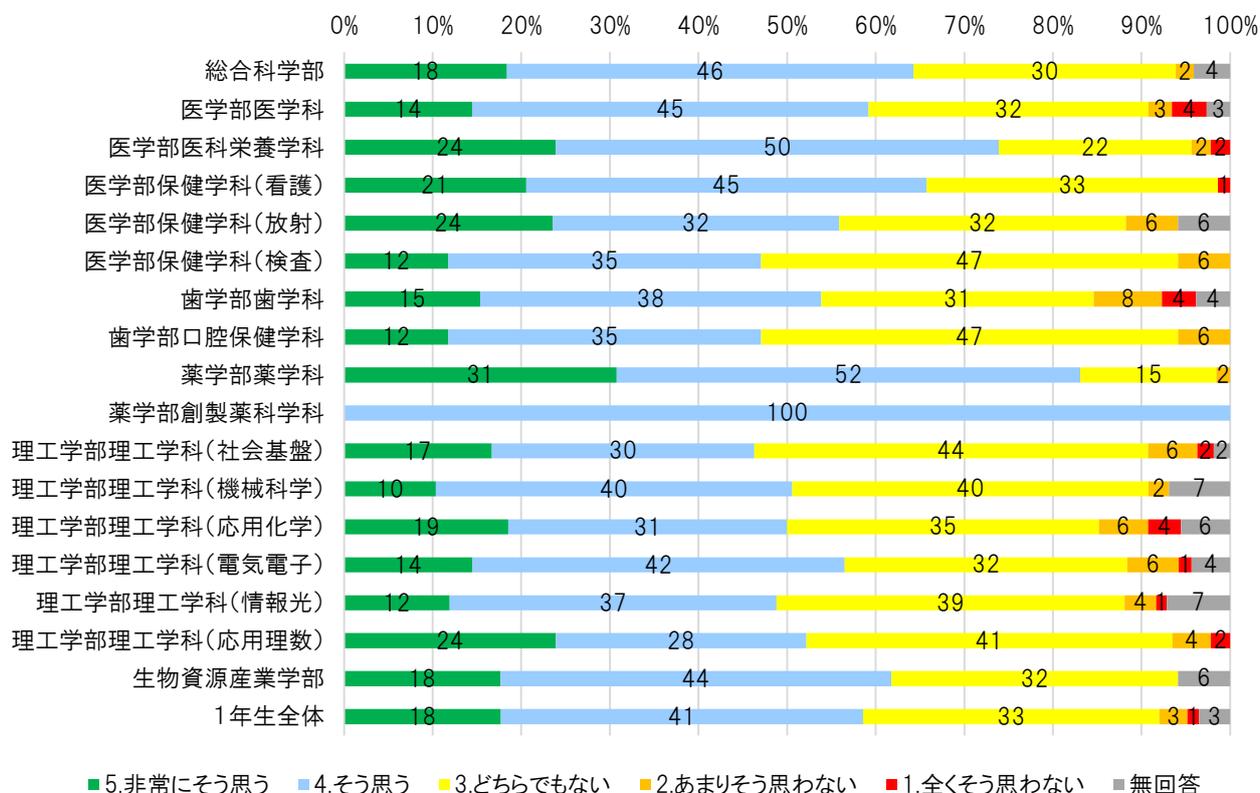
- 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
- 2. 気になった時に時々確認している
- 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 5. 全く見ていない
- 無回答

〔122〕 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)

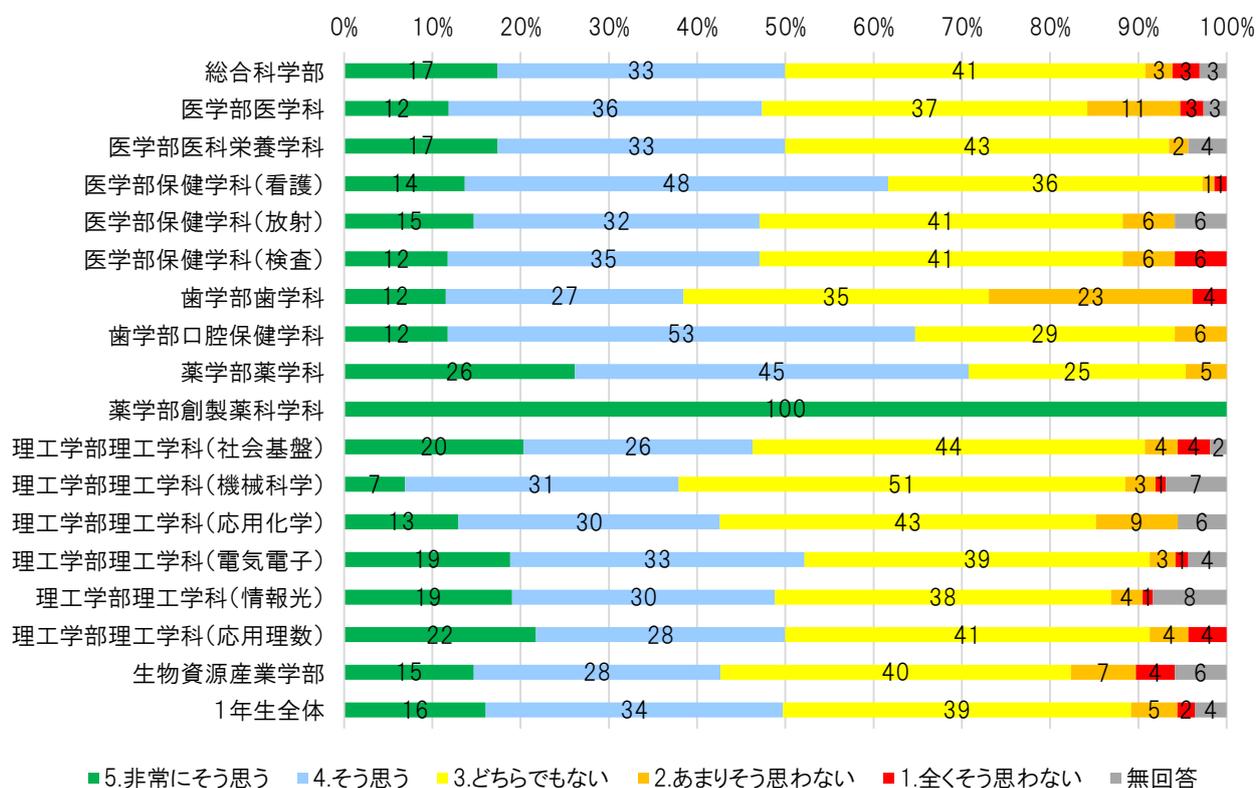


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

〔123〕 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

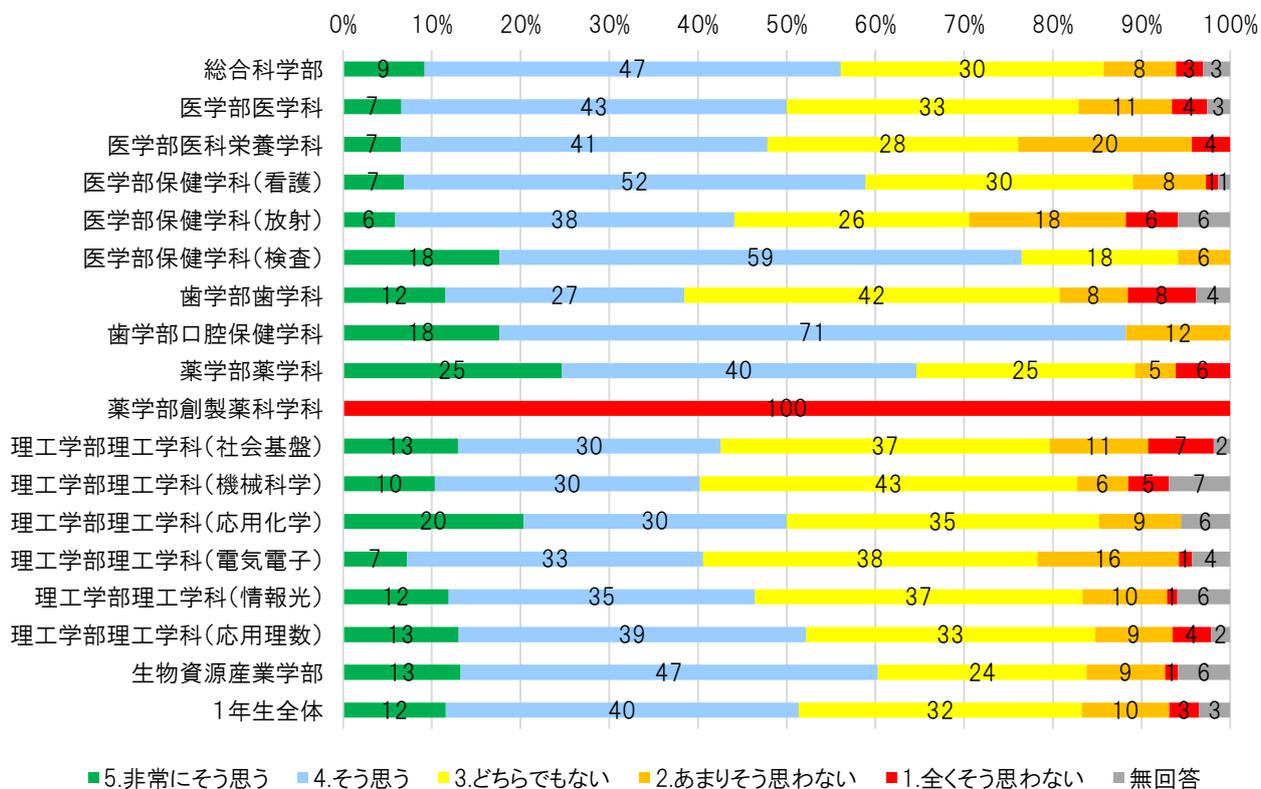


〔124〕 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

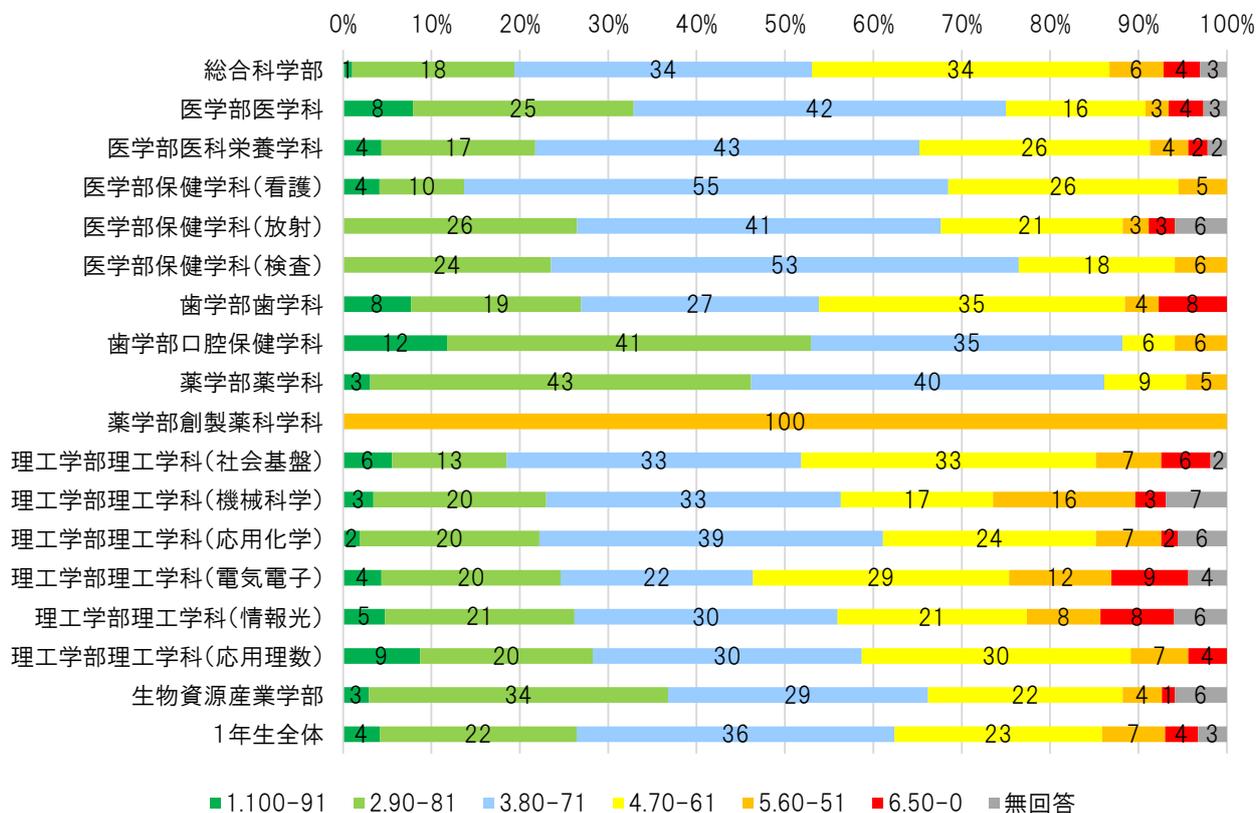


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

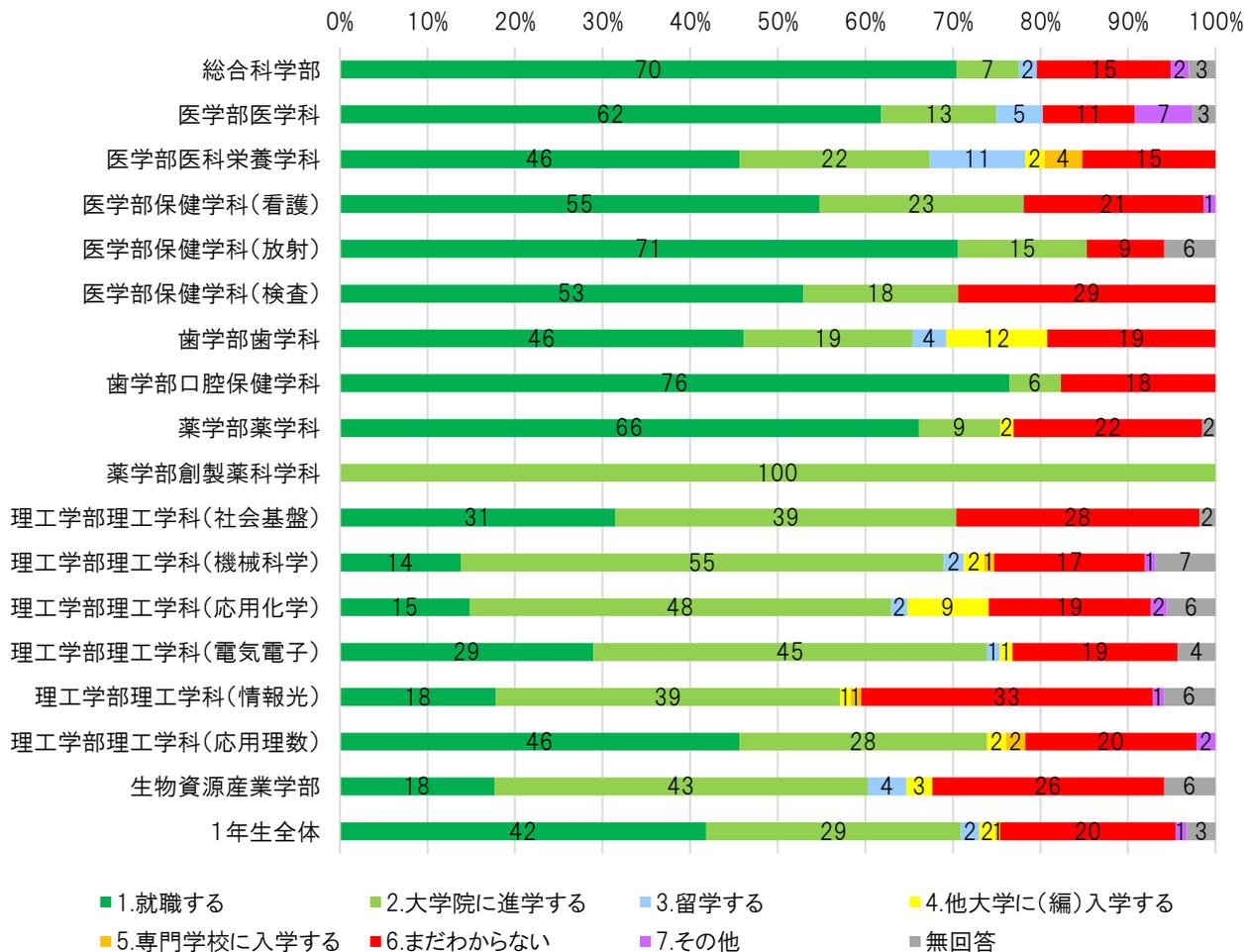
〔125〕 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である



〔126〕 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



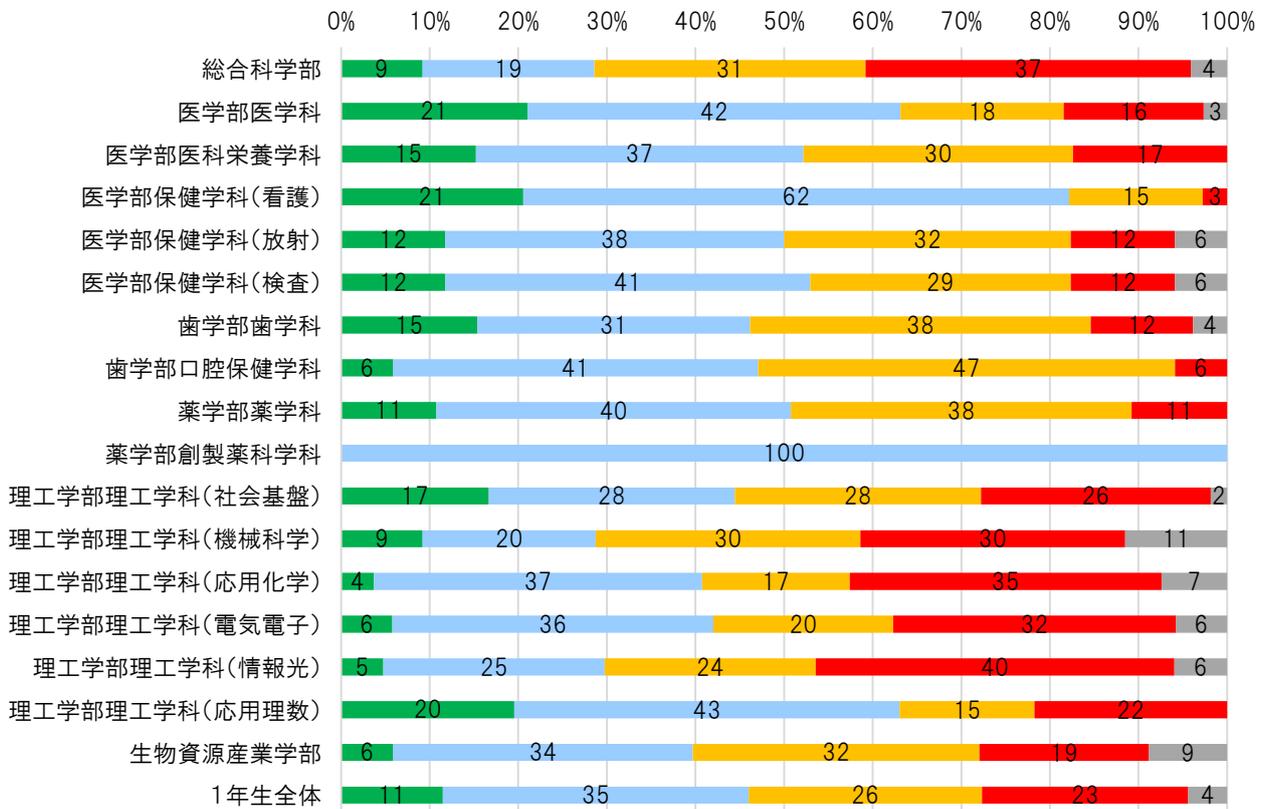
〔127〕 あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



〔128〕 将来の見通しに関する以下の 2 つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。

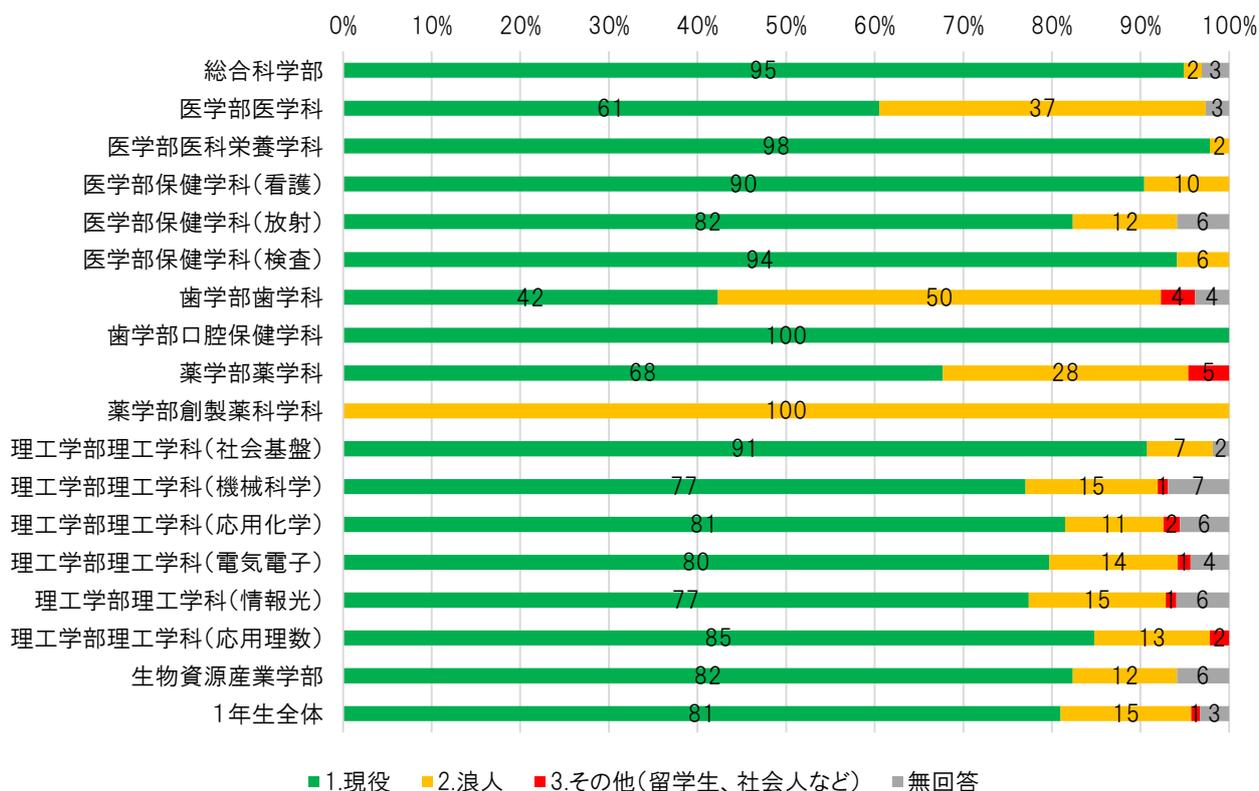
・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



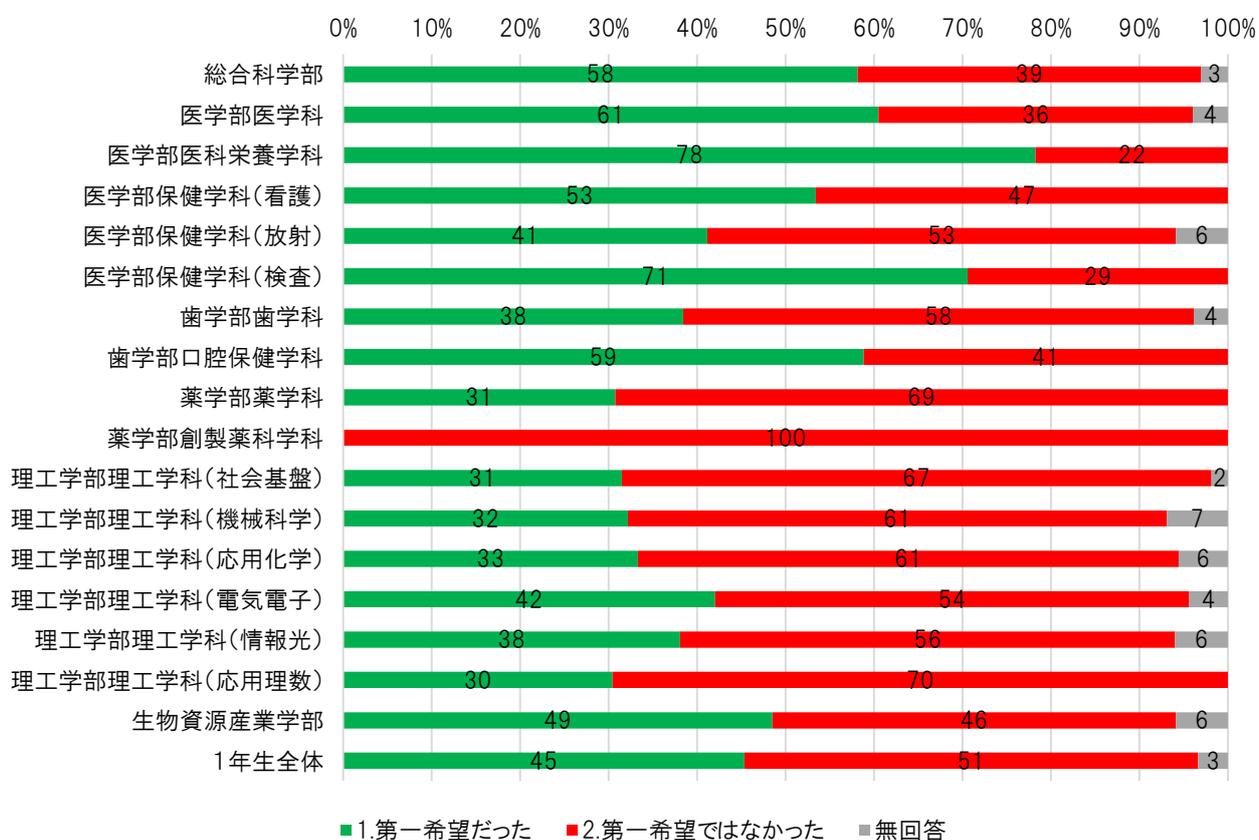
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

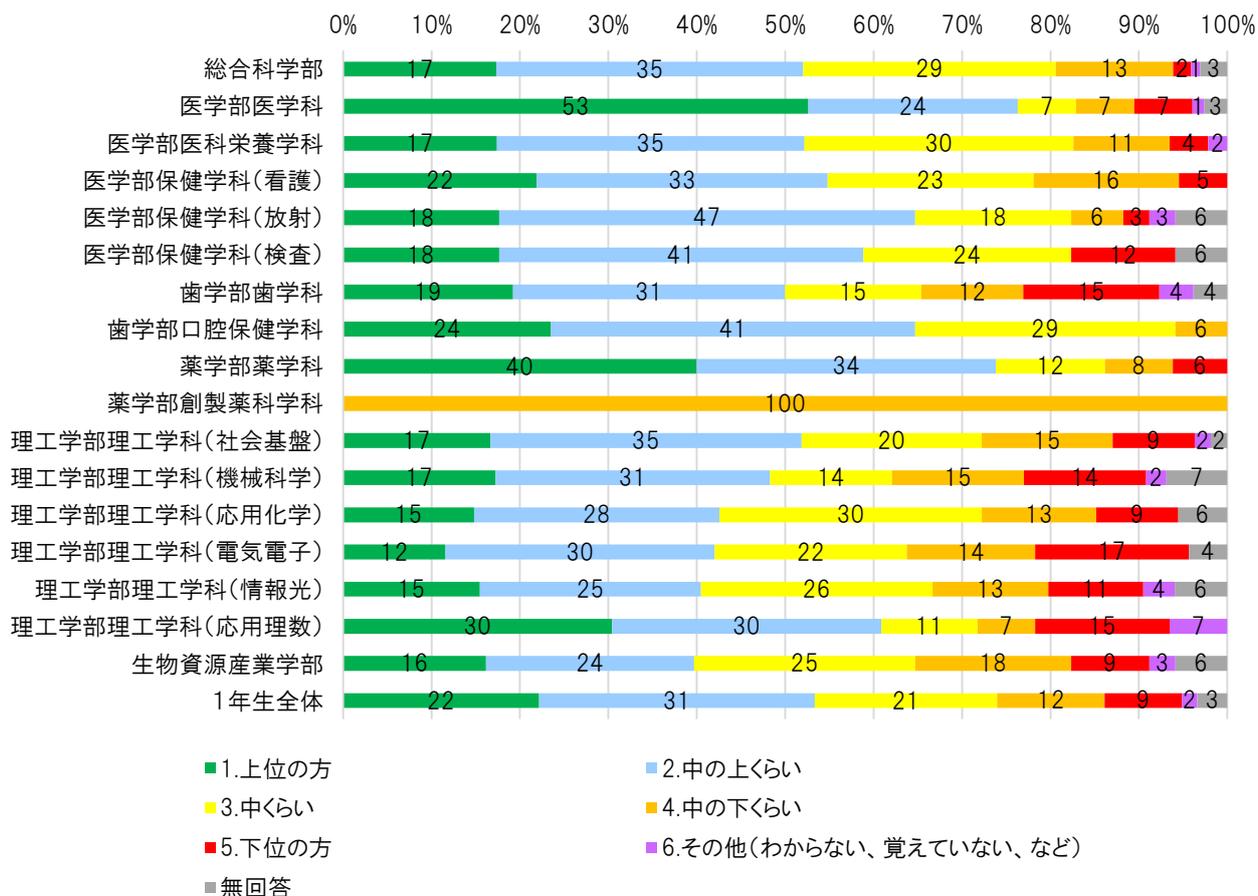
〔129〕 あなたは現役で本学に入学しましたが、それとも浪人しましたか。



〔130〕 あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

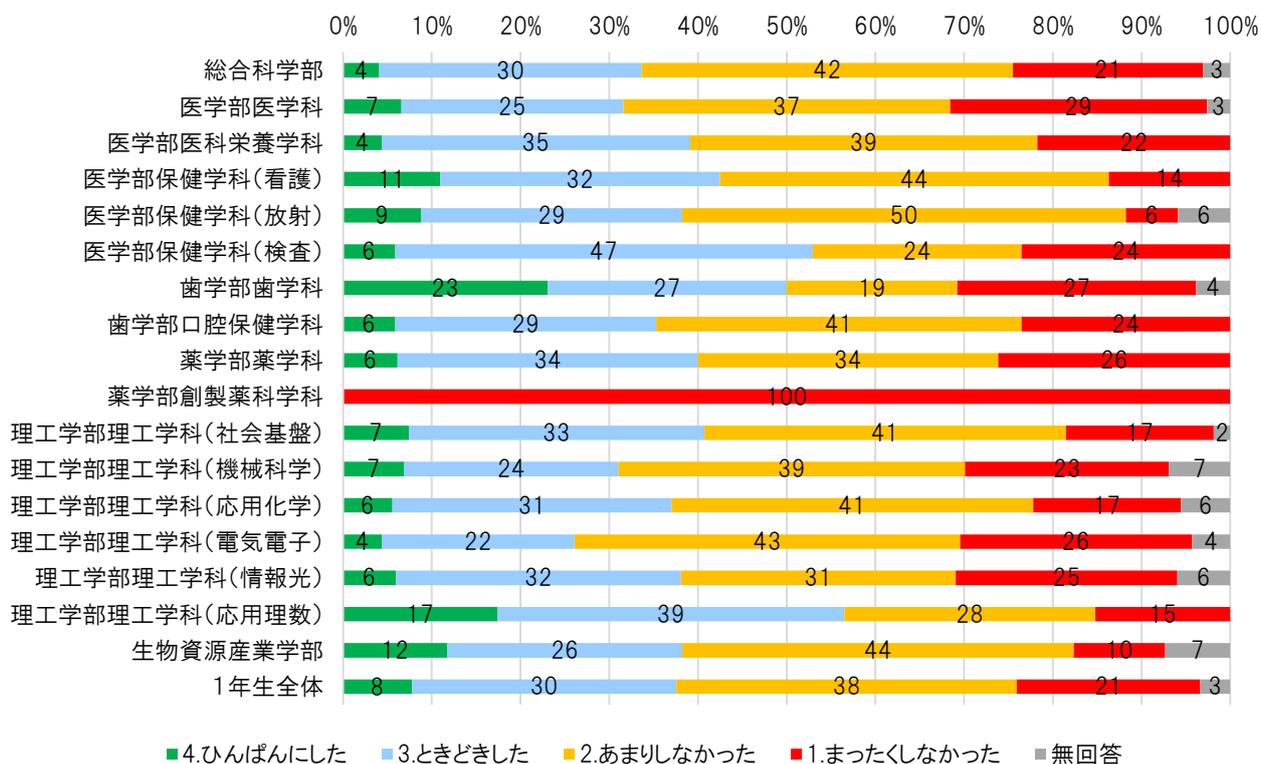


〔131〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

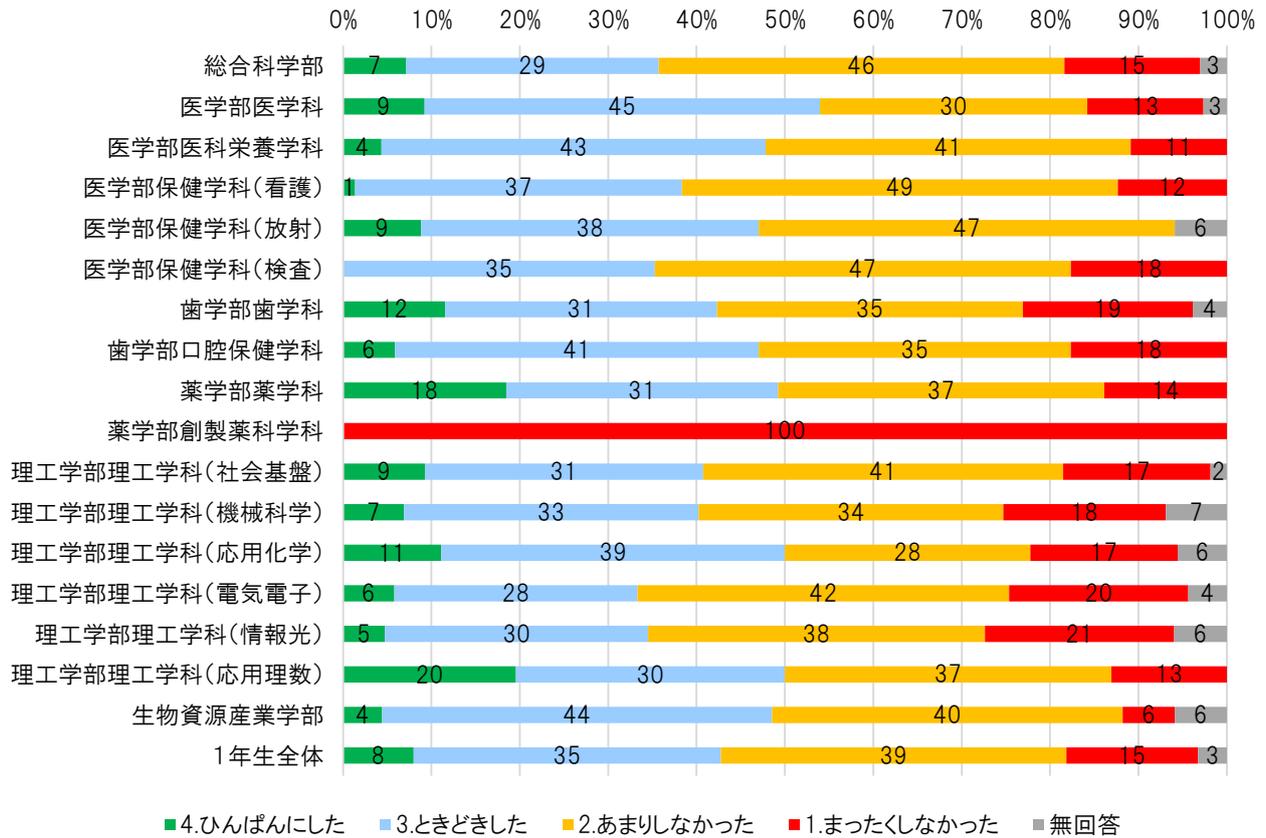


あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

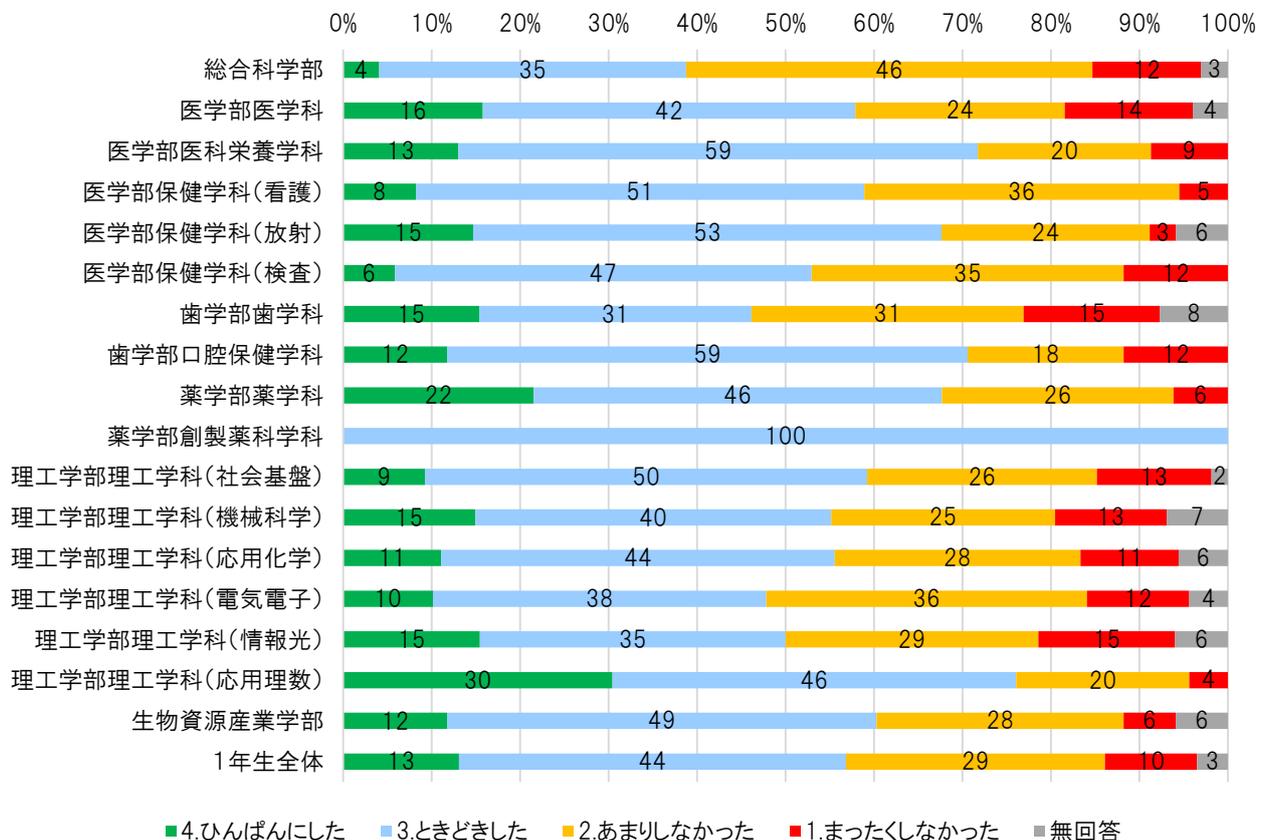
〔132〕 授業中に質問した



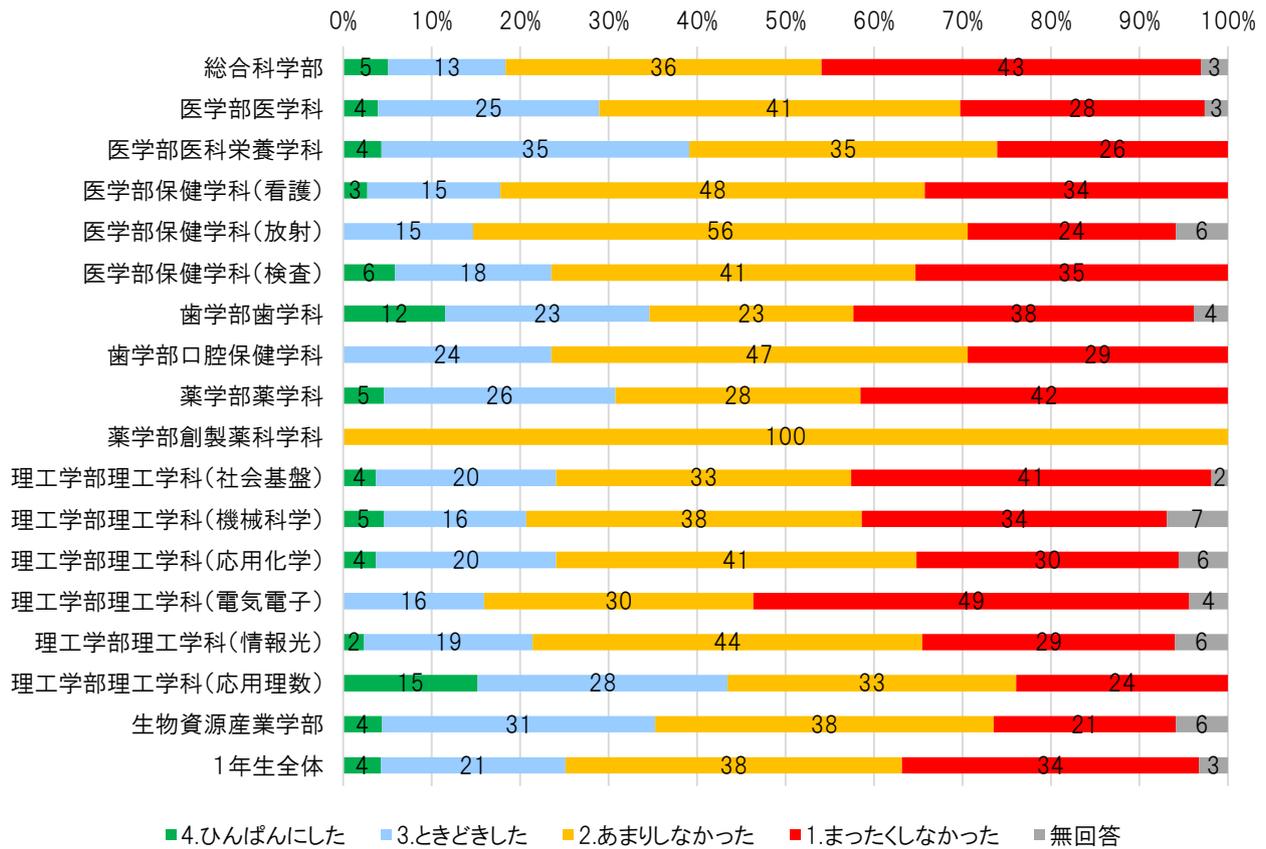
〔133〕 自分の意見を論理的に主張した



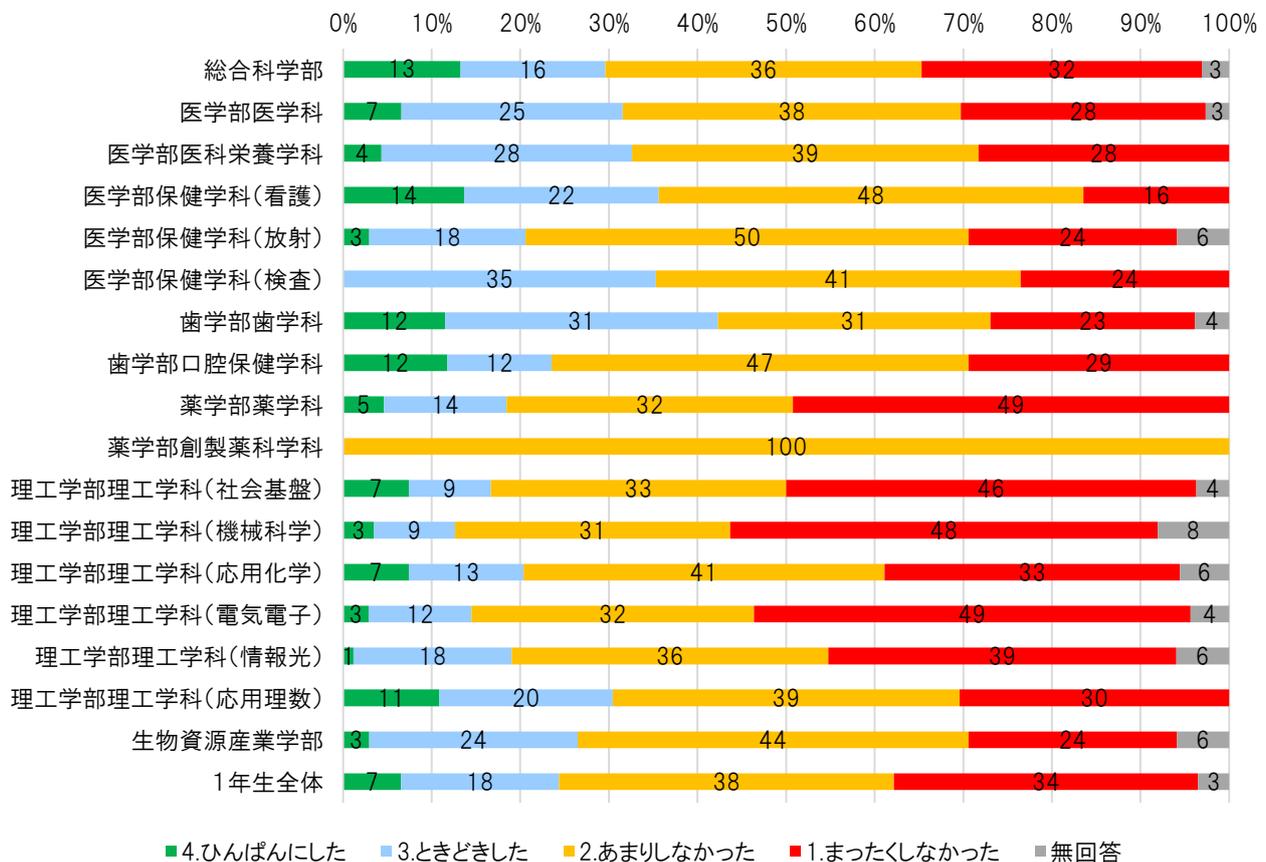
〔134〕 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した



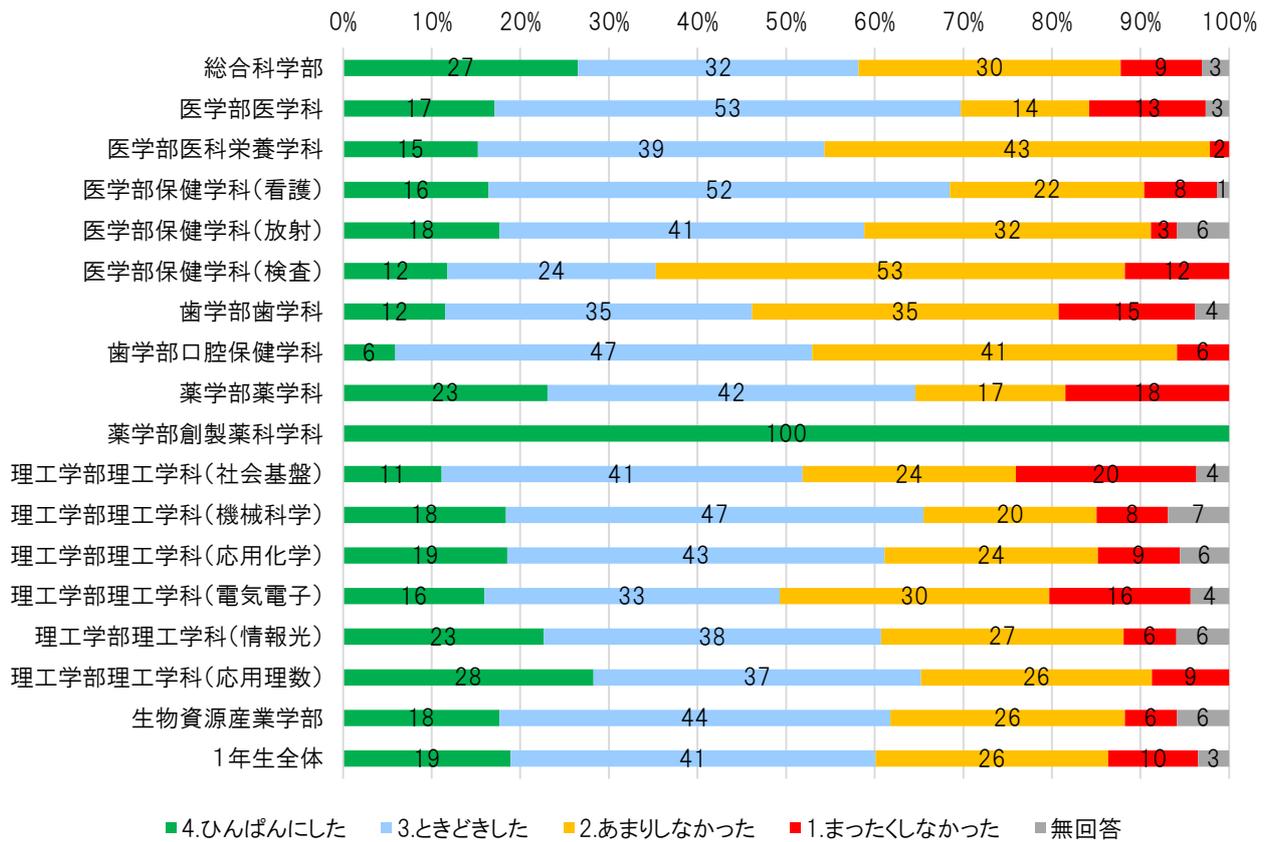
〔135〕 科学的研究の記事や論文を読んだ



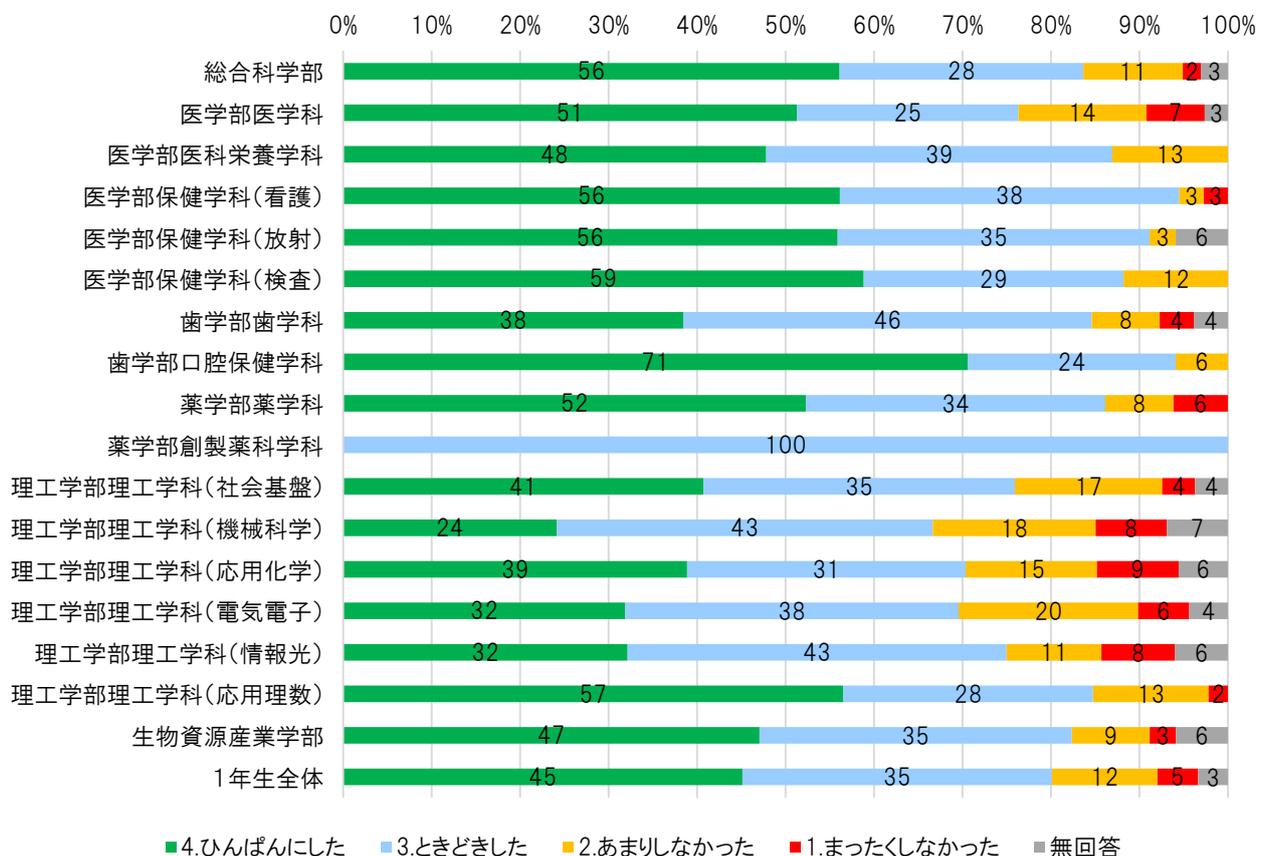
〔136〕 自発的に作文の練習をした



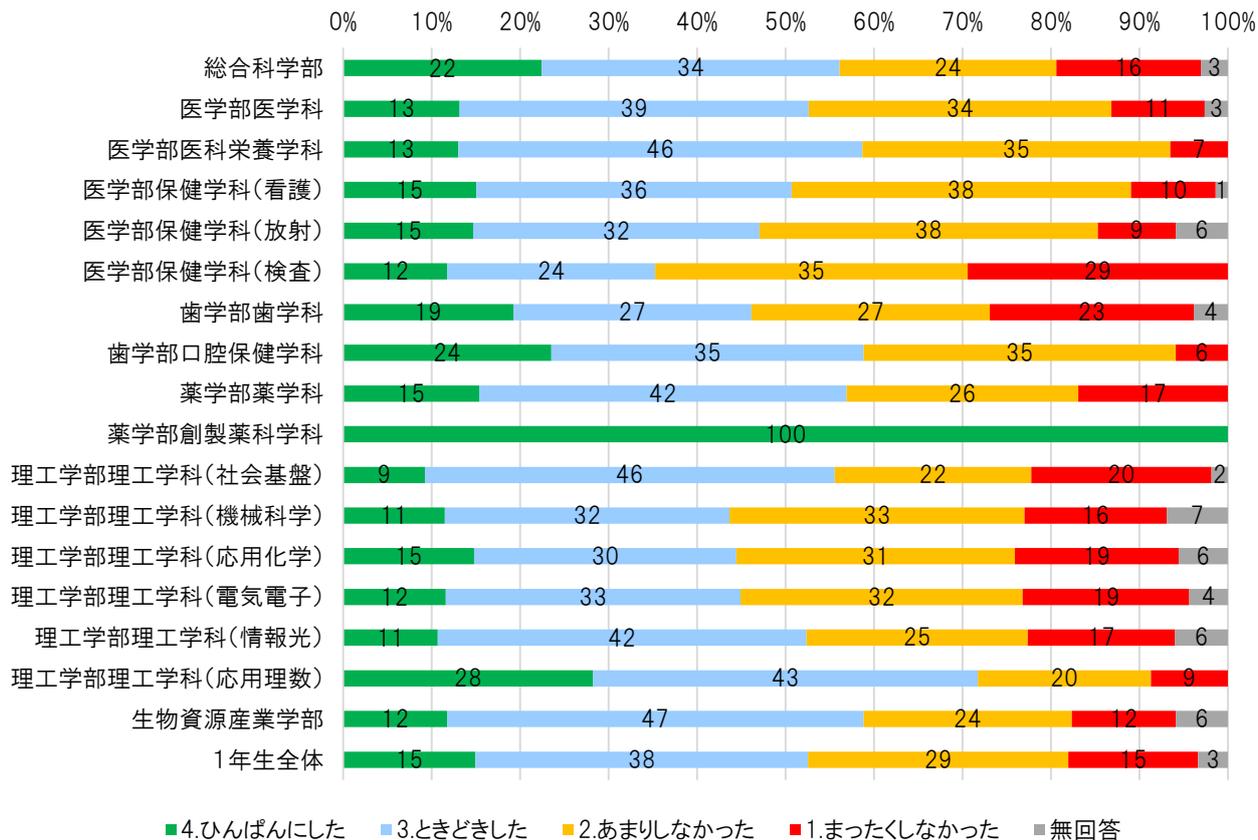
〔137〕 インターネット上の情報が事実かどうか確認した



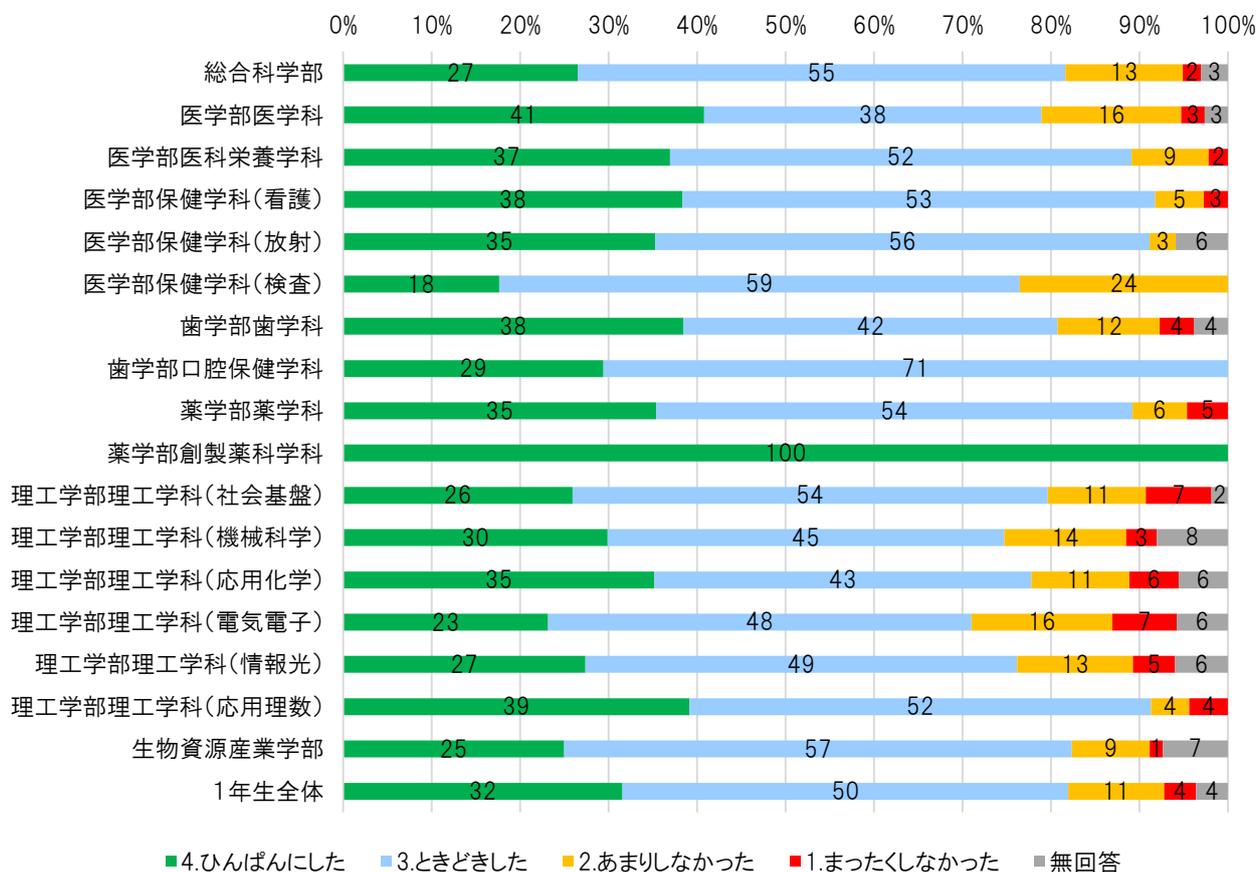
〔138〕 授業の予習や復習、宿題をした



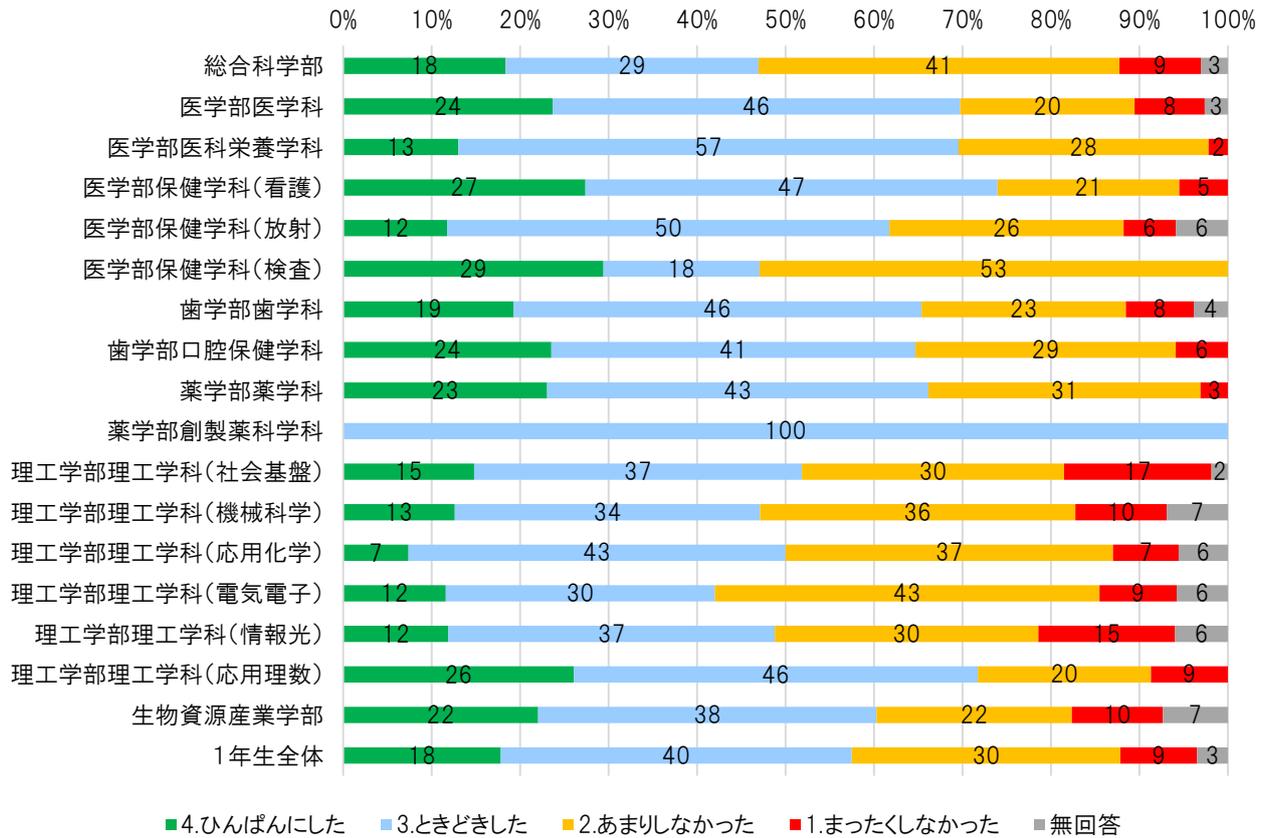
〔139〕 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



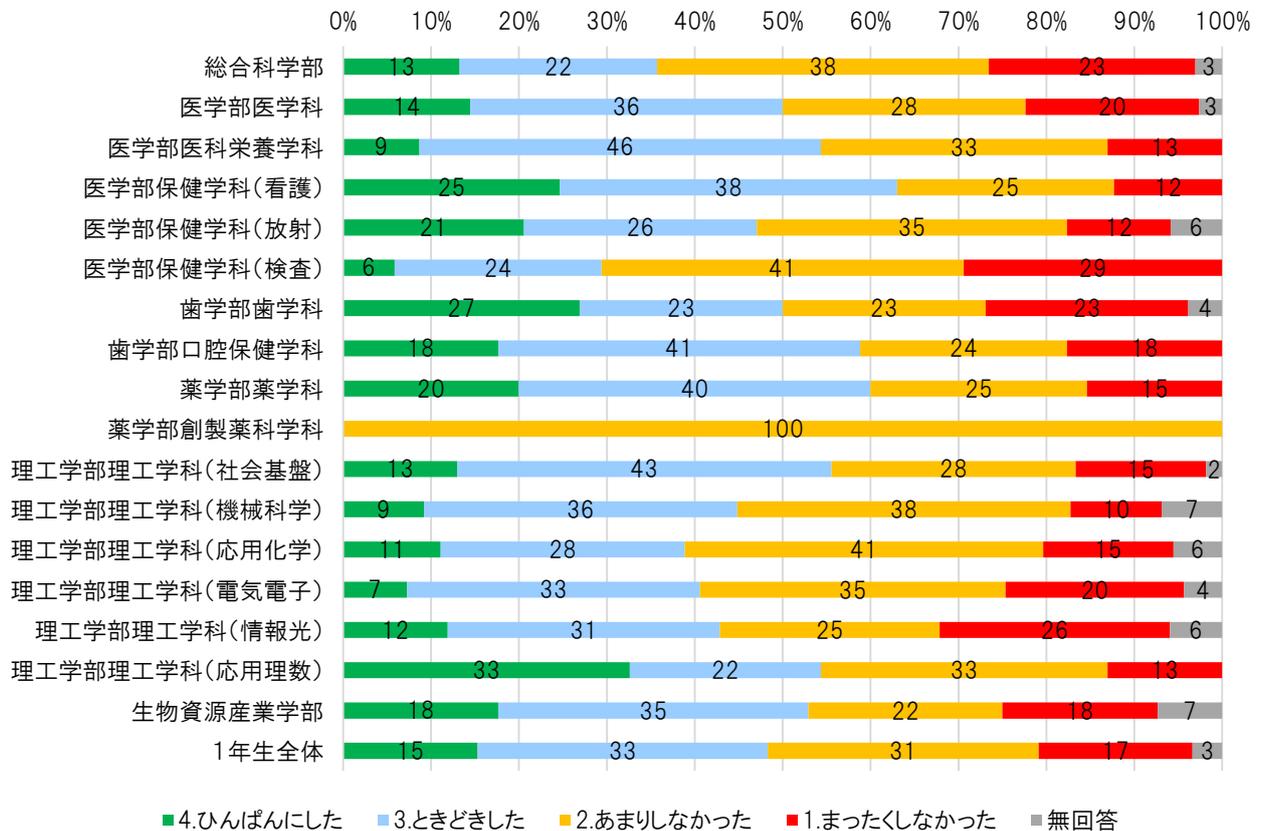
〔140〕 自分の失敗から学んだ



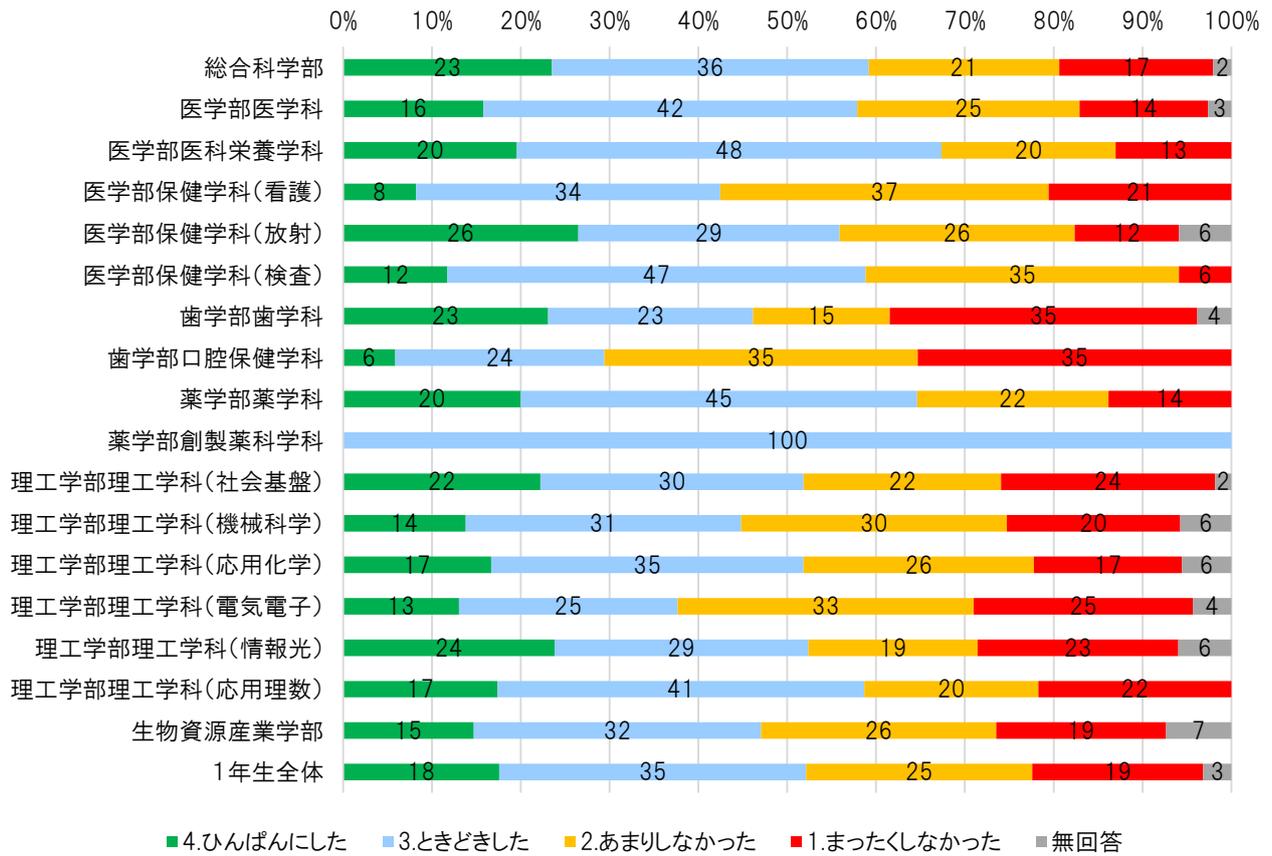
〔141〕 困難なことにあえて挑戦した



〔142〕 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



〔143〕 読書をした(マンガ・雑誌を除く)



3年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30 分未満
2. 30 分以上－1 時間未満
3. 1 時間以上－1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上－2 時間未満
5. 2 時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1

[9]	定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1
[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1

[26]	授業を欠席した	4	3	2	1
[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1
[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1―2時間	3―5時間	6―10時間	11―15時間	16―20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

1. 一般知識・教養
2. 専門的知識
3. 課題発見・解決力
4. チームで目標を達成するマネジメント能力
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力
7. 語学力
8. 情報機器を活用する力
9. 論理的な文章を書く能力

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献（電子版含む）
6. 講義ノート

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育（全学共通教育）で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP 上の徳島大学 LMS（リメディアル教材）を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、LMS（リメディアル教材）の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の 5 つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを 1 つずつ答えてください。

レベル  高	[69] 聞く力	回答欄	
		↓	
	A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1
	A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2
	B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3
	B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4
	C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6	

レベル
低
高

〔70〕 読む力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。

レベル
低
高

〔71〕 会話力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6
7
8

A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

レベル
低
高

〔72〕 表現力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

レベル
低
高

〔73〕 書く力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

[74] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC, TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

[94]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[95]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[96]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[97]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[98]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[99]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[100]	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

[102] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[103] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[104] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

[105] 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[106] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[107] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[108] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[109] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[110] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[111] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[112] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[113] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[114] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[115] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[116] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[117] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[118] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[119] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[121] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[122] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）の研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

[123] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術
2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 大学院への進学意欲の向上
9. 特に得るものがない

[124] 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

1. 設備、スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが、スペースがせまい
3. スペースは十分であるが、設備が足りない
4. 設備、スペースともに足りない

[125] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. Mahara（全学）
4. スーパー英語（全学）
5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
6. 利用したことはない

あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

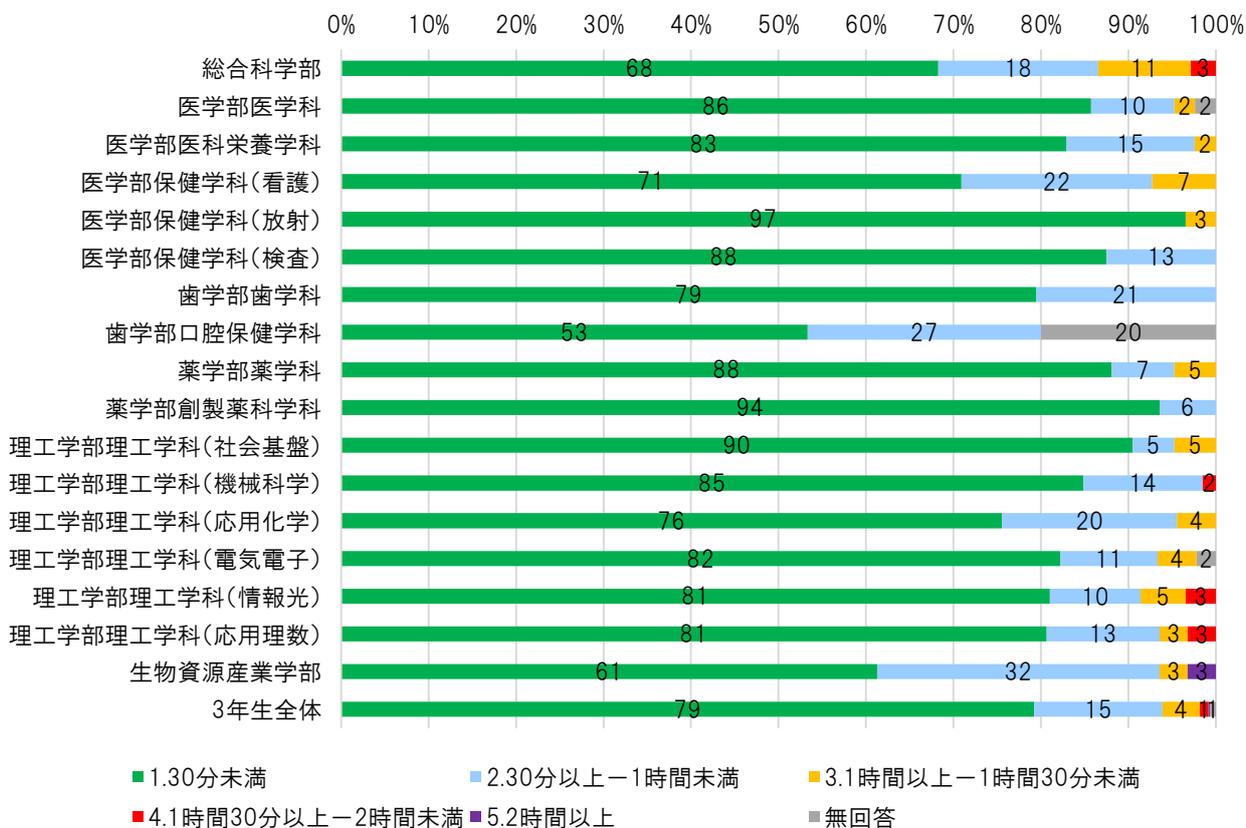
	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
[132] 専門分野をしっかり身につける	4	3	2	1
[133] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる	4	3	2	1
[134] 職業意識の形成につながる教育を受ける	4	3	2	1
[135] 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ	4	3	2	1
[136] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける	4	3	2	1
[137] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける	4	3	2	1
[138] ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける	4	3	2	1
[139] 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける	4	3	2	1
[140] レポートや論文指導により、文書作成能力を高める	4	3	2	1
[141] 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する	4	3	2	1
[142] 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする	4	3	2	1
[143] 本学の教職員以外の大人と話をする	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

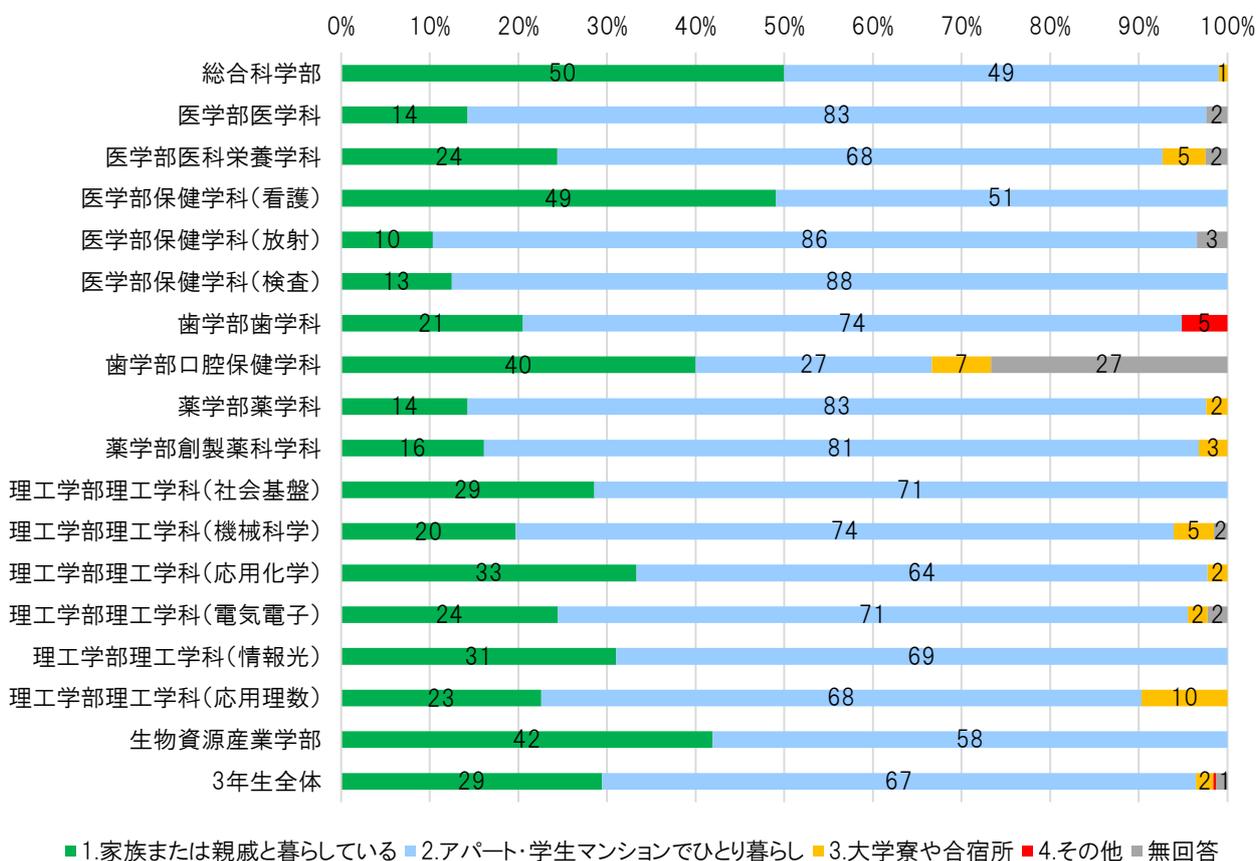
3年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



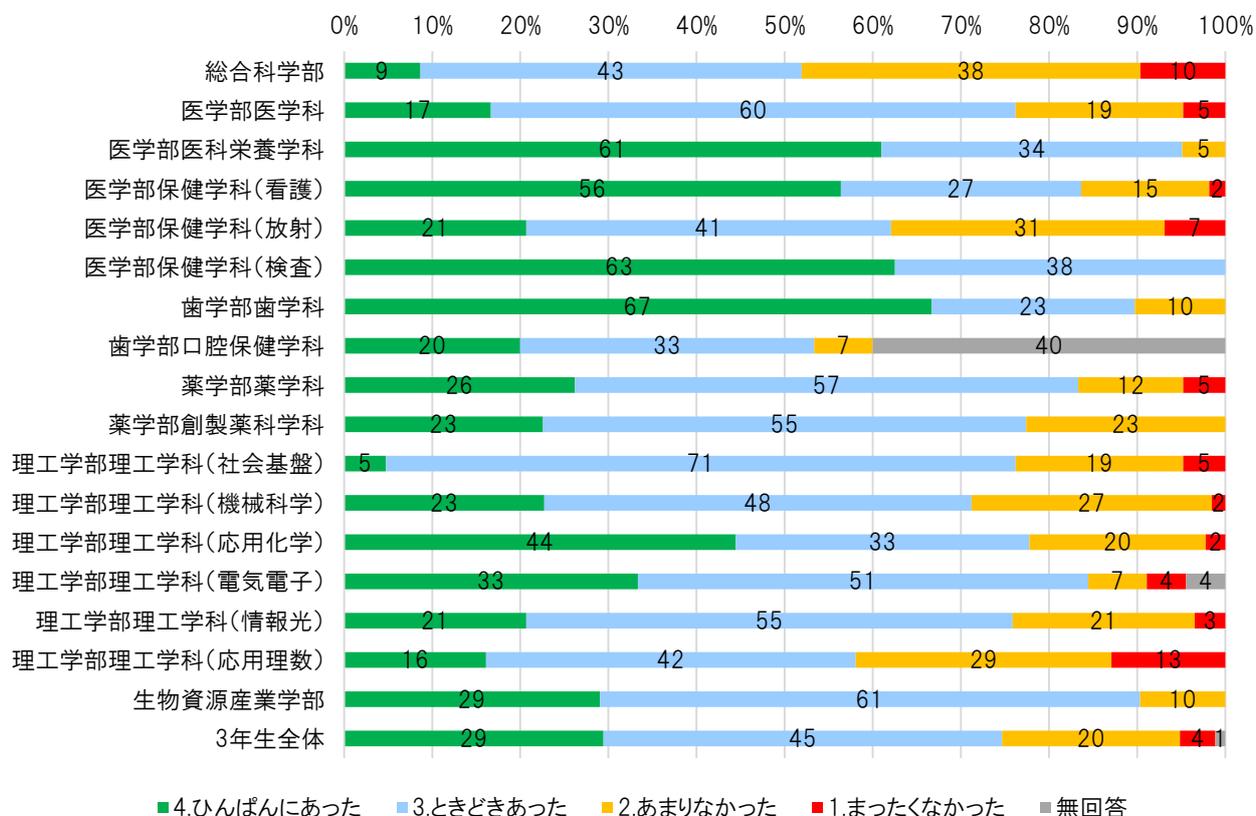
〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



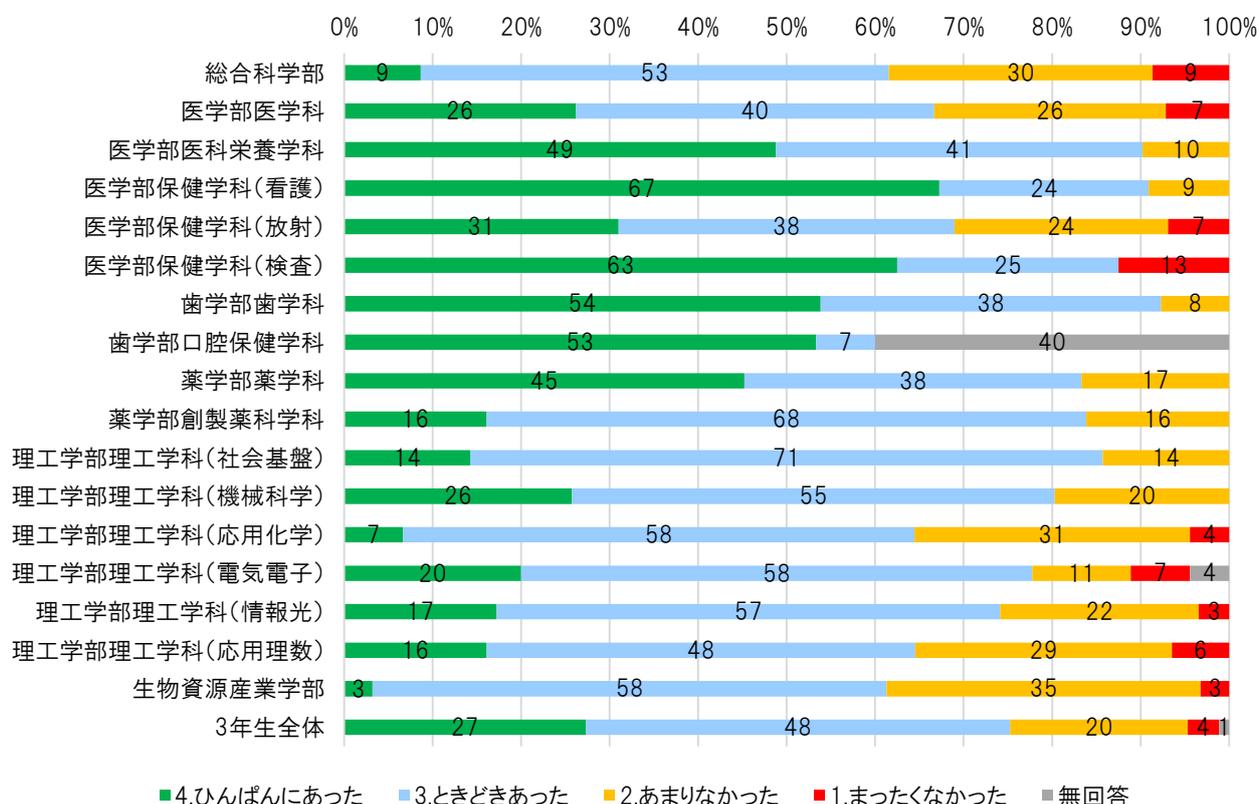
II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

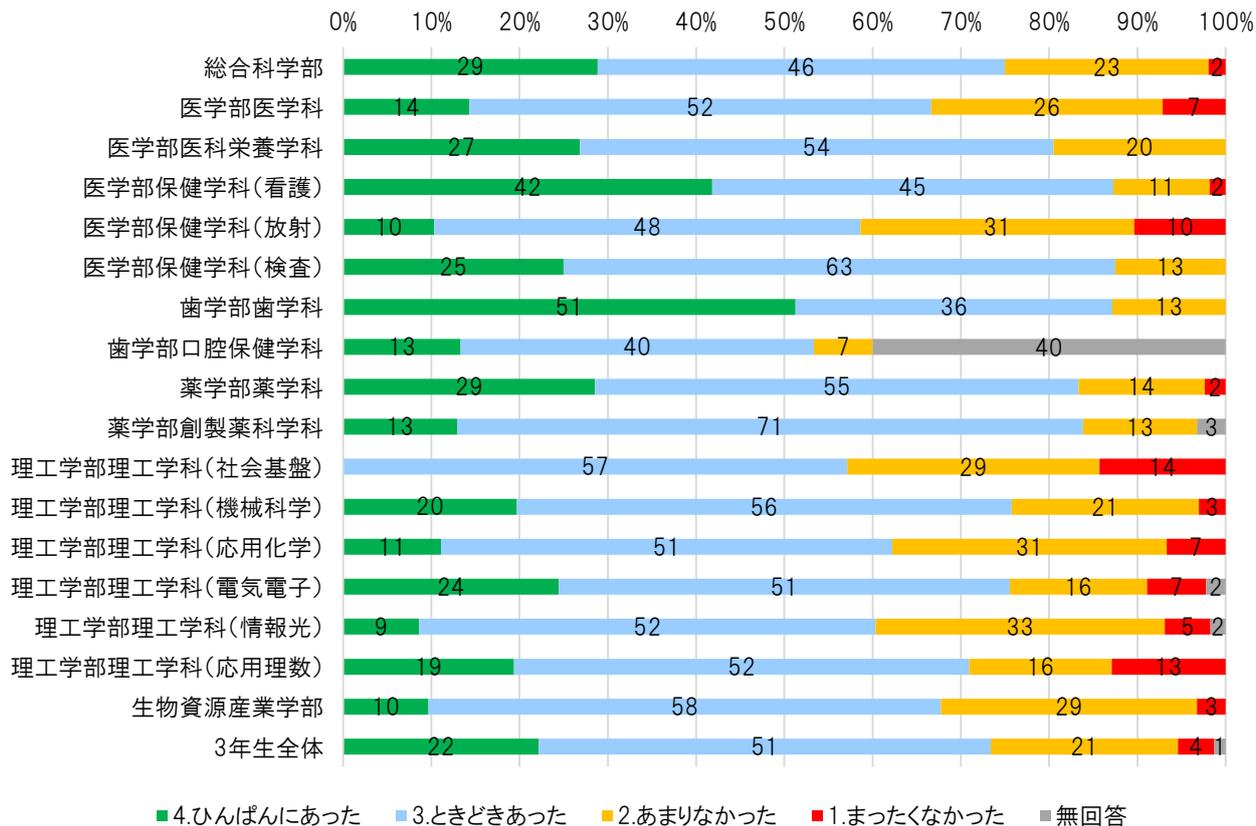
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



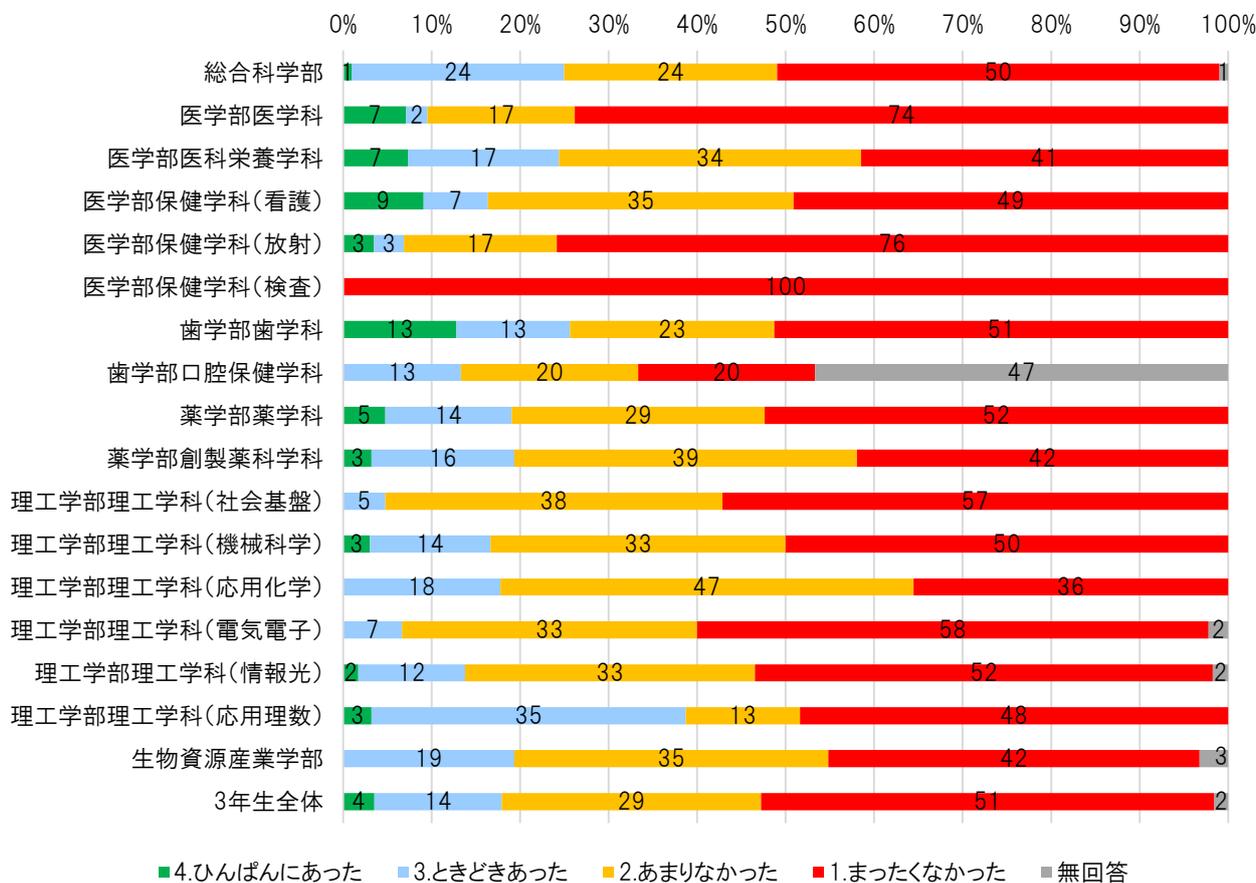
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



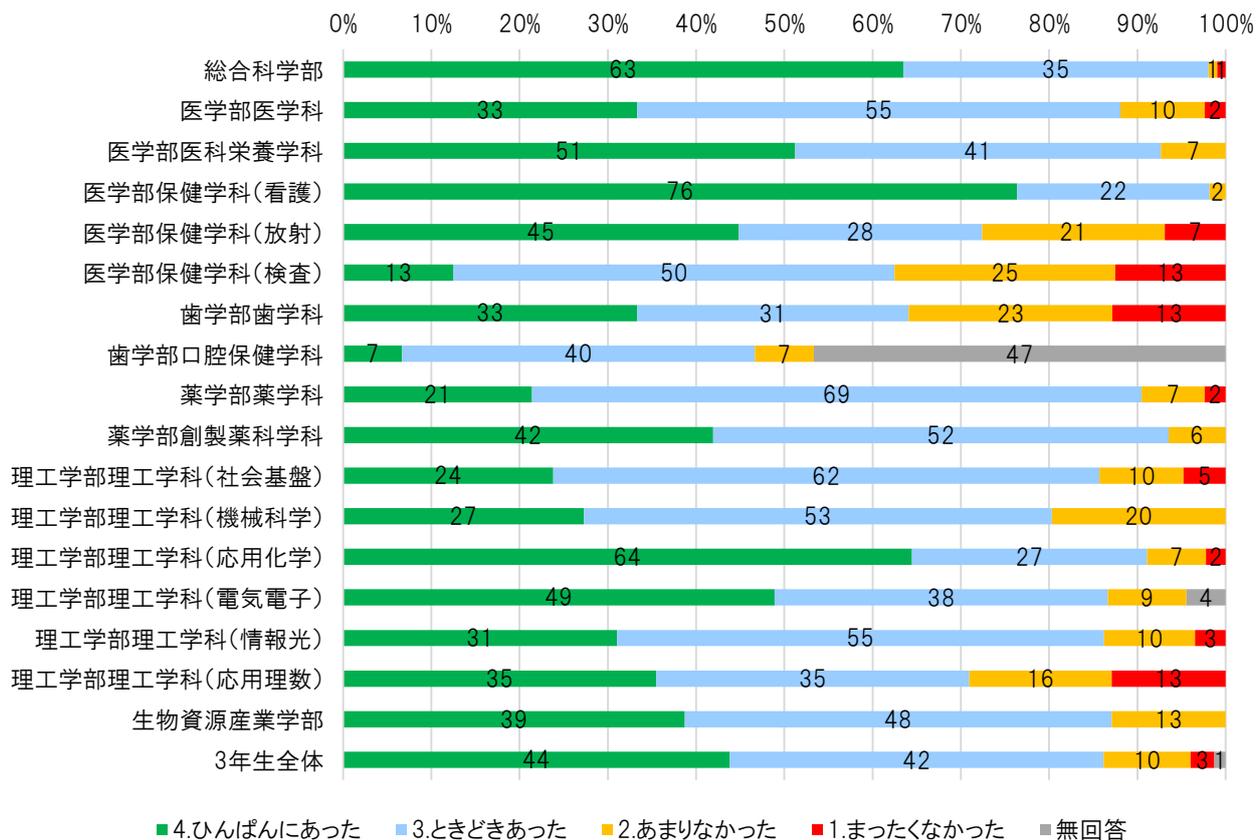
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



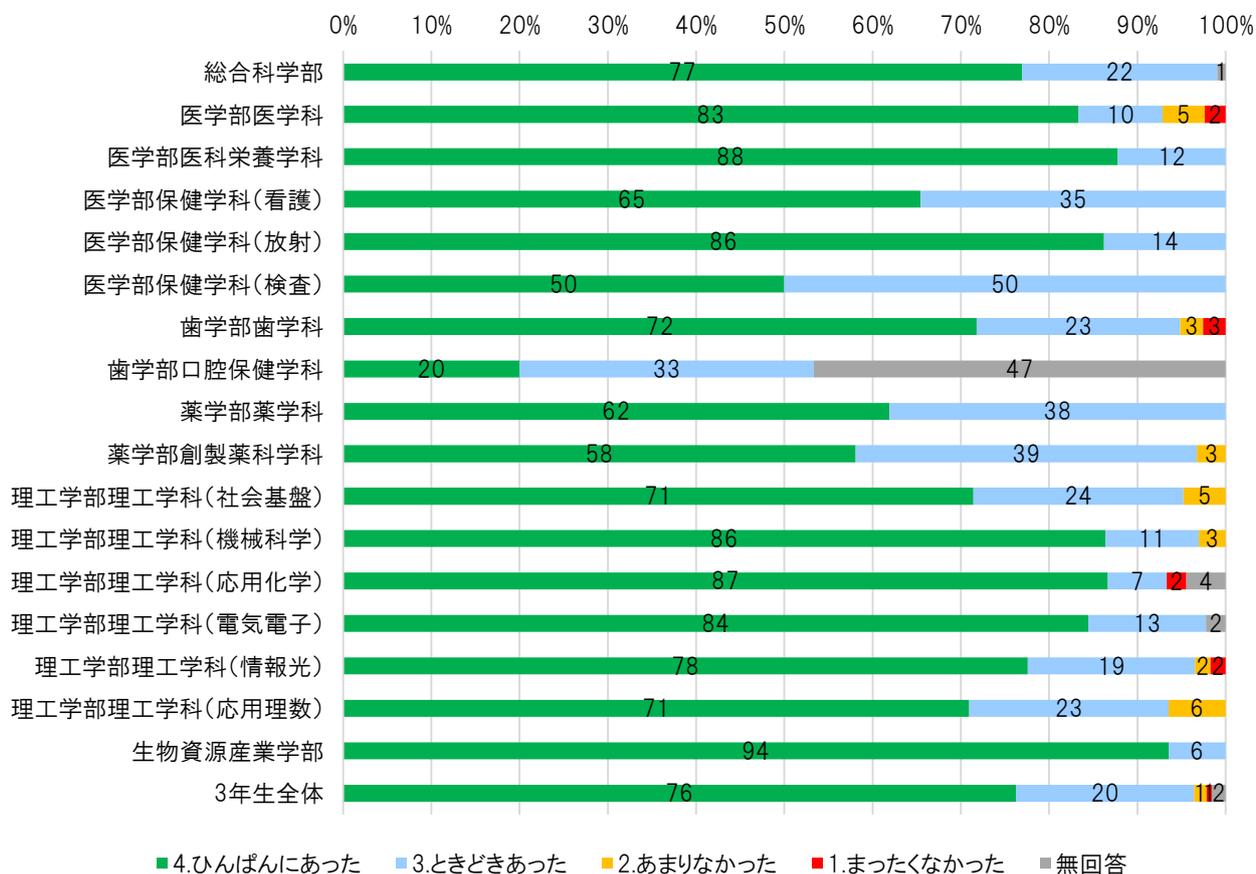
〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



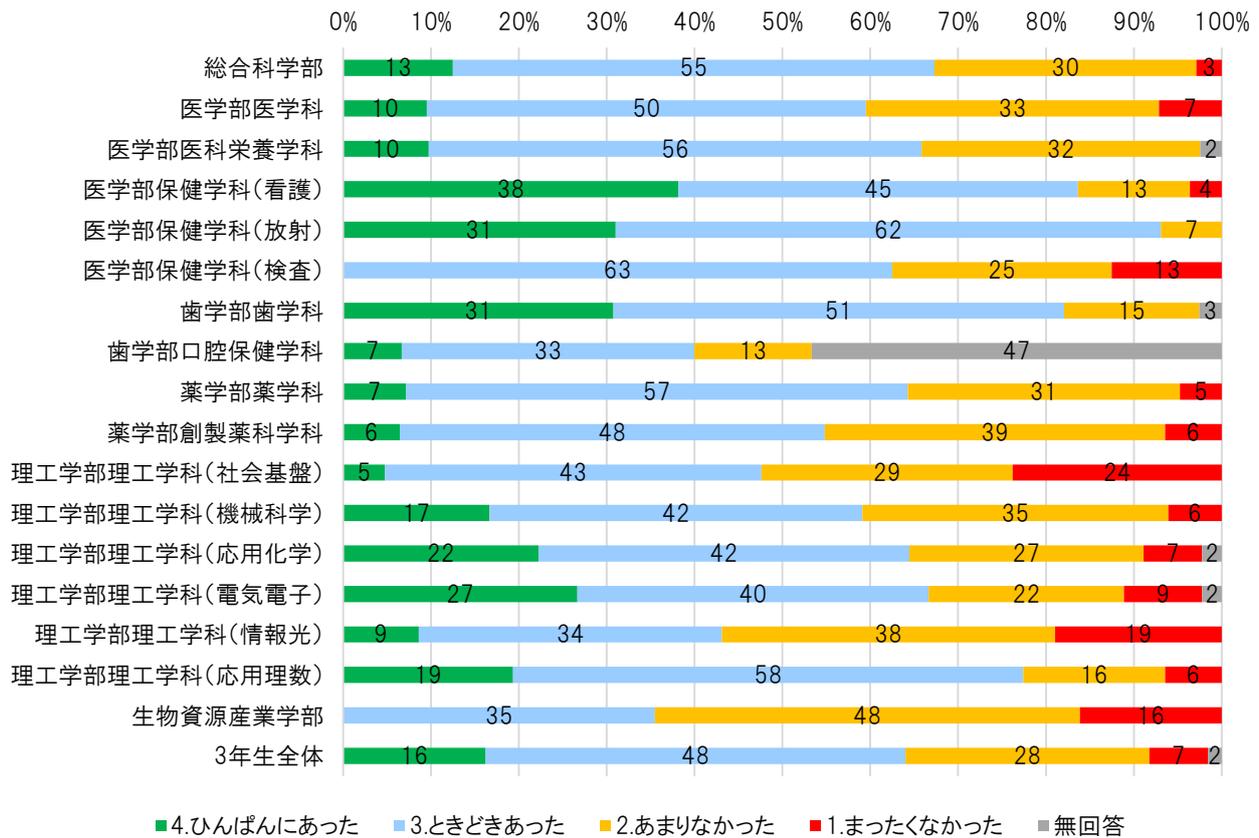
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



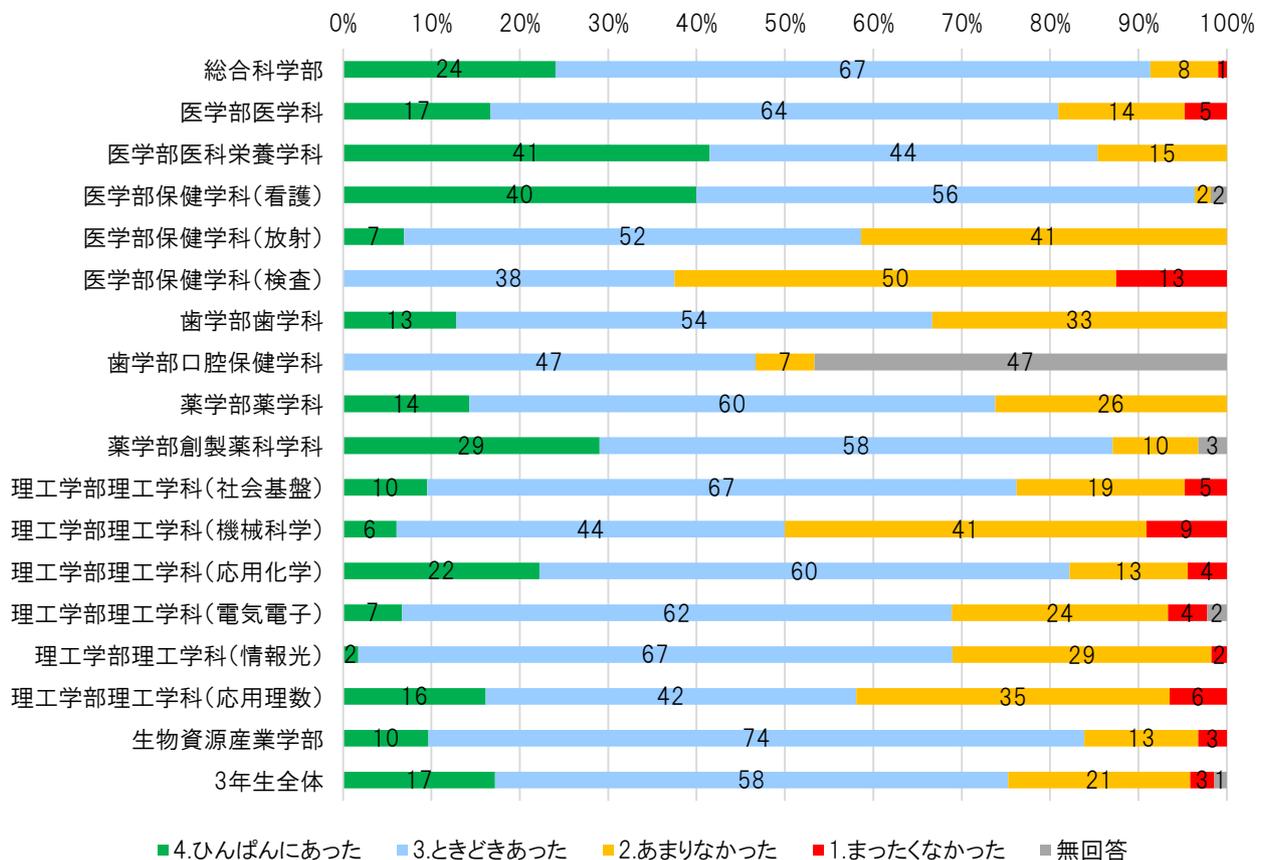
[9] 定期的の小テストやレポートが課される



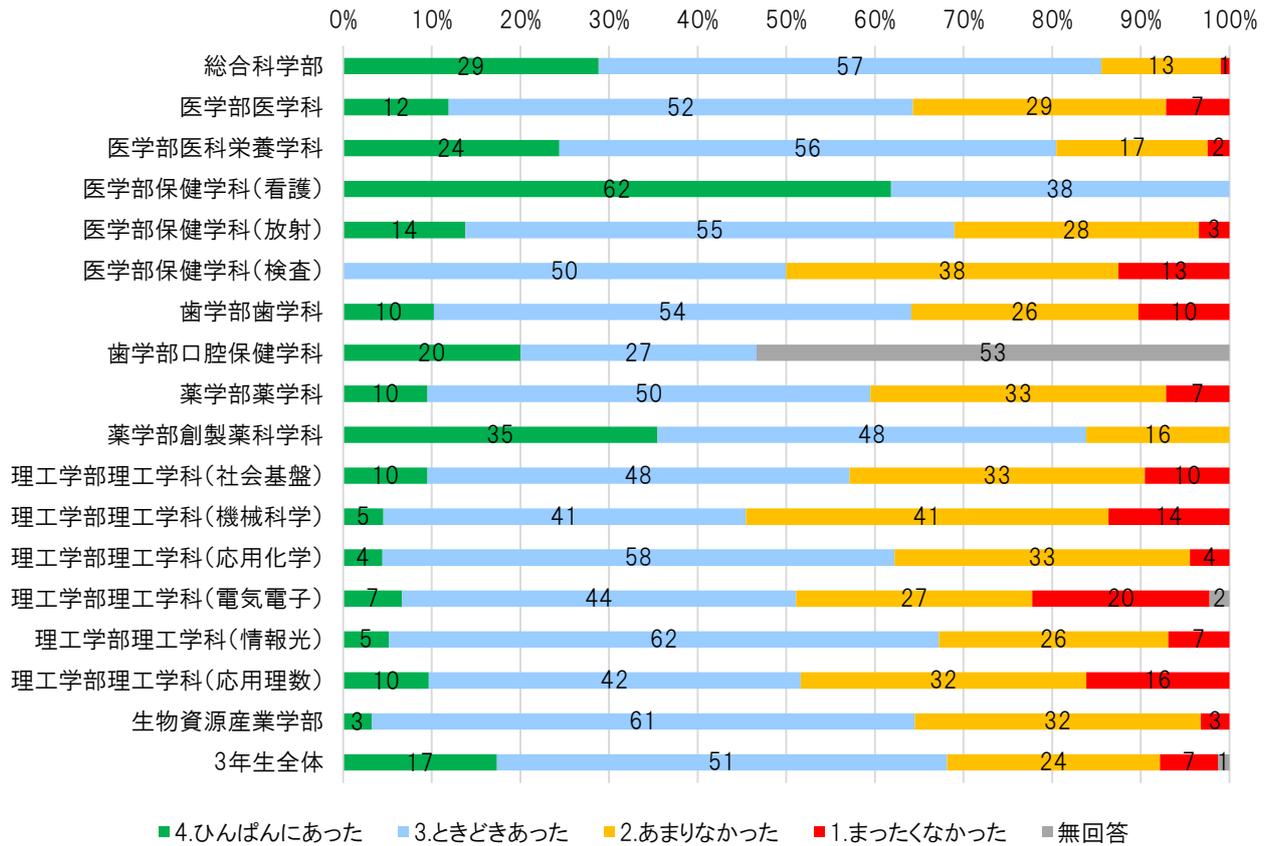
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



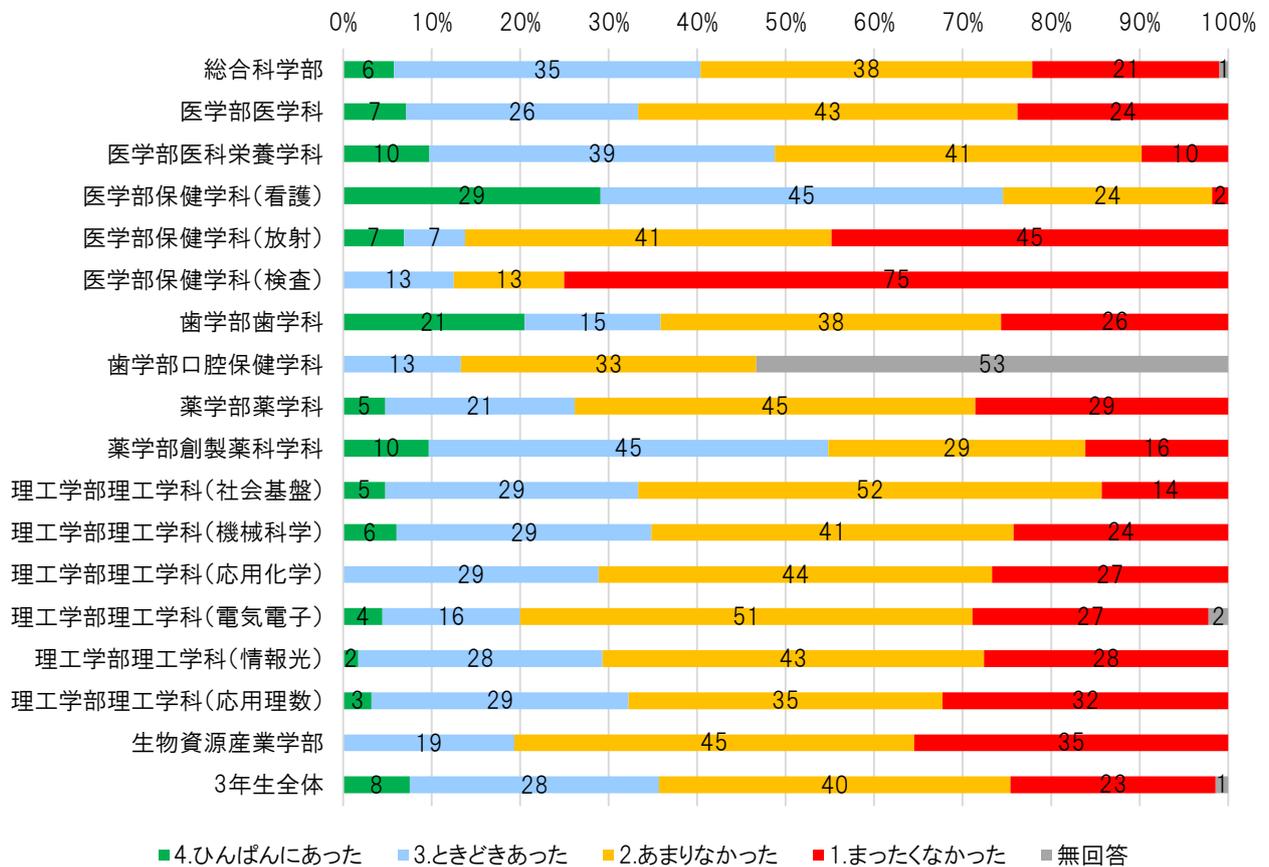
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



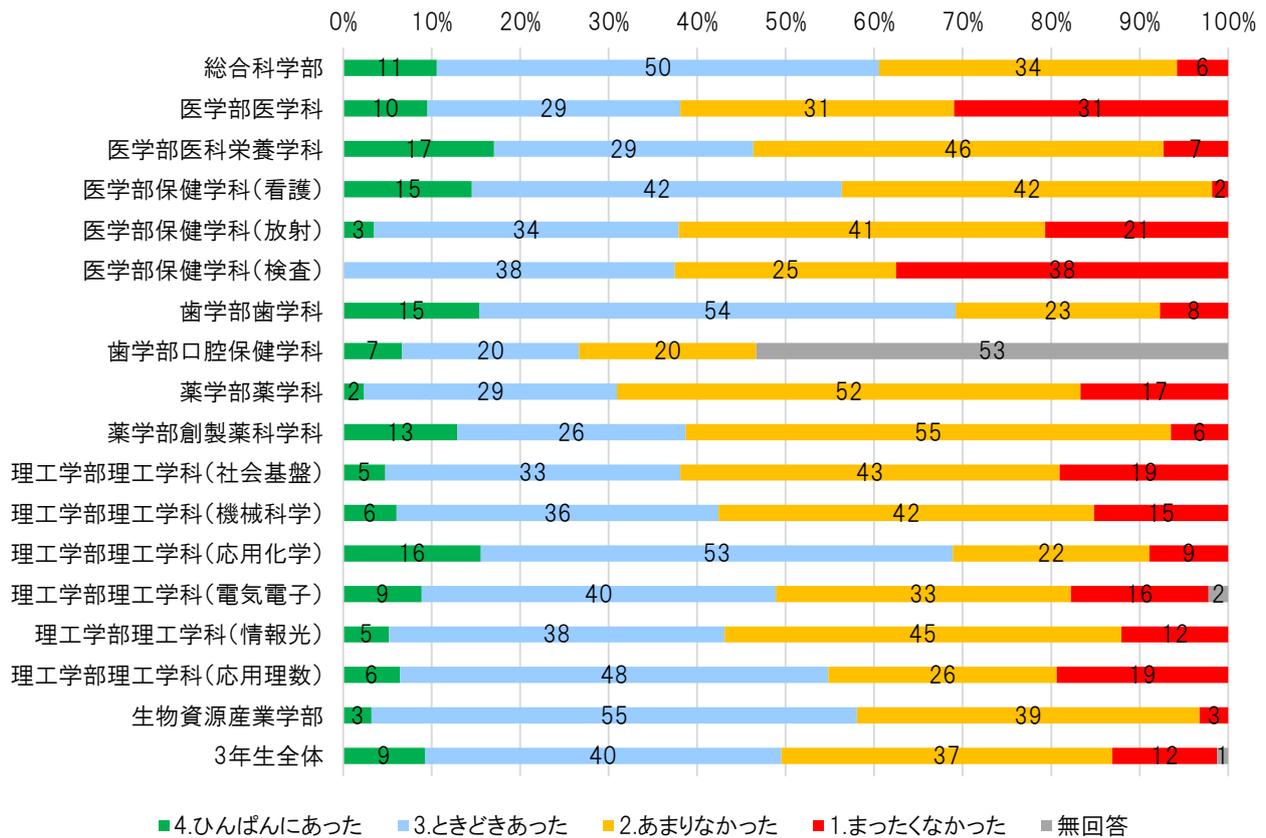
〔12〕授業中に学生同士が議論をする



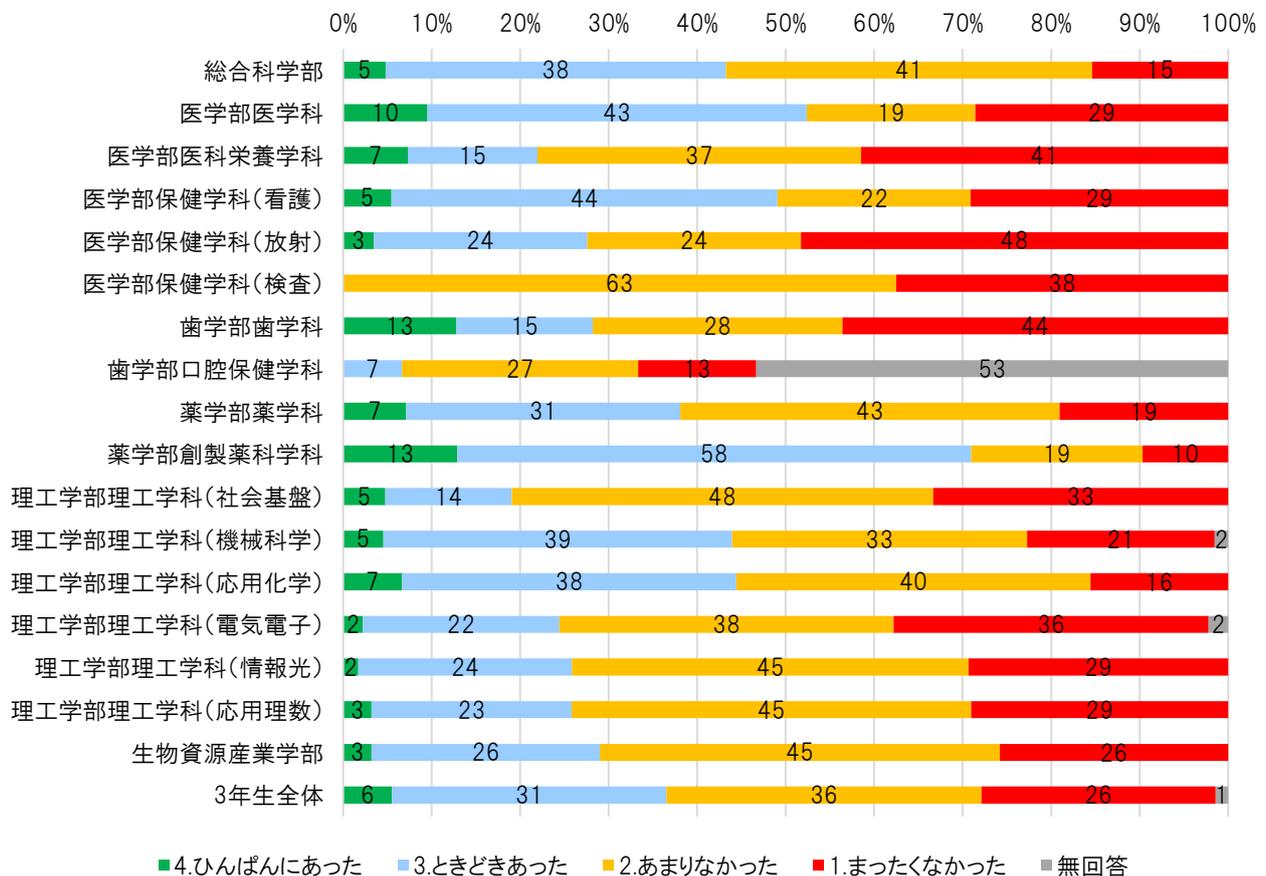
〔13〕授業で検討するテーマを学生が設定する



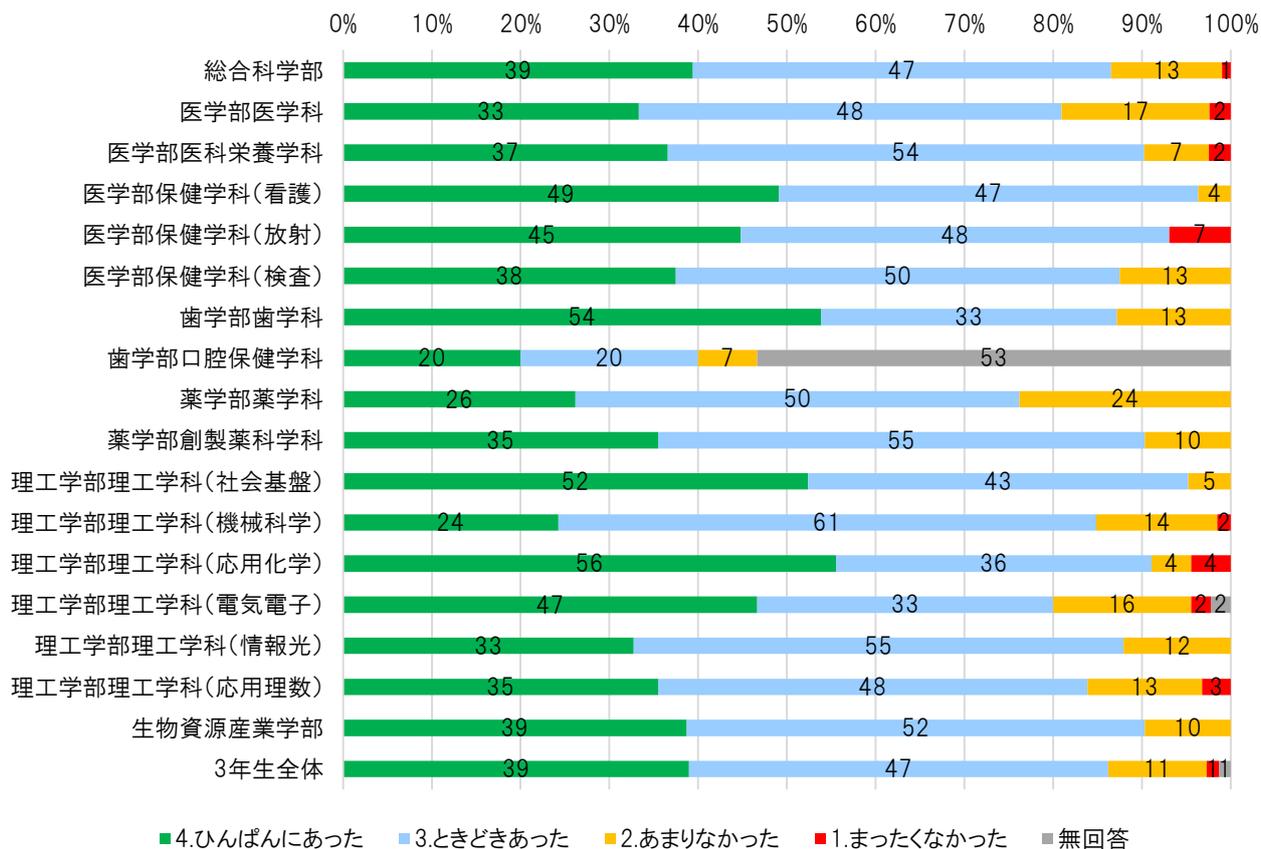
〔14〕授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



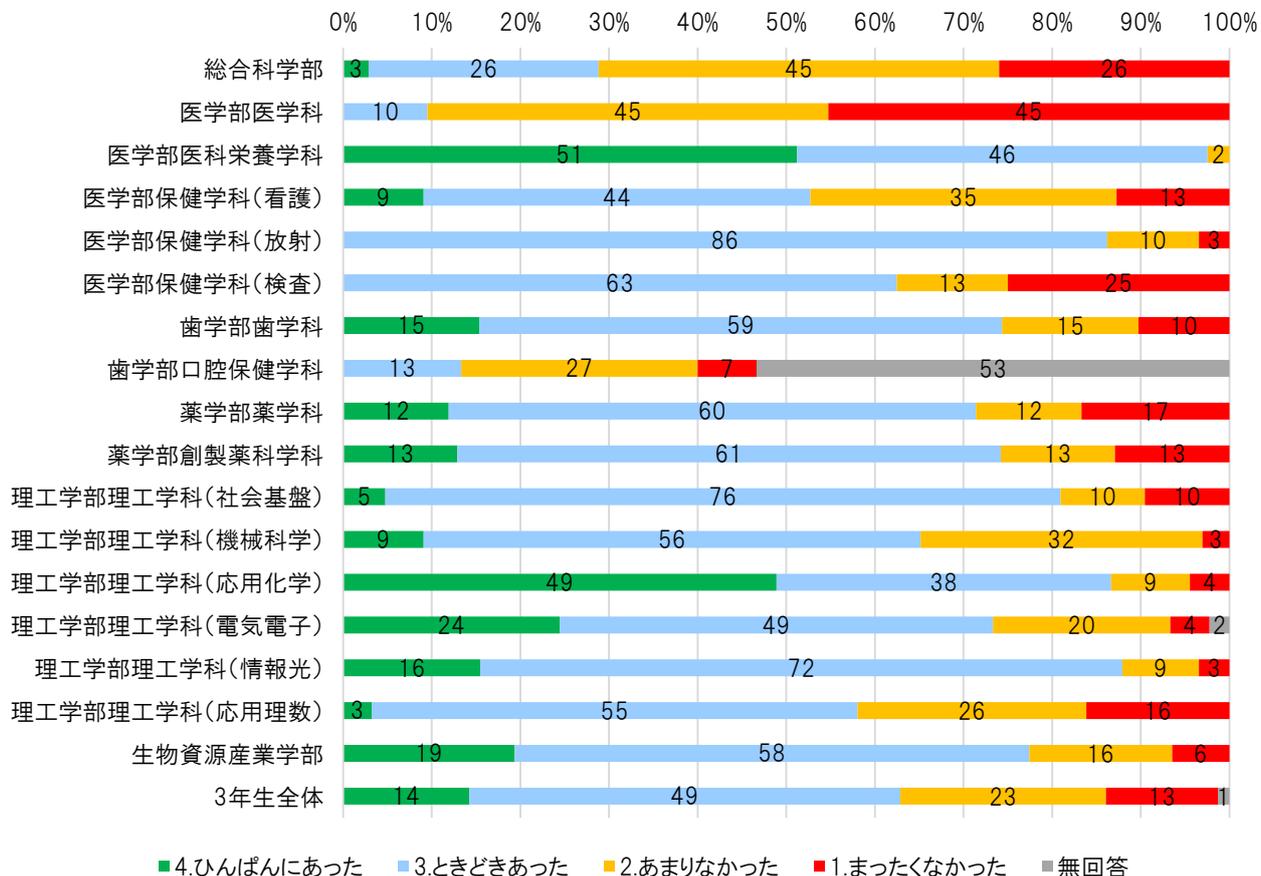
〔15〕取りたい授業を履修登録できなかった



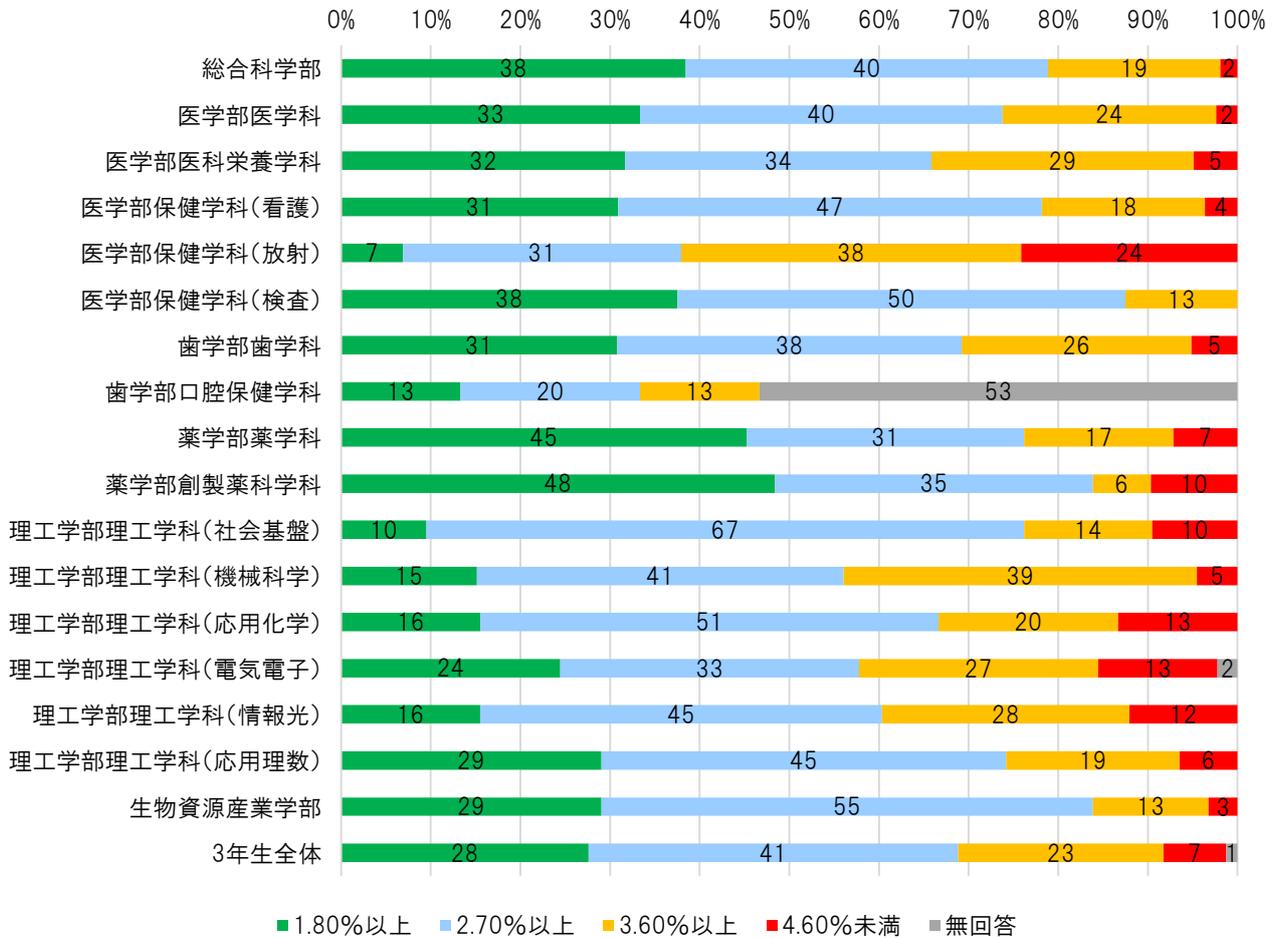
[16]出席することが重視される



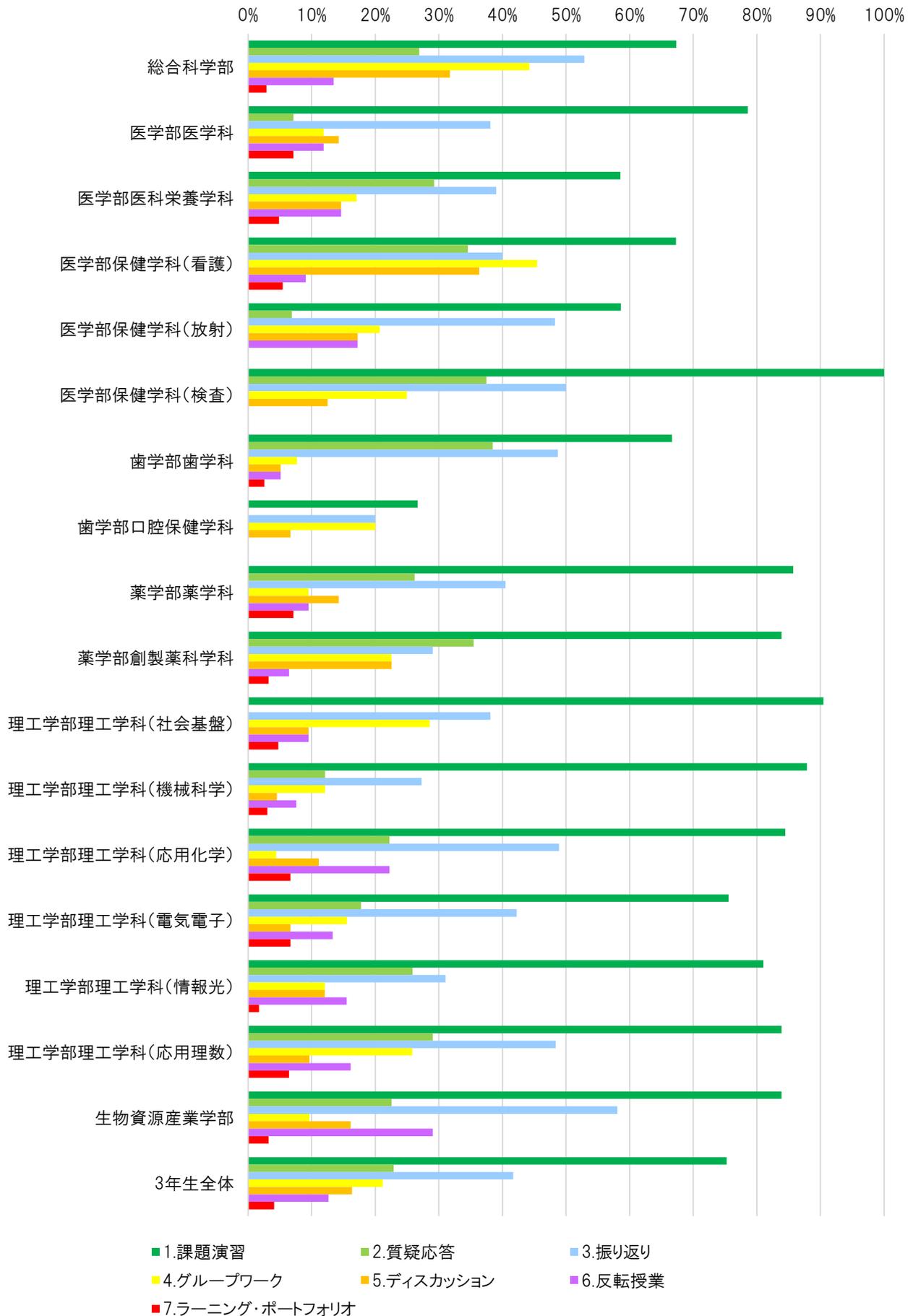
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

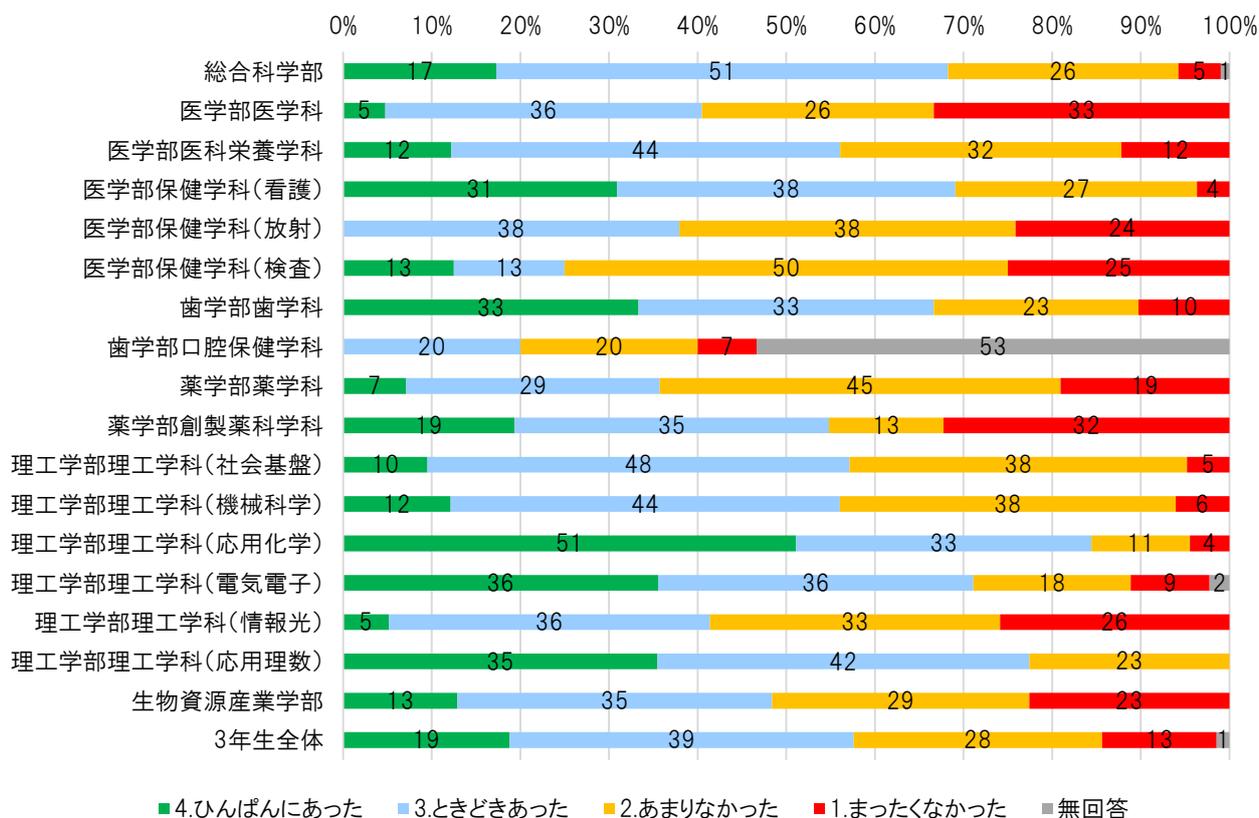


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答)

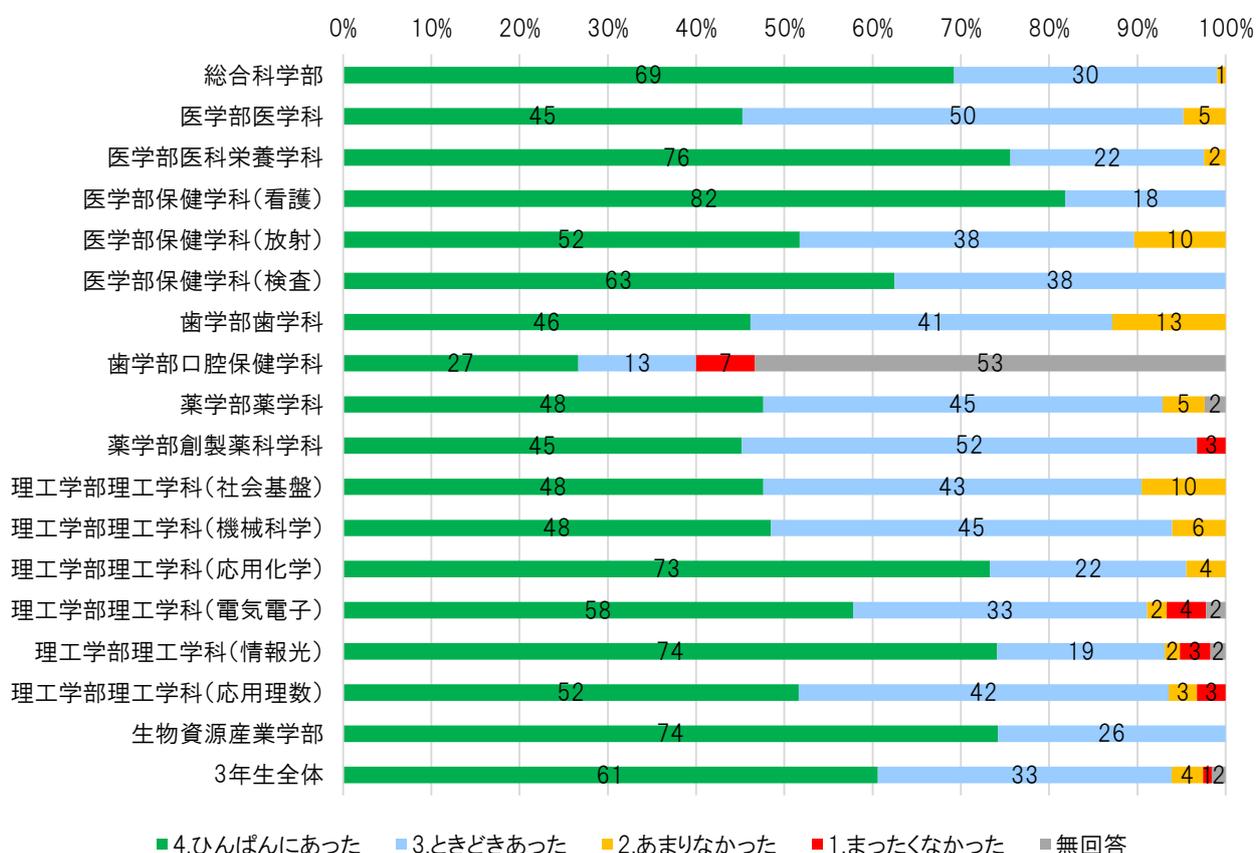


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

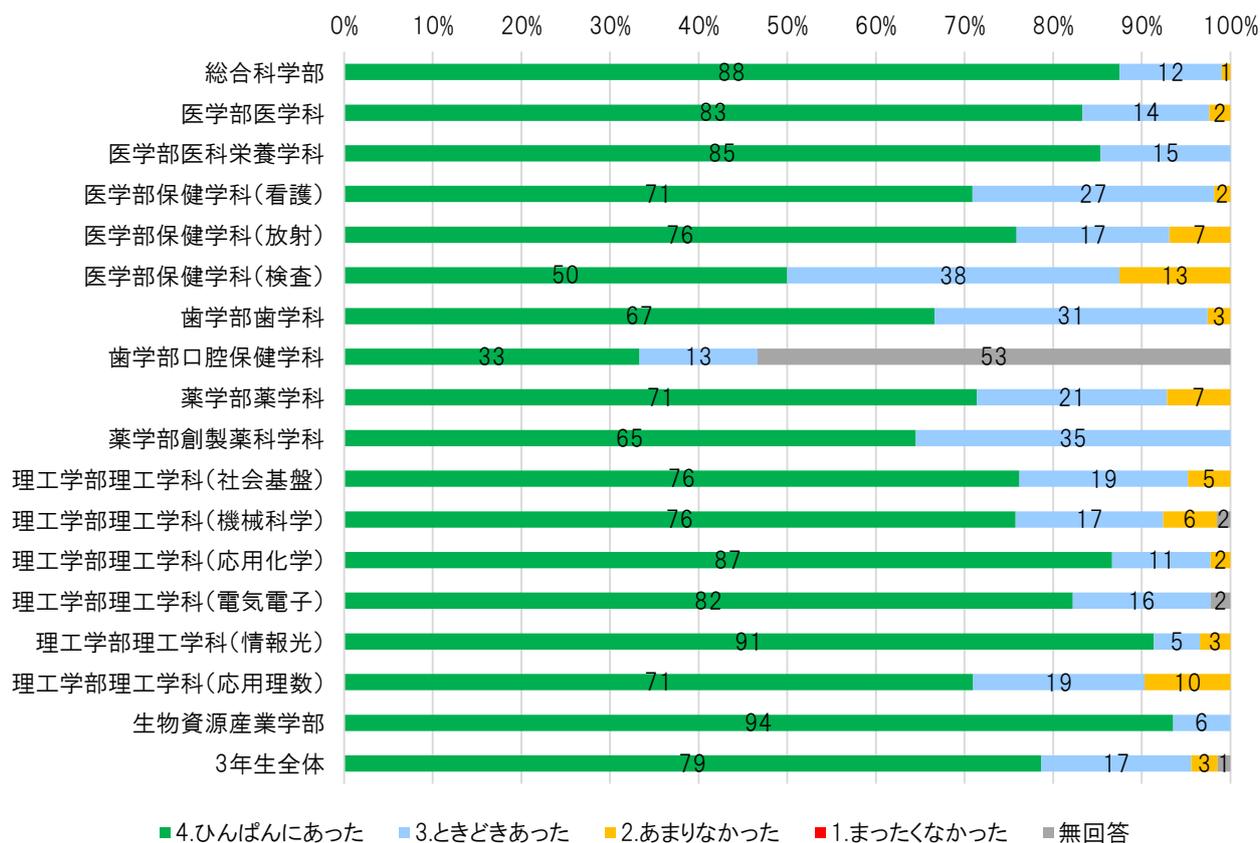
[20]授業課題のために図書館の資料を利用した



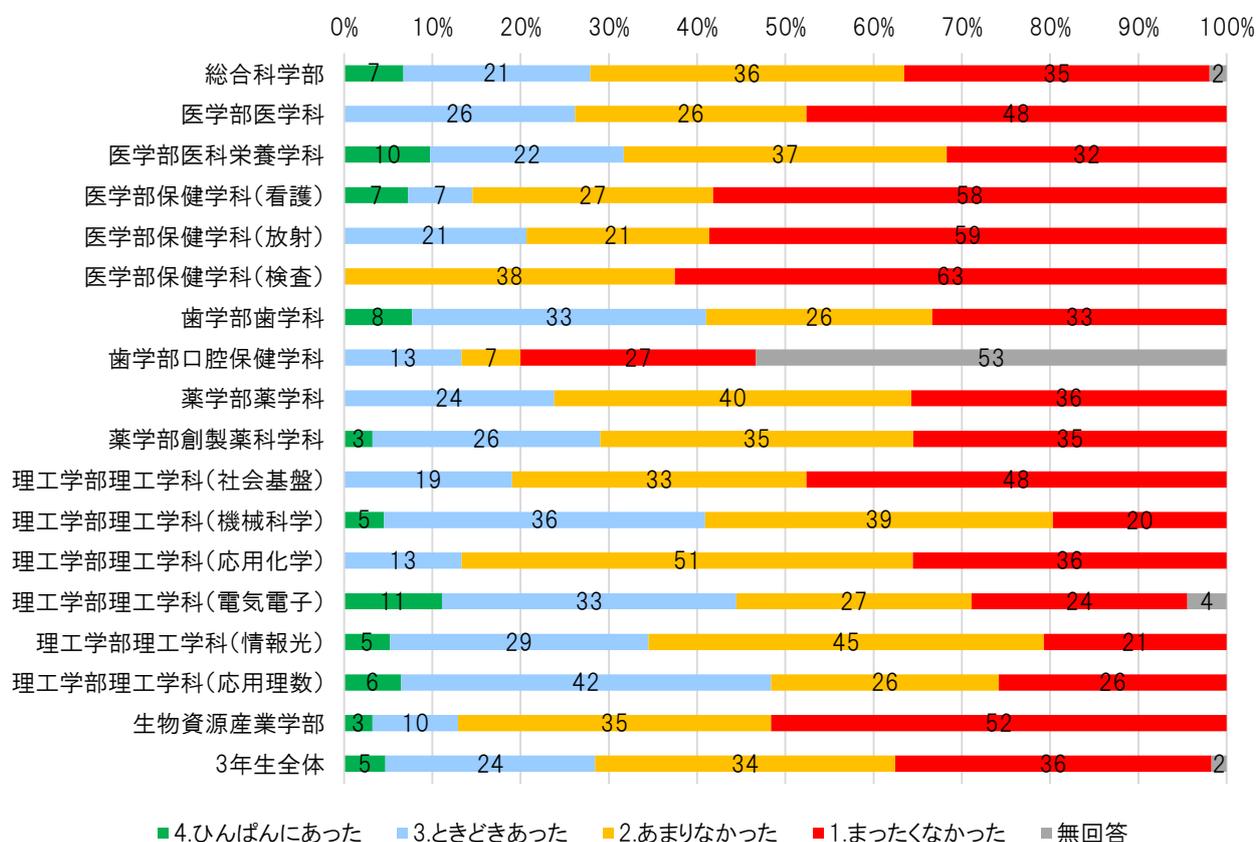
[21]授業課題のために Web 上の情報を利用した



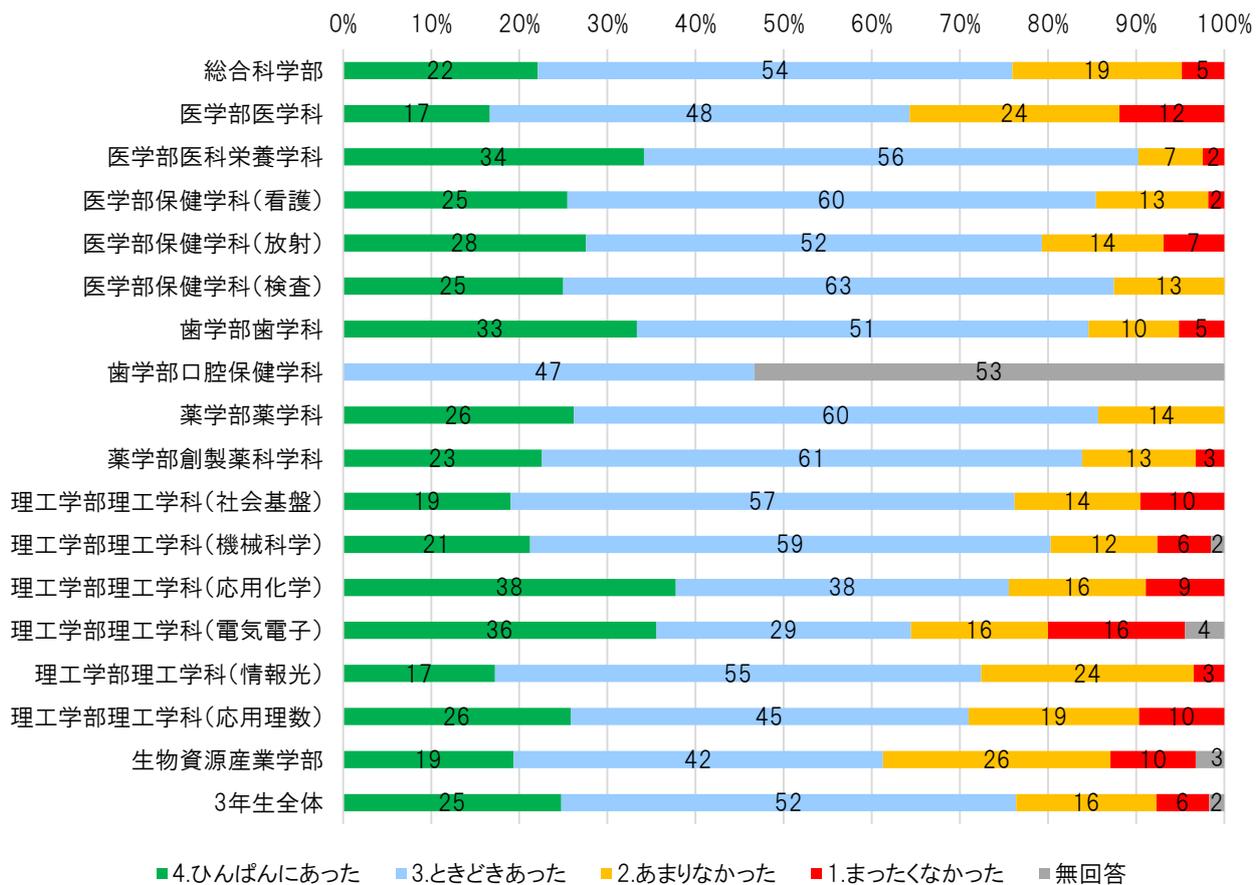
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



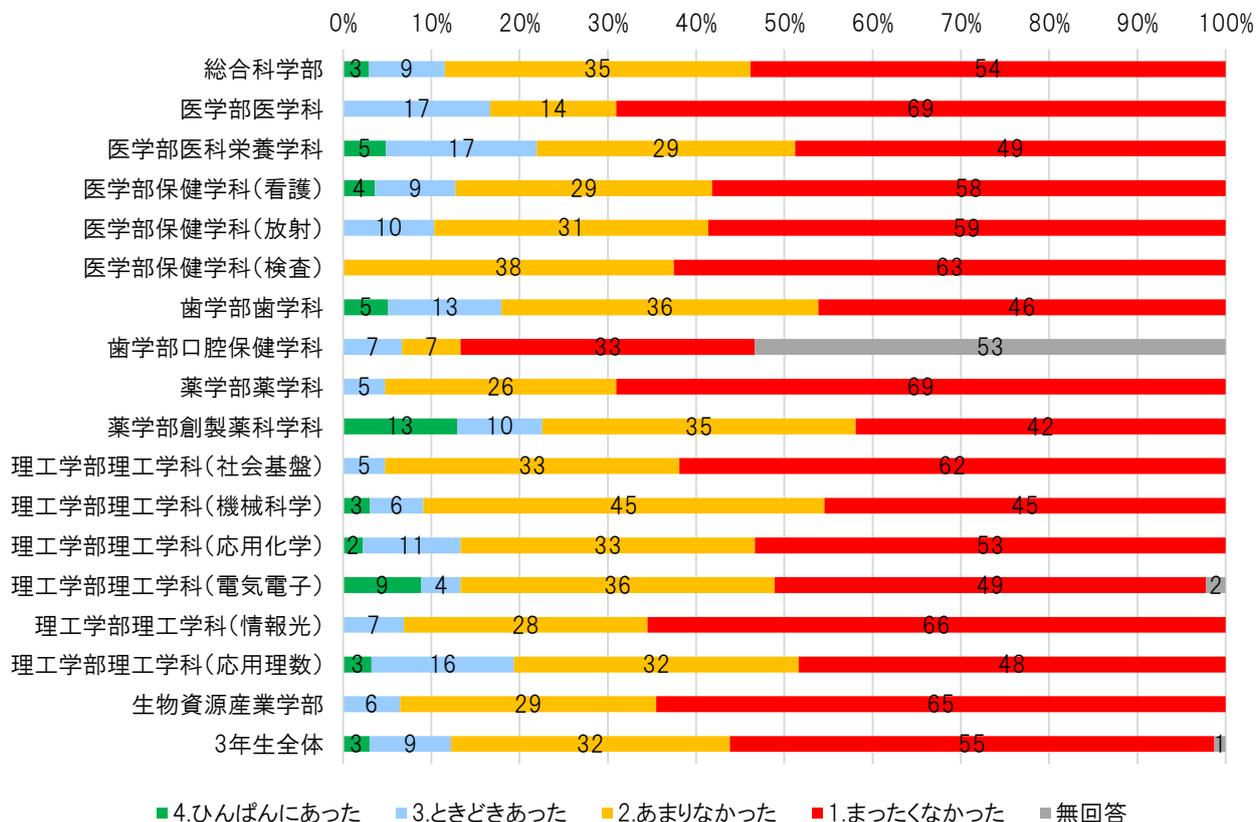
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



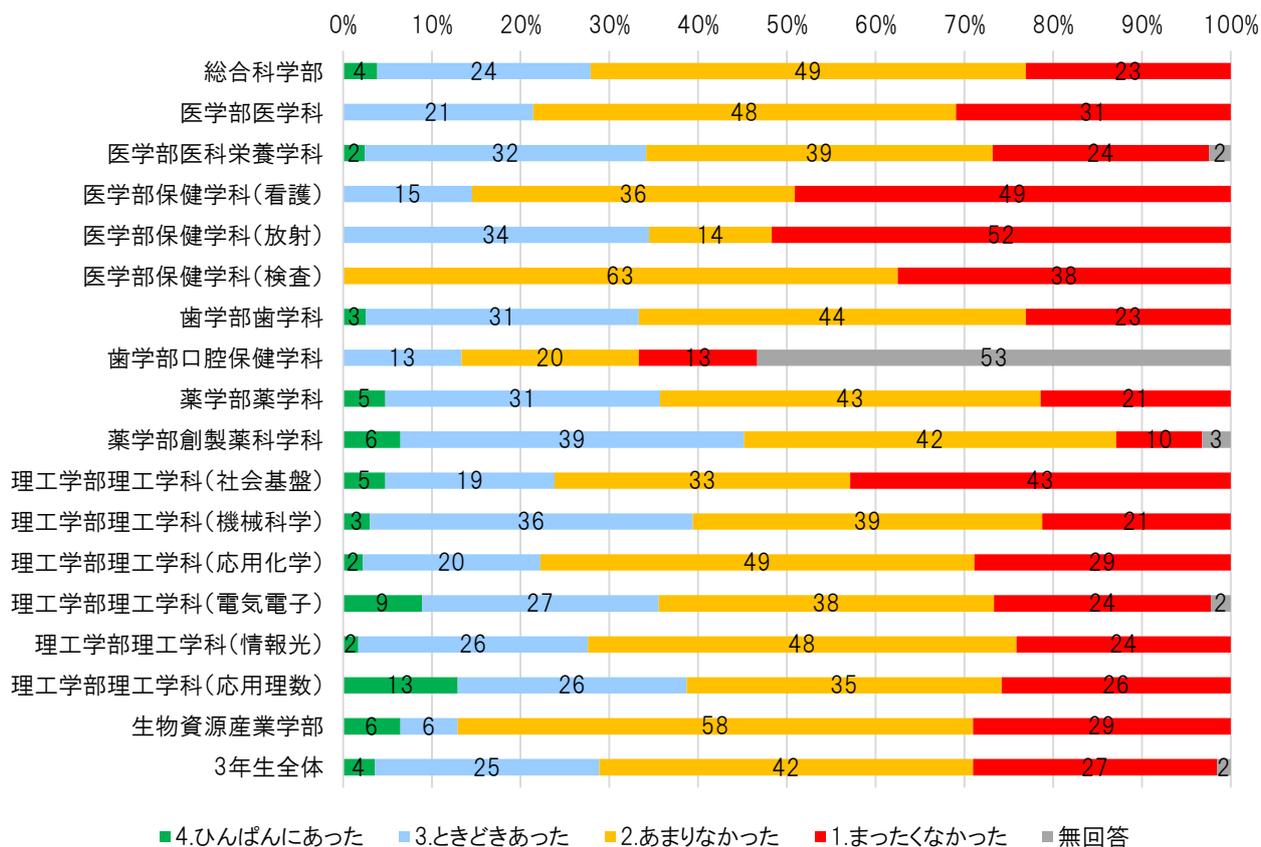
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



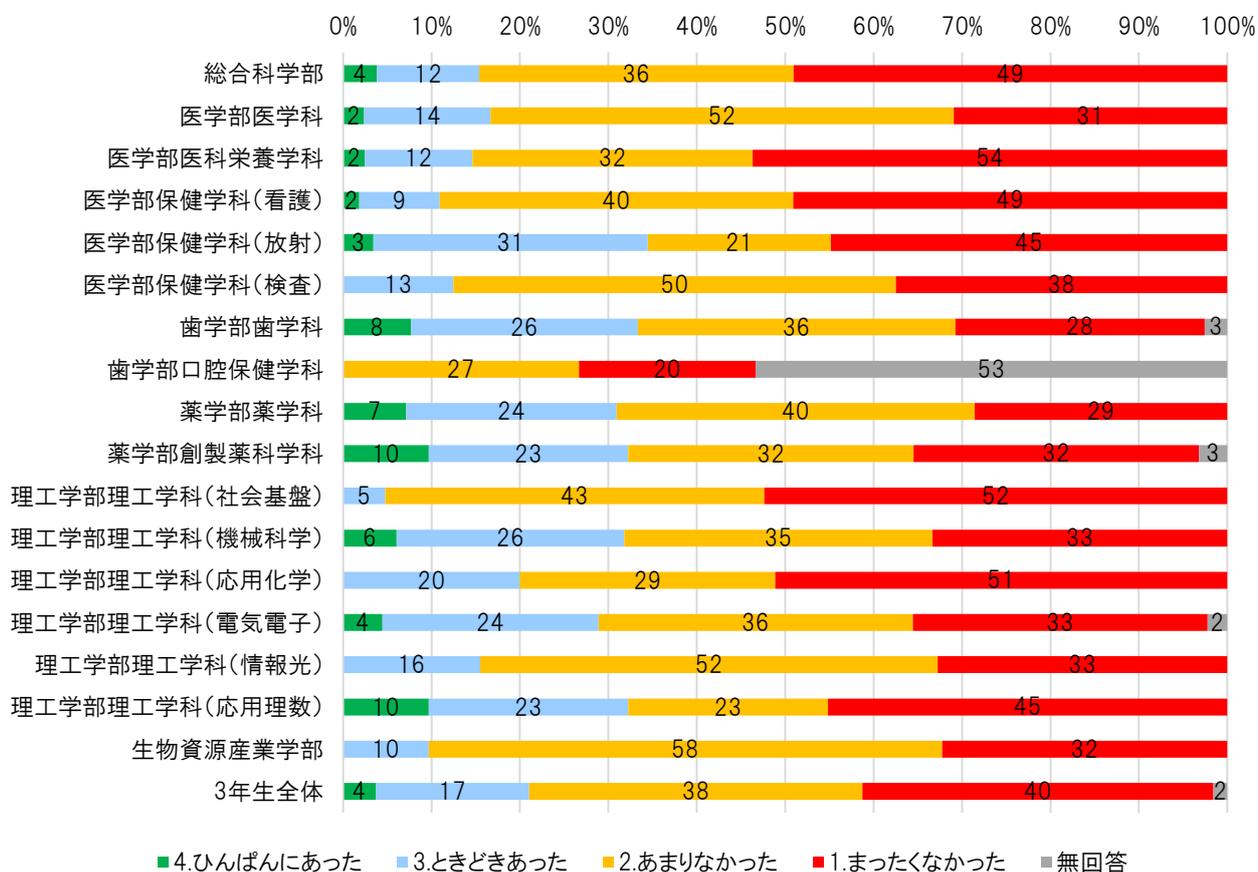
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



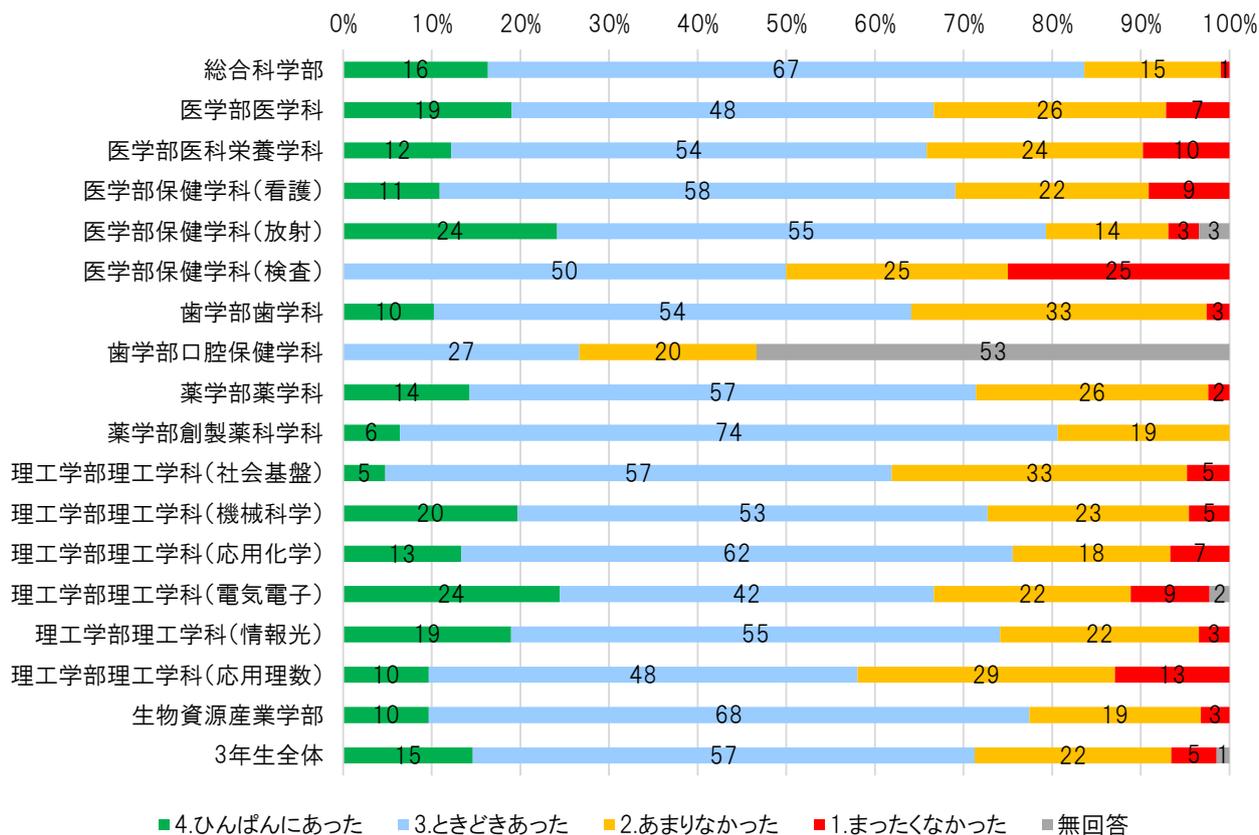
[26]授業を欠席した



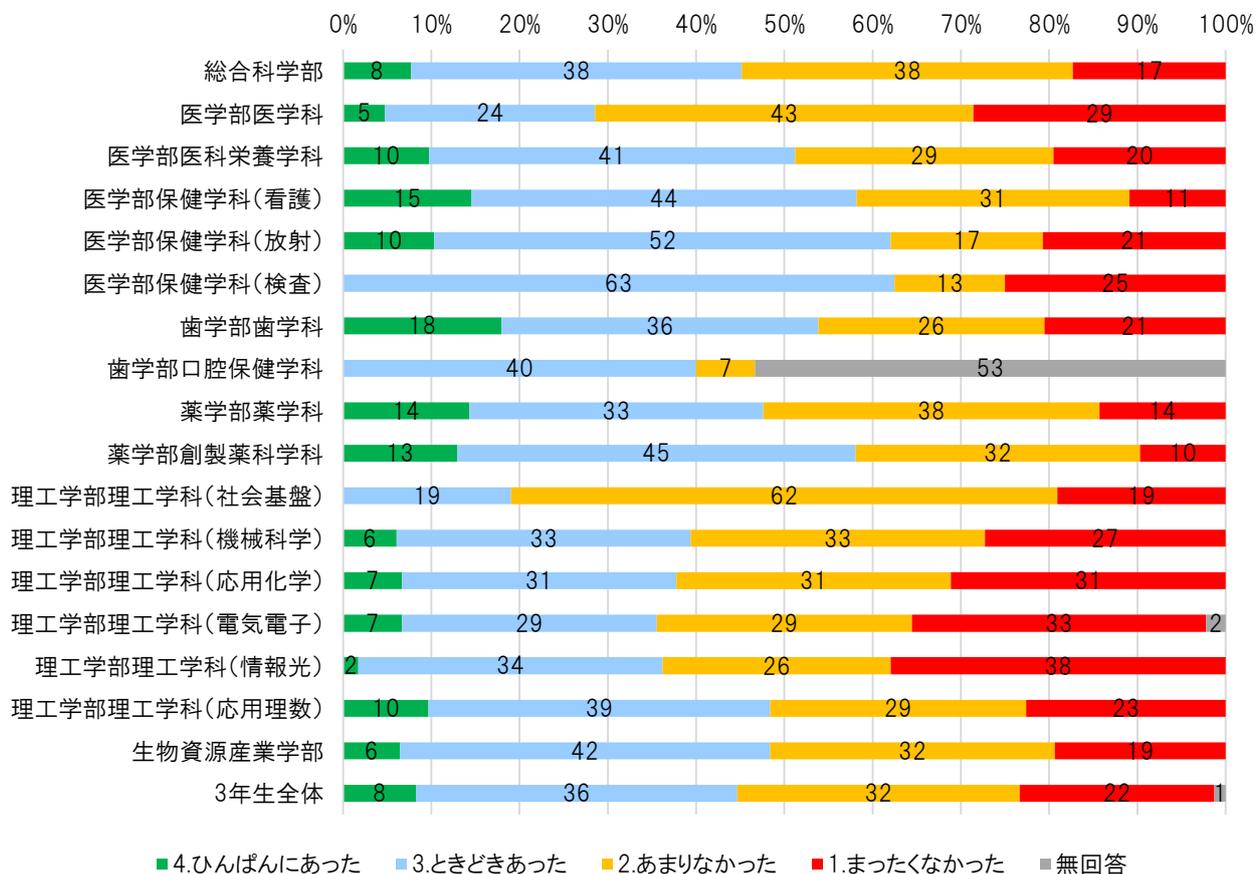
[27]授業に遅刻した



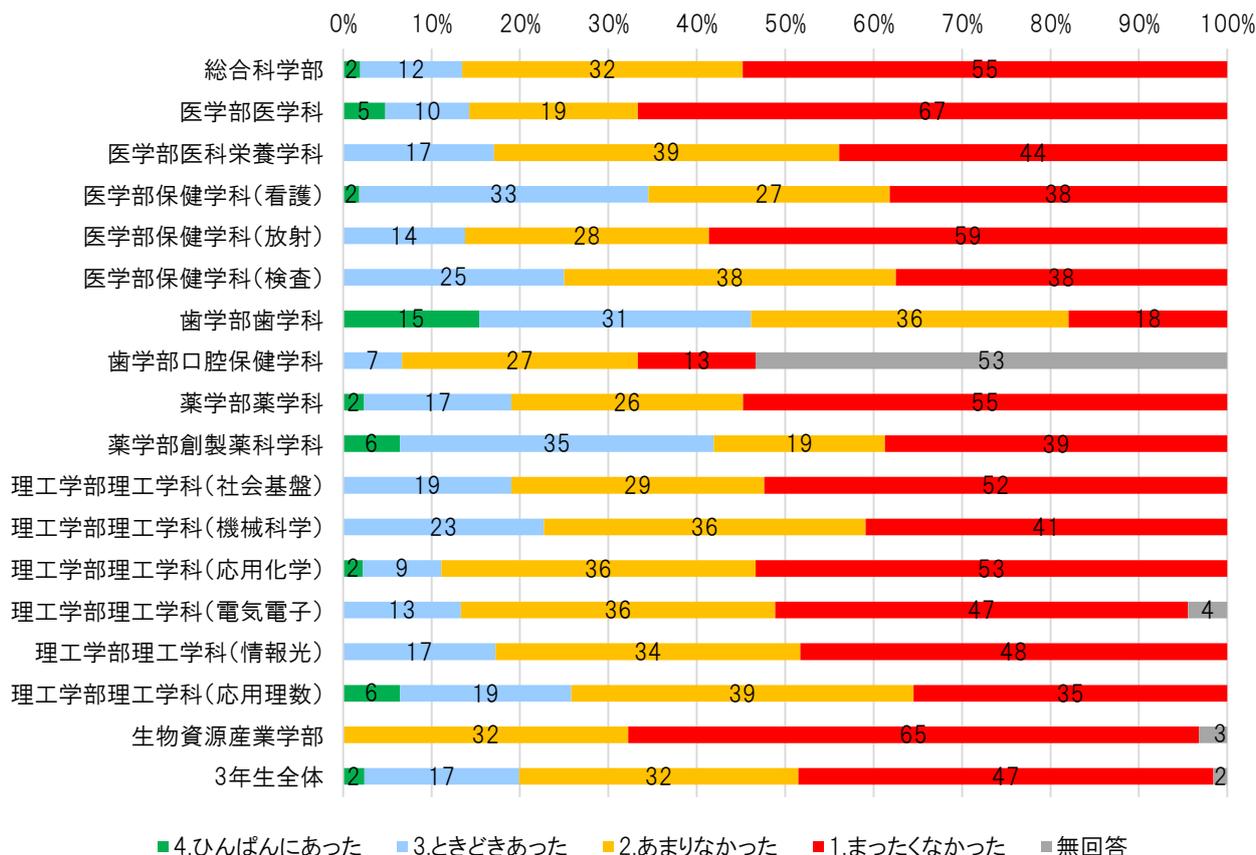
[28]授業をつまらなく感じた



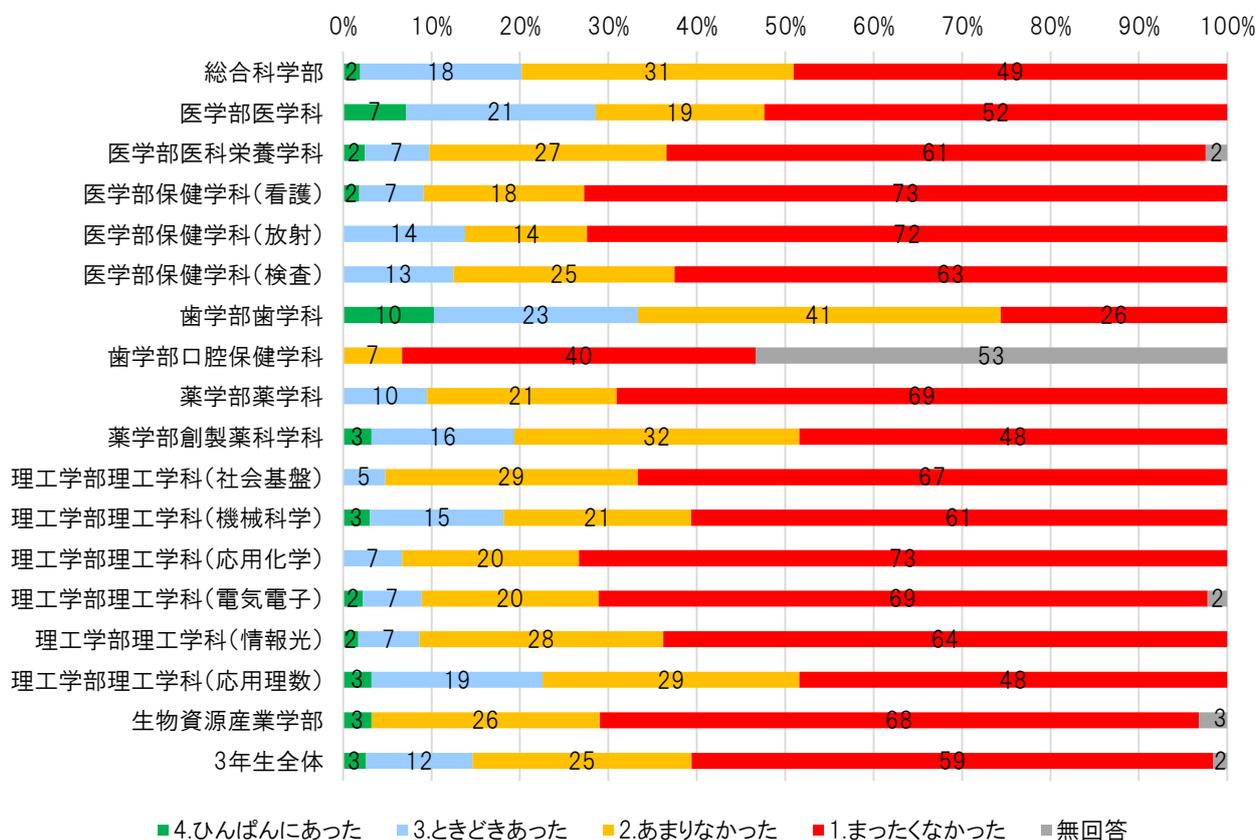
[29]授業中に居眠りをした



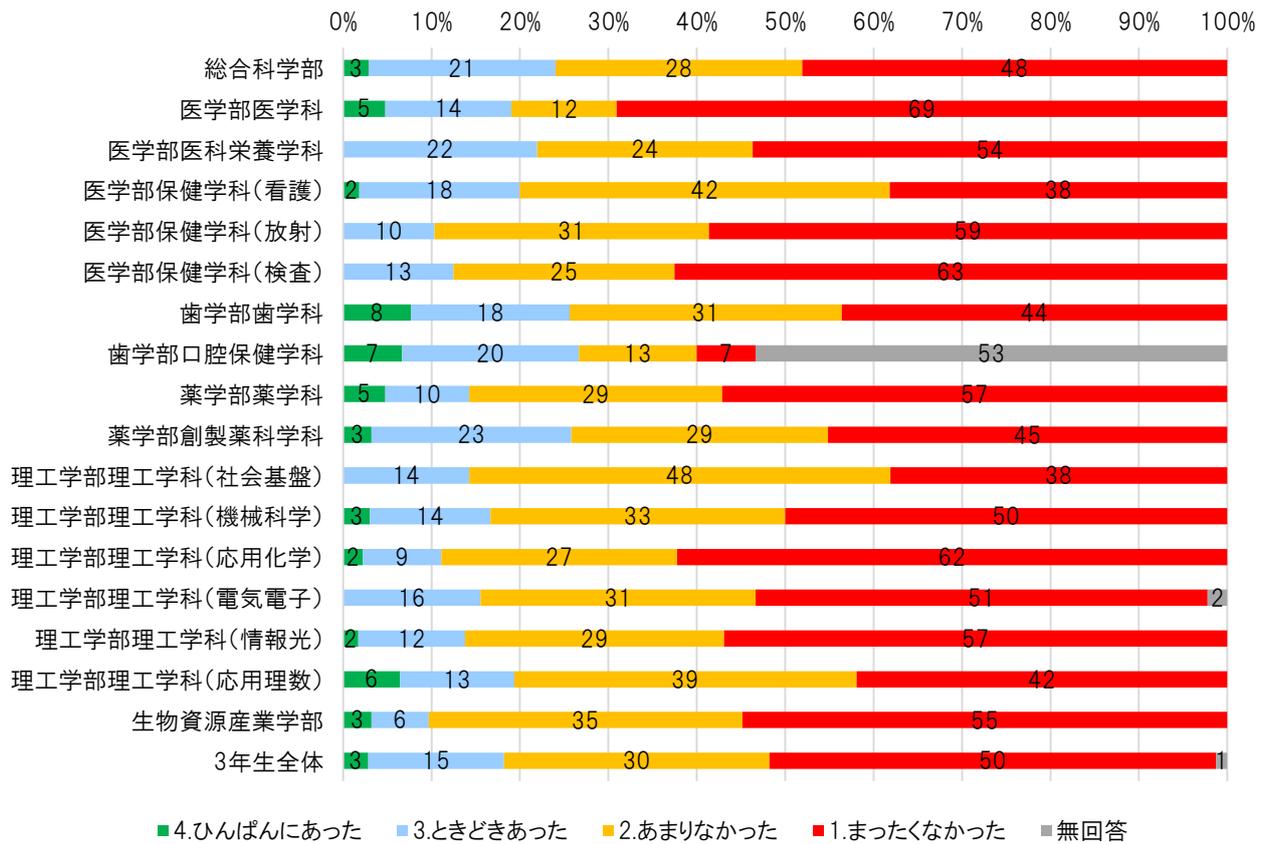
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



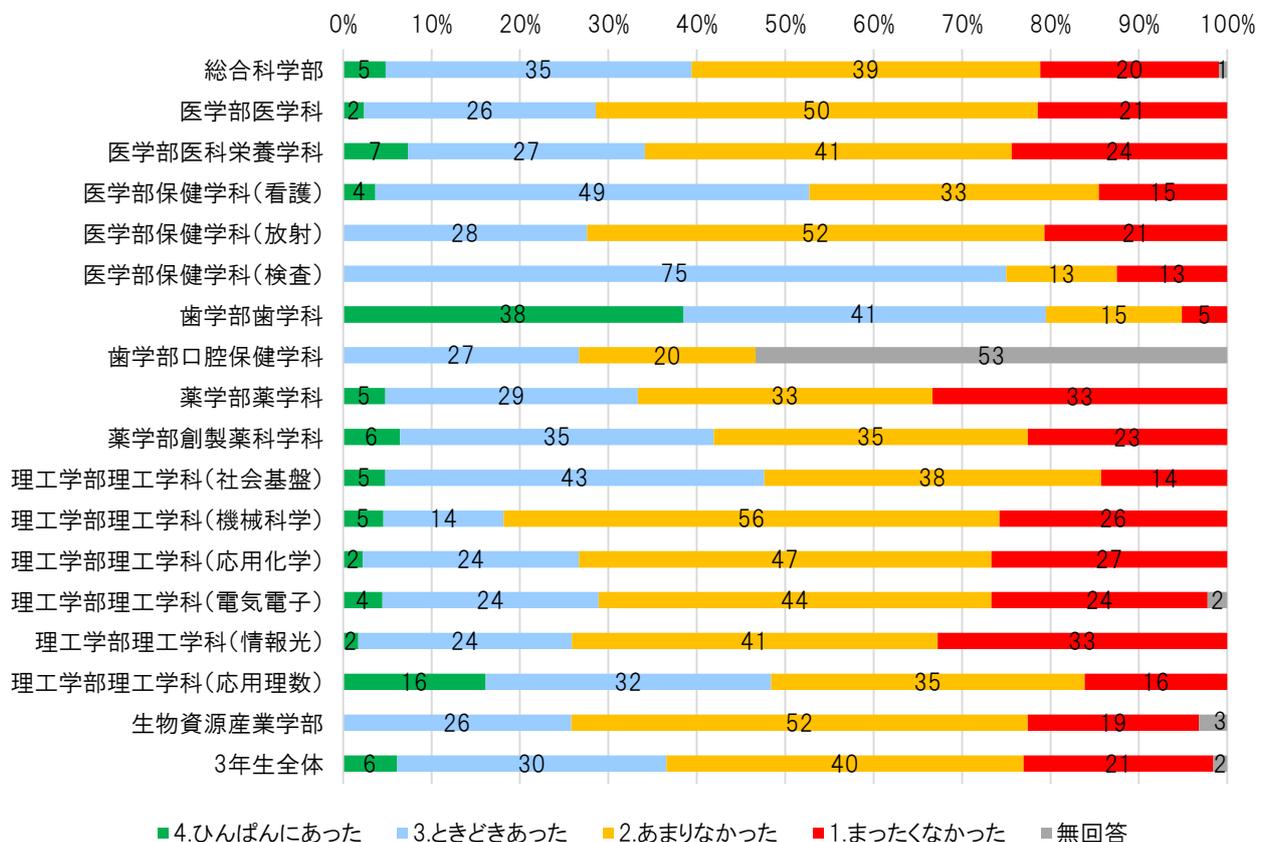
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

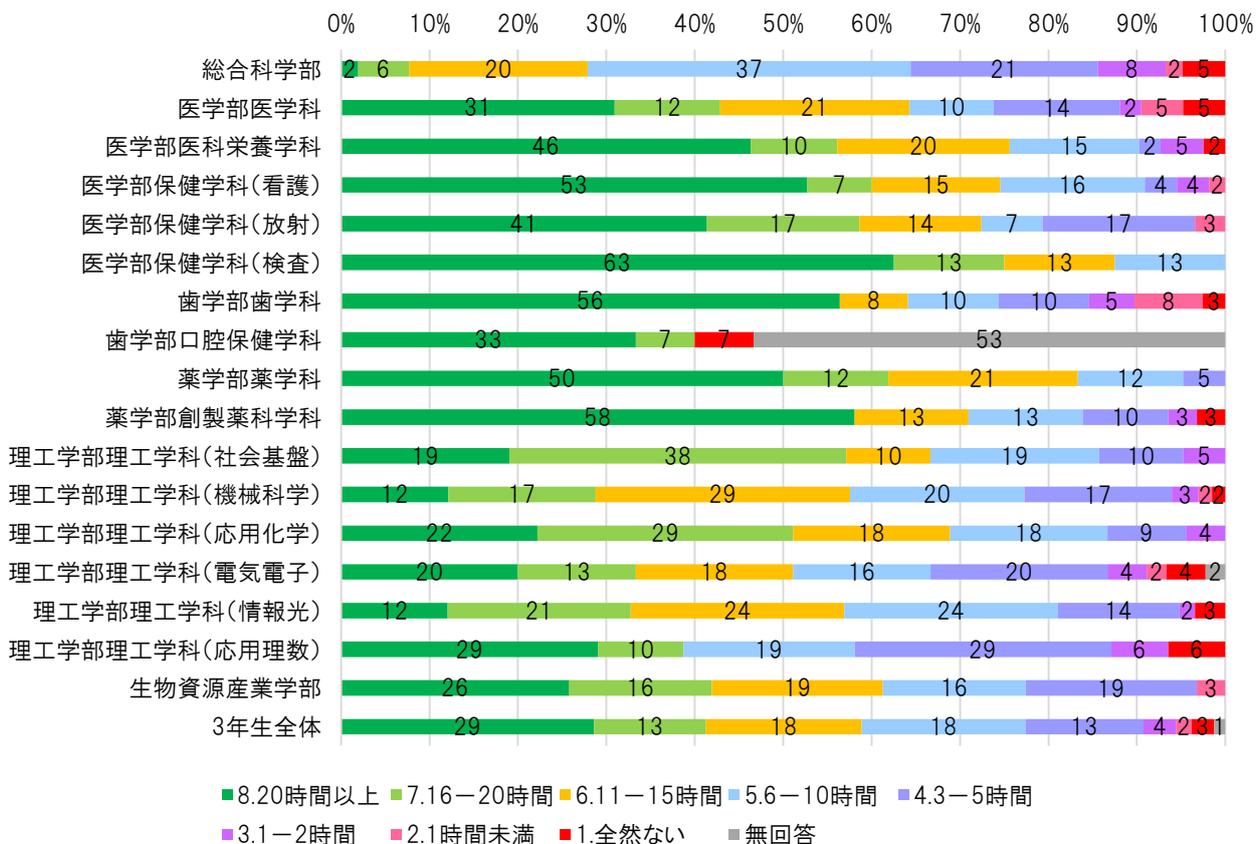


[33]教員に親近感を感じた

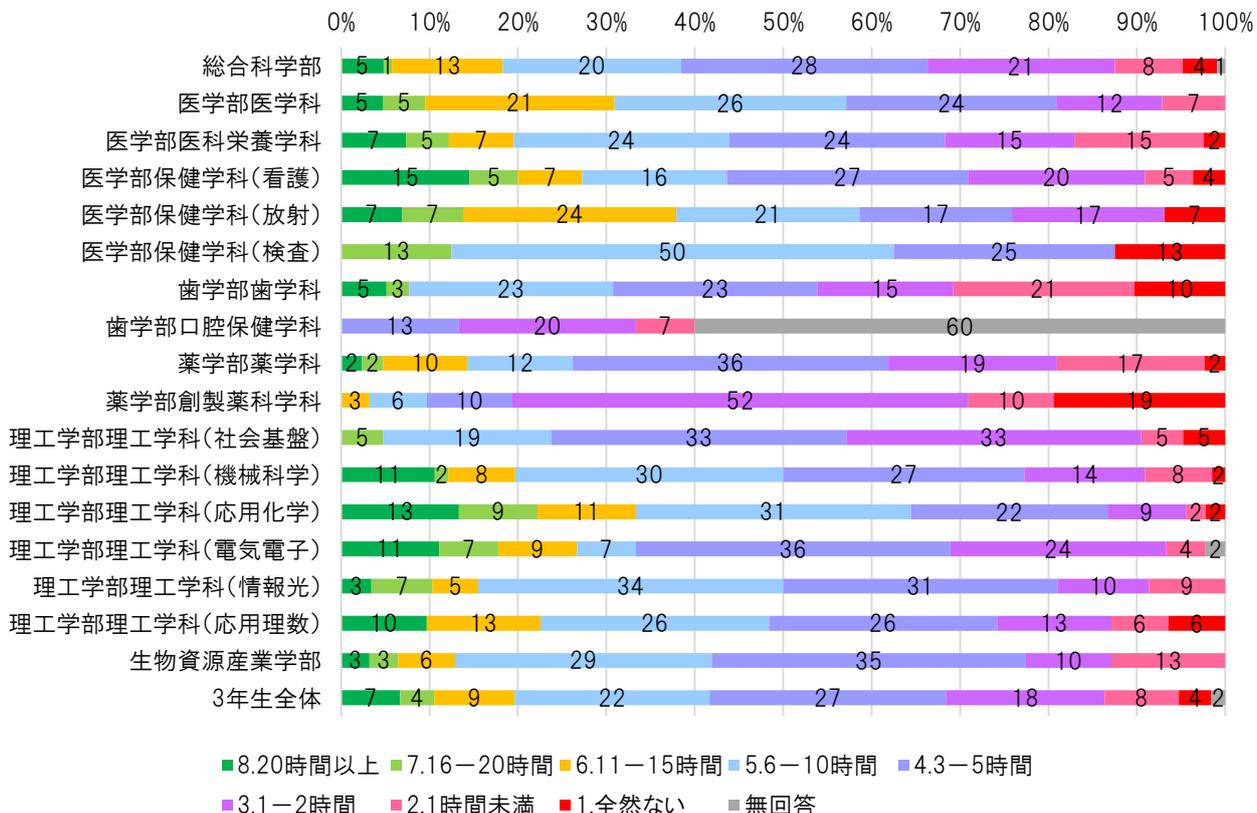


入学以来、あなたは次の活動に 1 週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

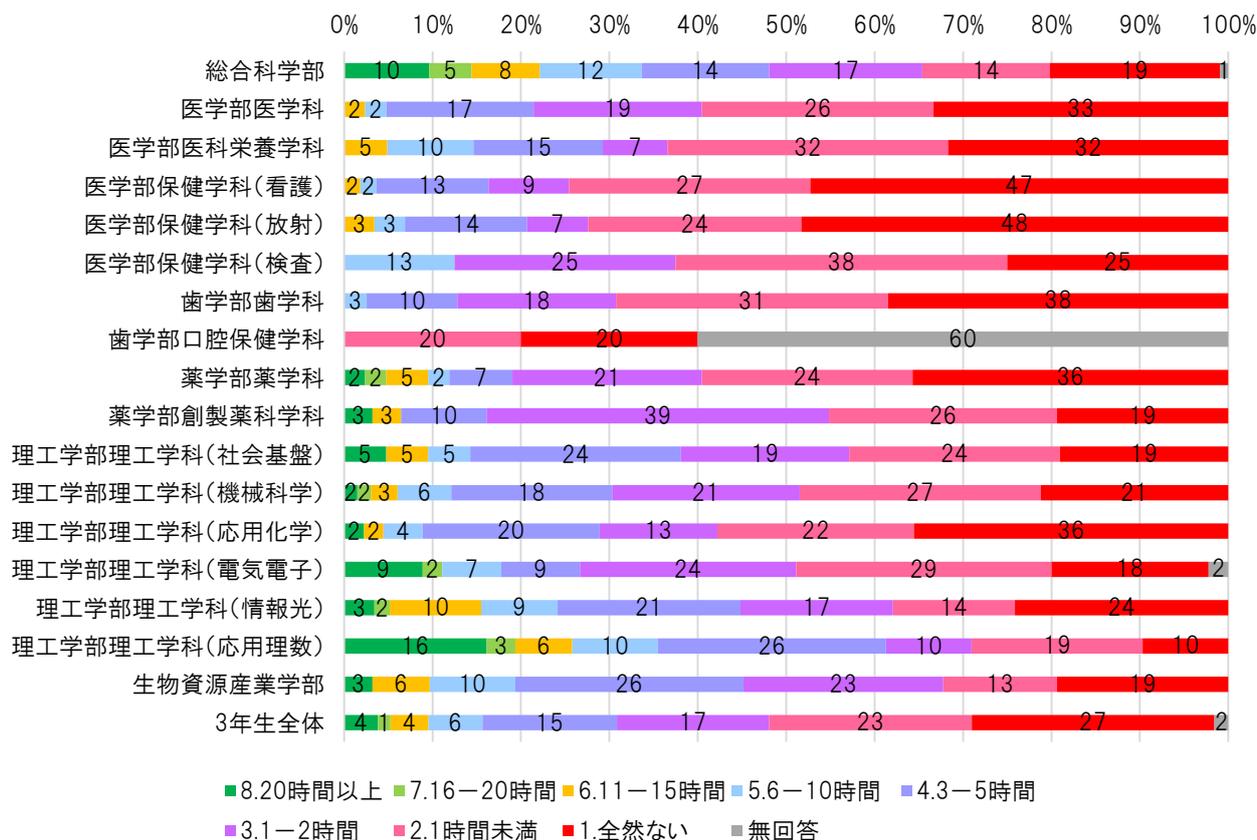
[34] 授業や実験に出る



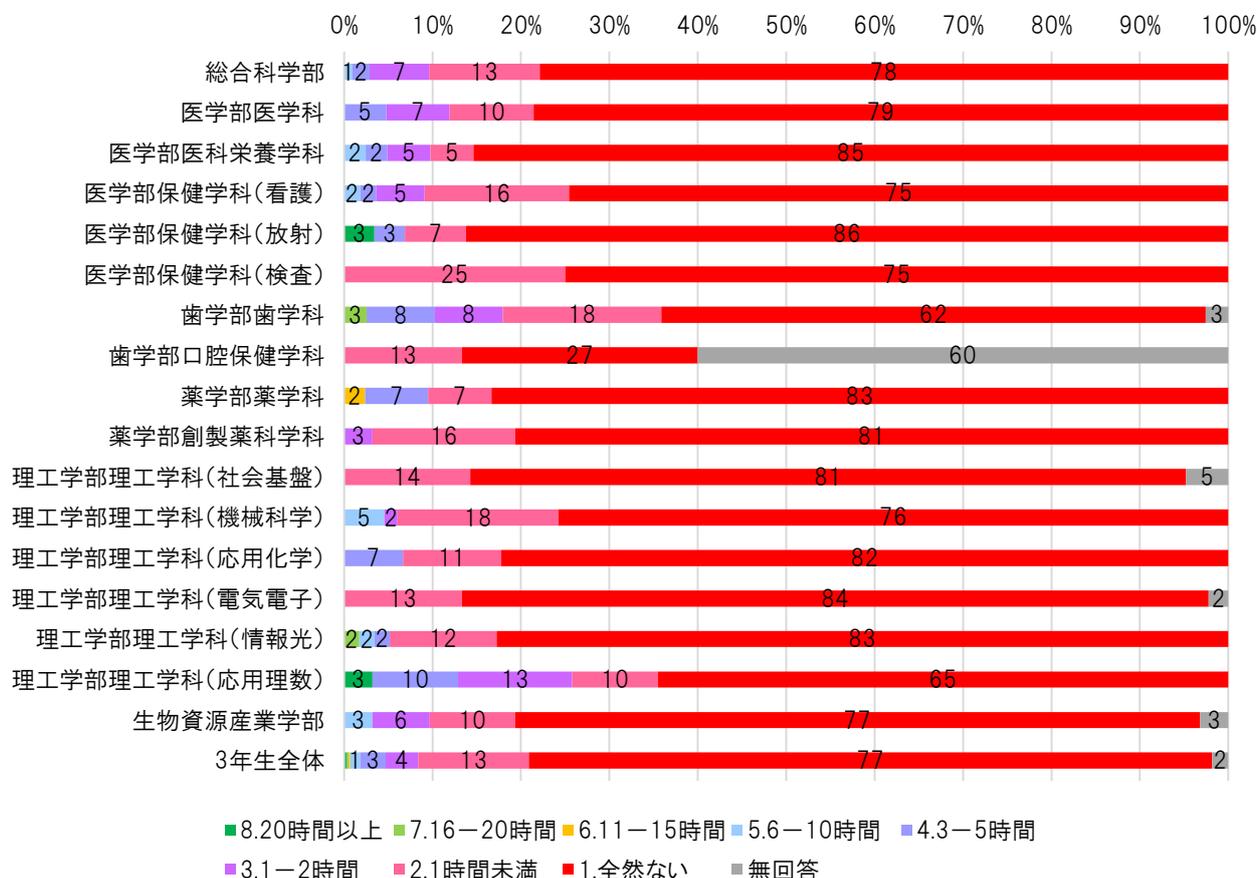
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



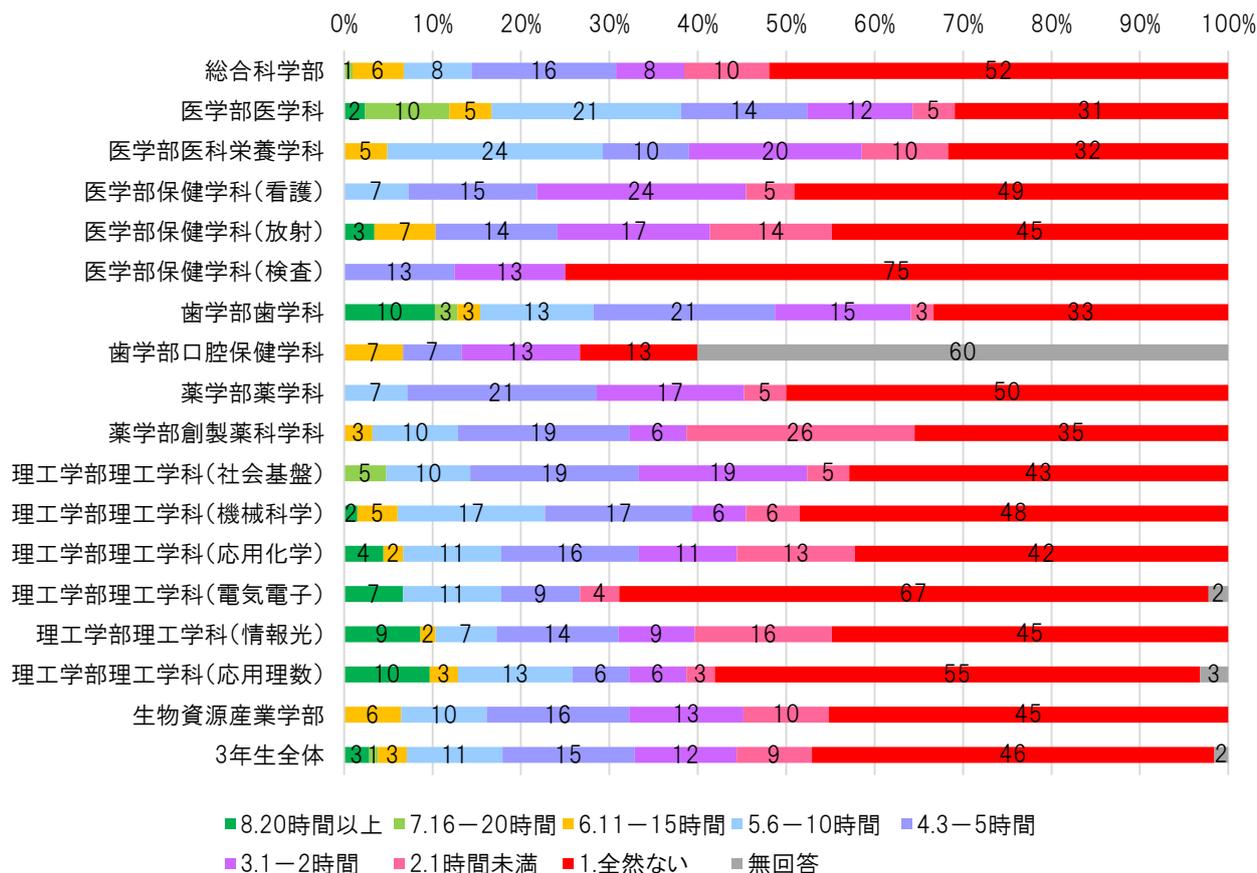
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



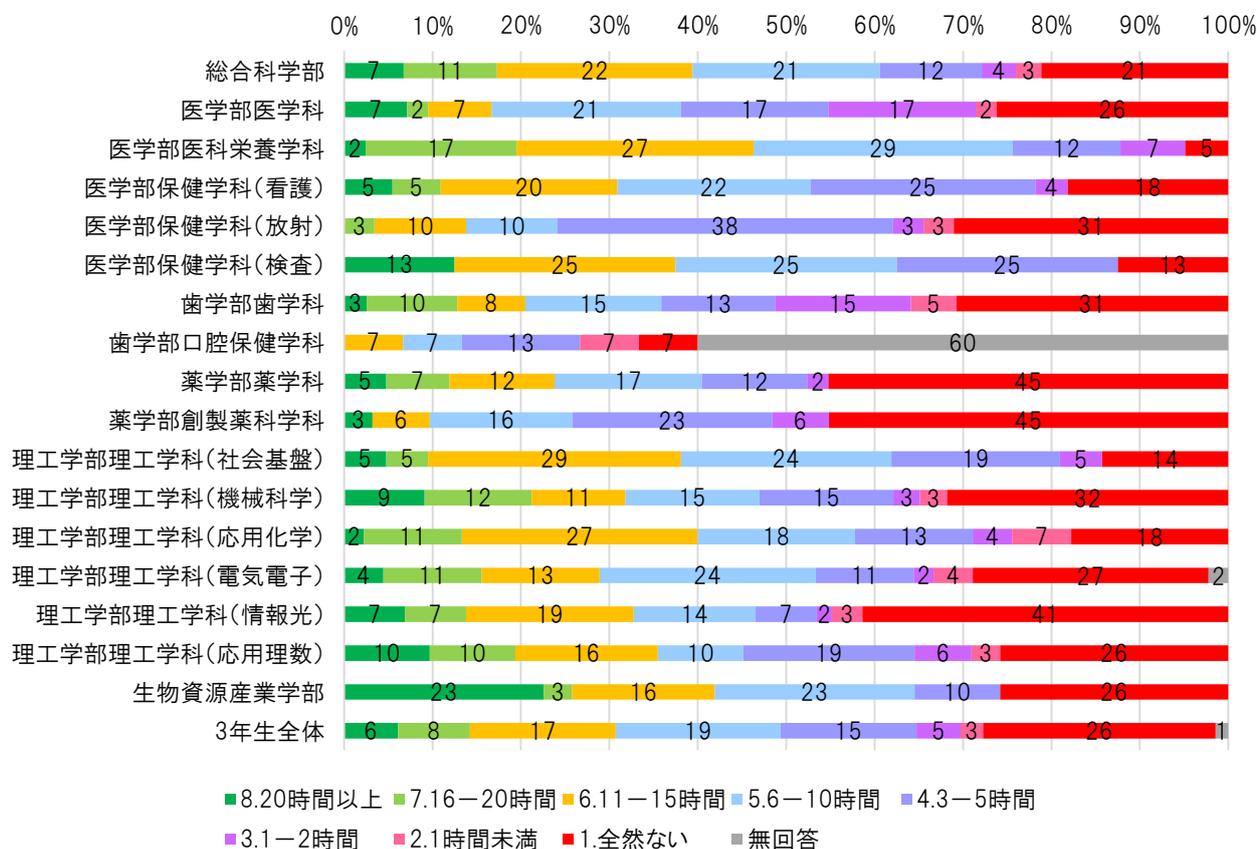
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



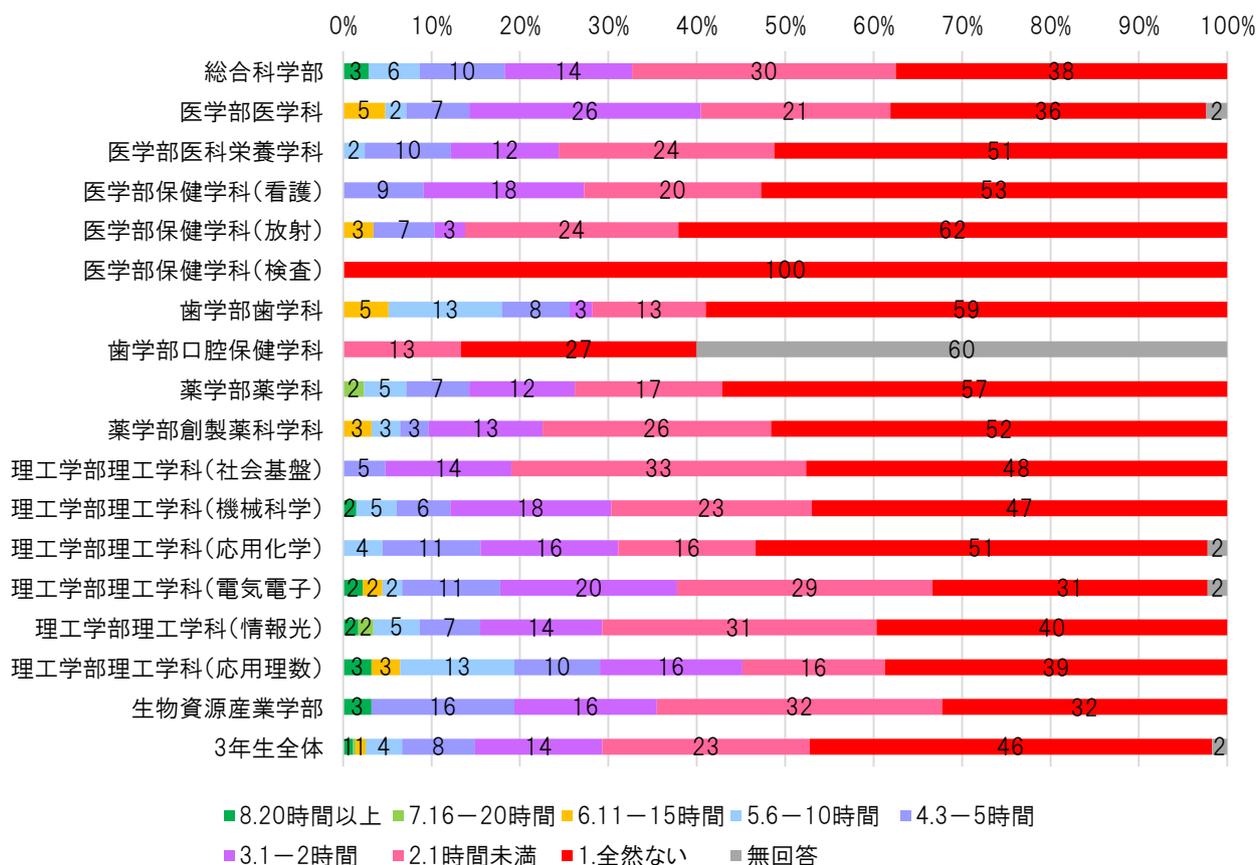
[38]部活動や同好会に参加する



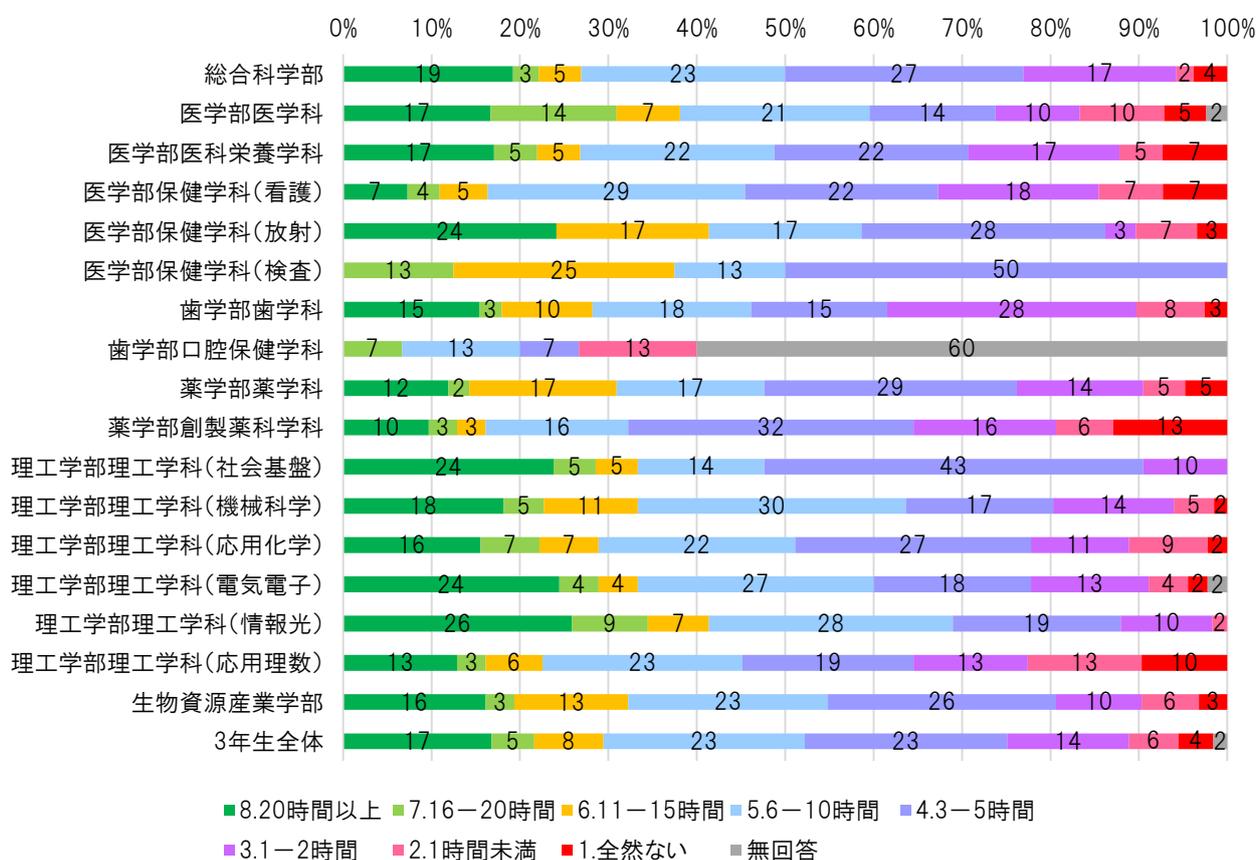
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

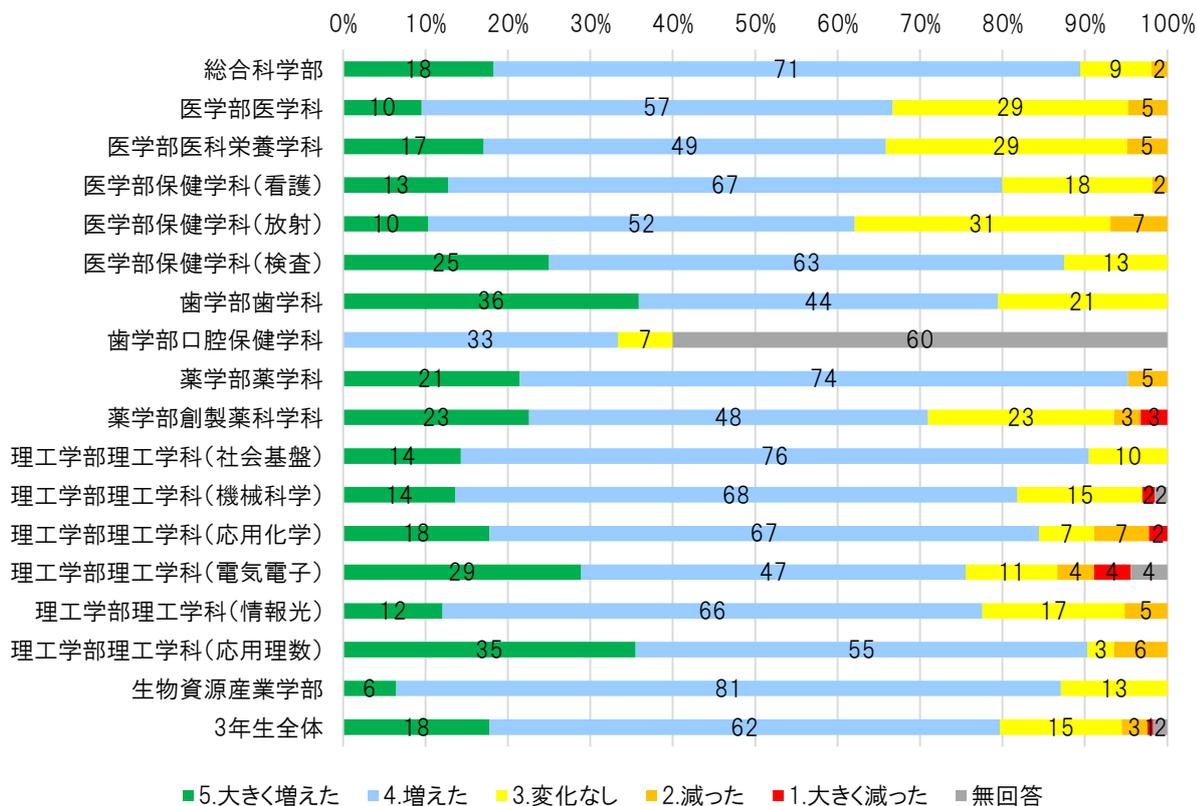


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

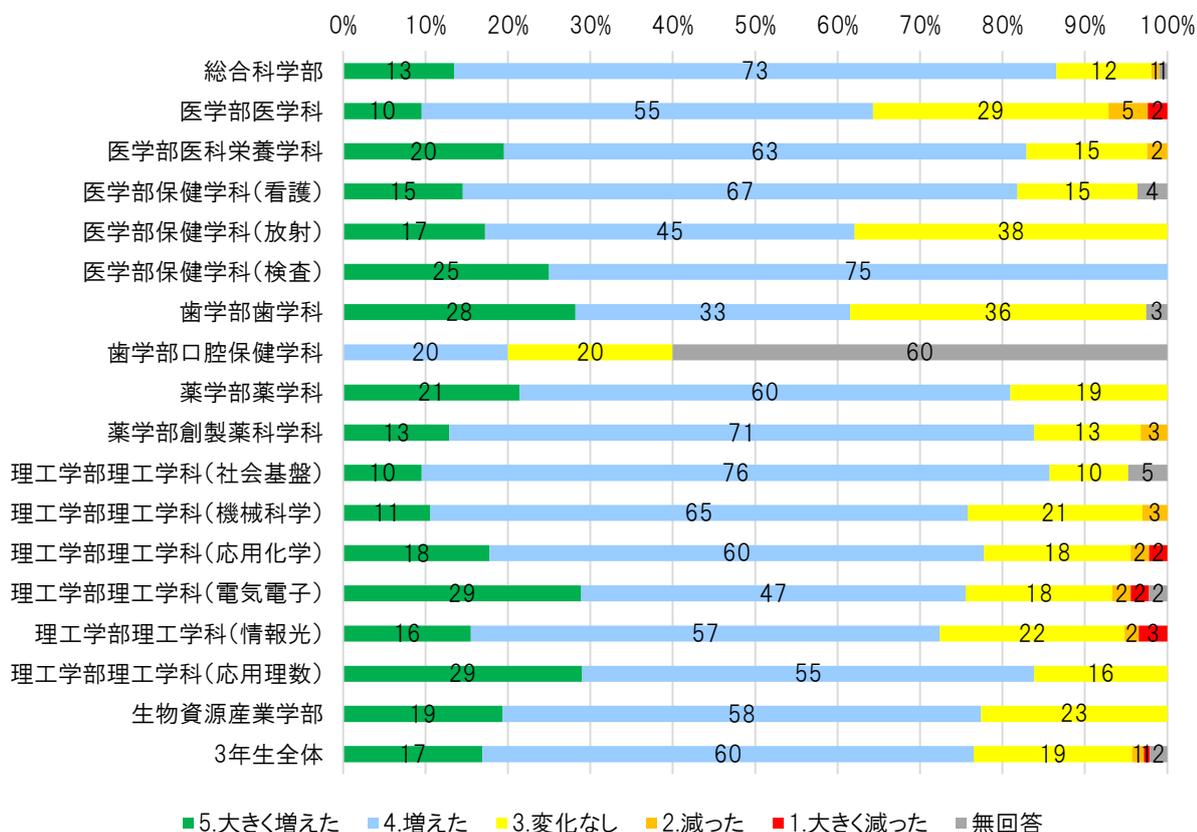


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

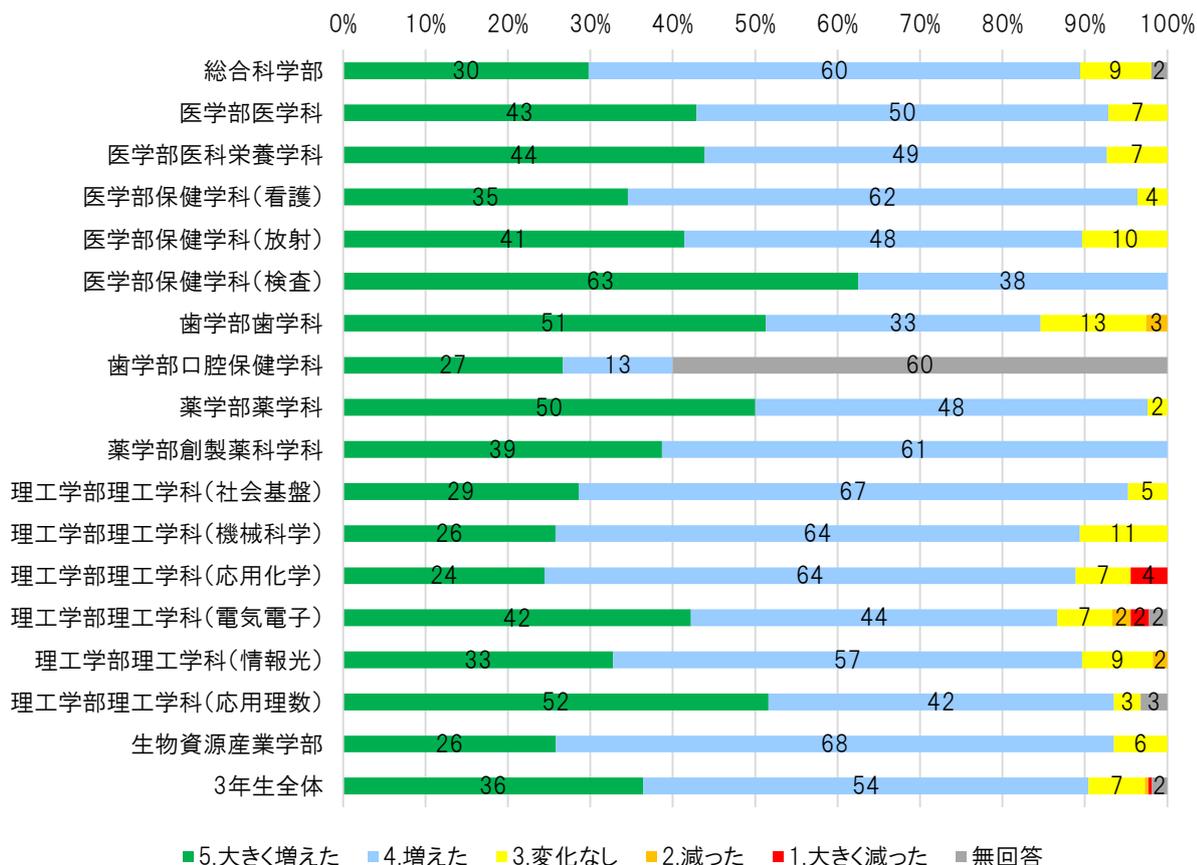
[42]一般的な教養



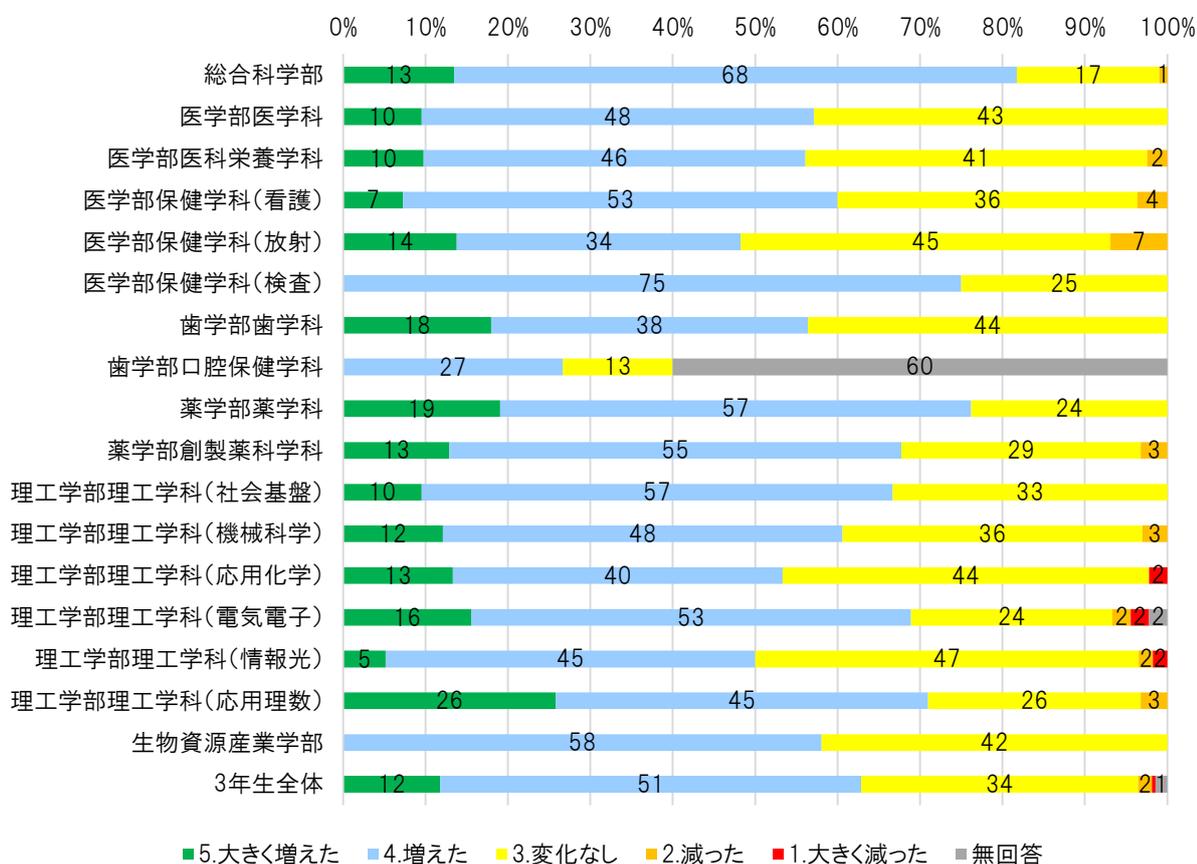
[43]分析力や問題解決能力



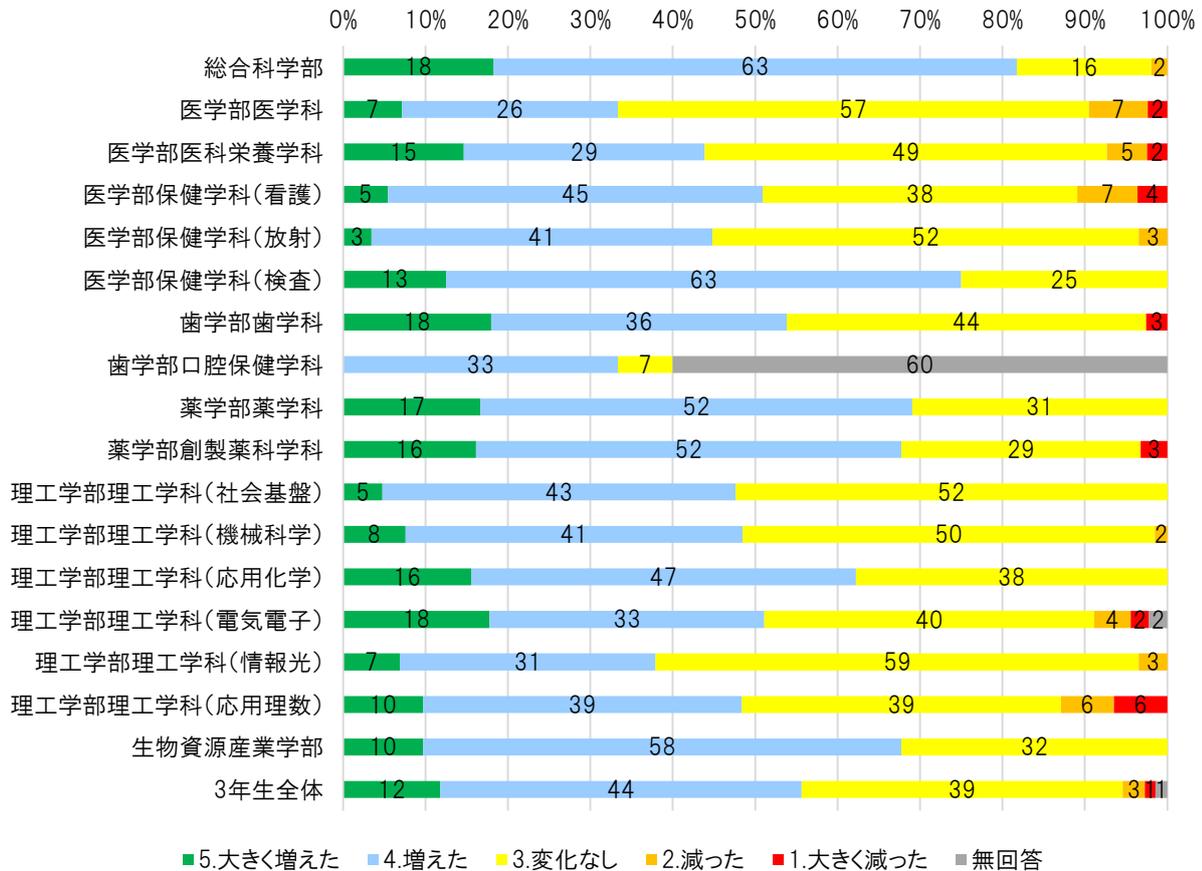
[44] 専門分野や学科の知識



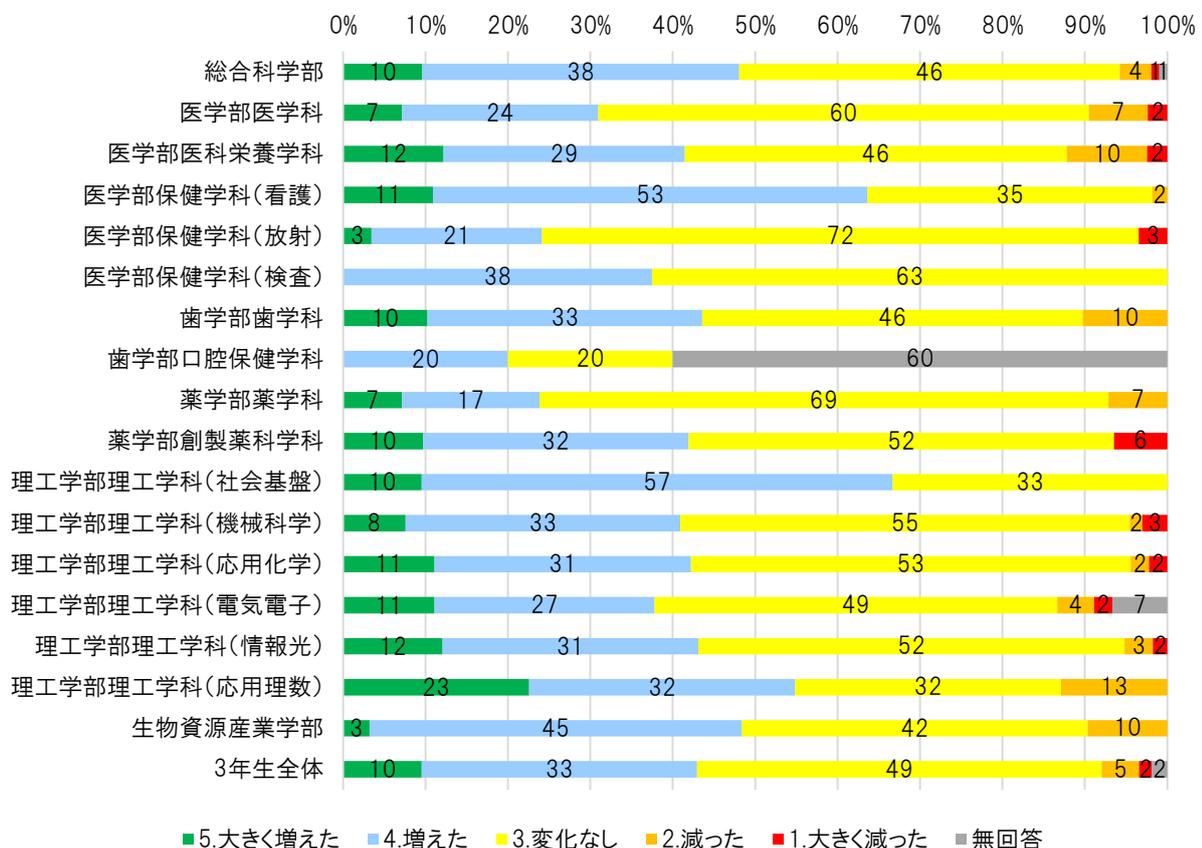
[45] 批判的に考える能力



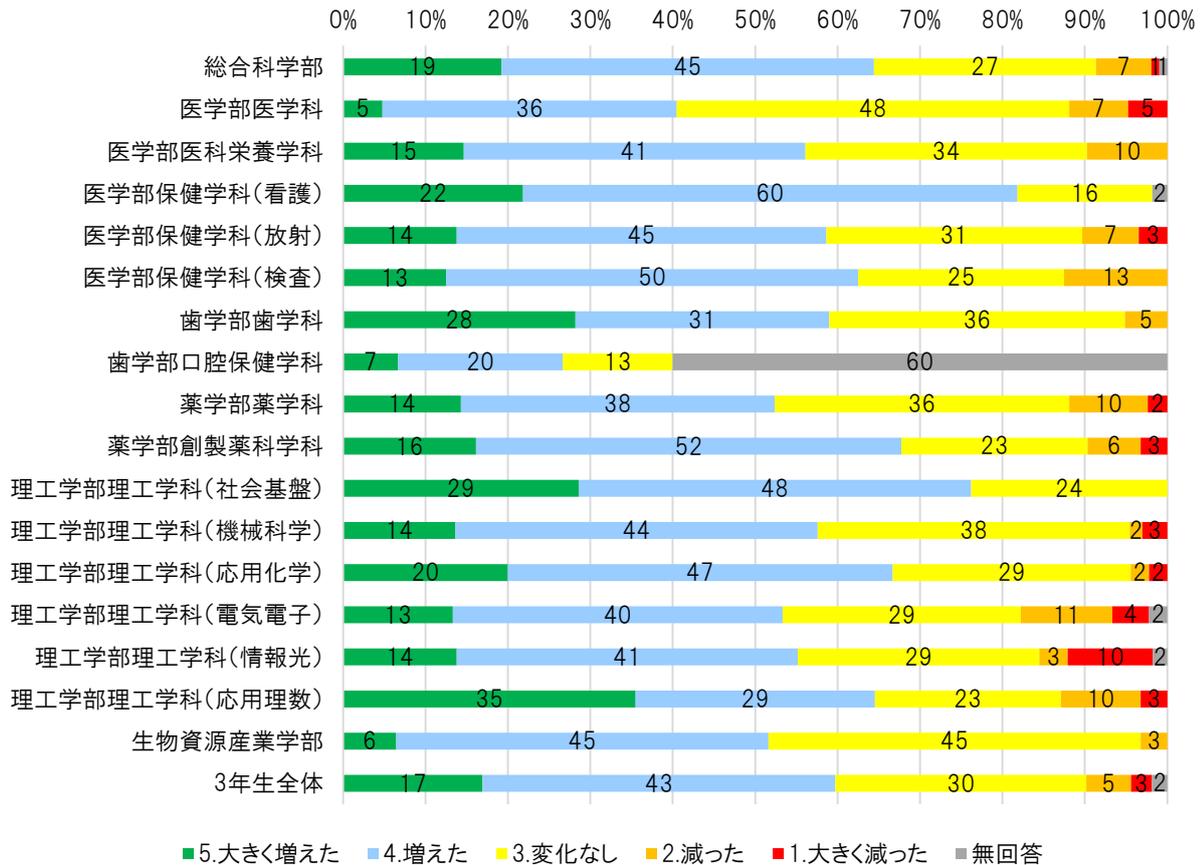
[46]異文化の人々に関する知識



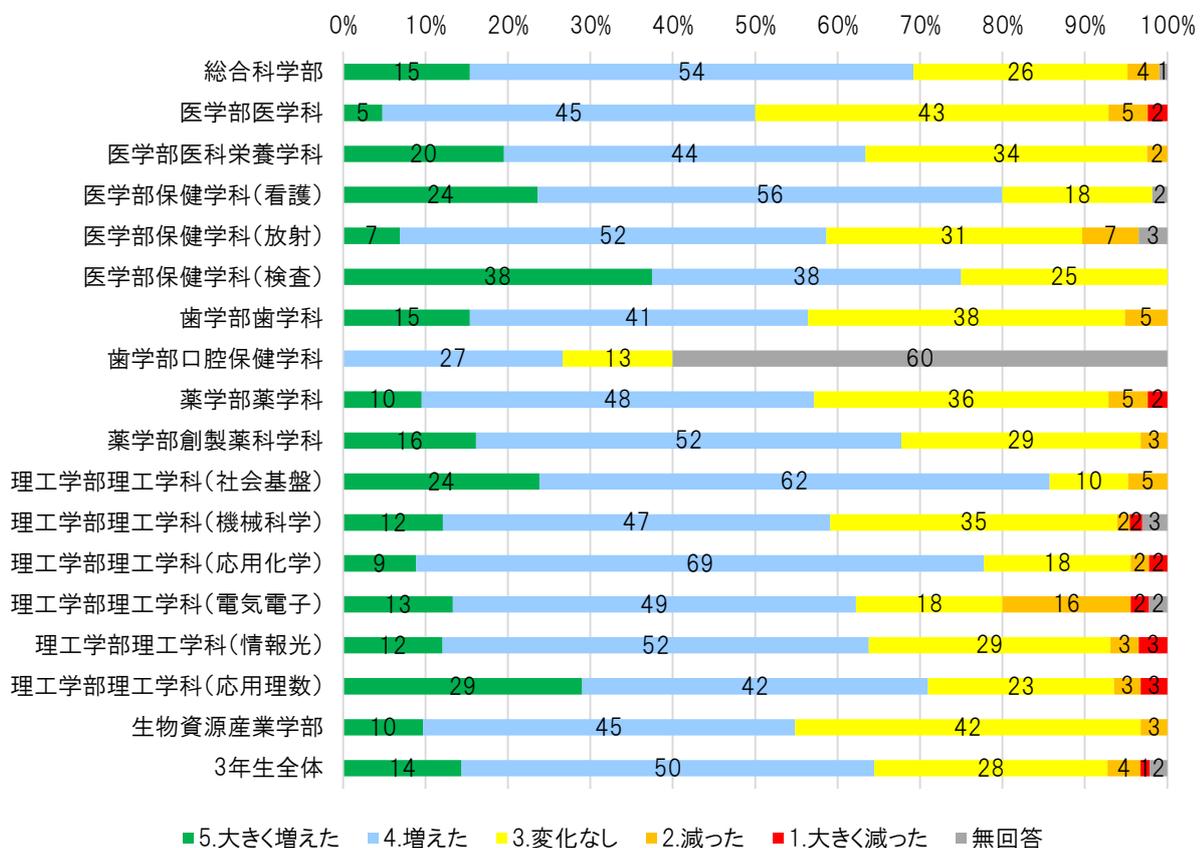
[47]リーダーシップの能力



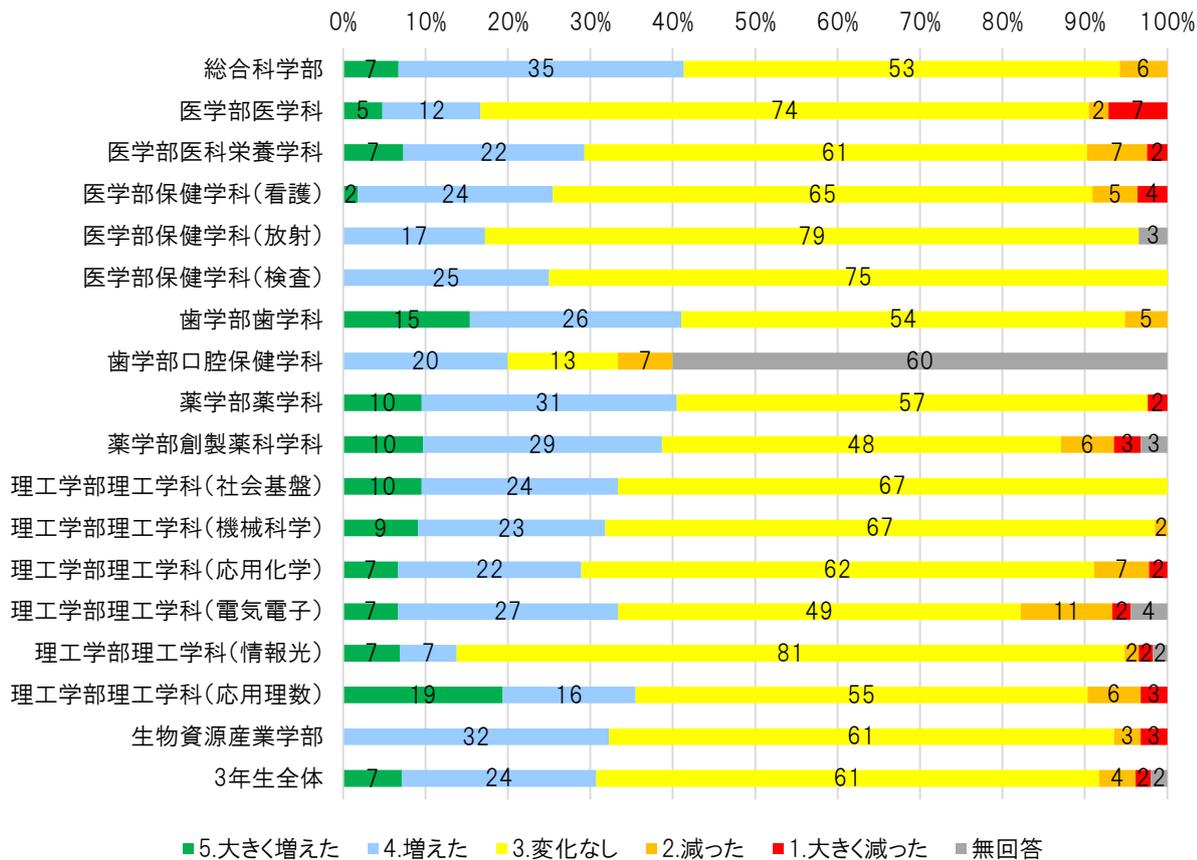
[48]人間関係を構築する能力



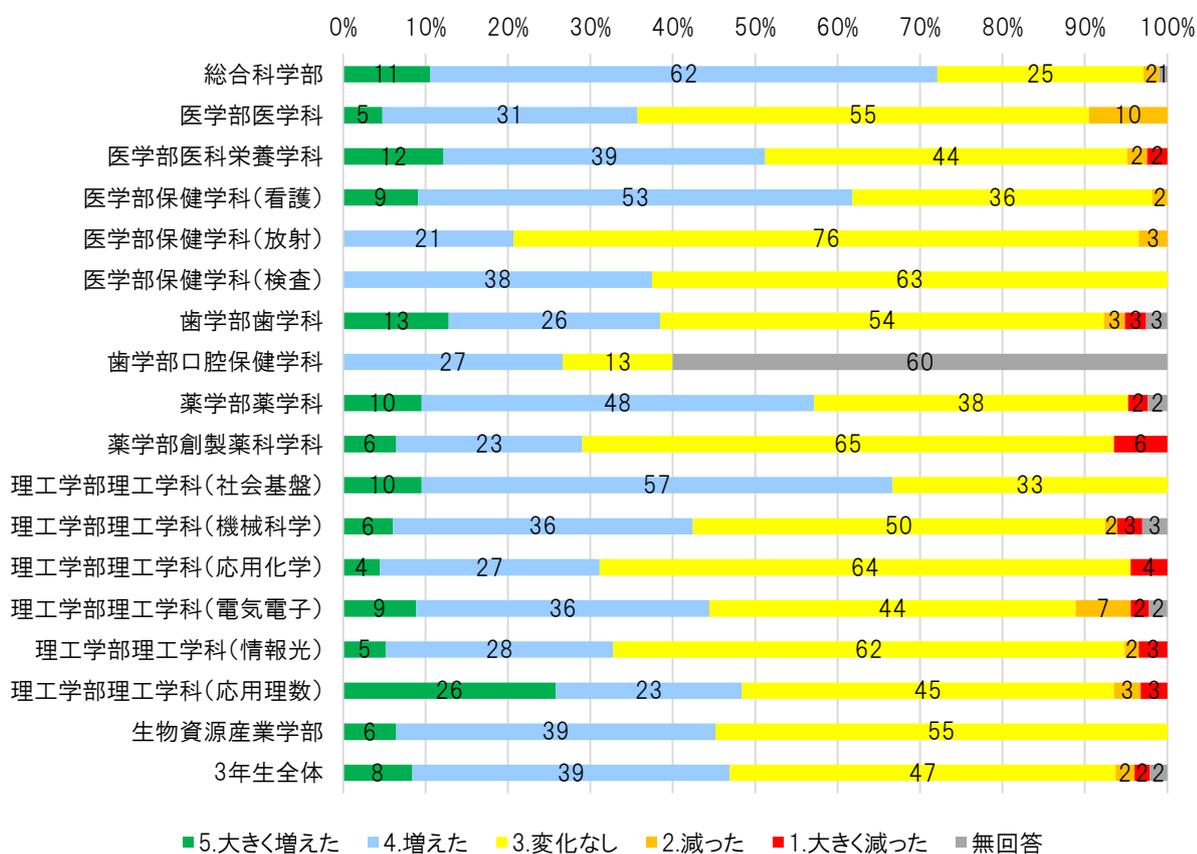
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



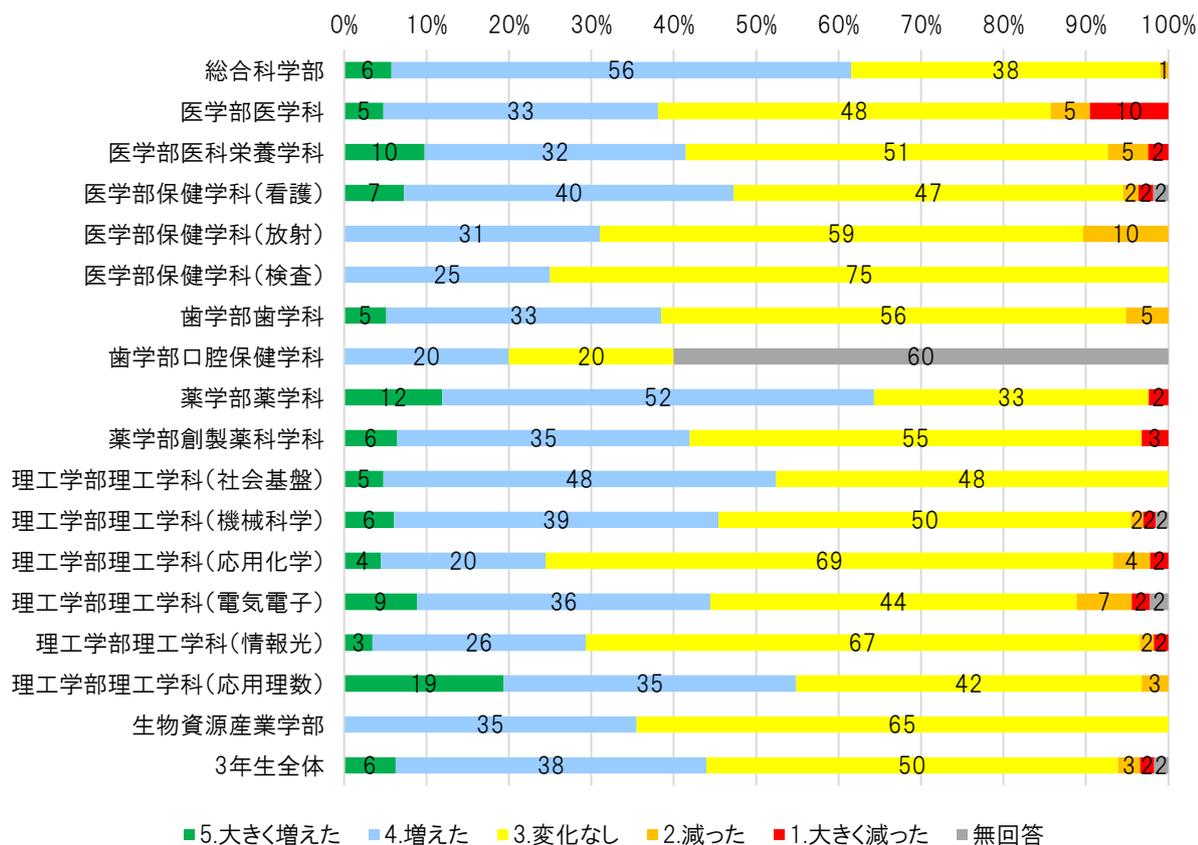
[50]異文化の人々と協力する能力



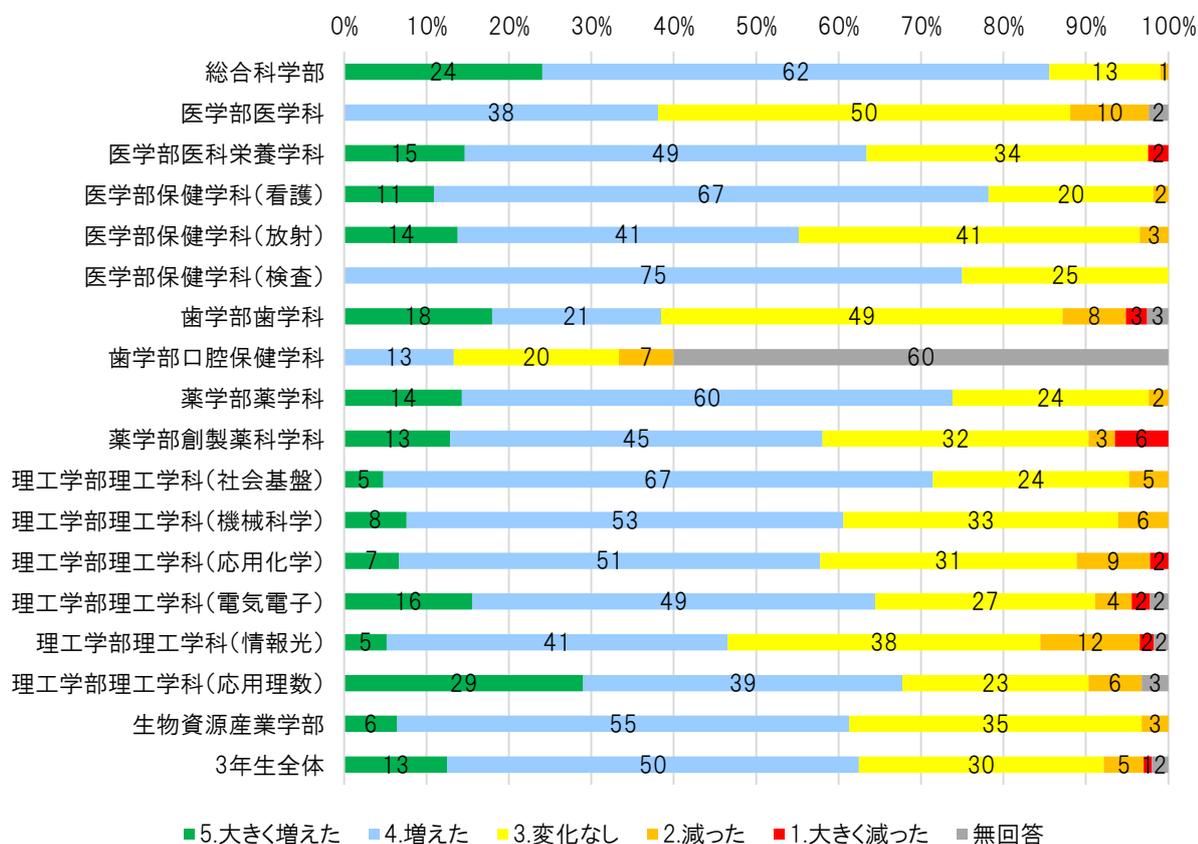
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



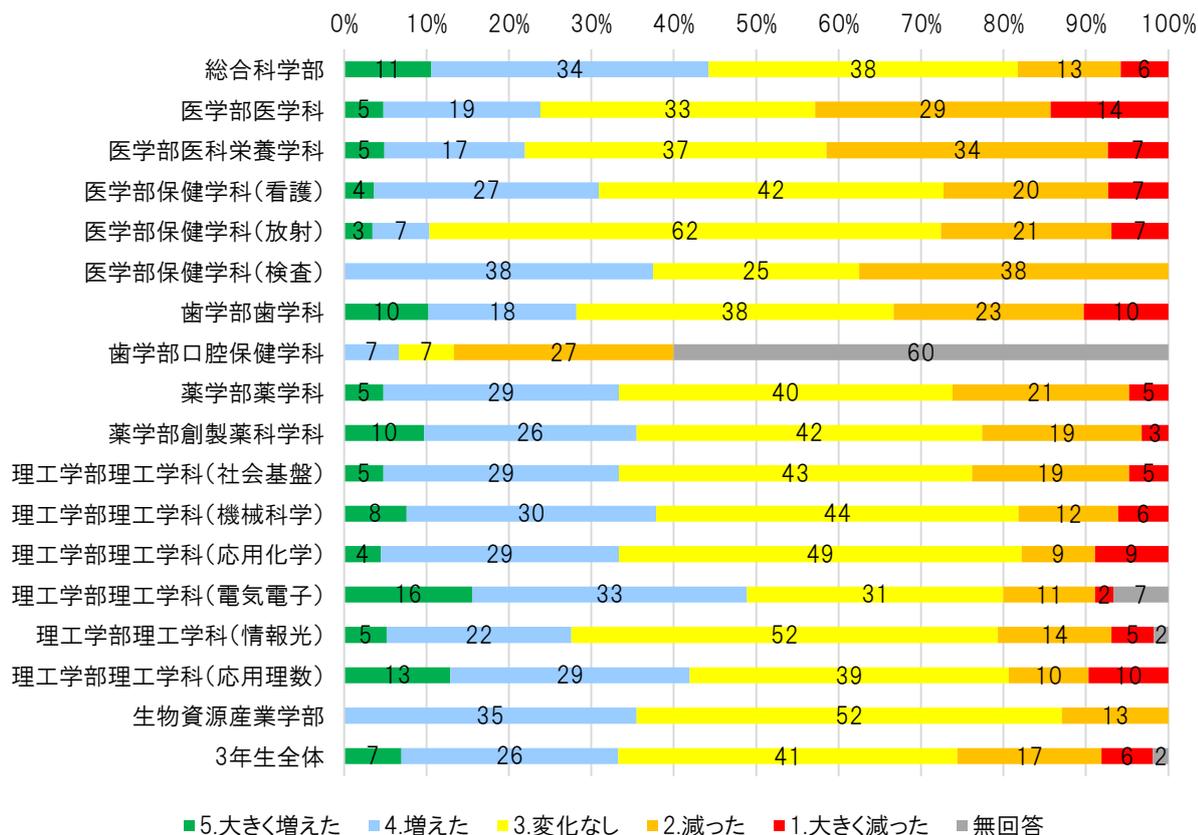
[52] 国民が直面する問題を理解する能力



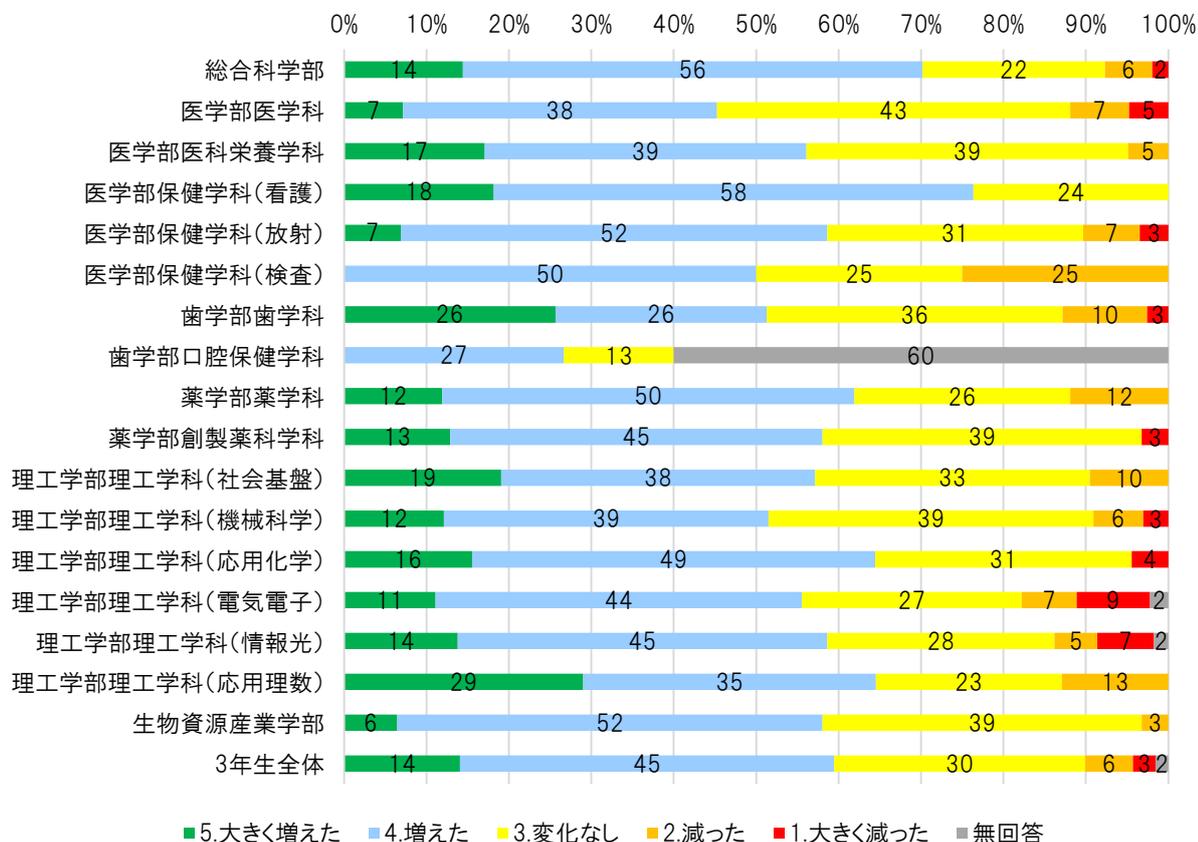
[53] 文章表現の能力



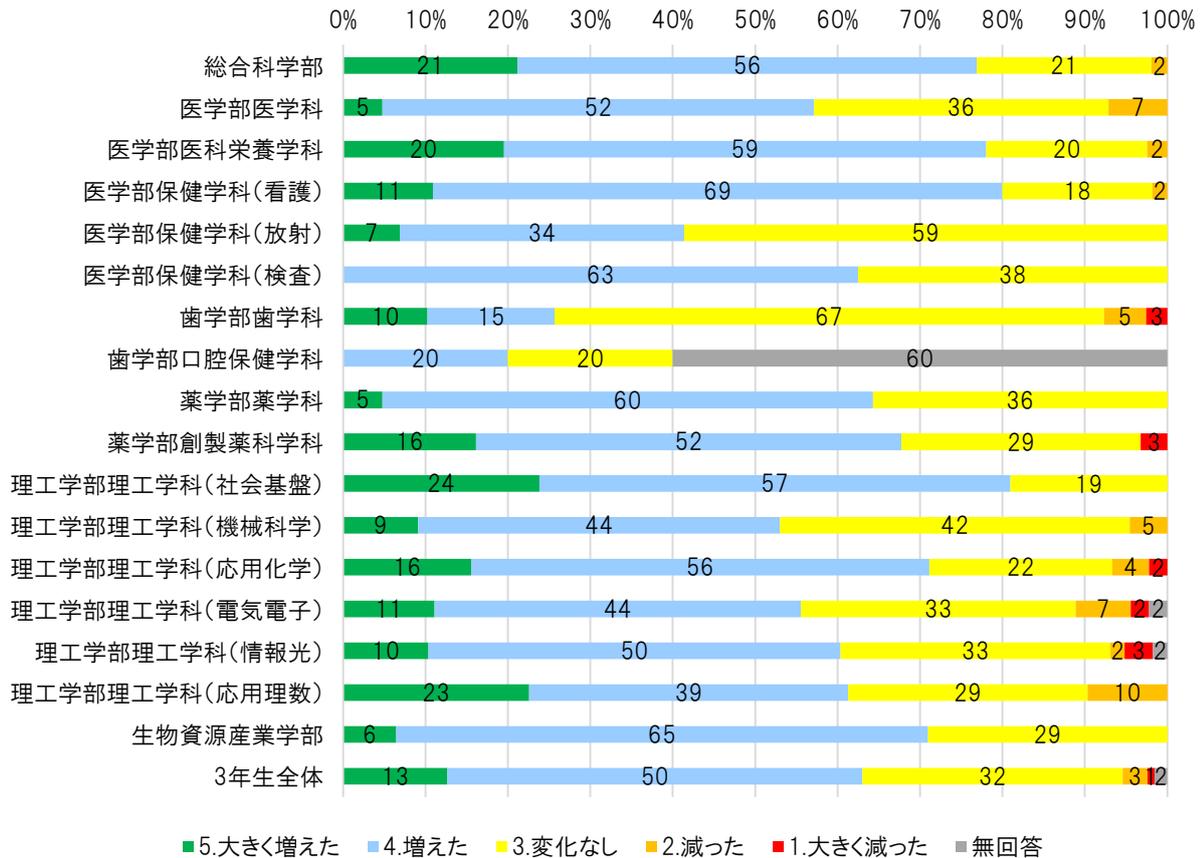
[54]外国語の運用能力



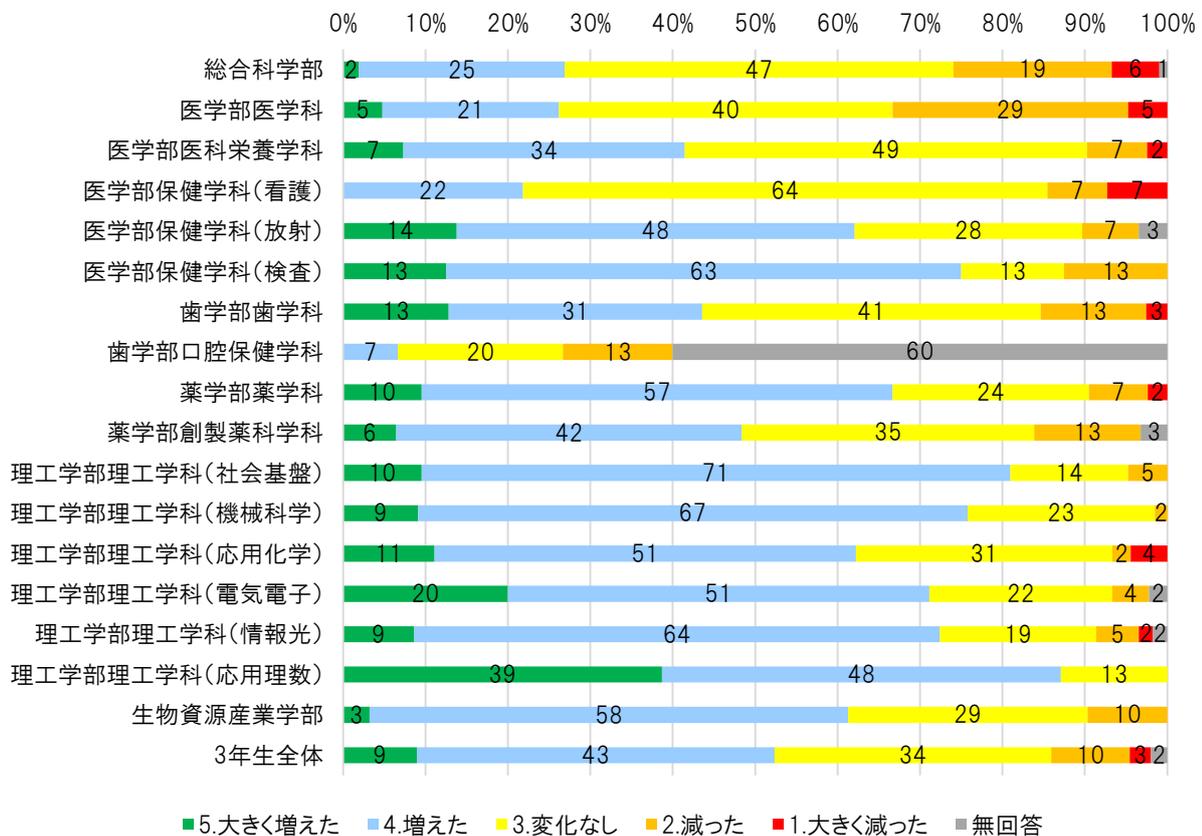
[55]コミュニケーションの能力



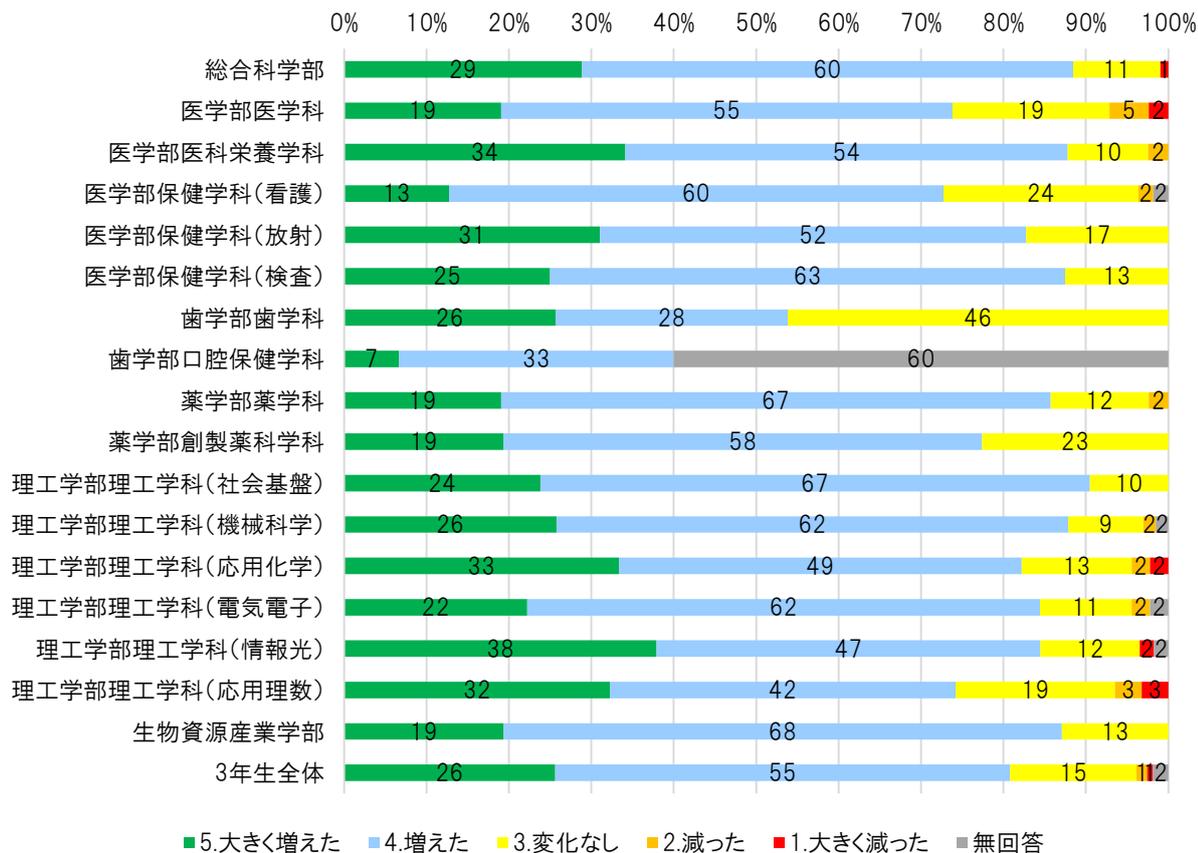
[56]プレゼンテーションの能力



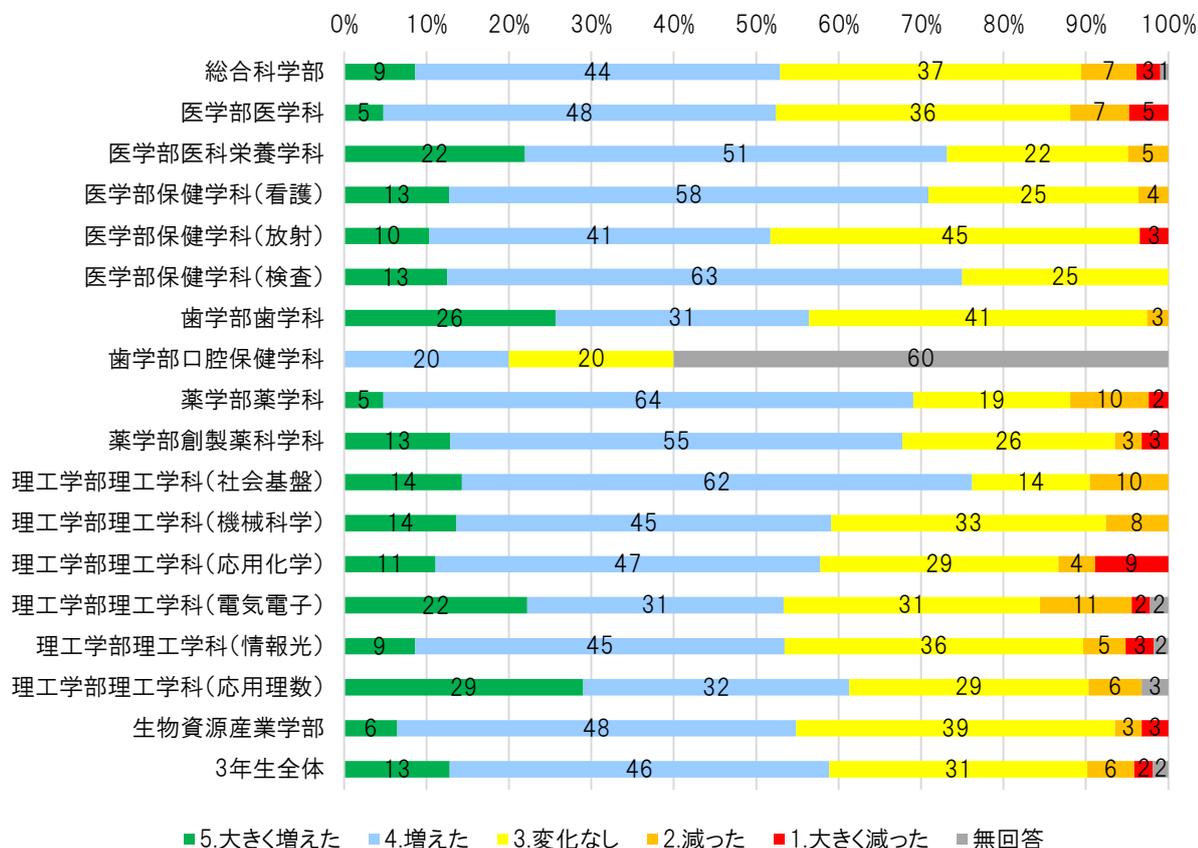
[57]数理的な能力



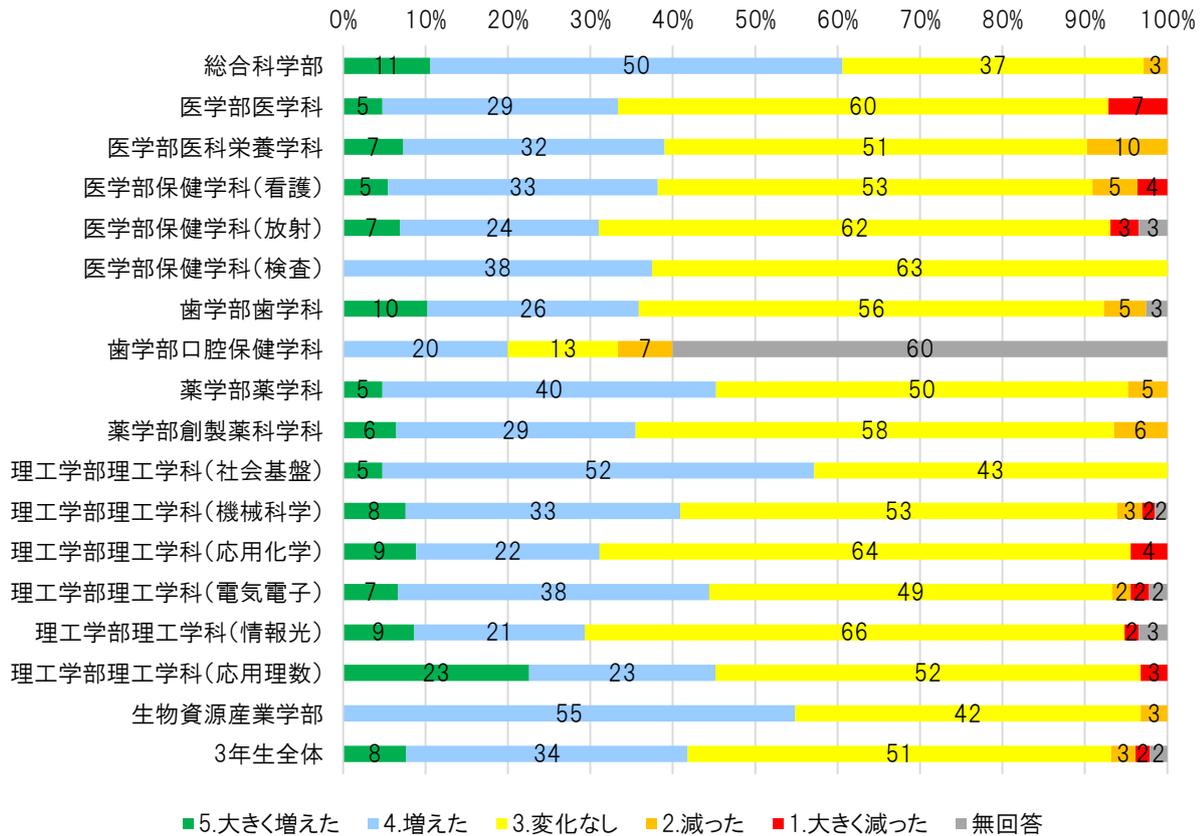
[58]コンピュータの操作能力



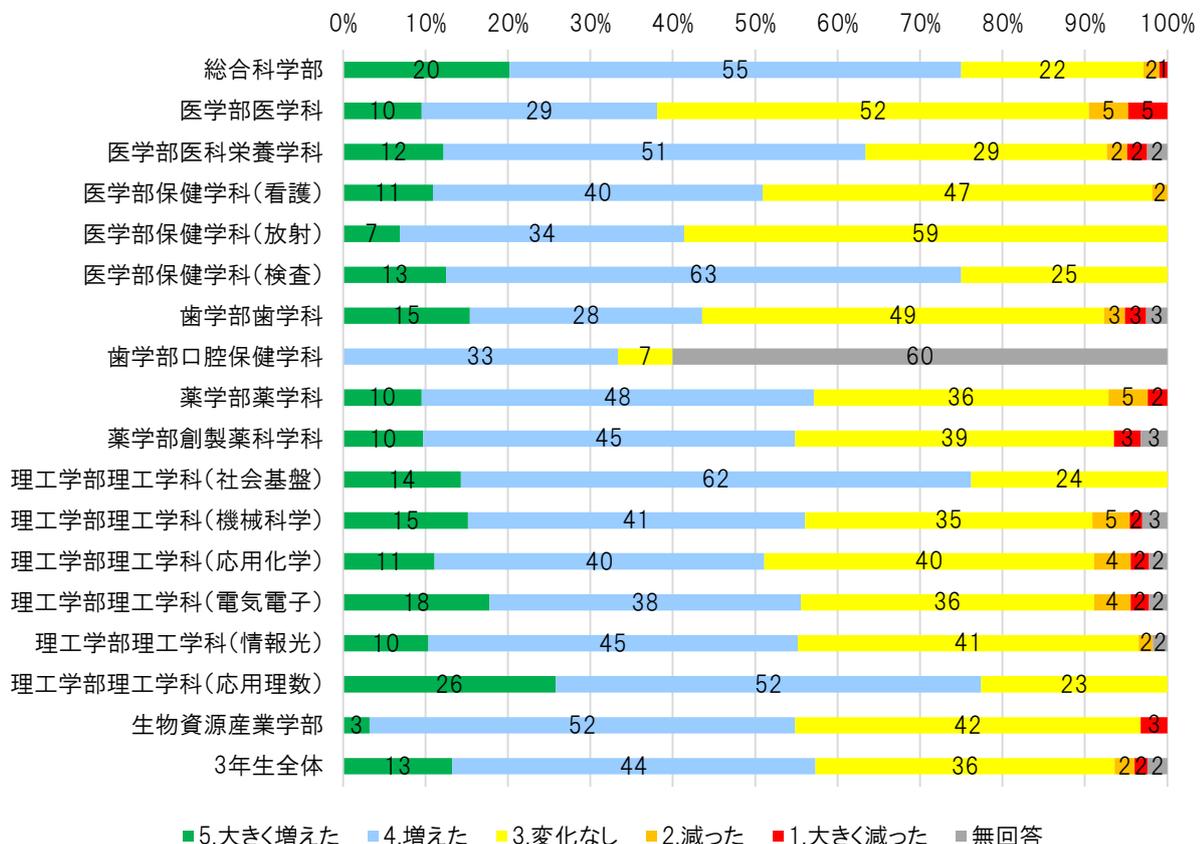
[59]時間を効果的に利用する能力



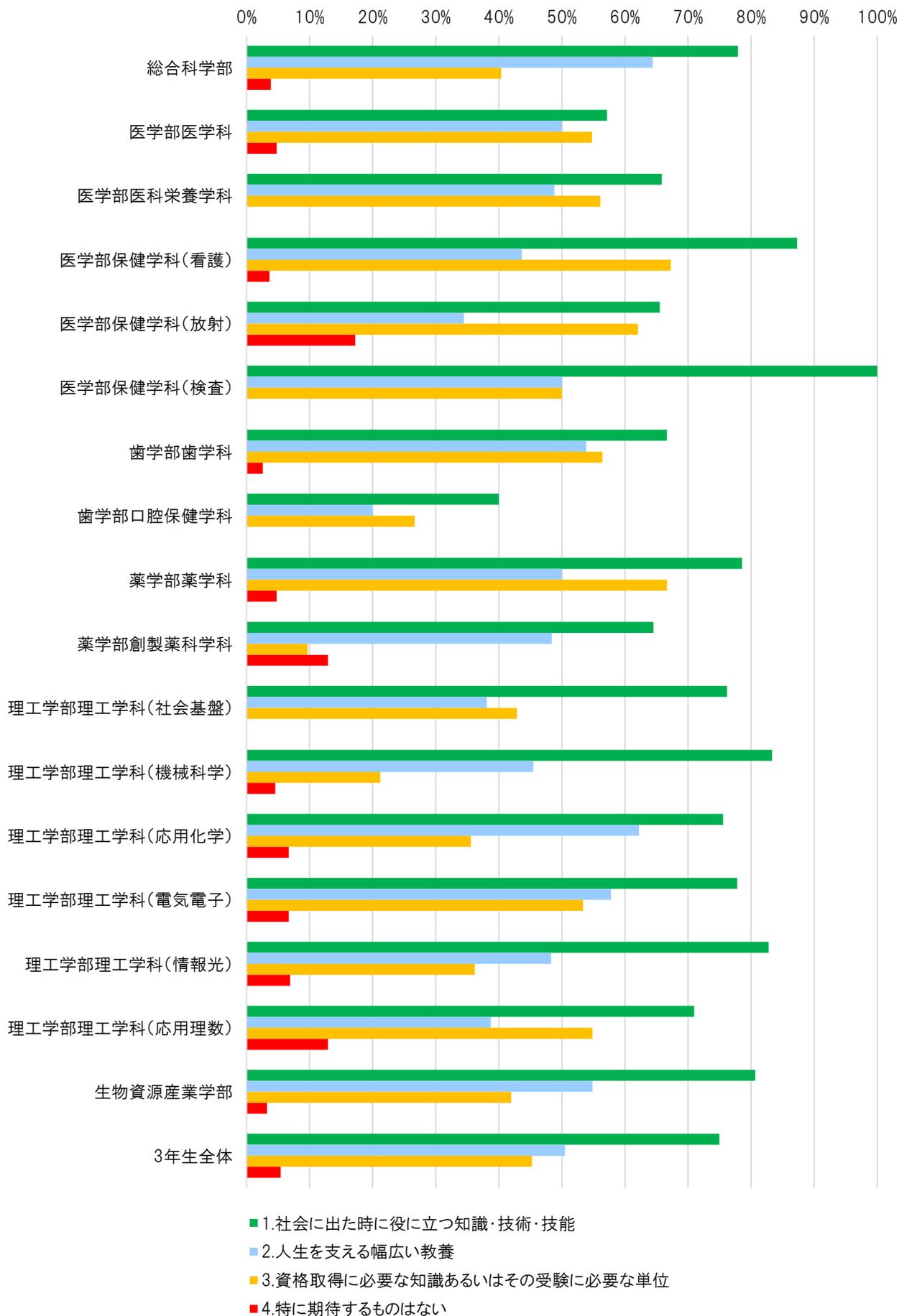
[60]グローバルな問題の理解



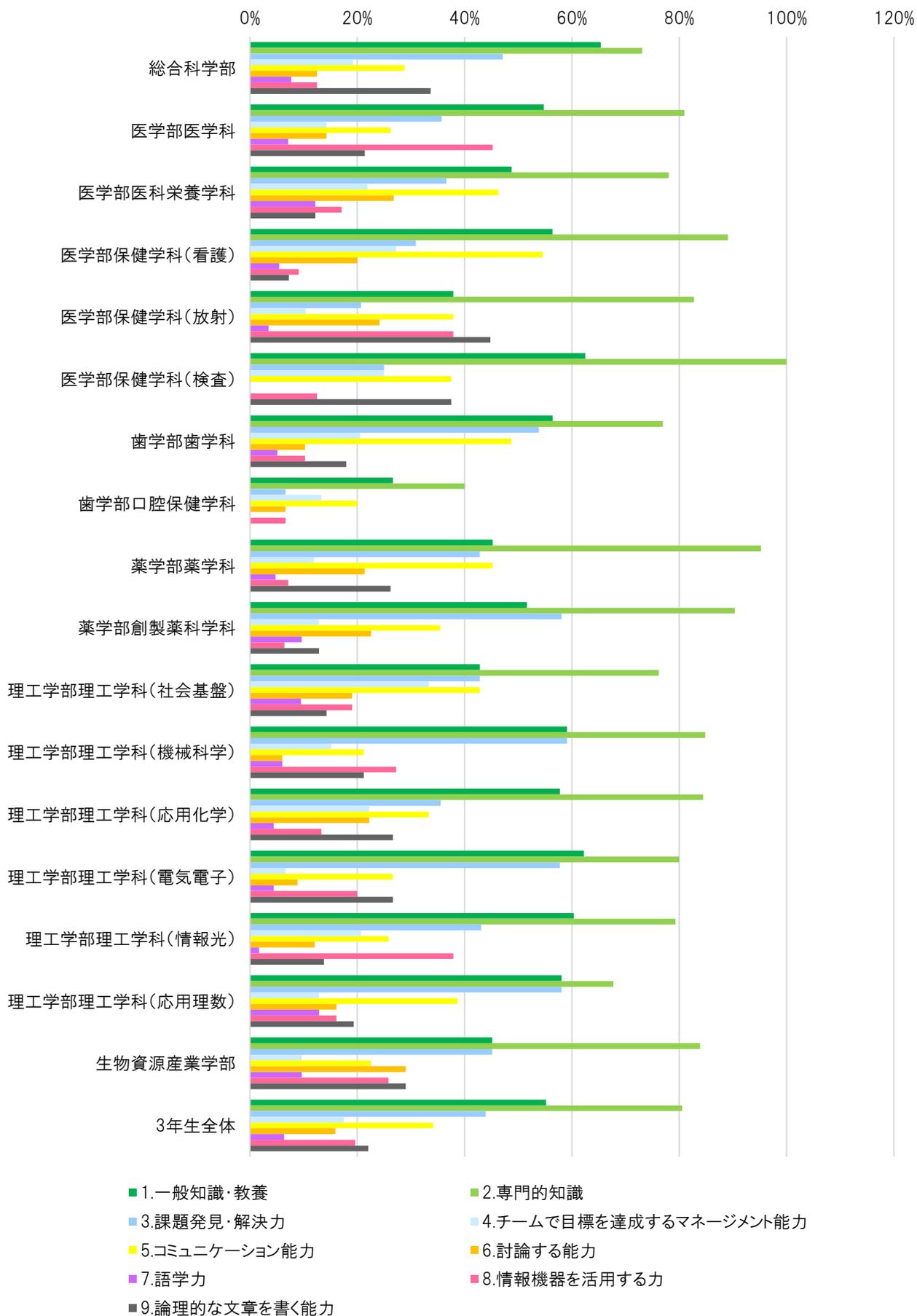
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



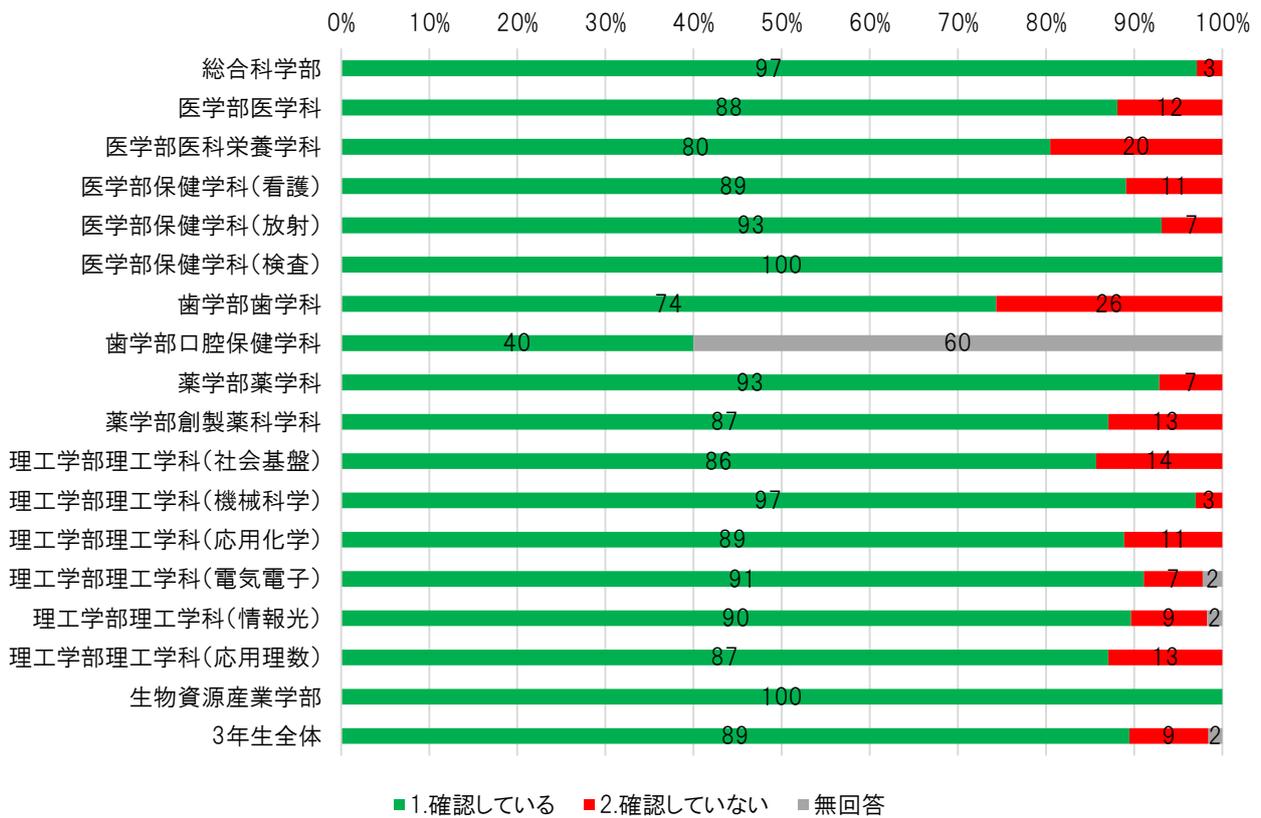
[62]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)



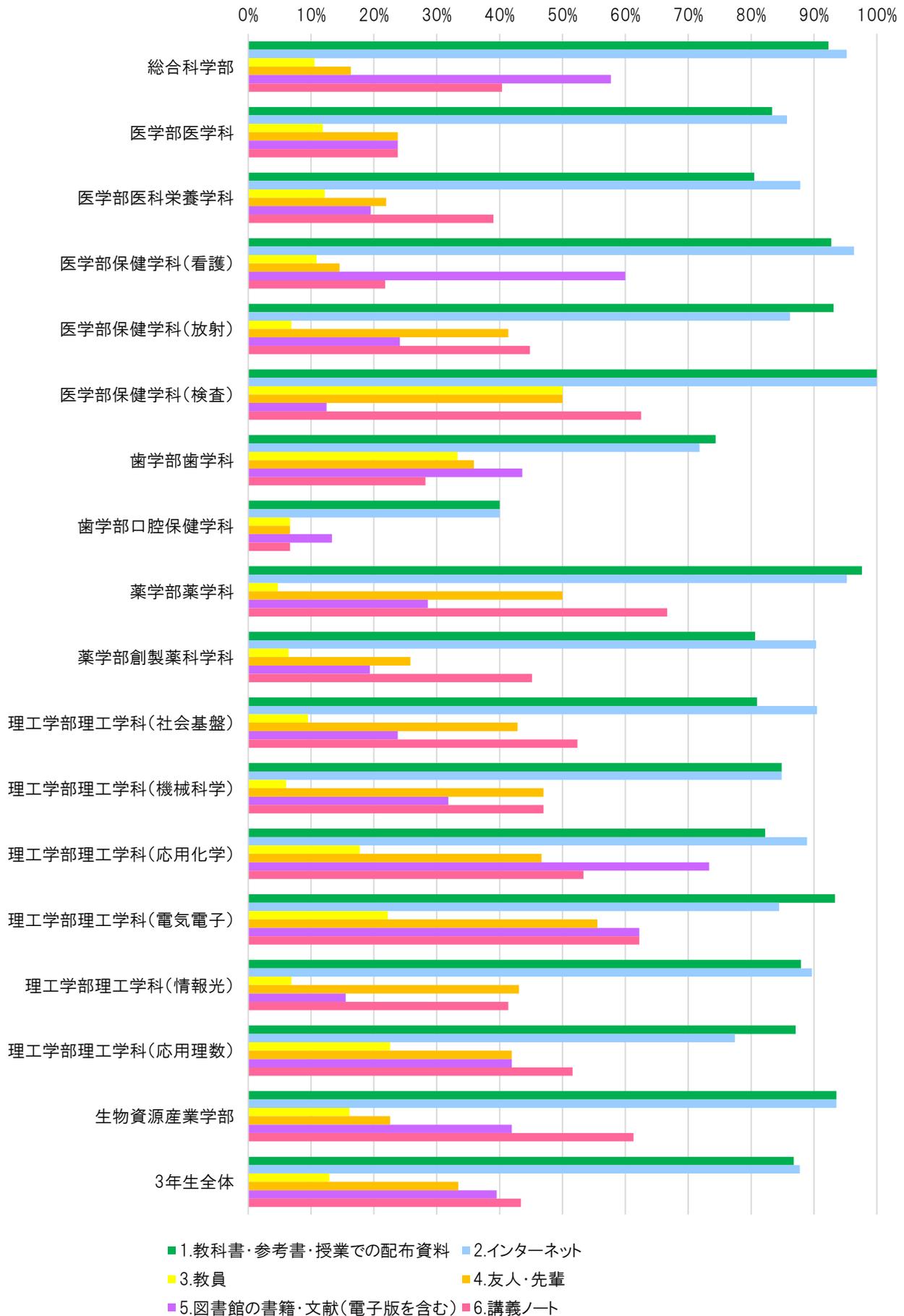
[63]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。



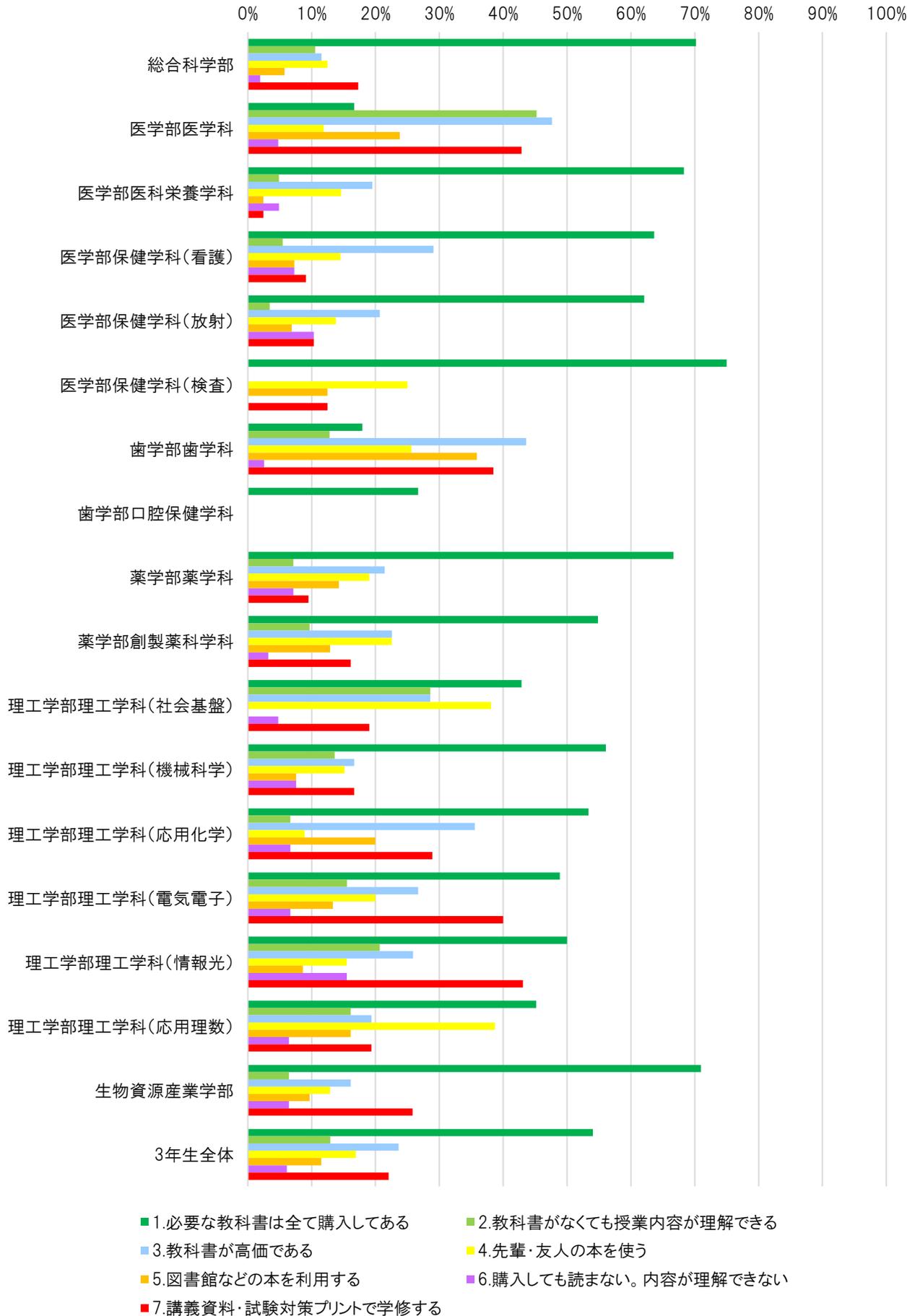
[64]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。



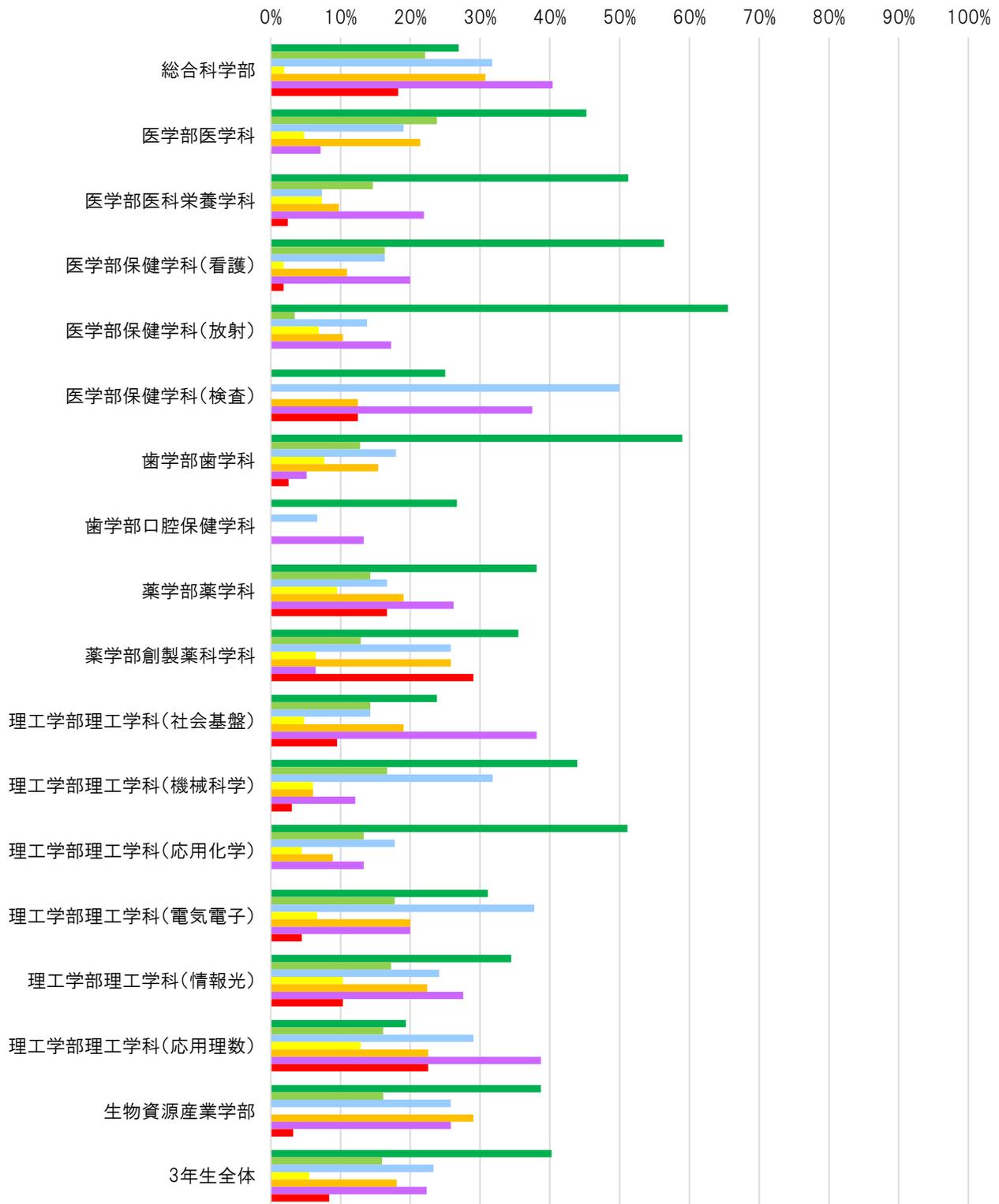
[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



[66]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

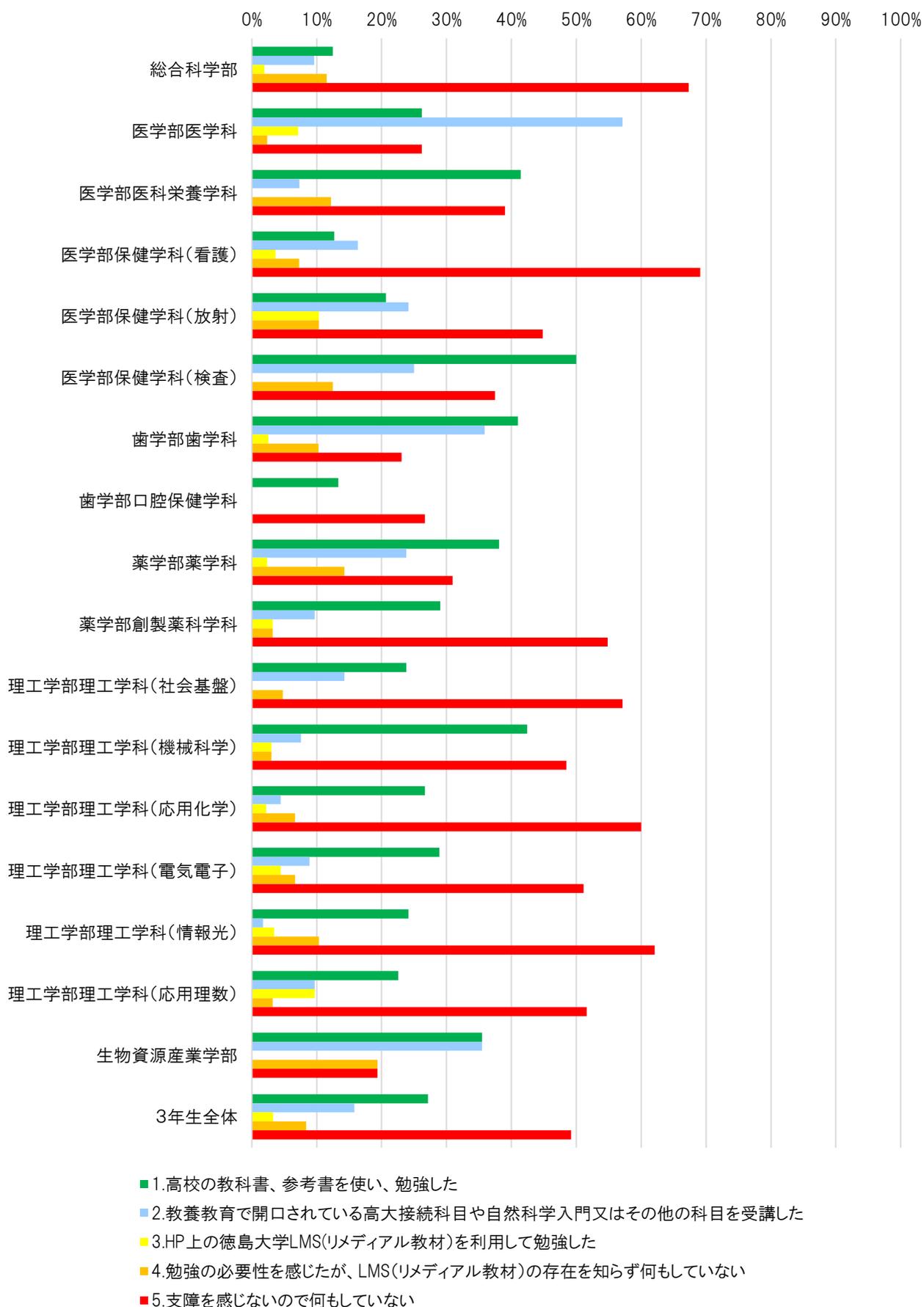


[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



- 1.大学の授業以外で、実行や計画していることはない
- 2.教養や社会問題の理解に役立つ読書
- 3.語学など自分の将来を考えたスキルの修得
- 4.数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
- 5.自分の興味のあるテーマの研究
- 6.資格習得や受験に備えた学修
- 7.卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68]高校で履修していない数学, 物理, 化学, 生物について, 大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

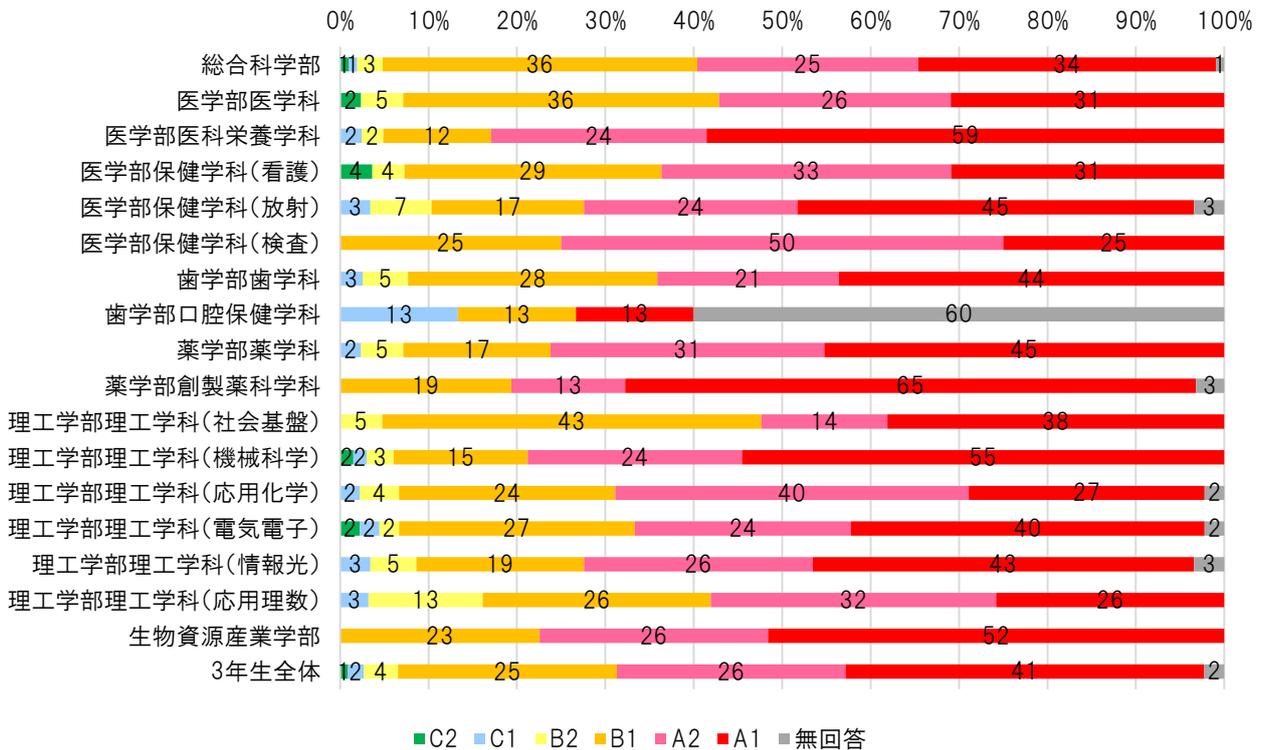


Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

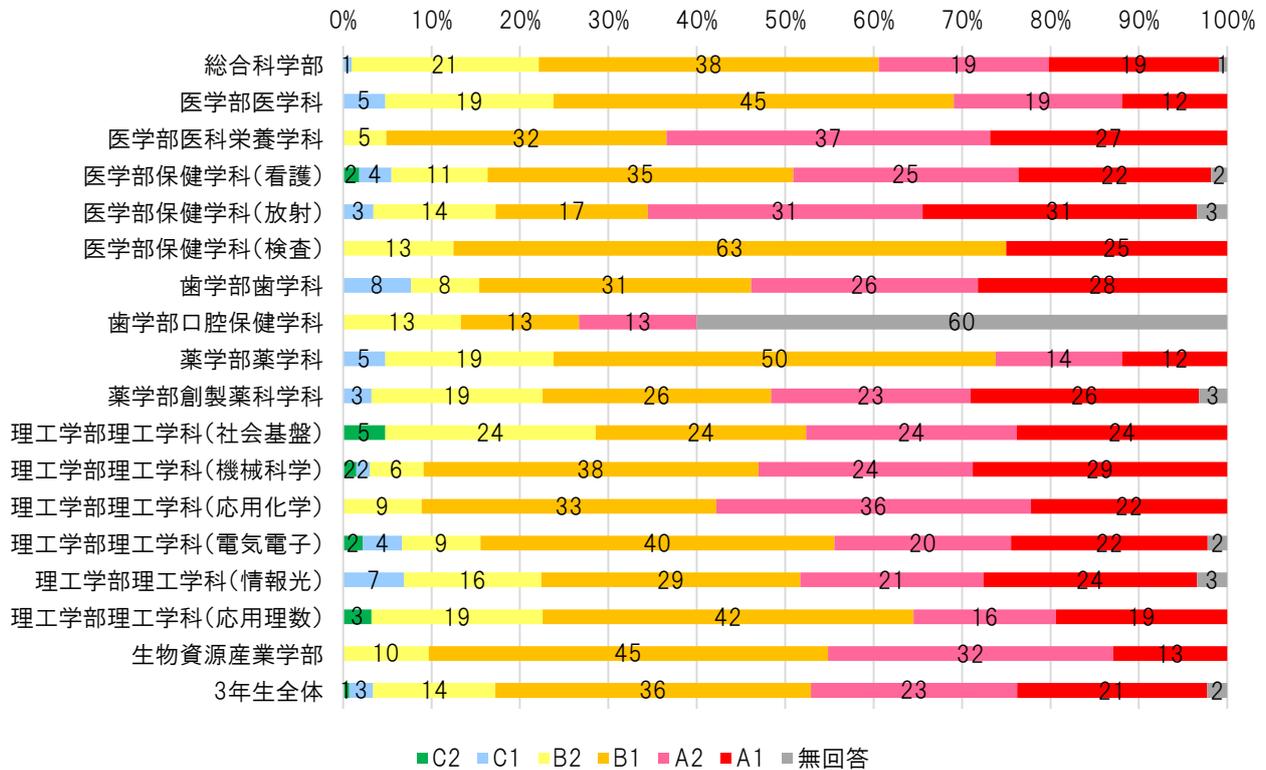
〔69〕聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



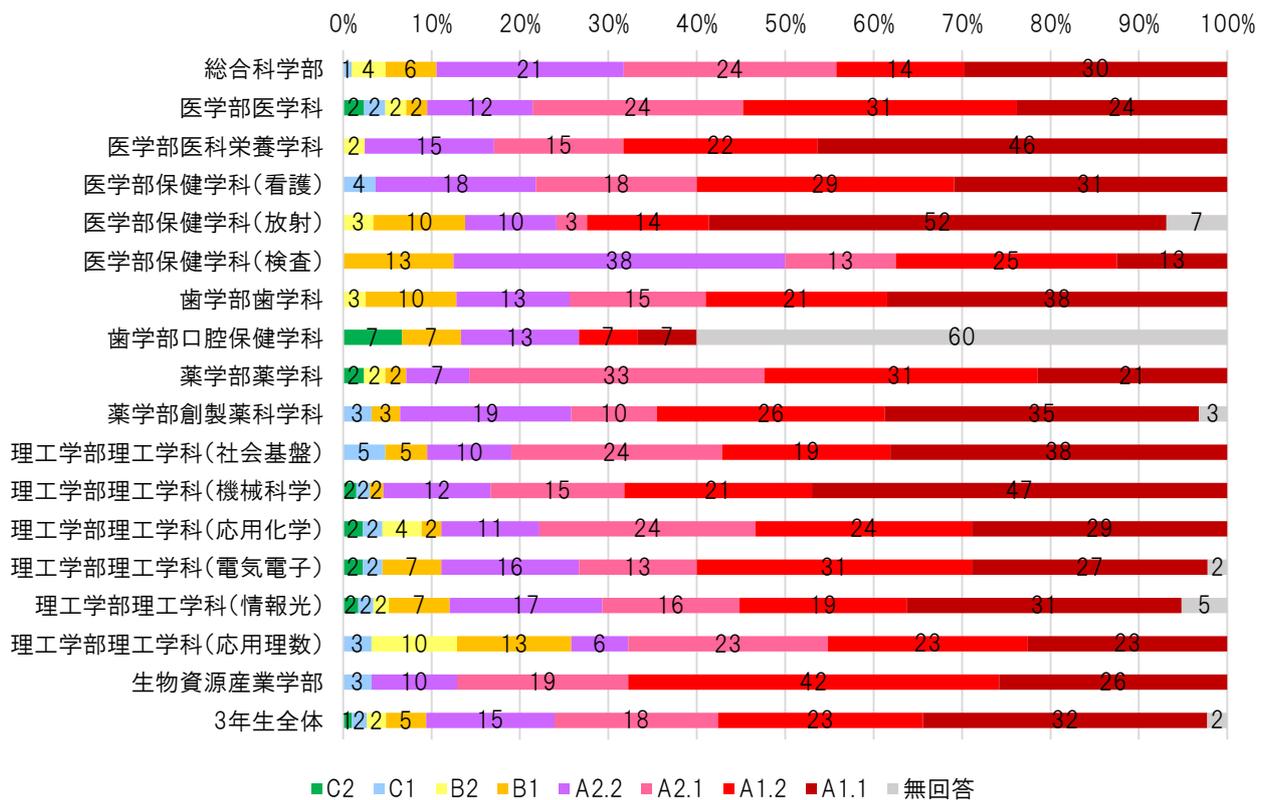
〔70〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



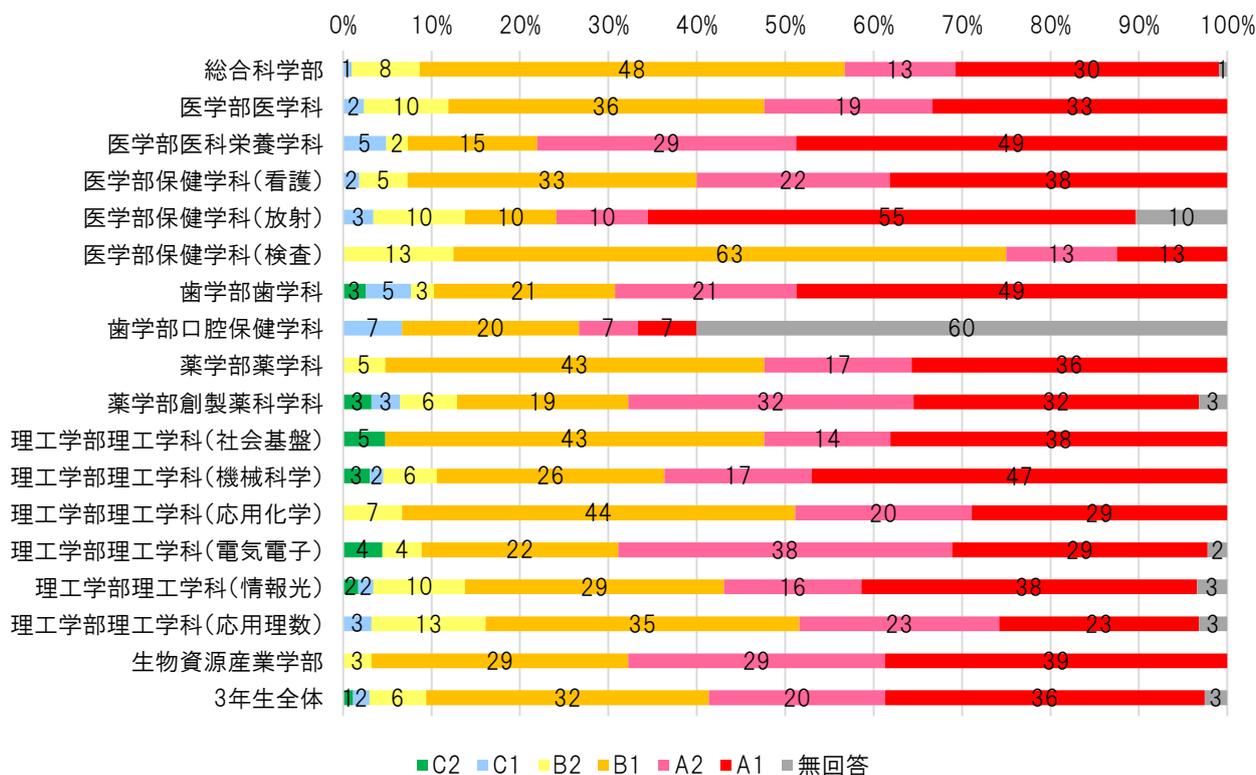
[71]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。



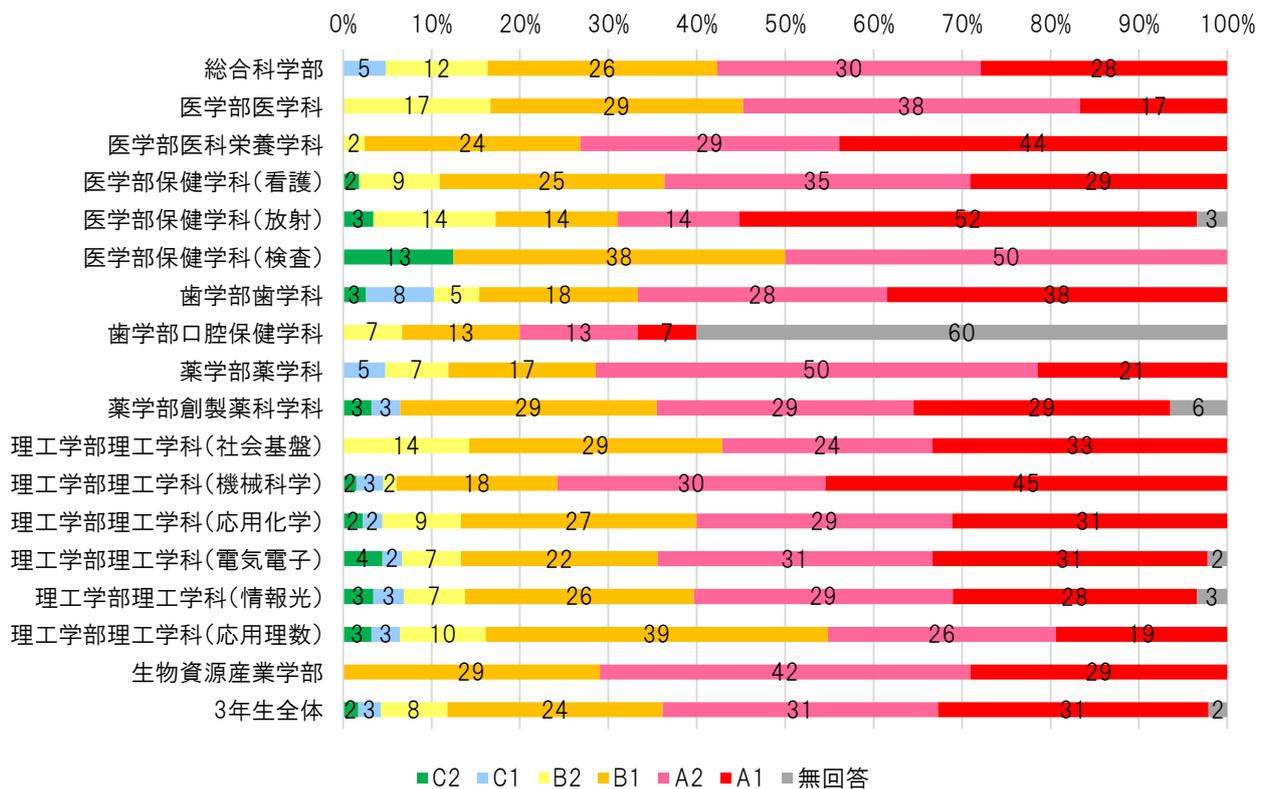
[72]表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
 A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
 B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。
 B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
 C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
 C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

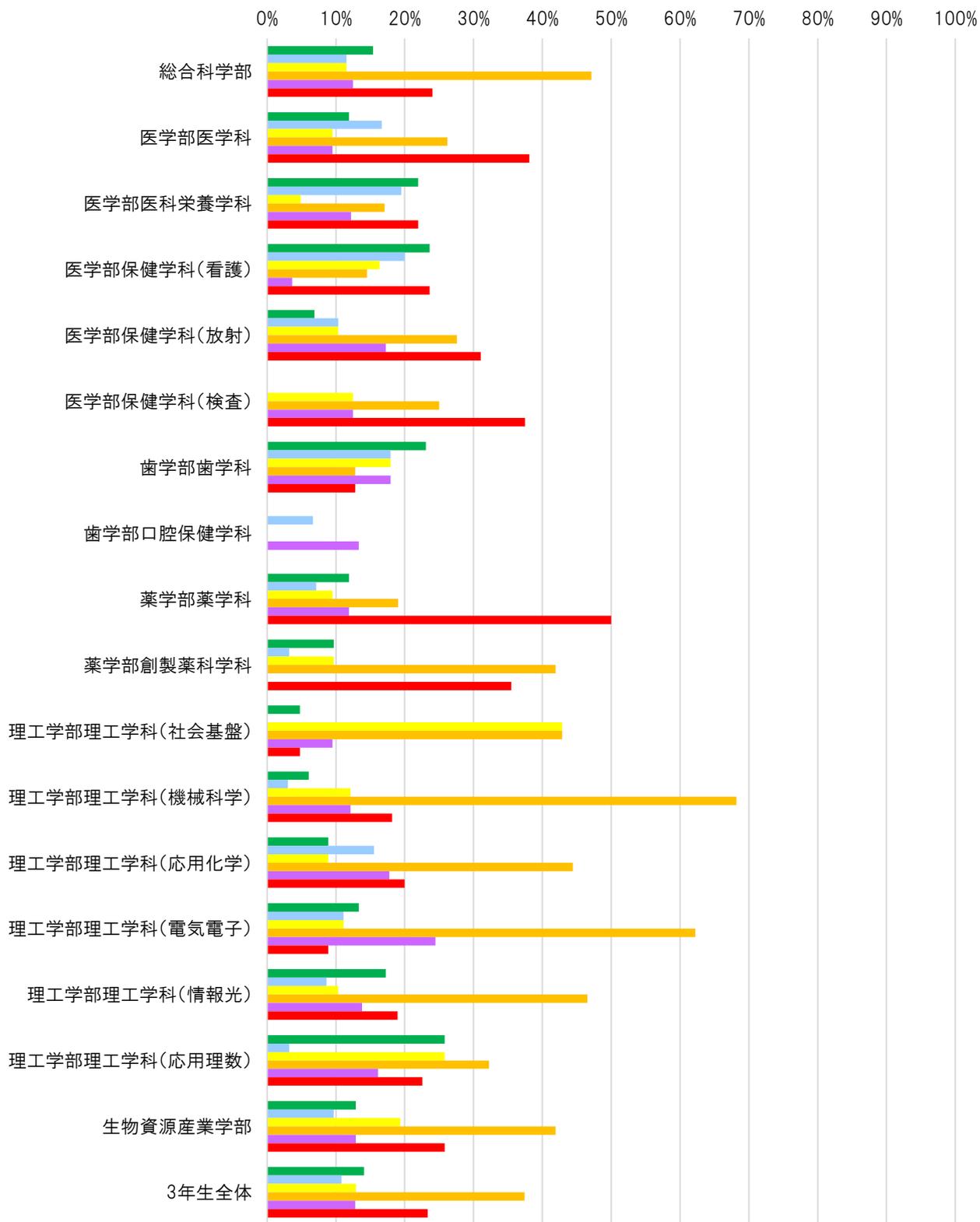


[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

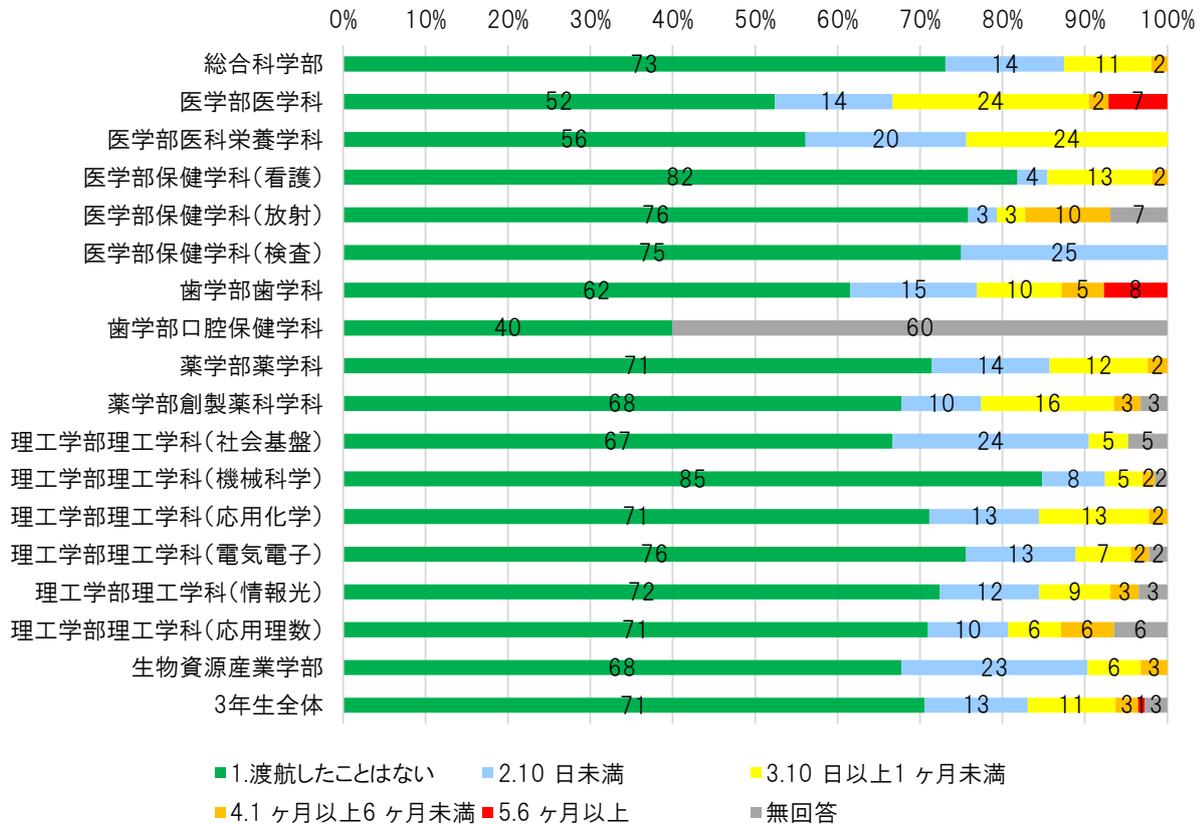


[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

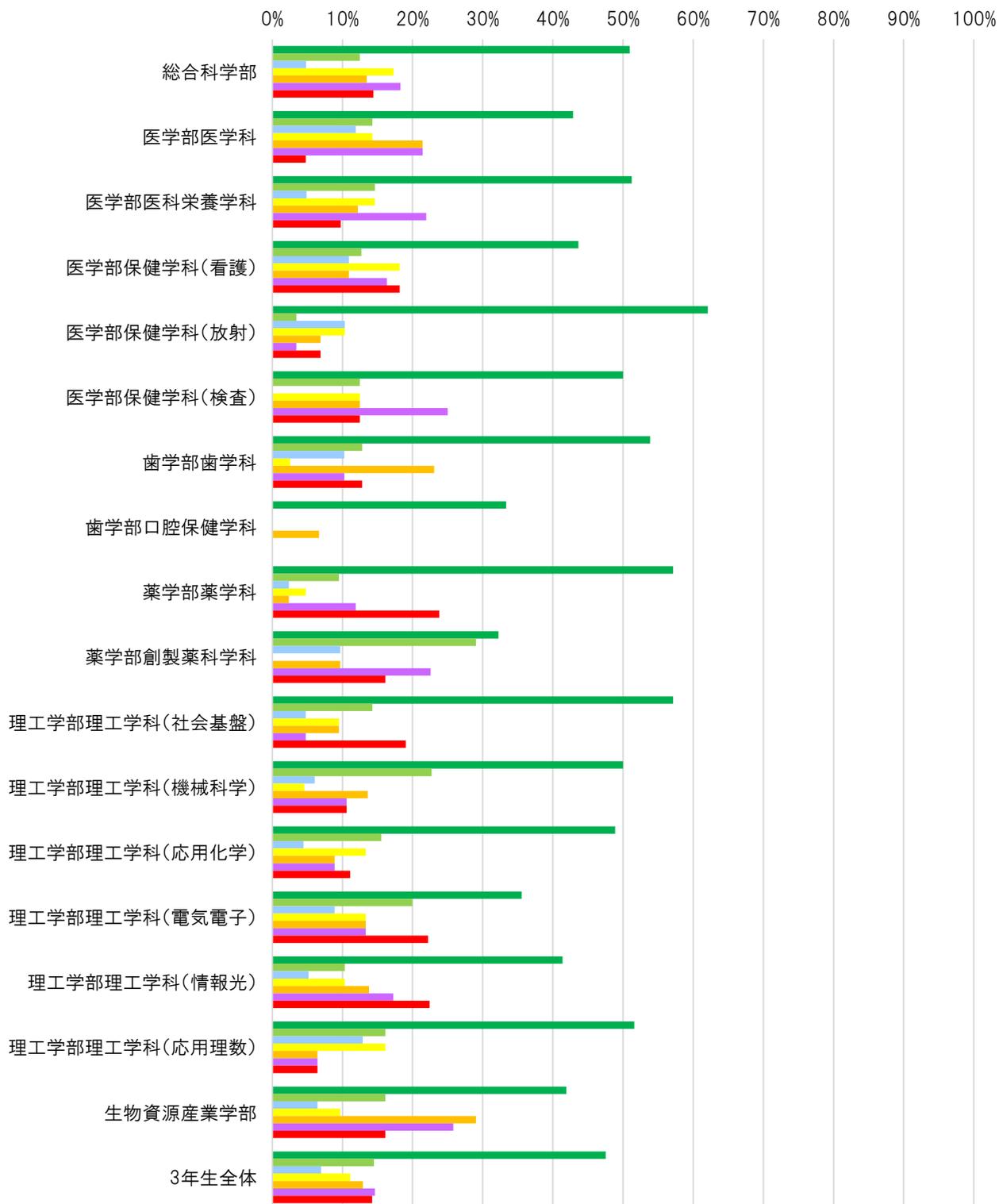


- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC,TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

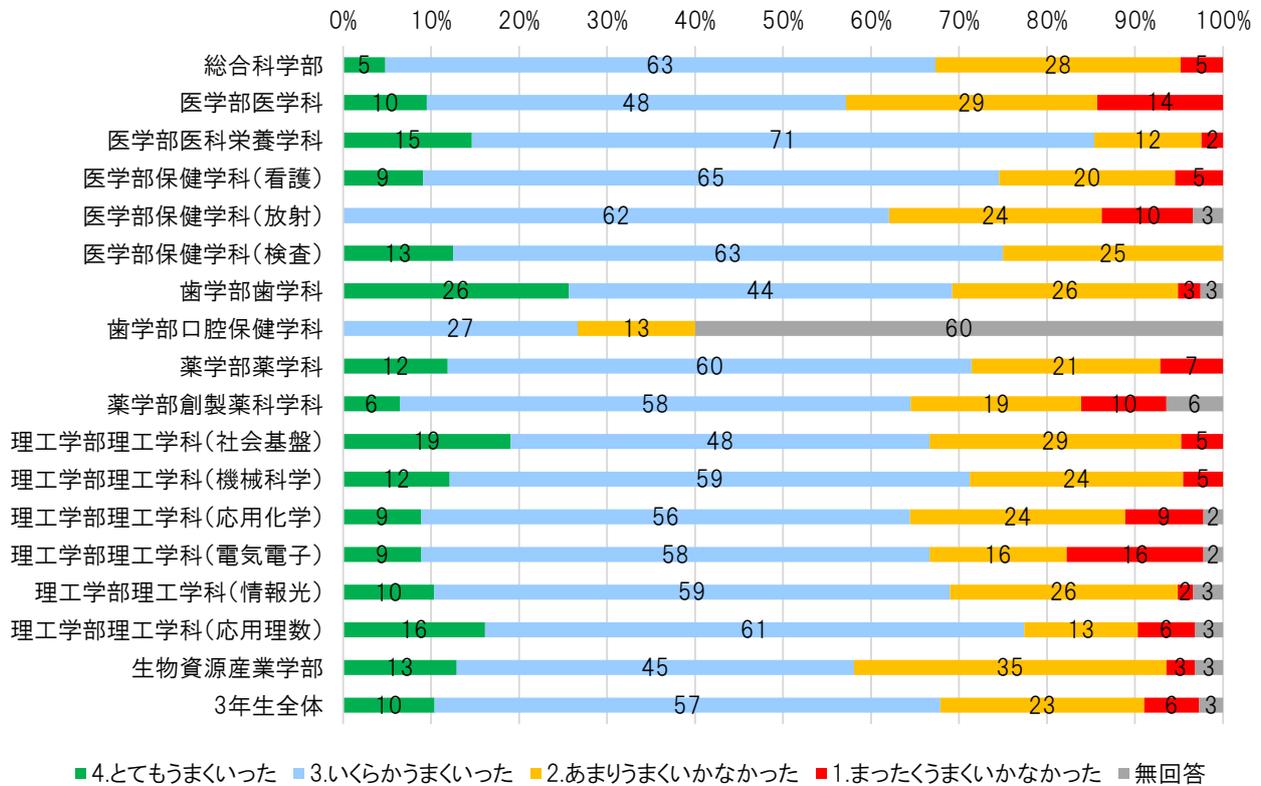


- 1.教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2.もっと授業数を増やしてほしい
- 3.もっと授業数を減らしてほしい
- 4.もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5.ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6.専門英語の時間を増やしてほしい
- 7.専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

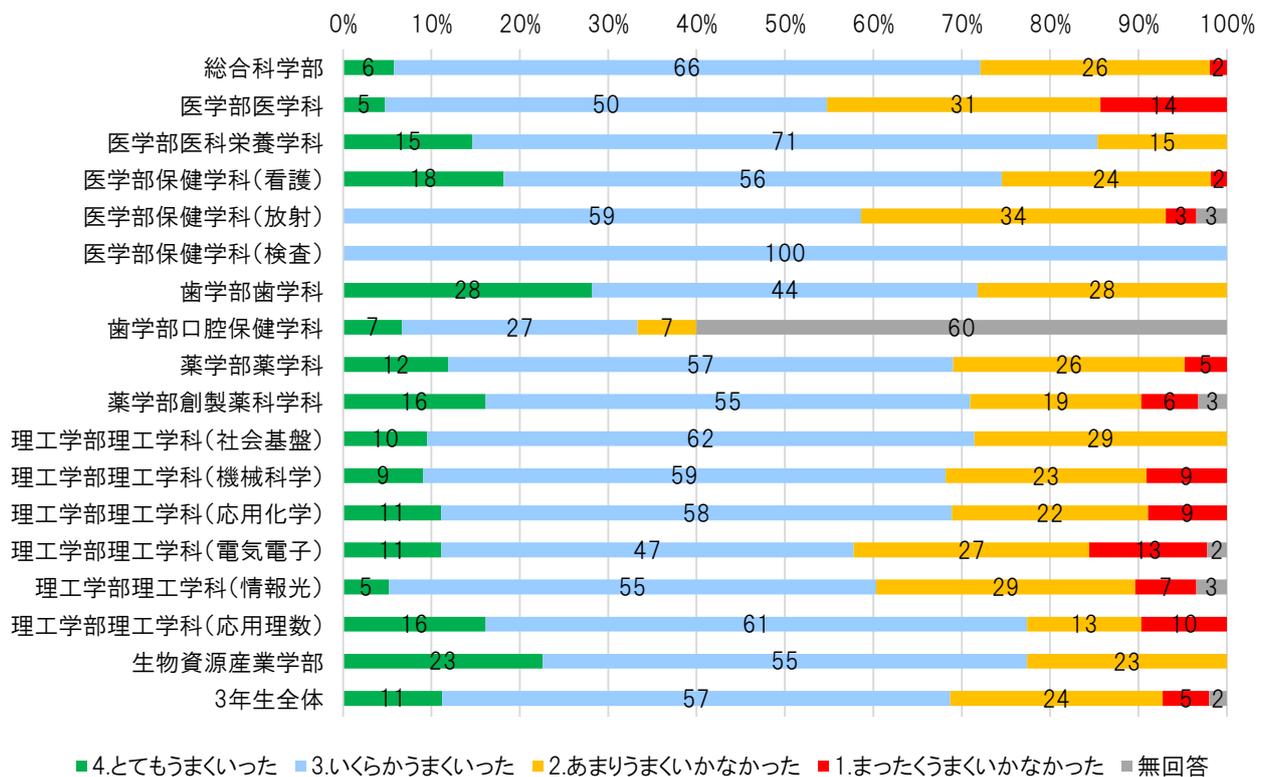
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことからはどれくらいうまくいきましたか

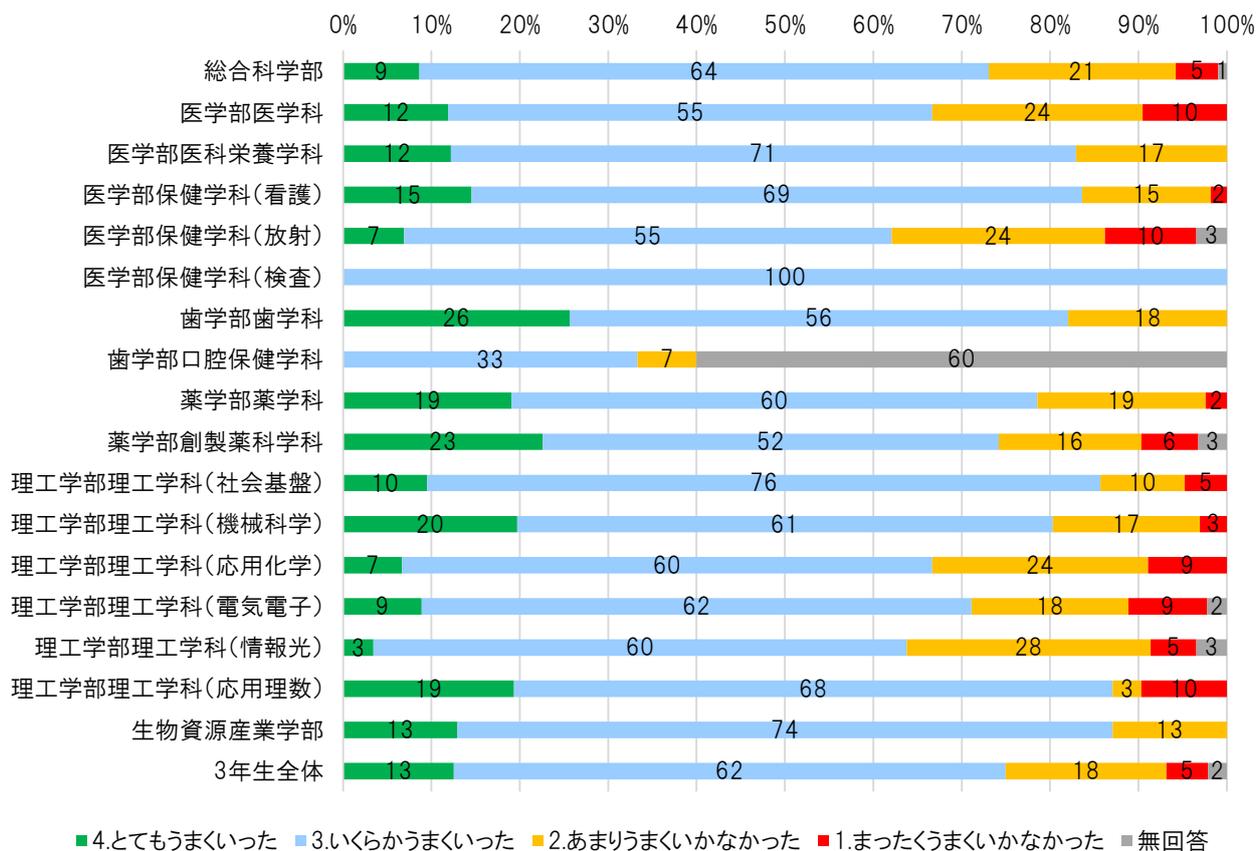
[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



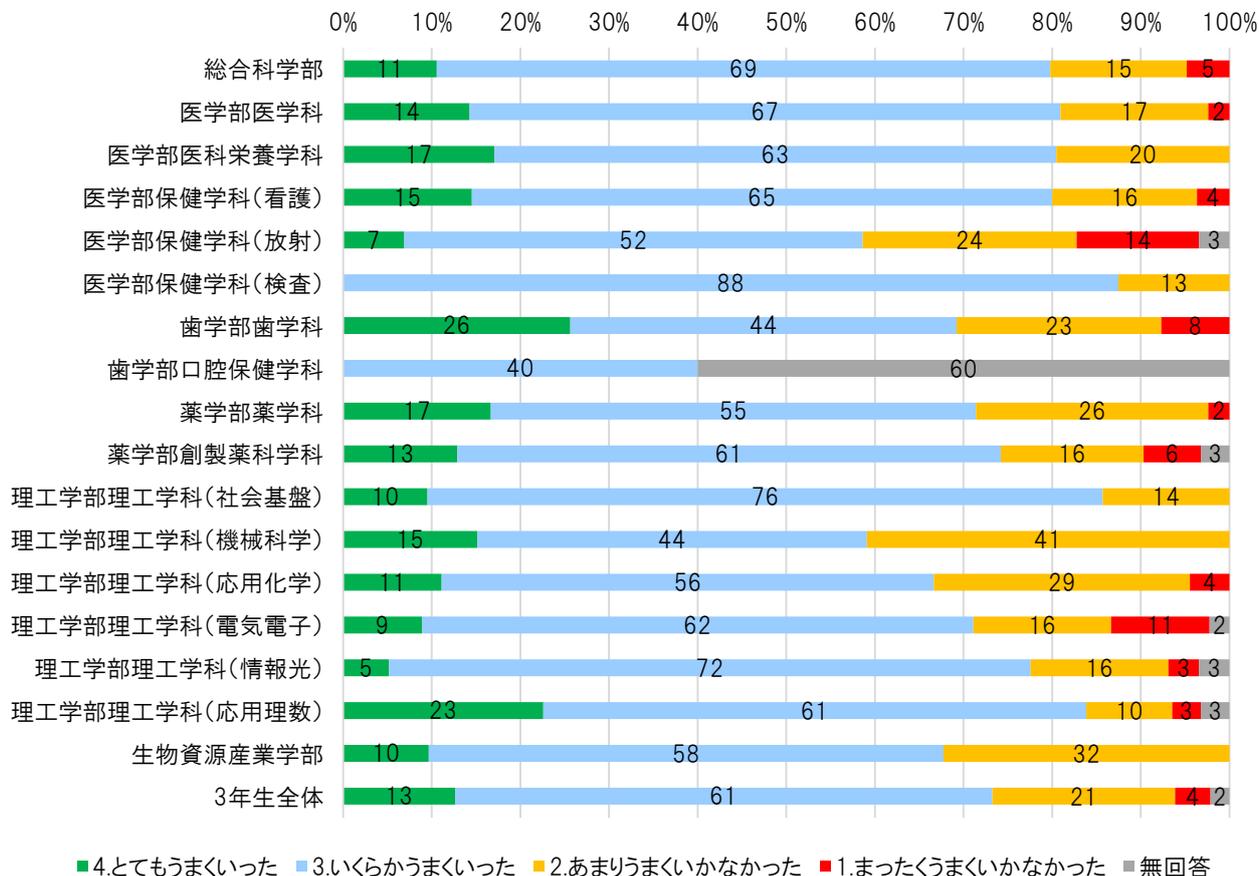
[78]大学教員の学問的な期待を理解する



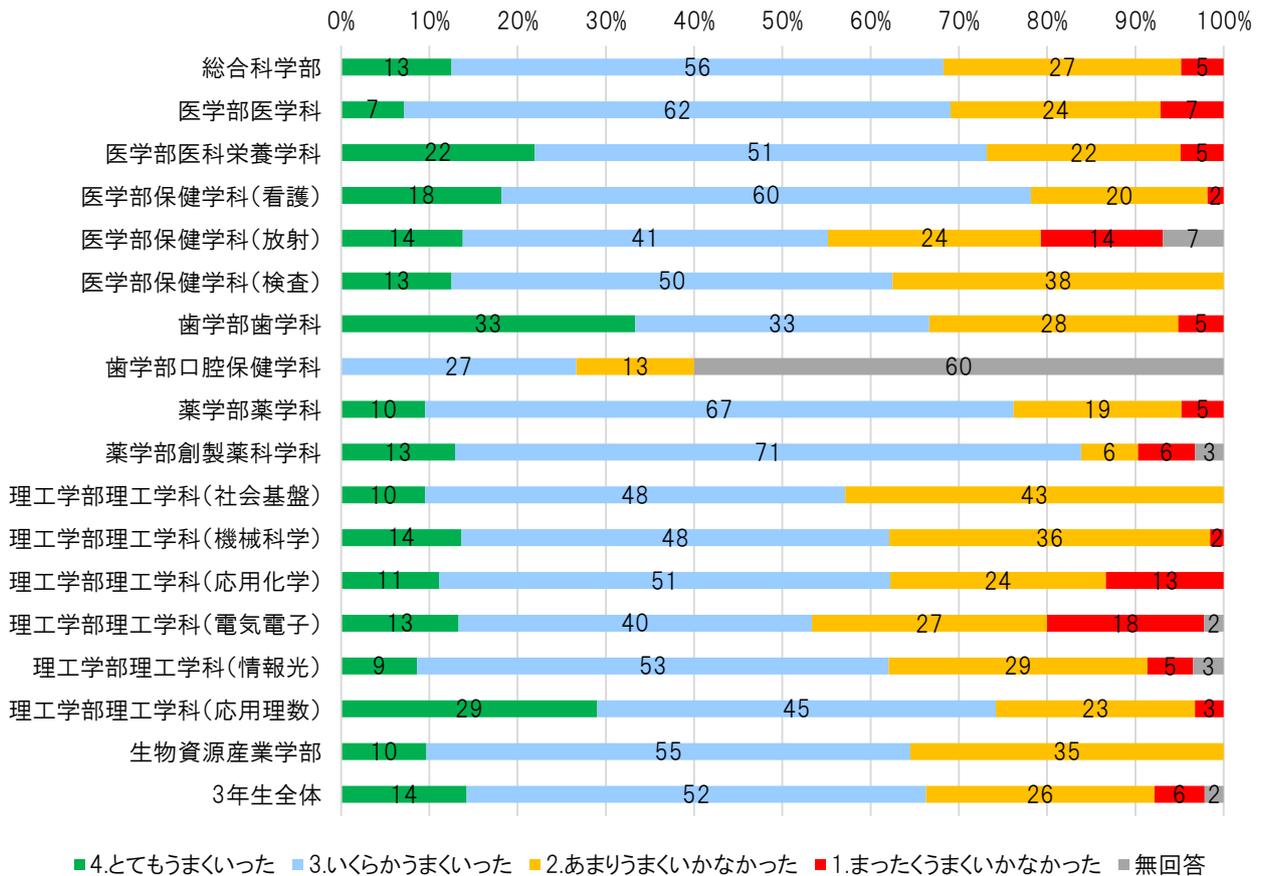
[79]効果的に学習する技能を修得する



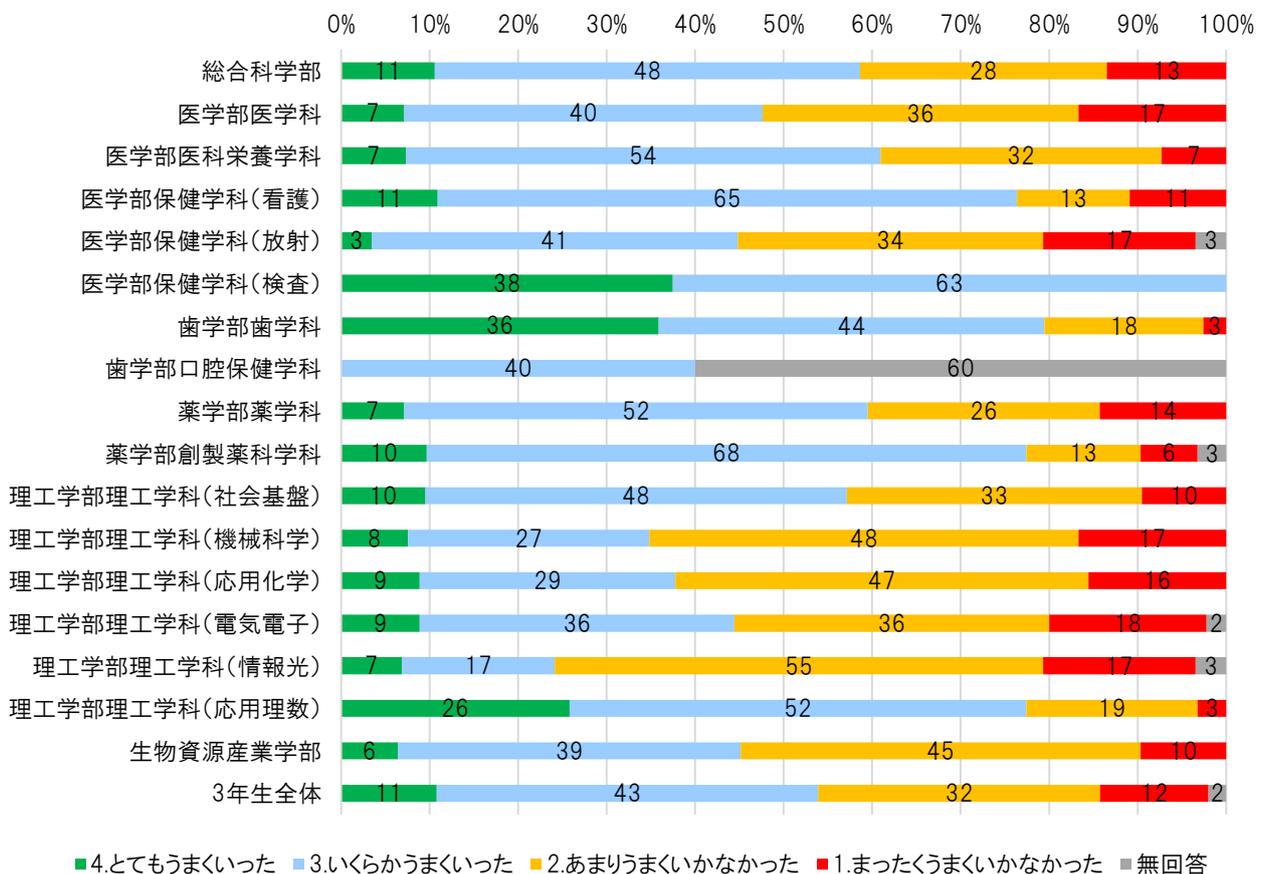
[80]大学が求める水準に応じて学習する



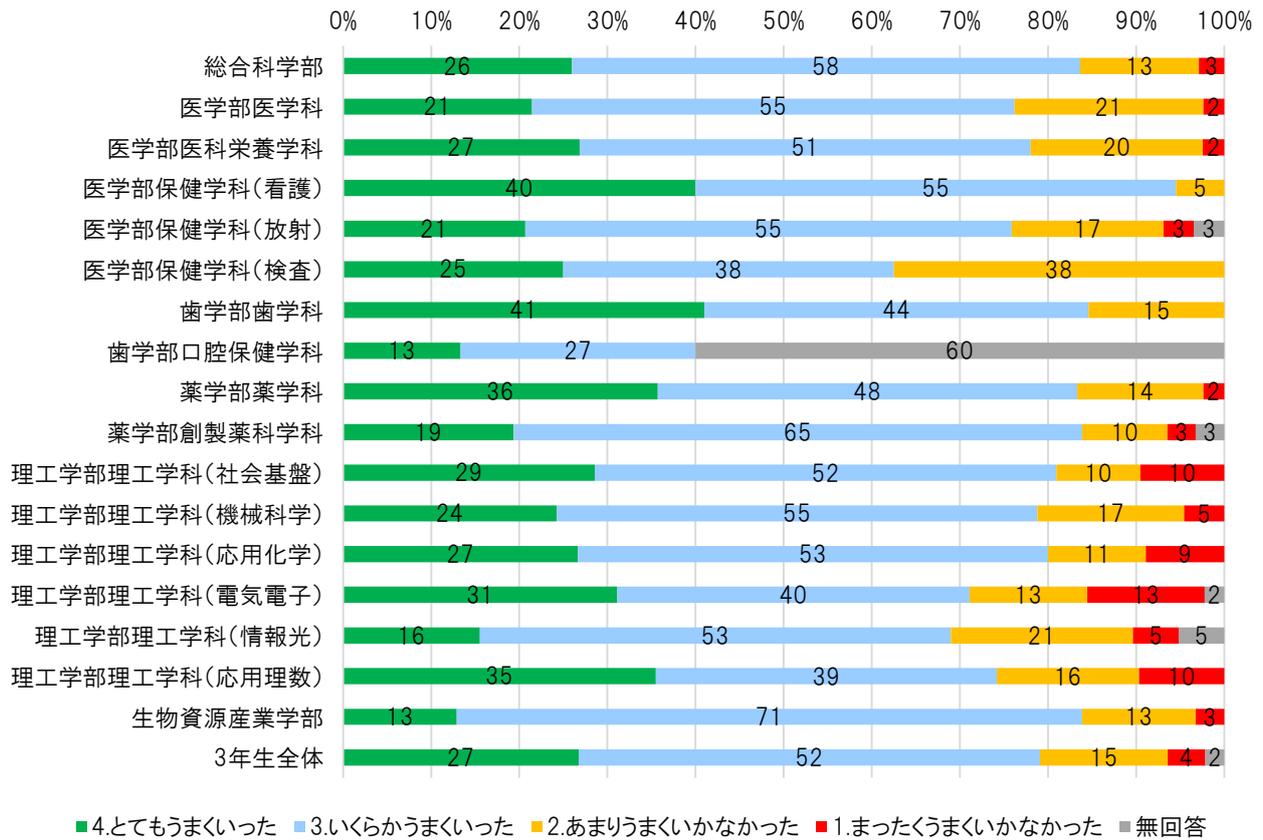
[81]時間を効果的に使う



[82]大学教員と顔見知りになる

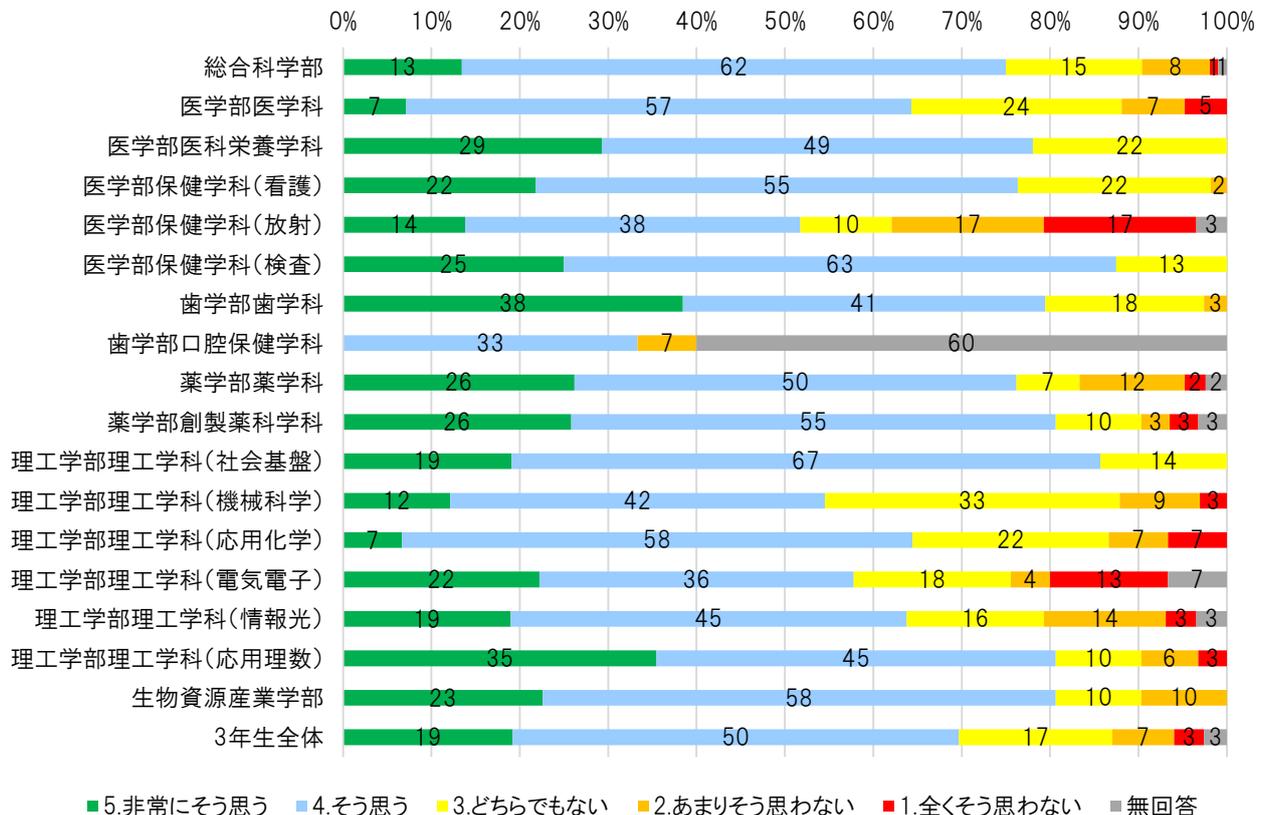


[83]他の学生との友情を深める

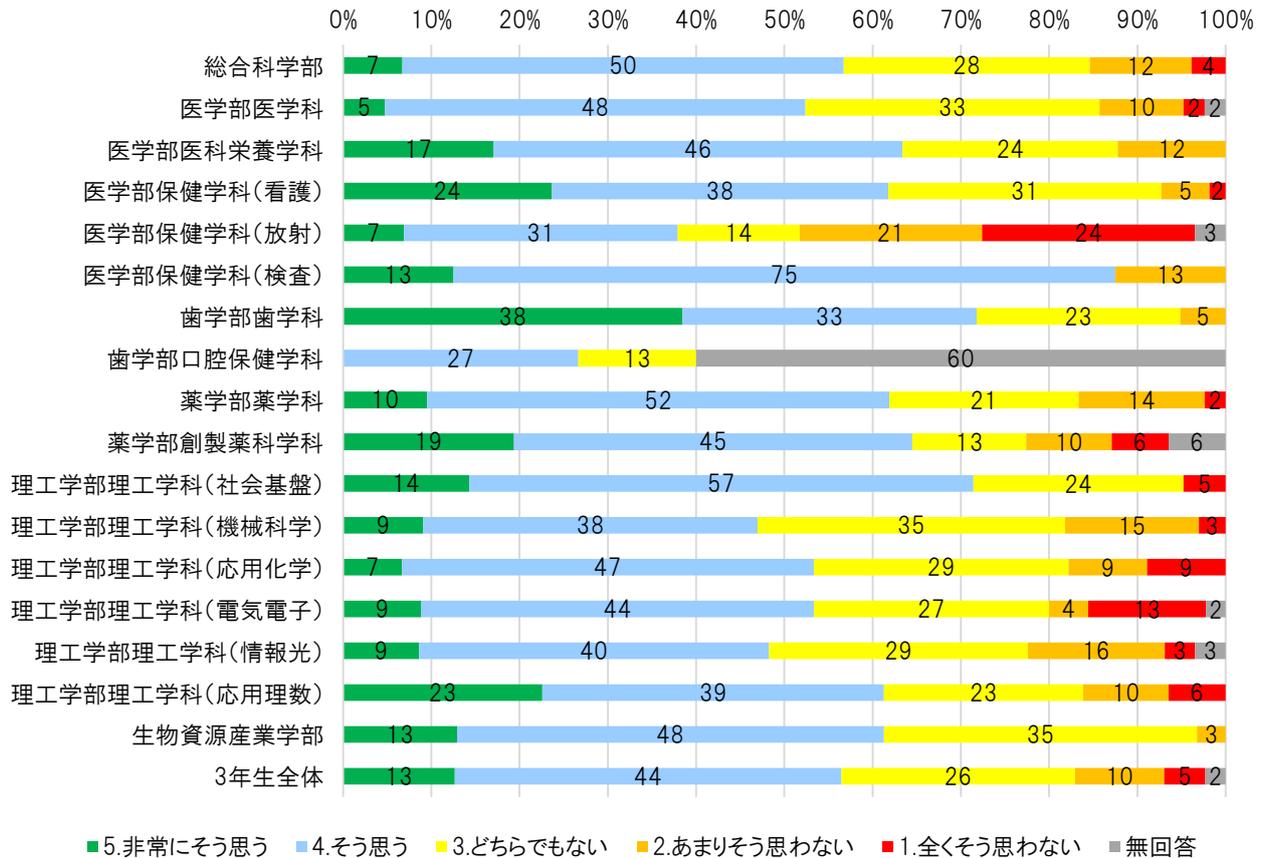


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

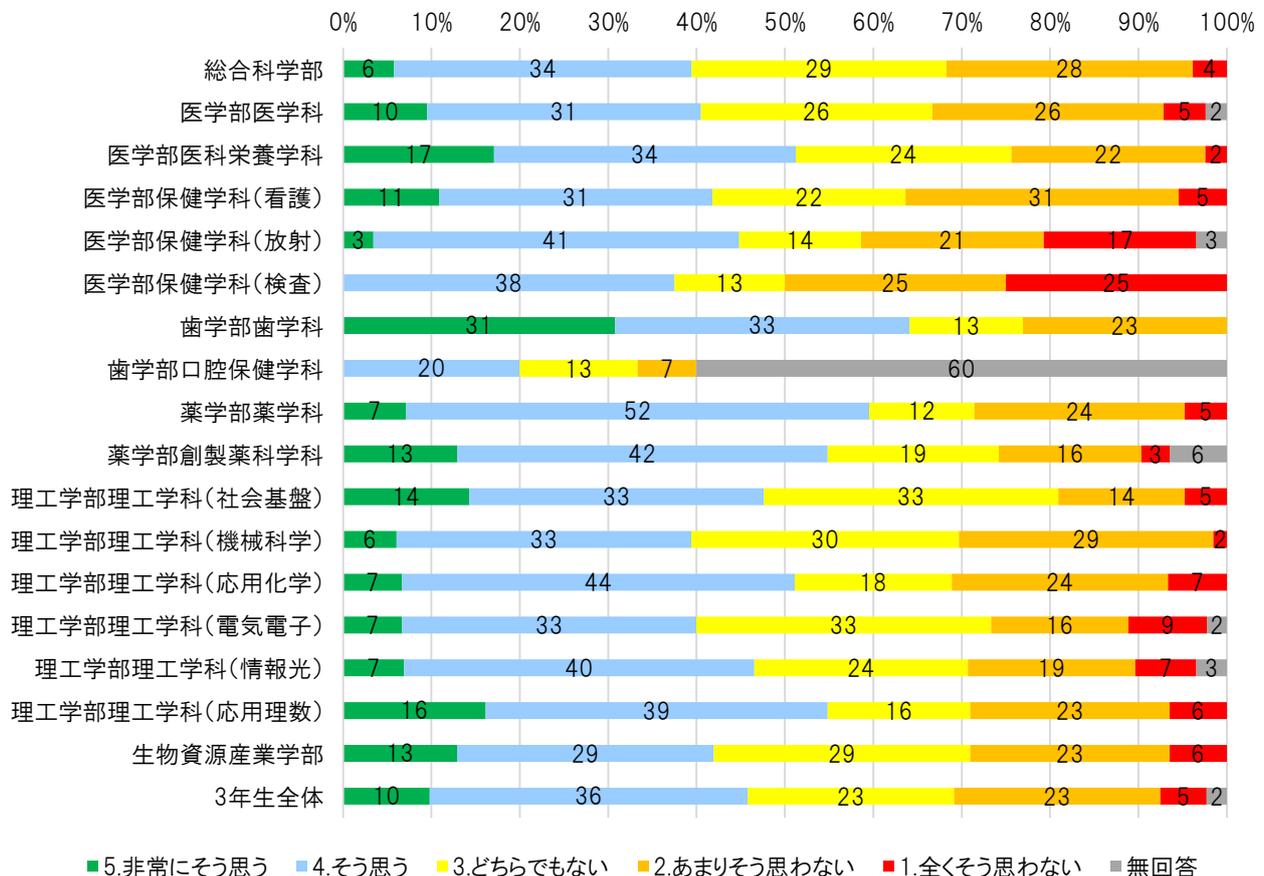
[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



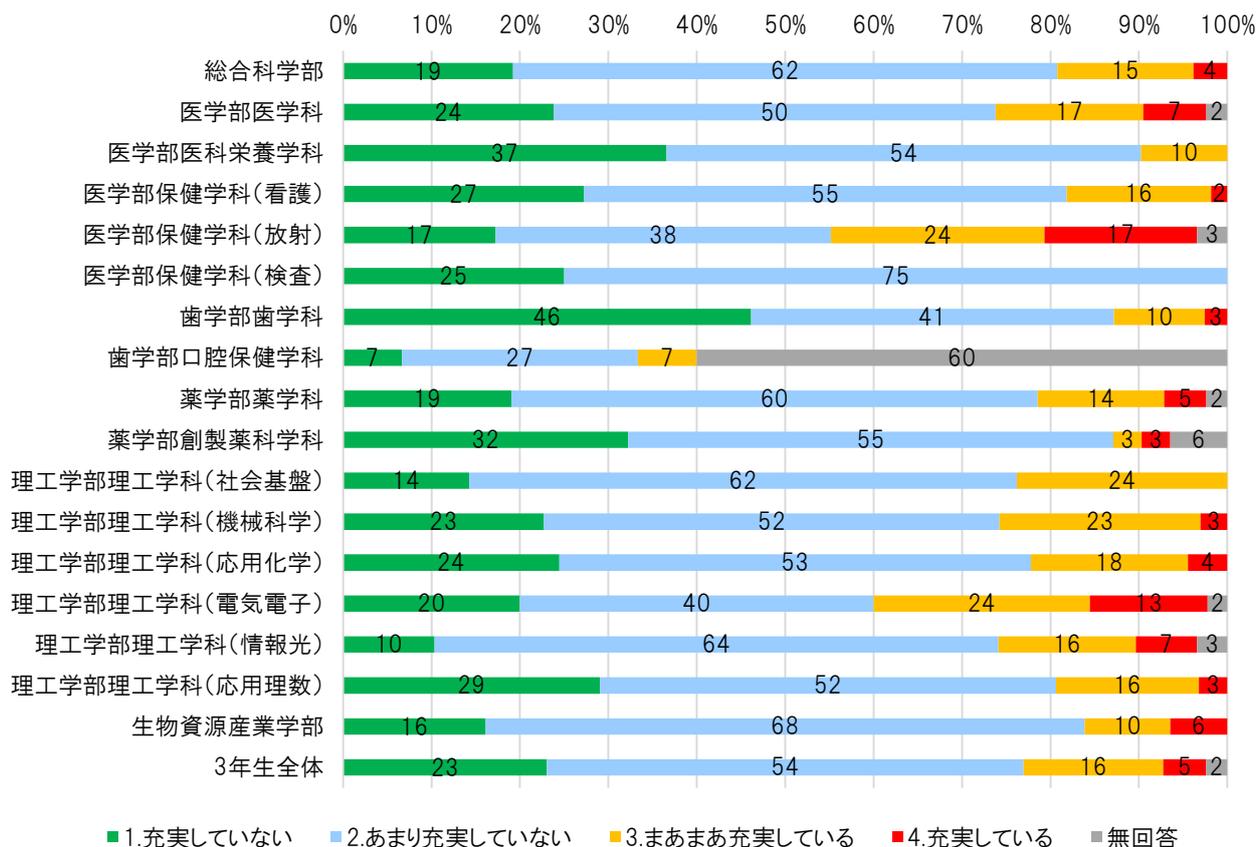
[85]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[86]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

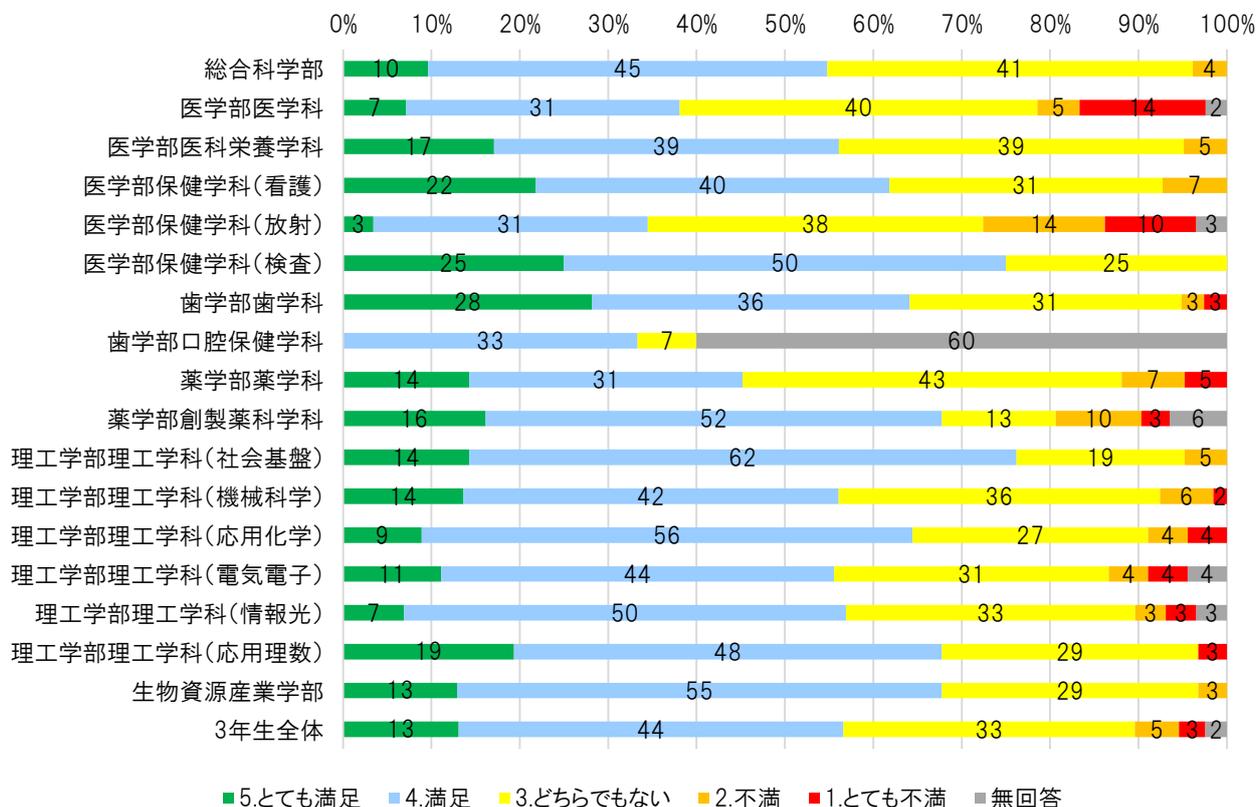


[87]あなたの学生生活は充実していますか。

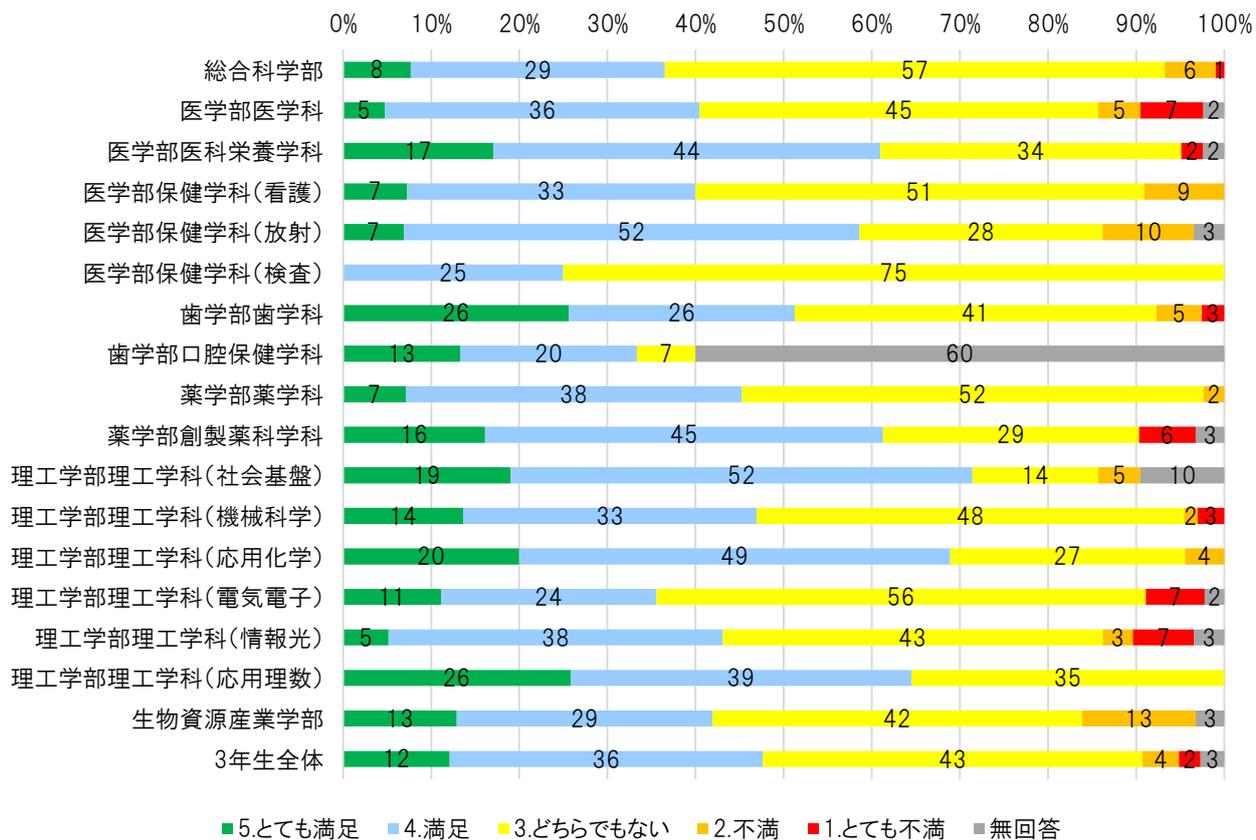


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

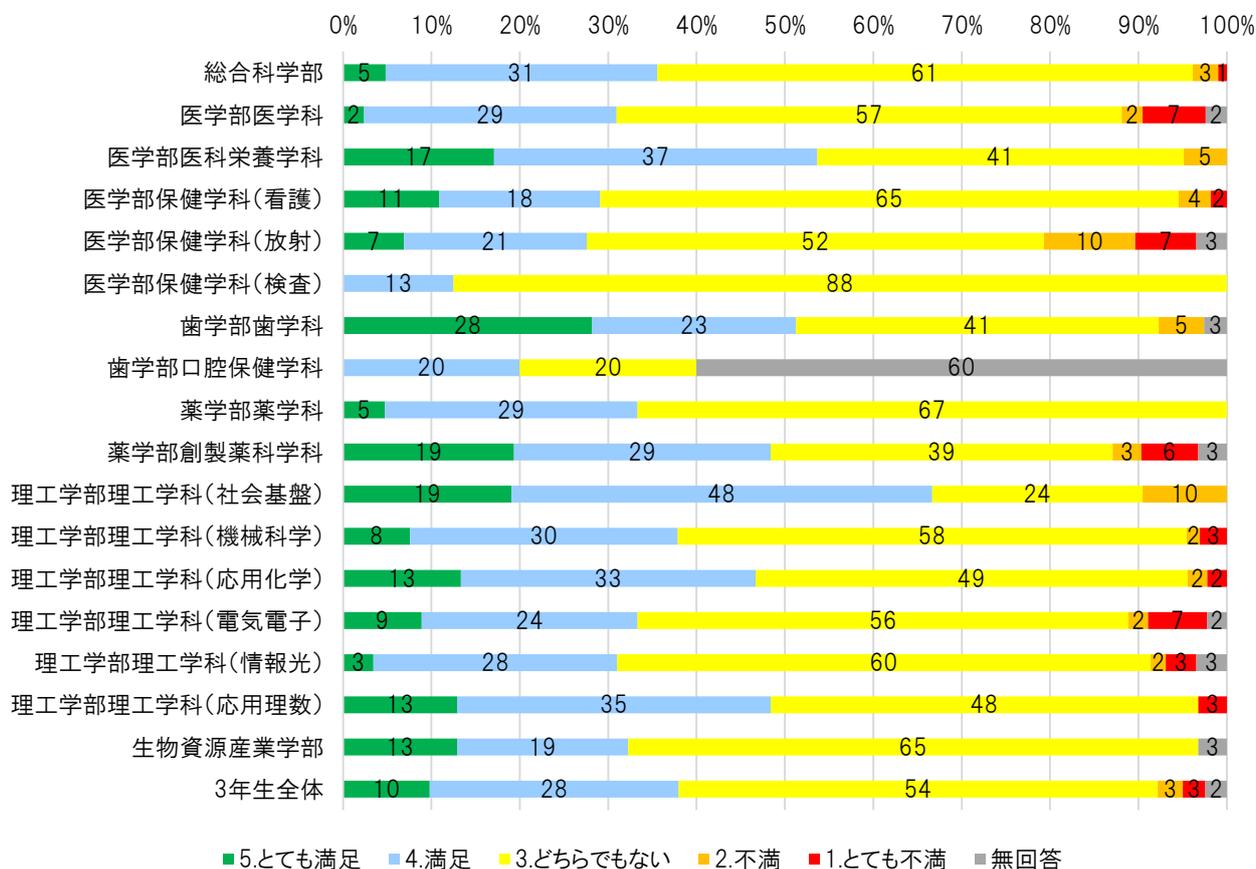
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



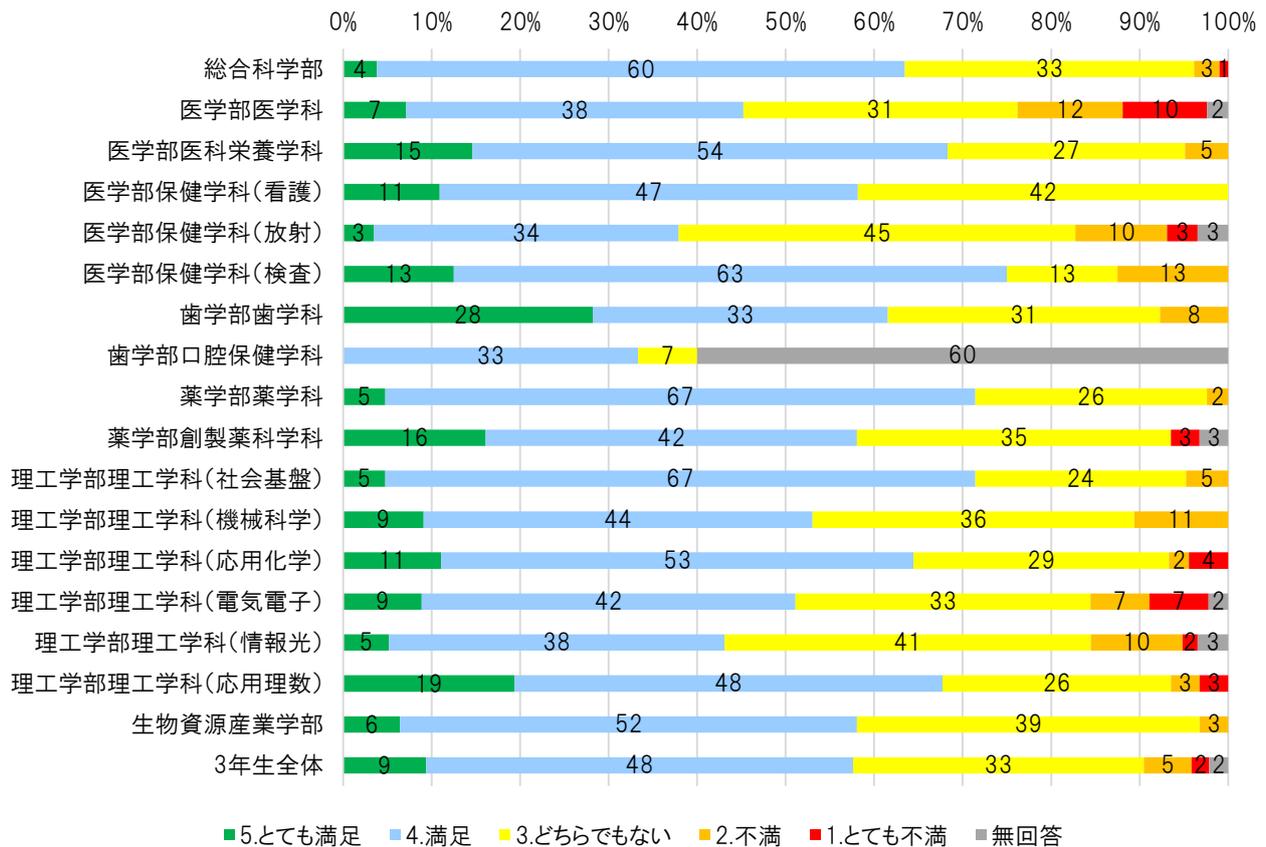
〔89〕1年生の時に受講した「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の授業



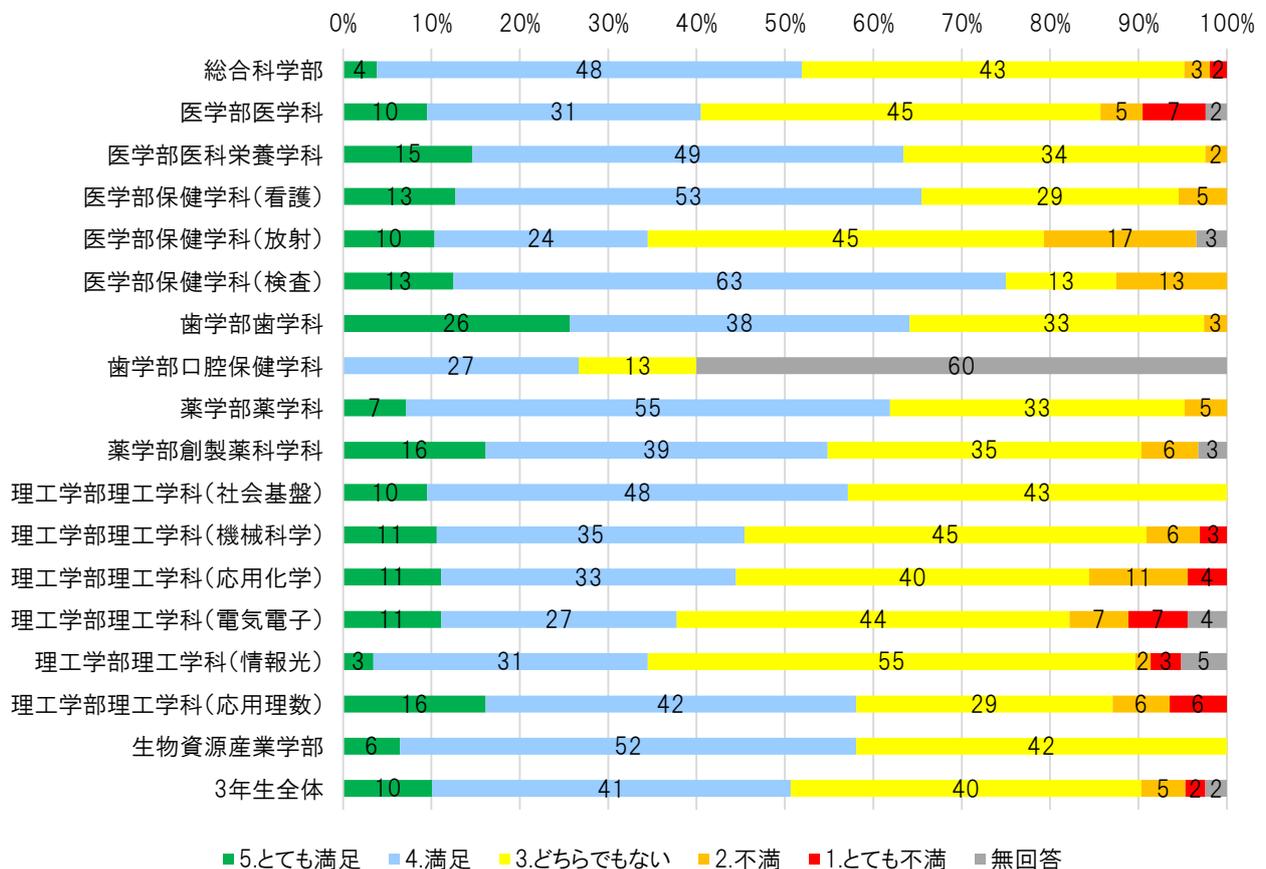
〔90〕初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



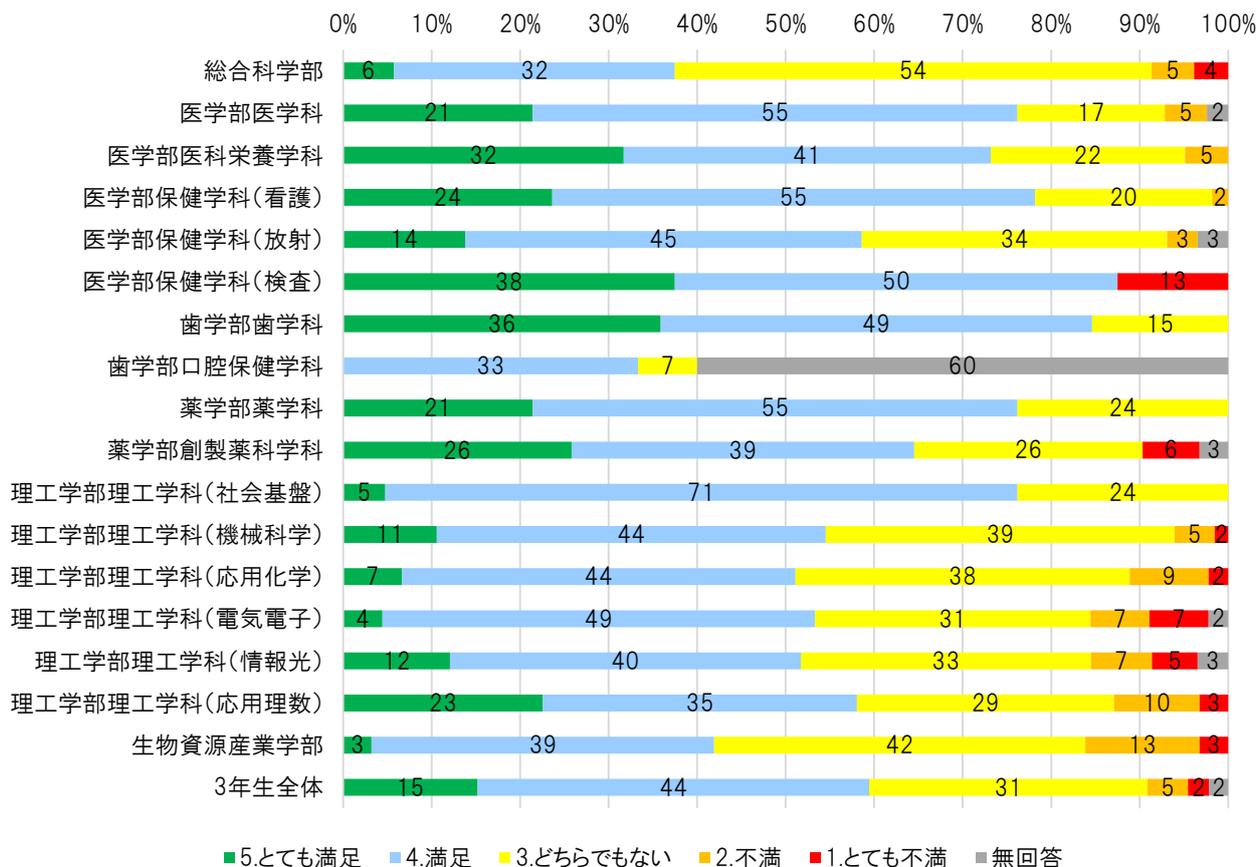
[91]授業の全体的な質



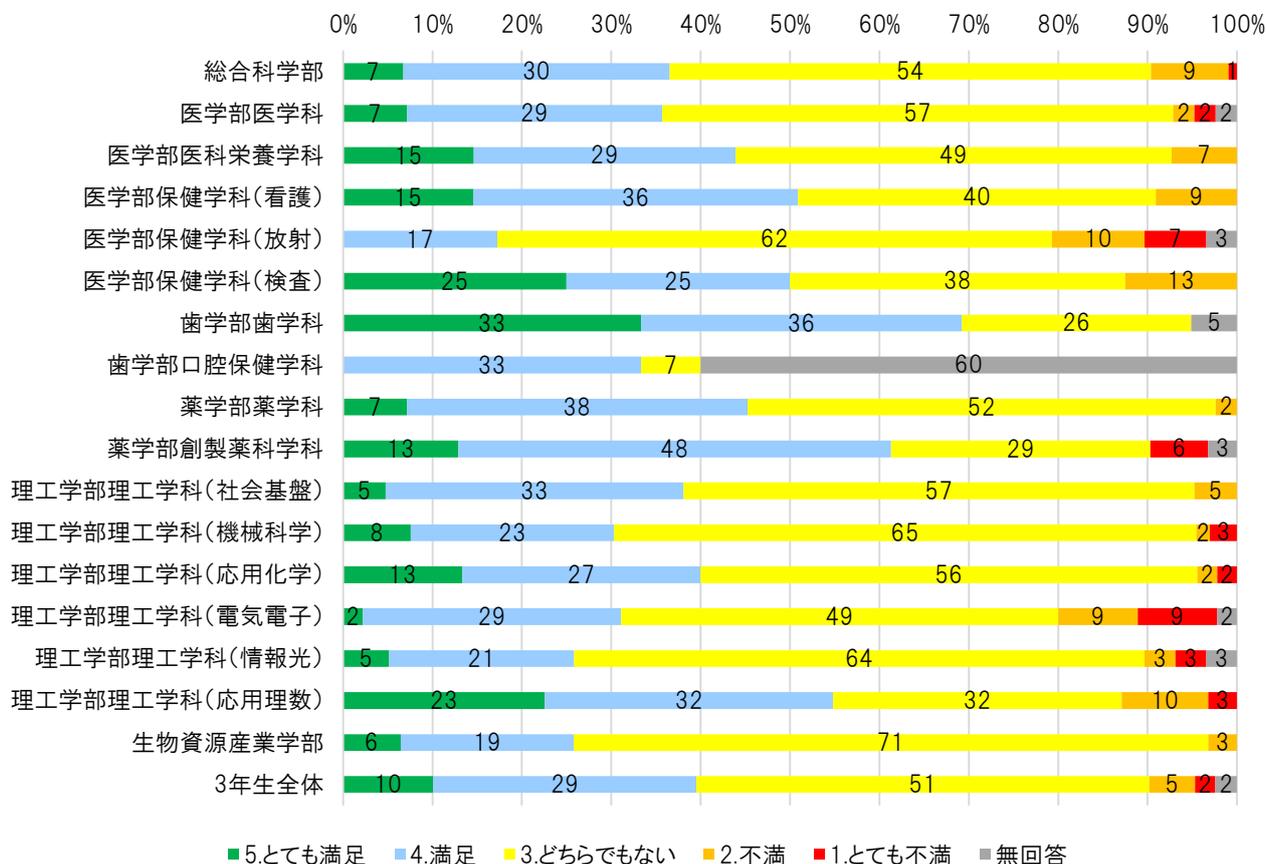
[92]生活と授業内容との関連



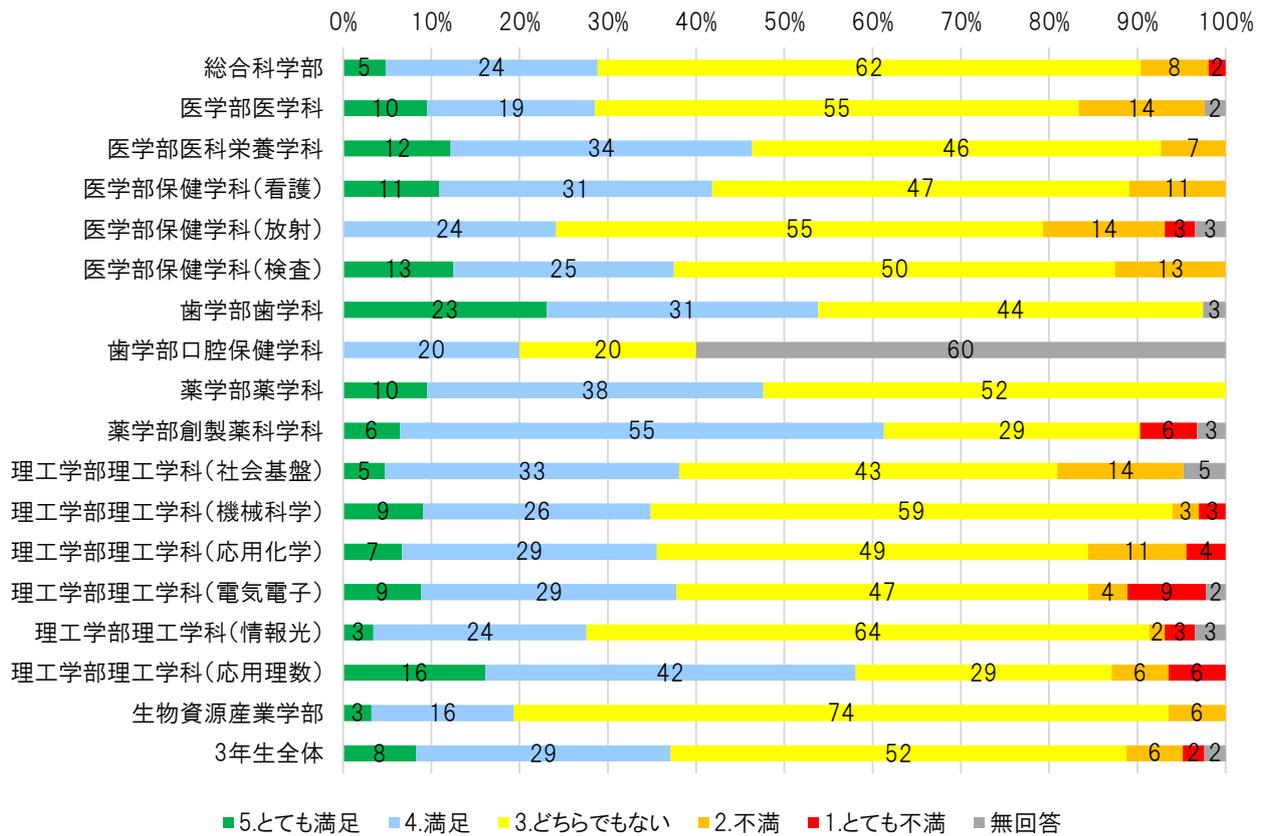
[93] 将来の仕事と授業内容の結びつき



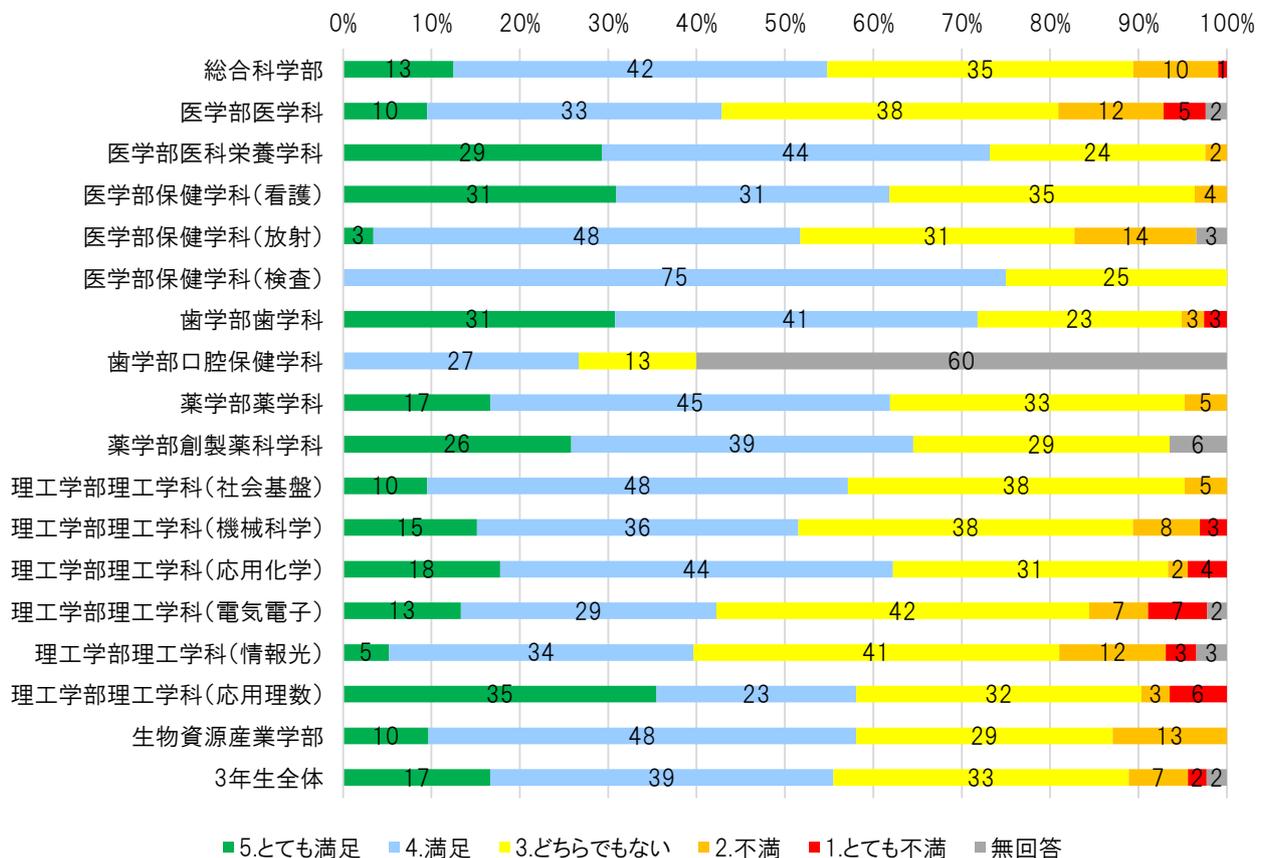
[94] 教員と話をする機会



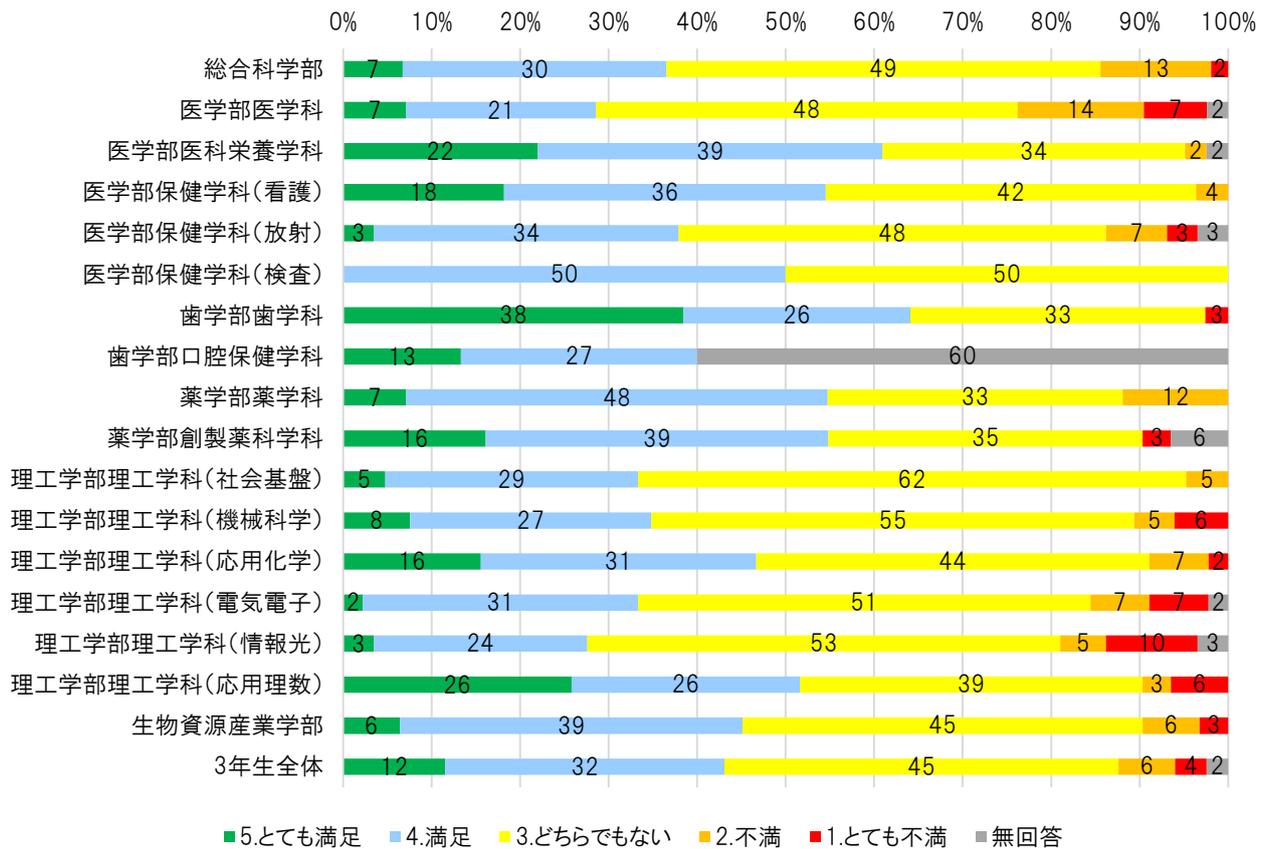
[95]学習支援や個別の学習指導



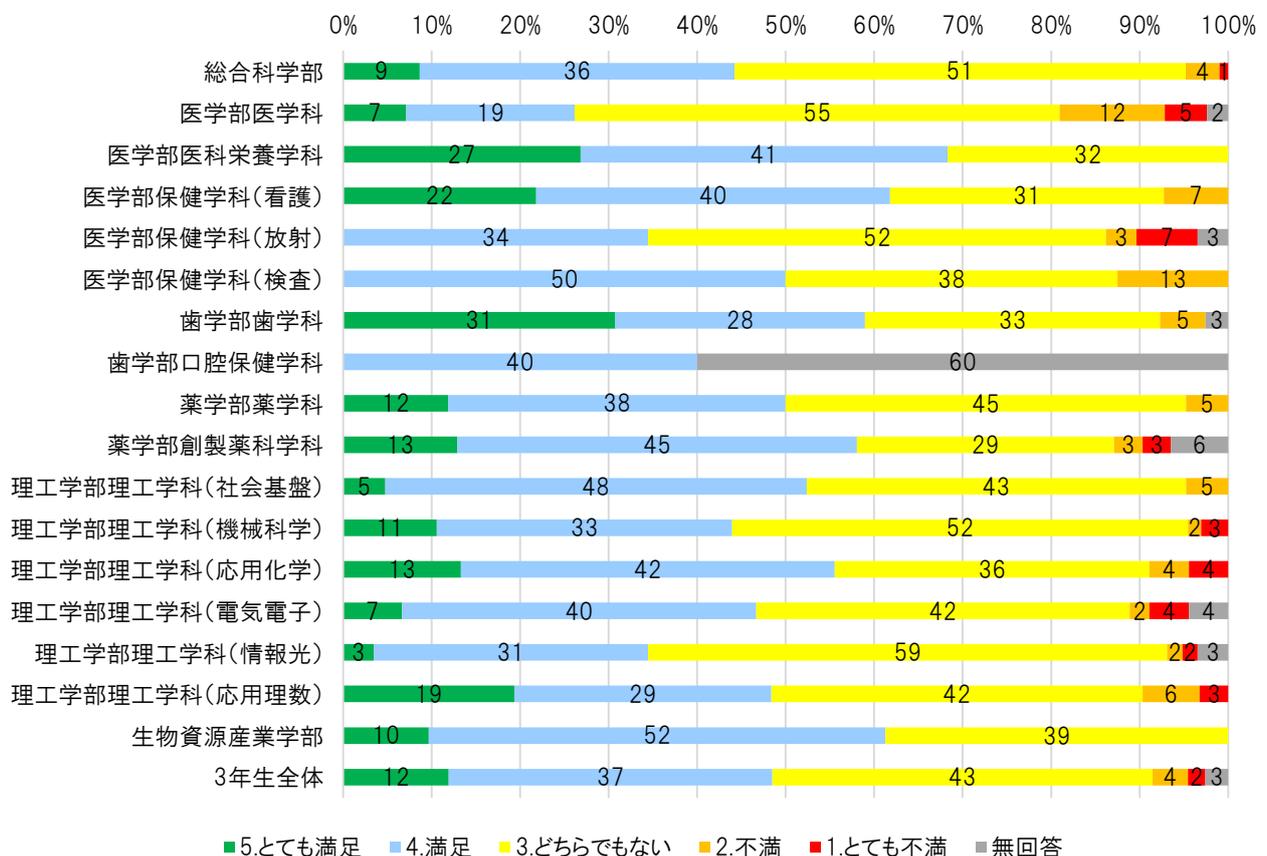
[96]他の学生と話をする機会



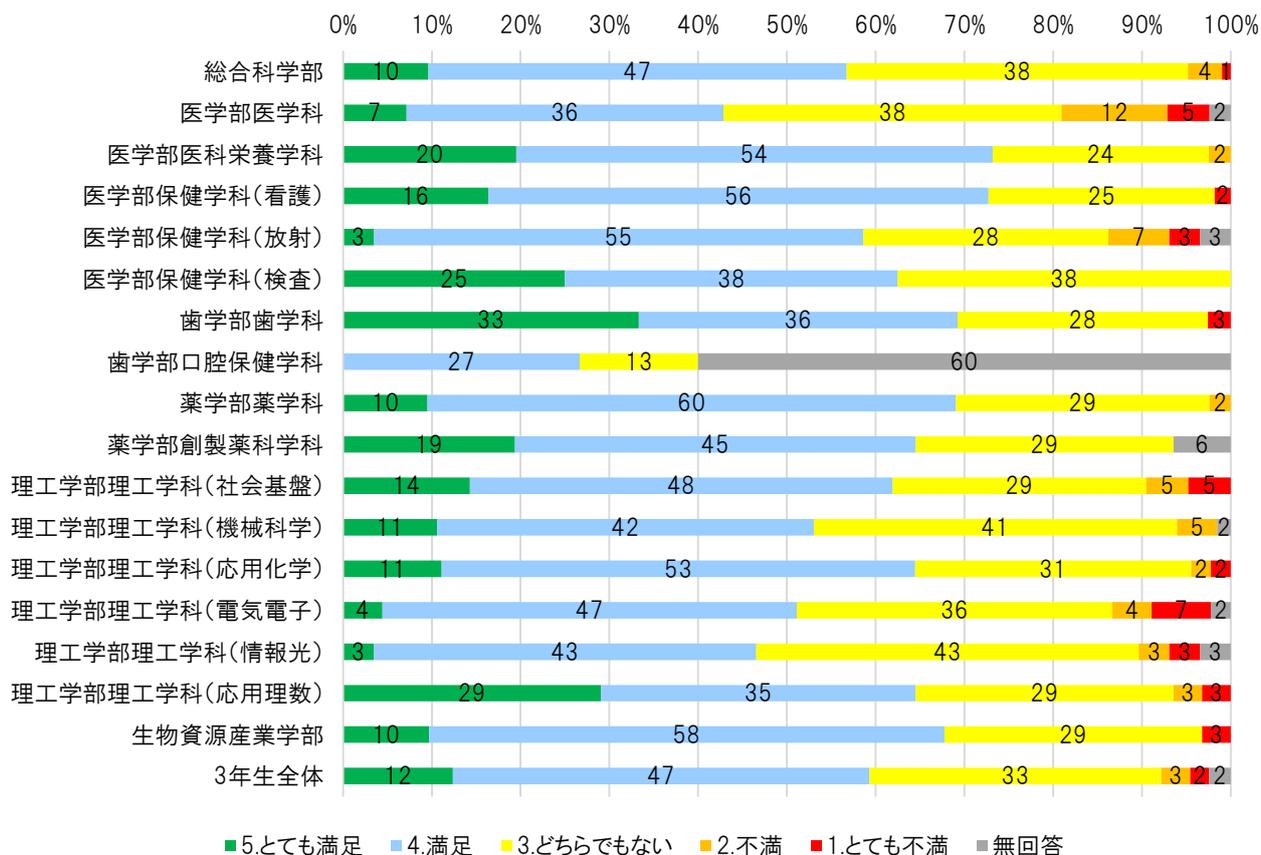
[97]大学のなかでの学生同士の一体感



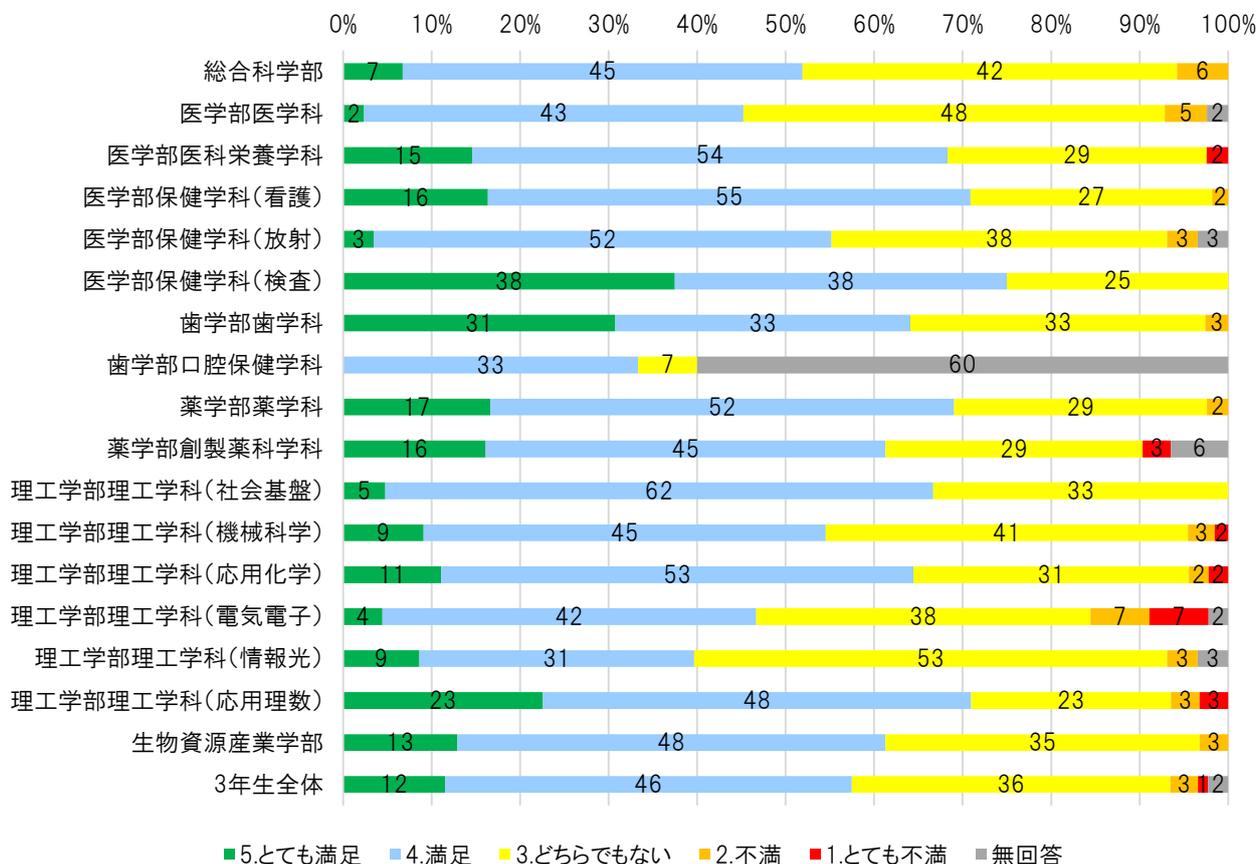
[98]多様な考え方を認め合う雰囲気



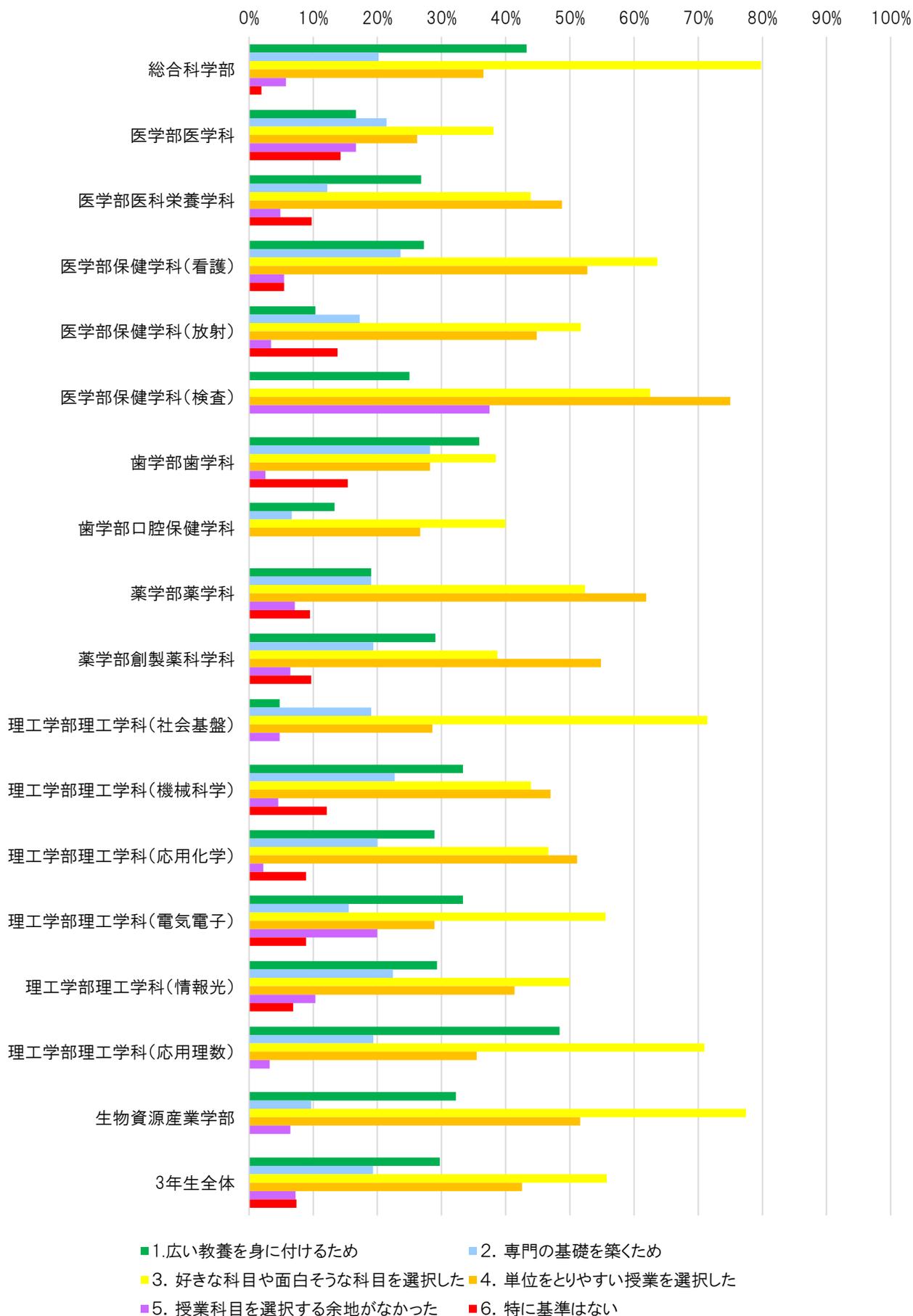
[99]大学での経験全般について



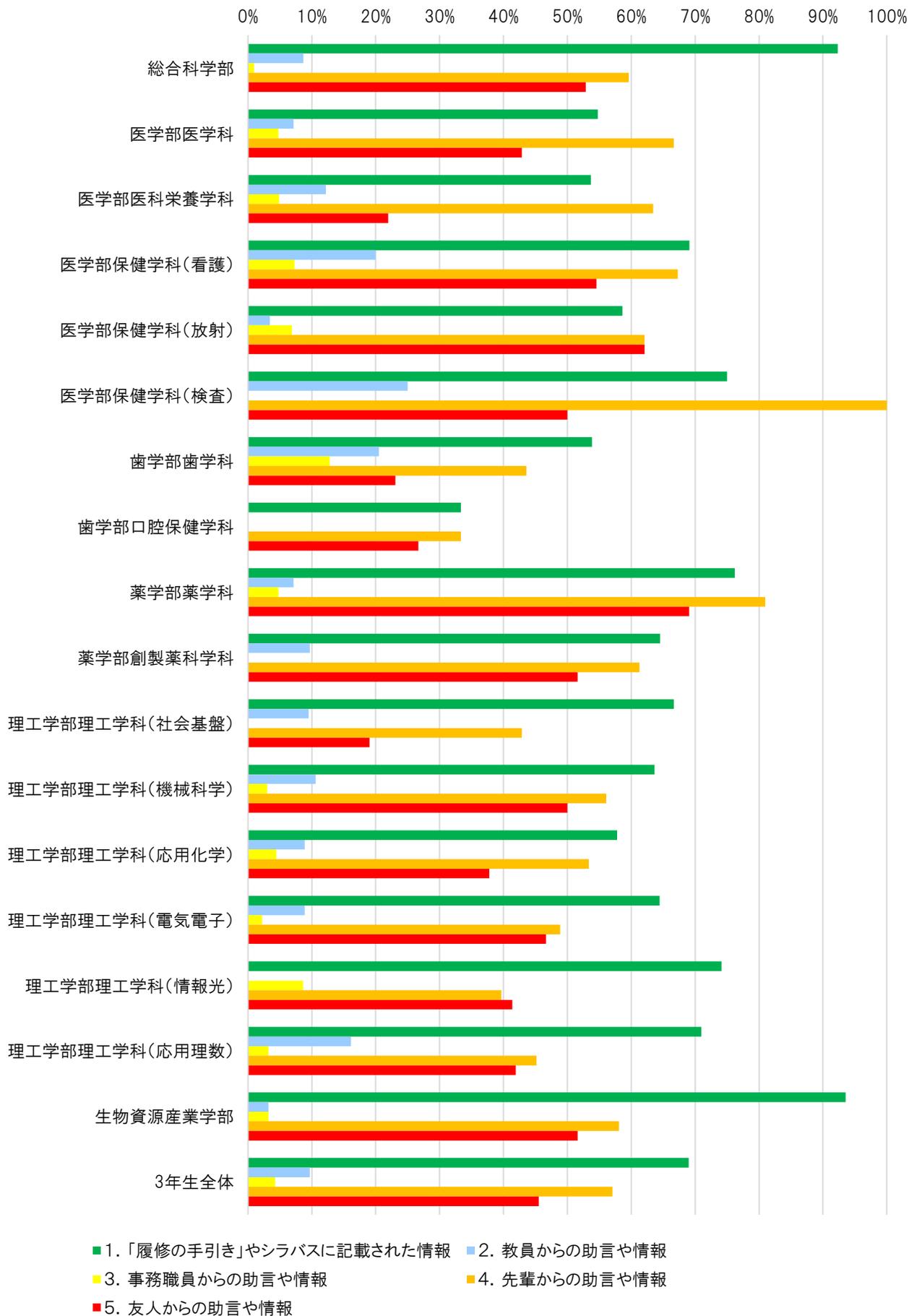
[100]1つの授業を履修する学生数



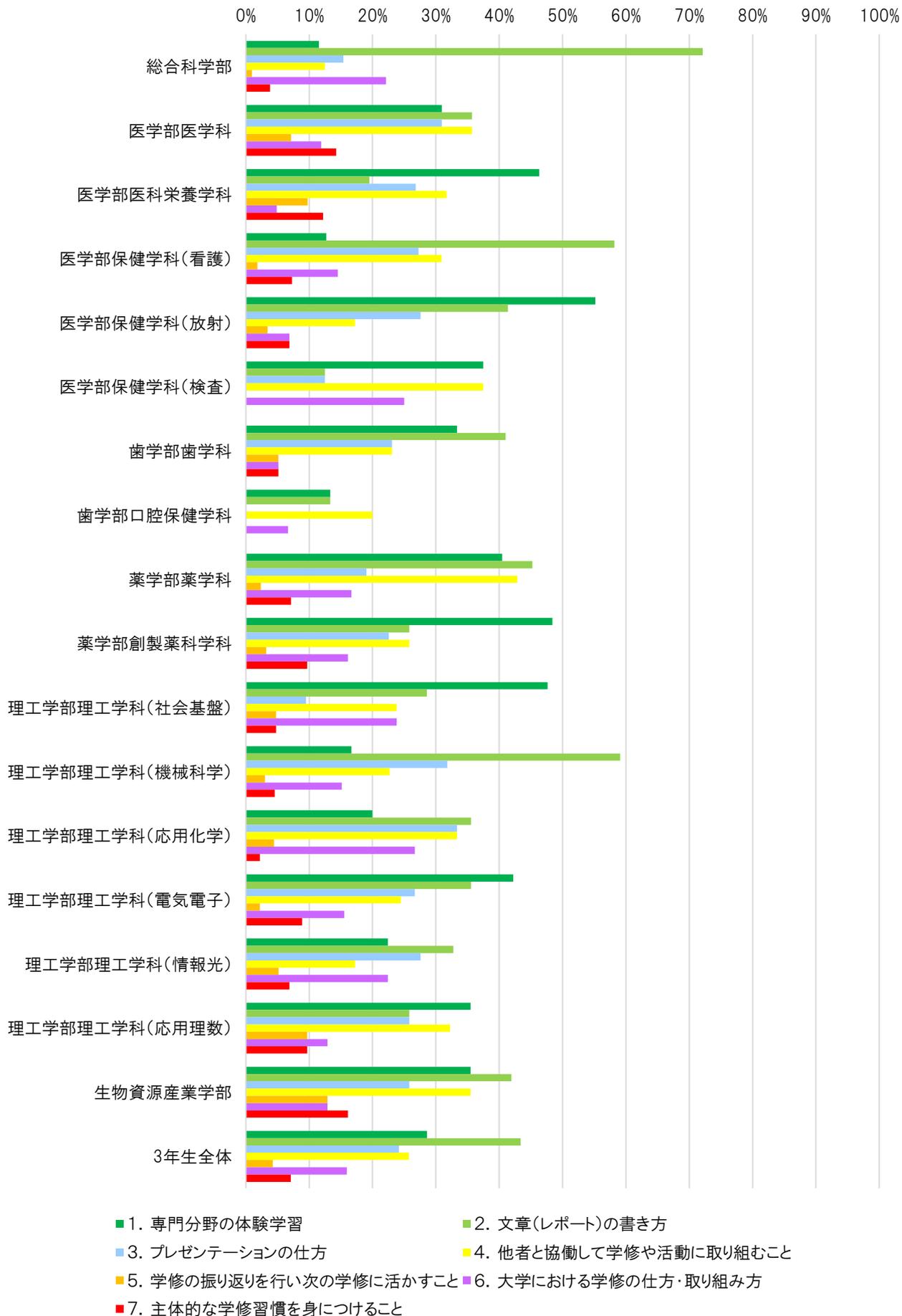
[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



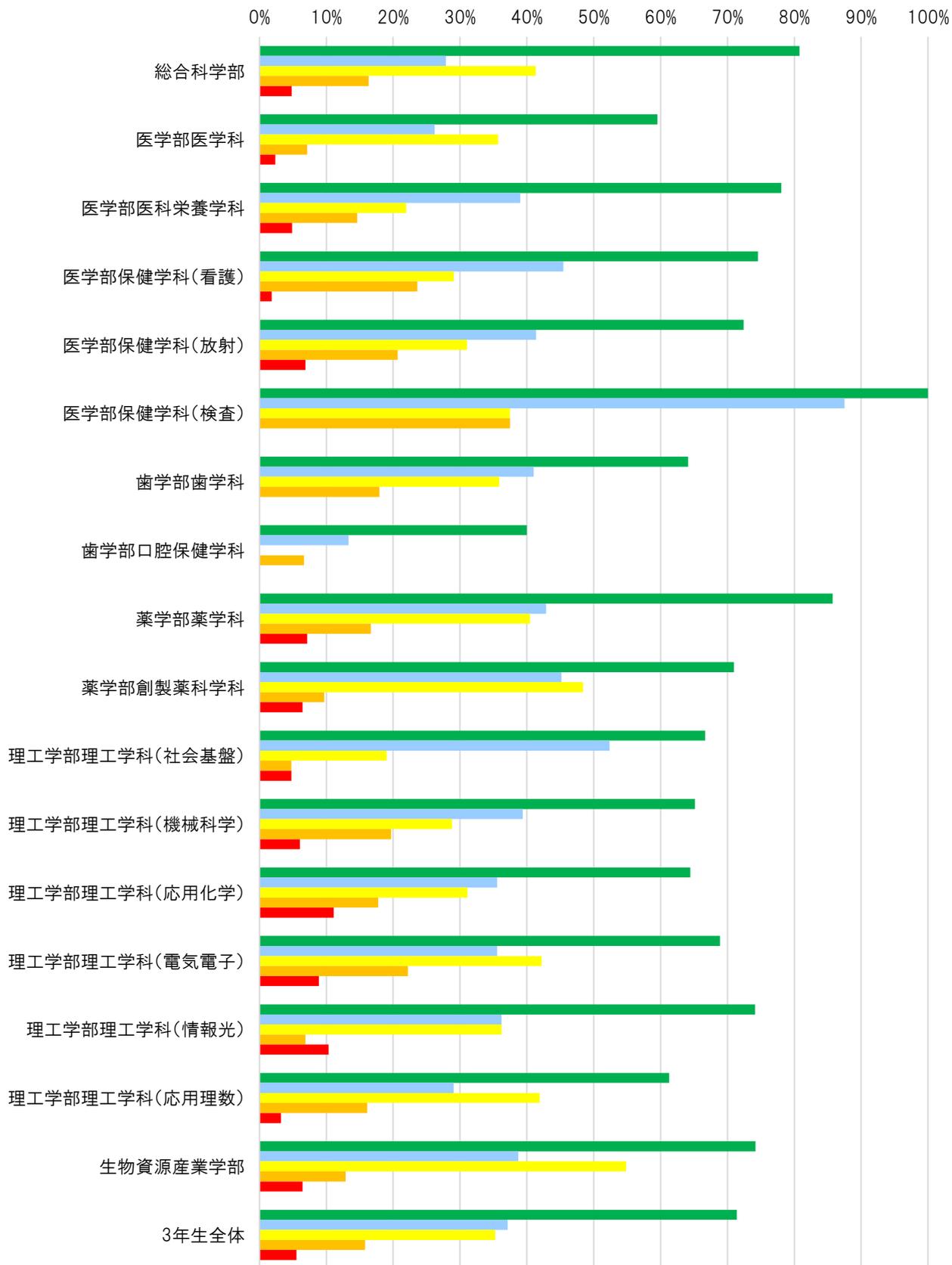
[102]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



[103] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

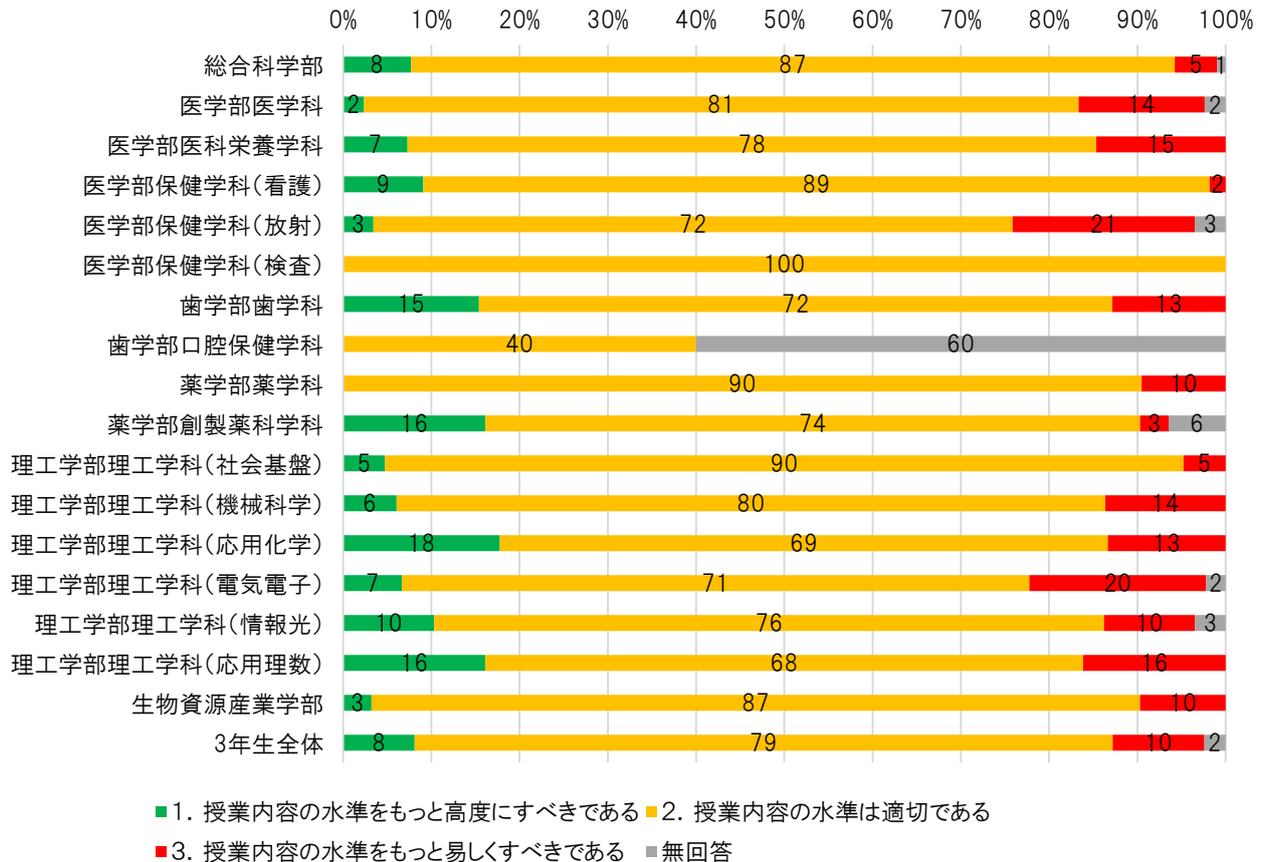


[104]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)



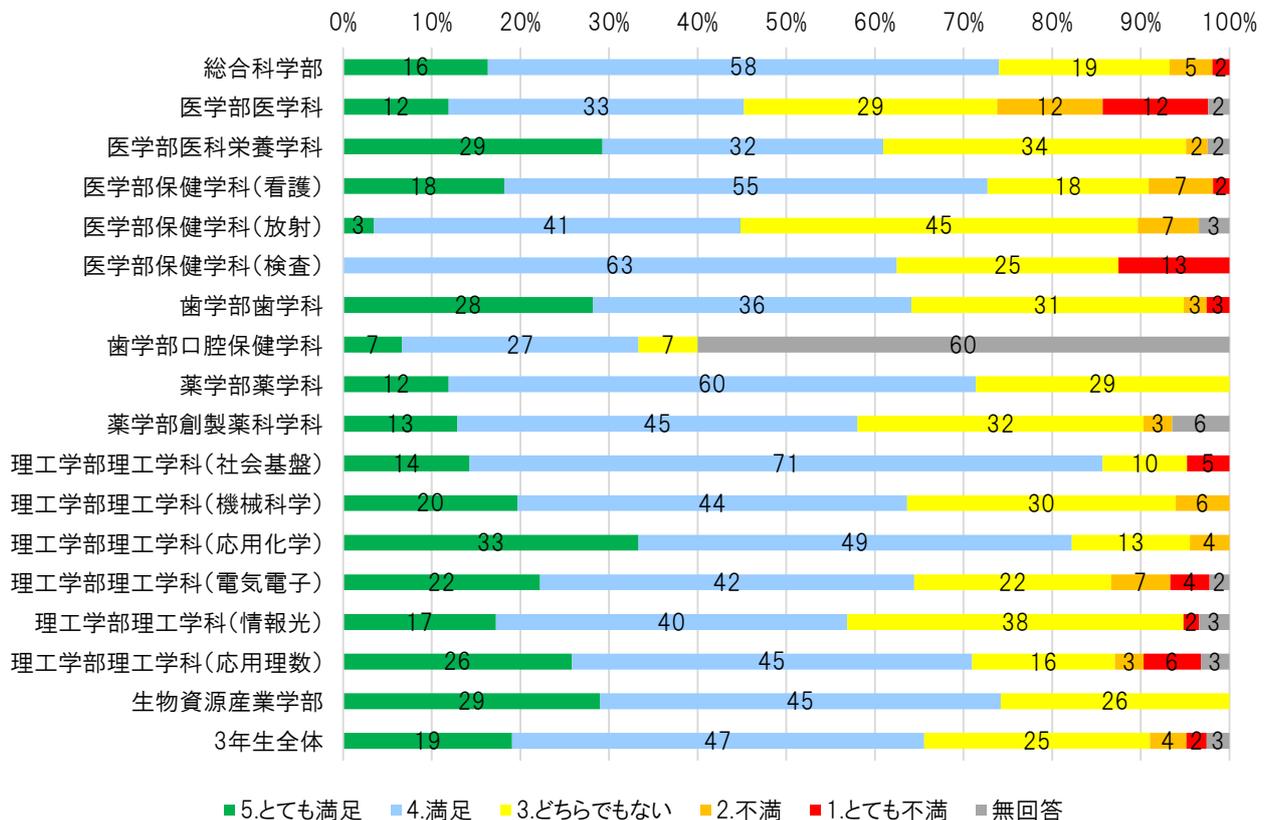
- 1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
- 2. 自分の進路について考えることができるようになった
- 3. 学問・研究に興味を湧いた
- 4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
- 5. 特に得るものはなかった

[105]授業内容の難易度についてどう思いますか。

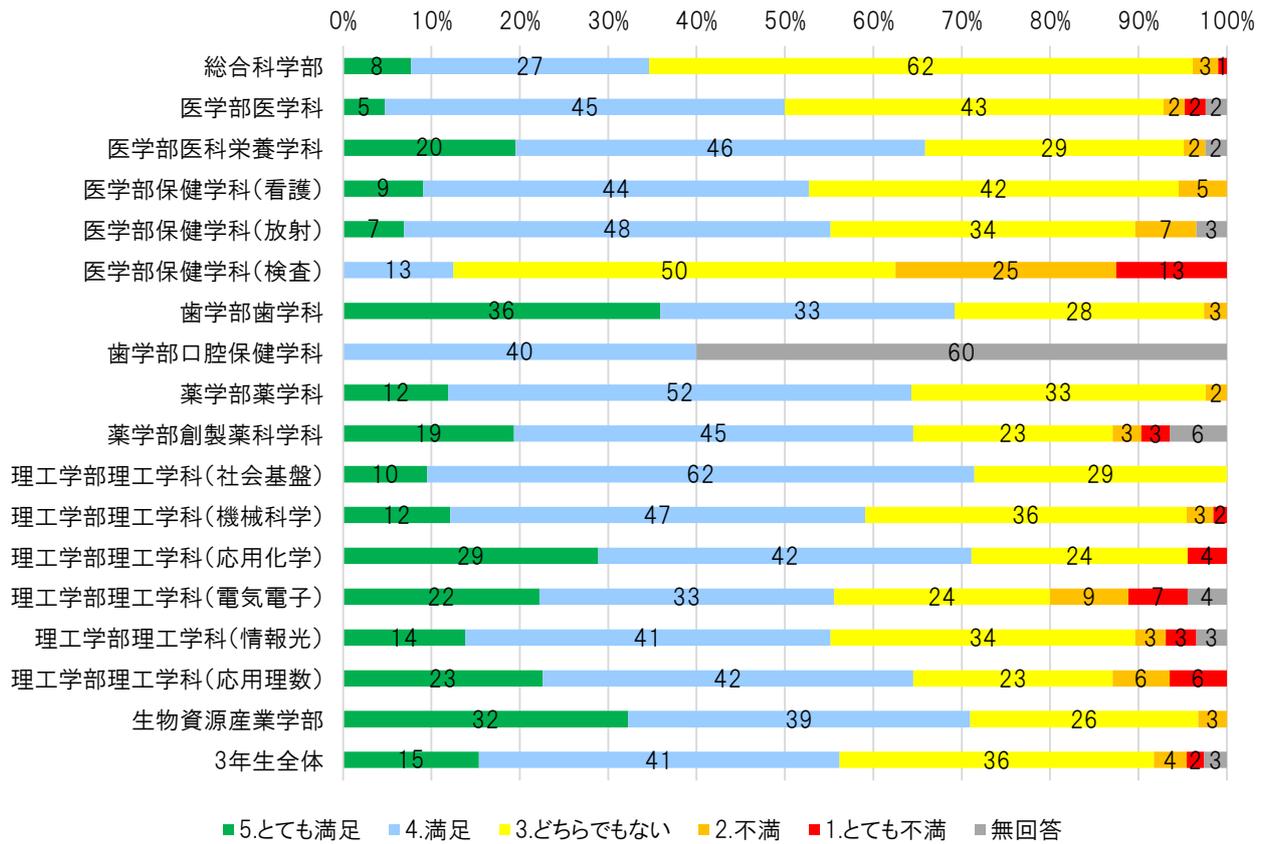


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

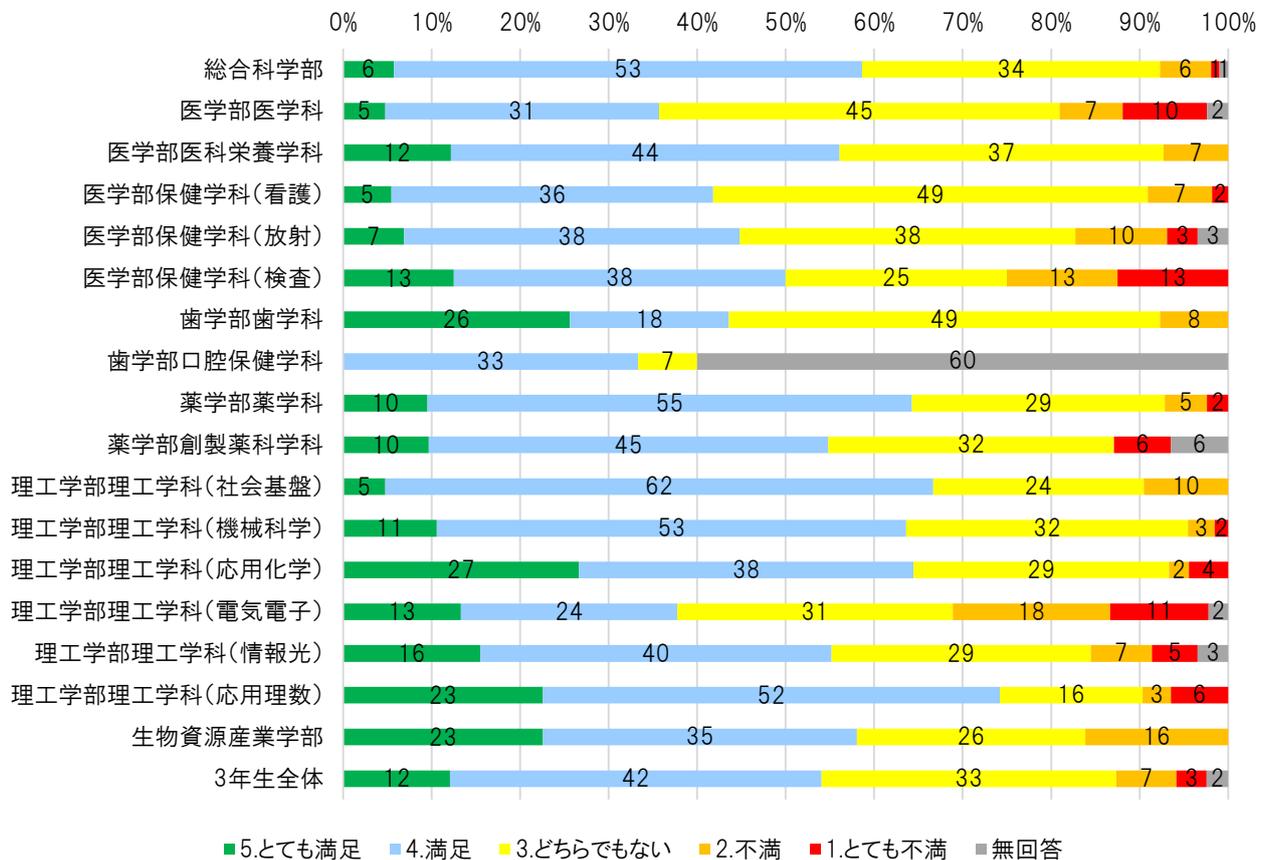
[106]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



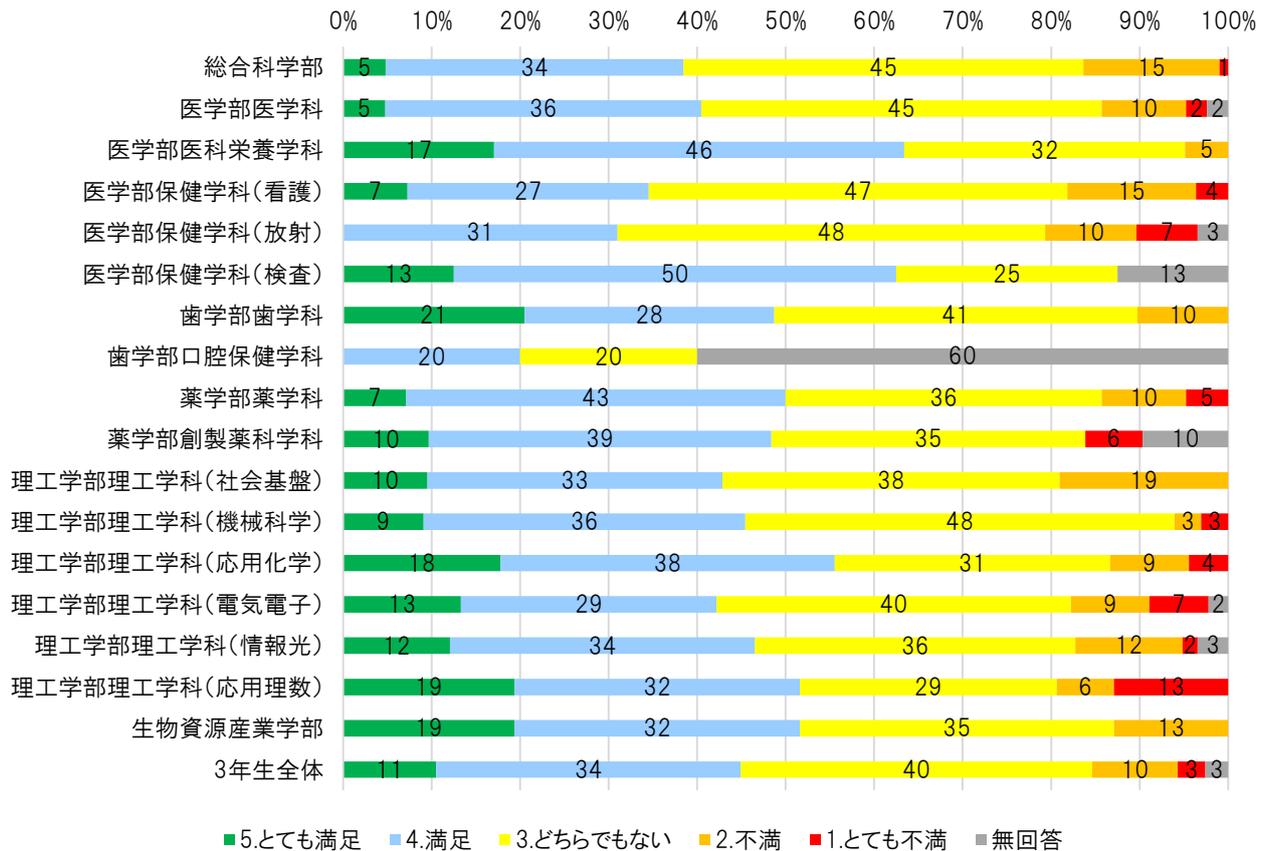
[107]実験室の設備や器具



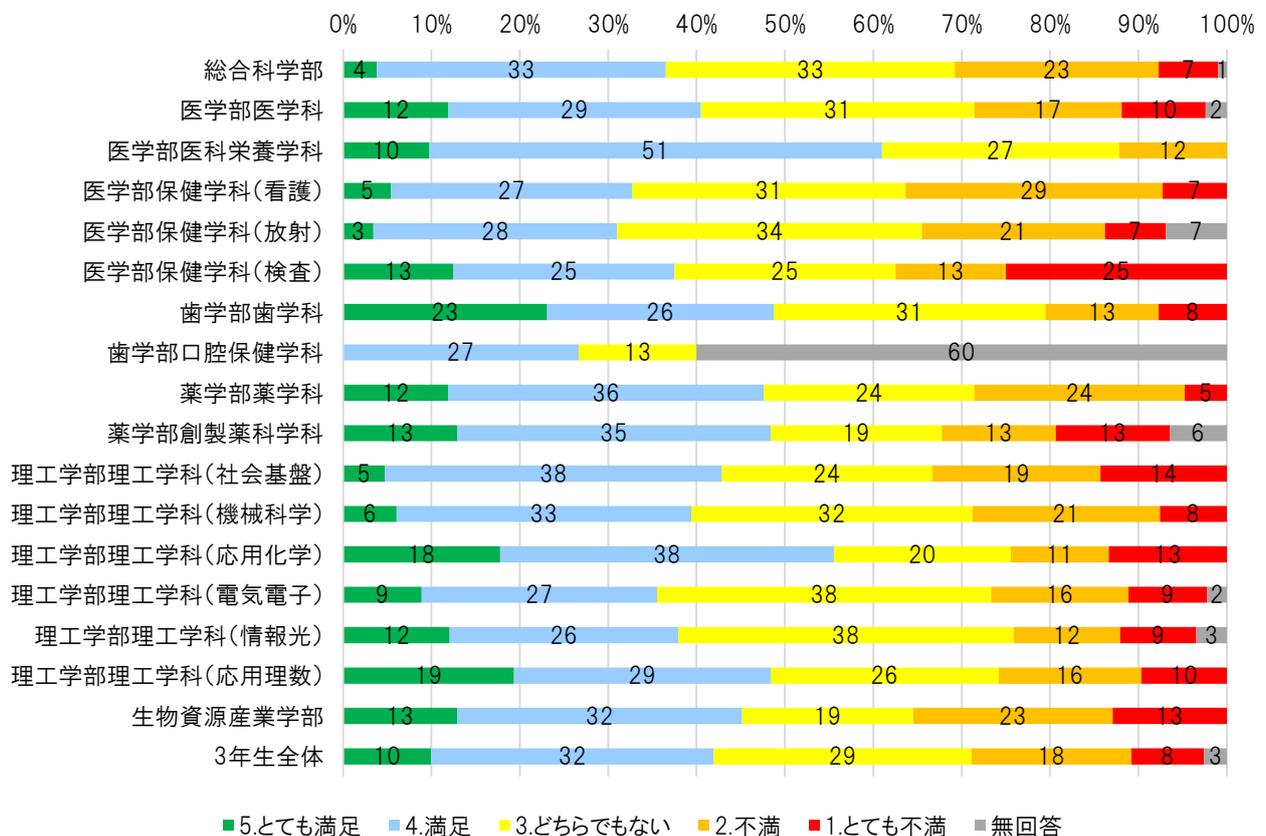
[108]コンピュータの施設や設備



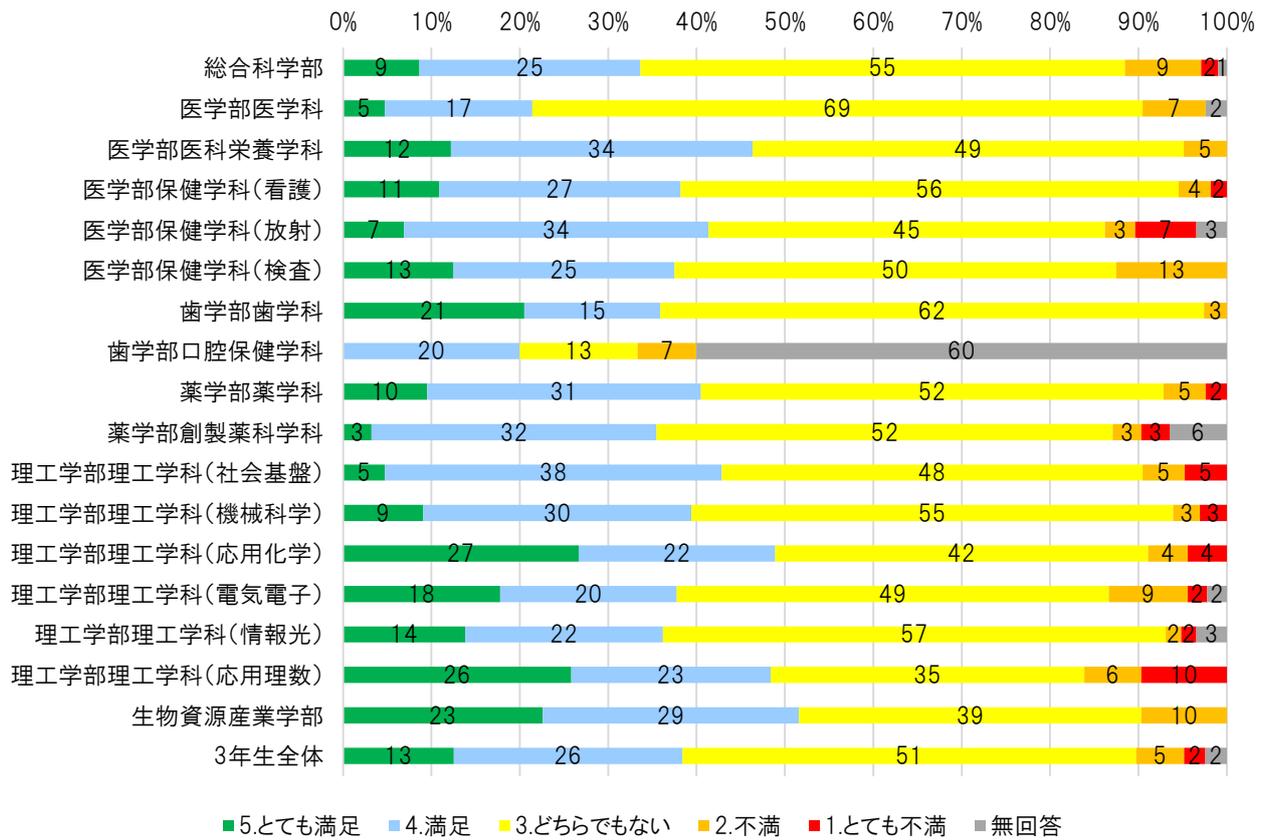
[109]コンピュータの訓練や援助



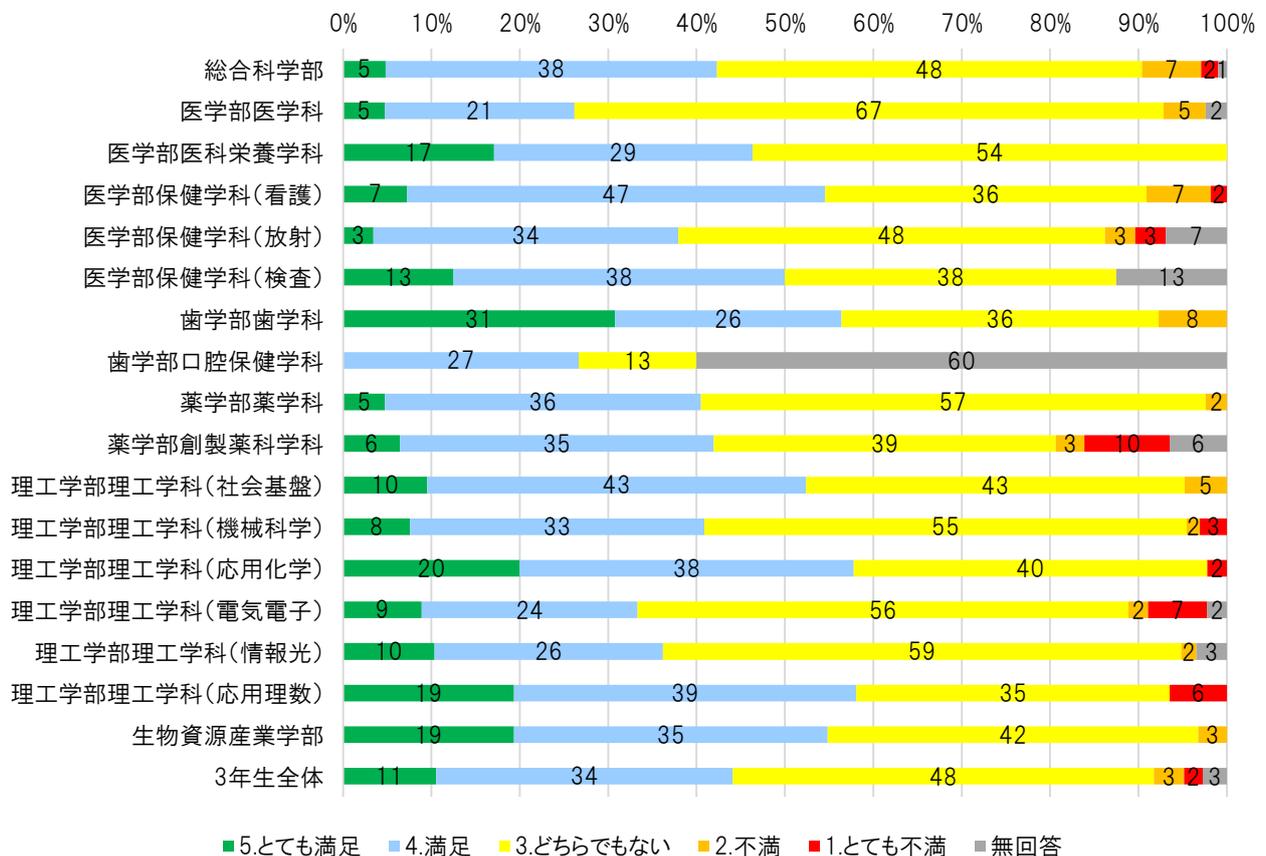
[110]インターネットの使いやすさ



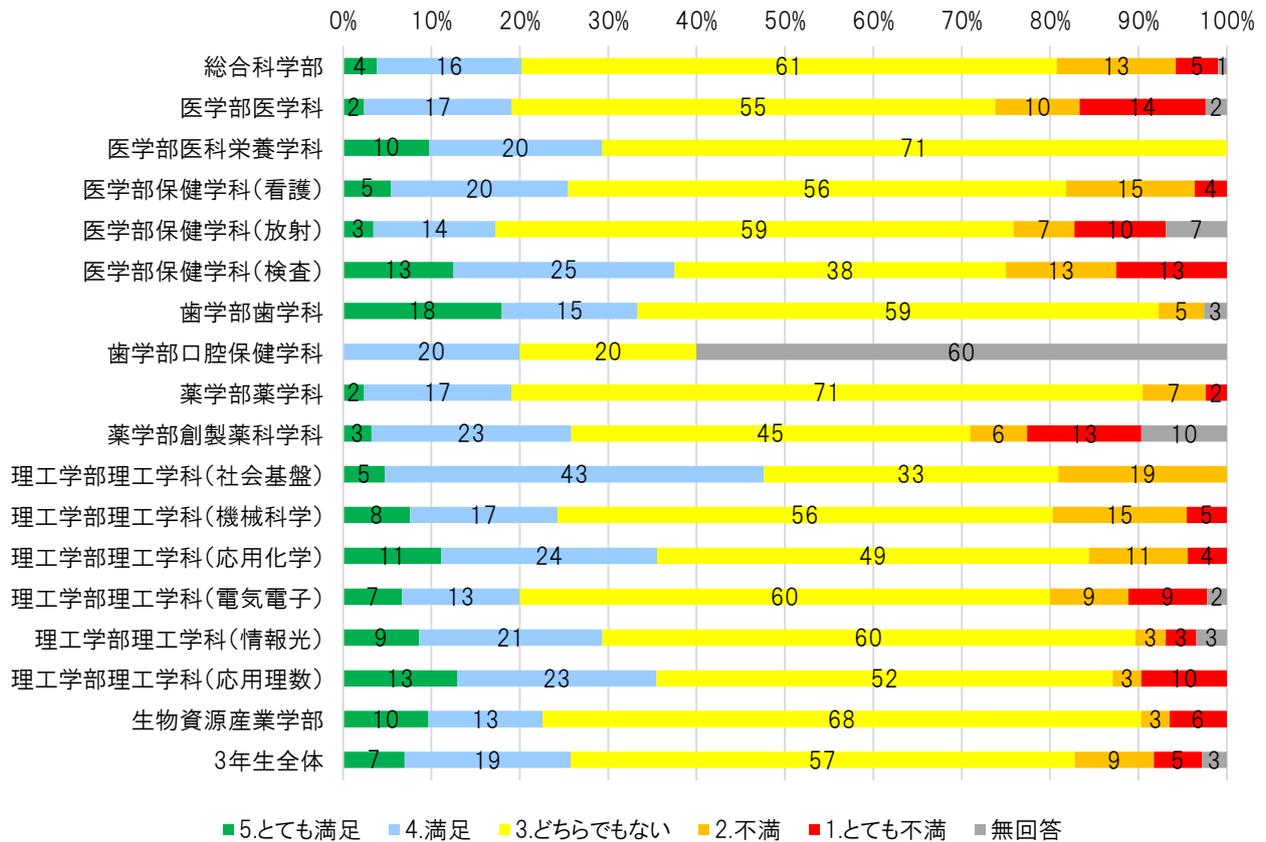
[111]奨学金など学費援助の制度



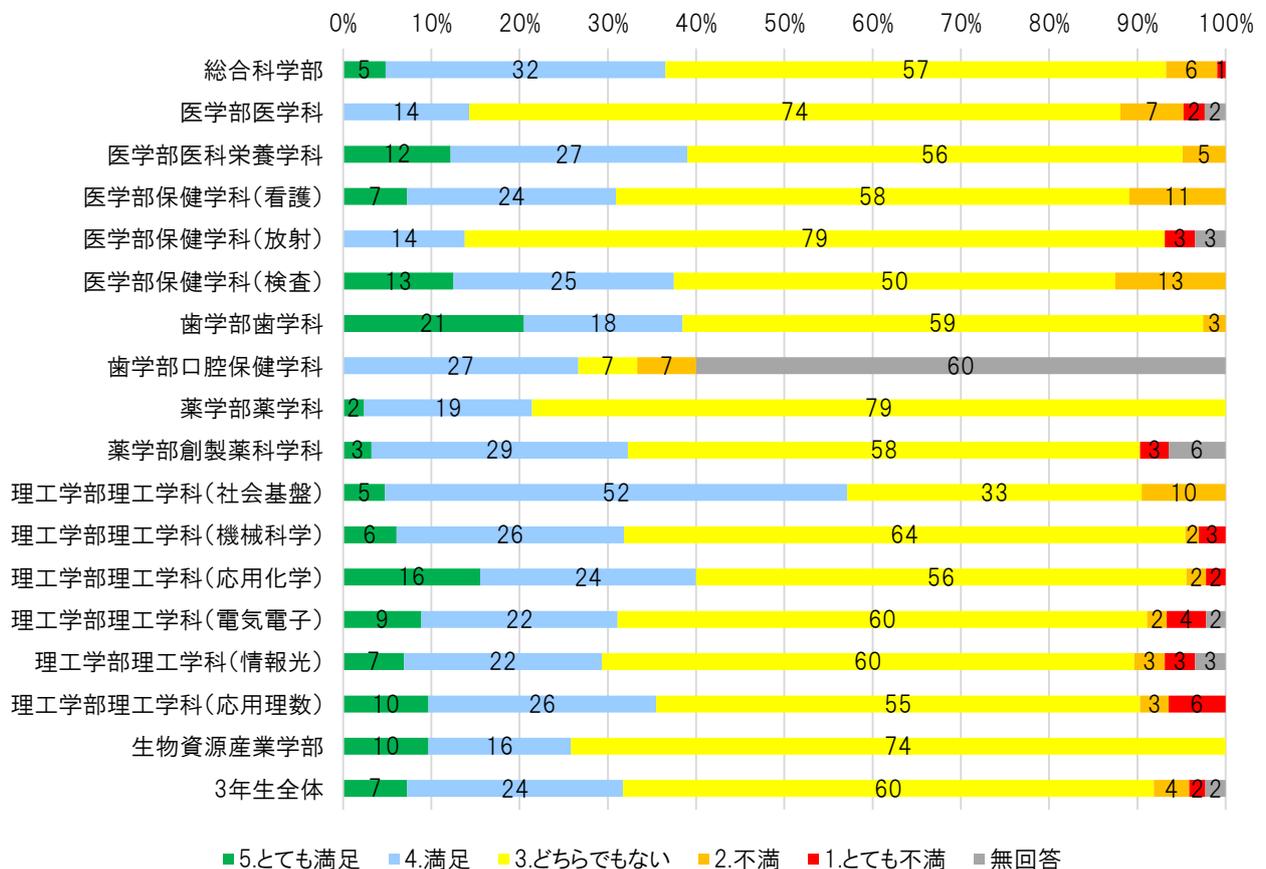
[112]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



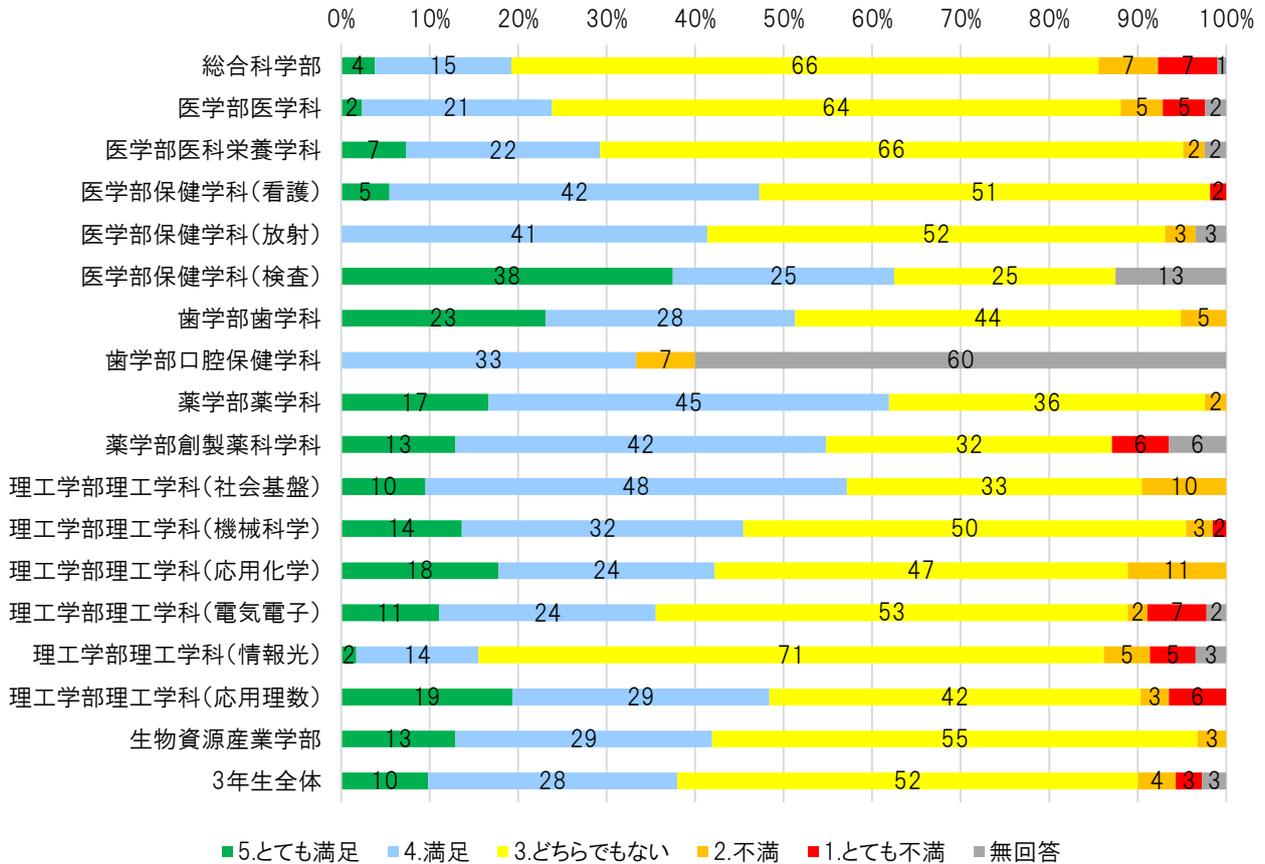
[113]レクリエーション施設(ジムの設備など)



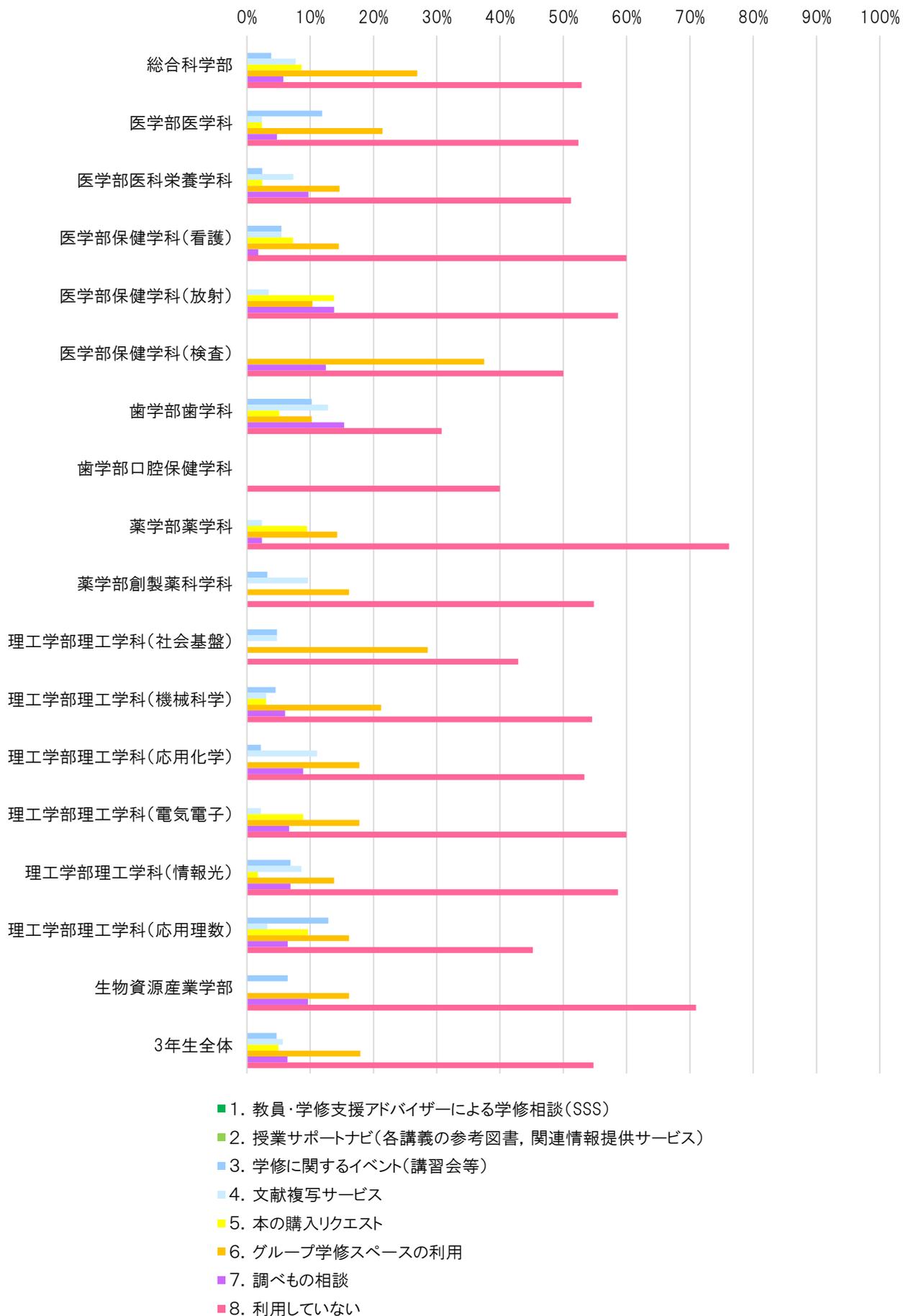
[114]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



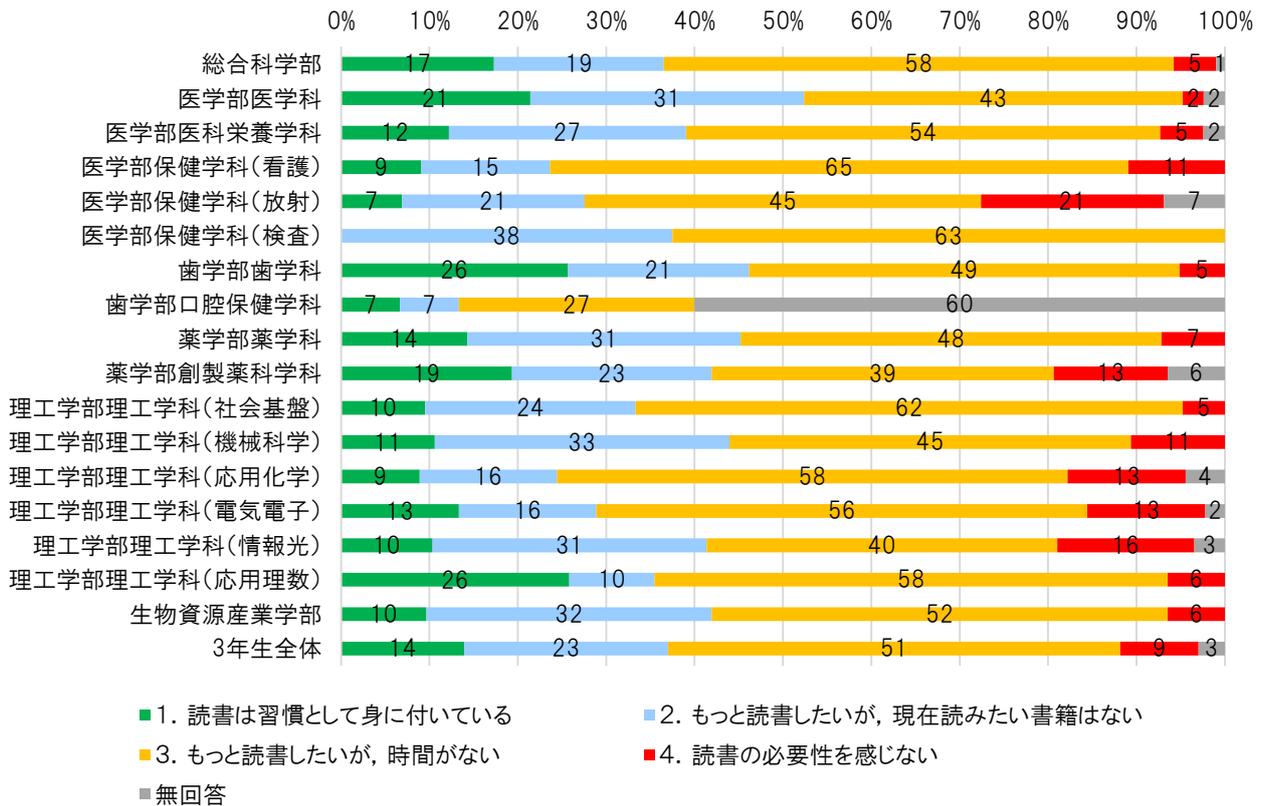
[115]クラス担任制度



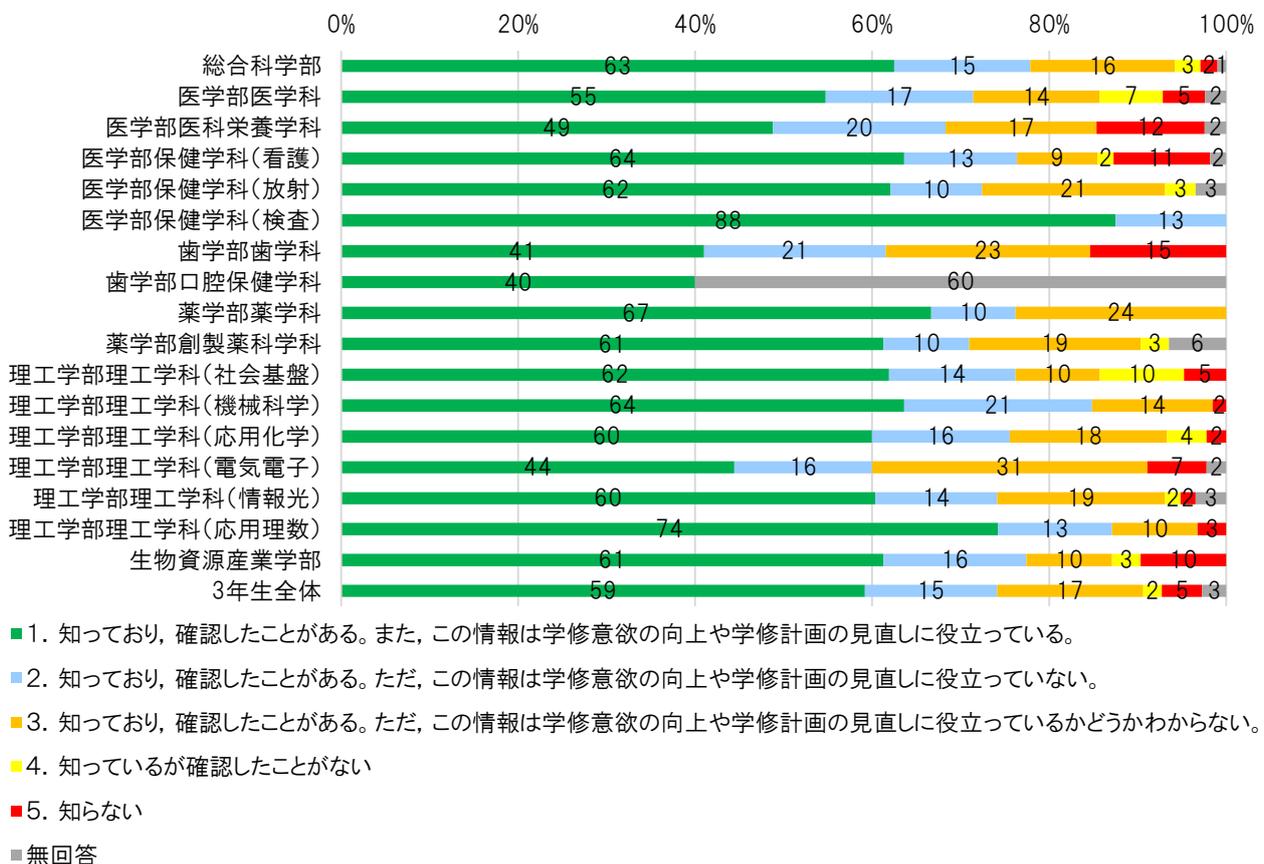
[116]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



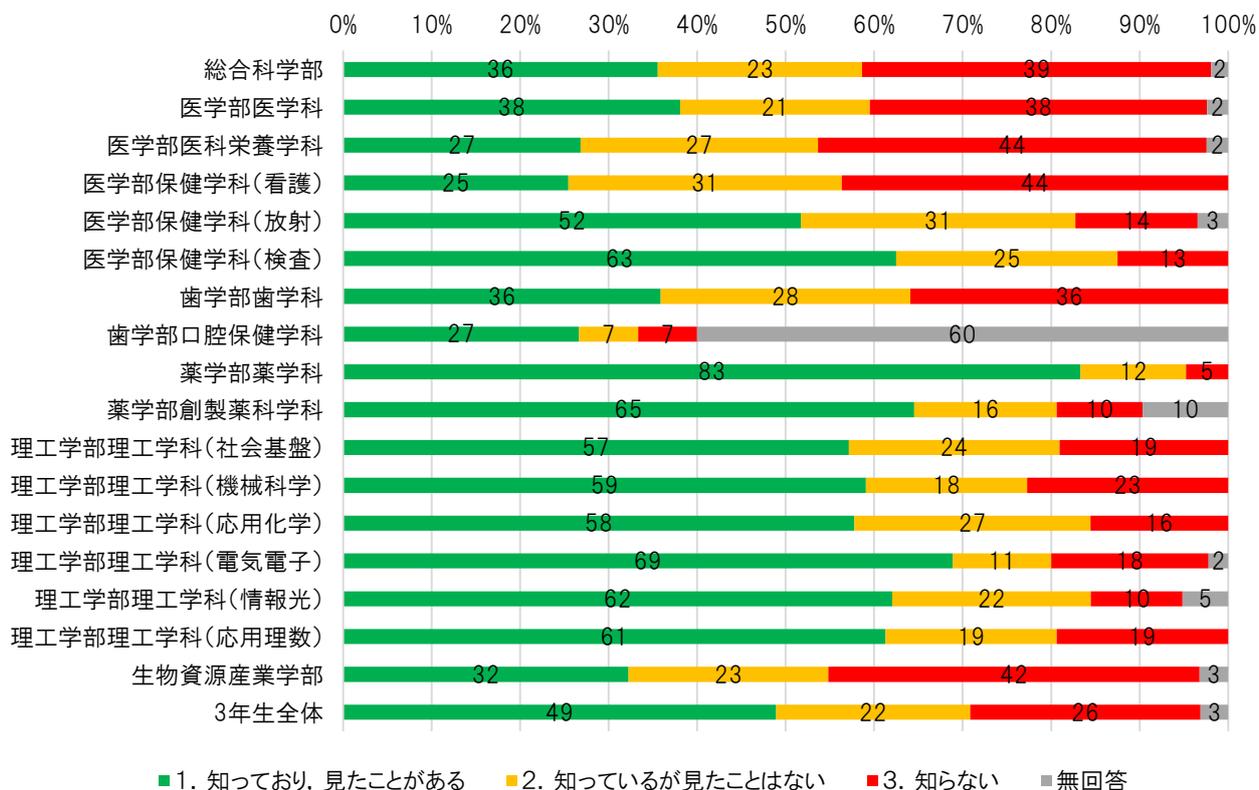
[117]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



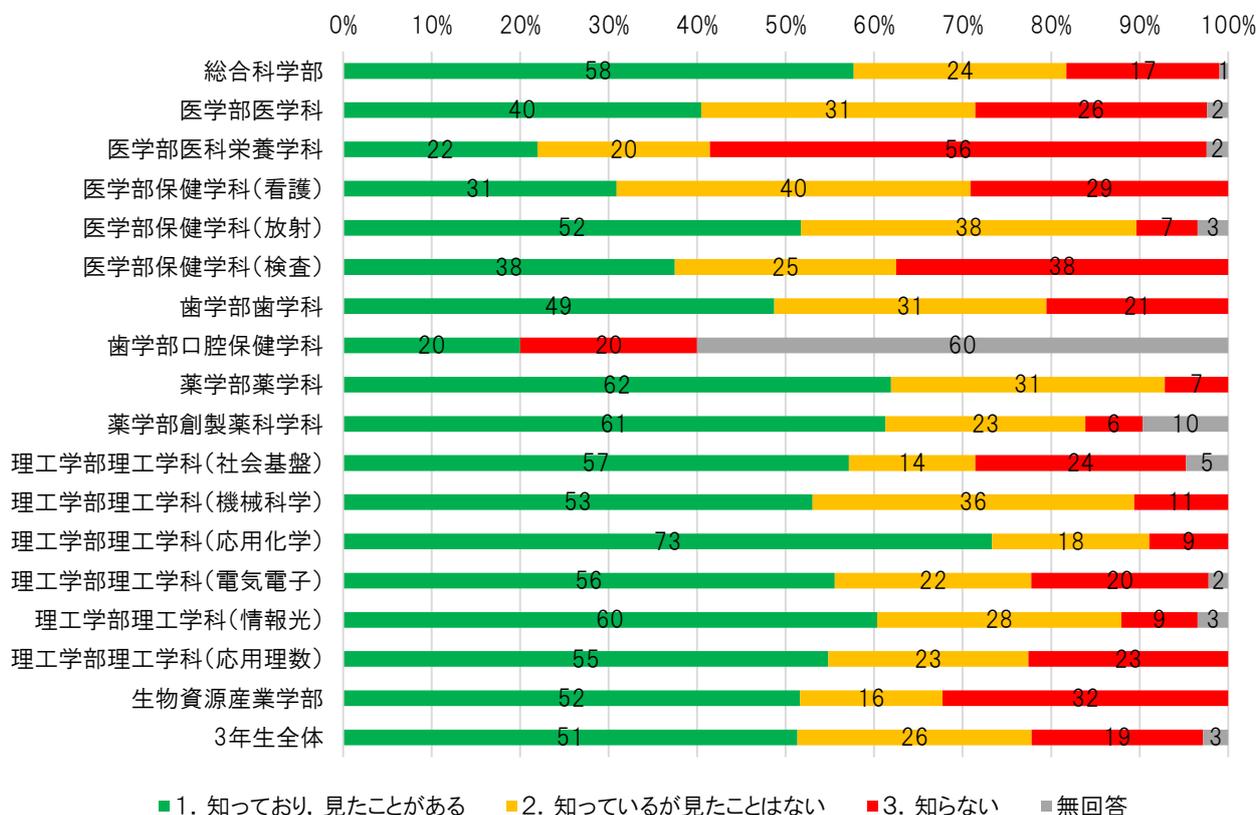
[118]徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。



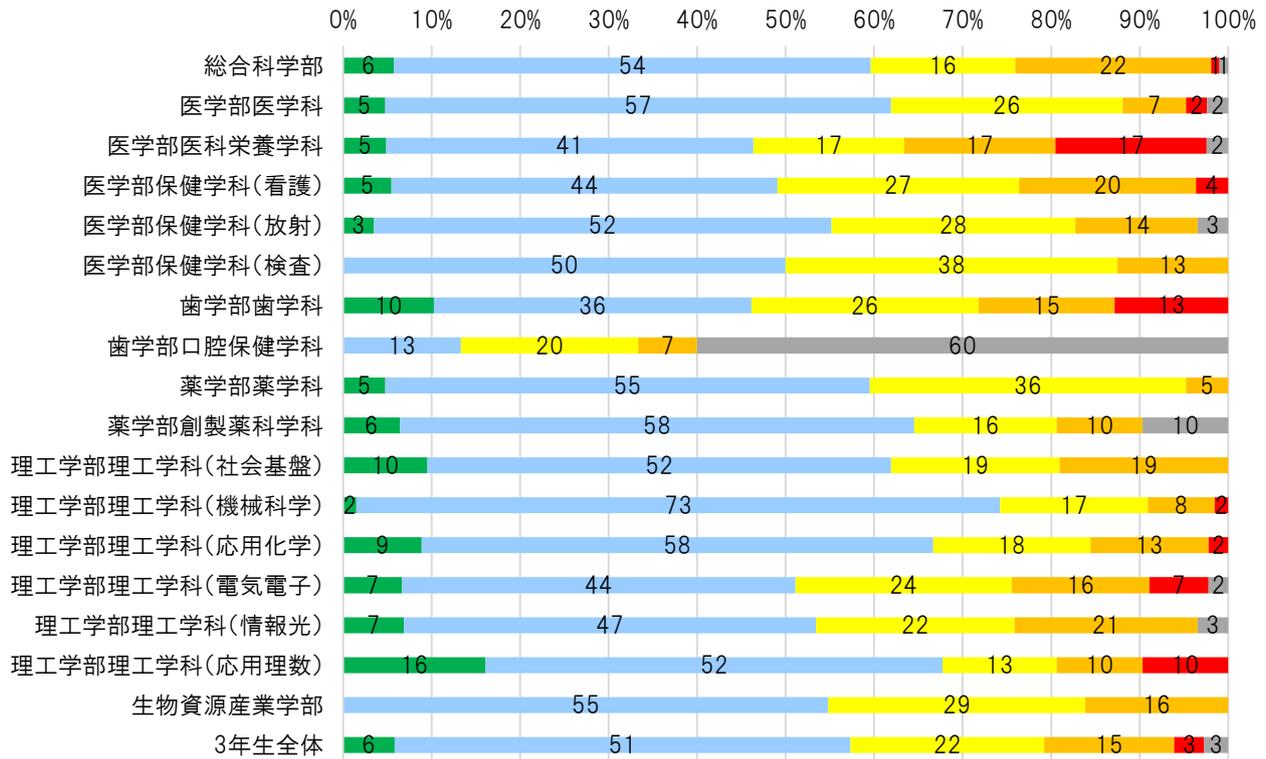
[119]徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



[120]徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

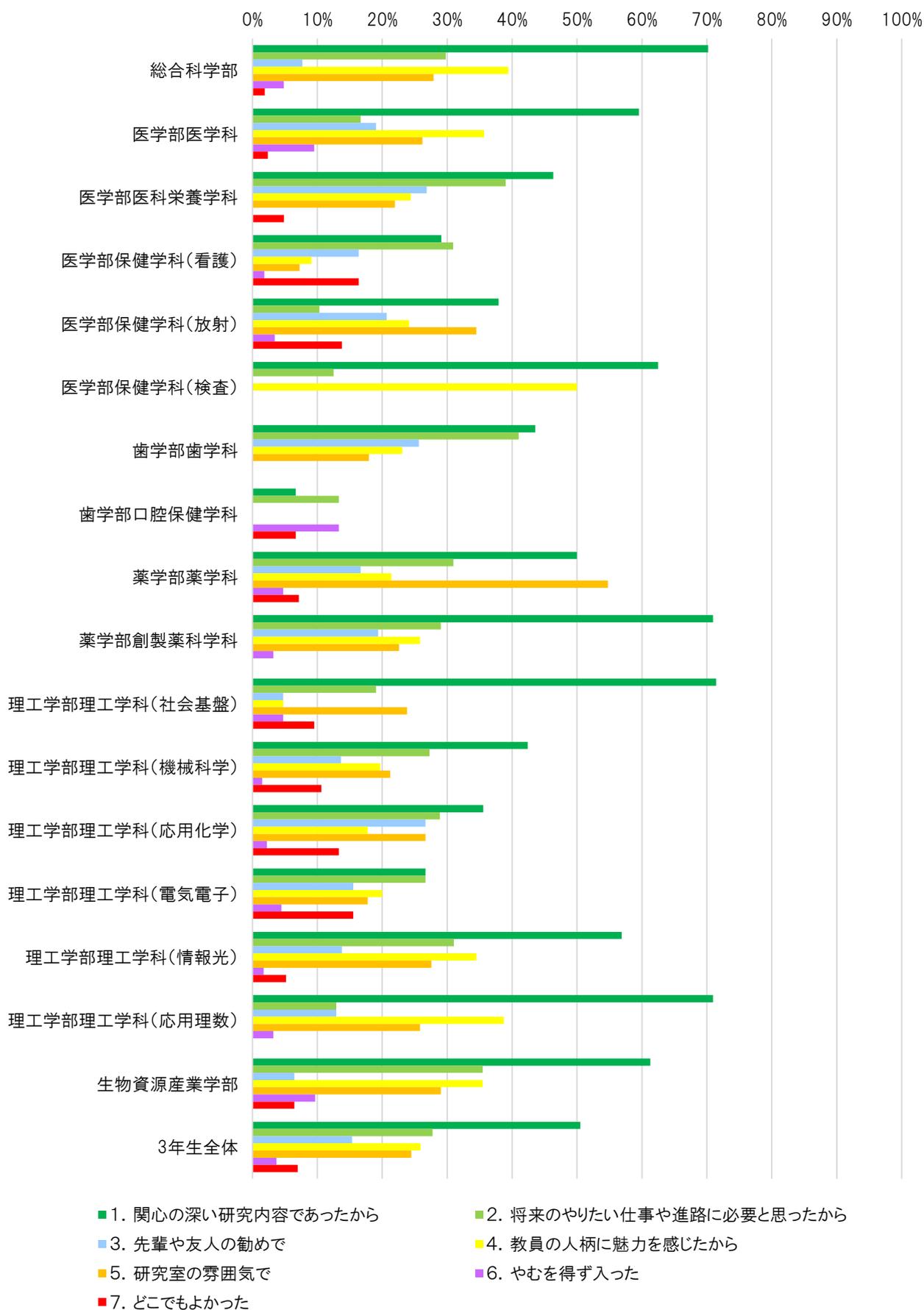


[121]シラバスはどのように利用していますか。

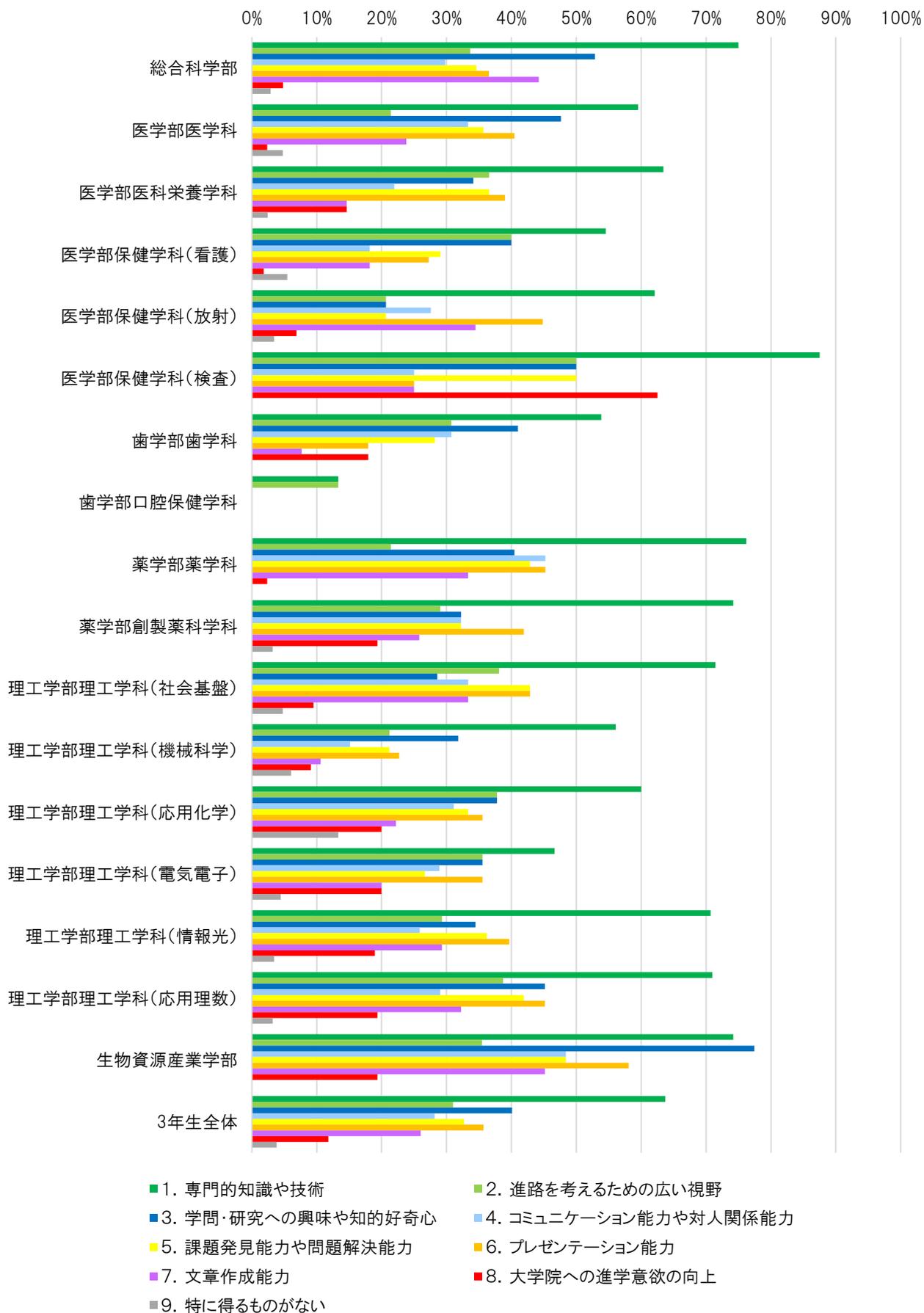


- 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
- 2. 気になった時に時々確認している
- 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 5. 全く見ていない
- 無回答

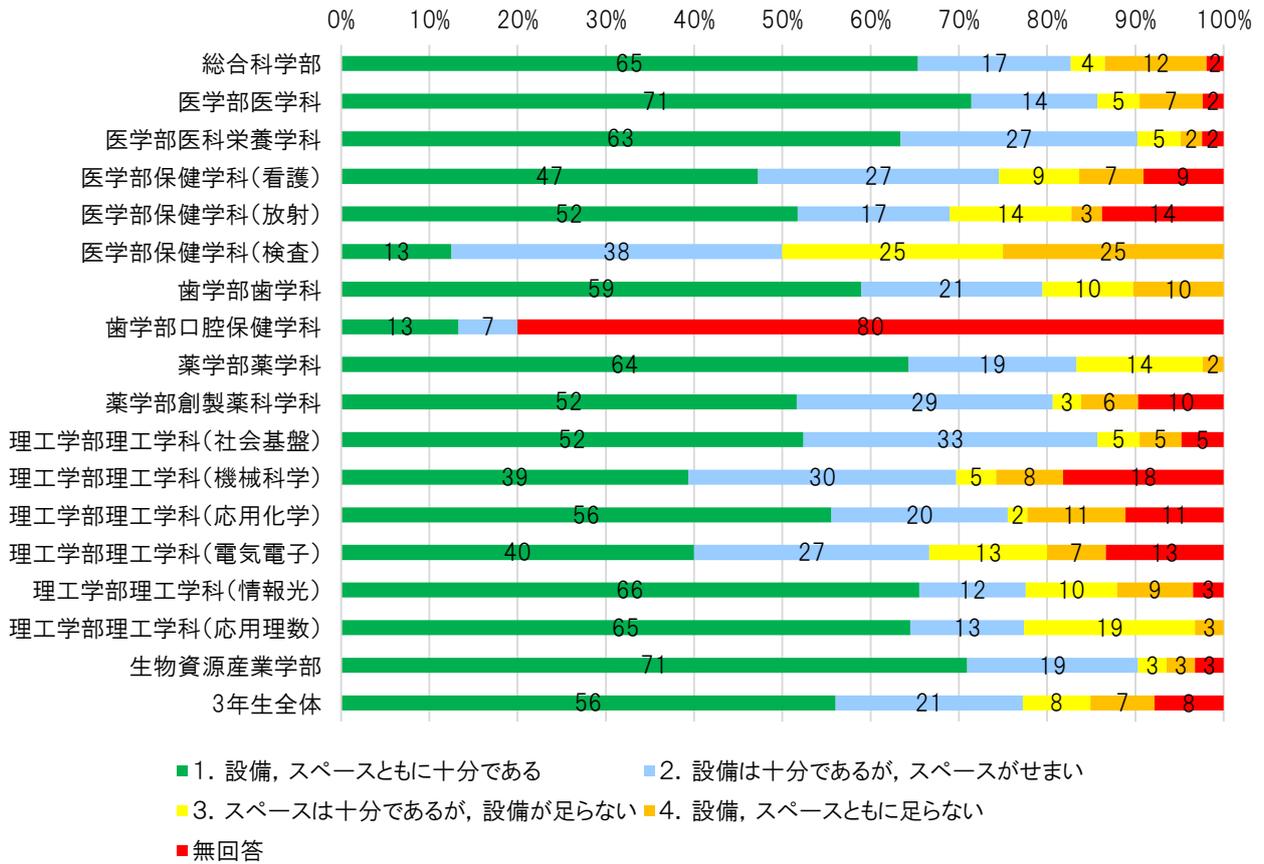
[122]卒業研究, 医学研究実習(医学科), 看護研究(保健学科看護学専攻), 研究基礎ゼミ(歯学科)の研究
室をどういう基準で決めましたか。(複数回答可)



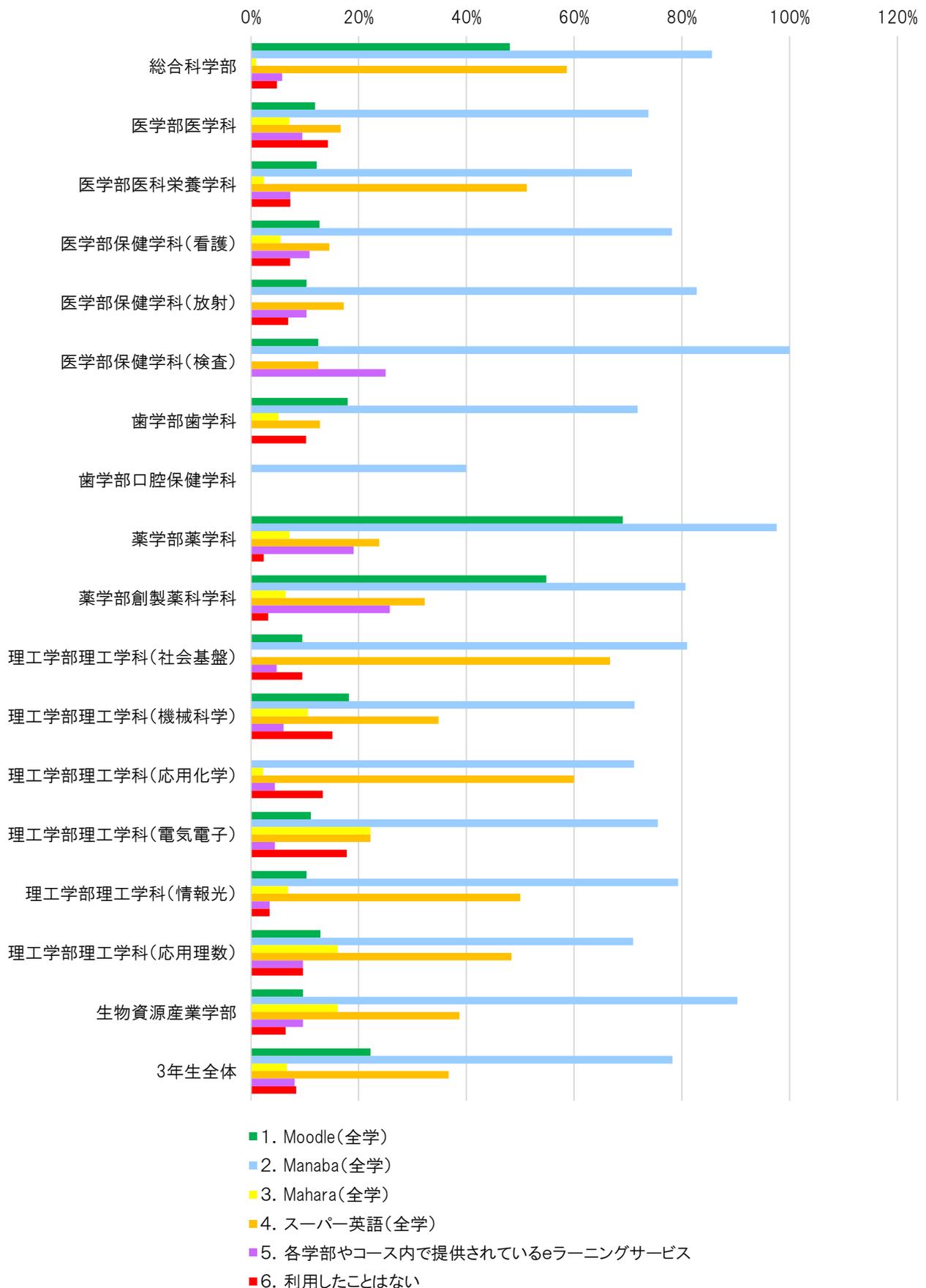
[123]卒業研究, 医学研究実習(医学科), 看護研究(保健学科看護学専攻), 研究基礎ゼミ(歯学科)によつて何が得られると思いますか。(複数回答可)



[124]研究を進めるための設備,スペースは確保されていますか。

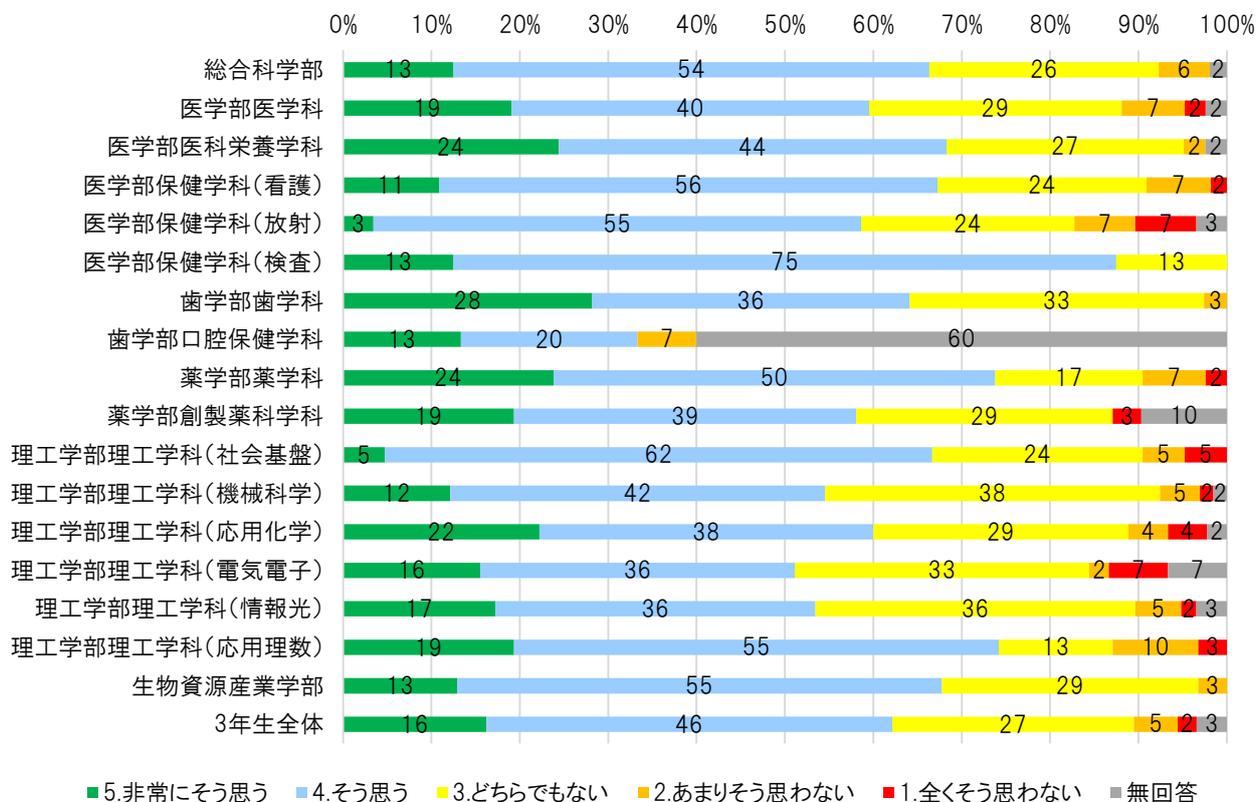


[125]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)。

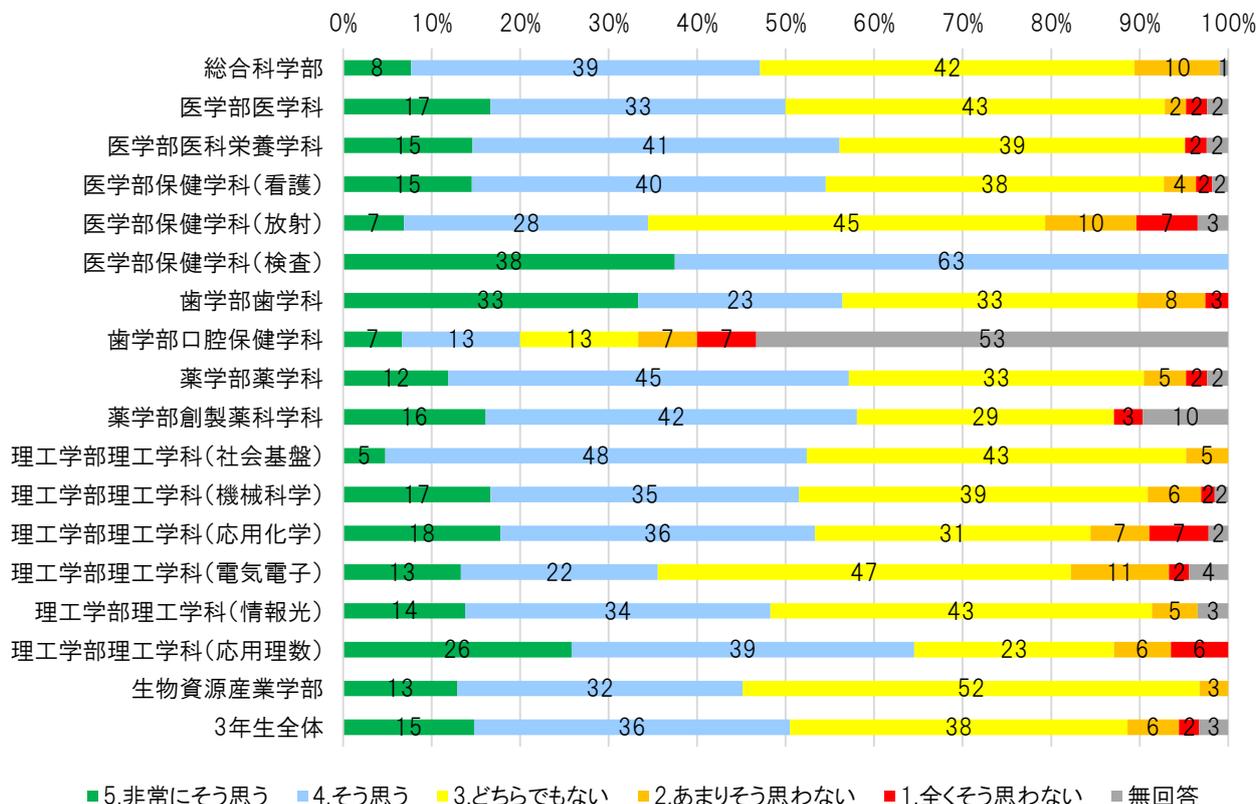


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[126]本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

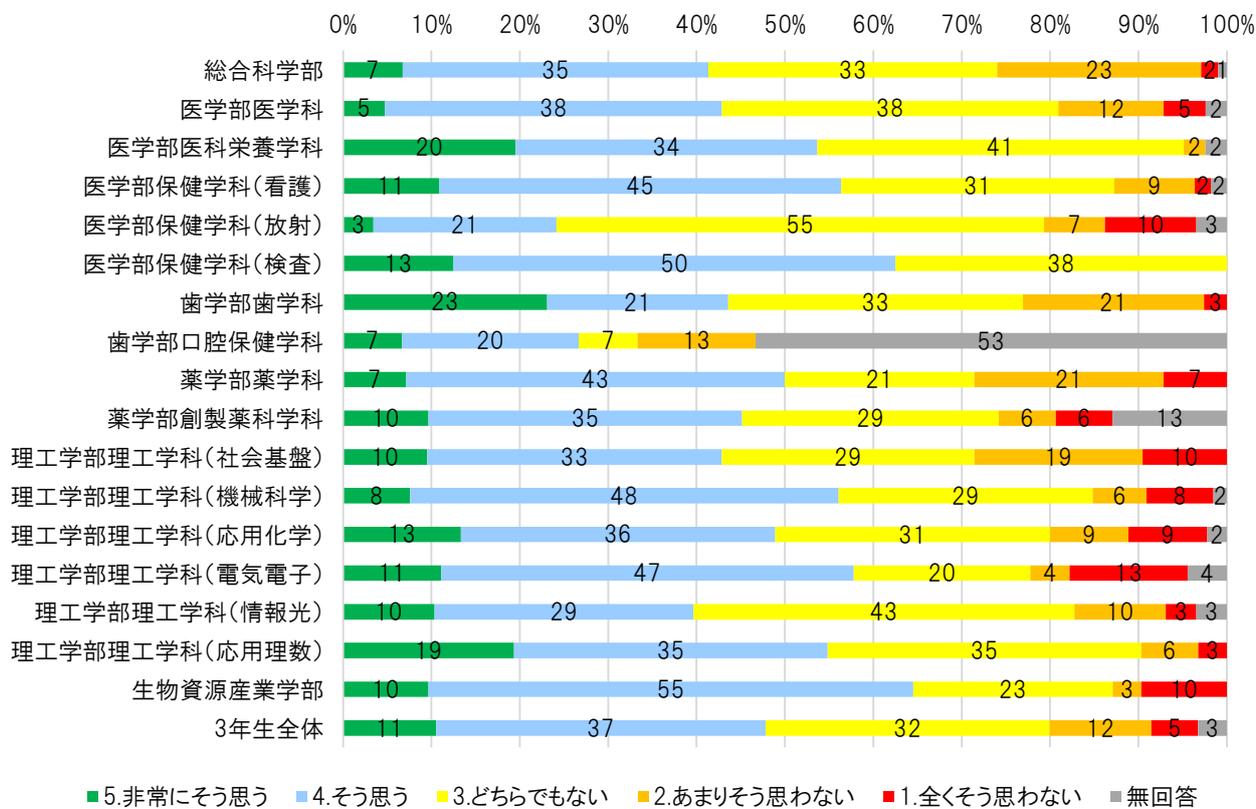


[127]本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

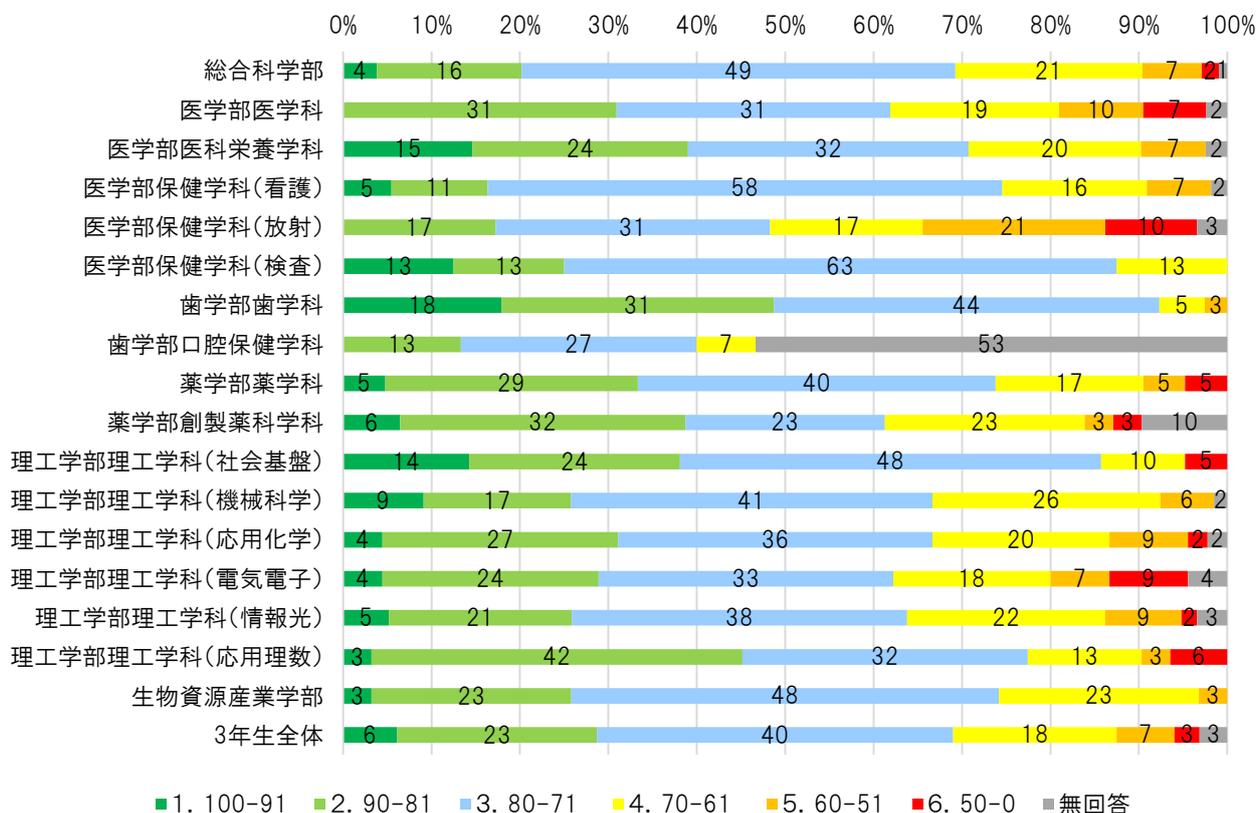


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。
この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

〔128〕「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である

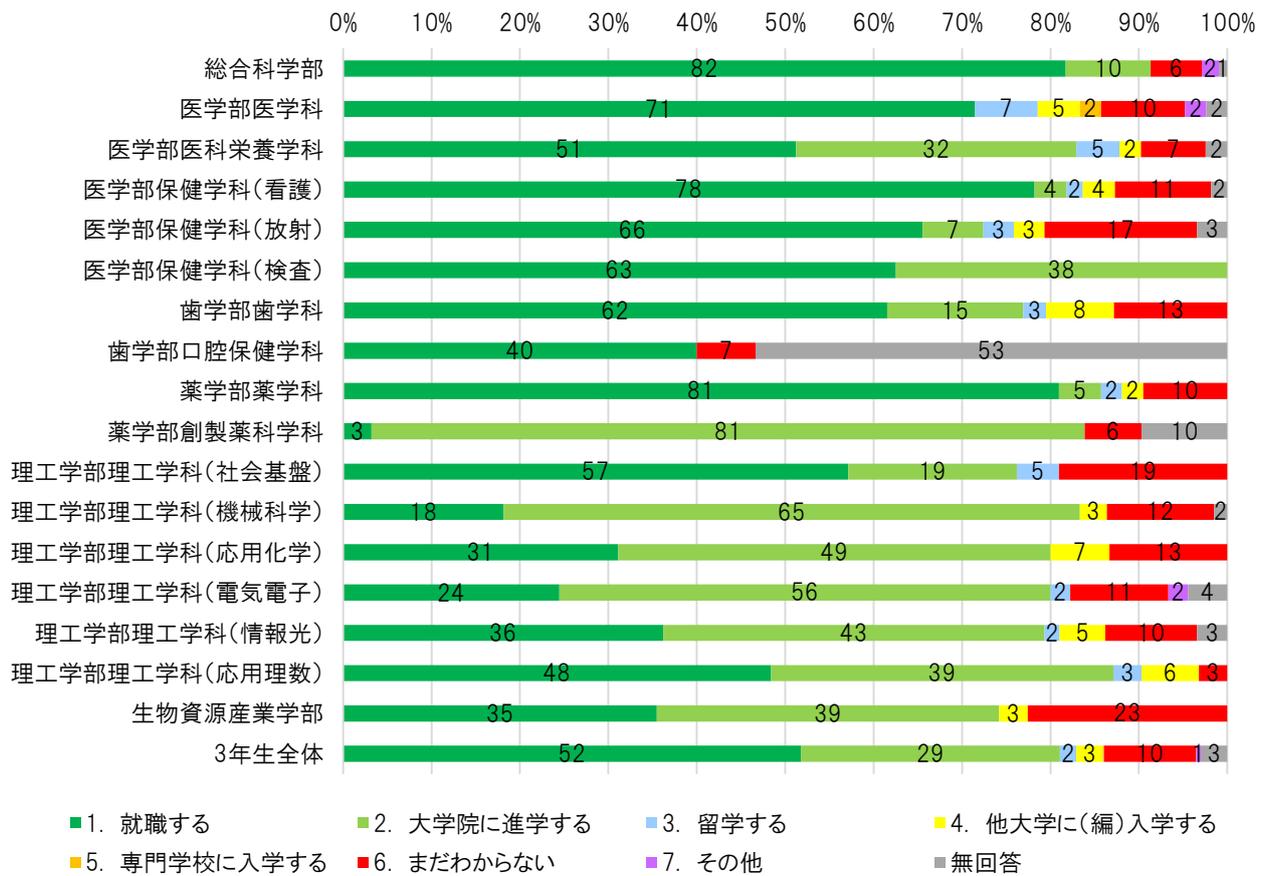


〔129〕大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

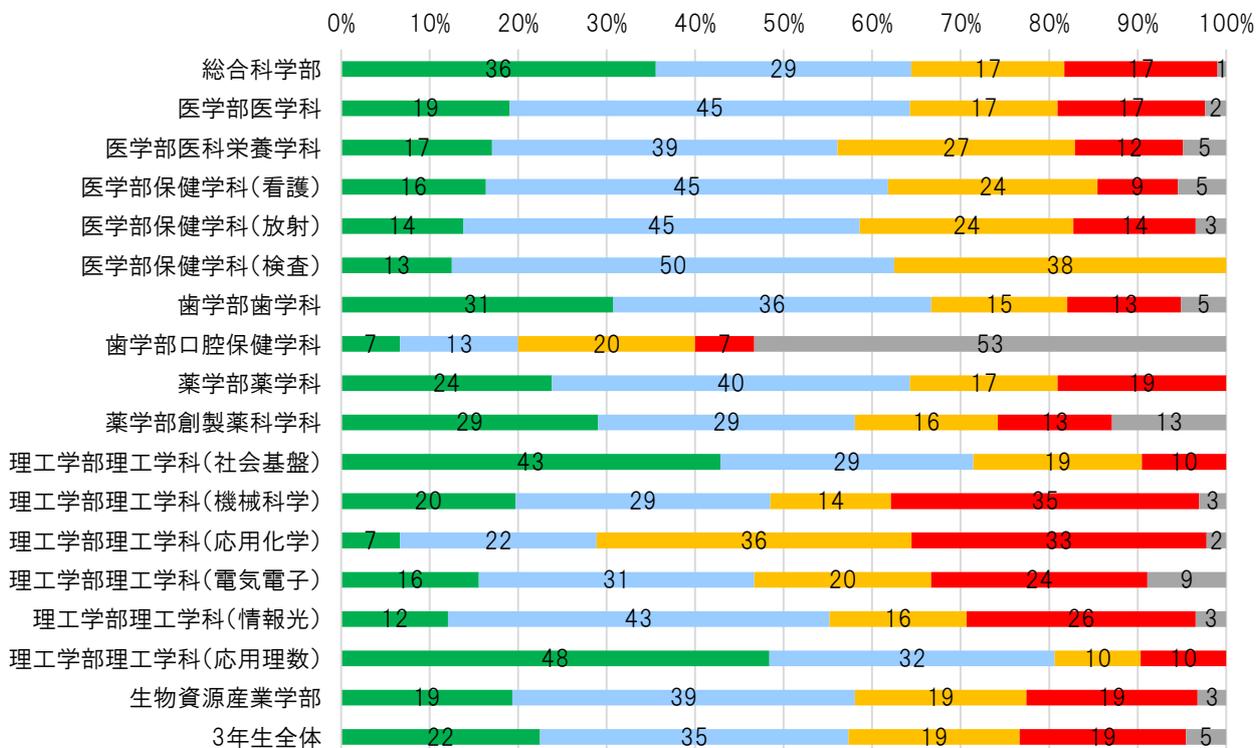
[130]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[131] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。

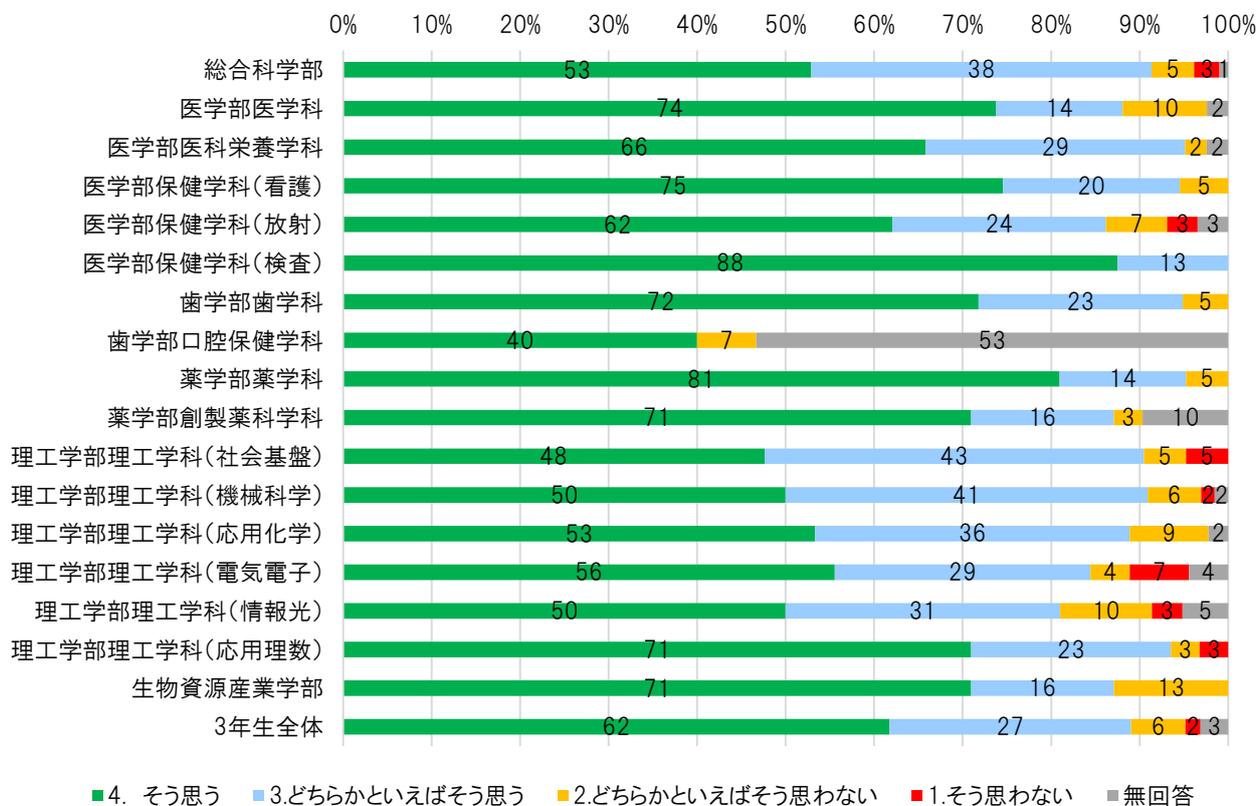
・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



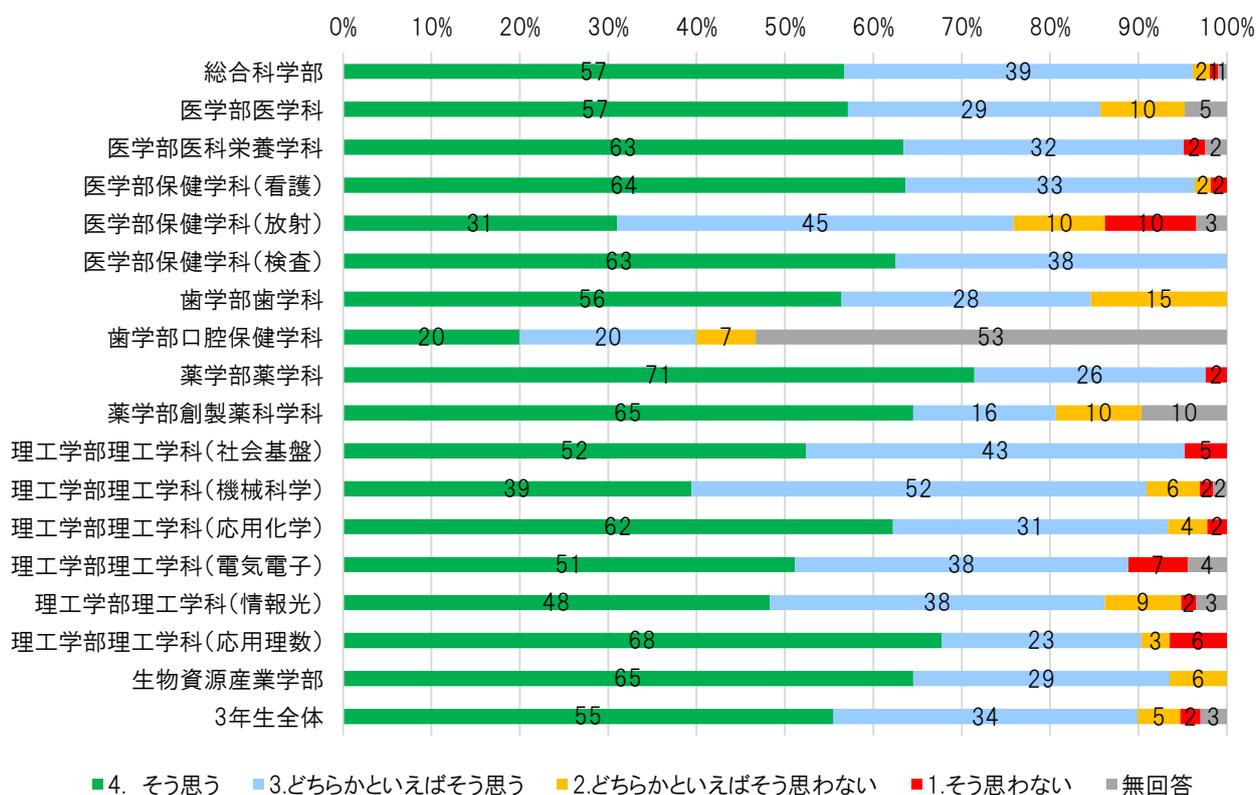
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

あなたが大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

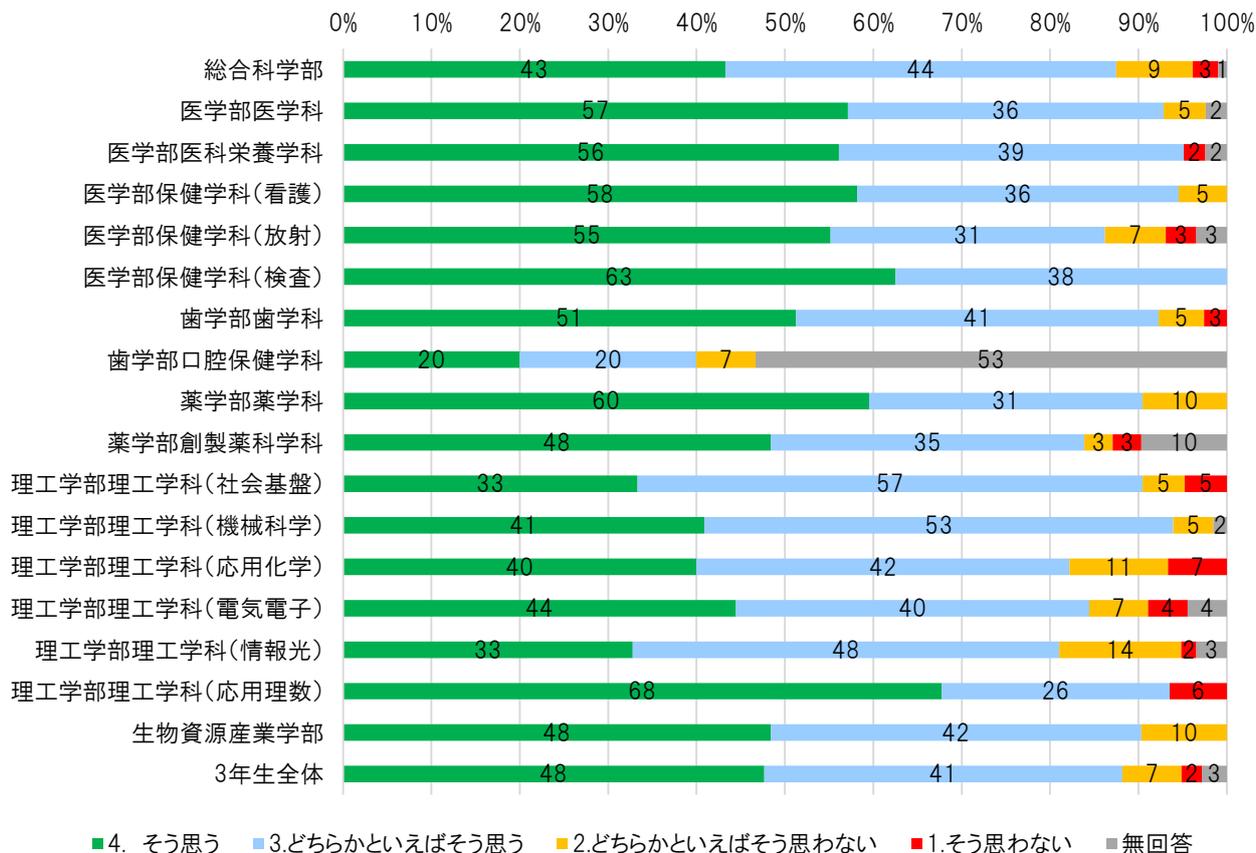
[132] 専門分野をしっかり身につける



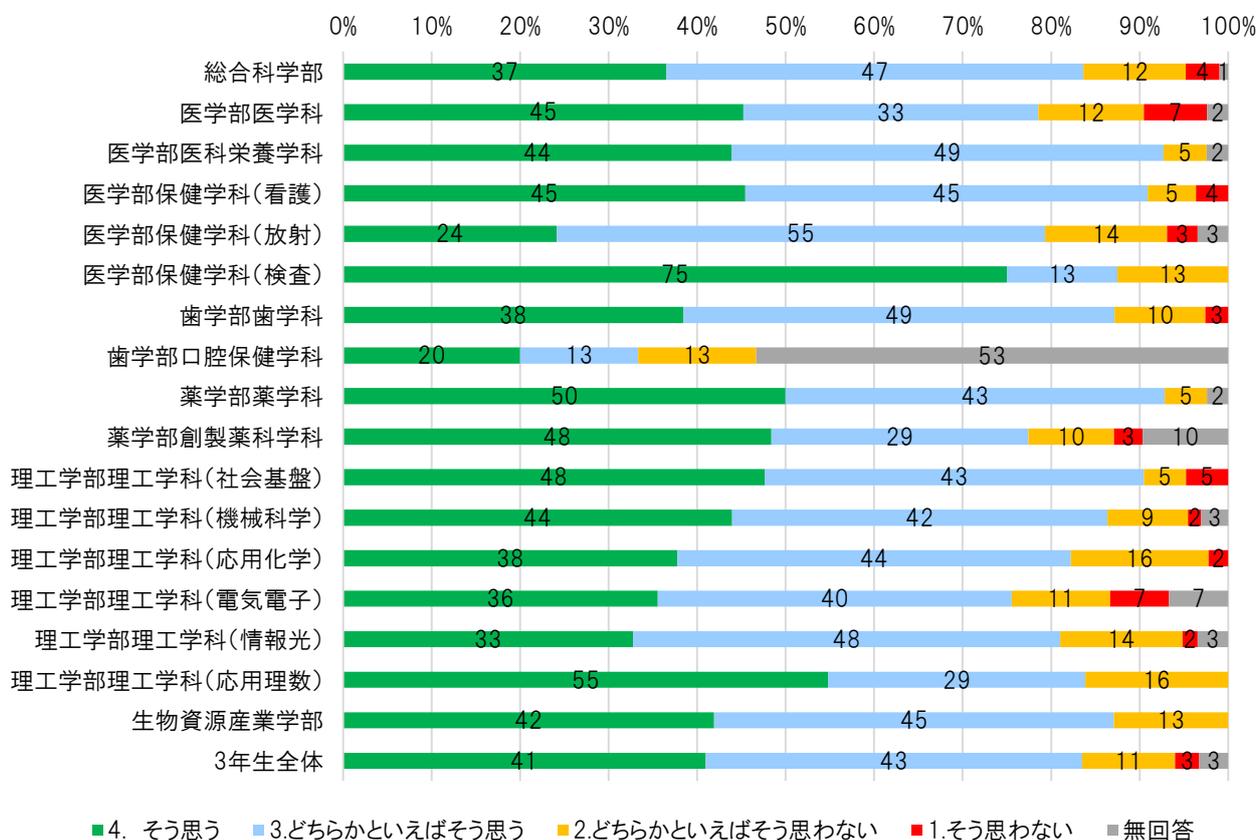
[133] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる



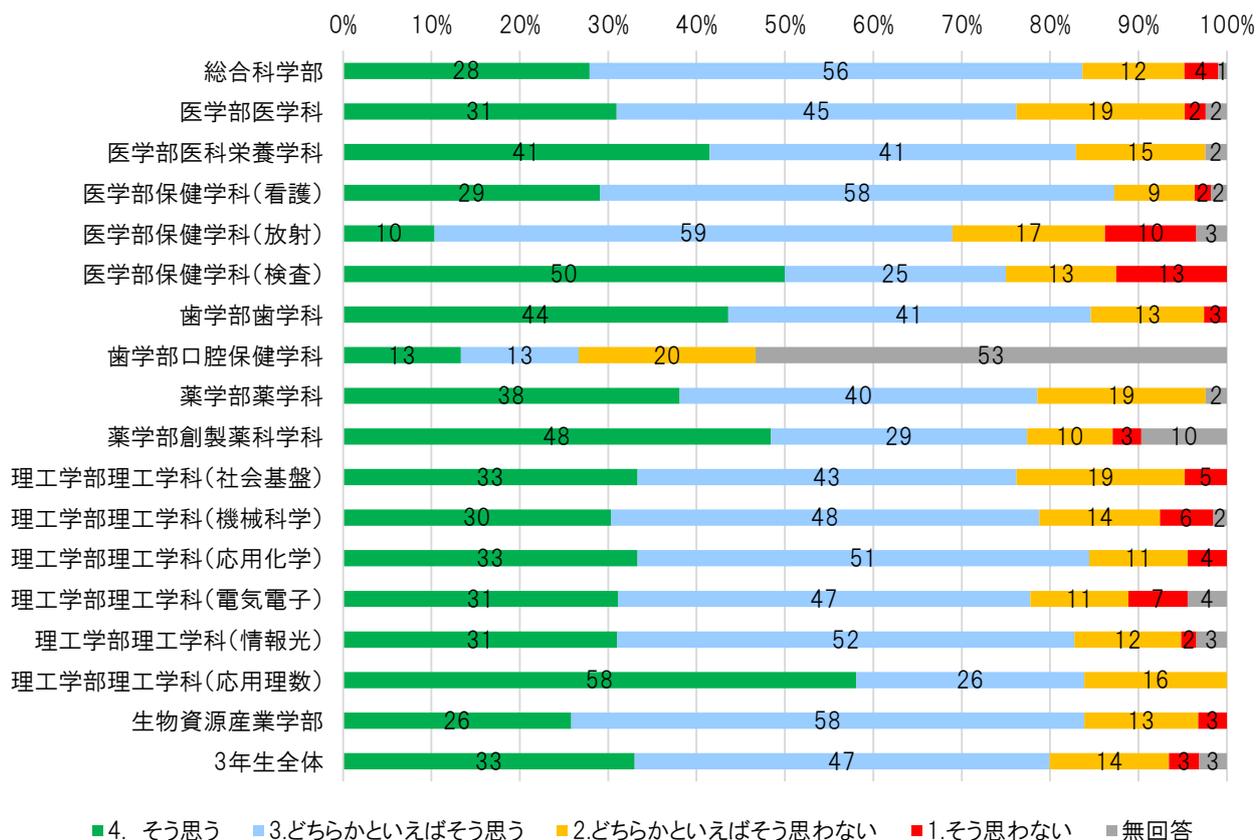
[134]就職意識の形成につながる教育を受ける



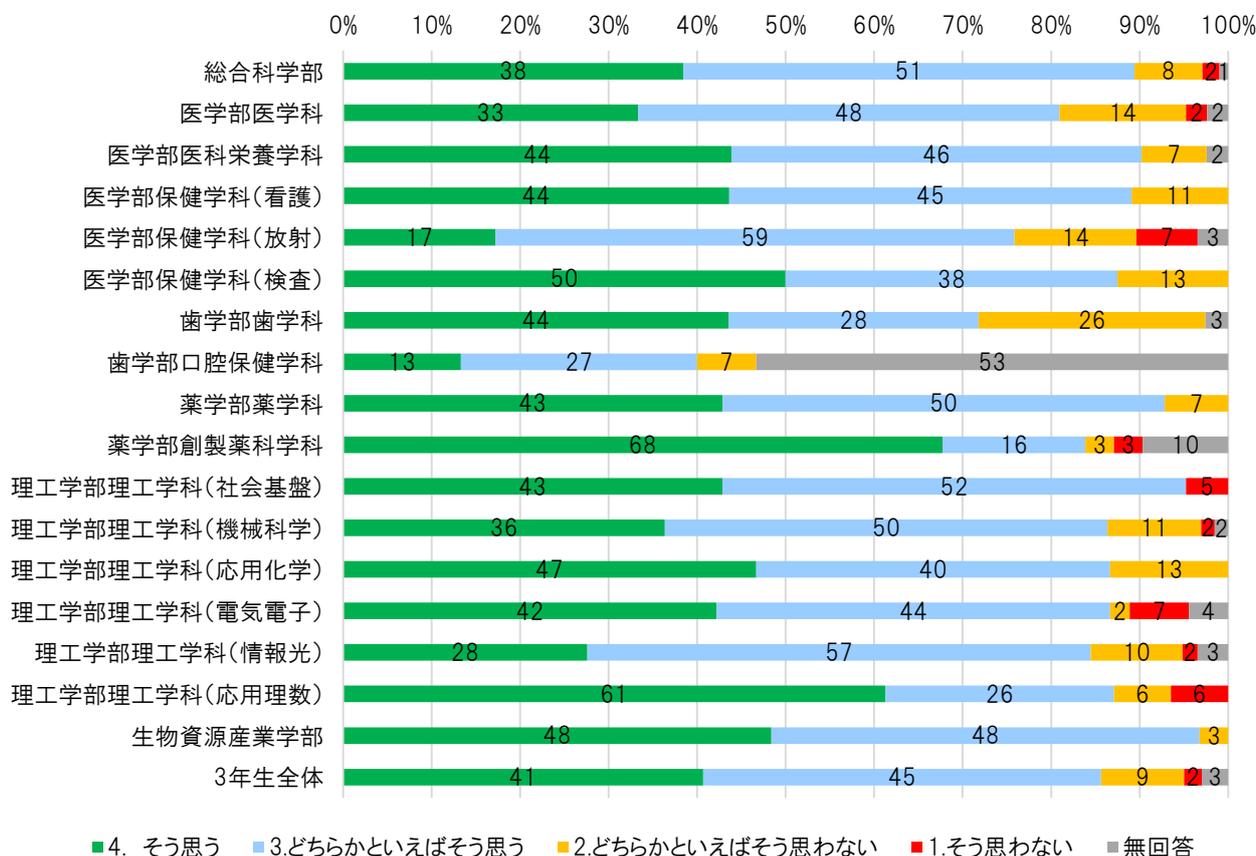
[135]企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ



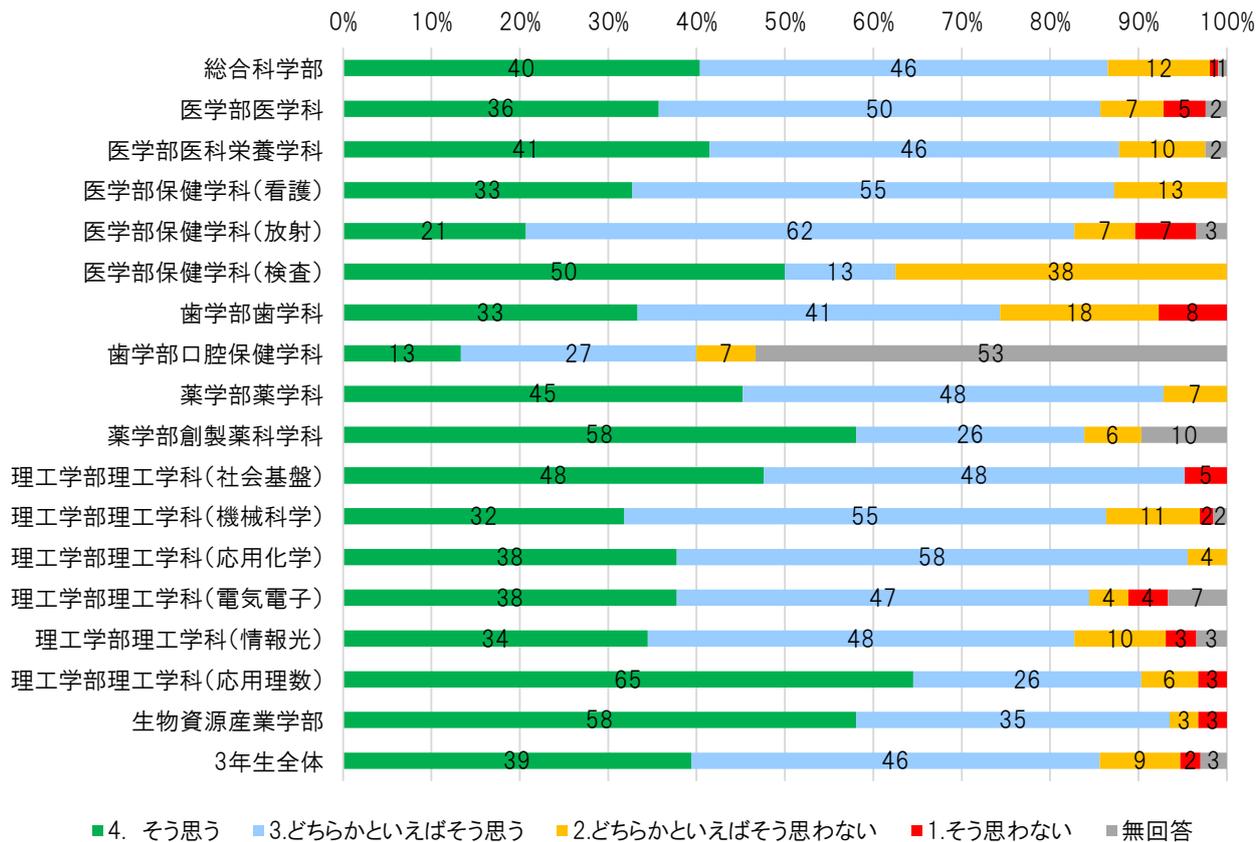
[136] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける



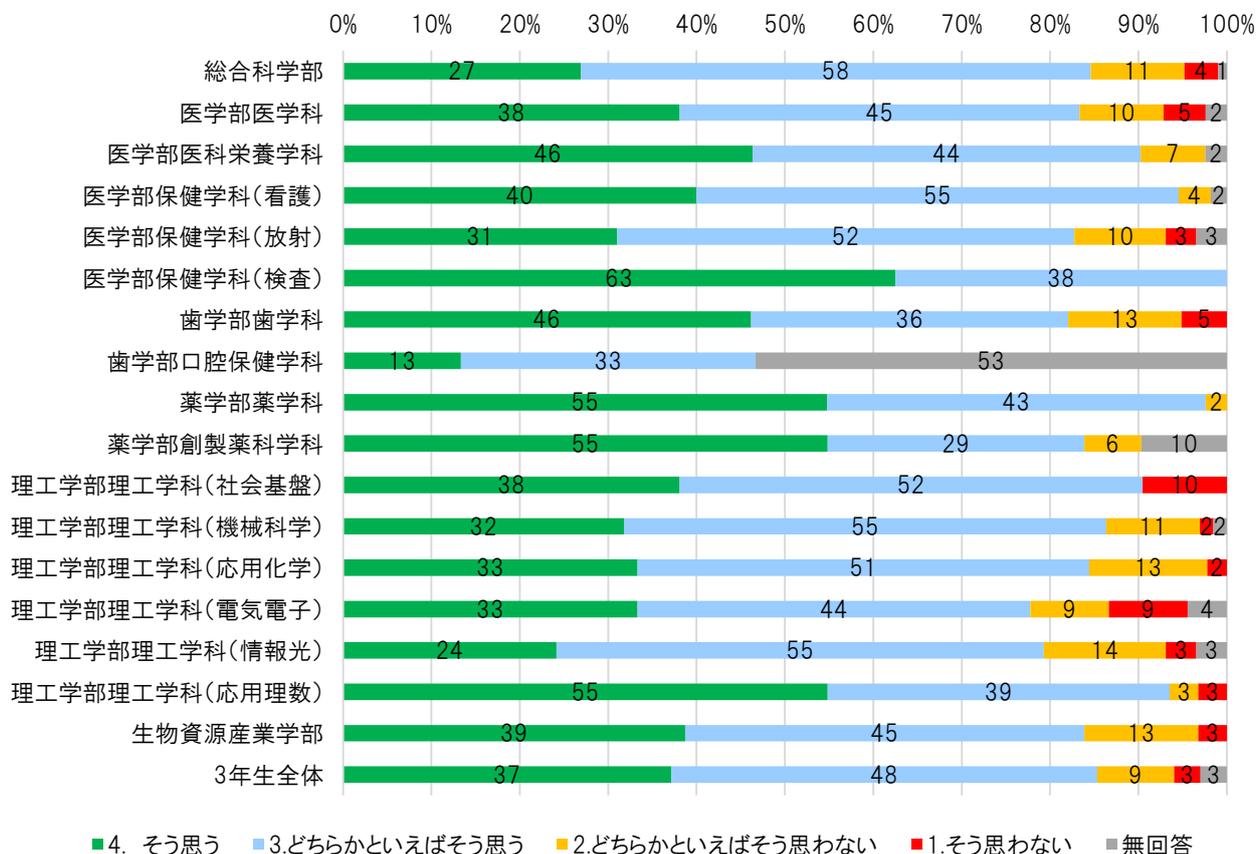
[137] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける



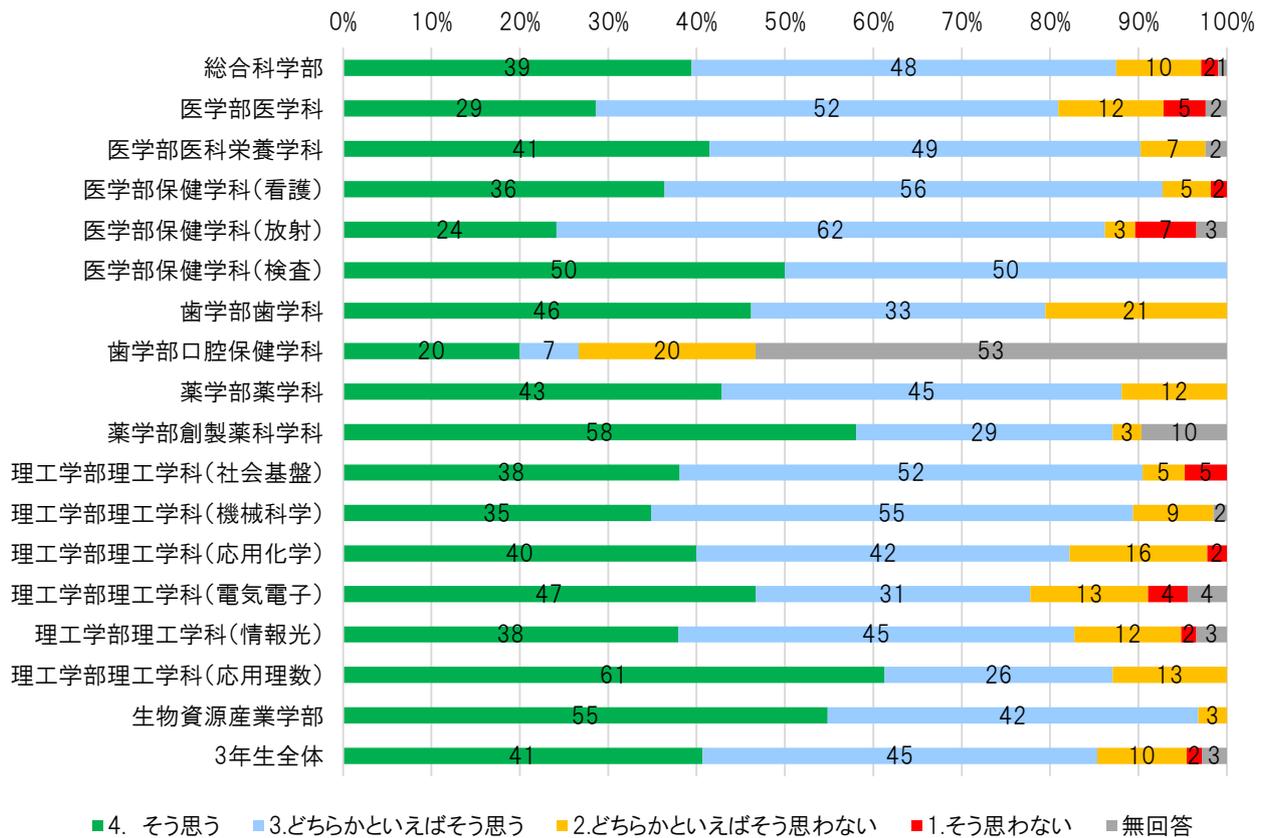
[138]ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける



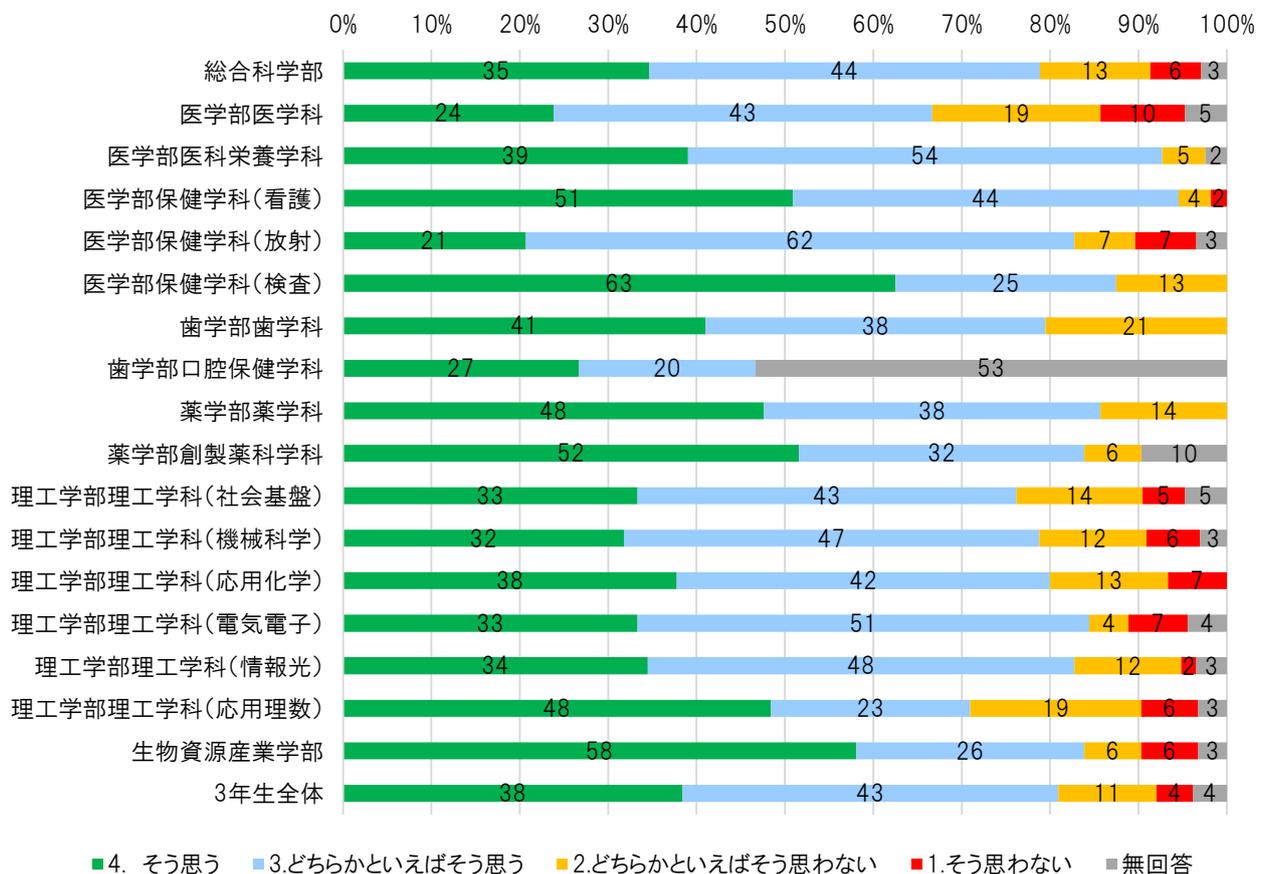
[139]実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける



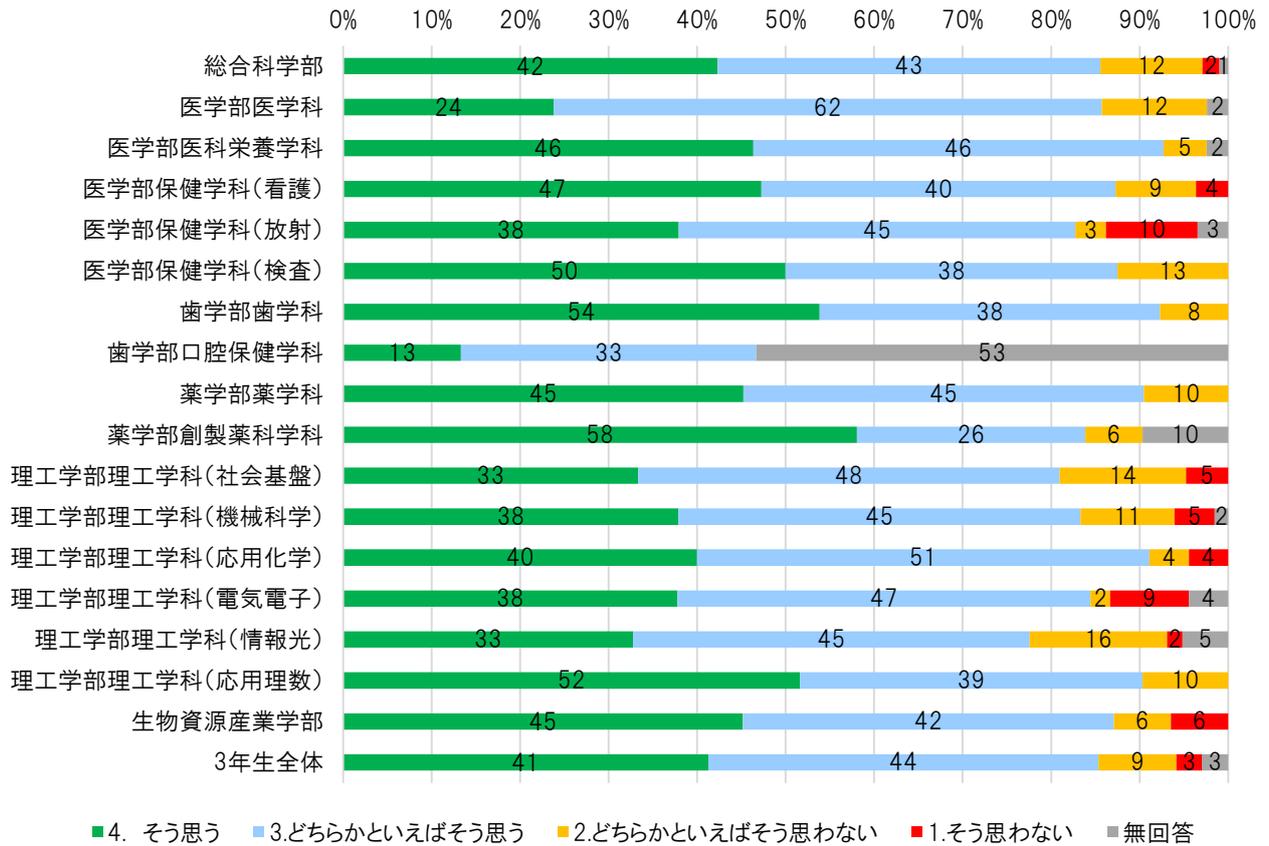
[140]レポートや論文指導により、文章作成能力を高める



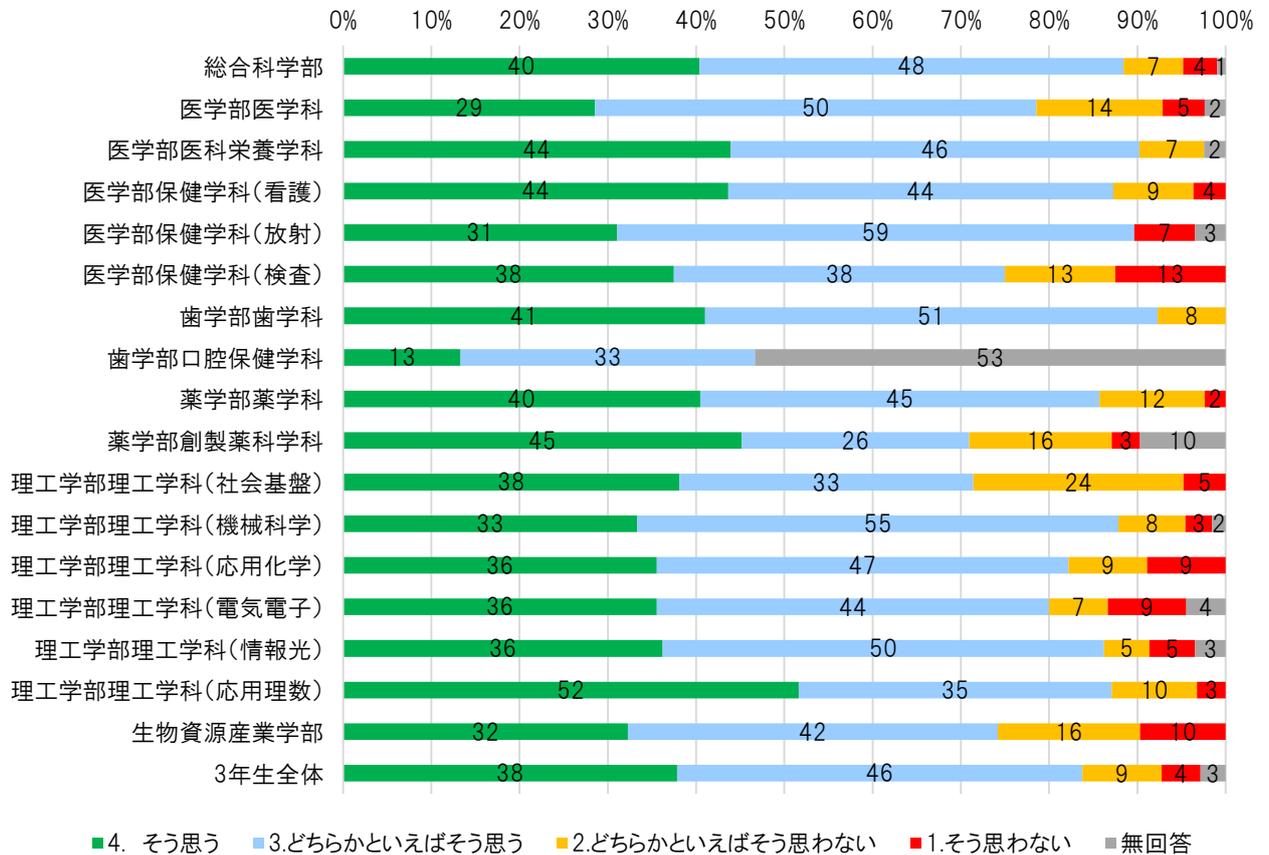
[141]卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する



[142]卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする



[143]本学の教職員以外の大人と話をする



第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部

今回の調査ではアンケート回答率が1年生56.6%（昨年72.4%）、3年生56.8%（昨年55.1%）であり、1年生の回答率の低さが目立った。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の2年目の年であり、学生・教員ともに遠隔授業の習熟度も上がったと想定されるが、果たして良好な成果を上げることができたのだろうか？

（設問4）「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」機会がどれくらいあったかを問うた設問において、体験的な学びの経験が「頻繁にあった」と「ときどきあった」を併せて1年生15%（昨年度12%）、3年生52%（昨年度57%）であった。我々総合科学部の実践的な学習、地域社会との協働は1年生より徐々に増加する。特に地域創成コースの学生（1学年の内、大体4分の1）はこれらの学習を重視している。この点を踏まえれば、3年生の約半数の学生が何らかの形で体験的な学びに触れているというのは妥当と言えるだろう。

学生自身による文献調査（設問8）や定期的な小テスト・レポートを体験したか（設問9）については、「ひんぱんにあった」と回答した割合は、1年生で一昨年42%から昨年64%へ、3年生で46%から60%へと新型コロナウイルスの感染拡大の下で大きく数字を伸ばしていた。これは今回の調査においても1年生63%、3年生同じく63%と前年と同程度の数字を示した。これは遠隔授業導入による日々の課題取り組みが学生に定着していることを表している。「授業をつまらなく感じた」（設問28）ことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答した1年生の割合が一昨年76%、昨年64%、今年度63%と僅かながら改善した。

感染症による入構制限の影響としては、図書館の利用（設問20）や部活動への参加（設問38）などにおいて、「まったくなかった」「全然ない」の割合（1年生では、図書館で一昨年5%、昨年33%、今年42%、部活動で一昨年23%、昨年44%、今年44%）となって明確に表れている。特に図書館利用の低迷は深刻と言えるだろう。その一方、「授業課題のためにWeb上の情報を利用した」（設問21）、「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」（設問22）では、1、3年生ともに一昨年から昨年に増加した傾向をそのまま反映し、今年も9割以上の学生が何らかの形で携わっている。また「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」（設問35）では、2時間以下の割合が1年生で前回調査の一昨年約40%から昨年約19%、今年4%以下へ、3年生でも約50%から約30%へ、更に今年12%へと大きく減少した。自学自習の習慣づけについてはこの2年の変化は良好なものと評価できる。

しかし一方で人と人とのつながりの希薄化は前年の傾向を引き継いだと言える。これは特に1年生にとって深刻な問題である。「大学教員と顔見知りになる」（設問82）は一昨年31%、昨年21%の学生が「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」と解答した。今年度は17%と昨年よりもさらに数字を下げた。「他の学生との友情を深める」（設問83）も同様である。「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」は一昨年82%、昨年51%、そして今年度は45%である。総合科学部では一昨年から昨年の反省を踏まえweb懇親会などの企画を設けたにもかかわらずうまく機能しなかったようだ。「あなたの学生生活は充実していますか」（設問87）における「充実している」「まあまあ充実している」は一昨年の81%から昨年49%へと下落していたが、今年度は63%へと回復した。この改善（それでもパンデミック前の数字は回復していない）は、我々の取り組みが奏功したといえるのだろうか。判断はできないが、学生個人の諦観によるものではないのだろうか。3年生に至っては19%の学生しか充実感を覚えていないのである。

授業の在り方に関連した要素としては、以下も注意が必要である。「授業中に学生同士で議論する」（設問12）では「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答が1年生で86%、3年生で同じく86%であり、前回調査時（70%、86%）と変わらず高い割合を示しているが、特に1年生の増加が顕著である。これは各教員がグループワークを積極的に導入したことによるだろう。例年では1年生と3年生で差が大きくなる「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」（設問24）に関しては、1年生は「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答

が一昨年 16%、昨年 52%、今回同じく 52%となっている（3年生は一昨年 67%、昨年 61%、今回 76%）。しかし前述の通り設問 83 に基づく友情の深化はむしろ数値を下げている点には注意が必要である。授業でのつながりはできても、これが友人関係には転化していないという姿が浮き彫りになる。

授業時間外学修についての問い（設問 35）では、1 年生では「週 1 時間～5 時間」が一昨年 70%、昨年 38%から 49%と推移した。3 年生は一昨年 51%、昨年 53%、今年 61%である。1 年生の場合は昨年の遠隔授業導入で大量の課題をこなさねばならなくなったのが、今回やや課題の強度が緩和したことによると考えられる。しかし学年を経るごとに授業時間外学修が減少していく結果はこれまでと共通しており、1 年生の段階から授業外学修時間を促す学修指導が重要である。

大学における教育に対する期待（設問 62）や、大学の教育によって獲得が期待できる知識や能力（設問 63）に関して複数回答可で問うた設問について、1 年生と 3 年生ともに「社会で役立つ知識、教養」「人生を支える幅広い教養」に期待する傾向が一致していた。求める知識については 1 年生が「一般的な教養」を、3 年生は「専門的知識」を選ぶ学生が多い。これは就職が視野に入ってくる中での変化と言えるだろう。

異文化理解につながる外国語の修得や留学については、総合科学部で特に重視している学修である。語学マイレージプログラムが語学能力の向上に果たした影響は確かに感得される。それに関連した一連の問い（設問 69～76）では、聞く、読む、話す、書く技能におけるそれぞれの到達レベルについて、1 年生については入学後から後期までの間にわずかながらも概ね上昇をみせている。一方 3 年生では、一部の学生の成長が看取できるが、英語学習を放棄し到達したレベルの自己評価も低い学生の存在も否定できない。これはコースによる違いが主要因と思われる。国際教養コースは TOEIC の点数による 4 年生進級要件が他のコースより高い為、必然的に多くの時間を英語学習に注がざるをえない。一方、その他のコースはそもそも英語を苦手とする学生が選好する場合もあり、平均をとれば英語能力は低いと言える。コースによっては学年が上がるにつれて英語学習の機会が減少することも事実であり、いかに継続的な学びを実現するかが課題である。

2 医学部医学科

医学部医学科生の学修に対する現状と課題は下記の通りである。

アンケートの回収率について：

医学科全体のアンケート回収率は 50.6%（1 年生 62.8%、3 年生 37.5%）と例年に比して低い回収率であり、他学科に比較しても平均を下回っていた。コロナの影響で対面授業が制限され、調査の案内が対象者に十分に行き渡らなかつた可能性が推測される。回収率のさらなる向上のためには、調査の方法を見直すとともに、学生が納得する形でフィードバックを行うことと、自らの意見が徳島大学の教育改善にむけた PDCA サイクルの一環となることを学生自身が理解するための工夫が必要と考えられる。

大学入学後の学修状況について：

1 年生では実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ機会が「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」と回答している学生が 23%にとどまっている。コロナの影響で対面での実施が制限された影響が反映されていると推測されるが、学生自身が文献や資料を調べる機会や、教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する機会、授業中に学生同士が議論をするに「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」と回答している学生が 92%、81%、92%と高く、授業内容を理解できる科目の割合も 70%以上が 89%に上っている。遠隔授業の形態であっても教員からのフィードバックが有効に機能することで自己学習の機会や議論の機会が確保され、授業の理解がすすんだものと考えられる。その一方で、教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした学生は「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」を合わせても 12%と低く、教員に親近感を感じた学生も 35%にとどまっている。これらの項

目は3年生でも15%、28%と低く、学生が教職員に気軽に相談できる環境の整備が急務である。

授業時間以外に課題や予習、復習に11時間以上を費やしている学生は、1年生では24%、3年生では31%おり、学年進行によって予習・復習習慣が定着している傾向が見られる。その一方で、1年生、3年生ともに予習・復習時間が絶対的に不足している学生が一定数おり、成績不振の一因になっていると推測される。授業に関連しない勉強や、部活動、アルバイト、読書、個人的な趣味活動などに多くの時間を費やす学生も認められるが、学習時間の不足との因果関係はアンケートから読み取れない。学習時間が不足している学生については面談などで早い段階からの個別対応が必要と考えられる。

1年生では入学時と比べて分析力や問題解決能力、批判的に考える能力、地域社会が直面する問題を理解する能力が大きく増えた、増えたと回答する学生がそれぞれ62%、59%、42%であるが、医学研究実習や社会医学実習などを経験した3年生でも65%、58%、36%とほとんど変化がみられない。コロナの影響でさまざまな実習機会が制限され、本来の目的が十分に達成できていない可能性も考えられることから、実習内容の振り返りや検証が必要である。

医学科の卒業時コンピテンスであるコミュニケーション能力に関連しては、他の人と協力して物事を遂行する能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは1年生68%、3年生50%であるが、人間関係を構築する能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは1年生52%、3年生41%、コミュニケーションの能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは1年生51%、3年生45%にとどまっており、低学年の間にコミュニケーション能力を涵養するための十分な機会が確保できていないと推測される。入学後、早い段階から同僚や他の医療職メンバーと信頼関係を築くことができるような実習の機会を増やしていく必要がある。

高校で履修していない科目に支障を感じた場合、90%以上の学生が自習や教養教育で開講されている科目、LMS等に対応しており、LMSの存在を知らないと回答している学生はいなかった。入学時のオリエンテーション等でLMSの周知や、自然科学入門等の受講を勧めている効果が表れていると考えられ、今後も丁寧な案内を継続する必要がある。

英語の学習状況：

聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれの項目も入学後から調査時までの向上が実感されていない。1年生、3年生ともに教養教育、専門教育で行われる英語教育において、現状では不十分と思っている学生が約6割おり、ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい、専門英語の時間を増やしてほしい、専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい、といった希望を持つ学生も多い。専門英語の医学研究実習や医学英語の拡充とともに、教養から専門、卒業まで一貫した英語教育のカリキュラム整備が必要と考えられる。

大学生活に対する満足度：

大学教員の学問的な期待を理解できないと感じている学生が1年生33%、3年生45%と一定数存在しており、教員の意図するところが学生が正しく理解できていないケースが見受けられる。大学教員と顔見知りになる、との間に対して、あまりうまくいかなかった、まったくうまくいかなかったとの回答が1年生で80%にのぼっており、対面授業が減ったことで、学生に教員との距離感が生じていると推測される。オンラインによる講義や実習でも学生と教員の双方向性を確保し、教員の意図するところが学生に分かりやすく伝える努力が必要である。将来の仕事と授業内容との結びつきに、「とても満足」、「満足」と回答しているものは1年生で70%と高く、SIH道場等で早い段階から医療への意識付けを行ってきた効果が出ているものと思われる。

日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し、向上を図っているという問いに、「非常にそう思う」「そう思う」と回答したのは1年生49%、3年生48%と半分に満たず、省察が十分に習慣づけられていないと考えられる。

SIH 道場に始まり、年間を通じて省察の機会を何度も設けていくことが重要である。

クラス担任制度に「とても満足」、「満足」と応えている学生は1年生25%、3年生23%と約1/4にとどまっている。クラス担任は1、2年生を基礎の教員が、3年生を研究室配属の教員が担当しているが、教員によって学生との対応や交流の頻度が異なっており、学生の希望を十分に汲み上げられていない可能性がある。様々な悩みを抱えている学生が一定数おり、学生の状況を迅速かつ適切に把握できるような担任制度の見直しが必要と考えられる。大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか、との問いに70点以上を付ける学生は1年生で75%であるが、3年生では62%と下がっており、60点以下と回答した学生が17%に上る。他学科に比較して2年生、3年生の授業の過密化が不満の一因と推測され、水平・垂直統合の推進と合わせてカリキュラムの見直しが必要と考えられる。

将来のことについて：

学部卒業後に大学院進学を希望しているものが1年生では13%と比較的高いのに対し、3年生では0%と激減している。学年が上がり専門医志向が強まる一方で、研究の魅力や大学院進学の意味が学生に十分に伝わっていないと考えられ、Student Lab 活動や医学研究実習のさらなる充実が必要である。医学研究実習では理工学部など受け入れ先の選択肢を増やし、学生の希望に沿った研究が行えるよう環境整備がすすめられている。医学科では研究志向をもつ学生を将来の研究医枠として選抜しており、これらの学生が入学後に Student Lab 活動などで早期から集中して医学研究に携わる機会をもてるような制度整備も必要である。

3年生になっても、将来の見通しを持っていない、あるいは将来の見通しを持っていても何をすべきかわからない、という学生が34%おり、学生のキャリア形成に対する具体的なアドバイスの継続が必要と思われる。卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談すると回答している学生が67%にとどまっている一方で、本学の卒業生や先輩と話をすると回答は84%と高いことから、低学年から先輩医師によるメンター制度を導入することも有効と考えられる。

3 医学部医科栄養学科

医学部医科栄養学科の学修に関する現状と課題は次の通りである。

1年次には「実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」、「学生が自分の考えや研究を発表する」、「授業中に学生同士が議論をする」について「ひんぱんにあった」と回答したものは、それぞれ9%、7%、4%、13%であったが、3年次では、61%、49%、41%、24%であった。授業内容の理解の促進につながる方法については、1年生では、課題演習、振り返り、グループワーク 反転授業を挙げており、3年生では、課題演習、質疑応答、振り返りを挙げている。1年次では、自分の考え・研究を発表することや、議論をする機会が少ないが、専門課程の教育では、演習や実習などが増えることが、そのような機会の増加に寄与している。授業時間外の授業課題や準備学習、復習をする時間についても、1週間あたり11時間以上と回答したものは1年次で8%に対し、3年次では19%であった。1年次、3年次ともに授業時間外学習時間は昨年度の調査より半減しており、授業時間外の学習量の低下が懸念される。また、「提出期限までに授業課題を完成できなかった」、「授業をつまらなく感じた」ことが「ひんぱんにあった」とするものは、1年次で4%、13%、3年次では10%、12%であり、いずれも昨年度の調査よりも増加しており、学習意欲の低下が懸念される。

教員との関係性については、「教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」、「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」、「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」といった項目に関して利用頻度が低い。しかしながら、1年次に比べ3年次では頻度が増加しており、学年が進むにつれ専門科目の学習や進路について教員に相談する機会を求めていることがうかがえる。「キャリアカウンセリング」や「クラス担任制度」についても満足度が低い傾向にある。しかしながら、これらの項目については令和2年度の調査と比較すると、多く

の点で改善傾向にあり、令和3年度は、令和2年度に引き続き、COVID-19感染拡大の影響があったものの、2年目ということで教職員・学生のいずれもが対応に慣れてきたことが影響していると思われる。

入学後に変化した能力や知識に関しては、「専門分野や学科の知識」、「コンピュータの操作能力」の項目で1年次および3年次の9割程度の学生が増えたと回答している。「分析力や問題解決能力」、「プレゼンテーションの能力」、「卒業後に就職するための準備の度合い」については、1年次と比較して3年次の学生で増えたと回答した者が大幅に増加している。これは、専門教育の効果によるものと考えられる。一方で、「外国語の運用能力」は1年次よりも3年次で増えたと回答した者が半減しており、外国語に関する教育の継続が課題である。

英語の学習状況に関しては、1年次では「聞く力」、「読む力」、「会話力」、「表現力」、「書く」のいずれも、入学前と現在で概ね自己評価は変わっていないが、3年次では1年次と比べて概ね大きく低下している。昨年の調査でも同様の傾向であったため、学年が進むにつれて自己評価が低下する傾向にある。徳島大学における英語教育については、いずれの学年においても「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」と回答している割合が半数と最も多いが、3年次では「専門英語の時間を増やしてほしい」と回答しているものが1年次よりも多い。令和2年度入学者からは「栄養英語」が必修になっており、次回以降の調査での評価に期待したい。

大学生活に対する考えや満足度に関しては、おおむねうまくいっているとの回答が多かった。しかしながら、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」、「SIH道場の授業」、「教員と話をする機会」、「学習支援や個別の学習指導」といった項目で満足度が低いのは今後の課題と思われる。特に、1年次でこれらの項目の満足度が低い。SIH道場で学んだ内容では、専門分野の体験学習がもっとも役に立つと回答しており、9月に実施している早期研究室体験は満足度が高いと評価されている。

本学の施設や学生支援制度に関しては、「レクリエーション施設」、「キャリアカウンセリング」といった項目で満足度が大きく過半数を割っていた。「カリキュラムマップ」や「ナンバリング」について「知っており、見たことがある」と回答した者は、1年次で24%と37%、3年次では27%と22%といずれも前回調査よりも大幅に増加していたが、依然として低いため、引き続き活用について周知する必要がある。卒業研究に関しては、研究を進めるための設備、スペースともに十分だと評価している学生は71%であった。Eラーニングサービスは、役立っているとするものが1年次で74%、3年次で68%であった。

大学教育全体の満足度としては、約9割の学生が60点以上をつけていた。

学部卒業後の進路については、1年次の調査では41%が就職、22%が進学であったが、3年次の調査では51%が就職、32%が進学であった。学年が進むにつれて、進路が明確になってきている様子がうかがえる。前回調査で進学者が減ってきている傾向にあったが、下げ止まっているように思われる。引き続き、注視したい。

4 医学部保健学科

保健学科学生の学修に関する現状と課題は次の通りである。

将来の仕事と授業内容の結びつきに対して「とても満足」「満足」と答えた学科平均の割合は、1年生で84%、3年生で75%と全学平均の約6割と比べて比較的高い(設問93)。大学教育に対して、学生の多くは「社会に出たときに役に立つ知識・技術・技能」や「資格取得に必要な知識」が得られることに期待し(設問62)、大学で獲得を期待する知識・能力は、第一に「専門的知識」、次に「一般知識・教養」の割合が高く、続いて、看護学専攻では「コミュニケーション能力」、放射線技術科学専攻では「論理的な文章を書く能力」が挙げられている(設問63)。専門的学問だけでなく、教養や汎用的技能の修得に期待していることがわかる。実際、入学した時点と比べて大きく増えたと自己評価している能力や知識を3年生の回答でみる(設問42~61)と、特徴的に、看護学専攻では「リーダーシップの能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「コミュニケーションの能力」など、放射線技術科学専攻では「専門分野や学科の知識」「批判的に考える能力」「文

章表現の能力」「数理的な能力」「コンピュータの操作能力」など、検査技術科学専攻では「一般的な教養」「分析力や問題解決能力」「専門分野や学科の知識」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「数理的な能力」などが全学の平均より高い割合を示している。

授業内容の難易度が適切と答えた3年次学生は、看護学専攻89%、放射線技術科学専攻72%、検査技術科学専攻100%であり、看護学専攻と検査技術科学専攻は全学の79%より高い傾向にある（設問105）。難易度に関して特に問題は無いと考えられる。検査技術科学専攻の前回調査では、授業内容の水準をもっと高度にすべき、と答えた学生の割合が17%と高かったが、今回で変化がみられた。一方で、放射線技術科学専攻では、授業内容の水準をもっと易しくすべき、との回答割合が前回調査の6%から21%に増加した。さらに、授業内容が理解できる科目の割合が60%未満と回答した学生数も前回の3%から24%と大幅に高くなっている（設問18）。授業内容を理解できる科目の割合が80%以上と回答した3年生に着目すると、自身が1年次での2年前の調査では各専攻で共通に約2割であったが、今回の3年次調査では看護学専攻は3割、検査技術科学専攻は4割に増加しているのに対し、放射線技術科学専攻は3分の1に減少している。放射線技術科学専攻については、懇談会や個別の面談等を通して状況を把握する必要がある。授業内容の理解促進につながった授業方法として「課題演習」「振り返り」を挙げた学生が多い（設問19）。特徴的に、看護学専攻では「グループワーク」「ディスカッション」、検査技術科学専攻では「質疑応答」が高い割合になっている。アクティブ型授業を導入することで理解度を高める効果があることを明確に示している。

「将来の見通しを持ち、何をすべきかわかっている」と答えた1年次学生は7割で、全学の約5割と比べて割合が高い特徴を持つ（設問128）。最近数年間の調査結果と同様である。幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学直後に提示し、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行っており、取り組みの浸透結果が現れている。

授業時間外において、授業課題や準備学習・復習を6時間以上実施したのは、1年生では24～35%（前回は34～44%、前々回は7～19%）、3年生では43～63%（前回28～37%、前々回35～47%）（設問35）、授業に関連しない勉強を1時間以上行ったのは、1年生では30%（前回20～44%、前々回13～17%）、3年生では26～38%（前回43～56%、前々回18～44%）（設問36）に留まっている。大学生としての必要な学習時間の確保はまだ不十分である。ただし、前回の調査でコロナ禍以前と比べて学習時間が増加した傾向が今回の調査でも維持しているのは、遠隔授業により在宅時間が長くなったことが一因と考えられる。一方で、現在の自分の学修時間や学修態度に満足していない学生の割合は、1年生で21～36%（前回は28～55%、前々回は14～38%）、3年生で38～44%（前回17～31%、前々回6～35%）（設問86）あり、自発的な学修意欲を高める適切な指導が効果的であろう。シラバスを毎週または気になったときに確認している3年次学生は5～6割のみであり、ほとんどまたは全く見ていない学生が多い（設問121）。毎回の授業の予習・復習や自学自習の指示などをシラバスに明示して、教育改善に活用する工夫が求められる。

「SIH道場」で学んだ内容のうち、在学中の学修に役立っている項目は、看護学専攻では「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」、放射線技術科学専攻では「専門分野の体験学習」、検査技術科学専攻では「文章の書き方」が最も多く役立ったと回答している（設問103）。期待通りの項目が挙げられている。SIH道場で実施している取り組みについては在学中だけではなく卒業後調査を通じた効果の検証も必要であろう。

英語の学修では、大学で実施している英語教育で十分であると考えている保健学科学生が多い傾向にあるが、検査技術科学専攻では、前回調査と同様、専門英語の時間を増やしてほしいとの意見がある（設問76）。語学マイレージプログラムの導入による効果もあり、TOEFL受験対策の定期的な勉強などで英語学習を習慣付けたり（設問74）、スーパー英語などのeラーニングサービスを利用したりしている1年次学生が以前よりは増えている（設問125）が、英語学習方法の周知や学習相談を促す対応も必要であろう。

大学教育全体の満足度は全学の平均とほぼ同じであり、学生は教育に概ね満足していると考えられる（設問129）が、上述の個別の課題を解決させるなど、更なる学修活動の充実と教育課程・方法の改善を進める必要がある。

5 歯学部

はじめに：

昨年度と今年度の本調査において、2020年度の回答率は歯学科1年生61.0%、3年生75.0%、口腔保健学科歯学部1年生100%、3年生80.0%であり、2021年度の回答率は歯学科1年生68.4%、3年生92.9%、口腔保健学科歯学部1年生100%、3年生100%であった。今年度は、口腔保健学科では、1年生と3年生ともに100%の回答率であった。さらに、歯学科3年生も92.9%と高い回答率であった。しかしながら、歯学科1年生の回答率は68.4%であった。昨年度と同様に本年度も、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、対面講義・実習の制限や課外活動の停止など、学生とのコミュニケーションが取りづらい状況であったが、本年度はアンケートの回答率をあげるために、学生にコミュニケーションをとるように努力したため、昨年度より回答率が大幅に上昇した。今後は、歯学科1年次の回答率を上げることが課題である。特に歯学科では、1年次の学生と対面で話をする機会が少なく、この辺が十分に回答に導けなかった一つ原因と考えられる。また、口腔保健学科3年生ではアンケートの設問の多さからか、設問の途中から半数以上の学生が無回答であり、前年との比較などの分析が不可能である。次年度以降は、アンケートの回答法についても学生に指導する必要がある。

歯学部歯学科は2年前期までが教養課程であり、3年前期までが基礎医学教育、5年前期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5年後期から臨床実習、卒前に国家試験という流れである。したがって、本アンケートの時点では、まだ基礎医学教育が終わった段階で、将来的な展望がまだ見えていない段階にいる。一方、口腔保健学科は1年次に教養教育を終えるが、すでに基礎医学教育も後期から始まっており、2年次からは臨床教育や基礎実習も本格的に始まり、3年後期には臨床実習に出ている。この両学科の課程の差は、今回のアンケートでも大きく影響していると感じられた。

学習状況：

「10. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」において、[1年次：歯学科77%・口腔保健学科77%、3年次：歯学科82%・口腔保健学科40%（47%が無回答）]と比較的高い値を示したが、これは定員が少ないことが有利に表れている例である。引き続きこれを維持していきたい。また、関連した事象として「14. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」においても、[1年次：歯学科58%・口腔保健学科65%、3年次：歯学科69%・口腔保健学科27%（53%が無回答）]と比較的高い値を示している。そして、「18. 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか」については、その閾値を60%とすれば、[1年次：歯学科92%・口腔保健学科100%、3年次：歯学科95%・口腔保健学科46%（53%が無回答）]で高い値を示している。「19. あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。」において、歯学科は[1年次：69%、3年次：67%]で、ともに最初に“課題演習”を上げており、教育プログラムの特性を反映していると考えられる。

大学の授業や授業外での経験：

「20. 授業課題のための図書館利用」は[1年次：歯学科39%・口腔保健学科47%、3年次：歯学科66%・口腔保健学科20%（53%が無回答）]と歯学科3年次を除き低めである。「21. Web上の情報の利用」については共に全学の結果同様に高い値を示した。「22. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」に関しては、[1年次：歯学科92%・口腔保健学科100%、3年次：歯学科97%・口腔保健学科46%（53%が無回答）]と今年度は多くの講義がオンラインになったことが如実に反映されている。また、「33. 教員に親近感を感じた」についても[1年次：歯学科39%・口腔保健学科53%、3年次：歯学科79%・口腔保健学科47%（53%が無回答）]、専門課程で高い値を示し、歯学部の教育プログラムでは、少人数であることで教員と学生の距離が近く、うまく回っていると考えられる。そのような中で「28.

授業をつまらなく感じた」では〔1年次：歯学科54%・口腔保健学科71%、3年次：歯学科64%・口腔保健学科27%（53%が無回答）〕と専門課程においてもつまらなく感じている学生がおり、学生のモチベーションの維持や授業の工夫について改善を要すると考えられる。

1 週間に費やす活動時間：

「35. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」に関しては6時間以上とした場合で、〔1年次：歯学科58%・口腔保健学科24%、3年次：歯学科31%・口腔保健学科0%（60%が無回答）〕、3時間以上にした場合でも、〔1年次：歯学科77%・口腔保健学科71%、3年次：歯学科54%・口腔保健学科13%（60%が無回答）〕と、昨年度と同様に低い値を示している。特に専門課程において1年次と比べて低いことは、学生に改善を促すほかない。これは後述の「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において〔1年次：歯学科31%・口腔保健学科47%、3年次：歯学科61%・口腔保健学科20%（60%が無回答）〕に反映されている。

「38. 部活動や同好会に参加する」は、3時間以上とすると〔1年次：歯学科70%・口腔保健学科18%、3年次：歯学科50%・口腔保健学科14%（60%が無回答）〕となっており学年が進むと、講義・実習が密になることの影響だと考えられる。アルバイト、読書や趣味の活動に関しては際立った特徴は認められない。

能力・知識の変化：

「42. 一般的な教養」について増えたと答えたのは〔1年次：歯学科61%・口腔保健学科94%、3年次：歯学科80%・口腔保健学科33%（60%が無回答）〕、「44. 専門分野や学科の知識」についても増えたと答えたのは〔1年次：歯学科84%・口腔保健学科95%、3年次：歯学科84%・口腔保健学科40%（60%が無回答）〕となっており、昨年度より高い値を示している。「43. 分析力や問題解決能力」が増えたと答えた学生は、〔1年次：歯学科62%・口腔保健学科77%、3年次：歯学科61%・口腔保健学科20%（60%が無回答）〕で、1年次より3年次での向上がみられていない。両学科ともに、問題解決型の教育プログラムが組まれているが、この時点ではまだ教育を受けていないため致し方ないが、全体のプログラムとして教育の機会は用意されている。また、「45. 批判的に考える能力」が増えたという学生は〔1年次：歯学科58%・口腔保健学科53%、3年次：歯学科56%・口腔保健学科27%（60%が無回答）〕と昨年度より高くなったが、「批判的に考える能力」を取り入れた教育など、対応が必要と感じる。

「47. リーダーシップの能力」が増えたのは〔1年次：歯学科31%・口腔保健学科59%、3年次：歯学科43%・口腔保健学科20%（60%が無回答）〕で他学部にも比べても平均的である。高学年にむけて、リーダーシップの能力の向上が図れる教育プログラムの充実が必要である。「48. 人間関係を構築する能力」〔1年次：歯学科54%・口腔保健学科59%、3年次：歯学科59%・口腔保健学科27%（60%が無回答）〕、「49. 他の人と協力して物事を遂行する能力」〔1年次：歯学科65%・口腔保健学科89%、3年次：歯学科56%・口腔保健学科27%（60%が無回答）〕も同様な傾向を示し、高学年に向けてこれら能力の向上が必要である。「50. 異文化の人々と協力する能力」〔1年次：歯学科39%・口腔保健学科24%、3年次：歯学科41%・口腔保健学科20%（60%が無回答）〕、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科35%・口腔保健学科65%、3年次：歯学科39%・口腔保健学科27%（60%が無回答）〕、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科35%・口腔保健学科65%、3年次：歯学科39%・口腔保健学科27%（60%が無回答）〕は、コロナ禍の状況でフィールドワークが困難であることや人とのコミュニケーションが難しいこともあり、低い水準になっている。

「53. 文章表現の能力」、「54. 外国語の運用能力」、「55. コミュニケーションの能力」、「56. プレゼンテーションの能力」、「57. 数理的な能力」においても、増えたと答えた学生の割合が、平均より低かった。これら能力の改善については、教養教育も含めて今後対策を講じる必要があると感じる。「61. 卒業後に就職するための準備の度合い」に関しては〔1年次：歯学科23%・口腔保健学科29%、3年次：歯学科44%・口腔保健学科33%（60%が無回答）〕となっており、

教育プログラム中での学生の置かれた、卒業や就職までの残り時間の差が反映されている。

「63. 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」に関しては、いずれにおいても、[専門的知識]であり、本学部において、学生たちは職能および資格獲得を目指していることが反映されている。これは「67 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。」に対して、全てグループで「大学の授業以外で、実行や計画していることはない」と答えていることと無関係ではない。

英語の学習状況：

英語能力に関しては、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれにおいても、ある一定の力（設問でB1以上：留学などが困難でない程度かと考えるレベル）を有する学生の割合は、全学平均よりやや多いが、これが入学後、3年次と顕著に変化する傾向はない。5つの力のうち会話力に低い傾向がある。但し、3年次の専門課程になっても「74. どのように、英語の勉強を行っていますか」に対して、[毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している：歯学科 12%・口腔保健学科 17%]を筆頭に学習している学生がいることは心強い。一方、75. の設問にある渡航経験では「1年次：歯学科 50%・口腔保健学科 82%、3年次：歯学科 62%・口腔保健学科 40%（60%が無回答）」と、ほとんどの学生が経験がなく、これは語学能力と密接に関連している。そのためか、「76. 徳島大学における英語教育についてどう思いますか」の答えに、[教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である：1年次：歯学科 24%・口腔保健学科 57%、3年次：歯学科 54%・口腔保健学科 33%（60%が無回答）]が筆頭になっている。これは後述のアンケート項目である卒後の進路ともリンクしているものとする。このような状況に対しては、卒後に大学院進学から海外への進出などの歯学部教員の事例を示すことや留学生との交流、外国人研究者の講演や招聘など、留学や海外赴任などキャリアパスの多様さを提示するとともに、外国人との交流機会も必要と考える。

大学生活に対するあなたの考えや満足度：

「77. 大学の学生向けサービスを上手に利用する」「78. 大学教員の学問的な期待を理解する」「79. 効果的に学習する技能を修得する」「80. 大学が求める水準に応じて学習する」「81. 時間を効果的に使う」においては、総じて全学平均的な値を示している。前述のとおり、歯学部の少人数のおかげもあり、「82. 大学教員と顔見知りになる」は「1年次：歯学科 39%・口腔保健学科 47%、3年次：歯学科 88%・口腔保健学科 40%（60%が無回答）」と特に専門課程に進んでから高い値を示している。

大学に入学してから：

「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において「1年次：歯学科 31%・口腔保健学科 47%、3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 20%（60%が無回答）」は、歯学科3年生で高い傾向を示している。このためか、「84. 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる」でも「1年次：歯学科 13%・口腔保健学科 87%、3年次：歯学科 79%・口腔保健学科 33%（60%が無回答）」となっている。これは、口腔保健学科でも高い傾向を示している。但し、「87. あなたの学生生活は充実していますか」に対しては、「1年次：歯学科 81%・口腔保健学科 94%、3年次：歯学科 87%・口腔保健学科 34%（60%が無回答）」と比較的高い値を示している。

本学の教育内容・環境への満足度：

「88. 共通教育あるいは教養教育の授業」に対しては満足と答えたものが、「1年次：歯学科 43%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 33%（60%が無回答）」と全学の平均よりやや高いレベルである。また「89. 1年次SIH道場」「1年次：歯学科 50%・口腔保健学科 88%、3年次：歯学科 52%・口腔保健学科 33%（60%が無回答）」「90. 初年次生を対象とした教育プログラム内容」「1年次：歯学科 53%・口腔保健学科 47%、3年次：歯学科 51%・口腔保健学

科 20% (60%が無回答) の満足度も同様な傾向である。「91. 授業の全体的な質」[1 年次：歯学科 50%・口腔保健学科 89%, 3 年次：歯学科 61%・口腔保健学科 33% (60%が無回答)], 「95. 学習支援や個別の学習指導」[1 年次：歯学科 24%・口腔保健学科 27%, 3 年次：歯学科 33%・口腔保健学科 42%] となっており、いずれも満足度において、どちらでもないという回答が多く、不満がある学生は少ない。今後は、この満足度を向上させる工夫も必要と考える。

SIH 道場に関しては、「103. 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目」では、[専門分野の体験学習]が目立っている。一方「104. 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか」とはやはり「専門の知識を身に付けるのに役立つ」が筆頭にきている。

「105. 授業内容の難易度についてどう思いますか」では適切と答えたものが、[1 年次：歯学科 58%・口腔保健学科 94%, 3 年次：歯学科 72%・口腔保健学科 40% (60%が無回答)] となっており、歯学科ではより易しいものを求める傾向がある。

本学の設備や学生支援制度への満足度：

「106. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）」に対しては [1 年次：歯学科 57%・口腔保健学科 76%, 3 年次：歯学科 64%・口腔保健学科 34% (60%が無回答)] が満足と回答しており、不満と考える学生が少ないことから、まずまずの評価をされていると考えられる。これは蔵本地区で最も図書館を利用しやすい位置に校舎が位置し利用も多いことが反映していると思われる。

「107. 実験室の設備や器具」においては、とても満足～どちらでもないが [1 年次：歯学科 92%・口腔保健学科 100%, 3 年次：歯学科 97%・口腔保健学科 40% (60%が無回答)] となっており、歯学部の改修工事も終了し、問題ないと考える。「112. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）」についてもほとんどの学生に不満を訴えるものがない。「121. シラバス」については、おおよそ個々の必要に応じて活用されていることが伺えた。3 年次において全く見ていないものが 13%いるが、各教員によりかなり詳細な予定表が提示されているので必要としないとの解釈も成り立つ。「122. 123. 3 年次の基礎ゼミ（歯学科）、卒業研究（口腔保健学科）」については、各学生が「関心の深い研究内容であった」、[将来のやりたい仕事や進路に必要と思った] といった理由で進路を選択しており、[専門的知識や技術]、[学問・研究への興味や知的好奇心] を得ることができると考えている。

授業評価アンケート・卒後進路：

「125（1 年生）. 128（3 年生）. 授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である」に対して、思わないと答えたのは、[1 年次：歯学科 16%・口腔保健学科 12%, 3 年次：歯学科 24%・口腔保健学科 13% (53%が無回答)] であり、学年進行とともに疑問を持っていることが伺われた。尚「126（1 年生）. 129（3 年生）. 大学教育全体の満足度に評点を付けた場合 60 点以上」とした割合は、[1 年次：歯学科 88%・口腔保健学科 94%, 3 年次：歯学科 97%・口腔保健学科 40% (53%が無回答)] と高い評価を得ている。

「127（1 年生）. 130（3 年生）. 卒後の進路」として、「就職する」が [3 年次：歯学科 62%・口腔保健学科 40%] であり、「大学院に進学する」は [3 年次：歯学科 15%・口腔保健学科 8% (53%が無回答)], 「留学する」が [3 年次：歯学科 3%・口腔保健学科 0%] であり、将来の研究者になるような進路を目指すものも少数ながらいると考えられる。在学中に望む教育としては、「132. 専門分野をしっかりと身につける」、「134. 就職意識の形成につながる教育を受ける」といったところの割合が高い。今後は、将来大学院に進学し、教育・研究を目指す人材を育成することに力を入れる必要がある。尚、「136. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける」に対して [3 年次：歯学科 85%・口腔保健学科 26% (53%が無回答)] と高い傾向なのは、チーム医療教育を進めてきた成果だと思われる。

6 薬学部

薬学部生の学修に関する現状と課題は以下のとおりである。

1) 対象学生

薬学部では、平成30年度より学科別募集となり、令和3年度より薬学科のみの募集となった。今回の調査対象である1年生は薬学科一本化の第一期生であり、3年生は学科別入学の第2期生である。両者のカリキュラムが大きく異なっている。また、コロナ禍で対面授業が行われる機会が限られ、実学が中心の薬学部では大きな影響を受けている。したがって、アンケートの結果の解釈と課題の抽出には未だ注意が必要である。

2) 大学入学後の学修状況

1年生において、「授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」機会が頻繁にあったと答えた学生は、薬学科22%、時々を含めれば94%と、昨年の8%よりも大幅に増加している〔問6〕。また、「定期的に小テストやレポートが課される」〔問9 薬77%〕機会が頻繁にあったと回答している学生の割合については、昨年度の83%とあまり変わらなかった。興味深い点は、教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する〔問10 薬28%（時々を含めると85%）〕であり、レポートを中心とした評価へのシフトに教員側も慣れてきたことがうかがえる。また「授業中に学生同士が議論する」〔問12 薬17%〕は、昨年度6%であり、「授業で検討するテーマを学生が設定する」〔問13 薬2%〕は、0%であり、ほとんど変わらなかった。これは、2020年度以来の新型コロナウイルスによる大学閉鎖および遠隔授業の結果、教員との接触機会の減少、そして学生同士の会話や授業への参加形態の変化が継続しているからであると考えられる。また3年生においても上記の問12、問13そして問14の「授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」の3項目については、その頻度が低かったことから、内容量が多い専門に特化した授業に関しては特に非対面の場合には詰め込みに近い形式にならざるを得ず、学生の積極的な授業参加が難しい現実を映している可能性がある。

履修登録について、1年生において、「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答した学生は〔問15 薬9%〕であり、非常に多かった昨年度の21%と比べて改善した。入学時ガイダンスを通じた学部としての啓蒙や、教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏したものと考えている。

授業内容の理解について、問19の授業内容の理解促進には、昨年度同様に1年生、3年生ともに課題演習を挙げている。これはレポート提出が増えたことに起因しているものと考えられた。今回の結果は1年生において、グループワークや課題解決型の授業である『コアDDS 講義』、『研究体験演習』を対面で行えたことに起因しているものと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響のためか、問38や問39の部活やアルバイトに費やす時間が前年度に引き続き減っている傾向が見られた。

高校で履修していない科目に係る入学後の勉強方法について、昨年度は1年生、3年生ともに約2～3割の学生が勉強の必要性を感じながらもLMS（リメディアル教材）の存在を知らず何もしていなかった〔問68〕。2021年度は1年生、3年生ともに大きく減少しており、啓蒙とLMS系の授業の単位化が改善につながったものと考えている。

3) 入学後に身に付けた能力や知識

1年生において、問42の「一般的な教養」において、入学後に大きく増えたと回答している項目が昨年度の0%から8%に増加した。問45の「批判的に考える能力」に関しても「大きく増えた」の割合が2%から5%に若干増加した。

問47の「リーダーシップの能力」は、1年生は「大きく増えた」が0%から8%に増加するとともに、3年生では薬学科で7%、創製薬科学科で10%とあまり変わらなかった。また問57の「数理的な能力」に関しても、1年生は6%、3年生でも薬学科で10%、創製薬科学科で6%とあまり変わらなかった。3年生での改善が特に顕著だった項目が問55「プレゼンテーションの能力」であるが、創製薬科学科3年生は4月から研究室配属され卒業研究を開始しており、この影響が顕著に表れたものと考えられる。

4) 英語の学習状況

英語に関しては例年と同様に、そのレベルは、学年があがるにつれて低くなる傾向が見られる。大学からの働きかけや、少人数での英語教育やネイティブスピーカーの教員による、継続的な授業を通じて改善していく必要があるだろう。また、両学科1年生において、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」〔問76〕との回答する学生が最も多いが、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」、「もっと授業数を増やしてほしい」、「専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」という学生もそれぞれ10%程度存在している。既に卒業研究を開始している創製薬科学科3年生では「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」と回答する学生が全学の中でも最も低く、現状の英語教育では卒業研究に必要な学術論文を読み解くための能力を身につけられていないためである可能性が高い。

5) 大学生活に対する考えや満足度

1年生では、効果的に学習する技能を修得すること〔問79〕、大学が求める水準に応じて学習すること〔問80〕が「とてもうまくいった」、又は「いくらかうまくいった」と回答した学生が一部を除いて7割を越えており〔問79 薬78%、問80 薬77%〕、自分の学習状況について満足している学生が多かった。これは昨年度の結果とほぼ同等であり、コロナウイルスによる遠隔授業の影響は少なかったものと考えられた。3年生では、問79、問80は1年生と、ほぼ同等〔問79 薬79%、創製85%、問80 薬72%、創製74%〕であり、問80に関しては昨年度の〔薬58%、創製60%〕から幾分改善がみられた。

また現在の自分の学修時間や学修態度に満足している〔問86〕であるが、1年生は「非常にそう思う」が3%であり、「そう思う」と回答した学生は38%と、昨年度の「非常にそう思う」が0%「そう思う」が29%から大きく改善された。一昨年の1年生は、「非常にそう思う」、「そう思う」が5割程度であり、戻りつつある。昨年度はコロナ禍と自分たちが学科別の入学生の最後であることから、多少の動揺があったのではないかと考えられる。3年生では、肯定的な回答をした学生が、薬59%に対して、創製では55%であった。昨年度は薬26%に対して、創製では37%であり、大幅に改善した。昨年度はコロナ禍の影響を大きく受けていたが、本年度は非対面やハイブリッドの講義に学生や教員が適応してきたからかもしれない。このことは、学生生活は充実しているか〔問87〕に「充実している」と回答した学生が1年生、3年生に限らず大幅に増えたことからわかる。さらに1年生において、自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる〔問84〕に「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生が71%であったことから、新型コロナウイルス感染症による環境変化への適応が感じられる。

教養教育の授業の満足度については、半数から3分の2以上の学生が満足しているとの回答であった〔問88 1年生71%、3年生；薬44%、創製68%〕。昨年度は、1年生の教養教育科目の選択は、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」と「単位の取りやすい授業を選択した」が拮抗した結果となった。また、「授業科目を選択する余地がなかった」との回答はなく、履修登録の改善や教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏している。また、問102の教養教育科目の選択にあたり重視した情報源について、1年生では「履修の手引きやシラバスに記載された情報」

とほぼ同じ割合で、「先輩からの助言や情報」や関連の「友人からの助言や情報」が重視されていた。教員・事務職員からの助言や情報がほとんど重視されていない状況は、例年通りであり、引き続き新入生オリエンテーションなどでの説明内容・方法やクラス担任による履修指導等を見直す必要があるとともに、履修の手引きやシラバスの充実を図るなどの改善が求められている。

問103 のSIH 道場で学んだ内容のうち、「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」が役に立ったと感じている学生は昨年度同様あまり高くなかった。これは、SIH 道場の講義が理解されておらず、受講した学生がそれをSIH 道場の講義と認識していないからである可能性が高い。また、コロナ禍により他学部学生との協働の機会があまりなかったことも理由であると思われる。

問105 の授業内容の難易度が適切と答えた学生は、〔1年生；94%，3年生；薬90% 創製90%〕であり高い水準にある。これは関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。

問126 の大学教育全体に対する満足度については、可上が学年に依らず高い水準であった〔1年生；薬86%，3年生；薬90% 創製84%〕。3年生に関しては、関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。薬学部では、本年度入学者から、新6年制教育課程を開始した。新課程の教育効果が現れる2年後の3年生に対するアンケート結果を注視し、上述の課題等を踏まえたうえで学修改善に繋がる情報を得たい。新課程では、単年度終了ではなく複数年度にまたがる複合的・階層的な薬学部独自の新しいカリキュラムを構築しており、学生の教育に対する満足度を高め、学習意欲の向上が見られるかどうかについても検証したい。

7 理工学部

理工学部は、工学部および総合科学部の改組によって1学科6コース（社会基盤デザイン、機械科学、応用化学システム、電気電子システム、情報光システム、応用理数）の体制で、2016年度にスタートした。アンケート実施時点で、アンケート対象となった理工学部の3年生は第4期生、1年生は第6期生となる。理工学部全体のアンケート回答率は、3年生が41%、1年生が61%であった。昨年度は3年生が24%、1年生が55%であり、一昨年度はそれぞれ63%、65%であったことより幾分回復したが、一部回収率の悪いコースが見られる。旧工学部の学生もアンケートには含まれているが、それぞれ対応する理工学部のコースに算入されている。以下では、主な結果について述べる。なお〔〕内の数字はアンケートの質問項目の番号を示す。

＜項目 I・通学時間＞1年生について通学時間30分未満が8割程度〔2〕、居住形態は実家から通学が30%程度〔3〕、残りが一人暮らしまたは寮であった。3年生ではどちらも同程度であった居住形態は実家から通学が20%程度であり、コロナ禍の影響が出ているのかも知れない。

＜項目 II・学習状況＞昨年度、内容を理解できる科目の割合〔18〕は、1年生で80%以上と答えた学生がどのコースも25%であり、70%以上と答えた学生との合計がおよそ65%となっていた。しかし、今年度の3年生においては、コースによっては80%以上と答えた学生は明らかに低下が見られるものの、70%以上と答えた学生を合わせた割合にコースによりかなりばらつきが見られた。コロナ禍の影響で、従来どおりの授業ができなかったことが原因かもしれないが、学修効果に関し上手く対応できたコースとそうでないコースに差が出たみたいである。「理解の助けになった方法」〔19〕については、7割の学生が演習を挙げており、理科系であるから当然のことだが、やはり演習を通じた理解の促進が重要である事を示している。また、この設問の結果から、振り返りの重要性も読み取れる。授業課題のための図

書館の利用[20]は1年生より3年生のほうが明らかに増えている。授業課題のためのWebの利用[21]は1年生より3年生のほうが増えているものの、図書館の利用ほど顕著な増加ではない。またコースによる差も大きかった。「授業時間外に他の学生と一緒に勉強した」[24]は、1年生では「頻繁」と「時々」を合わせて45%から85%とコースによりばらつきが見られたが、3年生に対する調査では「頻繁」と「時々」を合わせて70%程度に増加した。コロナ禍の対処法に慣れ、オンライン授業に関し学生間で相互補完していたのかもしれない。講義時間外の1週間あたり学習時間[35]については、1年生においては各コース同じ様な傾向が見られたが、3年生によってはかなりコースによる差異が見られる。「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」[37]は全体としてはまだ低いので今後対応が必要かも知れない。一方、大学外でアルバイトに費やす1週間あたりの時間[39]については、11時間以上と答えた学生の割合が、1年生で10%程度、3年生で30から40%程度となっている。特に3年生は勉強よりアルバイトにより多くの時間を割いている実情が見える。一般教養や専門知識に関する問い[42-49]からは、1年生から3年生になるにつれてその能力が向上している実感を得ている割合が増えるが、問題外決能力[50-52]や文章表現能力[53]、外国語[54]では1年生と3年生の間で向上が見られない。コミュニケーション能力[55]の向上は3年生の方が実感している。一方プレゼン能力[56]は、1年生においてコースによるばらつきが見られると共に、3年生に従前見られた向上の傾向が見られないのは、やはりコロナ禍により対面授業や対話や発表に機会の減少によるものなのかも知れない。

<項目 III・英語の学習状況> 授業の英語科目以外で積極的に英語を学習している学生の割合[74]は、コースによって差はあるが、全体の5-10%程度に留まっている。一方、3年生においてTOEIC等の問題集を勉強したり、実際試験を受ける割合が増えているのは、大学院入試や就職に直結しているからだと思える。

<項目 VI・大学生生活に対する満足度> 大学生生活に対する充実度[87]について、「充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた割合は、1年生、3年生ともほとんどのコースで75%程度となっており、大部分の学生は満足していると考えられる。他部局との大きな差も認められない。本学の設備にどの程度満足しているかという質問に対して、[106]-[110]の各項目で、とても満足と満足を合わせた割合が1年生では概ね50%程度であるが、3年生では増加傾向があり、大学の設備を上手く使いこなしていることが見て伺える。インターネット環境 [108]-[110]においては80%の学生に不満はないが、3年生では不満が増える傾向がある。e-learningサービスの満足度[1年生:123-124, 3年生:126-127]も比較的高いが、3年生において役に立つが増やした方がよいとの答えが少ないことは学生は対面授業も欲している証左と考えられる。3年生の項目「大学教育全体の満足度」[129]では、70%以上の合計が61-79%となっている。卒業後の進路の予定[130]については、コースによって大きな違いがある。就職希望は機械科学の18%が最も低く、社会基盤の57%が最も高い。これは各コースの専門分野の違いを反映している。

8 生物資源産業学部

今年度で創立6年目を迎えた生物資源産業学部は、一次産業、食料、生命科学に関する幅広い知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成することを基本理念としている。生物資源の高度利用技術の開発ならびに高機能・高付加価値農林水産物の開発、応用および実用化に必要な専門分野の高度な知識と技術を有する人材の育成を行っている。令和元年度をもって完成年度を迎え、設置審査や外部評価委員会の結果を受けて、令和2年度に教育カリキュラムの検証および見直しを行った。その結果、学部改善のため、カリキュラムを改定することとし、令和3年度より新カリキュラムを立ち上げた。今回の調査対象である1年生は新カリキュラムによる教育を受け、3年次は旧カリキュラムによる教育を受けている。

3年生は自宅生4割であるが、1年生は3割となっており、減少している。コロナの影響で県外者が増えている可能性が考えられる。また、1年生は第一志望で当学部に入った割合が49%と低いことが示されている。学習状況の問いでは、体験的に学ぶ実習やフィールドワークについて、3年生の90%が実習はあったと答えている。一方、1年生で

は、実習があったと答えたのは72%で、まったくなかったと答えたのが28%に至った。3年生はコースに分属されており、コースごとの実習であるため、コースによってはコロナの状況を踏まえつつ、実習を実施していたことが反映されていると考える。また1年生は学年総勢100名超での講義・実習であり、対面での実施回数や方法が限られたことが伺える。TAに補助を受ける機会については、3年生の77%がTAの指導補助を受けたと答えている一方、実習の実施の状況に伴い、1年生は29%と少なかった。実習は2年次以上に多く配しているため、次年度以降に実習の実施、TAとの関わりが増え、専門技術の修得、先輩から学ぶ機会が増えることを期待する。自分の考えや研究を発表することがあるかについては、3年生の84%が頻繁あるいは時々あったとしているのに対し、1年生は55%であり、無かったとしたのが46%であった。これは講義の形態によるものであり、上位の学年になると、講義や演習で意見や考えを言うことや発表を課される機会が増えることが伺える。授業中に学生同士が議論をする機会は、1年生の方が多いようである。これはグループワークをする科目を1年次に配していることに起因する。

授業内容を理解できる割合は、3年生では80%以上理解できるのが29%、70%以上理解できるのが55%で、合わせると84%である。1年生は80%以上理解できるのが25%、70%以上理解できるのが53%、合わせると78%である。少しずつ減少している傾向にあり、今後、対応策が必要となるであろう。授業内容の理解の促進にどの方法を用いているかの問いに、1年生は、課題演習や振り返りが3年生より減少しており、グループワークとディスカッションが増えている。また、提出期限までに課題を完成できなかった学生が、1年生では増えていた。レポートや課題で調べ物をする情報源に、1・3年生共にインターネットが90%を超えており、もっとも多い。これらのことも授業内容の理解に影響している可能性がある。実際、インターネットからの転記記述が多いのは教員からみても明らかであり、かつインターネットで検索した一番目の結果を使用するケースが多い。内容の理解や精査をしないままに、引用する傾向がある。そのため、教員が求めている知識や正確さに欠ける情報を得ている場合もあり、このことは改善が必要と考える。

3年生が卒業研究を選ぶ基準は、研究内容が62%、仕事との関連が35%であり、まず、研究内容を第一に考え、さらに就職後の仕事を目して選んでいることが伺える。しかし、その割合は高いとは言えないため、今後は研究内容を中心に選ぶような指導と教育を行い、大学院進学に繋げたいと考える。

進路選択については、大学院進学希望は、1年生は43%と多いが、3年生になると39%と少々減少している。3年生になると就職を考える学生が多くなるが、その一方で3年生でも進路未定が23%もあることを懸念する。新カリキュラムでは、専門性や研究内容と進路選択を併せて教育できる科目も配置しており、改善を期待する。

オンライン科目を増やした方が良いとするのは42~43%であり、オンラインを望む割合はさほど高くなく、学生もオンラインが良いと考えているわけではないことが伺える。他の学生と話す機会に満足しているのは、3年生では58%、1年生では33%で、不満に思っている学生が大多数である。実験系の学部は、個人よりグループ形態による協働作業を行い、体験することが、教育研究の質向上の要である。学生同士や教員間とのコミュニケーションにより教育効果を上げる機会でもある講義・実習を、出来得る限り早い時期に、対面に戻し、充実させることが必須であると考えられる。

9 教養教育

平成28年に徳島大学の教養教育を担う部局として教養教育院が設立され、6年が過ぎた。教養教育院の現状と課題を「令和3年度 学生の学修に関する実態調査」の結果をもとに、以下の項目について考察する。

1. 徳島大学における教養教育

「大学入学時点と比べて一般的な教養が身に付いた(問42)」という問いでは、「大きく増えた」と回答した1年生が10%なのに対し、3年生では18%だった。どちらも昨年度よりもわずかながら数値が上昇している。また学年進行とともに教養が身に付いていると考えることができる。他方、「文章表現の能力(問53)」では、「大きく増えた」という

回答が1年生で10%、3年生で14%であり、作文・レポートの能力の強化は今後の課題といえる。また「大学における教育に対して、何を期待しますか(問62)」では、1、3年生とも1位は「社会に出て役に立つ知識・技術・技能」で同じだが、2・3位は入れ替わっており、1年生では2位が「資格取得に必要な知識」であるのに対し、3年生の2位は「人生を支える幅広い教養」となっていた。これは、学年進行とともに教養の重要性が認識されていると考えられる。「大学の教育で獲得できる知識・能力(問63)」という問いでは、「一般知識・教養」と回答した1年生が58%、3年生が55%であったのに対し、「専門的な知識」という回答が、それぞれ82%、80%だった。昨年度よりは「一般知識・教養」という回答の割合は増加したものの、学生は大学で一般的な教養よりも、専門的な知識を身につけたいと考えていると思われる。教養教育院としては、学生に魅力的な教養の授業を提供することが重要である。

「大学の教育内容・環境に対する満足度(問88)」では、教養教育に対する回答として、「とても満足」、「満足」と答えた割合の合計が、1年生で59%、3年生で57%だった(昨年度はそれぞれ53%、52%)。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で教養教育の授業の多くがオンラインで行われたが、学生の満足度でみると昨年やや満足度が向上した。これはオンライン授業に、教員・学生の双方が慣れてきたためかもしれない。あるいは1年生では今年度に教養教育群を再編し、学部ごとに履修要件を改正した効果が現れた可能性もある。今後も、各学部のDPに合った、学生が意義を感じることができる授業を展開していくことが重要である。

2. 教養教育科目の選択

教養教育の授業には「基礎科目群」や「外国語科目群」のようにクラスが指定されている授業もあるが、「教養科目群」や「創成科学科目群」では自分で所属する学部や学科の履修要件に合わせて自由に選択ができる授業も多い。その場合の「選択基準」を尋ねた問101では、「好きな科目や面白そうな科目」と回答した1年生が43%、3年生が55%であるのに対し、「単位のとりやすい授業」という回答が1年生で23%、3年生で43%だった。この傾向は昨年度とほとんど変わりはない。また「教養教育科目の選択に当たって重視した情報源(問102)」では、「履修の手引きやシラバス」が1年生で48%、3年生で69%であり、「先輩からの助言や情報」が1年生で25%、3年生で57%だった。今年度の1年生は昨年度と同様、3年生に比べ、単位の取りやすい授業よりも自分の興味で授業を選んだ傾向がある。そのための情報源として、先輩からの助言よりシラバスがずいぶん優先されている。これは新型コロナウイルス感染症のため、先輩からの助言を得る機会が少なかったことが原因とも考えられるが、教養教育院が推進しているシラバス内容の充実の成果かもしれない。教養教育に関して、教養教育院の教員がすべての授業科目のシラバスチェックを行っており、シラバスは数年前より格段に充実してきている。今後も履修の手引きやシラバスを充実させて、学生の授業選択をサポートしていくことが重要である。

3. リメディアル教育

徳島大学の教養教育では、高校で数学や理科の科目で未履修、あるいは大学での学修に不安のある学生のために、リメディアル科目(数学、物理学、化学、生物学)を基礎基盤教育科目として開講している。「高校で未履修の数学、物理、化学、生物について大学入学後にどのように勉強したか(問68)」という質問に対し、1、3年生とも同じ選択肢の順の回答となった。最も多かったのは、「支障を感じないので何もしていない」で、1年生、3年生でそれぞれ50%、49%だった。次いで多かったのが「高校の教科書、参考書を使い、勉強した」でそれぞれ29%、27%、「リメディアル授業等を履修した」は17%、16%だった。これらの割合は昨年度とほぼ同じである。学生自身の努力、あるいはリメディアル授業を利用することにより何らかの対応をしていることがわかる反面、「必要性を感じたが、何もしなかった」という学生もそれぞれ9%、8%(昨年度は10%、9%)存在した。これらの学生は専門での学修に困難をきたす可能性もあり、教養教育院としてこれらの学生に学部を通じて適切な働きかけを行う必要がある。

4. 語学教育

教養教育院では語学教育として、英語と初修外国語の授業を提供している。「入学時と比較した外国語の運用能力（問 54）」では、「大きく増えた」、「増えた」と回答した学生が、1 年生 36%、3 年生 33%であるのに対し、逆に「減った」、「大きく減った」がそれぞれの学年で 17%、23%だった。これらの数値は、3 年生では昨年度よりわずかではあるが改善しているとはいえ、大学入学試験対策としての英語学習から、大学での英語の学修へ切り替えが上手くできていない学生がいると考えられる。さらに学年進行とともに語学力が低下したと感じる学生が少なからず存在することは大きな問題である。徳島大学は、今年度、初めて語学マイレージ・プログラムを修了した学生が卒業する。学部によっては、語学マイレージ・プログラムの修了が危うい学生も存在している。教養教育院では、学生の語学力の向上を目指したプログラム（語学教育研究センターのプログラム等）を実施しているが、学生に対しさらなる働きかけが必要である。

英語の「聞く、話す、会話、表現、書く」という技能の自己評価についての問 69-73 では、1 年生は最低のレベル（A1）を選択した学生が、入学時と比べて 10 月の段階ではすべての技能で減少したものの、高いレベルを選択した学生の割合にはほとんど変化が見られなかった。3 年生では、A1 を選択した学生の割合がすべての技能で 1 年生より多く（1 年生の 1.5-1.9 倍）、1 年生で向上した英語の技能が 3 年生では低下した、あるいは英語に対する自己評価が低くなったことが感じられる。「英語の学習方法（問 74）」では、1、3 年生とも「TOEIC などの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」を選択した学生が最も多く（32%、37%）ついて「授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強」（30%、24%）となっていた。この割合は昨年度とほとんど変わりはなかった。徳島大学の語学マイレージ・プログラムでは、TOEIC などの外国語技能検定試験や英語の授業の点数が大きなウエートを占める。1、3 年生はこれらの外国語技能検定試験を受けることになっている。したがって、学生は外国語技能検定試験や授業に沿った英語の学習方法を選択していることが考えられる。今後の課題としては、高学年での語学教育が挙げられ、教養教育と専門教育の英語の連続性を強化する必要がある。

「徳島大学における英語教育についての質問（問 76）」では、1、3 年生とも「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分」という回答が他の選択肢に比べ圧倒的に多く（ともに 47%）、学生は現在の大学の英語教育に満足していることがうかがえる。「もっと授業数を増やして欲しい」という回答は、1、3 年生でそれぞれ 11%、15%であり、「ネイティブスピーカーの授業を増やして欲しい」はそれぞれ、11%、13%だった。

全体として、学生は大学で提供されている語学教育に満足をしているが、語学力が入学後に低下したと感じている学生も多い。教養教育院としては、語学の授業内容の見直しや、語学マイレージ・プログラムの充実等を図る必要があると考えられる。

10 FD (Faculty Development) の観点から

本年度は、コロナ禍によるオンライン授業の取組が始まって 2 年目を迎え、オンライン授業における課題が山積している一方で、オンライン環境を活かした授業展開をしている事例も報告されるようになった。本調査において、学生が経験する授業に変化が起きたのか、また満足度に変化があったのかについて、「1. オンライン授業」に関連する項目を考察する。また、FD 委員会では、本学の教員を対象に「教員の教育に対する意識調査」を実施しており、令和 3 年度の調査では、令和 4 年度から実施する「教学アンケート」の 1 つである「教員アンケート」の試行版と位置付けて実施した。この教員調査では、学生を対象とした本調査と統一した設問が設置されており、学生の自己評価、教員による他者評価を比較することができる。比較可能な 14 項目について、「2. 学生が身に着けた能力や知識」に焦点を当てて考察する。

1. オンライン授業

令和 2 年度から始まった本格的なオンライン授業は 2 年目を迎え、オンライン会議ツールの機能を活用して双方向

性を取り入れる工夫や、オンデマンド授業であっても学生とのコミュニケーションをとるための工夫を実践している取組が、全学FDプログラム「授業について考えるランチセミナー」等で多数報告されている。本年度の調査結果について、令和2年度の調査と比較すると、授業経験や満足度についてほとんど変化がみられないが、問12「学生同士が議論する」については、肯定的な回答が、1年は75%（令和2年度より19ポイント向上）、3年は68%（令和2年度より3ポイント向上）である。また、問89「SIH道場の満足度」については、コロナ禍で入学した1年生の結果と比較すると、肯定的な回答は、53%（令和2年度より18ポイント向上）である。問19「理解の促進につながった授業方法（複数選択）」においては、グループワーク、ディスカッション、振り返りを選択した学生が1年生、3年生ともに令和2年度より増加している。しかし、これらの数値の増加によって、オンライン授業の質が向上したと結論付けることはできない。実際は、ほとんどの調査結果において変化がみられていない。満足度を問う設問における肯定的な回答の割合が、問91「授業の全体的な質」は、1年生56%、3年生57%であり、問94「教員と話をする機会」は、1年生23%、3年生39%であり、これらはコロナ以前の令和元年度ともほとんど変化がない。学生の授業や教員とのコミュニケーションに関する満足度は、大学教育全体の満足度にも関わると考えられる項目であり、コロナ禍においては、特にコミュニケーションの欠如が問題視されている。アフターコロナを見据えても、オンラインの良さを活かすことで効率よく双方向性を確保できる授業方法など、オンライン授業の質向上に向けて、学内で実践されている取組を共有するFDプログラムを引き続き実施していくことが必要であると考えられる。

2. 学生が身に着けた能力や知識

上述の「教員の教育に対する意識調査」と本調査の設問42～61では、14問の統一設問が設けられている。これらの14項目（42, 43, 44, 45, 47, 48, 49, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 60）について、学生調査（本調査）では「入学時点と比べてこれらの知識や能力はどのように変化したか」を問う設問であり、教員調査では回答者（教員）が指導する主な学生（学部・学科・学年）を想定したうえで「その学生は、これらの知識や能力は身につけていると思うか」を問う設問である。ことから、単純に比較して結論付けることはできないが、FDのアイデアを考える1つの資料になる。まず、これらの14項目について教員の評価、学生の評価を比較すると概ね同じような傾向がみられる。特に、教員も学生も肯定的な評価が多い項目（教員、学生1年、3年共に肯定的な回答が約50%以上である項目）は、「42. 一般的な教養」、「43. 分析力や問題解決能力」、「44. 専門分野や学科の知識」、「49. 他者と協力して物事を遂行する能力」、「55. コミュニケーション能力」、「56. プレゼンテーションの能力」である。これらの結果から、教養教育科目や学部専門教育科目における知識の修得や課題解決に向けた分析力の修得、初年次教育科目SIH道場で取り扱っているプレゼンテーションや他者との協働について、本学の教育は、ある程度の効果をあげていると推察できる。一方、教員も学生も肯定的な評価が少ない項目（教員、学生1年、3年共に肯定的な回答が約50%以下である項目）は、「47. リーダーシップの能力」、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」、「54. 外国語の運用能力」、「60. グローバルな問題の理解」である。これらの能力のうち、項目47, 51, 52, 60については、個々の授業では育成することが求められていないが、学部・学科、大学としては、カリキュラム全体で育成していくことが求められる能力である。FDの対象として、近年では、個々の授業改善や教員個人の教育力向上を目的としたもの（マイクロレベルのFD）に加えて、学部・学科の教育プログラムの評価・改善を目的としたミドルレベルのFDについても、力を入れていくことが求められている。実際、徳島大学でも歯学部では、教務委員会委員、教育プログラム評価委員会委員、FD委員会委員が協働して、教育プログラムの評価・改善に向けた取組を実施している。上述した能力の育成は、授業の枠を超えて取組むものであり、個々の授業担当者の努力のみでは対応できないものである。歯学部のように複数の関係者が協働して取組むことが重要であり、徳島大学全学FD推進プログラムにおいても、ミドルレベルのFDとして、継続的に学部・学科の支援を行っていく予定である。

11 eラーニング

本学においてICTを活用した学修が学生にどの程度浸透し、実質化しているのかについて、eラーニングの活用と

いう観点から、アンケート結果を概観し、併せて今後の課題について考える。

本学の学修の質についての俯瞰を、eラーニングという観点から、eラーニングの利用実態、eラーニングへの印象、eラーニングへの期待、および環境整備等について見ていく。また、その他eラーニングに関連する質問についても参照する。結果を見る前に、今回の調査は1年生と3年生を対象におこなわれている。1年生の結果からは、主に、教養教育の学修の実態が浮かび上がり、3年生の結果からは専門教育の学修の実態が浮かび上がるのではないかと考えられる。2021年度もCOVID-19の感染拡大は続いたままであり、1年生と2年生は大きな影響を受けたものと想像される。1年生と2年生はコロナ禍前の大学生活を知ることなく入学し、特殊な形で大学生活が続いている。授業はオンライン授業が中心となり、感染状況によっては大学への入校もままならないといった状態が常態となり、大学生活一般への影響が想像される。今回の調査から、そうしたCOVID-19による影響がうかがえるかもしれない。なお、1年生の回答率は高いものの、3年生においては一部の学科・コースで回答率が低いものがある。以下では、基本的に全体の傾向に基づき述べることにするが、集計されたデータによっては推定にとどまるのが推定される。ただし、特徴的な点がある場合は、個別の事例について触れることとする。

まず、本学のeラーニングの利用が普及しているのか、また学修へ何らかの影響を及ぼしているのかを見てみる。問い122（3年生は問い125）は、本学が提供するeラーニングサービスの利用の傾向についての質問である。ここからeラーニングの利用実態を知ることができる。1年生と3年生の間に傾向の違いはみられない。本学が提供する全学LMSサービスであるmanabaに関して、1年生、3年生とも8割程度の学生が利用したと答えている。2021年度はCOVID-19感染拡大の影響を受け、授業は基本的にオンライン形式での実施となり、ほとんどの授業でmanabaが利用されたことを表していると考えられる。しかし、利用したとの回答が全員となっていないことから、一部の学生は、自らが使っているサービスの名称や、eラーニング、LMSといった言葉を知らない実態も知ることができる。また、知プラe科目のLMSサービスであるmoodleも一定数の学生が利用していることが分かる。特定の学科・コースで利用者が多く見られる。知プラeの科目の利用が、本学において徐々に浸透しているものと理解される。さらに、スーパー英語の利用は、1年生、3年生ともに四割程度であり、語学マイレージの理解や活用が進んでいることがうかがえる。1年生の利用は、3年生に比べて多くなっており、利用が着実に広がっていることが分かる。コロナ禍において、eラーニングのインフラとしてのLMSの利用は学内全体に普及しているといえる。また、LMSの利用は、動画の再生や、小テスト等において、LMSとMS StreamやMS Forms等の他のサービスと連携しての利用が広がっていることが想定される。今後、LMSと連携するサービスの利用の実態についても調査する必要があると思われる。

続いて、eラーニングの利用実態について、問い122以外の項目についても利用の様子を補足的に捉えることとする。授業の課題作成にWebを利用したかを調べた問い21、および資料配付やレポート提出にインターネットが利用されたかを調べた問い22について確認する。どちらの回答も、1年生と3年生は、ほぼ同じ傾向を示している。資料の配付、課題の提出や授業の調べ物にWebが広く活用されていることが分かる。調べ物としてのWebの活用は、1年生、3年生どちらも9割以上の学生がおこなっている。資料の配付や課題の提出も、1年生、3年生とも9割以上の学生がインターネットを利用している。また、学修の情報源について調べた問い65では、1年生と3年生ともに9割程度の学生がインターネットを情報源としていることが分かる。1年生と3年生間では、3年生になるとやや授業の資料や、図書館の文献等を情報源とする割合が高くなるものの、インターネットからの割合は最も高い。インターネットが学修の主な情報源として活用されていることが分かる。インターネットは学修の有益なツールであるもの、利用にあたってスキルが求められる。フェイクニュースを見極める能力や、安易なコピーによる剽窃をおこなわない倫理観等、ネット利用おけるリテラシーの必要性は高まると考えられる。さらに、コンピュータの操作能力の向上について調べた問い58についても見ておく。この質問も1年生と3年生の間で差は見られない。8割前後の学生は操作能力が増えたと答えている。COVID-19の影響により、授業のオンライン化が当たり前となり、日常的に情報機器を操作する必要に迫られたことから、操作能力の向上を意識した学生の割合が高かったと考えられる。以上のようなことから、本学の

eラーニングの活用は、LMSの利用を中心に、普段の授業で利用されていることが分かる。eラーニングは、日常の、授業の調べもの、資料の配信、課題の提出に広く活用されている。

次に、学生はeラーニングを用いた学習をどのように捉えているかを見てみる。問い123（3年生は問い126）のeラーニングが学修に役立つかという問いに対し、1年生と3年生の間に傾向に変化はなく、6割以上の学生が役立つと答え、eラーニングを肯定的に捉えていることが分かる。問い124（3年生は問い127）の今後eラーニングを増やした方が良いかどうかというeラーニングへの期待に関する質問についても、1年生と3年生に大きな差はなく、5割程度の学生が増やした方が良いと答えている。なお、この設問は、コロナ禍以前においては、これまでeラーニングの普及期であったことから、知プラ e 科目のようなeラーニング科目への期待を訪ねたものであった。2020年以降は、eラーニングの活用が広がり、オンライン授業一般についての期待を質問するものと、学生のこの質問に対する受け止めが変化したように思われる。また、大学での教育において獲得を期待する能力について質問した問い63では、1年生と3年生の間で傾向に大きな差は見られない。2割程度の学生が情報機器活用能力の獲得を挙げている。教養や専門知識、コミュニケーション能力や問題解決能力と並んで、本学の学生は情報活用能力の習得の必要性を意識していることが分かる。問い123、問い124、問い63等から、本学の学生はeラーニングのサービスに満足と期待していることが分かる。また、情報活用能力の必要性を理解し、修学に臨んでいることも分かる。

さらに、本学の提供するeラーニングについて環境的な面から、学生がどのように受け止めているのかを見てみる。問い108の本学コンピュータ施設や設備の満足についての質問で、3年生は54%の学生が満足していると答え、1年生は37%の学生が満足と答えており、1年生と3年生にやや違いが見られる。もっとも、不満と答える学生は1年生、3年生に差は見られない。学年が上がるにつれて満足と答える学生が増えているように思われる。このことは、COVID-19の影響で、1年生は前期に登校できない期間が続いたことから、大学の基本的な設備やサービスへの理解が広がっていなかったことが推測される。問い109のコンピュータ利用の支援についての質問では、3年生は45%の学生が満足していると答え、1年生は33%の学生が満足と答えており、1年生と3年生にやや違いが見られる。学年が上がるにつれて満足と答える学生が増えているように思われる。問い110の本学のインターネットの使いやすさについての質問では、1年生と3年生の間に違いは見られず、4割程度の学生が満足と答えている。本学の情報機器の環境整備や支援体制に対して、多くの学生はおおむね現状に満足していることが分かる。本学は2019年度にBYODを実施し、今回対象となった学生はBYOD導入以降に入学した学生である。本学の設備、サービス、支援体制へ対し、1年生はやや大学に慣れていない傾向が見られるものの、基本的に満足していることが分かる。本学において、実質的にBYODが進んでいることが分かる。

今回の調査における、ここでの検討はeラーニングの活用という点からのものではあるが、ICTを活用した学修が本学において日常的に行われていることが分かる。eラーニングのサービスは授業のインフラとなっており、学生は現状に対し一定の満足を示していることも分かる。2021年度はCOVID-19の影響を受け、本学の授業においてLMSの活用が必須となっていることが分かる。eラーニングの利用が広がった結果、教養教育や専門教育等による差、学年による差、部局等による差はあまり見られなくなったと言える。ただし、eラーニングの活用は、情報通信技術の進化を背景に、今後ますます活発になる。情報通信技術は、IoTの普及や、5Gの導入と技術革新は続くことから、本学においても学修の情報環境の整備に今後も努めなければならない。

eラーニングの活用において、今回の調査からその普及を認めることができる。一方で、学修の質という点から、有用性について明確な実感を持ってない（どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない）と回答した学生が、少数ではあるもののいたことも事実である。このことは、教育活動におけるICT利用が一般化する中で、情報機器を使いこなしている学生と、なじめない学生の二分化が進んでいることを示していると考えられる。今後、活用能力に不安を感じる学生へのサポートの充実が必要になる。

12 附属図書館

読書傾向を見ると1週間に1時間以上読書をすると答えた学生が、1,3年生共に30%弱となっている(問40)。読書についての考え(問117)では、「もっと読書をしたいが、時間がない」とした学生が、1,3年生共に50%前後みられ、学年にかかわらず読書のための時間をとれない様子が見えてくる。また、読書の必要性を感じていない学生が、昨年度と同様に1,3年生共に10%ほどいるため、無関心な層への読書推進の働きかけが継続的な課題である。

図書館の資料の利用(問20)については、授業課題のために図書館の資料を利用したことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答している学生が1年生の32%に対し、3年生では58%に達している。調べ物をするときの情報源(問65)として図書館の書籍・文献(電子版を含む)をあげている学生の割合も、1年生の20%強に対し、3年生では40%近くに増加している。また、附属図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)への満足度(問106)を見ると、1年生の51%が「とても満足」もしくは「満足」と回答しているのに対し、3年生では66%と高い値を示している。

学年が進むにつれ、インターネットだけでなく信頼性の高い図書や文献データベース等を利用するようになる傾向はこれまでと同様であるが、令和2年度以降はコロナ禍により、図書館の利用が制限されてきたことへの影響が大きくなり、昨年度と比較して図書館の資料の利用及び調べ物をするときの情報源としての割合が、1,3年生共に減少している。長期間の遠隔授業等の影響により、図書館サービスを十分理解できていない学生が増えていることから、学生に対する利用支援の対策が必要である。

学修支援サービスの利用(問116)については、昨年と同様に1,3年生共にグループ学修スペースの利用が最も多いが、どのサービスも利用していないという学生が1年生で70%弱、3年生で約55%存在する。本設問には自学自習などを目的とした利用は含まれず、図書館の利用動向全体を示すものではないが、コロナ禍をきっかけとした図書館の利用動向変化を踏まえ、感染拡大防止対策のための「新しい生活様式」に対応するとともに、自宅等からの利用を含めた学習支援サービスの充実、広報体制の強化が課題となる。

なお、関連する質問として、教科書の購入(問66)については、図書館などの本を利用する割合は1年生では数%と少ないが、3年生で10%強となっており、教科書が高価であるとの回答が増加していることから、図書館の資料が活用されていることがうかがえる。また、英語の勉強(問74)については、1,3年生共に10%以上が図書館等を活用して定期的に勉強していることから、図書館が一定の役割を果たしていることがうかがえる。

第3章 まとめと提言

「学生の学修に関する実態調査」は、今回で7回目となった。これまでに、「学生の学習に関する実態調査」として、平成19, 22, 25, 28年度と3年に1度実施され、令和元年度に行われた第5回調査以降、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同で、1年生と3年生を対象に毎年実施している。本調査により、学生生活全般にわたる状況とともに、学生の学修意識や学修に関する実態について、経年変化を含むより詳細な情報を把握することが可能になっている。今後も調査を続けることで、データが蓄積されていくことになり、学生の実態を把握する貴重なデータになりうる。この章では、今回の調査結果を項目ごとにまとめている。本調査は本学に在学する1年生(1,372人)及び3年生(1,368人)を対象としたものである。アンケート回収率は1年生66.7%、3年生51.4%で、前回調査とほぼ同様の値であった。なお、設問の番号については「(設問〇〇)」と表記し、両学年で設問番号が異なる場合には、その後に「:1年生」「:3年生」と付記している。

1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

本年度も昨年度に引き続いて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、感染拡大および収束を繰り返し、現在、新たな変異株である「オミクロン株」による急速な感染拡大による第6波が起きている(執筆は令和4年3月初旬)。徳島大学では、本年度も昨年度に引き続いて、徳島大学危機対策本部が中心となり、学内のみならず、徳島県内の感染状況を反映した事業継続計画(BCP)を設定し、それに基づいて、学生の教育・研究活動、学生の課外活動、学生の学内立入、教職員の研究活動、大学運営(学内会議や事務体制)が決められている。本年度は、昨年度の経験を活かし、授業実施に関わる基本方針が改定され、感染状況に応じた対策が講じられた。本年度も、感染防止措置を徹底するために対面授業の実施を認めない期間が生じたが、Web環境を用いた遠隔授業により学生の勉学機会を確保した。このような状況下で、学修を進めなければならなかった学生が受けた影響は大きかったと想像する。特に、新入生は周りの環境が新たに変わり、先輩や同級生とのコミュニケーションをとることが難しい状況もあったと考えられる。その一端は今回の調査結果からも表れているが、昨年度の経験が活かされた結果からなのか、Web環境や学習コンテンツの改善により、昨年度より学習効果がやや向上したように思われる。

2. 将来、及び、将来と関係する教育について

学生が将来についてどのように考えているのかに関して、前回調査の「まとめと提言」では、いずれの学部学科においても早い段階である程度の進路を見定めていると評価できるが、進路選択が現実味を帯びる3年生後半においても進路未定の学生が一定数存在しており、学年進行に伴ったきめ細やかな教育が必要と提言している。今年度も昨年度と同様に、3年生後半において進路未定の学生が一定数存在している。

学生がどのような進路を考えているか(設問127:1年生、設問130:3年生)について、1年生の段階で「就職する」「大学院に進学する」と回答した割合は、いずれの学部学科においても60~100%で、早い時期から進路を見定めている。同じ設問に対し「まだわからない」と答えた割合は、ほとん

どの学部学科の1年生で0~30%であるが、3年生では10%前後で、3年生では大半の学生が進路を定めている。ただし、将来の見通しを持っているか、その実現に向かって何をすべきか、具体的に行動しているかという設問（設問 128：1年生，設問 131：3年生）においても、1年生が0~24%なのに対し、3年生では7~43%とやや具体性がみられる。問題は、「将来の見通しを持っているが、何をすべきかわからない」と回答する3年生が10~38%、「将来の見通しを持っていない」と回答する3年生が7~35%存在することである。医学部医学科，歯学部歯学科，薬学部薬学科は、6年間の教育における中間地点であるが、他の学部・学科は卒業まで1年余りしかないので、将来を見据えた進路決定やその具体的な方策がとれるように、きめ細かい指導が必要である。

3年生に対して、「卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために何を体験したいか」との項目（設問 130~143）が立てられており、「専門分野をしっかりと身につける」「就職意識の形成につながる教育を受ける」「企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ」「ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける」「レポートや論文指導により、文章作成能力を高める」などに対する考えを問うている。これら能力・技能を必要と考える割合は非常に高いことが伺える。学生の要望に応えられるように、各学部学科において学年進行に伴ったきめ細やかなキャリア教育が必要と考える。

3. 大学教育について

大学教育に関して、前回の「まとめと提言」では、社会から求められる能力・技能が多様化するなか、専門的知識のみならず、学生が入学直後からの導入教育やキャリア教育等を通じて基礎的・汎用的能力の重要性を認識していることが指摘されている。

「大学における教育に対して、何を期待するか」について尋ねたところ（設問 62），1年生，3年生ともに「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」，「人生を支える幅広い教養」，「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」と将来を見据えた実学に加えて，教養も必要と感じている。医学部・歯学部・薬学部では，「資格取得」が例年通り高い傾向にあるが，「幅広い教養」の重要性も認識している。総合科学部や理工学部，生物資源産業学部では，「幅広い教養」に関心が高いが，「資格取得」も重要視している。「大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」を選択する設問（設問 63）において，1年生全体では「専門的知識」が群を抜いて多く，この傾向は前回調査と同様であった。このように，学生は，大学において専門的知識を学びたいと考えているが，それに加えて基礎的・汎用的能力も必要であることを十分に認識している。資格の取得のみならず，知識・技術・技能，さらに幅広い教養を身につけ，社会で出ること望む学生に応えられる教育を継続していくことを再認識する調査結果である。

4. 学生の学びについて

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により，対面での講義・実習・演習は制限を余儀なくされ，不自由な学習環境が強いられた。昨年度は，教員・学生も不慣れな対応により予定通りに学習が進まない状況もあったが，本年度はこれまでの経験が活かされ，感染対策やソフト・ハードの整備などの多くの面で改善された。とはいえ，行動制限や3密の回避といったヒトが集まる環境の制限があり，昨年度と同様にその影響を大きく受けたのが，体験的な学びであった。「実験，実習，フィールドワークなどを実施し，学生が体験的に学ぶ」機会がどのくらいあったかという問い（設問 4）では，

昨年度よりやや改善したものの、「あまりなかった」「まったくなかった」を併せると1年生全体で57%であった。ただし、医科栄養学科・薬学部薬学科・理工学科（機械科学，電気電子）など，学部学科によっては「ときどきあった」の割合が6割を超えたところもあり，昨年度の経験を活かして，感染対策を講じて実施したと考えられる。一方，3年生では「ひんぱんにあった」「ときどきあった」を併せた割合が，8割を占めており，コロナ禍においても実施できている。これは，初年度教育と専門教育との違いと考えられる。今後は，さらにウィズ・コロナあるいはポスト・コロナの環境下で，感染対策を講じながら，工夫して実験，実習，フィールドワークなどが実施されることを期待する。

「授業内容を理解できる科目の割合」を問う設問（設問18）では，「80%以上」が1年生・3年生ともに全体で3割前後，「70%以上」では4割程度と，7割以上の学生が授業内容を理解できている。その一方で，理解できていない3割の学生に対する方策も今後は考えていかなければならない。また，授業内容の理解促進につながる方法では（設問19），課題演習が多くを占め，次いで振り返り，質疑応答，グループワークが続いていた。この結果からは，課題演習による振り返りによって学びを定着させることの重要性や，グループワークやディスカッション等を取り入れることが，理解促進につながるということが伺える。

大学で身につけた能力や知識については（設問42～61），1年生では，入学後に汎用的技能が向上したとする一方，社会性や人間関係に関する能力は前回調査と同様に低い評価であった。これは，新型コロナウイルス感染状況下による影響も否定できないが，逆にプレゼンテーション能力やコンピュータの操作能力は「大きく増えた」ないし「増えた」と実感している学生が増加している。さらに，「時間を効果的に利用する能力」も向上しているのも新型コロナウイルス感染状況下による影響かもしれない。一方，3年生では多くの項目で前回調査とほぼ同じ結果であったが，「専門分野や学科の知識」や「批判的に考える能力」は，「大きく増えた」ないし「増えた」と実感している学生が増加している。遠隔授業の導入に，教員や学生も慣れたせいか，その活用法も向上しており，今後は遠隔授業と対面授業のハイブリッドによる学習法が主流になっていくものと推察する。前回調査に比べて，改善がみられたことは遠隔授業の質や効率が向上していると推察される。ただ，これらの能力を伸ばすことができない学生もおり，今後，教育効果を高めるための多様な教育法を検討する必要がある。

「授業時間外に，授業課題や準備学習，復習をする」（設問35）では，1週間で「全然ない」と答えた学生の割合が両学年で2%に留まっているが，1週間で10時間以下とした場合には，その割合はともに5割を超える。前回調査に比べて，「授業時間外に，授業課題や準備学習，復習をする」学生が増加している。遠隔授業が増加し，それに伴う課題学習のために，時間外学習をする学生が増加している。課題としては，授業科目により課題の質・量に差があり，単なる出欠確認手段として用いられている授業もあることから，今後，教員側も単なる出欠確認の手段ではなく，自主学习に繋げるなどの工夫を検討していく必要がある。遠隔授業の活用法については，本学高等教育研究センターや他大学からも様々な活用例などが紹介されているので，教員も参考にして工夫する努力が必要と考える。

「レポートや宿題で，調べものをするときの情報源」（設問65）は，ほとんどの学生が「教科書・参考書・授業での配布資料」と「インターネット」と回答している。さらに，「講義ノート」と「図書館の書籍・文献（電子版を含む）」も活用している。インターネットによる情報収集が，昨今のトレンドであるが，公開されている情報の利用などの情報リテラシー教育のさらなる徹底により一層，力をいれる必要がある。

クラス担任制度（設問115）に関しては，前回調査と同様で，両学年ともに「とても満足+満足」が3割程度であった。問題は，「どちらでもない」と回答した学生が約5割，「不満+とても不満」と

回答した学生が約1割いることである。学修面のみならず、学生生活全般の相談窓口ともなり得るクラス担任制度であるが、形骸化しており、うまく活用されていないように思われる。今後は、満足度を高める努力が必要であるとともに、学生の抱える問題をサポートするクラス担任制度を構築すべく、学部学科ないし全学的な仕組みの整備・充実が求められる。

シラバスの活用（設問 121）については、「気になった時に時々確認している」が1年生で7割で、3年生では前回調査とほぼ変わらなかった。両学年ともに毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている学生は極めて少なく、シラバスの活用が重要視されていない。今後は、シラバスの内容自体を再考し、予習・復習に役立てられるコンテンツにするように、教員側の努力が必要かもしれない。

カリキュラムマップ（設問 119）や科目ナンバリング（設問 120）の認知度については、「知っており、見たことがある」割合が1年生で約35%、3年生で約50%程度であった。「知らない」と回答した学生も3割程度存在していた。長期的な学修の方向性の確認や年度ごとの履修計画の立案に有益であることを理解してもらうために、新入生オリエンテーションでの周知を徹底する必要がある。

5. 教養教育の授業について

前回報告は、履修科目の選択における情報源について、「広い教養」や「専門の基礎を築くため」に教員によるアドバイスがもっと求められてよいとの提言があった。今回調査の「教養教育科目の選択」については（設問 101）、「好きな科目や面白そうな科目を選択」との回答が最も多く、次いで「単位をとりやすい授業を選択」および「広い教養を身に付けるため」が続いた。3年生では「単位をとりやすい授業」の回答が多い。この結果に関連して、「教養教育科目の選択にあたって重視した情報源」（設問 102）は、1年生全体では「履修の手引きやシラバスに記載された情報」が主体で、先輩や友人からの助言・情報が低い水準であった。一方、3年生では、既に情報網を構築していることから、例年と同様の結果となっている。コロナ禍で、新入生にとっては先輩とのコミュニケーション不足が情報交換を難しくしているように思われる。なお、「教員からの助言や情報」は前回調査と同様に低い割合となっている。前年度の提言のように、教員が「広い教養」や「専門の基礎を築くため」という観点から、アドバイスができる体制を構築することが理想と考える。教養としての教育の面白さやその意義を伝える機会や情報を履修の選択以前に学生に提供することにより、履修科目の選択の幅を広げる努力をしてはどうかと提言する。

6. 専門教育の授業、研究室配属（卒業研究、医学研究実習、看護研究、研究基礎ゼミ）について

専門教育では、限りある予算・スペースのなかで、いかに十分な研究環境を確保するかは学修の充実に欠かせない要素である。専門教育に関連した前回調査では、設備やスペースの速やかな改善が望まれるとの提言があった。昨年度と同様に「コロナ禍」にあった今回調査では、「専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか」（設問 104）という問いに対して、1年生全体で「専門の知識を身に付けるのに役立った」が多く、「学問・研究に興味を湧いた」と「自分の進路について考える事ができるようになった」がほぼ同じ割合となった。学部・学科によっては、進路について考える事ができるようになったと回答する学生が多かったが、3年生全体としては、1年生と同様の結果

であった。

「授業内容の難易度」については（設問 105），1年生全体では「もっと高度にすべき」が8%（前回6%），「適切である」が78%（前回83%），「もっと易しくすべき」が11%（前回9%）であった。同じ33年生では「もっと高度にすべき」が11%（前回8%），「適切である」が79%（前回77%），「もっと易しくすべき」が10%（前回8%）という結果となった。これは昨年と同様の結果であった。8割近くの学生が「適切」と考えているものの，より高いレベルあるいは低いレベルを要求する学生が少数ではあるが，存在している。前回調査において，一例として，語学などでの能力別クラス編成を検討することも含め，高度な内容に適応できない学生の存在には当然ながら配慮しつつ，向上心を持ちながらより高度な内容を求める学生の学修意欲をいかに満たすかについても考慮する必要があると提言されており，教員の負担が増えない程度で，このような対策も必要かと思われる。極めてレベルの高い学生をさらに伸ばすような環境作りも大学の発展には必要と考える。

3年生に対する研究室配属の決め手（設問 122）に関しては，全体では「関心の深い研究内容であったから」という回答が多くを占めた。学部学科によっては，「将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから」，「先輩や友人の勧めで」，「教員の人柄に魅力を感じたから」，「研究室の雰囲気」といった回答が高い割合で見られるところもあり，自分の関心や将来を見据えた選択をしていることがわかる。また，卒業研究やゼミにおいて何が得られるという質問（設問 123）では，「専門的知識や技術」という回答が多く，「学問・研究への興味や知的好奇心」，「コミュニケーション能力や対人関係能力」，「進路を考えるための広い視野」，「課題発見能力や問題解決能力」，「プレゼンテーション能力」，「文章作成能力」という回答が並んだ。卒業研究やゼミにおいて，学修の成果として結実している学生が多いと考えられる。一方で少ないながら「やむを得ず入った」や「どこでもよかった」という回答もあり，「特にあるものがない」と答えた学生もいることも注視しなければならない。

1年生に尋ねた「本学の設備や学生支援制度」の満足度（設問 106～115）では，前回調査とほぼ同じであった。なお，3年生への研究を進めるための環境に関する設問（設問 124）では，3年生全体で「設備，スペースともに十分である」が5割を超えた。ただし，学部部学科によっては1割程度に留まるところもあり，「設備もしくはスペースが十分でない」との回答になると，多くの学部学科で4割程度になっている。限りある予算・スペースのなかで，大学院生も含めた学生に対する専門教育における十分な研究環境の確保は重要であり，今後の速やかな改善が望まれる。

7. 英語学修・教育と海外留学について

外国語，特に英語の修得と海外留学については，聞く，読む，話す，書く技能におけるそれぞれの到達レベルや学習状況を調査した（設問 69～76）。1年次でのレベルの向上は，実感が低いものの，3年次では種々の能力が向上していると実感している学生がやや増加しているように感じられる。ただし，学年進行と英語能力の関係は，語学検定試験の結果等のデータと併せて検討する必要がある。

また，どのように英語の勉強を行っているかを複数回答可で尋ねると（設問 74），両学年ともに「TOEIC などの参考書，問題集を購入して定期的に勉強している」および「授業で使用している教科書，英語論文をよく勉強している」が多かった。語学マイレージポイント制度の導入により，入学時から TOEIC 対策が意識付けされているせいか，「TOEIC などの参考書，問題集を購入して定期的に勉強している」学生が多かった。残念であるのは，コロナ禍のせいもあり，留学などの外国人とのコミュニケーションを図る機会が限定され，英語学習に制限があったことがあげられる。学生にとっ

て、在学期間における留学は貴重な機会であるので、早くこのような機会ができるのを願うばかりである。今年度からは語学マイレージポイント制の卒業要件適用学年が卒業年度を迎えることになり、英語力の伸びに繋がることが期待されている。今後は、英語力向上における語学マイレージポイント制度の効果を分析をし、その結果を踏まえて、さらに現行制度をブラッシュアップしていかなければならない。

8. eラーニングについて

学修におけるeラーニングサービスの利用については従来から高い値であったが、今回の調査では前回調査と同様に、学部学科による違いはあるものの、Manaba、スーパー英語の利用率が高かった。一部学部学科を除いて、Moodle および Mahara については利用率が年々減少している（1年生：設問122、3年生：設問125）。「学修に役立つ」については、両学年ともに「非常にそう思う」「そう思う」との回答が6割を超えている（1年生：設問123、3年生：設問126）。今回の調査では、前回と同様に、Manabaの利用が高いことが伺えた。新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン学修科目以外にも遠隔授業が導入された結果、eラーニングサービスの利用頻度が高くなったと考える。この状況にあって、「本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか」（設問127）との問いに対し、「非常にそう思う」「そう思う」との回答が、5割を占めている（1年生：設問124、3年生：設問127）。遠隔授業による学習効果を分析し、うまく活用してることが今後の課題と考える。学生および教員も遠隔授業にも慣れてきているが、システムのみならず、各教員が授業内容も改善していくことで、よりよい学習環境を構築できると考えられる。

9. 授業評価アンケートおよび大学教育全体の満足度について

「授業評価アンケートの設問は、授業改善に必要な内容である」を尋ねたところ（設問125：1年生、設問128：3年生）、「非常にそう思う」「そう思う」と答えた割合は、1年生全体で52%、3年生全体では48%であった。150問にも及ぶ本アンケートは、学生にとって負担が大きい、このアンケート調査の重要性、すなわちこのアンケートの調査結果が将来の授業改善につながると学生が実感できるように、調査結果を迅速に大学における学修に反映させなければ、学生への協力を得るのが難しいであろう。回答率が、約半数であることがそれを示しているのかもしれない。アンケート調査の継続のためには、設問内容の精査の継続や学生へのアンケート調査のフィードバックと協力依頼が必要である。この調査結果により、学生の声を反映した教育改革を全学的な取り組みとして目指さなければならない。

大学教育全体の満足度（設問126：1年生、設問129：3年生）は、1年生・3年生ともに「秀・優」（81～100点）が3割程度、「良・可」（61～80点）が6割程度であり、前回調査に比べて、「秀・優」が1割ほど増加した。これは、今年度が昨年度に比べて、「コロナ禍」での教育体制が整備された結果を反映しているかもしれない。次年度に向けてよりよい学修の提供を目指し、一人でも多くの学生が満足する教育体制を整備し、このアンケート調査結果をもとに、大学教育の改善に役立てることが必要である。

10. むすびに

最後に、この調査における調査項目の選定や調査の実施、また報告書の発行に際しては、ご支援、ご協力いただきました河村副学長はじめ事務局および大学教育委員会の方々、また企画・執筆・編集にご尽力いただきました「教育の質に関する専門委員会」の先生方に厚く御礼申し上げます。さらに膨大なアンケートの集計・編集等の作業に尽力いただいた教育支援課・学務関係職員の皆様、TAの皆様にも深謝申し上げます。一昨年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、感染拡大および収束を繰り返し、現在も新たな変異株による感染が拡大しています。このような状況下で、結果報告書が完成できたことは、皆様のご尽力の賜物です。また、膨大な量のアンケート調査に協力してくれた学生諸君にも感謝の意を伝えたいと思います。本調査が教育や学生支援の充実に反映されるよう、努力を続けるとともに、大学の発展につながることを願います。経年変化観察や他大学との比較が可能となっております。本調査結果を是非ともご活用いただきますようお願い申し上げます。

教育の質に関する専門委員会委員長 工藤 保誠